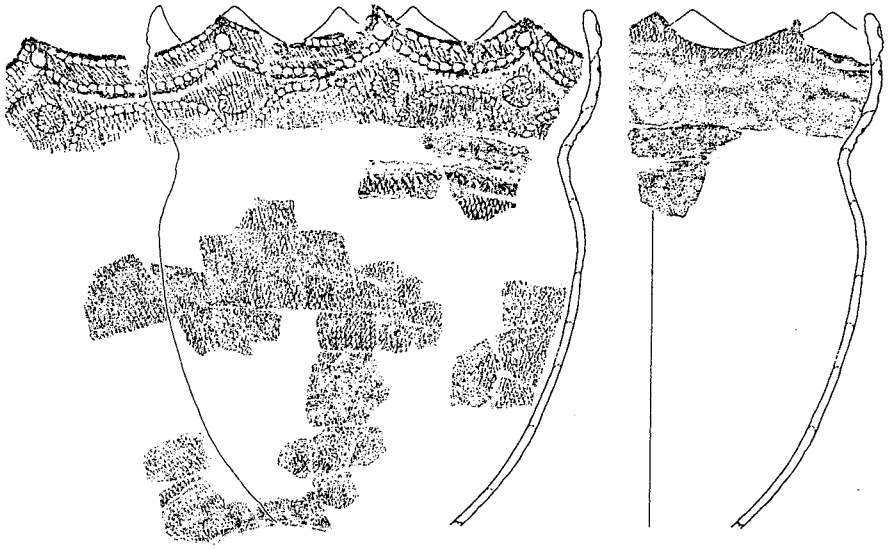
岐阜県文化財保護センター調査報告書　第60集

岩井谷遺跡



2000

財団法人　岐阜県文化財保護センター

序

伊吹山麓を西に仰ぎ中央部に粕川の清流を抱く春日村は、「薬草の里」として知られています。この地において、はるか縄文時代から人々の生活が営まれ、その足跡が村内各地に残されています。

この春日村美束地区において、県営中山間地域農村活性化総合整備事業の一環として圃場整備事業が行われることになり、事業の範囲にかかる遺跡について記録保存を図ることとなりました。本報告書は、平成９年度および10年度に実施した岩井谷遺跡における発掘調査の成果をまとめたものです。

今回の調査では、縄文時代中期から後期にかけての住居跡、集石遺構など、当時の生活を物語る遺構や、立石遺構、土坑などとともに土偶、石棒等の出土から、祭祀に関わる研究を深める上で貴重な資料を得ることができました。遺物においては縄文時代早期から晩期の多くの土器が出土し、岐阜県西部および伊吹山周辺の文化の形成と発展を探るうえで貴重な発見となりました。

本書が埋蔵文化財に対する認識を深めるとともに、縄文時代および古代から近世の研究の一助となれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査から報告書刊行に至るまで御援助、御協力を賜りました岐阜県基盤整備部揖斐土地改良事業所、春日村教育委員会、関係者各位、そして地元地区の皆様に深く感謝申し上げます。

平成12年３月

財団法人　岐阜県文化財保護センター
理事長　村　木　光　男

例　　言

1　本書は岐阜県揖斐郡春日村大字美束字岩井谷に所在する岩井谷遺跡(21405-08725)の発掘調査報告書である。

2　本調査は県営中山間地域農村活性化総合整備事業に伴うもので、岐阜県基盤整備部揖斐土地改良事業所から岐阜県教育委員会が委託を受けた。発掘調査は財団法人岐阜県文化財保護センターが実施した。

3　発掘調査は平成９年度・10年度に実施し、泉拓良奈良大学教授の指導のもと、平成９年度については早野壽人、浅野哲男、河瀬実浩が、平成10年度については浅野、河瀬が担当した。

4　本書の執筆分担は以下の通りである。

第２章第１節……藤岡比呂志
第６章……小野木学
第１章第２節・第５章・第８章第２節……浅野
第１章第１節・第２章第２節・第３章・第４章・第８章第１節……河瀬
なお、編集は、浅野と河瀬が担当した。

5　水準測量、地形測量、空中写真測量は(株)イビソクに委託して行った。

6　自然科学分析は、(株)パレオ・ラボに委託して行った。第７章はその分析報告である。

7　遺物の写真撮影は、写房楠華堂（内田真紀子）に委託して行った。

8　発掘調査および報告書の作成にあたって次の方々や諸機関から御助言、御指導をいただいた。記して感謝の意を表する次第である。(敬称略・順不同)

泉　拓良、矢野　健一、伊藤　正人、森川　幸雄、小濱　学、野口　哲也、木下　哲夫
別所　秀高、森　孝徳、林　孝芳、藤田　一三、林　芳樹、広瀬　太樹、山口　保
古田　資雄、春日村、春日村教育委員会、春日村区長会

9　本文中の方位は、国土座標第Ⅶ系の座標北を示している。

10　土層及び土器類の色調は、小山正忠・竹原秀雄1996『新版標準土色帖』を参照した。

11　調査記録及び出土品は、財団法人岐阜県文化財保護センターで保管している。

目　　次

序
例言
第１章　調査の経過……1
　第１節　発掘調査に至る経緯……1
　第２節　発掘調査の経過と方法……2
第２章　遺跡の概要……8
　第１節　地形・地質的環境……8
　第２節　歴史的環境……10
第３章　遺　構……12
　第１節　基本層序……12
　第２節　遺構の概要……16
　第３節　住居跡……27
　第４節　集石遺構……39
　第５節　土器埋設遺構……52
　第６節　土器集中区……54
　第７節　立石遺構……61
　第８節　土坑……63
　第９節　ピット状遺構……67
第４章　縄文土器……71
　第１節　分類について……71
　第２節　遺構出土土器……72
　第３節　包含層出土土器……88
第５章　石　器……137
　第１節　石器の概要……137
　第２節　遺構出土石器……137
　第３節　包含層出土石器……142
第６章　古代以降の遺物……188
第７章　自然科学分析……193
　第１節　赤色顔料付着遺物……193
　第２節　遺構出土炭化物の放射性炭素年代測定……200
　第３節　岩井谷遺跡出土炭化材の樹種同定……202
第８章　まとめと考察……208
　第１節　縄文土器の出土状況……208
　第２節　剥片石器の石材分布状況……214
引用・参考文献……217

挿図目次

第１図　遺跡位置図 …… 1
第２図　周辺地形図 …… 6
第３図　調査範囲およびグリッド設定図 …… 7
第４図　遺跡周辺の接峰面図 …… 9
第５図　伊吹山周辺の主な遺跡 …… 11
第６図　調査区土層図 …… 13
第７図　全調査区遺構配置図 …… 17
第８図　第１地区遺構配置図 …… 19
第９図　第２地区遺構配置図 …… 21
第10図　第４地区遺構配置図 …… 22
第11図　第３地区遺構配置図 …… 23
第12図　第５地区遺構配置図 …… 25
第13図　住居跡位置図 …… 27
第14図　第１号住居跡 …… 28
第15図　第１号住居跡　炉跡検出状況 …… 29
第16図　第２号住居跡 …… 31
第17図　第２号住居跡　土器出土状況 …… 32
第18図　第３号住居跡 …… 33
第19図　第４号住居跡 …… 34
第20図　第４号住居跡　炉跡 …… 35
第21図　第５号住居跡 …… 36
第22図　第６号住居跡 …… 37
第23図　第７号住居跡 …… 38
第24図　集石遺構位置図 …… 39
第25図　第１号集石遺構 …… 40
第26図　第２号集石遺構 …… 40
第27図　第３号集石遺構 …… 41
第28図　第４号集石遺構 …… 41
第29図　第５号集石遺構 …… 42
第30図　第６号集石遺構 …… 42
第31図　第７号集石遺構 …… 43
第32図　第８号集石遺構 …… 44
第33図　第９・10・16号集石遺構 …… 45
第34図　第11号集石遺構 …… 46
第35図　第12号集石遺構 …… 47
第36図　第13号集石遺構 …… 48
第37図　第14号集石遺構 …… 48
第38図　第15号集石遺構 …… 49
第39図　石材組成図 …… 50
第40図　礫重量組成図 …… 50
第41図　礫形状組成図 …… 51
第42図　礫割裂組成図 …… 51
第43図　礫被熱組成図 …… 51
第44図　土器埋設遺構位置図 …… 52
第45図　第１号土器埋設遺構 …… 53
第46図　第２号土器埋設遺構 …… 53
第47図　第３号土器埋設遺構 …… 54
第48図　土器集中区位置図 …… 55
第49図　土器集中区１ …… 56
第50図　土器集中区２ …… 57
第51図　土器集中区３ …… 57
第52図　土器集中区５ …… 58
第53図　土器集中区４ …… 59
第54図　立石遺構位置図 …… 61
第55図　立石遺構 …… 62
第56図　土坑位置図 …… 63
第57図　土坑(1) …… 64
第58図　土坑(2) …… 65
第59図　第２号住居跡出土土器(1) …… 73
第60図　第２号住居跡出土土器(2) …… 74
第61図　第２号住居跡出土土器(3) …… 75
第62図　第３・４・５・６号住居跡出土土器 …… 77
第63図　第７号住居跡出土土器 …… 79
第64図　第６・11号集石遺構
　　第１・３号土器埋設遺構
　　土器集中区２出土土器 …… 80
第65図　土器集中区１出土土器 …… 81
第66図　土器集中区３・４出土土器 …… 83
第67図　土器集中区４出土土器 …… 84
第68図　土器集中区５出土土器 …… 85
第69図　土坑・ピット状遺構出土土器 …… 87
第70図　包含層出土土器(1)　Ｓ群 …… 89
第71図　包含層出土土器(2)　Ｓ・Ｚ・Ｃ－１群 …… 91
第72図　包含層出土土器(3)　Ｃ－１・２群 …… 93
第73図　包含層出土土器(4)　Ｃ－２・３
　　４・５群 …… 95
第74図　包含層出土土器(5)　Ｃ－６・７群 …… 97
第75図　包含層出土土器(6)　Ｃ－７・８群 …… 99
第76図　包含層出土土器(7)　Ｃ－８群 …… 101
第77図　包含層出土土器(8)　Ｋ－１・２群 …… 103
第78図　包含層出土土器(9)　Ｋ－３・４群 …… 105
第79図　包含層出土土器(10)　Ｋ－４群(1) …… 107
第80図　包含層出土土器(11)　Ｋ－４群(2) …… 109
第81図　包含層出土土器(12)　Ｋ－５・６群 …… 111
第82図　包含層出土土器(13)　Ｋ－７群(1) …… 113
第83図　包含層出土土器(14)　Ｋ－７群(2) …… 115
第84図　包含層出土土器(15)　Ｋ－８群(1) …… 117
第85図　包含層出土土器(16)　Ｋ－８群(2) …… 119
第86図　包含層出土土器(17)　Ｋ－８群(3) …… 120
第87図　包含層出土土器(18)　Ｋ－８群・Ｂ群 …… 121
第88図　包含層出土土器(19)　底部・その他 …… 122
第89図　石器組成図 …… 137
第90図　遺構出土石器(1) …… 139
第91図　遺構出土石器(2) …… 140
第92図　遺構出土石器(3) …… 141
第93図　石鏃法量相関 …… 142
第94図　石鏃の平面形による分類 …… 142
第95図　石鏃の折損部位による分類 …… 144
第96図　石鏃の折損部位 …… 144
第97図　石鏃の質量分布 …… 144
第98図　包含層出土石器(1)　石鏃・有舌尖頭器 …… 145
第99図　石錐の質量分布 …… 146

第100図　包含層出土石器(2)　石錐・つまみ部付きスクレイパー …… 147
第101図　包含層出土石器(3)　掻器Ⅰ・掻器Ⅱ・複合スクレイパー …… 149
第102図　削器の質量分布 …… 150
第103図　削器の法量相関 …… 150
第104図　包含層出土石器(4)　削器 …… 151
第105図　打製石斧の折損部位による分類 …… 152
第106図　包含層出土石器(5)　ピエス･エスキーユ・打製石斧 …… 153
第107図　磨製石斧の形態による分類 …… 154
第108図　磨製石斧の折損部位による分類 …… 154
第109図　包含層出土石器(6)　磨製石斧 …… 155
第110図　包含層出土石器(7)　石核(1) …… 157
第111図　包含層出土石器(8)　石核(2) …… 158
第112図　打欠石錘の質量分布 …… 160
第113図　切目石錘の質量分布 …… 160
第114図　包含層出土石器(9)　打欠石錘・切目石錘・有溝石錘 …… 161
第115図　凹石類の法量相関 …… 162
第116図　凹石類の群別質量分布 …… 163
第117図　凹石類全体の質量分布 …… 163
第118図　凹石類の使用痕による分類 …… 164
第119図　凹石類の使用痕の割合 …… 165
第120図　包含層出土石器(10)　凹石類(1) …… 166
第121図　包含層出土石器(11)　凹石類(2) …… 167
第122図　包含層出土石器(12)　凹石類(3) …… 168
第123図　包含層出土石器(13)　台石・石皿 …… 169
第124図　包含層出土石器(14)　砥石・石刀・石棒・その他石製品 …… 171
第125図　打欠石錘計測部位説明図 …… 182
第126図　古代以降の遺物(１) …… 189
第127図　古代以降の遺物(２) …… 190
第128図　赤色顔料付着土器 …… 193
第129図　土器塗布、赤色顔料の蛍光Ｘ線スペクトル図 …… 195
第130図　各遺物に付着する赤色物の蛍光Ｘ線スペクトル図（１） …… 196
第131図　各遺物に付着する赤色物の蛍光Ｘ線スペクトル図（２）…… 197
第132図　各遺物に付着する赤色物の蛍光Ｘ線スペクトル図（３） …… 198
第133図　土器出土分布状況　Ｓ期 …… 209
第134図　層位別出土割合　Ｓ期 …… 209
第135図　土器出土分布状況　ＣⅠ期 …… 210
第136図　層位別出土割合　ＣⅠ期 …… 210
第137図　土器出土分布状況　ＣⅡ期 …… 211
第138図　層位別出土割合　ＣⅡ期 …… 211
第139図　土器出土分布状況　ＫⅠ期 …… 212
第140図　層位別出土割合　ＫⅠ期 …… 212
第141図　土器出土分布状況　ＫⅡ期 …… 213
第142図　層位別出土割合　ＫⅡ期 …… 213
第143図　チャートの地区別出土状況 …… 215
第144図　サヌカイトの地区別出土状況 …… 215
第145図　下呂石の地区別出土状況 …… 216
第146図　剥片類（ＲＦ・ＵＦ含む）における石材別質量 …… 216

表目次

第１表　遺構検出数 …… 16
第２表　土坑一覧表 …… 66
第３表　ピット状遺構一覧表(１) …… 67
第４表　ピット状遺構一覧表(２) …… 68
第５表　ピット状遺構一覧表(３) …… 69
第６表　ピット状遺構一覧表(４) …… 70
第７表　土器観察表(１) …… 123
第８表　土器観察表(２) …… 124
第９表　土器観察表(３) …… 125
第10表　土器観察表(４) …… 126
第11表　土器観察表(５) …… 127
第12表　土器観察表(６) …… 128
第13表　土器観察表(７) …… 129
第14表　土器観察表(８) …… 130
第15表　土器観察表(９) …… 131
第16表　土器観察表(10) …… 132
第17表　土器観察表(11) …… 133
第18表　土器観察表(12) …… 134
第19表　土器観察表(13) …… 135
第20表　土器観察表(14) …… 136
第21表　遺構別石器一覧表 …… 138
第22表　石鏃の分類別出土点数 …… 143
第23表　石材別の出土剥片数（剥片類） …… 159
第24表　石材別の出土剥片数（ＲＦ） …… 159
第25表　石材別の出土剥片数（ＵＦ） …… 159
第26表　凹石類の群別質量分布表 …… 163
第27表　グループ別にみた使用痕の総数 …… 164
第28表　石鏃計測・観察表(1) …… 172
第29表　石鏃計測・観察表(2) …… 173
第30表　石鏃計測・観察表(3) …… 174
第31表　石鏃計測・観察表(4) …… 175
第32表　石鏃計測・観察表(5) …… 176
第33表　有舌尖頭器計測表 …… 177
第34表　石錐計測・観察表 …… 177
第35表　スクレイパー類（つまみ部付きスクレイパー）計測・観察表 …… 178
第36表　スクレイパー類（掻器Ⅰ）計測・観察表 …… 178
第37表　スクレイパー類（掻器Ⅱ）計測・観察表 …… 178
第38表　スクレイパー類（複合スクレイパー）計測・観察表 …… 178
第39表　スクレイパー類（削器）計測・観察表 …… 179
第40表　ピエス･エスキーユ計測・観察表 …… 179

第41表　打製石斧計測・観察表…… 180
第42表　磨製石斧計測・観察表(1) …… 180
第43表　磨製石斧計測・観察表(2) …… 181
第44表　石核計測・観察表…… 181
第45表　打欠石錘計測・観察表…… 182
第46表　切目石錘計測・観察表(1) …… 183
第47表　切目石錘計測・観察表(2) …… 184
第48表　有溝石錘計測・観察表…… 184
第49表　凹石類計測・観察表(1) …… 185
第50表　凹石類計測・観察表(2) …… 186
第51表　台石計測・観察表 …… 186
第52表　石皿計測表 …… 186
第53表　砥石計測表 …… 187
第54表　石製品計測・観察表 …… 187
第55表　時期別出土量の推移 …… 190
第56表　古代以降の遺物観察表(１)…… 191
第57表　古代以降の遺物観察表(２)…… 192
第58表　遺物付着の赤色物から検出された元素 ‥ 199
第59表　岩井谷遺跡出土炭化材の遺構別検出樹種‥ 207
第60表　剥片石器の石材別出土点数 …… 214

写真図版

図版１　発掘前の状況・全景・作業風景
図版２　第１・２地区　完掘状況
図版３　第３・４・５地区　完掘状況
図版４　第１・２・３・４号住居跡
図版５　第４・５・６・７号住居跡
図版６　第１・２・３・４号集石遺構
図版７　第５・６・７・８・９号集石遺構
図版８　第10・11・12・13・14・15・16号
集石遺構
図版９　第１・２・３号土器埋設遺構
土器集中区１・２
図版10　土器集中区３・４・５
第１・２号立石遺構
図版11　第３号立石遺構　第１・２・８号土坑
図版12　第９・11・13・35・38・41号土坑
図版13　石棒・磨製石斧・土偶・鉢・土錘
出土状況
図版14　第２号住居跡出土土器(１)
図版15　第２号住居跡出土土器(２)
図版16　第２・３・４号住居跡出土土器
図版17　第５・６・７号住居跡出土土器
図版18　第７号住居跡出土土器
図版19　集石遺構・土器埋設遺構
土器集中区２・３出土土器
図版20　土器集中区１・４出土土器
図版21　土器集中区４・５出土土器
図版22　土器集中区５・第１・２号土坑出土土器
図版23　土坑・ピット状遺構出土土器
図版24　包含層出土土器　Ｓ群
図版25　包含層出土土器　Ｓ・Ｚ・Ｃ－１群
図版26　包含層出土土器　Ｃ－１・２群
図版27　包含層出土土器　Ｃ－２群
図版28　包含層出土土器　Ｃ－３・４・５群
図版29　包含層出土土器　Ｃ－６群
図版30　包含層出土土器　Ｃ－７群
図版31　包含層出土土器　Ｃ－８群(１)
図版32　包含層出土土器　Ｃ－８群(２)
図版33　包含層出土土器　Ｋ－１・２群
図版34　包含層出土土器　Ｋ－３・４群
図版35　包含層出土土器　Ｋ－４群(２)
図版36　包含層出土土器　Ｋ－４群(３)
図版37　包含層出土土器　Ｋ－４群(４)
図版38　包含層出土土器　Ｋ－４群(５)
図版39　包含層出土土器　Ｋ－５・６群
図版40　包含層出土土器　Ｋ－７群(１)
図版41　包含層出土土器　Ｋ－７群(２)
図版42　包含層出土土器　Ｋ－７群(３)
図版43　包含層出土土器　Ｋ－８群(１)
図版44　包含層出土土器　Ｋ－８群(２)
図版45　包含層出土土器　Ｋ－８群(３)
図版46　包含層出土土器　Ｋ－８群(４)
図版47　包含層出土土器　Ｋ－８群・Ｂ群
図版48　包含層出土土器　底部
図版49　包含層出土土製品（注口部・土偶・鉢）
図版50　遺構出土石器　石鏃・ピエス･エスキーユ
掻器・削器・石核
図版51　遺構出土石器　打欠石錘・切目石錘
図版52　遺構出土石器　垂飾・磨製石斧・凹石類
台石・石皿
図版53　包含層出土石器　石鏃
図版54　包含層出土石器　有舌尖頭器・石錐・
つまみ部付きスクレイパー
図版55　包含層出土石器　掻器・複合スクレイパー・削器
図版56　包含層出土石器　ピエス･エスキーユ
打製石斧
図版57　包含層出土石器　磨製石斧
図版58　包含層出土石器　石核
図版59　包含層出土石器　打欠石錘・切目石錘
有溝石錘
図版60　包含層出土石器　凹石類(１)
図版61　包含層出土石器　凹石類(２)
図版62　包含層出土石器 砥石・台石・石皿
図版63　包含層出土石器 石刀・石棒・その他石製品
図版64　古代以降の遺物
図版65　岩井谷遺跡出土炭化材樹種(１)
図版66　岩井谷遺跡出土炭化材樹種(２)
図版67　岩井谷遺跡出土炭化材樹種(３)
図版68　岩井谷遺跡出土炭化材樹種(４)
図版69　岩井谷遺跡出土炭化材樹種(５)
図版70　岩井谷遺跡出土炭化材樹種(６)

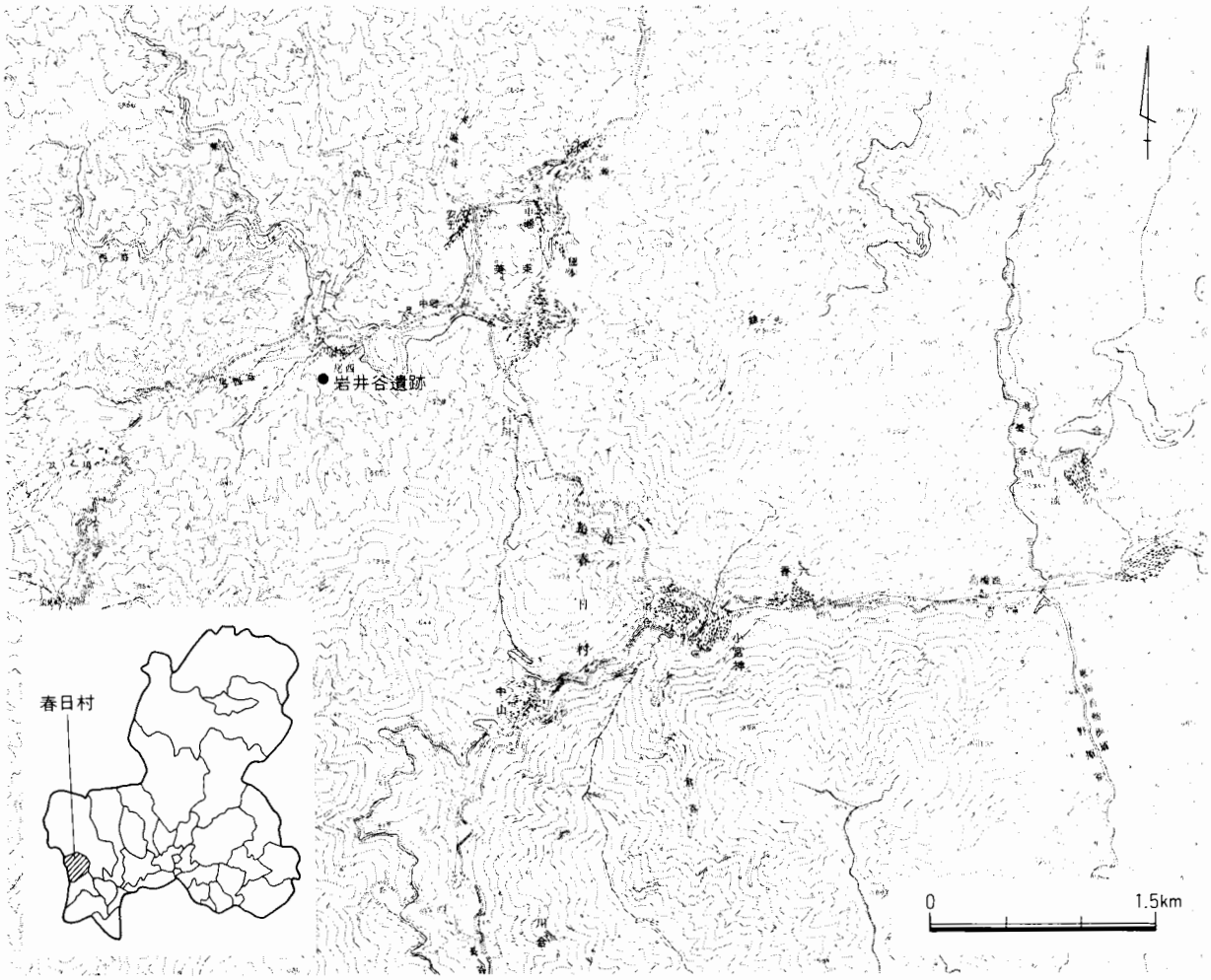
第１章　調査の経過

第１節　発掘調査に至る経緯

岩井谷遺跡は、揖斐郡春日村大字美束字岩井谷に所在し、揖斐川支流粕川の最上流部、尾西谷と岩井谷が作る小扇状地状の段丘上に立地する。

今回、岐阜県基盤整備部揖斐土地改良事業所（以下揖斐土地改良事業所）による県営中山間地域農村活性化総合整備事業に伴う圃場整備事業が美束地区で行われることとなり、岩井谷地区及び日橋地区において縄文時代の遺物が採集されていることから、事業に先立ち平成７年度春日村教育委員会による試掘調査が実施された。その結果縄文時代の遺物・遺構ならびに古代・中世の遺物が出土し、細野遺跡・梨子谷遺跡・千日遺跡とともに本遺跡が確認された。

試掘調査の結果および圃場整備計画をもとに10,398㎡を対象に発掘調査を行うこととなり、揖斐土地改良事業所から岐阜県教育委員会を通じて委託を請け、当センターが平成９年度および10年度の２カ年にわたり発掘調査を実施した。



第1図　遺跡位置図（S＝1／50,000）

第２節　発掘調査の経過と方法

発掘調査は、調査範囲の中央を西から東へ流れる水路を境に、北部 6,000㎡を平成９年度に、南部3,780㎡（当初は4,398㎡としていたが、トレンチ確認により遺構・遺物ともに確認されなかった部分を調査対象から外した）を平成10年度に実施した。北部の西から順に第１地区、第２地区、第３地区、第４地区とし、南部を第５地区とした。調査の対象地区は分散しているものの、岩井谷遺跡としてとらえ、ひとつのまとまりをもって調査し報告する。

全調査区を一括して、国土座標上の南北方向を基準とし、４ｍ×４ｍに区画した。調査区画は西から東へ１～54、北から南へＡ～Ｚおよびａ～ｇとし、調査区画をグリッドと呼び、北西角の杭番号を用いてグリッド番号とした。

調査はまず重機によって表土（耕作土）および敷土の一部まで除去し、以下すべて人力で掘削した。調査地域内は耕作土を除去する前から花こう岩の巨礫が点在し、耕作土、敷土の一部を除去するとその量はかなりのものになった。特に第３地区の北部には土石流による流れ込みと思われる巨礫が集まり、除去に手間取った。

発掘調査は平成９年４月23日から12月19日までと、平成10年５月11日から10月30日まで実施し、平成９年度冬期、平成10年度冬期および平成11年度に整理作業と報告書作成作業を実施した。以下調査体制および週毎の調査経過を記述する。

１．調査体制

（財）岐阜県文化財保護センター　調査部

平成９年度（発掘調査）		平成１０年度（発掘調査）		平成１１年度（整理・報告書作成）	
調査部長	山元　敏治	調査部長	山元　敏治	調査部長	山元　敏治
調査部次長	高橋　幸仁	調査部次長	高橋　幸仁	調査部次長	高橋　幸仁
調査第一課長	中島　康夫	調査第一課長	柘植　卓伸	調査第三課長	飯沼　暢康
担当調査員	早野　壽人	担当調査員	浅野　哲男	担当調査員	浅野　哲男
	浅野　哲男		河瀬　実浩		河瀬　実浩
	河瀬　実浩				

発掘作業従事者（順不同）

白川　章代　新川ゆき子　新川　良則　清王　信定　高橋　逸雄　高橋　涼子、新川はるを
仲野多美子　市川　弘子　小寺　貞良　小寺二三子　古田多美子　広瀬　房子　広瀬　るり
廣瀬　和子　駒月　末子　新川　王子　坂東　豊美　中西美代子　広瀬　茂昌　四井　國正
市川　博　市川キクコ　藤原　幸　藤原　藤七　藤原たみゑ　駒月美智子　藤原　静江
小寺　皎　所　富貴子　駒月ハマエ　新川田津子　藤原　春吉　小寺　能子　新川　勇公
清尾マロエ　白川美香代　小寺美加里　駒月　広美　小寺由香梨　新川　里美

整理作業従事者（順不同）

國井　悦子　原　幸子　橋本　法子　高橋　郷美　湯城　里美　大野　里美　山本　裕子
谷　久美　山口　久子　市橋　美栄　小松　博子　堀　信子

２．調査の経過

＜平成９年度＞

第１週（ 4/23～ 4/25）重機により第２・第３地区表土除去作業を開始。

第２週（ 4/28～ 5/ 2）11日杭打ち作業。グリッド設定を行う。２日調査始め式挙行。発掘作業員による作業開始。

第３週（ 5/ 6～ 5/ 9）第２地区15～17列北壁にサブトレンチを入れ、遺物包含層（以下包含層）の確認作業を開始する。合わせてＤ～Ｍ列包含層の検出作業を行う。17列、20列より縄文土器片が多数出土。

第４週（ 5/12～ 5/17）第２地区Ｏ～Ｓ列敷土除去後、包含層の検出作業を開始。12日19Ｈより磨製石斧が出土。12日第３地区、重機による表土除去を開始。

第５週（ 5/19～ 5/23）第２地区17～18列、20～22列包含層検出作業を開始。19日17Ｉより石棒が出土。

第６週（ 5/26～ 5/30）第２地区16～20列包含層（第Ⅲ層黒褐色土）掘削作業を開始。26日17Ｊより集石遺構を検出。19Ｆより数個のピット状遺構を検出。

第７週（ 6/ 2～ 6/ 6）第２地区全体の包含層の掘削作業を継続。

第８週（ 6/ 9～ 6/13）第２地区19～22列包含層の掘削を継続。22Ｏ～Ｑより縄文土器が多数出土する。18～20列遺構検出を継続。18Ｆ土層観察用畦付近より縄文土器が集中して出土する。17Ｇ、18Ｍより集石遺構を検出。

第９週（ 6/16～ 6/20）第２地区遺構検出作業を継続。19Ｆより土偶片が出土。17Ｌより、両端を折損した石棒出土。

第10週（ 6/23～ 6/27）第２地区遺構検出作業を継続。19Ｏより土器埋設遺構を検出。24日第３地区杭打ち作業を開始。グリッドを設定。残った表土の除去作業開始。サブトレンチを入れ、包含層を確認する。田面の畦部の盛土が厚く、包含層検出作業は非常に困難。

第11週（ 6/30～ 7/ 4）第２地区遺構検出作業を継続。土層確認用畦の一部を除去。20Ｈ巨礫の南側付近の黒褐色土・暗褐色土が深く、Ⅳ層（暗褐色土）の認識を改める。第３地区層序確認作業を継続。

第12週（ 7/ 7～ 7/11）第２地区遺構検出作業を継続。第３地区包含層の検出作業を開始。11日30Ｅより粗製の縄文土器小型浅鉢が出土。

第13週（ 7/14～ 7/18）第２地区遺構検出作業を継続。17Ｌ、20Ｐより集石遺構を検出。第３地区のＣ～Ｈ列の谷部に堆積した包含層上部の礫層の除去作業を継続し、包含層を検出。

第14週（ 7/22～ 7/25）第２地区22Ｐより集石遺構を検出。21～22Ｐにかけて縄文土器片が多く出土し遺構検出に時間を要する。引き続き遺構面検出作業を継続。第３地区包含層上部の黄褐色礫層の除去を継続。

第15週（ 7/28～ 8/ 1）台風９号の後片付け作業。第２地区遺構検出作業を継続。第３地区包含層検出作業を継続。

第16週（ 8/ 4～ 8/ 8）第２地区遺構検出作業を継続。20Ｉ集石遺構を検出。赤く焼けた礫と焼土を検出。第３地区包含層検出作業を継続。31列、Ｋ列にサブトレンチを入れ層序を確認。

第17週（ 8/11～ 8/15）作業休止。

第18週（ 8/18～ 8/22）第２地区遺構検出作業を継続。20日19Ｌより土器埋設遺構を検出。第３地区包含層検出作業を継続。

第19・20週（ 8/25～ 9/ 5）第２地区遺構検出作業を継続。５日20Ｐより土器埋設遺構を検出。第３地区包含層検出作業を継続。

第21週（ 9/ 8～ 9/12）第２地区遺構検出作業を継続。19Ｆより石皿を割って転用した立石遺構を検出する。第３地区包含層検出作業を継続。12日29Ｊ、27Ｂより集石遺構を検出。18日26Ｆよりバナナ状有溝石錘が出土。

第22週（ 9/16～ 9/19）第２地区遺構検出作業を継続。19日17Ｉより立石遺構を検出。第３地区包含層検出作業を継続。

第23週（ 9/22～ 9/26）第２地区遺構検出作業を継続。25日19Ｑより立石遺構、17Ｉ巨礫の西側より土器集中区、17Ｇより多数の礫が混入された集石遺構を検出。第３地区包含層掘削・遺構検出作業開始。22日28Ｋより石囲炉を伴う住居跡遺構を検出。

第24週（ 9/29～10/ 3）１日より第１地区表土除去を開始。１日第２地区空中写真撮影完了。

第25週（10/ 6～10/ 9）９日より第１調査区杭打ち作業を開始。第２地区下層面にサブトレンチを入れ包含層（Ⅳ層暗褐色土）の掘削を開始。第３地区遺構検出作業を継続。29Ｇ斜面より多数の縄文土器片が出土。28Ｋ住居跡遺構とそれに伴うピットの検出。

第26週（10/13～10/17）13日より第１地区グリッド設定を行う。15日より包含層掘削を開始。

第27週（10/20～10/24）第１地区包含層掘削作業を継続。23日12Ｓより打製石斧が出土。

第28週（10/27～10/31）28日第３地区空中写真撮影完了。31日谷筋を埋め戻し、第３地区調査終了。29日第４地区表土除去を開始。

第29週（11/ 4～11/ 7）４日第１地区集石遺構を検出。第２地区遺構検出作業を継続。

第30週（11/10～11/14）11日第１地区集石遺構を検出。第２地区遺構検出作業を継続。20Ｉよりミニチュア土器が出土。第４地区杭打ち作業を開始。12日より同地区にて包含層掘削を開始。

第31週（11/17～11/21）第２地区遺構検出作業を継続。17Ｋより集石遺構検出。

第32週（11/25～11/28）20日第１地区空中写真撮影を行い調査終了。第２地区遺構検出作業を継続。20Ｎより磨製石斧が出土。第４地区包含層掘削作業を継続。

第33週（12/ 1～12/ 5）４日25㎝の積雪。除雪後、第２地区遺構検出作業を継続。第４地区遺構検出作業開始。18Ｋより土偶片が出土。

第34週（12/ 8～12/12）第２地区遺構検出作業を継続。19Ｋグリッド検出の土坑より多数の土器が出土。第４遺構検出作業継続。

第35週（12/15～12/19）18日空中写真撮影準備作業。19日第２・４地区空中写真撮影を完了。平成９年度の発掘調査を終了。

＜平成10年度＞

第１週（ 5/11～ 5/15）11日調査始め式挙行。第５地区杭打ち作業を開始。表土除去作業を開始し、グリッド設定する。

第２週（ 5/18～ 5/22）Ｖ20・22・24・26・28・30列及びＶ・ｂ列にトレンチを入れ層序を確認。調査区西端の田面より、順に東に向けて残った表土を除去し、包含層上面を確認する。

第３週（ 5/25～ 5/29）31・32列にトレンチを入れ層序を確認。28日泉拓良奈良大学教授の指導を受ける。

第４週（ 6/ 1～ 6/ 5）調査区西から、包含層(Ⅲ層黒褐色土)の掘削を開始。26ｄ－ｅより縄文土器が集中して出土。

第５週（ 6/ 8～ 6/12）調査区西より４、５枚目の田面の畦部の土を除去。８日28Ｘの畦土より有舌尖頭器、33ｂより垂飾が出土。10日30ａより磨製石斧が出土。

第６週（ 6/15～ 6/19）調査区西より７枚目の田面の畦部にサブトレンチを入れ、盛土の深さを確認する。16日25Ｕより集石遺構を検出。

第７週（ 6/22～ 6/26）調査区中央より北側の畦部の土の除去を開始。Ⅲ層黒褐色土が深く残る。26日調査区東端35～42列にかけてサブトレンチを入れ、包含層・遺構を確認。

第８週（ 6/29～ 7/ 3）調査区西より８枚目の田面付近の包含層の掘削を開始。２日32Ｘ・33Ｘ・33Ｙより磨製石斧が４点出土。３日より再び西端より下層面(Ⅳ層暗褐色土)を掘削し、遺構検出を開始。

第９週（ 7/ 6～ 7/10）遺構検出作業を継続。６日28ｂ・29ａ・29Ｚ・30ｄ・34Ｙに住居跡と思われるプランを６基検出。

第10週（ 7/13～ 7/17）住居跡遺構の検出作業を継続。遺構出土遺物を取り上げる。

第11週（ 7/21～ 7/24）22日より調査区北端28Ｓ～31ＴのⅢ層の掘削作業を開始。

第12週（ 7/27～ 7/31）天候不順のため作業進まず。30日より調査区北端31Ｓ～33Ｕの厚く堆積するⅢ層の掘削作業を開始。

第13週（ 8/ 3～ 8/ 7）６日より調査区西から10枚目の田面の畦土除去を開始。33Ｙより磨製石斧がが出土。

第14週（ 8/10～ 8/14）作業休止

現地説明会風景

第15週（ 8/17～ 8/21）19日より調査区東端35～42列の盛土の除去及び包含層掘削を開始。遺構検出作業を継続。天候不順のため作業進まず。

第16週（ 8/24～ 8/28）遺構検出作業を継続。37ｂ緩斜面より集石遺構を検出。

第17週（ 8/31～ 9/ 4）住居跡遺構検出作業を継続。28～29ｅより土器片多数出土。最下面の田面の調査区端部の畦土を重機で除去する。

第18・19週（ 9/ 7～ 9/18）最下面の田面より多数のピット状遺構を検出。38Ｚよりつまみ部付きスクレイパーが出土。

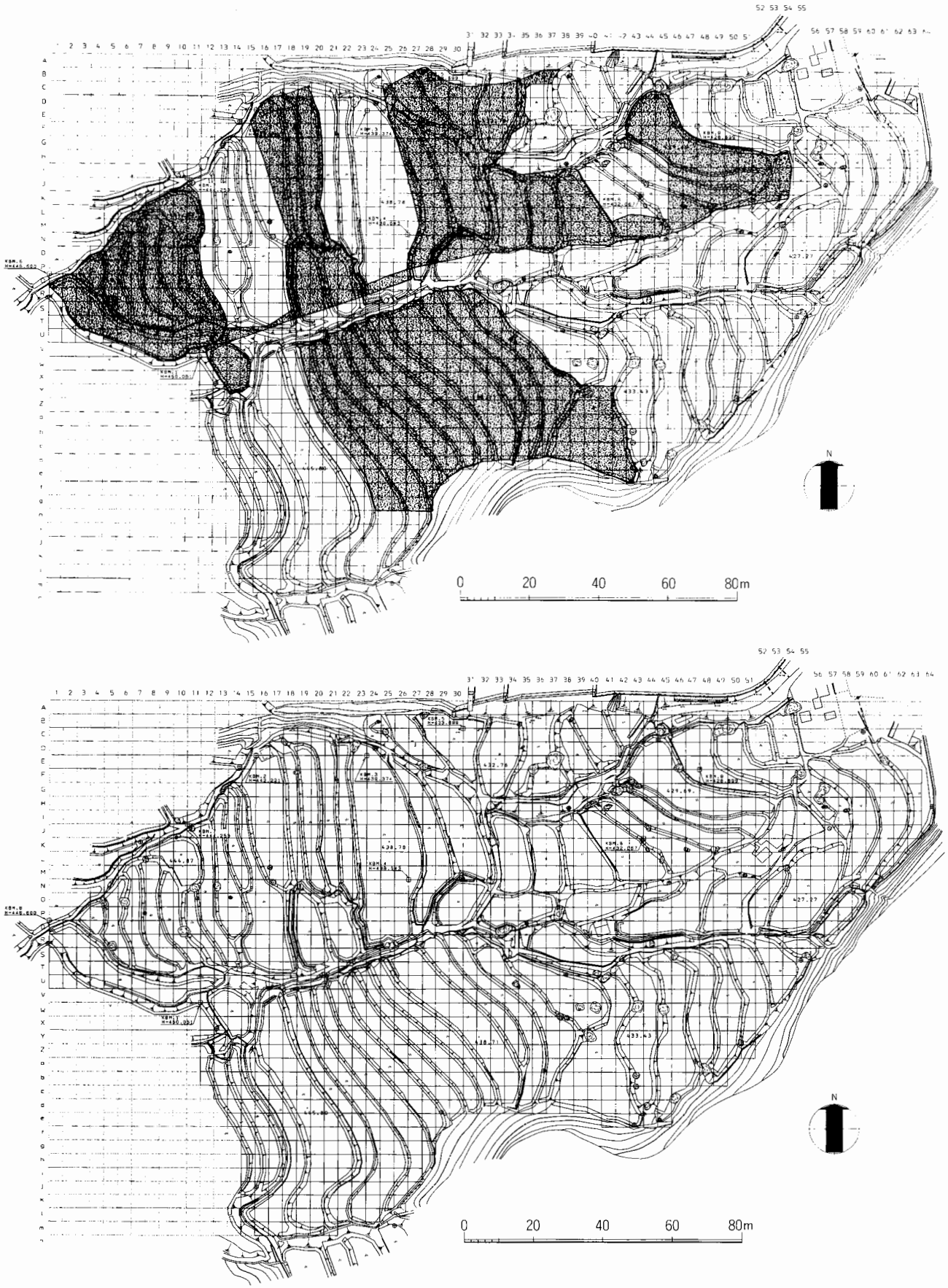
第20週（ 9/21～ 9/25）天候不順と台風７号の影響により作業進まず。現地説明会の準備作業。

第21・22週（ 9/28～10/ 9）26日現地説明会を行う。引き続き遺構検出作業を継続。

第23週（10/12～10/16）遺構検出作業継続。多数のピット状遺構を検出。

第24・25週（10/19～10/30）住居跡遺構の周辺部に多数のピット状遺構を検出。台風10号の影響を受け作業進まず。22日第５地区空中写真撮影を完了。引き続きピット状遺構の検出を継続。30日調査区内の写真撮影、最終確認調査を終えて発掘調査を終了。

第2図　周辺地形図（S＝1／2,000）



第3図　調査範囲およびグリッド設定図（S＝1／1,600）

第２章　遺跡の概要

第１節　地形・地質的環境

１ 岩井谷遺跡周辺の地形

岩井谷遺跡が存在する春日村は、岐阜県西端の村の一つであり、西隣は滋賀県である。村の北端には貝月山（標高1,234m）があり、西南端には伊吹山（標高1,377m）がある。調査遺跡周辺の接峰面図（国土地理院発行1：50,000「長浜」を使用し、一辺２㎞方眼の最高点の標高に基づいて等高線作図）を第４図に示した。この地域は、標高1,377mの伊吹山から西は標高85mの琵琶湖まで存在し、高度差の大きい地域である。特に、伊吹山頂から南西方向は高度差が激しく、水平距離約４㎞に対して高度差が約1,200mもある。調査遺跡は伊吹山山頂から北東の方向に位置している。伊吹山周囲の尾根は、約1,100～1,300mの高さをもち、北西から南西方向にかけて弧を描いている。そのため、春日村と近江との交通は高い山々によってさえぎられやすかったと考える。

調査遺跡は、尾西谷の支流沿いに位置している。尾西谷は粕川の支流である。粕川は、春日村美束周辺でいくつかの支流が合流したのち、南東へ流れ、途中で東へ方向を変え、春日村の東の揖斐川町で揖斐川に合流する。支流をも含めて粕川の谷底の様子は、春日村美束の集落を境にして上流と下流で大きな違いが見られる。美束より上流（特に西）は、深い谷は見られず谷底に平地や緩斜面が広く存在する。一方、下流は深い谷をつくっており、局部的に川原が見られるにすぎない。これは、花こう岩体と美濃帯堆積物という地質の違いを反映しており、美束より上流部に居住に適した場所が多くあると考えられる。調査遺跡も美束より上流に位置する。

調査遺跡は、南北を谷にはさまれた緩斜面上にある。この緩斜面上には、多くの礫（主に亜円礫）があらわれており、土石流堆積物と思われる。数m大の径をもつ巨礫も多い。その緩斜面を南北の２本の谷が開析している状況である。

２ 岩井谷遺跡周辺の地質

春日村には、第四紀の堆積物をのぞけば、岐阜県美濃地方に広く分布する美濃帯堆積物と貝月山を中心として広がる花こう岩が分布する。美濃帯堆積物は、古生代から中生代にかけての海洋性堆積物の付加体から成っている。中・古生層である砂岩，泥岩，チャート，石灰岩，玄武岩質溶岩および火山砕屑岩などが複雑に絡み合った状態で分布する。

一方、花こう岩は貝月山花こう岩と呼ばれ、春日村とその西方の滋賀県坂田郡伊吹町に、直径約14㎞のほぼ円形に分布する。この花こう岩は、主に中～粗粒の黒雲母花こう岩であり、一部に角閃石を含み、斑状の部分もある。岩体内には、ペグマタイト・アプライトのレンズ・岩脈が多数ある。岩体の周囲に分布する美濃帯は約2.5～３㎞の範囲で接触変成をうけており、ホルンフェルス化した岩石も見られる。（日本の地質『中部地方Ⅱ』編集委員会，1988）

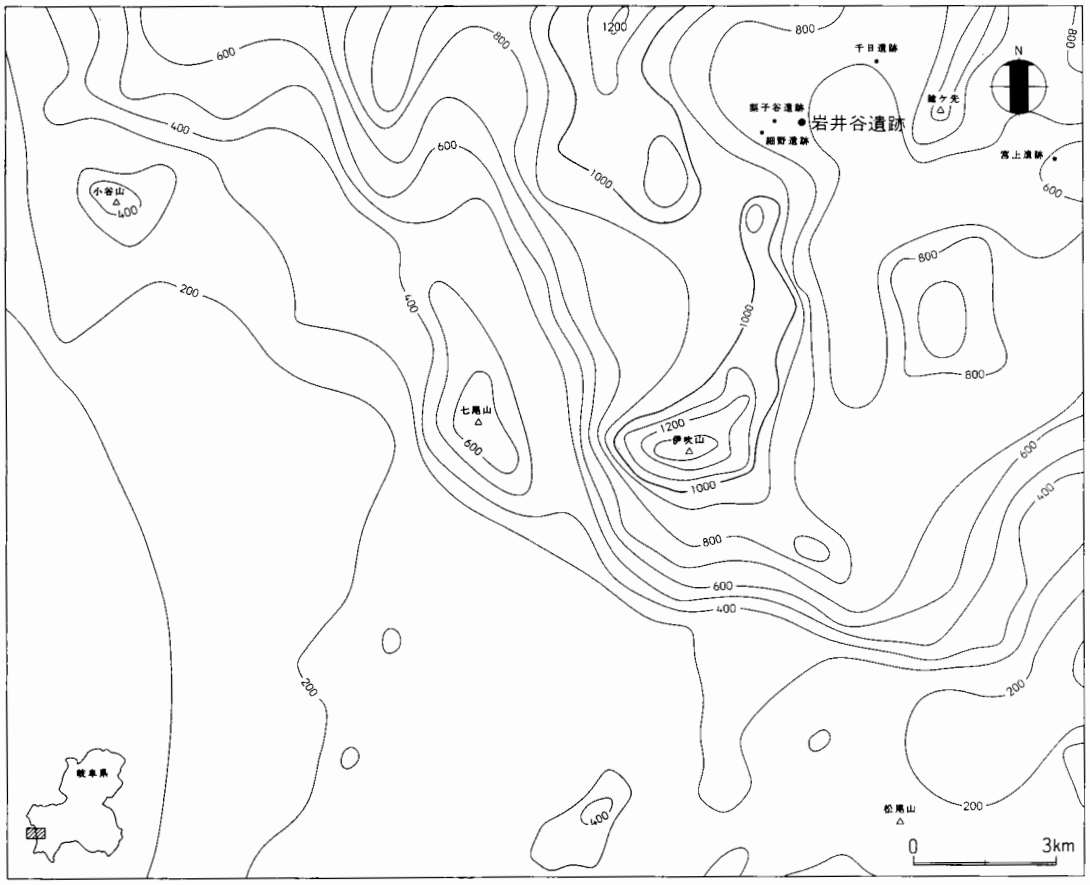
調査遺跡は、前述したように、美束より上流部に位置しており、花こう岩体中にある。花こう岩体中は一般に土石流が発生しやすく、遺跡のある谷部にも土石流堆積物が存在する。この遺跡は、花こ

う岩体が侵食されできた谷部を上流から流れてきた土石流が埋積し形成した緩斜面上にある。

岩井谷遺跡の第２地区において、地表面に露出している礫の種類を調べてみると、花こう岩，安山岩，花こう斑岩の３種類の岩石が見られる。径10㎝以上の礫種を調べると、花こう岩が87％，安山岩が７％，花こう斑岩が６％であった。花こう岩は全体的に大きく、数m以上の径をもつものも見られる。確認した中で最大のものは約３ｍ×約３ｍ×１ｍ以上であった。安山岩は10数㎝の径をもつものが多く、最大のものは38㎝×23㎝×16㎝であった。花こう斑岩は20㎝以下の径をもつものがほとんどで、最大のもので約30㎝の径をもつ。この３種類の礫は、遺跡上流の岩盤を形成しており、安山岩は花こう岩体に貫入岩として存在しているものであろう。岩井谷遺跡より約１㎞東で花こう岩を幅１～２ｍで貫入している安山岩を確認したが、岩石中の鉱物を見るかぎり土石流によって堆積したと思われる安山岩と似ている。

参考文献

日本の地質５　中部地方Ⅱ（1999）：日本の地質『中部地方Ⅱ』編集委員会編 共立出版



第4図　遺跡周辺の接峰面図

第２節　歴史的環境

春日村は、山間部のわずかな河岸段丘上に立地した集落が多い。特に下ヶ流集落より上流では、粕川の浸食が激しく段丘面と河床との比高が大きい。地形から観察すると、川合・小宮神・香六集落を中心に、その下流に六合地区、上流に美束地区、粕川支流の長谷川の上流、方角では南の川合地区の３カ所に大きく地域が分散する。現在までに確認されている縄文遺跡は、前出の３地区のうち、美束地区および六合地区に集中して確認されており（詳細については、早野他1999Ｐ９－11参照）おそらく川合地区にも存在するのであろう。岩井谷遺跡は、美束地区に入るが、その中でも西へ伊吹山麓へ向かって入り込む尾西谷の段丘上に立地する。美束地区の中でも特に尾西谷周辺の縄文遺跡は、伊吹山麓に位置する遺跡と言える。伊吹山頂から岩井谷遺跡へは、直線距離にして約7.5㎞である。伊吹山頂から10㎞圏内に入る主な縄文遺跡を以下に揚げる。尚、遺跡数が多量になるので、ここでは「主な遺跡」の条件として遺物とともに遺構が確認されている遺跡を揚げることとする。

小関御祭田遺跡　岐阜県不破郡関ヶ原町関ヶ原字蜻蛉谷　縄文中期後葉～末葉
竪穴住居跡１軒　集積遺構２基　土壙　ピット等を検出
出土遺物は中期後半が中心

中野遺跡　岐阜県不破郡関ヶ原町関ヶ原中野　縄文中期～後期
住居跡　炉跡　集積遺構等を検出
出土遺物は中・後期が中心

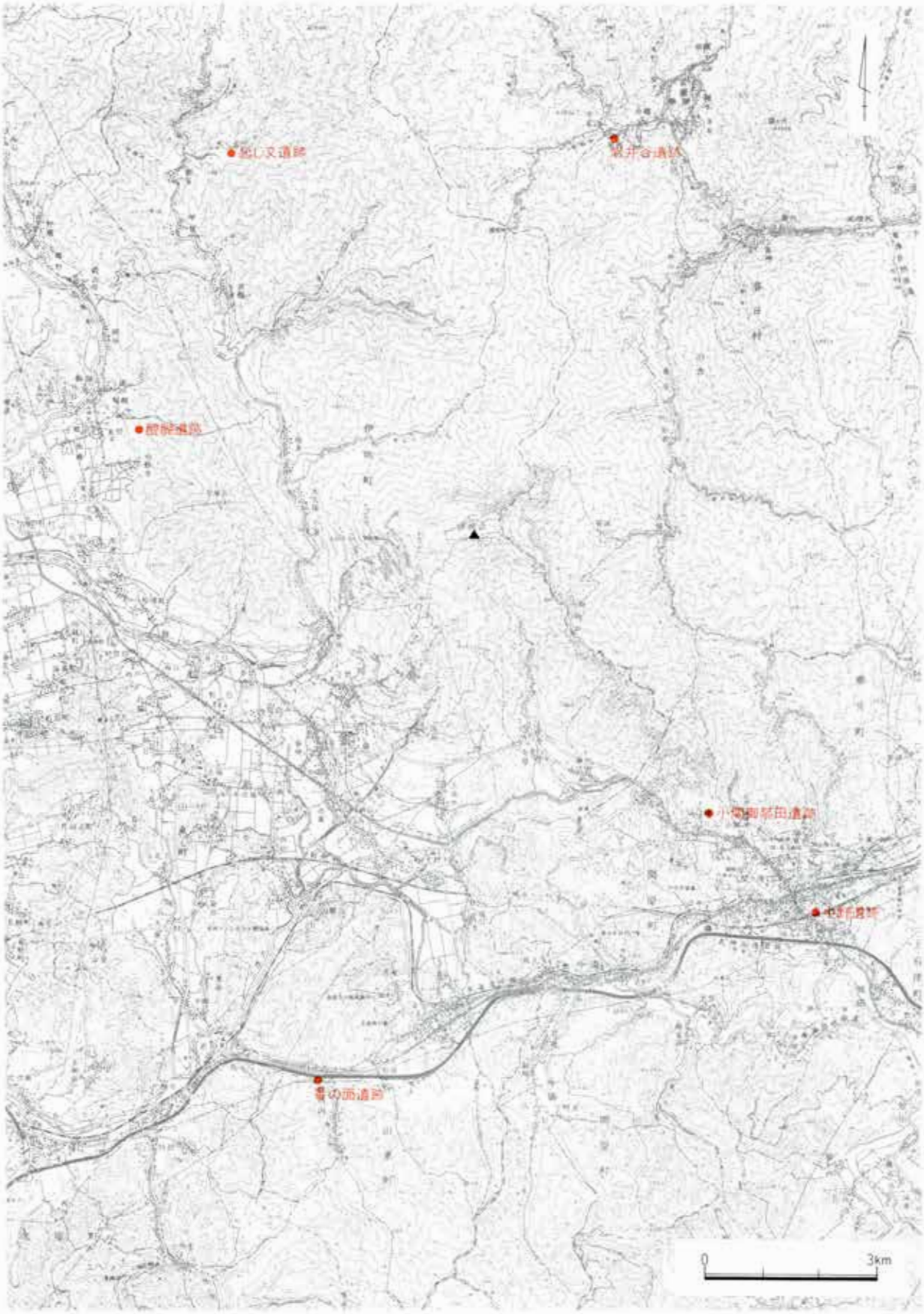
番の面遺跡　滋賀県坂田郡山東町柏原番の面　縄文中期末
住居跡　検出
出土遺物は中期末葉中心

醍醐遺跡　滋賀県東浅井郡浅井町醍醐　縄文中期後葉～後期
石造特殊遺構（配石遺構）検出
出土遺物は中期中葉～後期前葉

起し又遺跡　滋賀県坂田郡伊吹町大字曲谷字起し又　縄文早期・中期～晩期
竪穴住居跡５棟　埋設土器６基　配石遺構
出土遺物は中期中葉～後期中葉が中心

以上の遺跡が代表的なものになろう。いずれの遺跡においても出土遺物の中心時期が、縄文中期中葉から後期前半にあてはまる。岩井谷遺跡においても、出土遺物および遺構の中心時期はこの時期であり、縄文中期後半から後期前葉にかけて伊吹山麓を中心にした文化の開花、またはこの地域をはさんだ文化伝播の重要経路となった可能性は高い。

弥生時代・古墳時代を経て、古代になると「春日」に関する記事が文献に散見されるようになる。特に７世紀から８世紀にかけての律令国家形成期における味蜂間郡－安八郡、池田郡時代の当地域の状況には多くの論文・見解が出されている。今回の調査でも８世紀以降ではあるが古代の遺物も出土しており、時期不明の鉄滓もわずかに出土している。考古学的に実証できる多くの資料の発見が待たれるところである。



第5図　伊吹山周辺の主な遺跡（S＝1/100,000）

第3章　遺　構

第1節　基本層序

調査区は東西の標高差約15mを測り、西から東へ緩やかな傾斜地を形成している。原地形も傾斜をなしていたと考えられるが、開墾によって現在では多くの削平地が作られ、水田および畑が営まれる。基本的な層序はおおむね安定しているが、部分的にいわゆる地山まで削られていることにより、連続的な層位の把握に困難を強いられる地域も存在した。また土石流等自然災害による一挙的な土砂の流動、および堆積があったとみられる地域もある。

基本層序を以下に述べる。

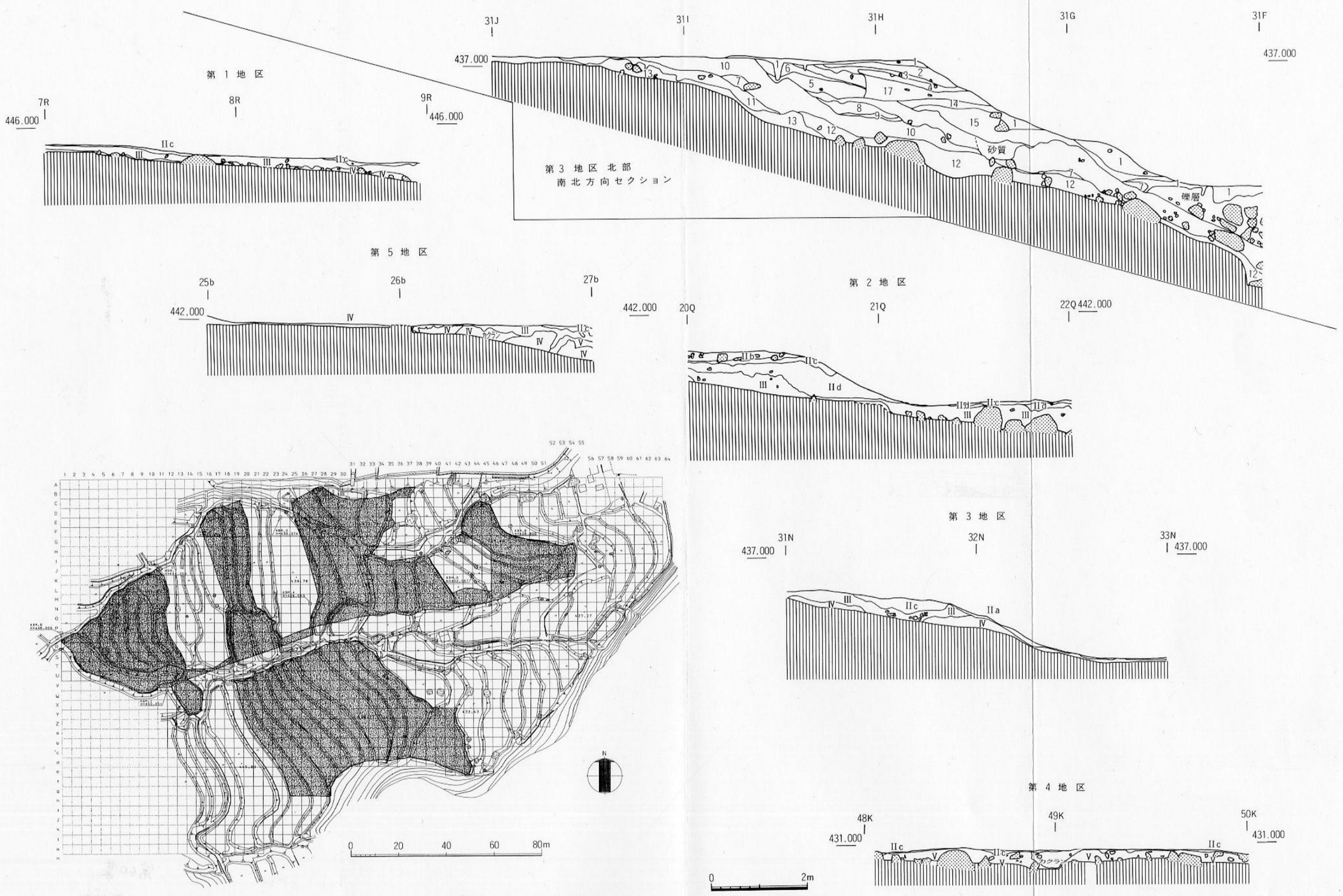
第Ⅰ層	耕作土	黒褐色土（10YR2/2）
第Ⅱａ層	敷土	黒褐色土（10YR3/1）シルト
第Ⅱｂ層	攪乱層	暗褐色土（10YR3/3）+黄褐色土（10YR5/6）の混合土
第Ⅱｃ層		黒褐色土（10YR3/2）
第Ⅱｄ層		黒褐色土（10YR2/2）
第Ⅲ層		黒色土　（10YR2/1）
第Ⅳ層		暗褐色土（10YR3/3）
第Ⅴ層		地　山　黄褐色土（10YR5/6）

遺物は第Ⅱ層以下から出土したが、比較的安定して出土したのは、第Ⅲ層以下である。第Ⅱ層は原位置から大幅に動いている可能性が高い層位と判断した。遺構は第Ⅲ層中位以下～第Ⅳ層直上、および第Ⅴ層（地山）面に検出した。

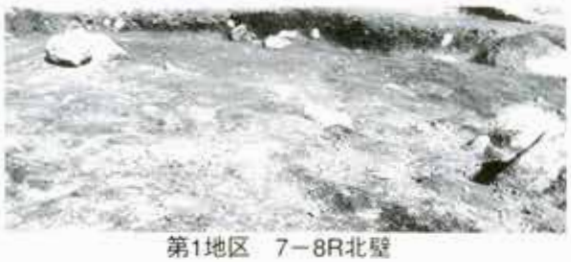
第3地区北部31Ｊ～31Ｆグリッドは、北への落ち込みが激しく特有の土層を示す。

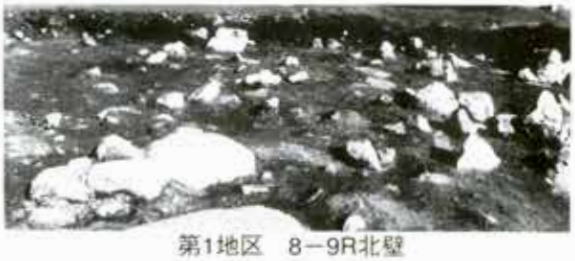
1層　褐灰色土（7.5YR4/1）
2層　にぶい黄褐色土（10YR5/4）
3層　黒褐色土（10YR3/2）
4層　1層+にぶい黄褐色土（10YR5/3)攪乱層
5層　にぶい黄褐色土（10YR5/4）
6層　黒褐色土（7.5YR3/1）
7層　黄褐色土（10YR5/6）
　　+黒褐色土（7.5YR3/1）攪乱層
8層　黒色土（7.5YR2/1）
9層　黄褐色土（10YR5/6）+黒褐色土（7.5YR3/1）攪乱
10層　黒褐色土（7.5YR3/1）
11層　黒褐色土（7.5YR2/1）
12層　黒褐色土（10YR2/2）
13層　にぶい黄褐色土（10YR5/4）
14層　黒褐色土（10YR2/2）
　　+黄褐色土（10YR5/6）攪乱層
15層　黒褐色土（7.5YR2/1）
16層　黄褐色土（10YR5/6）
17層　褐灰色土（7.5YR4/1）

第6図は、調査区の各地点の主な土層の堆積状況を示す土層図である。右上31Ｊ～31Ｆ土層図は第3地区南北方向の特殊堆積を示す西壁土層図であり、その他は各地区の東西方向の北壁土層図である。なお、第3地区北部南北方向セクション図以外はすべて標高を統一した。



第6図　調査区土層図（調査区全体図S＝1／1,600、セクション図S＝1／80）


第1地区　7－8R北壁


第1地区　8－9R北壁

第2地区　20－21Q北壁

第2地区　21－22Q北壁

第3地区　31－32R北壁

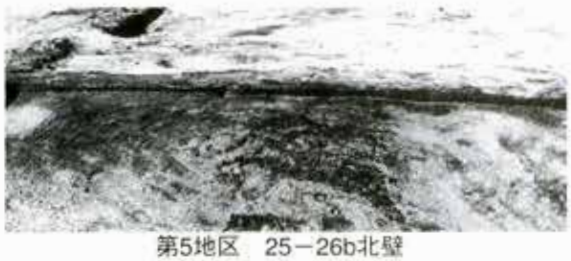
第3地区　32－33R北壁

第3地区　31J－31F西壁

第3地区　31G－31F西壁

第4地区　48－49K北壁

第4地区　49－50K北壁


第5地区　25－26b北壁

第5地区　26－27b北壁

第2節　遺構の概要

調査において検出した遺構は、すべて縄文時代の遺構である。

遺構検出の状況は第1表のとおりである。

第1表　遺構検出数

	第1地区	第2地区	第3地区	第4地区	第5地区	合　計
調査面積（㎡）	1700	1070	2270	960	3780	9780
住居跡			1		6	7
集石遺構	2	9	2		3	16
土器埋設遺構		3				3
土器集中区		3	1		1	5
立石遺構		3				3
土坑		9	5		36	49
竪穴状遺構					2	2
ピット状遺構	21	137	23	5	330	516

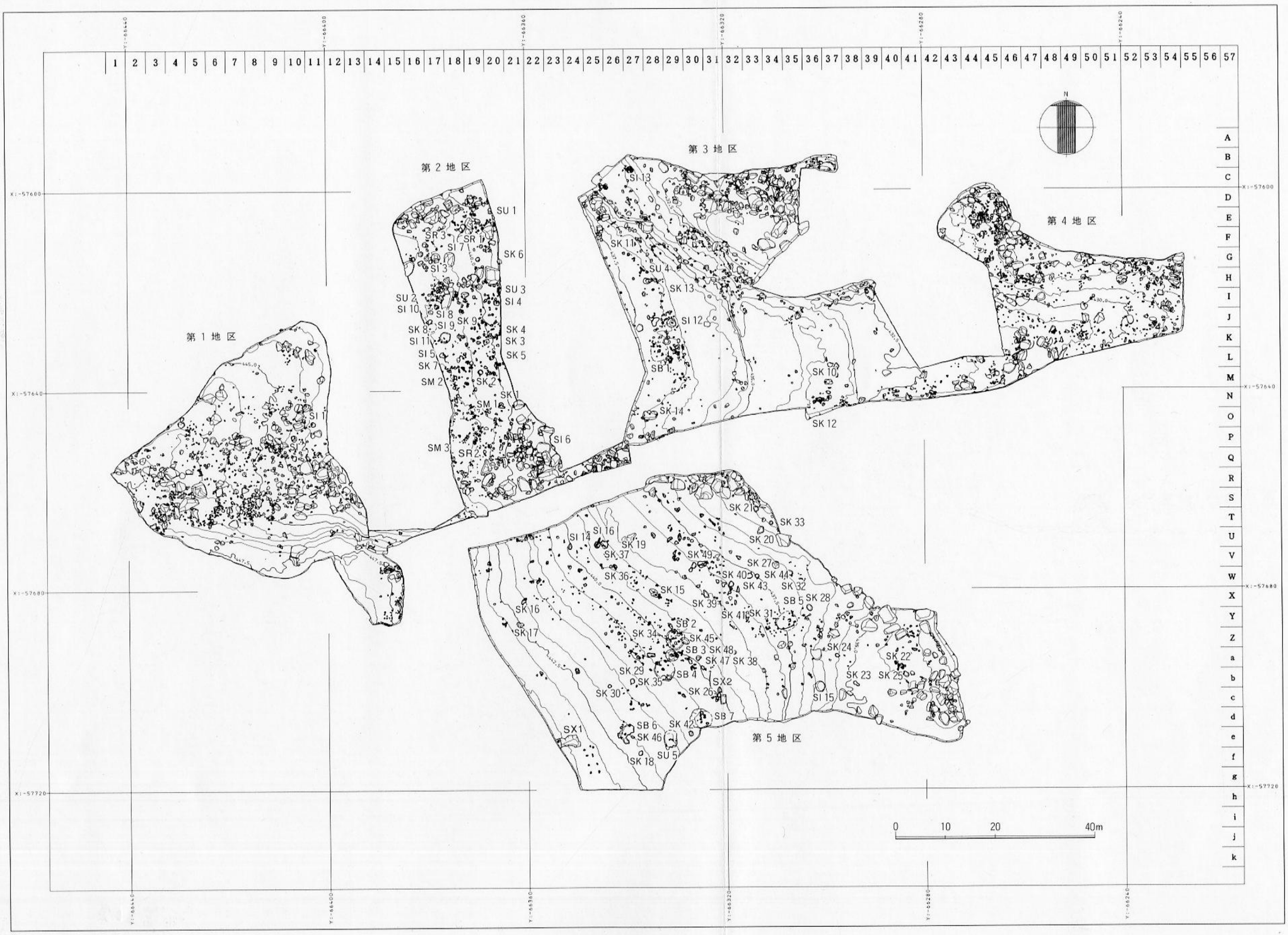
遺構は、主に第2地区、第3地区および第5地区に集中した。これは遺物の出土状況にも共通する部分がある。調査面積に対して遺構数が多いのは第2地区であり、明確な住居跡は検出できなかったものの、土器埋設遺構、土器集中区、立石遺構の検出数は他の地点を圧倒している。また出土した土偶はすべて第2地区からのものである。遺構との関連があると推測できる。

住居跡は、主に第5地区に多い。しかし他の地区に皆無であったとは断言できない。特に第2地区のピット状遺構の検出数は多く、遺構の配置からも住居の柱穴ではなかったかと推定できる地域がある（第2地区19Ｊ・Ｋ・Ｌ－20Ｊ・Ｋ・Ｌグリッド周辺）。今回は調査対象外であった第2地区と第3地区間の地域にも存在する可能性が高い。また第5地区においてもかなりの数の単独ピットを検出した。第5地区は第1地区～第4地区、すなわち遺跡北部地域に比較して傾斜がきつく、北部地域に見られた巨礫は地区中央部にはほとんど見られなかったことから、自然災害による遺構の破壊も比較的激しかったことが予想される。また傾斜がきつい分、開田時の削平と盛土の量も大きかったことが予想できる。これらのことから今回の調査で検出した遺構数に若干の付加の可能性を考える。

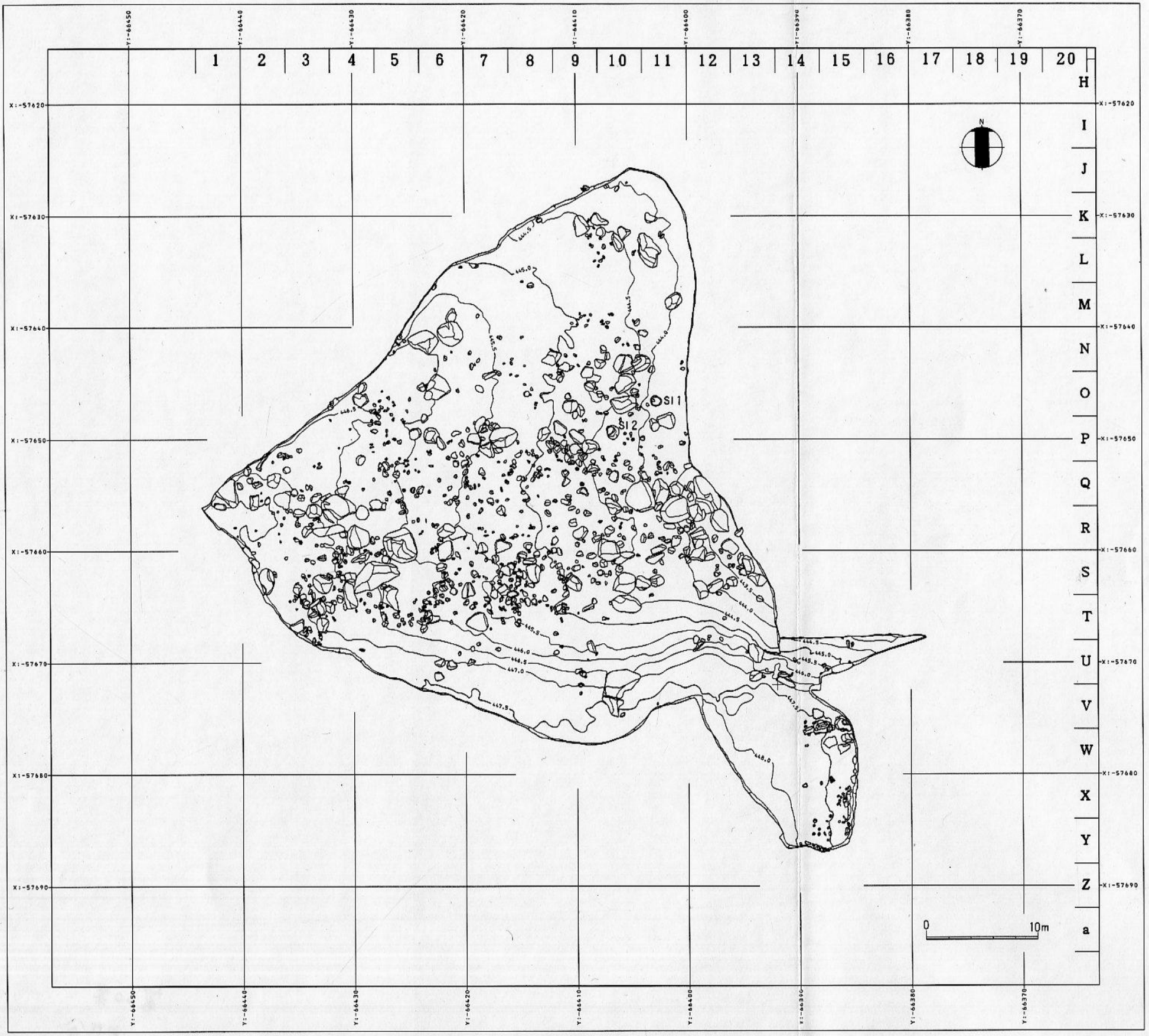
なお、調査の便宜上、以下のように遺構の略号を用いた。本報告内にも必要に応じて使用する。

住居跡	ＳＢ	立石遺構	ＳＲ
集石遺構	ＳＩ	土坑	ＳＫ
土器埋設遺構	ＳＭ	竪穴状遺構	ＳＸ
土器集中区	ＳＵ	ピット状遺構	Ｐ

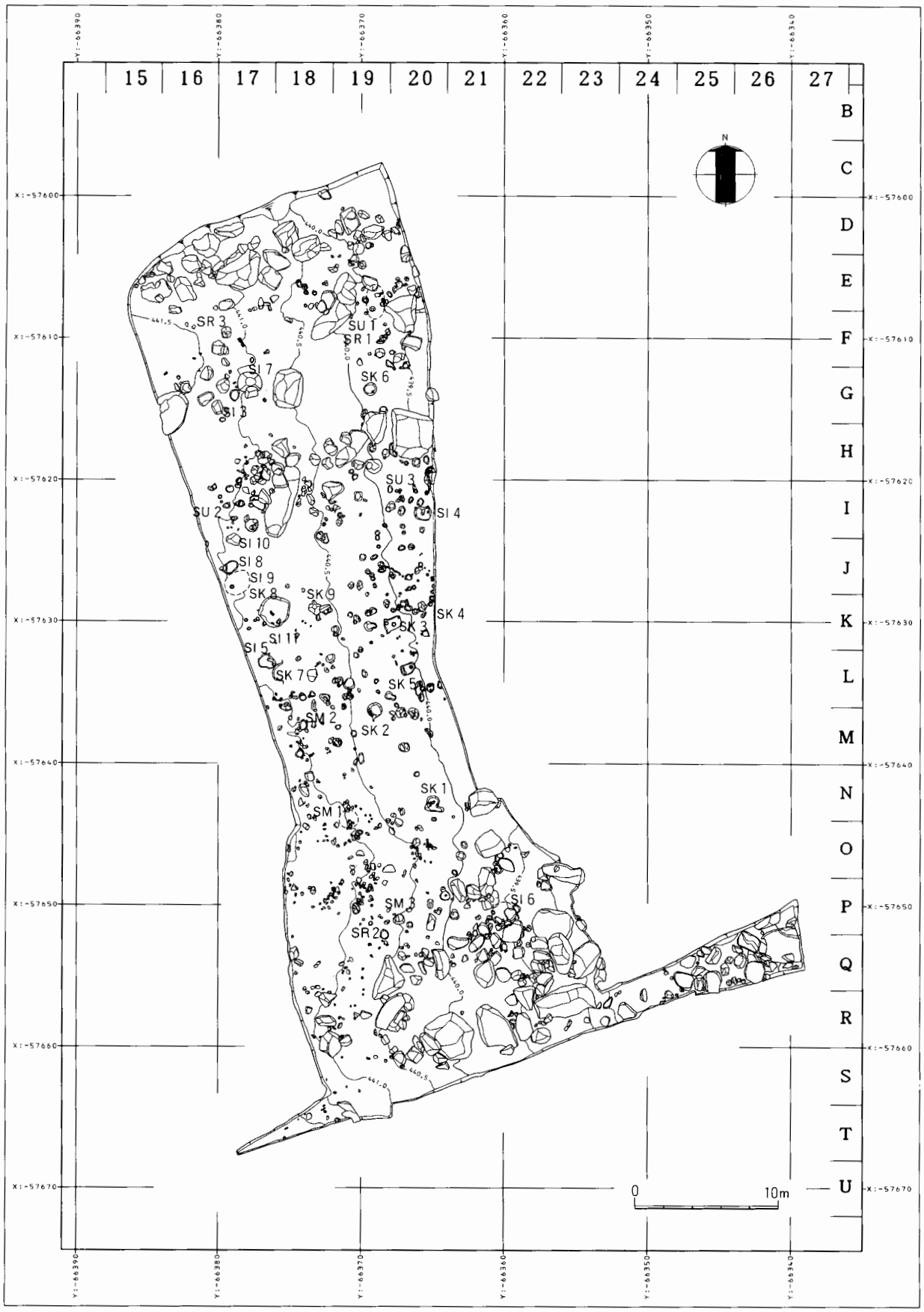
遺構配置の全容については遺構配置図および付図を参照されたい。また伴出土器については、「第4章　縄文土器」の中で記載した分類記号を用い、ここでは簡略に記述した。詳細は第4章で述べる。



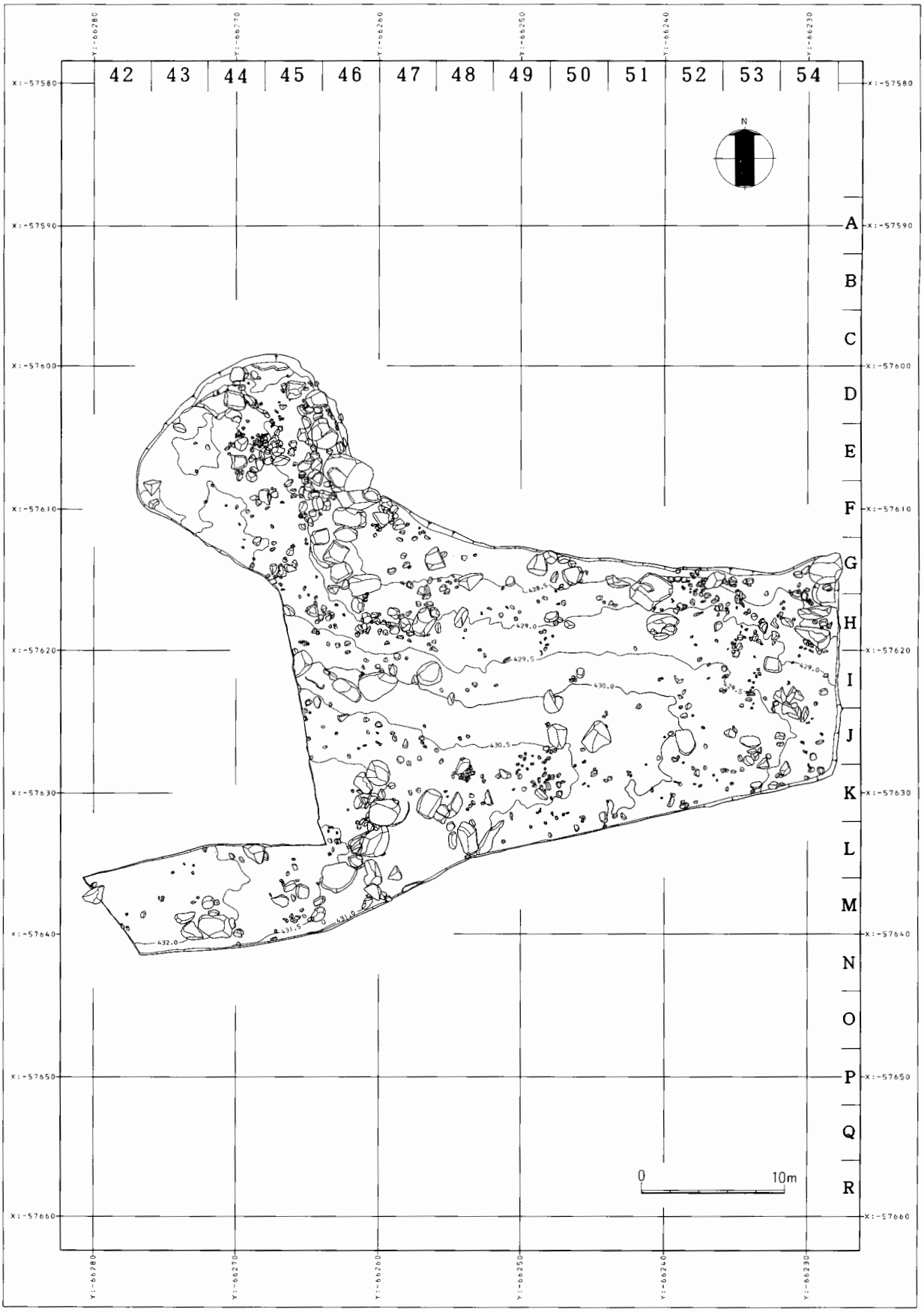
第7図　全調査区遺構配置図（S＝1／800）



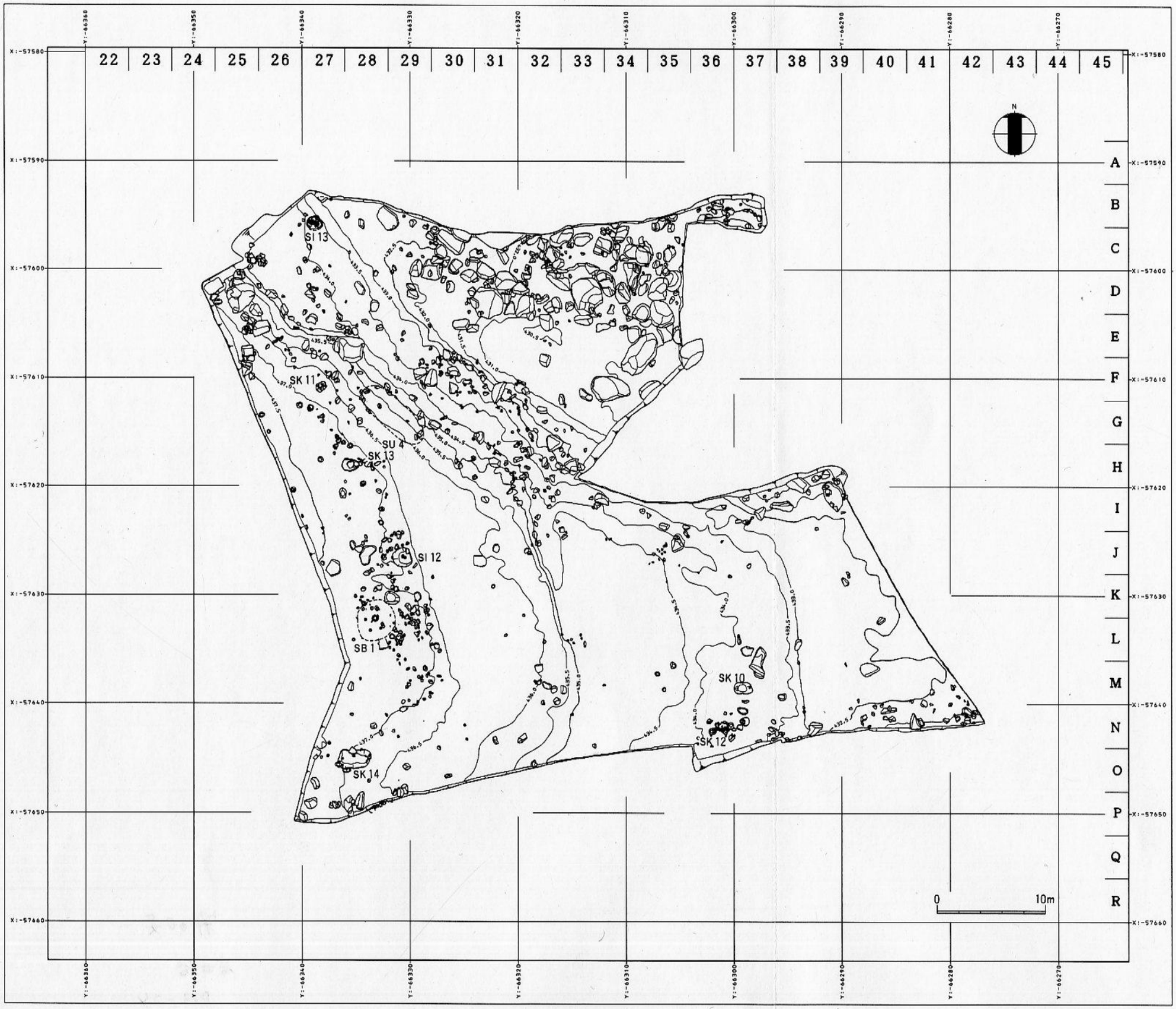
第8図　第1地区遺構配置図（S=1／400）



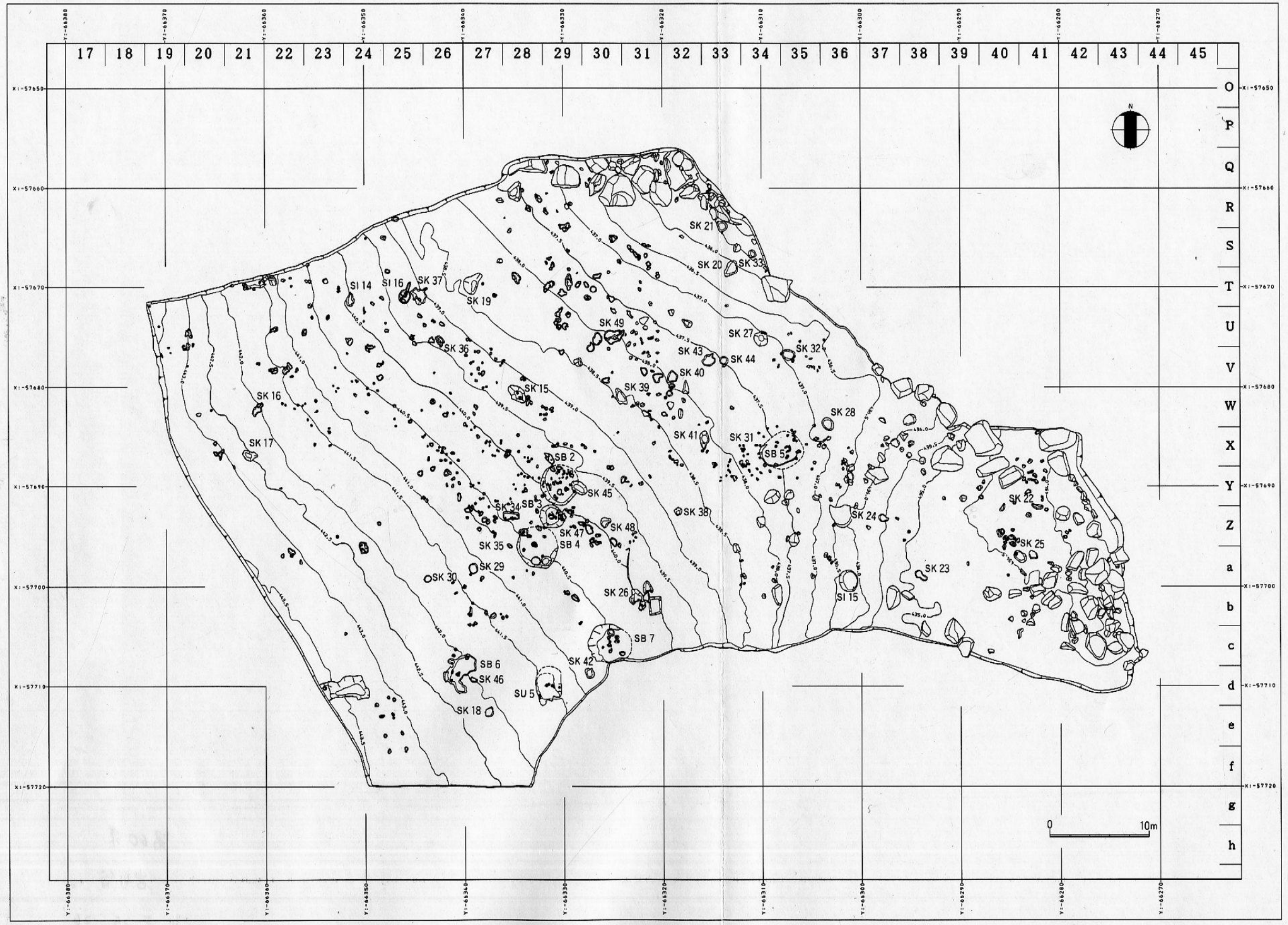
第9図　第2地区遺構配置図（S＝1／400）



第10図　第4地区遺構配置図（S＝1／400）



第11図　第3地区遺構配置図（S=1／400）



第12図　第5地区遺構配置図（S=1／400）

第３節　住居跡（ＳＢ）

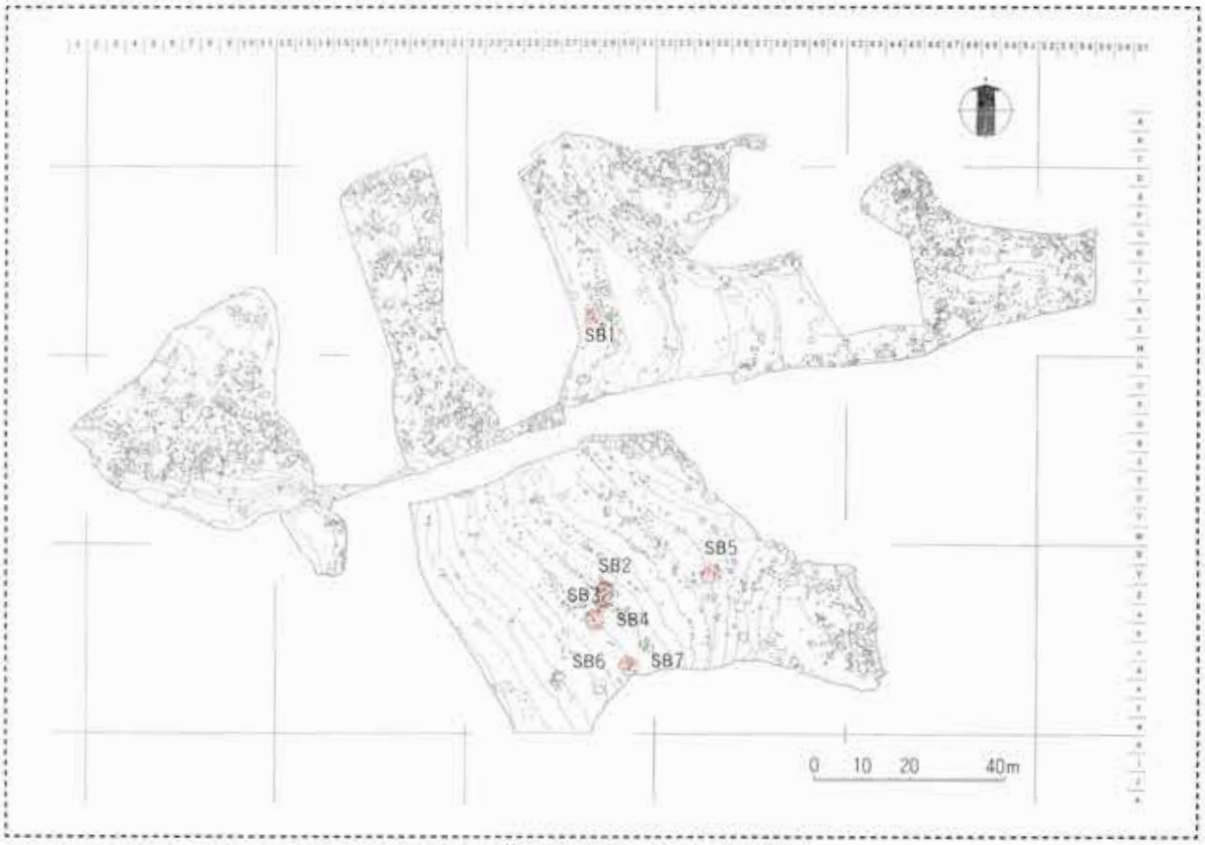
本遺跡からは縄文時代の住居跡を７軒確認し、その他竪穴状の遺構を２基（ＳＸ１・ＳＸ２）、柱穴列等を検出した。ここで住居跡として取り上げる遺構は次の項目のいずれにも当てはまるものをとりあげた。

１．炉跡または地床炉を想定できる焼土域をもつ。

２．柱穴が確認できる。

第３地区南西部に第１号住居跡、第５地区中央部から南端にかけて第２号～第７号住居跡の６軒を検出した。遺跡は西から東に向かって開け、同方向へかなりの角度をもつ傾斜地となっているため、住居のほとんどは山側（西側）の掘り込みが深く、谷側（東側）の掘り込みが浅い。後世の開田による削平もあり東側のプランが確認できなかった住居跡が多い。第２地区19Ｊ・Ｋ・Ｌグリッドおよび20Ｊ・Ｋ・Ｌグリッドに、柱穴列および第５地区23ｆに柱穴列が存在し、住居またはその他の建物の可能性が残る。

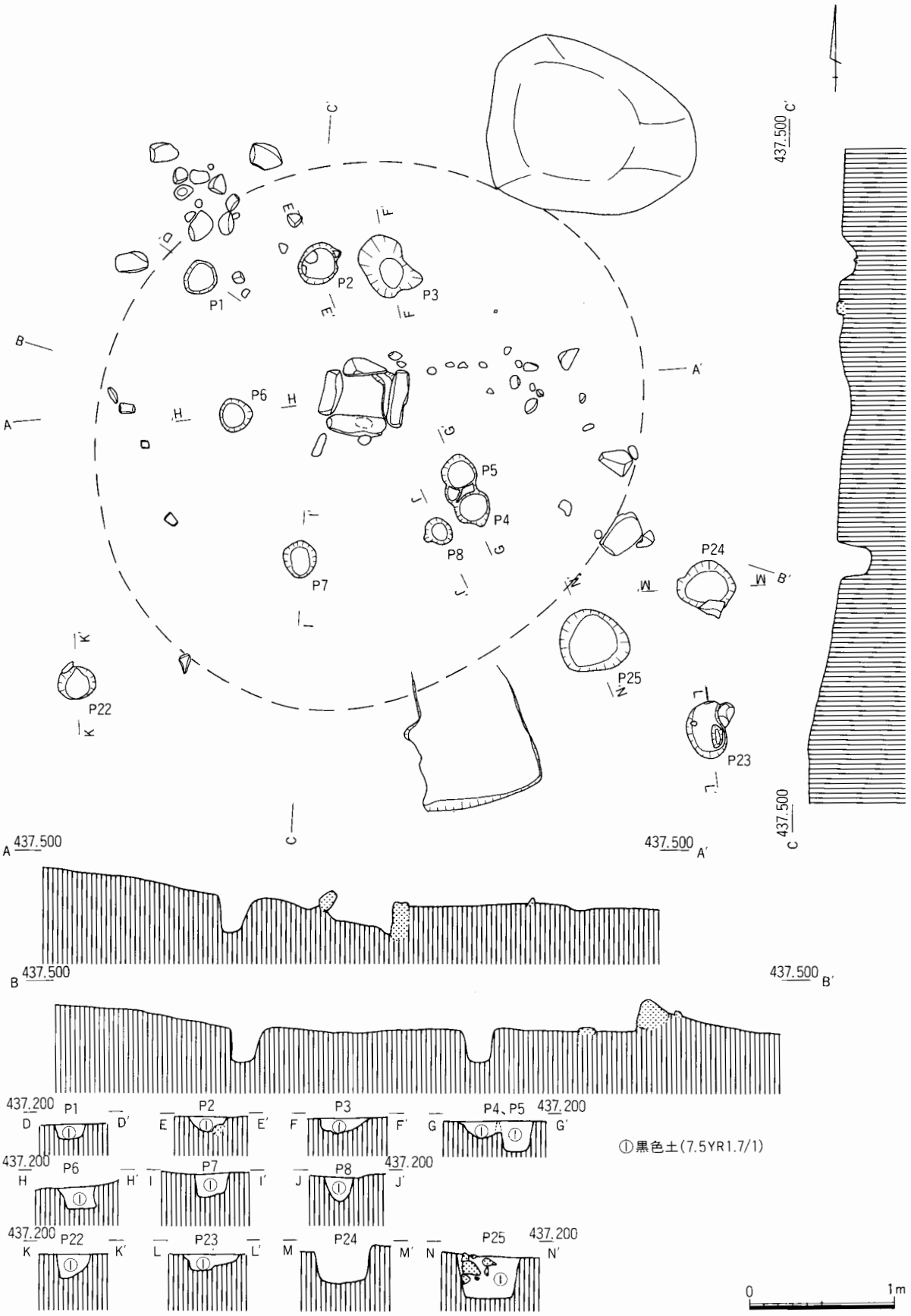
第１号、第４号、第５号住居跡より、石囲炉の痕跡と思われる石組みを検出した。第２号については抜き取りの痕跡および焼土を、その他の住居跡からは焼土域をそれぞれ検出した。第１号を除いて上端・下端を確認した住居跡の平面形は、円形または楕円形であった。



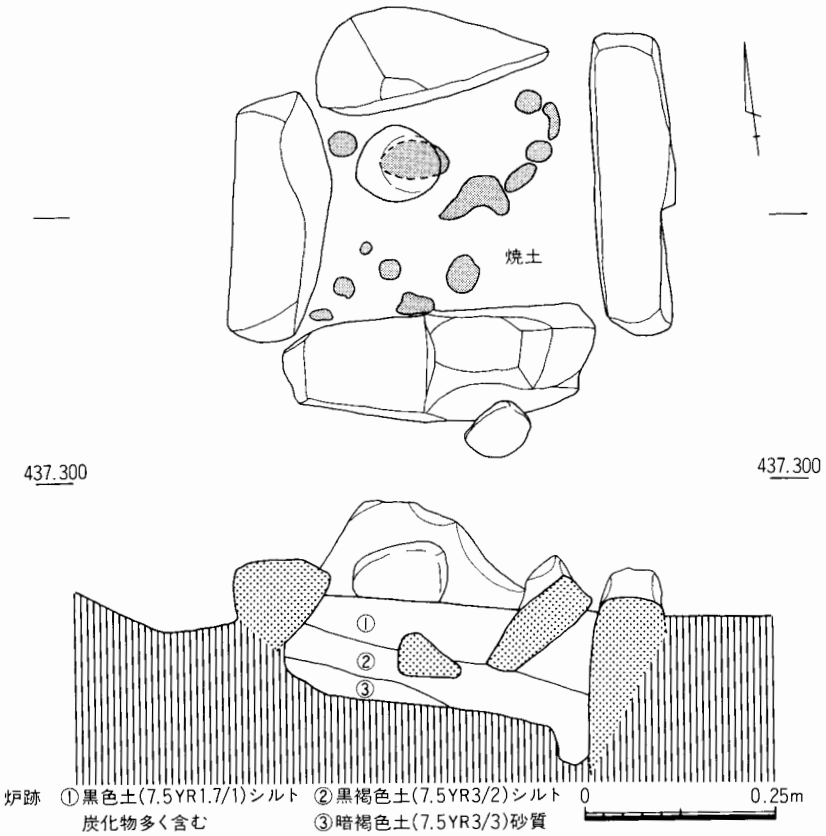
第13図　住居跡位置図（S＝1／1,600）

１．第１号住居跡（ＳＢ１）　第14図　図版４

位置・立地状況　第３地区南西部傾斜が緩やかになった地域28Ｌグリッドにて検出。周辺は掘り拳



第14図　第1号住居跡（S＝1／40）



第15図　第1号住居跡　炉跡　検出状況（S＝1／10）

大～人頭大の礫が散乱し、さらに下流域には径１ｍを超える巨礫が点在する場所であり河川の氾濫による激しい土石流の跡と思われる状況を窺うことができる場所である。

平面形・規模　後世の開墾時に受けた削平がかなり激しく、住居プランは不明であるが、周囲の礫の出土状況と住居内の土層堆積の状況などから４ｍ×４ｍ程度の径をもつ円形プランであったと推測する。検出した時点の遺構はすでに床面が表出している状態であったと判断しているため断定できないが12.56㎡と推定する。長軸方向Ｎ－15°－Ｅ。

覆土　黒褐色土攪乱層。

床面・壁　床面の硬化はみられない。壁高および傾斜角等不明。

柱穴　住居内に柱穴を８基確認した。Ｐ１は0.25×0.22m深さ0.1m、Ｐ２は0.3×0.12m深さ0.12m、Ｐ３は0.45×0.3m深さ0.11m、Ｐ４は0.23×0.22m深さ0.22m、Ｐ５は0.25×0.1m深さ0.1m、Ｐ６は0.27×0.24m深さ0.16m、Ｐ７は0.27×0.24m深さ0.16m、Ｐ８は0.2×0.17m深さ0.17mである。また住居プランの外部に当たると思われる場所に位置するピットが４基あり、Ｐ22は0.25×0.25m深さ0.18m、Ｐ23は0.4×0.25m深さ0.12m、Ｐ24は0.4×0.37m深さ0.25m、Ｐ25は0.49×0.43m深さ0.3mである。

炉（第15図　図版４）中央やや北側に石囲炉が検出された。一辺に１個の礫を組む0.7×0.7mの方形プランを呈する。石組みに使用されている礫は、北側が安山岩、その他は花こう岩である。炉内部には焼土と炭化物が少量出土した。炉内に小礫が３個混入し、１個は径13㎝の円礫である。

出土遺物　遺物は床面直上部より６個の縄文土器小片が出土した。船元式に見られる撚りの粗い縄文が施文された極小破片が１点出土したが、この住居に伴うものとは断定しがたい。その他の土器はいずれも小片・無文であり時期を判断することは不能である。

時期　覆土からの出土遺物より縄文施文が確認できる小片が１点あり中期前葉を上限と考える。その他は無文だが後期土器の可能性が高く付近の包含層遺物からも後期土器が多量に出土しており後期の可能性も残る。

2．第2号住居跡（ＳＢ２）第16図　図版4

位置・立地状況　第５地区中央部29Ｚグリッドにて検出した。地区内では比較的緩やかな傾斜地に立地する。

平面形・規模　遺構北東側が後世の削平によって欠損している。確認できるプランから推定できる広さを含めると3.9m×3.6mの不整円形プランを呈する。床面積は11.1㎡（推定部含む）。主軸方向はＮ－９°－Ｅ。

覆土　覆土は主に黒褐色土、暗褐色土、にぶい黄褐色土に分層できる。壁土の崩落による堆積または周堤の盛土の流れ込みによる堆積から包含層の堆積に至る状況を呈する。

床面・壁　床面の硬化はみられない。Ｖ層（地山）の緩斜面に床面を確保するために山側は深く谷側は浅く掘り込まれており、山側最深部で0.36m、傾斜角度約43°緩やかに立ち上がる。

柱穴　内部に11基検出している。Ｐ１は0.2×0.2m深さ0.45m、Ｐ２は0.3×0.2m深さ0.21m、Ｐ３は0.47×0.33m深さ0.38m、Ｐ４は0.26×0.19m深さ0.17m、Ｐ５は0.37×0.23深さ0.26m、Ｐ６は0.42×0.2m深さ0.19m、Ｐ７は0.19×0.14m深さ0.17m、Ｐ８は0.29×0.19m深さ0.17m、Ｐ９は0.58×0.4m深さ0.16m、Ｐ10は0.58×0.37m深さ0.14m、Ｐ11は0.48×0.31m深さ0.3m、Ｐ12は0.3×0.21m深さ0.43mである。Ｐ１・Ｐ３・Ｐ６・Ｐ12は焼土域を囲むように位置し、他の柱穴と比して深さがあることから主柱穴と考えられる。

炉　中央やや南に焼土域を検出し、その周辺には石組み礫を除去した痕跡が確認でき、石囲炉が存在した可能性が窺われる。検出時、覆土上層に長径40～60㎝の花こう岩亜角礫が３個体集中して出土したが、被熱は認められなかった。

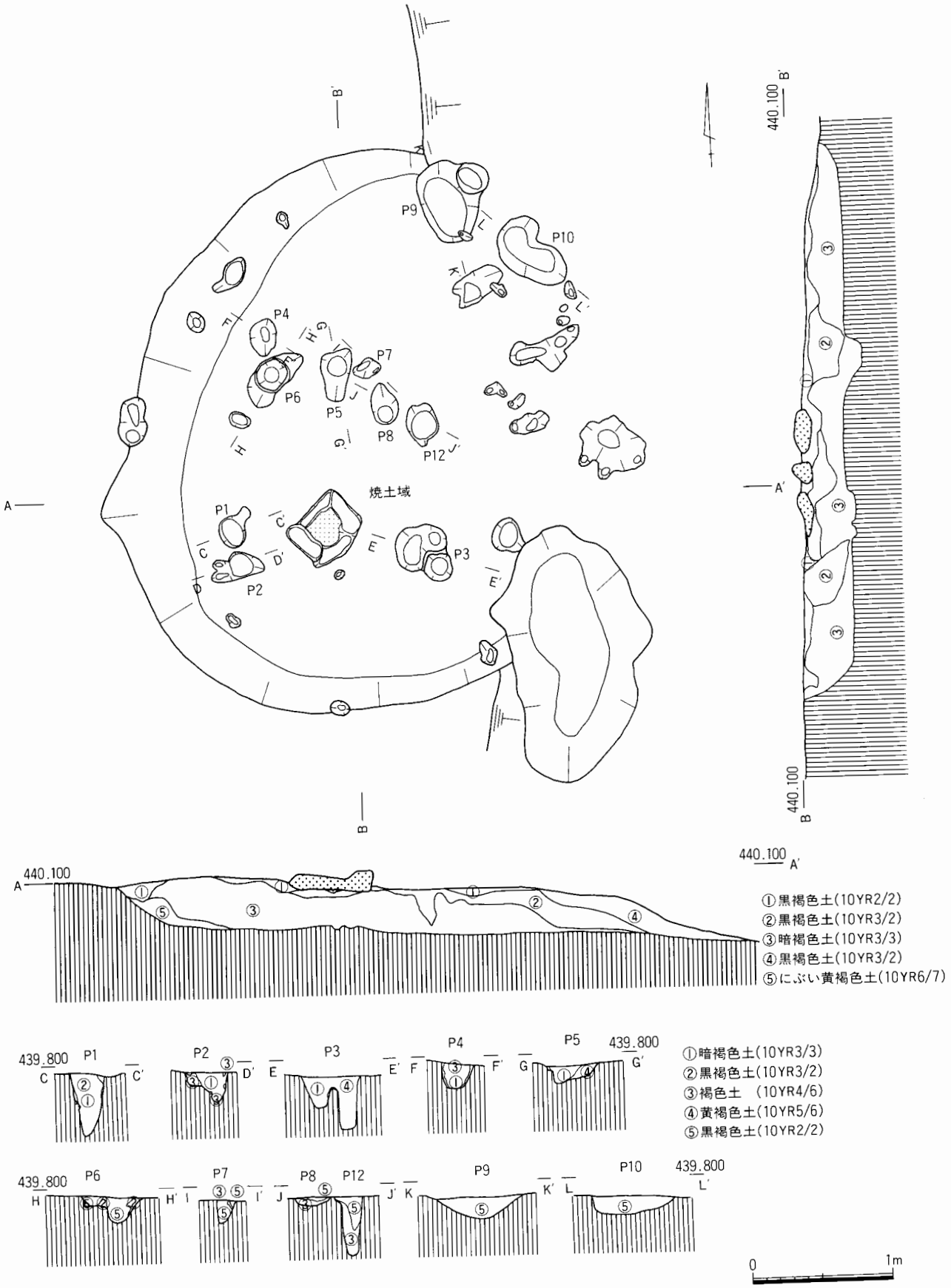
出土遺物　（第59・60・61図１～38）

遺物出土状況は第17図のとおりである。遺構上層にて出土した３個体の花こう岩亜角礫周辺地域に集中的に遺物が出土した。遺物は覆土の上層から下層さらに床面直上にかけて、前出の花こう岩亜角礫周辺部に集中して出土している。出土状況はいわゆる「吹き上げパターン」を呈している。第17図に残存状態の比較的良好な土器を示したが、そのほとんどが覆土上層～中層に破片状態で出土した土器である。どの土器も同一個体になるものは約５㎝～10㎝の垂直幅をもって分布している。覆土の傾斜等も考慮に入れるとほぼ同レベルから出土している。

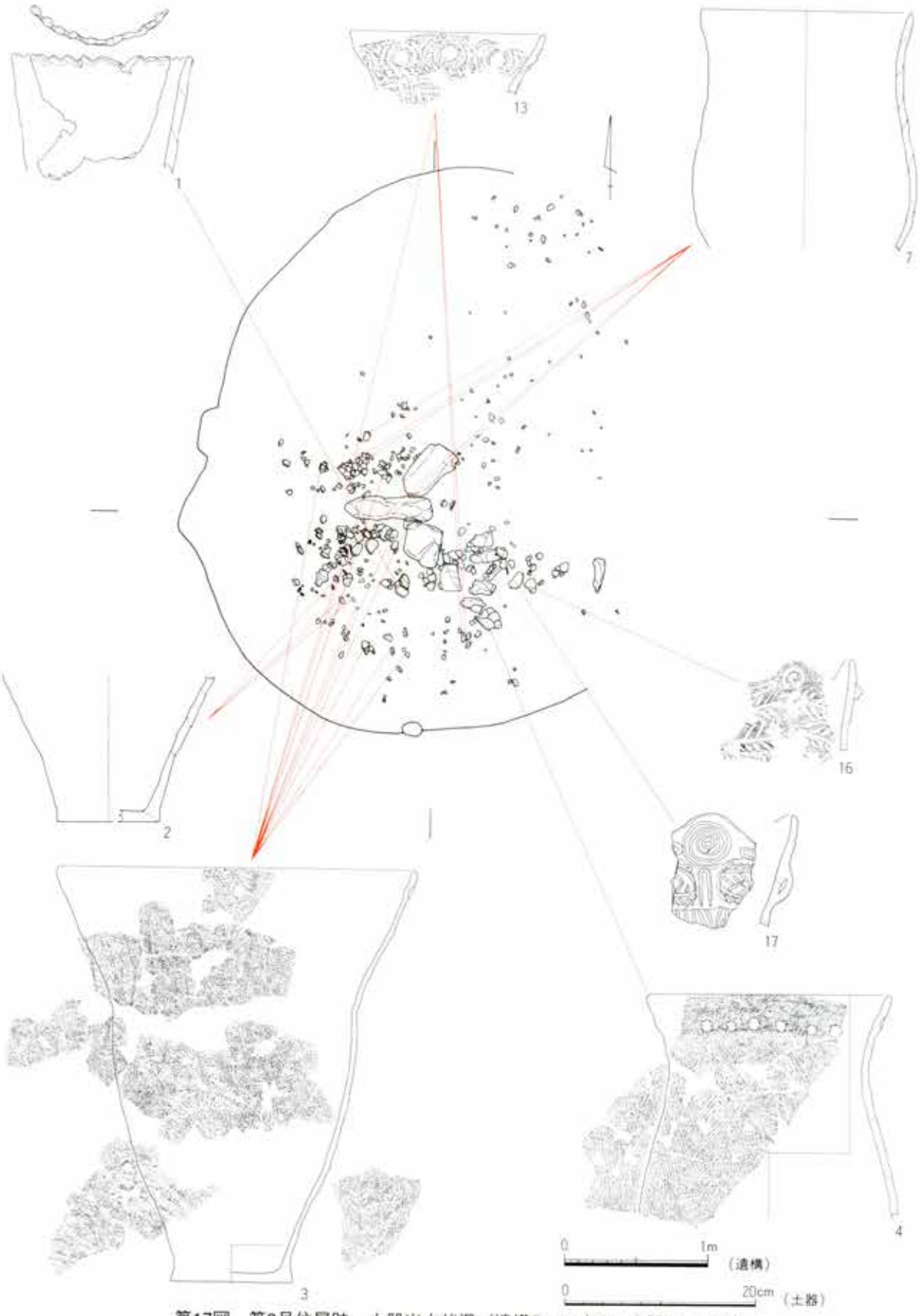
Ｐ３より出土の土器８（第４章第61図　以下出土土器は第４章参照）は、Ｃ－４群に含まれ、船元Ⅲ式に比定できる。覆土中からも同じ船元Ⅲ式に比定できる９が出土している。10はＣ－７群に、11はＣ－６群に、３～７・12～38はＣ－８群に比定できる。覆土中出土土器の主体はＣ－８群の中期末葉に比定できる土器と考える。とくに残存率の高い土器は中期末葉～後期初頭にさしかかる時期に存在したと考えられる土器型式である。

時期　炉内土器・埋甕等、床面設置の土器等が確認できなかったため正確な判断はできない。わずかに柱穴から出土した土器片および覆土出土土器の状況から、本住居が使用された時期は中期中葉頃と考えられ、廃絶後、中期末葉の時期に土器が投棄されたと考える。

遺構上層から集中して出土した炭化物のＣ14年代測定から4,050±110yrBP(PLD439)、下層床面直上から集中して出土した炭化物から4,090±100yrBP(PLD438）という分析結果が出ている。出土遺物および出土状況、また炭化物による分析から、本遺構の時期は中期中葉と考えられる。



第16図　第2号住居跡（S＝1／40）

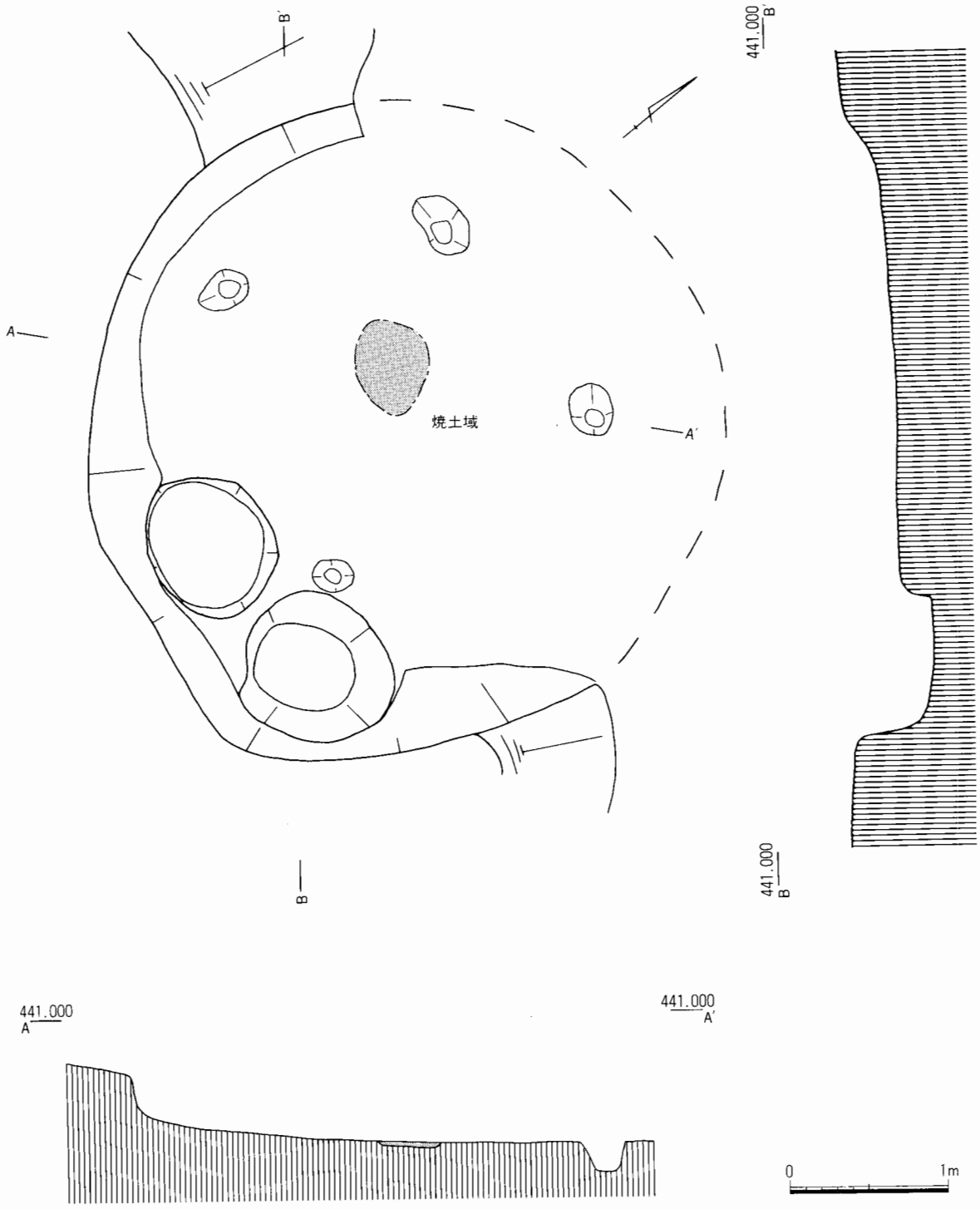


第17図　第2号住居跡　土器出土状況（遺構S＝1／40、土器S＝1／6）

３．第３号住居跡（ＳＢ３）　第18図　図版４

位置・立地状況　第５地区中央部28ｂグリッドにて検出した。ＳＢ２の南西部、山側へ上がった隣接区に立地する。ＳＢ２とは比高差1.13ｍを測る。焼土域を取り囲む形で４基の柱穴を検出したこと、南西側の壁面の立ち上がり、さらに遺物の出土量から竪穴住居跡と認定した。

平面形・規模　北部は削平のため欠損している。確認できる部分から4.1ｍ×4.0ｍの円形プランをも



第18図　第3号住居跡（S＝1／40）

っていたと推定する。床面積は12.1㎡（推定）。長軸方向はN－26°－W。

覆土　覆土は暗褐色土～にぶい黄褐色土が主体であり、床面の土層に近い土色・土質を呈していた。山側の壁土の崩落、または上流部の土砂の流入が考えられる。

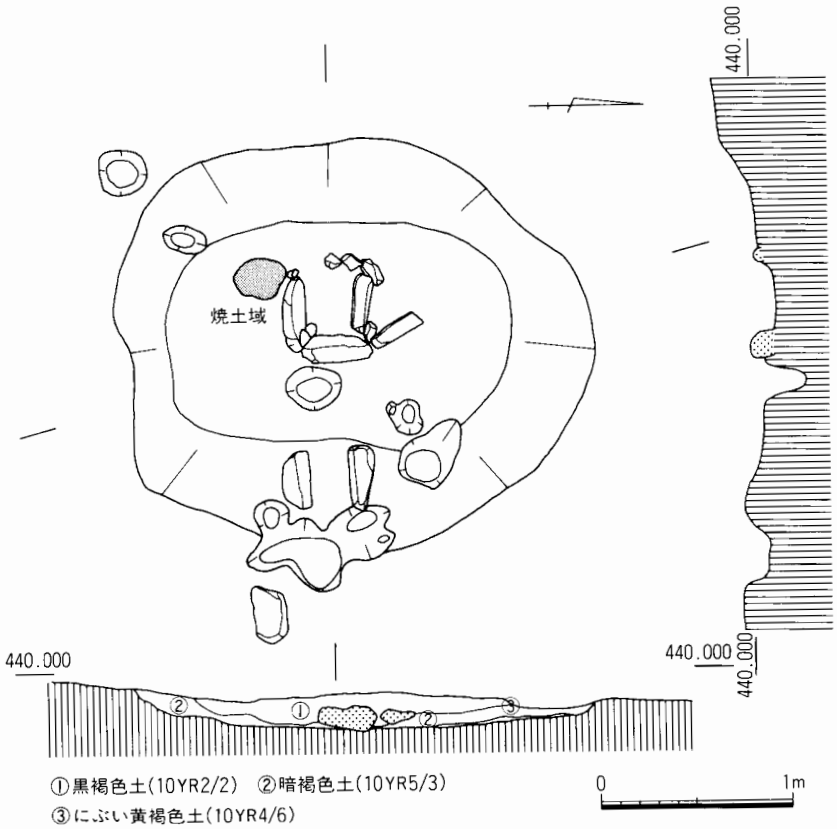
床面・壁　床面はしまりのある土質であるが硬化はみられない。地山を利用したことが想定できる。地山を壁とし、壁高はＳＢ１に類似し山側で深く0.48mを測る。傾斜角度は約80°。谷側は削平のため欠損しているが立地面の傾斜から推定すると構築当時からすでに浅かったと思われる。

柱穴　内部にＰ１～４の４基を確認し主柱穴と考える。Ｐ１は0.32×0.22m深さ0.38m、Ｐ２は0.26×0.1m深さ0.34m、Ｐ３は0.32×0.28m深さ0.40m、Ｐ４は0.44×0.28m深さ0.39mである。

炉　中央部北寄りに焼土域（明赤褐色土2.5YR5/8）をもつが、焼土域周辺床面には掘り込み等石囲炉を思わせる痕跡はない。また南部に２基の土坑を含むが、土坑からの出土物はない。

出土遺物　覆土から縄文土器109点、石器が５点出土した。縄文土器（第62図39～48）は39～43がＣ－６群に、44・45はＣ－７群に、46～48はＣ－８群に属し、中期中葉から後葉の時期を想定できる資料である。

時期　床面付近から出土した炭化物のＣ14年代測定から、4,380±110yrBP（PLD436）と出ている。また覆土中からの出土ではあるが出土遺物の主体からこの遺構の時期は中期中葉から後葉以前と考える。



第19図　第4号住居跡（S＝1／40）

４．第４号住居跡（ＳＢ４）

第19図　図版４・５

位置・立地状況　第５地区中央部29ａグリッドにて検出した。規模が小さく、当初は用途不明遺構とし調査を進めたが、石囲炉およびそれを囲む柱穴の存在、覆土と掘り込みの状況から竪穴住居跡と認定した。規模の小ささについては、本来の掘方が検出時よりも上層にあったことが考えられ、田面開墾時に上部が削除されたと推定する。ＳＢ２の南隣に位置する。ＳＢ２と同じく西からの傾斜が比較的緩やかになった傾斜地に立地する。

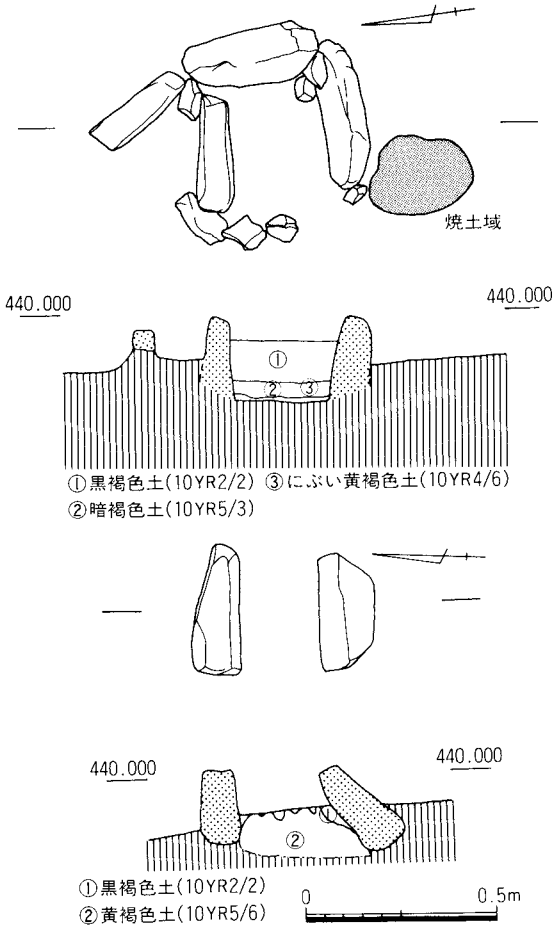
平面形・規模　2.4×2.2mの楕円形プラン。床面積は1.45㎡。長軸方向はN－22°－E。

覆土　覆土上層に黒色土が中央部に厚く堆積し、下層に黒褐色土が壁面に向かって厚く堆積する。

床面・壁　床面は擂鉢状に彎曲する。硬化はみられず地山を利用している。地山を壁とし、壁高約0.13m、傾斜角度約30°、床面と壁との明らかな境はなく緩やかに立ち上がる。

柱穴　内部にＰ１～４、肩部にＰ５、外部にＰ６、計６基を確認している。

Ｐ１は0.22×0.14m深さ0.23m、Ｐ２は0.3×0.24m深さ0.27m、Ｐ３は0.2×0.14m深さ0.13m、Ｐ４は0.38×0.28m深さ0.37m、Ｐ５は0.7×0.36m深さ0.13m、Ｐ６は0.26×0.26深さ0.15mである。



第20図　第4号住居跡　炉跡（S＝1／20）

炉（第20図　図版５）中央に0.57×0.47mの方形プランをもつ石囲炉を検出した。西側一方を除き、三方を花こう岩亜角礫で囲む。西側は拳大の礫が３個並ぶのみである。石囲炉の南東側に隣接して焼土域を検出した。また石囲炉東0.48mに石囲炉と方向を同じくして花こう岩亜角礫が２つ配置された配石を検出した。住居の建て替えによる炉の移動の可能性も考えながら精査したが、掘り込みはなく石の抜き取り痕も確認できなかったため、用途は不明である。

出土遺物（第62図49～51）

覆土中出土である。いずれもＣ－８群に属する。

時期　中期末葉以前と考える。

５．第５号住居跡（ＳＢ５）第21図　図版５

位置・立地状況　第５地区中央東より34Ｙ－35Ｙグリッドにて検出した。表土を除去した時点で地山面が一部表出した地域にプランを検出した。

平面形・規模　北部は削平と試掘トレンチによって不明確だが、南部から西部にわたって掘方が確認できた。3.7×2.8mの楕円形プラン、床面積7.3m²と推定する。長軸方向Ｎ－73°－Ｅ。

覆土　ほぼ全面にわたって暗褐色土が薄く堆積する。

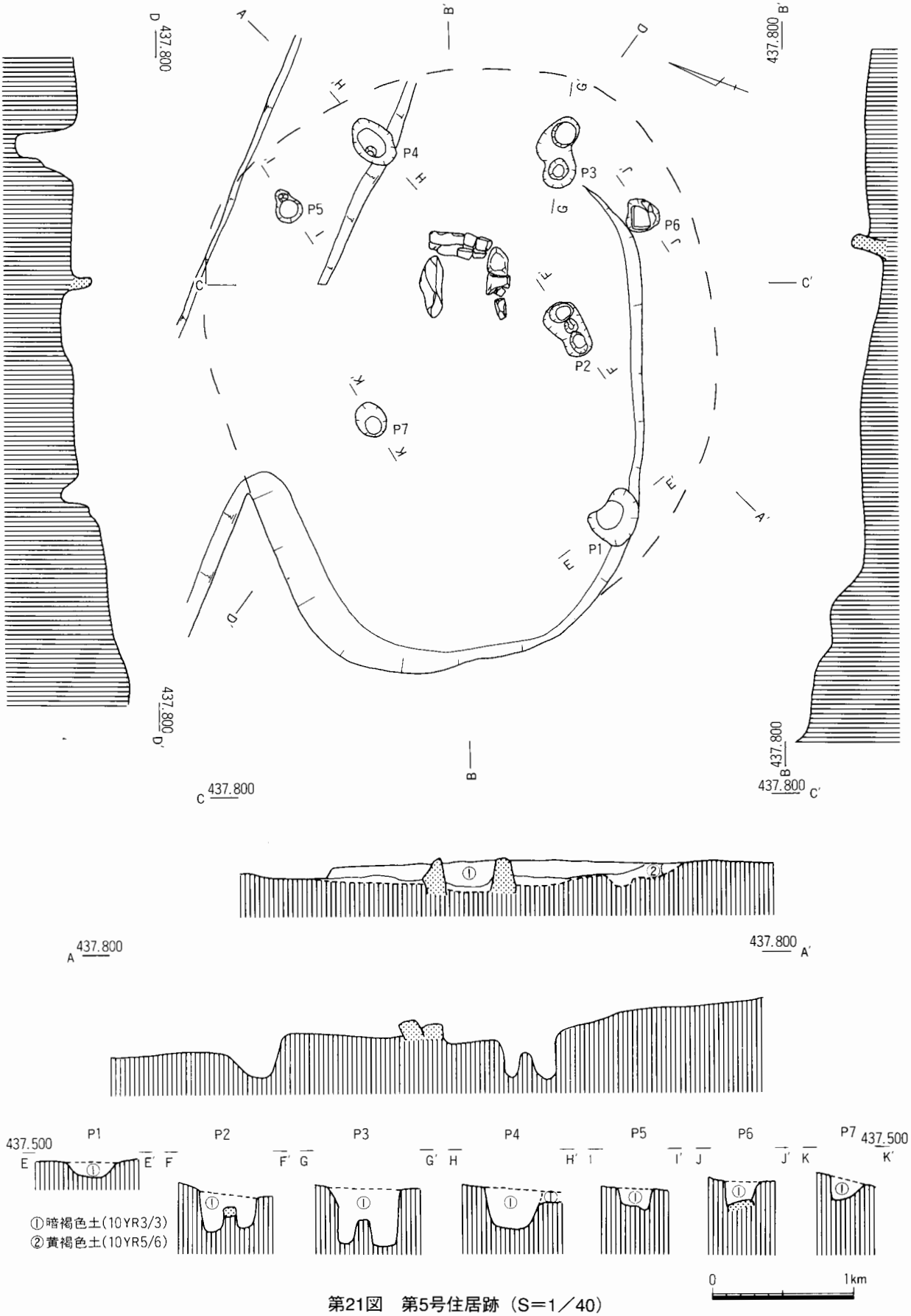
柱穴　Ｐ１～Ｐ７を検出した。Ｐ１は0.36×0.28m深さ0.11m、Ｐ２は0.4×0.24m深さ0.28m、Ｐ３は0.52×0.24m深さ0.42m、Ｐ４は0.4×0.24m深さ0.29m、Ｐ５は0.24×0.2m深さ0.13m、Ｐ６は0.24×0.28m深さ0.14m、Ｐ７は0.28×0.2m深さ0.16mである。

炉　中央部に0.64×0.68mの方形プランをもつ石囲炉を検出した。西壁・東壁は花こう岩で風化が激しく残りが悪い。炉の東側に焼土を検出した。

出土遺物（第62図52～54）

いずれの土器もＣ－８群に属する。

時期　中期末葉以前と考える。

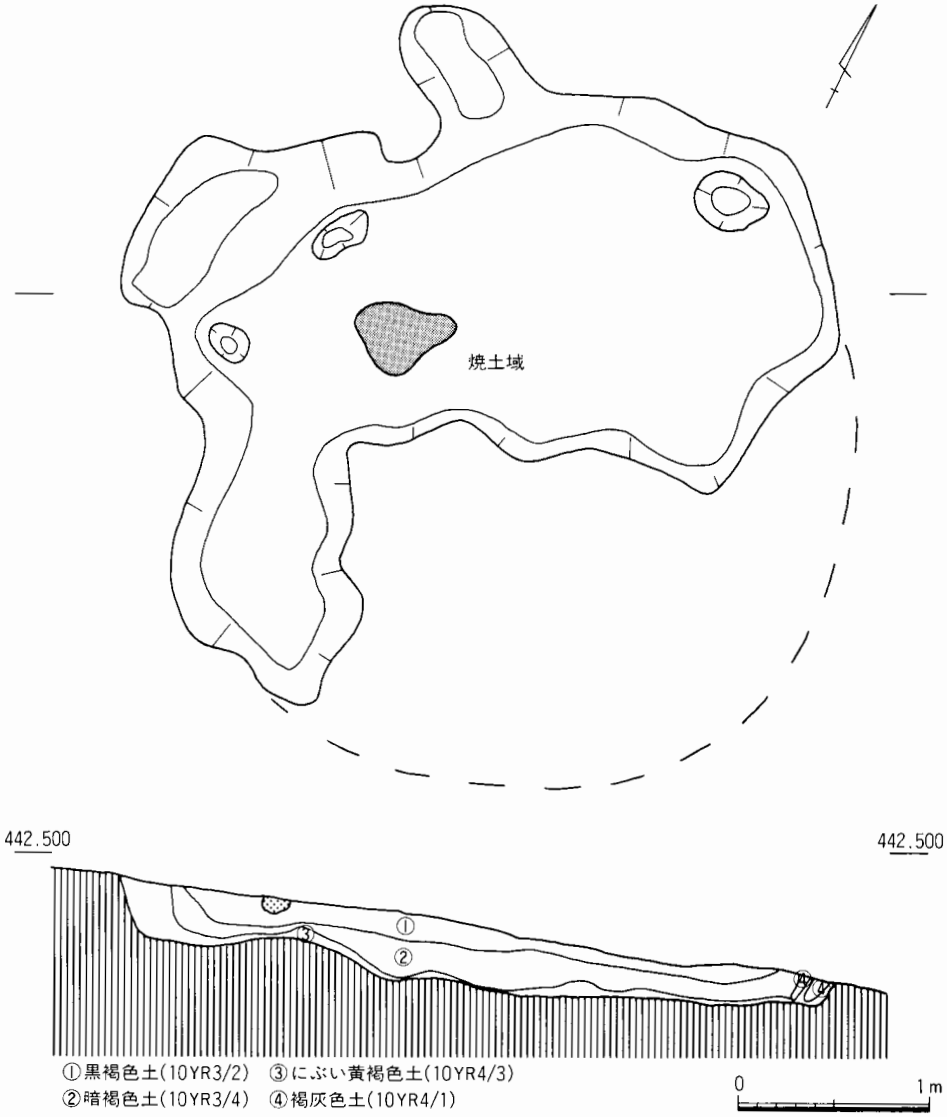


第21図　第5号住居跡（S＝1／40）

６．第６号住居跡（ＳＢ６）　第22図　図版５

位置・立地状況 第５地区南西部26ｅグリッドにて検出した。

平面形・規模 3.5×1.6mの不定形プランを呈するが、比較的遺存状態のよい北側の壁面から、構築当初は４ｍ前後の円形プランであったと想定できる床面積11.3㎡、長軸方向はＮ－48°－Ｅ。



第22図　第6号住居跡（S=1／40）

覆土 黄褐色土層の床面ににぶい黄褐色土、暗褐色土、黒褐色土の順に堆積する。

床面・壁 床面はしまりのある黄褐色土（地山）を利用するが硬化はみられない。壁高山側最深部0.52ｍ、傾斜角度約78°。床面同様地山を利用している。

柱穴 Ｐ１～３の３基を確認した。Ｐ１は0.24×0.18ｍ深さ0.35ｍ、Ｐ２は0.26×0.2ｍ深さ0.38ｍ、Ｐ３は0.4×0.28ｍ深さ0.36ｍである。

炉 中央部にて焼土域を検出した。焼土域周辺に石の抜き取り痕は確認できなかった。

出土遺物（第62図55～57）　Ｃ－６群およびＣ－８群の土器が出土している。

時期 遺構内より検出した炭化物によるＣ14年代測定により4,100±100yrBP（PLD440）と分析結果が出ている。また覆土より出土した遺物から、本遺構の時期は少なくとも里木Ⅱ式並行期以降中期末葉までと考える。

７．第７号住居跡（ＳＢ７）　第23図　図版５

位置・立地状況 第５地区南部30ｄグリッドにて検出した。

平面形・規模 3.9×3.7ｍの不整円形プラン。床面積6.2㎡、長軸方向はＮ－23°－Ｗ。

覆土 床面と同じ土質をもつ層がまず遺構壁面から入り込み、さらに暗褐色土、黒褐色土が堆積する。

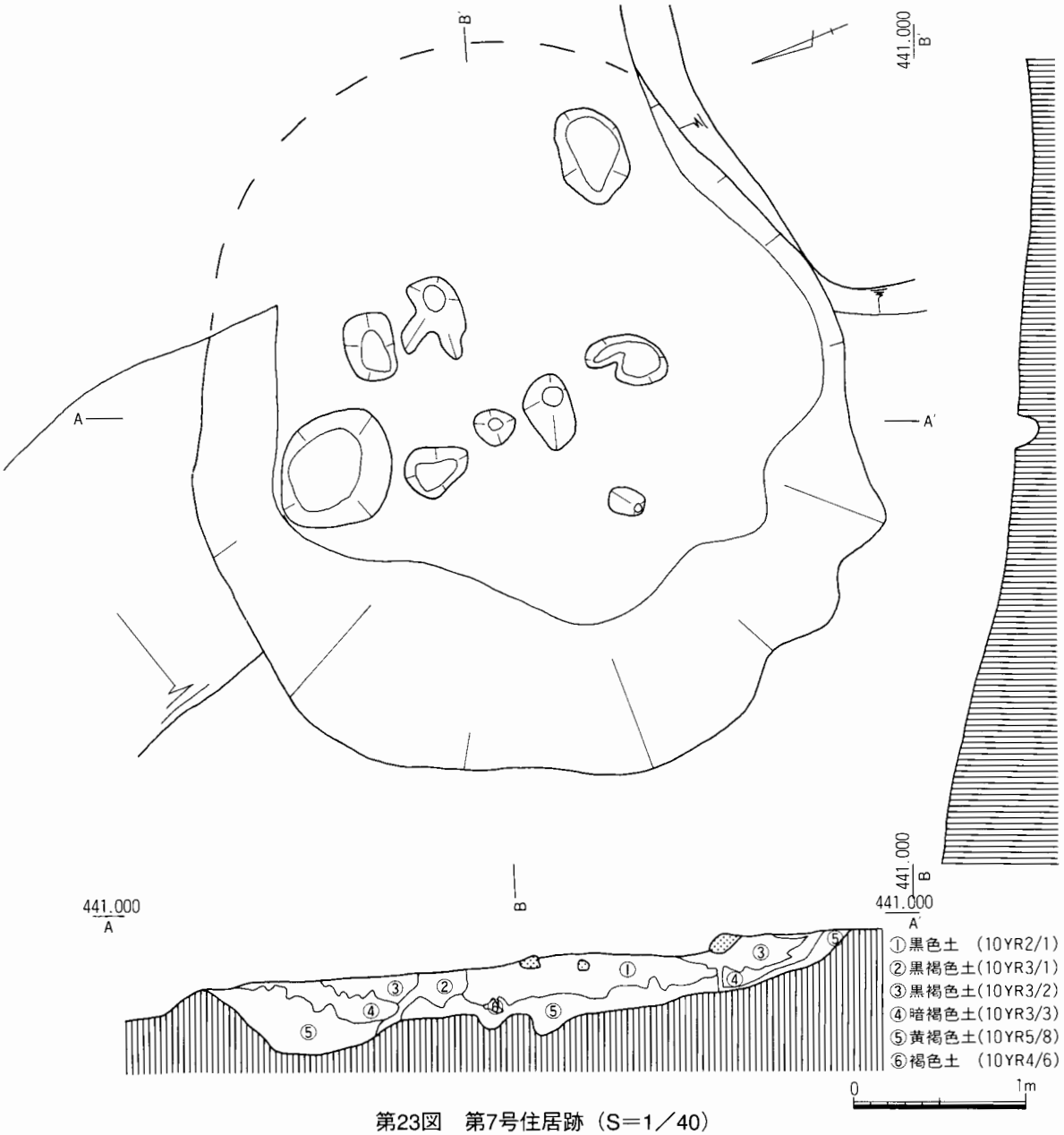
炉　無し。

床面・壁　床面の硬化はみられない。地山面にしまりがある。壁高0.4m、傾斜角度17°と非常に緩やかな立ち上がりをみせるが、構築当初の壁面の崩落によることも考えられる。

柱穴　Ｐ１～８を検出した。Ｐ１は0.76×0.68m深さ0.45m、Ｐ２は0.4×0.8m深さ0.35m、Ｐ３は0.24×0.25m深さ0.26m、Ｐ４は0.44×0.32m深さ0.35m、Ｐ５は0.48×0.32m深さ0.33m、Ｐ６は0.4×0.32m深さ0.28m、Ｐ７は0.52×0.32m深さ0.2m、Ｐ８は0.6×0.36m深さ0.48mである。

出土遺物　覆土中よりＣ－６群・Ｃ－８群土器（第63図58～79）が出土している。

時期　覆土中から出土した炭化物によるＣ14年代測定により4,170±110yrBP(PLD442）と出ている。また覆土から出土した遺物からこの遺構の時期は中期中葉～後葉以前と考えられる。



第23図　第7号住居跡（S＝1／40）

第４節　集石遺構（ＳＩ）

集石遺構は、16基検出した。

第１地区　２基　ＳＩ１・ＳＩ２　　第２地区　９基　ＳＩ３～ＳＩ11

第３地区　２基　ＳＩ12・ＳＩ13　　第５地区　３基　ＳＩ14～ＳＩ16

礫の充填形態・掘り込みの状況によって２つに分類する。

１類．掘り込みをもたず、表面に礫が平面的に集中するもの。

ＳＩ６・ＳＩ９・ＳＩ14・ＳＩ16

２類．土坑状の掘り込みをもち、その上面および中位に礫を充填するもの。

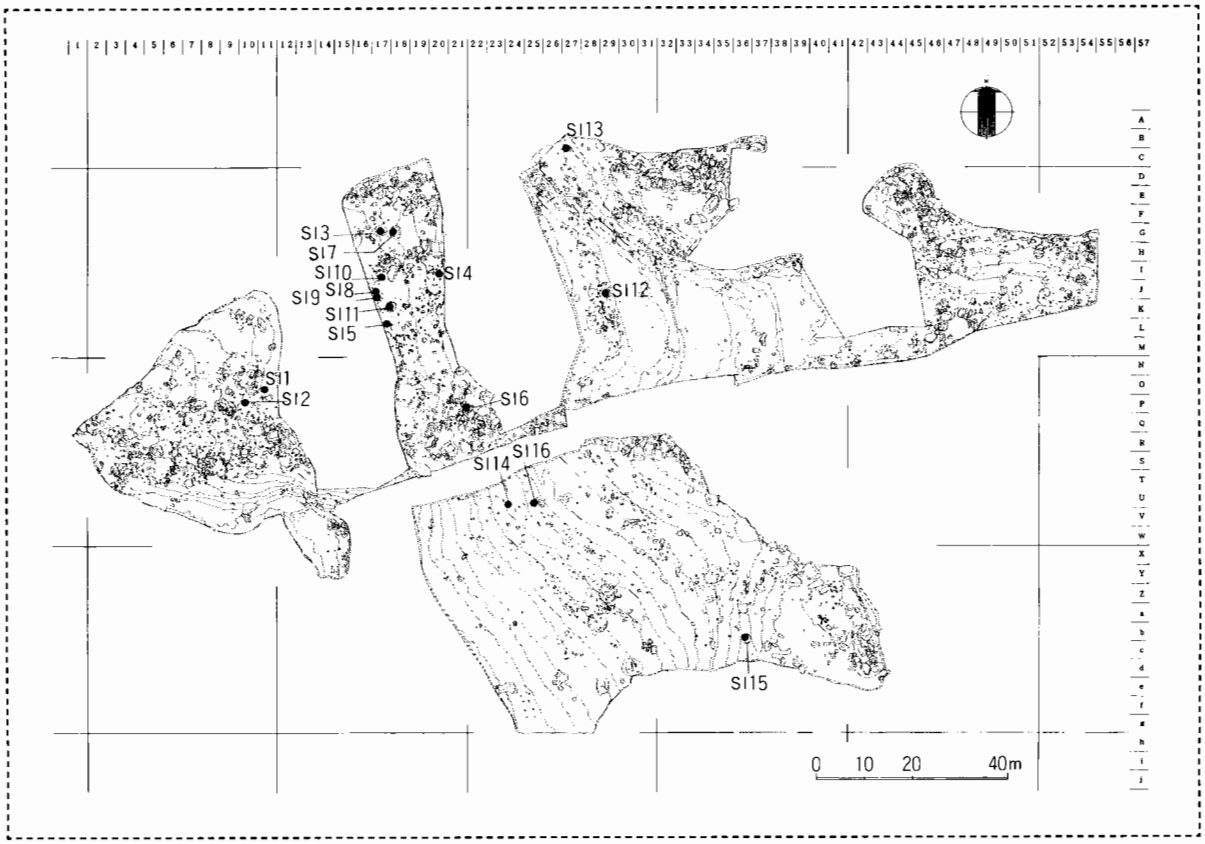
ＳＩ１～ＳＩ５・ＳＩ７・ＳＩ８・ＳＩ10～ＳＩ13・ＳＩ15

２類の中でも、礫の充填状況が密なものと疎のものがあり、礫の大きさもそれぞれ違いが若干認められる。

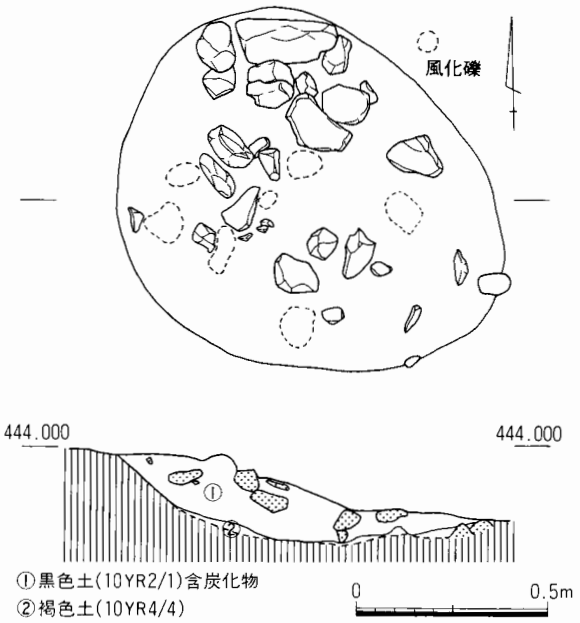
集石遺構に使用されている礫について第39図～第43図にまとめたが、花こう岩が比較的多く混入している。熱や水等の影響で破砕しやすい石材と考えるが、多用していることに特徴を見る。遺跡自体が花こう岩帯に存在することがその要因のひとつと考える。

ＳＩ１・ＳＩ３・ＳＩ４・ＳＩ７・ＳＩ15からは、炭化物が出土しＣ14年代測定分析を行った。

伴出した土器は少なく、また全体的に残存状況が悪いため、各遺構の時期を確定することは困難であるが、Ｃ14年代測定分析の結果、および周囲の状況などから推定した。



第24図　集石遺構位置図（S＝1／1,600）



第25図　第1号集石遺構（S＝1／20）

１．第１号集石遺構（ＳＩ１）第25図　図版６

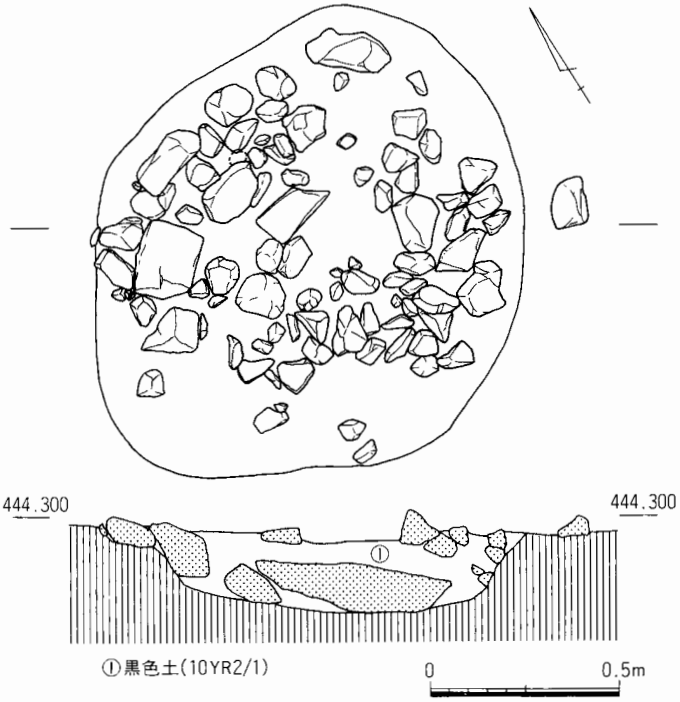
位置・検出状況　第１地区東部11Ｏグリッドにて検出した。包含層を除去し遺構面にさしかかったあたりで礫の集中を検出した。

形態・規模　Ｖ層遺構面を掘り込んだ浅い土坑内に礫が入り込む。土坑の規模は1.1×0.9m深さ約0.2mである。長軸方向はＮ－48°－Ｗ。また最上面の礫の広がりは0.9×0.78m、土坑の広がり内に収まる。礫は72個、亜角礫が多く、数cm～28cm程度のものまで様々な形状の礫が入る。石材は主に花こう岩、花こう閃緑岩、砂岩である。

堆積状況　土坑内の覆土は黒色土・褐色土の２層である。主に黒色土層全域にわたって炭化物を含む。

出土遺物　なし。

時期　覆土内に含まれた炭化物のＣ14年代測定によって8,260±170yrBP（PLD312）と出ている。伴出遺物がないため断定できないがおおよそ早期中葉の時期のものと推定する。



第26図　第2号集石遺構（S＝1／20）

２．第２号集石遺構（ＳＩ２）
第26図　図版６

位置・検出状況　第１地区中央東寄り10Ｐグリッドにて検出した。

形態・規模　Ⅳ層黒褐色土中に礫の集中と浅い掘り込みを確認した。土坑の規模は1.3×1.1m深さ0.2m、長軸方向はＮ－63°－Ｅ。最上面の礫の広がりは1.1×1.0m、土坑の広がり内に収まる。礫は276個、角礫、亜角礫が多く、数cm～24cm程度のものまで入る。石材は主に花こう岩、花こう閃緑岩、砂岩である。

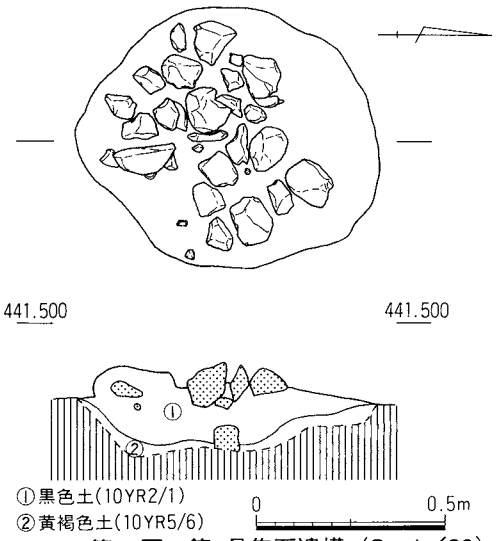
堆積状況　土坑内の覆土はほとんど黒色土である。炭化物検出なし。

出土遺物　なし。

時期　不明。検出した遺構面の高さ、および同地区から検出したＳＩ１との遺構形状等の類似性から早期中葉と推測するが断定できない。

３．第３号集石遺構（ＳＩ３）　第27図　図版６

位置・検出状況　第２地区北寄り17Gグリッドにて検出した。北東側0.5mにＳＩ６に隣接する。



第27図　第3号集石遺構（S＝1／20）

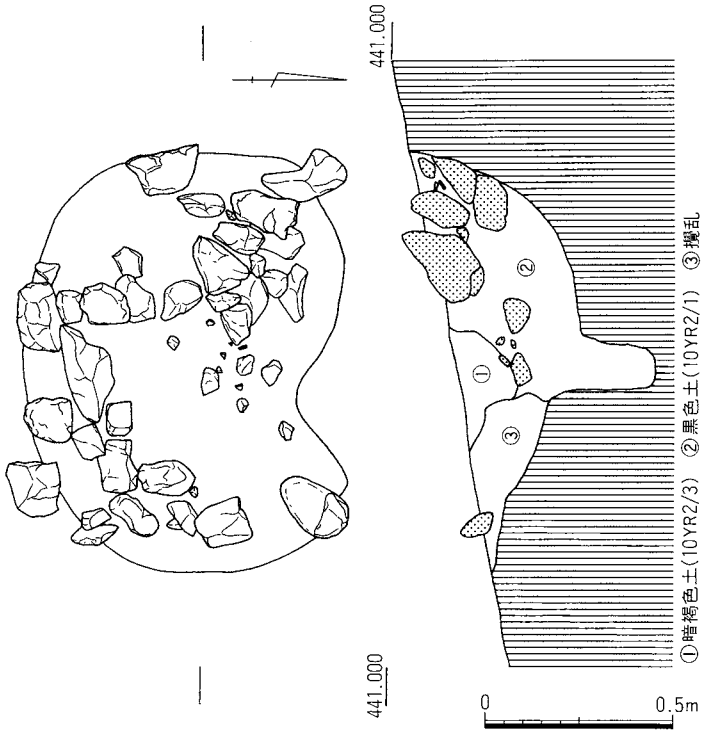
形態・規模　0.8×0.7mのほぼ円形を呈する土坑のなかに礫が充填される。深さ0.2mと浅い。最上面の礫の広がりは0.6×0.5m、土坑内に収まる。礫は57個、亜角礫が多く10cm弱～16cmと比較的大きさが揃っている。石材は、花こう岩、花こう閃緑岩が多くアプライトが若干入る。

堆積状況　土坑内の覆土は黒色土～黒褐色土が堆積する。炭化物を含む。

出土遺物　縄文土器８点、石器１点出土した。土器のほとんどが無文である。

時期　覆土中の遺物からは、幅の狭い凹線が２条入る土器が１点のみで他はすべて無文であるため時期は特定できないが、伴出した炭化物によるＣ14年代測定の結果6,440±130yrBP（PLD329）と出ており、早期後葉ごろと推定する。

４．第４号集石遺構（ＳＩ４）　第28図　図版６



第28図　第4号集石遺構（S＝1／20）

位置・検出状況　第２地区20Ｉグリッドにて検出した。

形態・規模　1.1×0.8mの不整楕円形を呈する土坑に、最上面のほぼ全域にわたって礫が集中する。深さ0.53m、中央部のみ深く掘り込まれる。平面の礫検出状況からは北部を除き、囲うように配置されているかのようにも観察できる。焼土はない。礫は118個、ほとんどが15～20cm程の亜角礫、角礫である。石材は花こう岩、花こう閃緑岩、砂岩が多い。

堆積状況　土坑内の覆土は暗褐色土・褐色土が堆積し東部は一部攪乱を受けている。

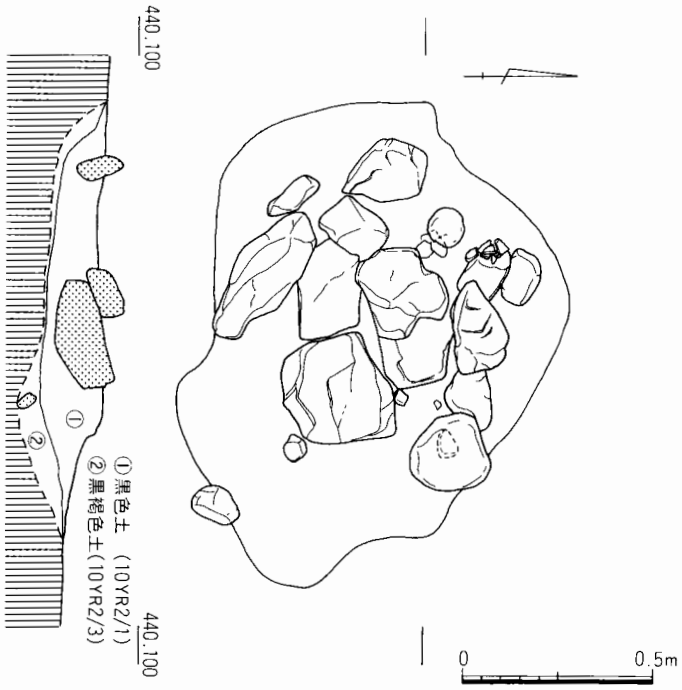
出土遺物　縄文土器25点、石器４点。

時期　覆土上層の土器は小片無文であるがほとんどが後期のものと思われる。また土坑底部から出土した炭化物のＣ14年代測定から6,960±120yrBP（PLD313）と出ている。早期後葉の遺構と推定し、遺物は流入と考える。

５．第５号集石遺構（ＳＩ５）　第29図　図版７

位置・検出状況　第２地区西端17Ｌグリッドにて検出した。

形態・規模　1.3×0.9mの不整楕円形を呈する土坑内に0.9×0.8mの範囲にわたって礫が集中する。



第29図　第5号集石遺構（S＝1／20）

土坑内部にわたる礫の充填はみられない。礫は18個、15～30cmと比較的大きい角礫または亜角礫が入る。石材は花こう岩、花こう閃緑岩が主体をなす。

堆積状況　土坑内の覆土は黒色土が主体をなし、底部付近に若干の黒褐色土が堆積する。炭化物は採取できるほどのものは出土しなかった。

出土遺物　縄文土器101点出土。無文土器が多いが、K－4群、K－7群土器が出土している。石器は1点出土している。

時期　伴出遺物から後期中葉と考える。

6．第6号集石遺構（SI6）

第30図　図版7

位置・検出状況　第2地区南東部21P～22Pグリッドに、多量の縄文土器片を伴って検出された。

第30図　第6号集石遺構（S＝1／20）

形態・規模　Ⅲ層黒色土中に1.5×1mの範囲にわたって礫が散布していた。土坑はない。また周辺からは多量の縄文土器片が出土した。礫の集積状況は、検出時の遺構最上面に散布した状態で出土したのみで下層にかけての集積はみられなかった。礫は47個、数cm～16cm程の角礫、亜角礫がほとんどである。石材は花こう岩が圧倒的に多い。

堆積状況　黒色土が約0.3m堆積する。

出土遺物（第64図80～83）縄文土器477点出土。K－4群、K－7群、K－8群土器が出土している。

礫に伴う形で出土した土器の主体はＣ－７群に属する。

時期　集石周辺から採取した炭化物によるＣ14年代測定によると3,450±100yrBP（PLD314）と出ている。伴出した土器からも後期中葉の時期に設定できる。

第31図　第7号集石遺構（S＝1／20）

７．第７号集石遺構（ＳＩ７）第31図　図版7

位置・検出状況　第２地区北寄り17Gグリッドにて検出した。ＳＩ１の北東0.5mに位置する。

形態・規模　1.5×1.3mの楕円形プランの土坑内に深さ0.45mの遺構底部までに805個の礫が充填されていた。覆土中層に充填される礫が最も多く、表面はさほどでない。また下層にも礫は少なくなる。礫は８㎝～15㎝の角礫、亜角礫である。石材は花こう岩がもっとも多く、次いでアプライト、花こう閃緑岩、砂岩である。炭化物が付着した礫が目立ち、最下層に比較的大きめの炭化物を検出した。また同じく最下層の底に付着する状況で焼土を検出した。

堆積状況　土坑内の覆土は、黒色土１層で、多量の炭化物を含む。

出土遺物　縄文土器が12点出土した。覆土中の土器には、後期のものと思われる土器が３点あり、その他は無文である。

時期　遺構底部に付着して出土した炭化物のＣ14年代測定によると、6,170±130yrBP（PLD315）と出ている。遺構面の状況および遺構の形態から早期後葉と設定するのが妥当かと考える。覆土上層の遺物には、後期土器があるが、遺構使用後の混入ということが考えられる。検出位置の西上方に第１地区がありそこからは早期土器が出土しており、また第２地区の遺構周辺からも早期土器が数点出土している。

８．第８号集石遺構（ＳＩ８）　第32図　図版７

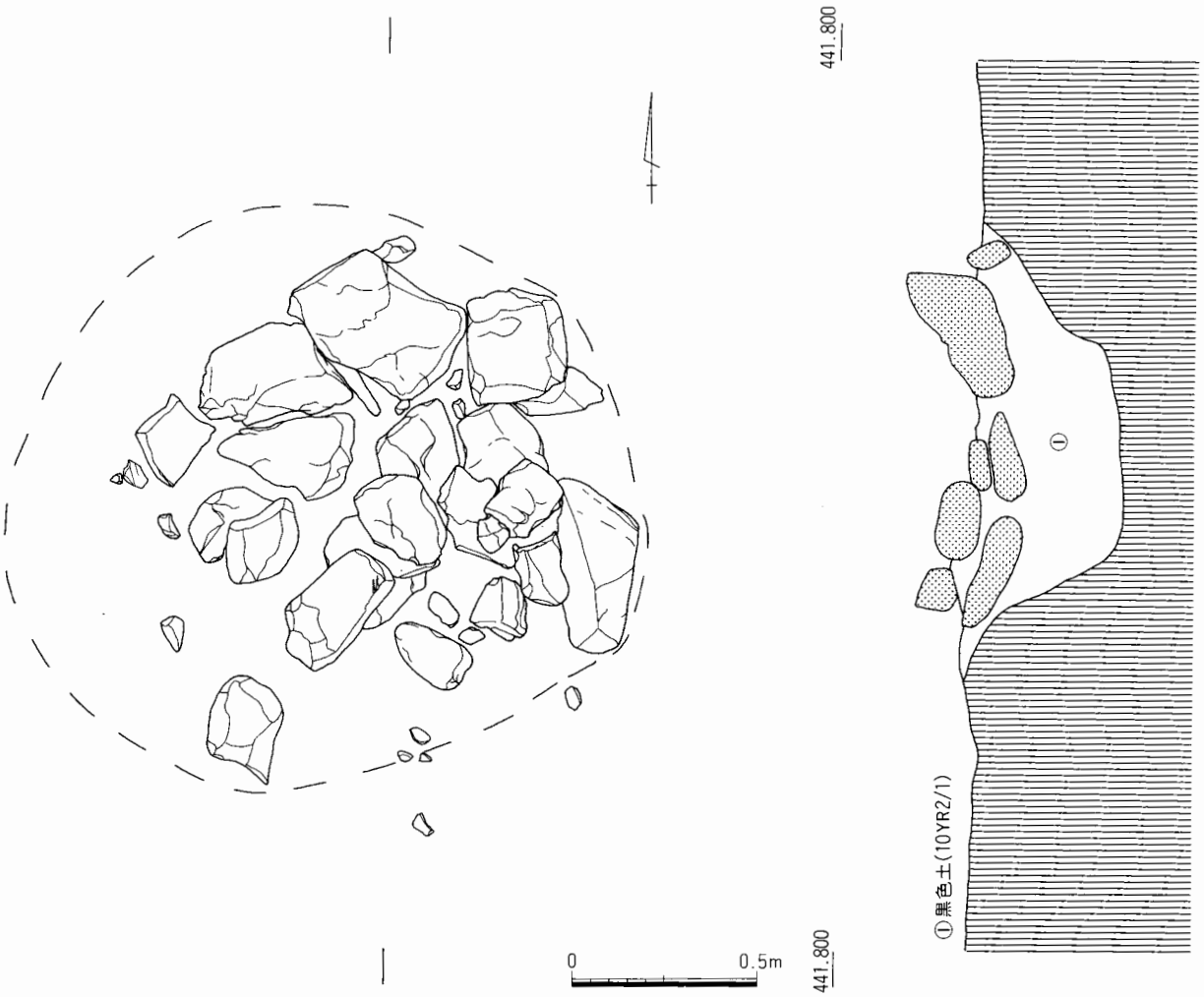
位置・検出状況　第２地区西部17Ｊグリッドにて検出した。南にＳＩ９が隣接する。

形態・規模　1.5×1.5mの円形プランをもつ土坑の最上面に礫が集中する状況で検出した。礫は32個、20㎝～40㎝大の礫が入る。石材は花こう岩がほとんどで、アプライト、花こう閃緑岩が若干入る。

堆積状況　黒色土が堆積するが、平面プランおよび土坑内の壁面は不明瞭である。

出土遺物　縄文土器が132点出土。土坑底部付近から磨消縄文をもつ土器が出土している。

時期　土坑底部直上の覆土内遺物から後期前半以前と考える。



第32図　第8号集石遺構（S＝1／20）

9．第9号集石遺構（ＳＩ９）　第33図　図版7

位置・検出状況　第2地区１７Ｊグリッドにて検出した。北にＳＩ８が隣接する。

形態・規模　2×1.6mの範囲にわたって礫が集中する状況で検出した。不明瞭ではあるが礫の周囲に楕円形を呈する範囲にわたって黒色土が入り込む状況を確認した。礫もほぼその範囲内に集中して散布しており、土坑と呼べるほどの深い掘り込みはない。礫は、8㎝～34㎝大の角礫、亜角礫である。石材は花こう岩、花こう閃緑岩が多く、砂岩、安山岩が若干入る。

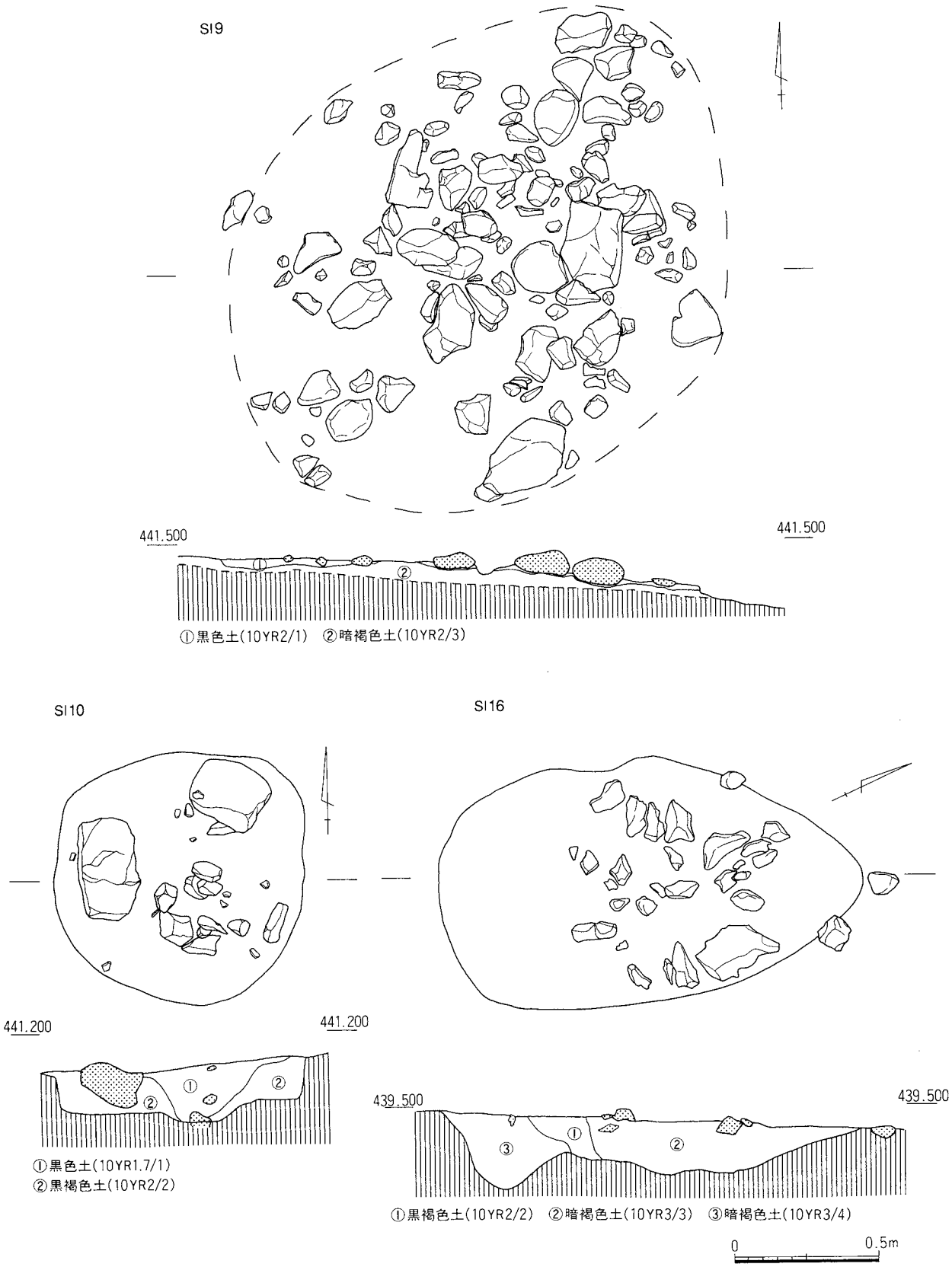
堆積状況　Ⅳ層暗褐色土面に礫が散布し礫周辺に黒色土が薄く堆積する。

出土遺物　縄文土器が27点出土しているが、すべて無文である。後期土器と推定する。

時期　不明。伴出土器と、周辺の遺構の状況、遺構面の状況などから後期と推定する。

10．第10号集石遺構（ＳＩ10）　第33図　図版8

位置・検出状況　第2地区17Ｋグリッドにて検出した。



第33図　第9・10・16号集石遺構（S＝1／20）

形態・規模　Ⅳ層暗褐色土を掘り込む浅い土坑に礫が入り込む。土坑の規模は0.9×0.9m深さ0.2mである。礫は11点、6㎝～25㎝程の亜角礫、亜円礫が入る。石材は、花こう岩、アプライトが主で、砂岩、安山岩が1個体ずつ入る。

堆積状況　土坑底部に黒褐色土が堆積し、さらに中央部を中心に黒色土が堆積する。

出土遺物　縄文土器が12点、1点船元Ⅰ式新段階のものが出土しているが、その他は後期の無文土器である。

時期　伴出遺物の主体から後期とする。船元式土器片は混入と判断する。

11．第11号集石遺構（ＳＩ11）　第34図　図版８

位置・検出状況　第２地区中央西部17Ｋグリッドにて検出した。

形態・規模　2.4×2.0mの範囲にわたって礫が散布する。不明瞭ではあるが、礫の集中部を囲んで掘り込みがみられる。礫と同時に92点の土器片が出土した。礫は299個、12㎝～22㎝大の角礫、亜角礫である。石材は花こう岩、アプライト、花こう閃緑岩が主体をなし、安山岩、砂岩が若干入る。

第34図　第11号集石遺構（S＝1／20）

堆積状況　土坑内の覆土は暗褐色土、黒褐色土が堆積するが、土坑底部付近に攪乱層が入る。

出土遺物（第64図84・85）縄文土器92点が出土しているが多くは無文。元住吉山Ⅰ式並行期土器の比較的大きい口縁部破片が出土した。

時期　伴出土器から後期中葉以前とする。

12．第12号集石遺構（ＳＩ12）　第35図　図版８

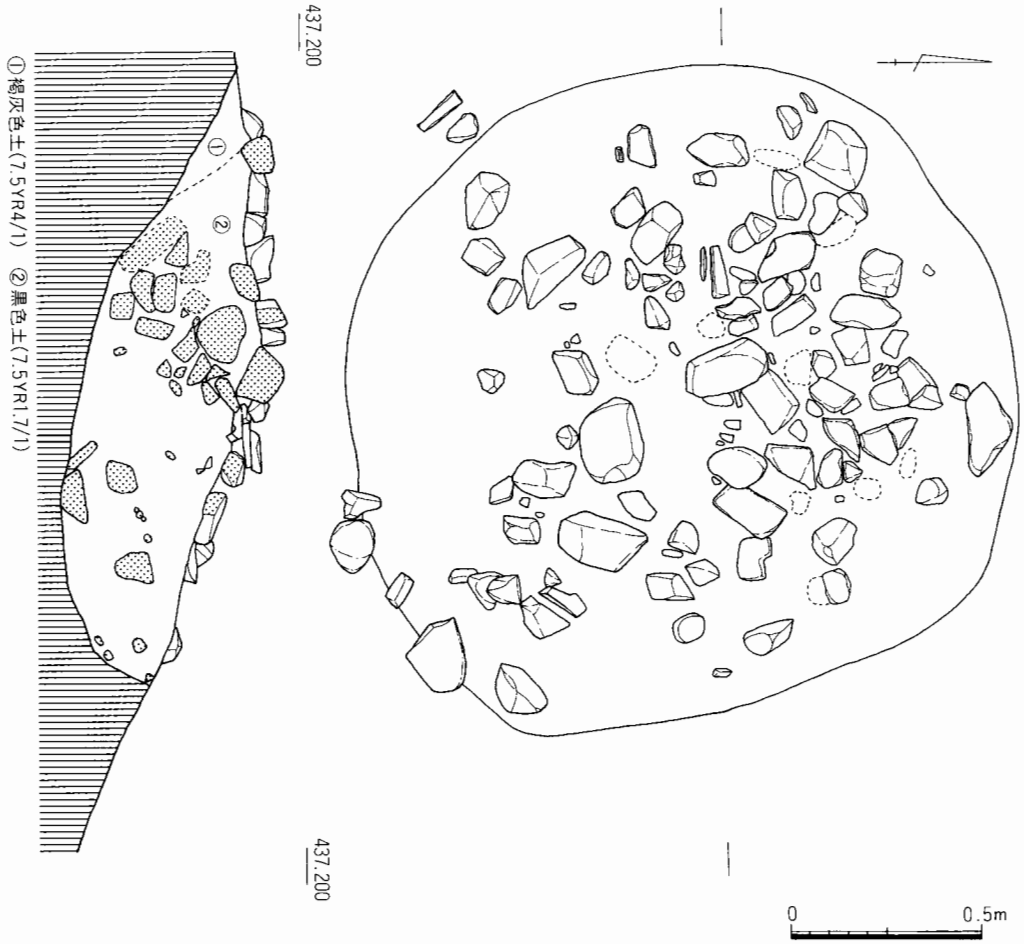
位置・検出状況　第３地区29Ｊグリッドにて検出した。

形態・規模　平面形1.6×1.6ｍの円形を呈する土坑に礫が集中して検出された。深さ0.4ｍの土坑底部にわたり礫が入り込む。礫は481個、14㎝～20㎝大の角礫、亜角礫である。石材はほとんどが花こう岩でアプライト、花こう閃緑岩、安山岩が若干入る。

堆積状況　土坑内の覆土は黒色土、褐灰色土が堆積する。

出土遺物　縄文土器２点が出土している。早期土器である。

時期　早期以降と考える。

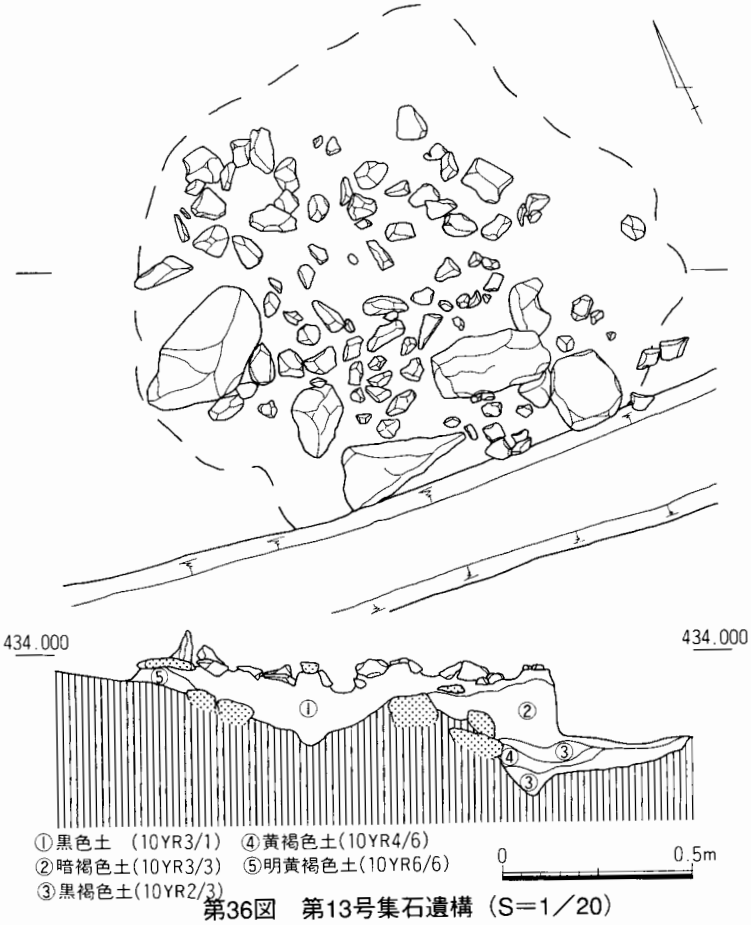


第35図　第12号集石遺構（S＝1／20）

13．第13号集石遺構（ＳＩ13）　第36図　図版８

位置・検出状況　第３地区北西部27Ｂグリッドにて検出した。

形態・規模　1.4×1.2ｍの不整楕円形の最上面に礫が散布する。掘り込みはない。礫は99点、10㎝～40㎝大の角礫、亜角礫である。石材は花こう岩を主体にし、アプライト、花こう閃緑岩が入る。



第36図　第13号集石遺構（S＝1／20）

第37図　第14号集石遺構（S＝1／20）

出土遺物　なし。

時期　不明。

堆積状況　土坑は伴わないが、礫の周辺に黒色土が薄く堆積し、攪乱部分も存在する。

出土遺物　なし。

時期　不明。

14. 第14号集石遺構（ＳＩ14）
第37図　図版8

位置・検出状況　第5地区中央北寄りの傾斜地24Ｕグリッドにて検出した。

形態・規模　1.4×0.9mの不定形プランをもつ土坑の最上面に礫が散布する。0.3mの浅い掘り込みをもつ。礫は51個、12㎝～24㎝程の亜角礫である。石材は花こう岩がほとんどでわずかにアプライト、花こう閃緑岩が入る。

堆積状況　土坑内の覆土は黒褐色土、褐色土が堆積する。少量の炭化物が混入する。

15. 第15号集石遺構（ＳＩ15）　第38図　図版８

位置・検出状況　第５地区中央南端36ｃグリッドにて検出した。かなり傾斜がきつい位置に立地する。

形態・規模　2.2×1.8ｍの不定形プランをもつ土坑の最上面に礫が散布する。土坑プランの外にも礫が散乱する状況で検出した。礫は62個、14㎝～28㎝大の角礫、亜角礫である。石材は花こう岩がほとんどで、アプライト、花こう閃緑岩が若干入る。

堆積状況　土坑内の覆土は、暗褐色土、黒褐色土が堆積する。黒褐色土内に炭化物が混入する。

出土遺物　縄文土器が２点出土した。どちらも小片無文で時期は不明である。

時期　土坑覆土中の炭化物のＣ14年代測定により7,160±150yrBP（PLD441）と出ている。早期中葉と推定する。

第38図　第15号集石遺構（S＝1／20）

16. 第16号集石遺構（ＳＩ16）　第33図　図版８

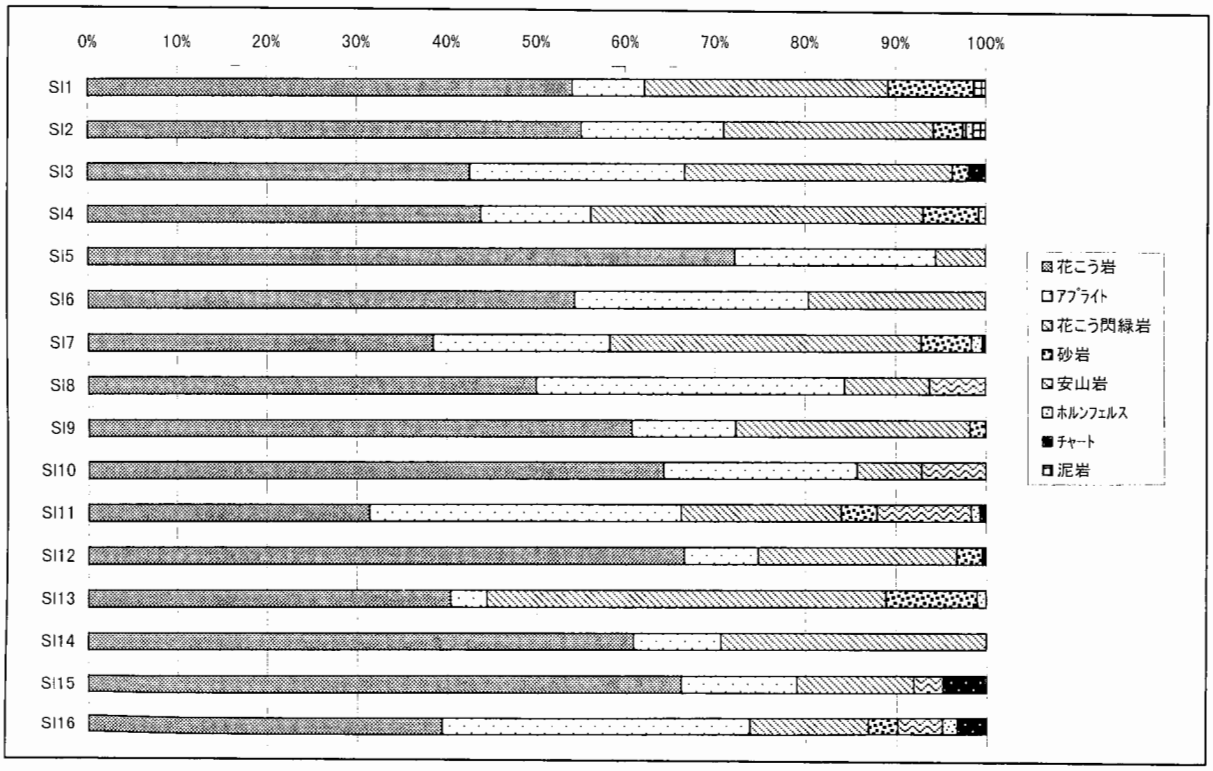
位置・検出状況　第５地区中央北寄り25Ｕグリッドにて検出した。

形態・規模　1.5×１ｍの不定形プランをもつ土坑の上部層に礫が含まれた状況で検出した。土坑の深さは0.4ｍを測る。礫は61個、８㎝～28㎝大の亜角礫がである。石材は、花こう岩、花こう閃緑岩、アプライトである。

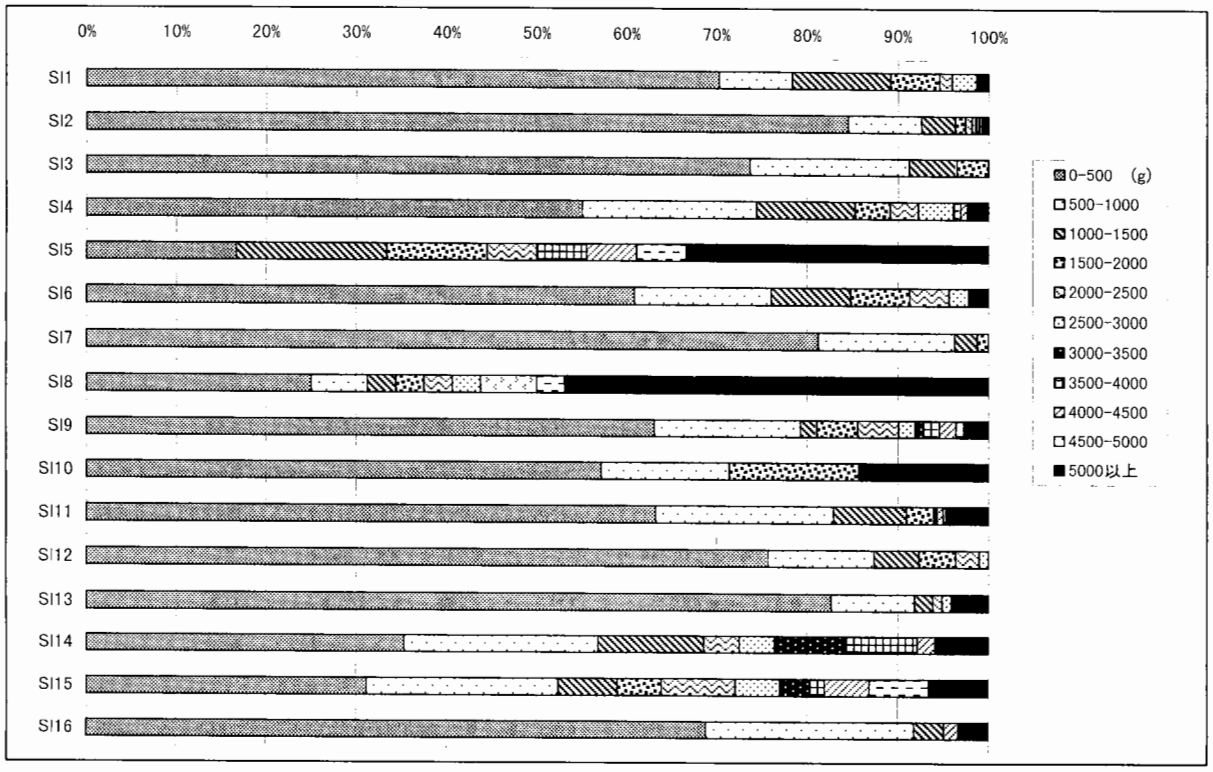
堆積状況　土坑内の覆土は、にぶい黄褐色土、暗褐色土、黒褐色土が堆積する。

出土遺物　縄文土器が2点出土した。どちらも無文小片のため時期不明である。

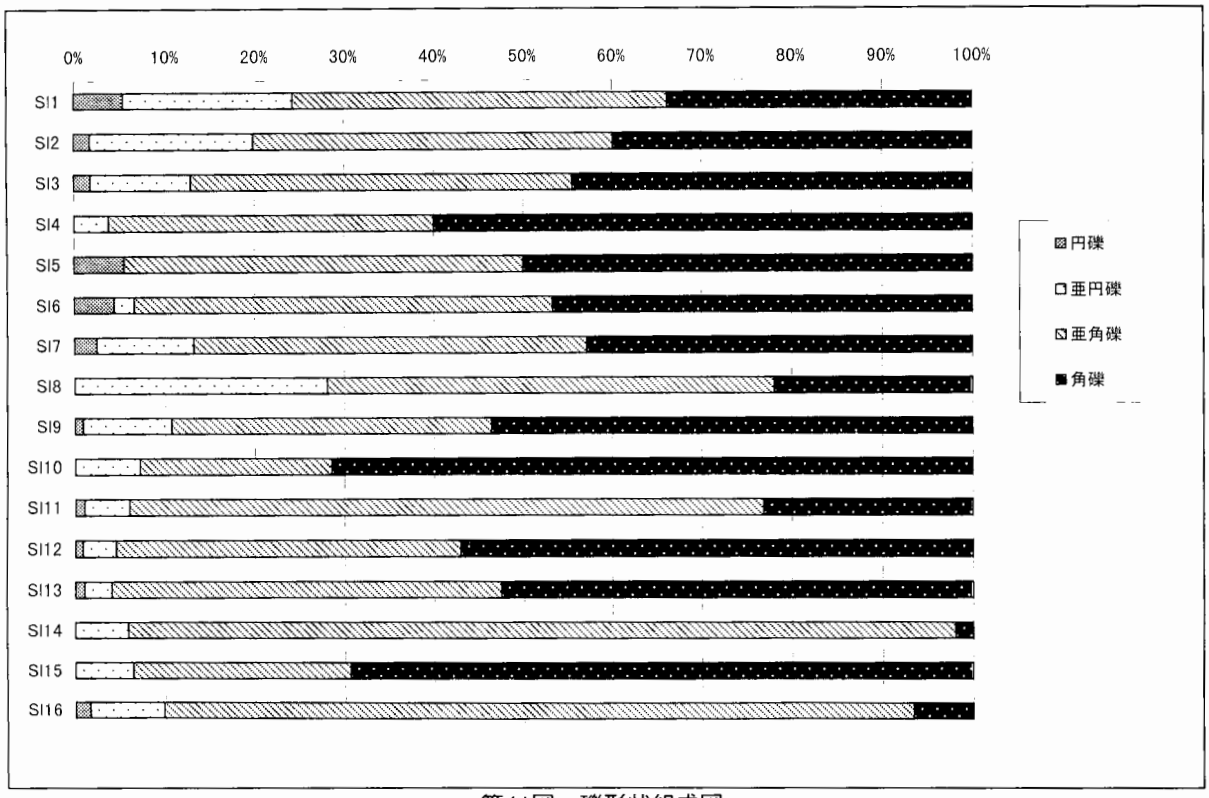
時期　不明。



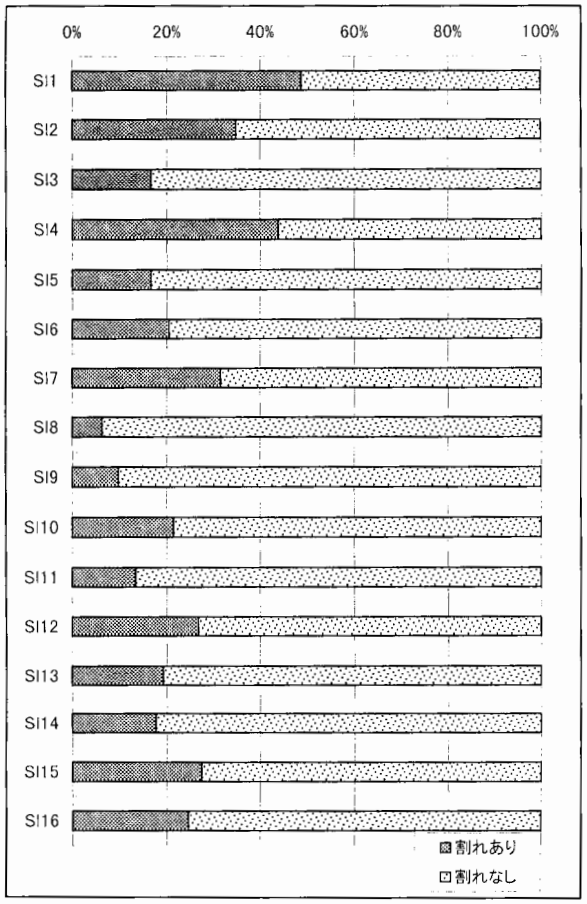
第39図　石材組成図



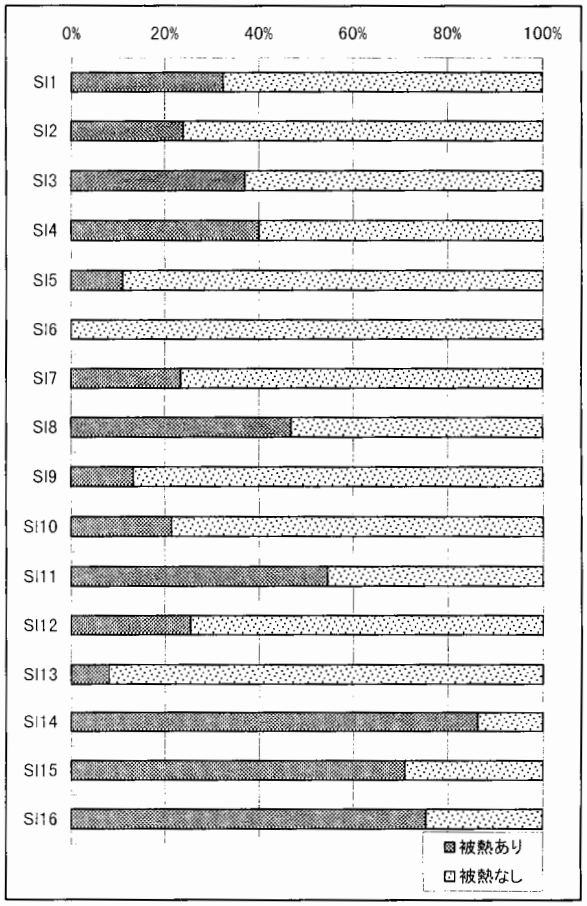
第40図　礫重量組成図



第41図　礫形状組成図



第42図　礫割裂組成図



第43図　礫被熱組成図

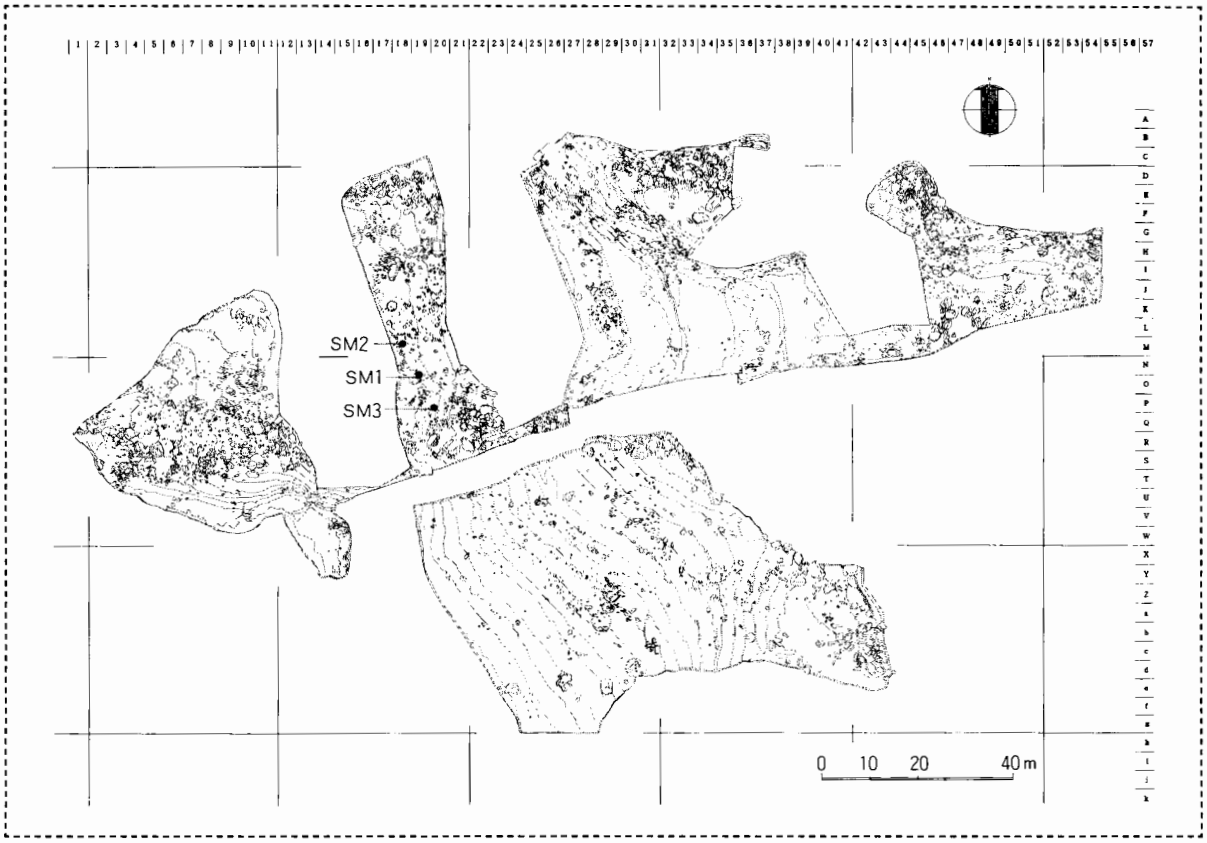
第5節　土器埋設遺構（ＳＭ）

土坑状の掘り込みをつくり、その内部に土器を設置し、何らかの目的があることが推定される遺構を土器埋設遺構とした。土器埋設遺構は、第２地区に３カ所検出した。第１号土器埋設遺構は、検出時は、後世の削平を受け掘り込みが確認できなかったが、おそらく設置時は現在より上層部から掘り込み、土器を設置したと考えられる。土器も底部に近い胴下部以下を検出し、それを取り囲む位置に礫が配置される状況を確認し、ここに含めた。第２号および第３号土器埋設遺構は、土坑状の掘り込みを伴い、その中位に土器を設置し、さらにその上から40～60㎝大の礫を押さえ込むように乗せた状況が推定できる。特に第３号土器埋設遺構は２個礫が入り、土器もかなり破砕している。第２号は平面に対して深さが深く、第３号は浅い。

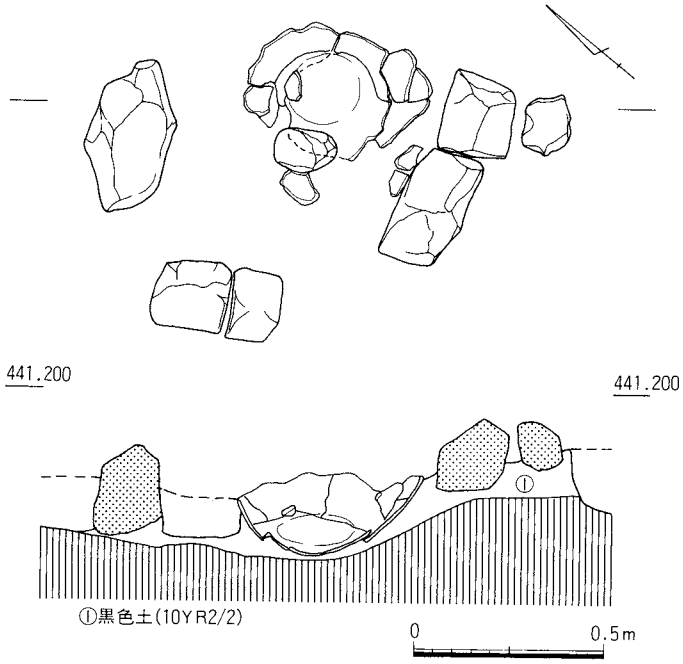
第１～３号のいずれの遺構も、底部が正位・逆位で出土するという土器の出土状況に類似する点がある。第１号・第３号はほぼ完全に底部を確認できたが、 第２号は底部の半分のみ確認し、残りは欠損していた。このような状況からは設置時に完全な土器を埋設したとは断言できない。

どの遺構も後期中葉から後葉にかけての時期の遺構と考えられる。第２地区の包含層からは、この時期の土器がかなりの割合出土しており、遺構もその時期の可能性が高い。

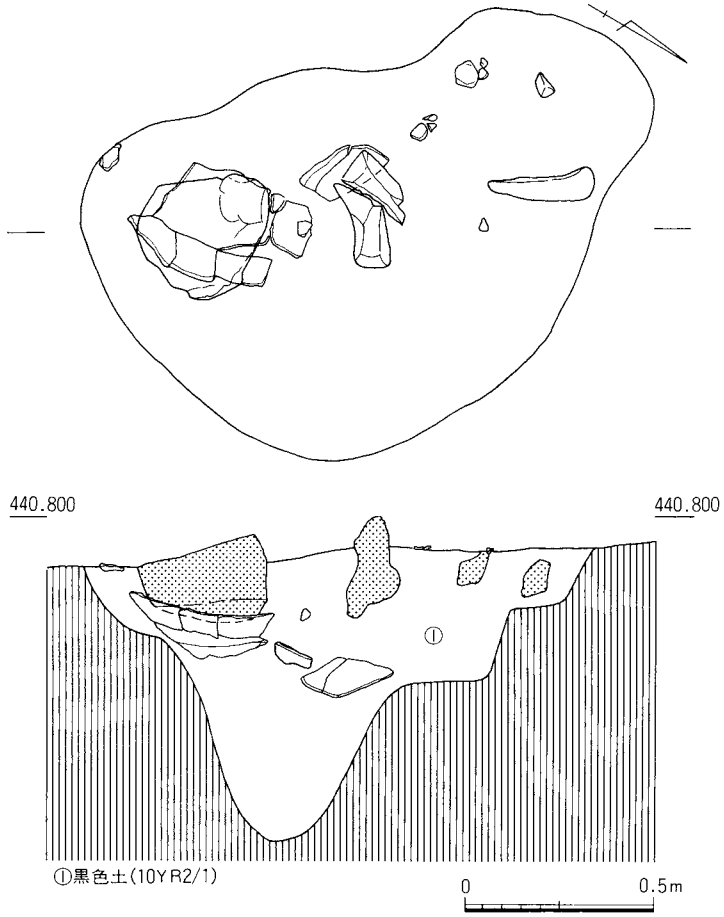
土器埋設遺構を検出した付近からは、石棒・土偶の出土をはじめ、立石を用いた遺構も検出された。



第44図　土器埋設遺構位置図（S＝1／1,600）



第45図　第1号土器埋設遺構（S＝1／20）



第46図　第2号土器埋設遺構（S＝1／20）

３．第３号土器埋設遺構（ＳＭ３）　第47図　図版９

位置　第２地区20Ｐグリッドにて検出した。

１．第１号土器埋設遺構（ＳＭ１）

第45図　図版９

位置　第２地区中央部19Ｎグリッドにて検出した。

検出状況　包含層をほとんど除去し第Ｖ層遺構面直上にて検出した。本来は上層から掘り込み、土器を設置したと想定できるが、明確にはわからない。包含層中に多量の小礫が混入していたが、遺構面にも多量の小礫が散布する。埋設土器を囲むように３つの礫が配される。

覆土　覆土は黒色土、黄褐色土が堆積する。土器の検出状況からして遺構自体はもう少し上部から掘り込みがあったと推定できるが、攪乱を受け確認できなかった。

出土遺物（第64図86～88）

Ｃ－７群に属し、元住吉山Ｉ式が主体となる。

時期　後期中葉。

２．第２号土器埋設遺構（ＳＭ２）

第46図　図版９

位置　第２地区中央部18Ｌグリッドにて検出した。

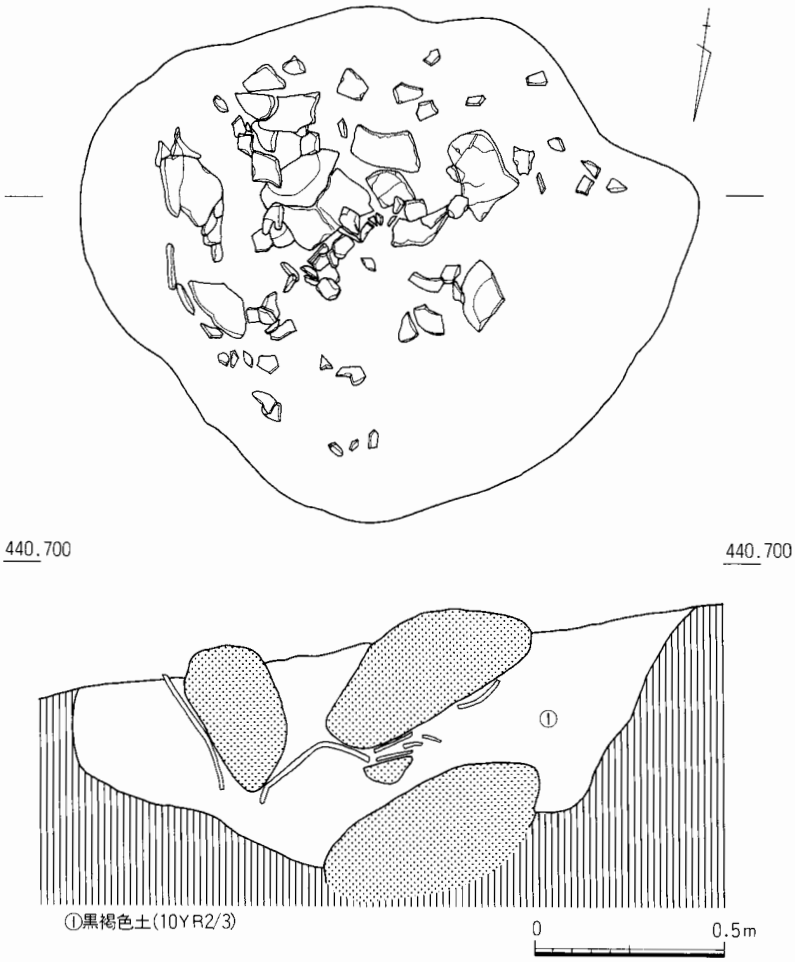
検出状況　0.68×0.51ｍ深さ0.38ｍの土坑の中位層を中心から土器片がまとまって出土した。土器の上に16.5cm大の礫が乗る。底部の一部が正位に出土した。出土した土器片は埋納されたものと考える。

覆土　黒褐色土のほぼ単層である。

出土遺物　無文の底部とその付近の土器片が出土したのみで明確な時期を確定でき得る資料はない。

時期　不明。検出場所から後期中葉前後の可能性が高い。

検出状況　0.7×0.7m深さ0.3mの土坑の中位層より土器片がまとまって出土した。土坑最上面に2個体の礫があり、その下部に礫につぶされるように土器を検出した。土器は底部がかぶせる形で出土し、その周辺に出土した土器の出土状況が裏面の多いことから、土器埋納時は逆位で、底部上に礫を乗せたという状況が想定できる。



第47図　第3号土器埋設遺構（S＝1／20）

覆土

ほぼ黒色土の単層である。

出土遺物（第64図89～91）

巻貝の貝殻によると思われる波状条線文が施文される89、90・91は無文ではあるが器形は後期土器である。

時期　後期の中葉～後葉と考える。

第6節　土器集中区（SU）

他の地域に比べて土器が集中して出土した地域を土器集中区とし、一括りの遺構としてここに示した。土器集中区は、5カ所検出した。

第2地区　3カ所　　第3地区　1カ所

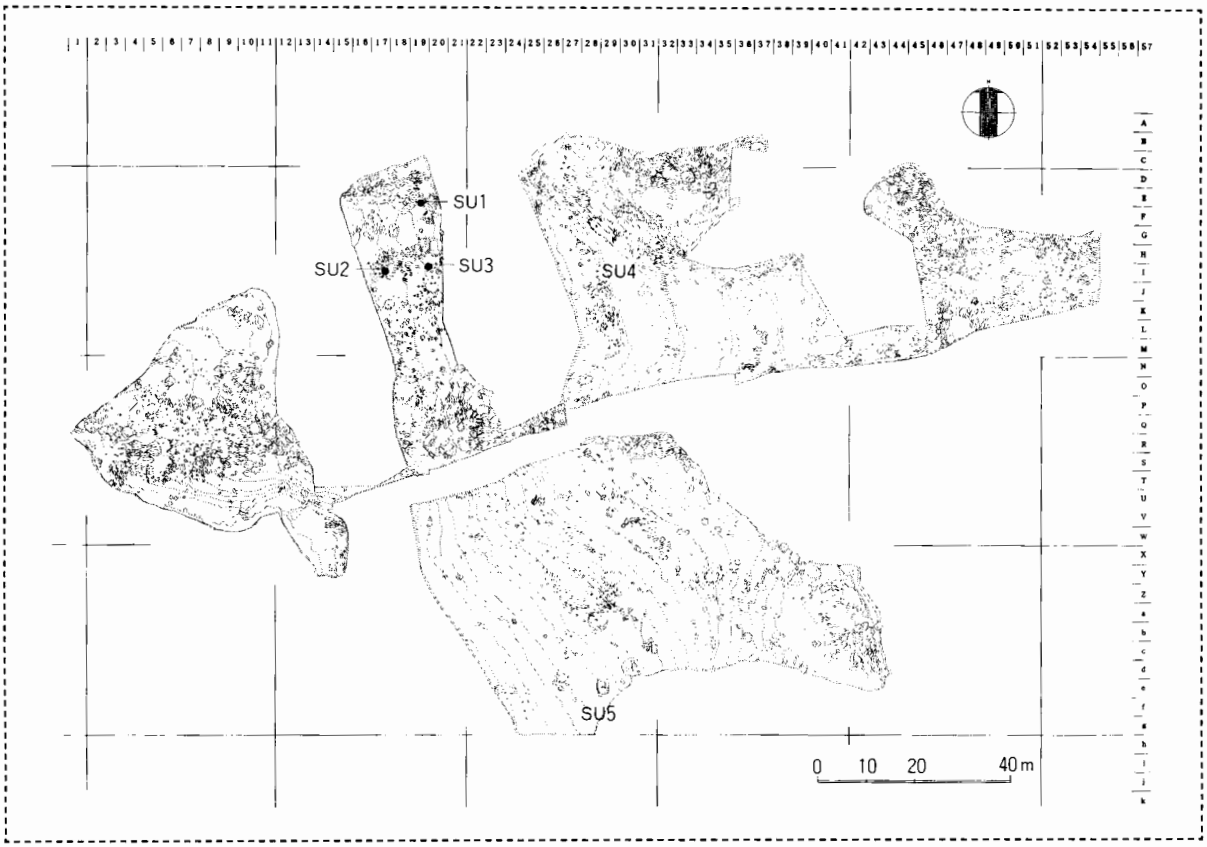
第5地区　1カ所

いずれも比較的残存度の高い良好な資料が出土し、接合率も高かった。

1．土器集中区1（SU1）　第49図　図版9

位置　第2地区北東部19Eグリッドにて検出した。

出土状況　第Ⅳ層暗褐色土面に1.8×1.8mの範囲にわたって平面的に土器片が集中散布する。



第48図　土器集中区位置図（S＝1／1,600）

土坑は伴わない。

出土遺物（第65図94）

すべて縄文土器片で、ほぼすべての遺物が接合した。土器はＣ－１群に属する。

２．土器集中区２（ＳＵ２）　第50図　図版９

位置　第２地区西寄り17Ｉグリッドにて検出した。

出土状況　径１ｍ超の花こう岩の巨礫に接する位置に掘り込まれた0.5×0.5ｍの土坑の最上面に一部重なり合うように土器片が出土した。土器は底部および胴下半部が出土している。

土坑の深さは0.23ｍ、覆土は暗褐色土、黒褐色土が堆積する。土器周辺に焼土塊がみられた。

出土遺物（第64図92・93）

Ｃ－４群に属する鉢形土器が出土した。

３．土器集中区３（ＳＵ３）　第51図　図版10

位置　第２地区中央東部20Ｉグリッドにて検出した。

出土状況　0.2×0.2ｍ深さ0.25ｍの土坑の最上面に土器がまとまって出土した。口径7.4㎝のミニチュア壺型土器と２個体の土器が重なった状況の土器とが土坑上部に出土した。

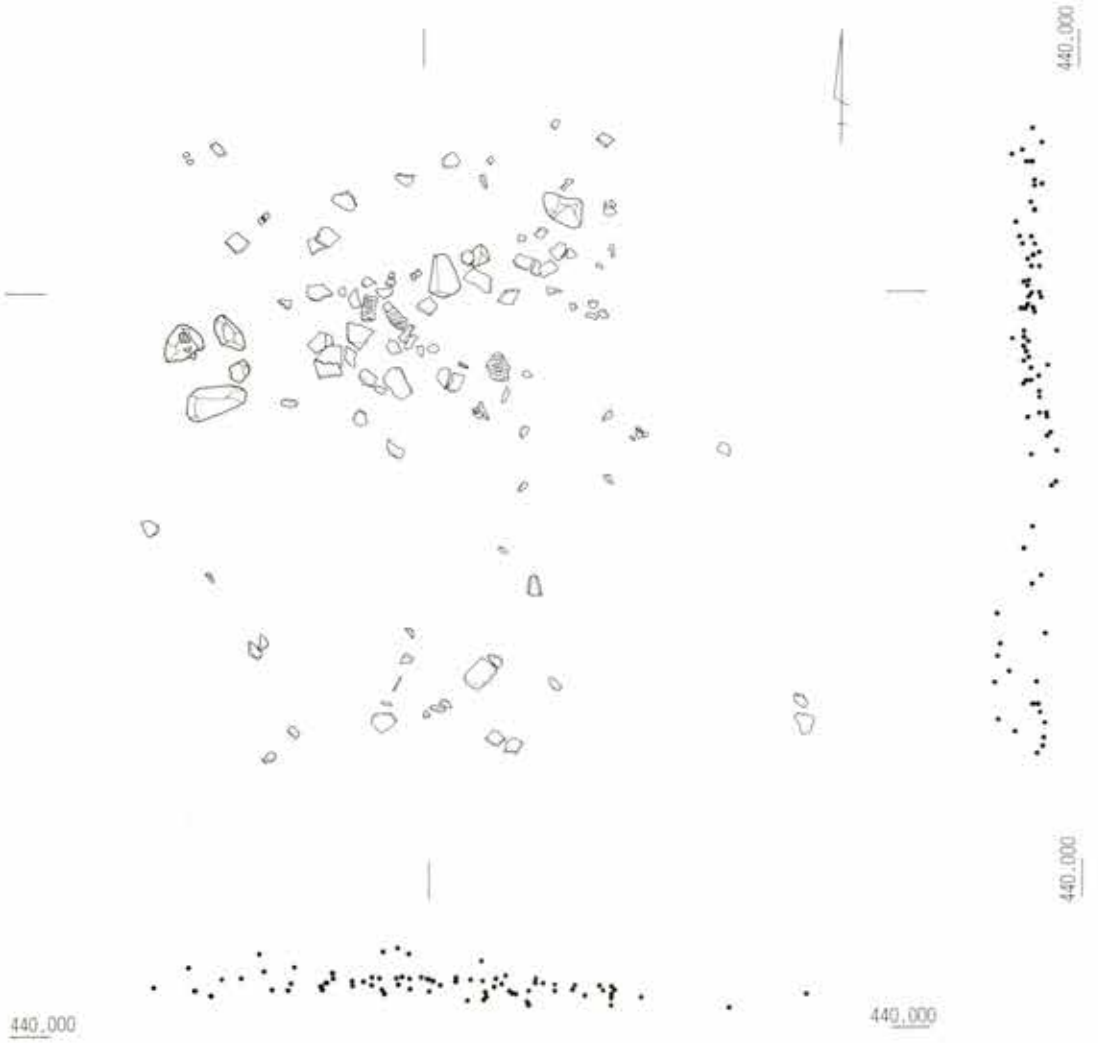
出土遺物（第66図95～97）

元住吉山Ｉ式並行期のミニチュア土器と、ほぼ同時期と思われる無文の土器２個体である。

４．土器集中区４（ＳＵ４）　第53図　図版10

位置　第３地区28Ｆ－Ｇ、29Ｆ－Ｇグリッドにわたって検出した。

出土状況　南西から北東に向かって傾斜する斜面に土器片が集中散布する。周辺の包含層からの遺物

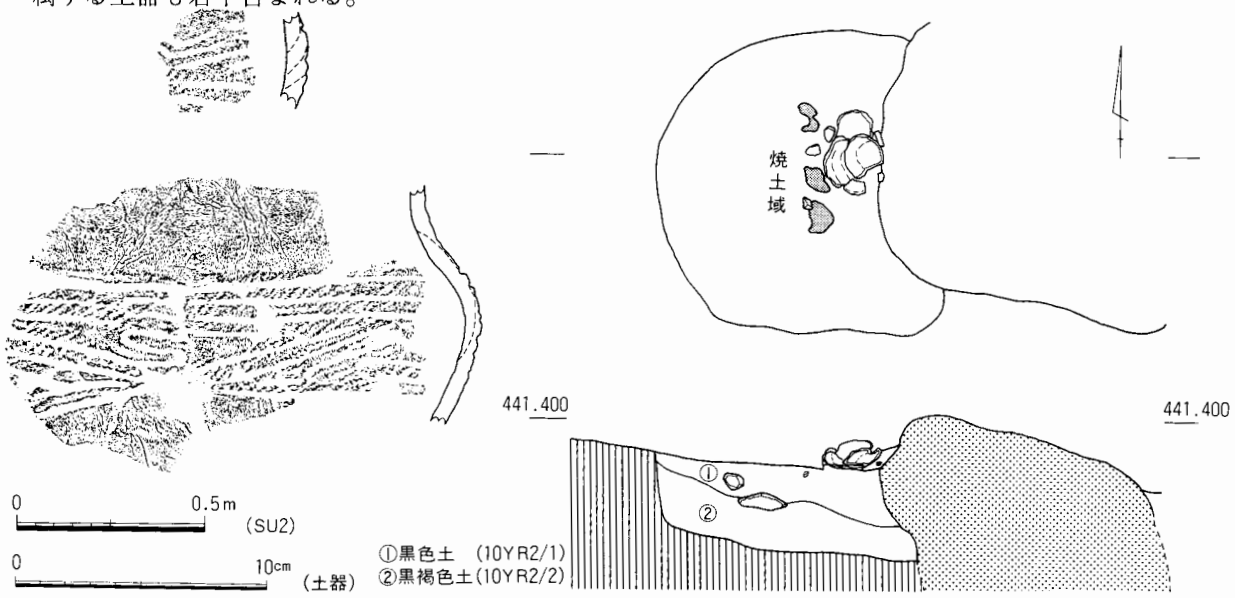


第49図　土器集中区1（遺構S＝1／20、遺物S＝1／6）

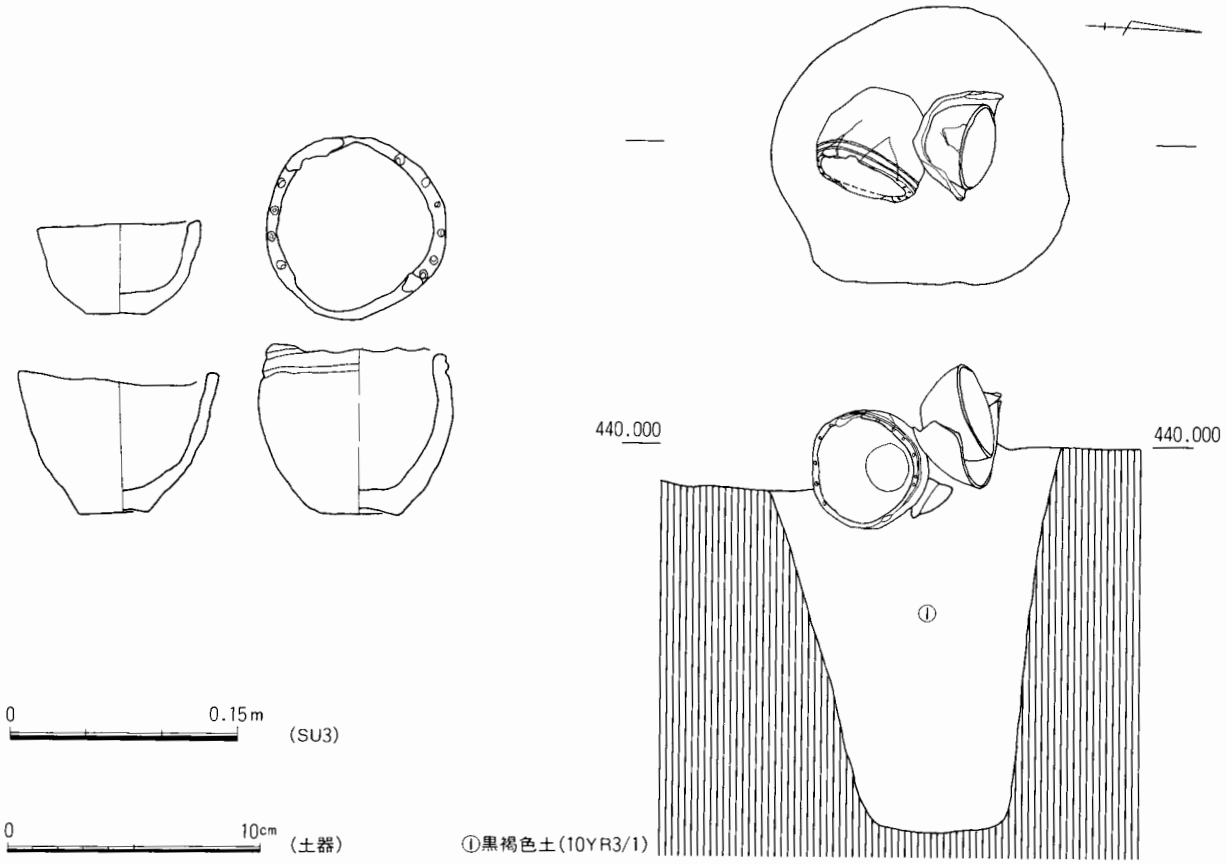
出土状況に比べて集中的に出土している。また出土した土器片の割れ口も摩耗がみられない。掘り込みはないが、土器片は主に黒褐色土堆積土中から暗褐色土にかけて出土している。

出土遺物（第66・67図98～113）

出土土器の主体はＣ－８群である。土器の残りは比較的良好で土器片自体大きめである。Ｃ－７群に属する土器も若干含まれる。



第50図　土器集中区2（遺構S＝1／20、遺物S＝1／3）



第51図　土器集中区3（遺構S＝1／5、遺物S＝1／3）

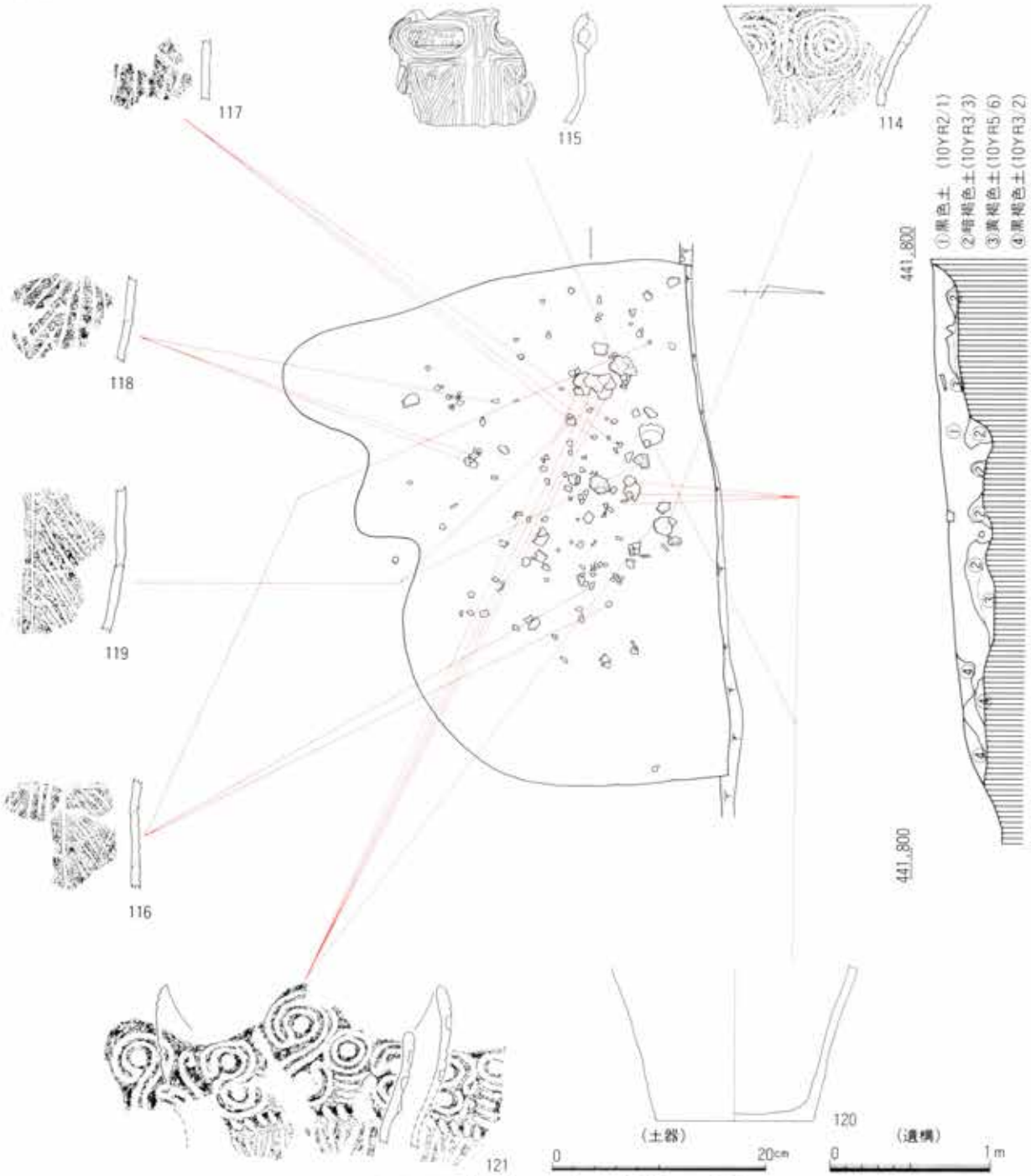
5．土器集中区5（SU5）　第52図　図版10

位置　第5地区南西部28－29eグリッドにて検出した。

出土状況　2.6×2.8mの不定形を呈する竪穴状遺構内に土器が集中散布する。土器片のほとんどが最上面に散布するが、掘り込みの内部にわたって若干出土する。住居の可能性もあるが明確な柱穴および炉に類する遺構は伴出していないため住居跡には含まなかった。

出土遺物（第68図114～121）

1個体になるものはなかったが、ほぼC－8群に属する中期末葉の土器がまとまって出土した。



第52図　土器集中区5（遺構S＝1／40、遺物S＝1／6）

第53図　土器集中区4（遺構S＝1／20、遺物S＝1／6）

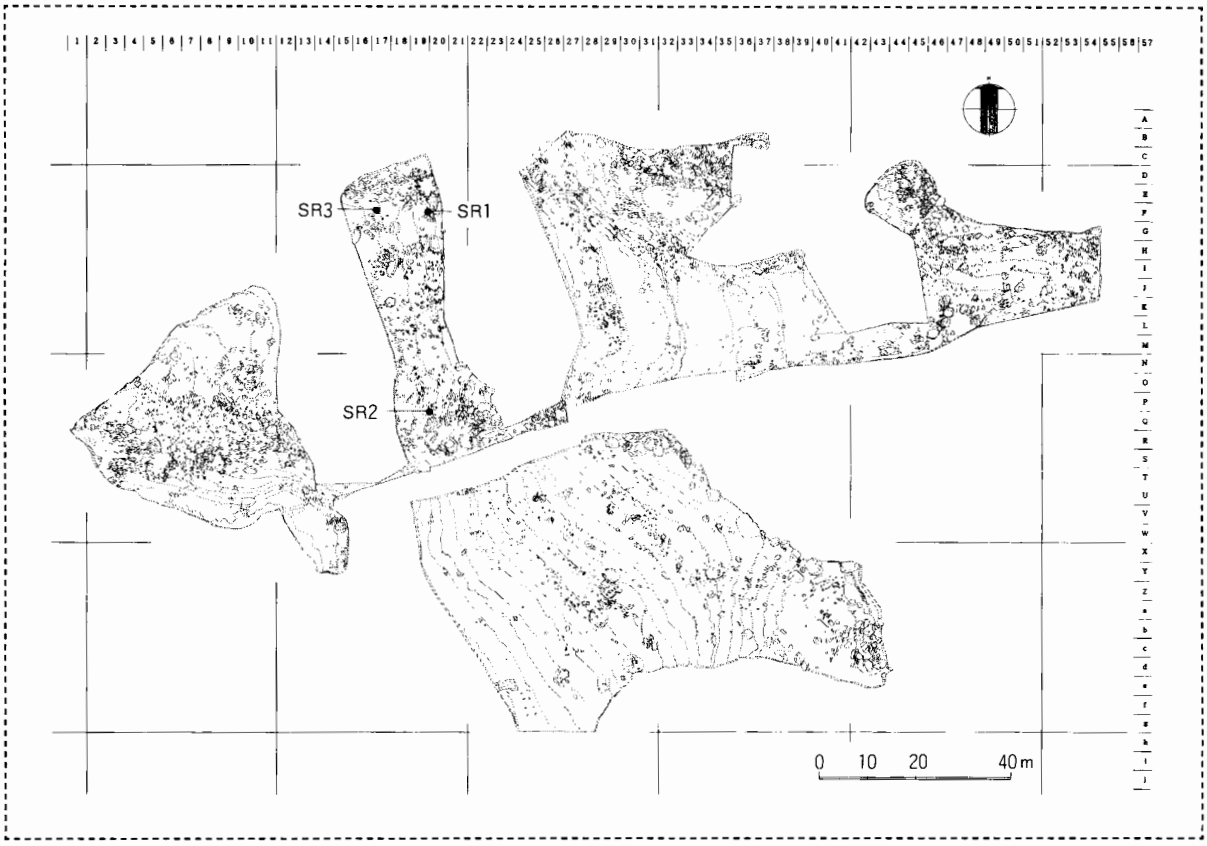
第７節　立石遺構（ＳＲ）

礫の長軸を垂直方向または垂直に近い方向に設置した遺構を立石遺構としここにまとめた。設置当初は垂直に立てたものの、後世の何らかの影響で方向がずれた可能性も高い。

立石遺構の中心となる礫は角柱状のもの、板状のものと２種検出している。その内角柱状のものの礫は、一面の摩耗が激しく、石皿に類する石器からの転用と考えられる。

立石遺構は、３基検出した。いずれも第２地区である。第２地区北部に立石遺構１および３を、南部に２を検出した。付近にはそれに伴うと思われる土坑もいくつか存在する（第８節　土坑　参照）が、具体的にどのような配置が意図されたかは判明しない。

立石遺構２は上部構造と下部構造とでも呼べるような２段階の構築状態が観察でき、特徴的であるがその意味づけなどは今後の研究課題である。



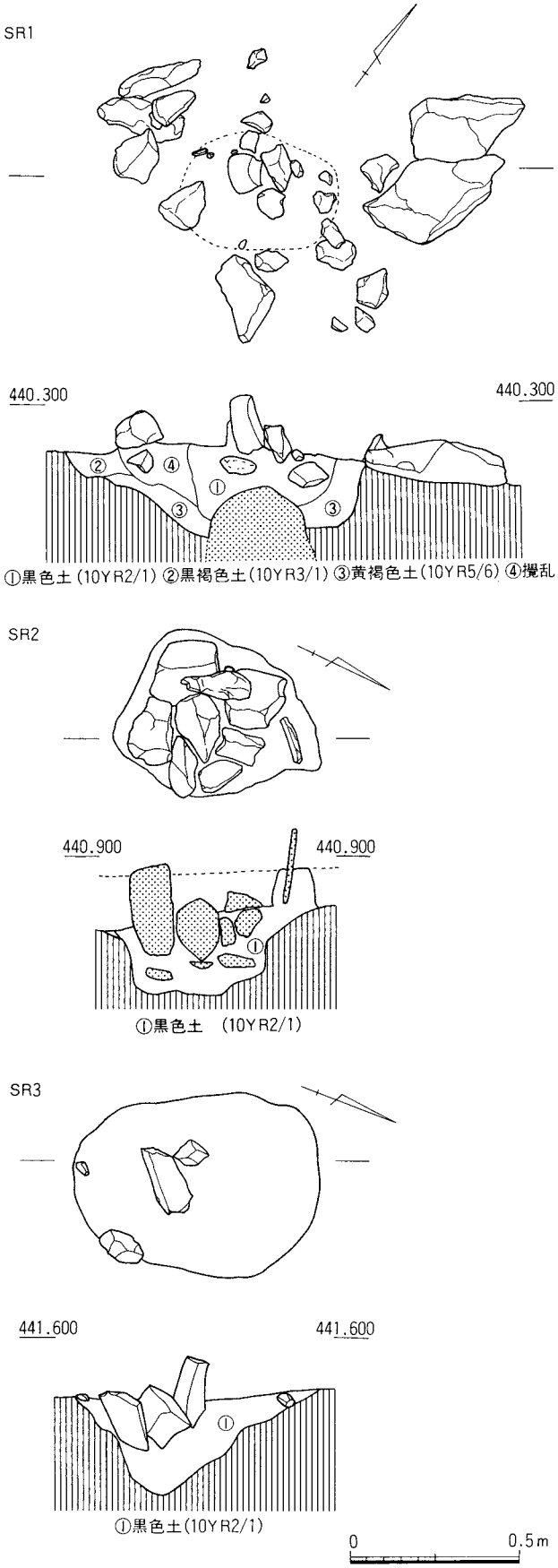
第54図　立石遺構位置図（S＝1／1,600）

１．立石遺構１（ＳＲ１）　第55図　図版10

位置　第２地区19Ｆグリッドにて検出した。

検出状況　1.2×1.0mの範囲内に８～43cm大の礫が散布する中に、石皿を割った礫が立てられていた。立石は19×11×11cm、安山岩亜角礫を加工したものである。北東部が石皿の磨面になる。石皿の周辺には不明瞭ではあるが土坑状の掘り込みがみられる。0.46×0.35mの楕円形プランをもち、深さ0.25mを測る。土坑内にも礫が入るが疎である。

覆土　土坑の覆土は黒褐色土で炭化物は検出されなかった。



第55図　立石遺構（S＝1／20）

出土遺物　遺物は縄文土器が3点出土している。いずれも小片無文であり、時期は不明である。

時期　不明。

2．立石遺構2（ＳＲ2）第55図　図版10

位置　第2地区19Ｑグリッドにて検出した。

検出状況　23×14cm厚さ1.3cmの板状の礫が遺構の端に立てられる。0.6×0.48mの楕円形を呈する土坑の内部最上面に立石を含む礫群が取り囲み、さらに下部にもうひとつ集石がみられた。集石の礫は上部が14～21cm大の角礫、亜角礫である。下部は7～12cmの角礫、亜角礫である。石材は上部下部ともに花こう岩が主体をなし、花こう閃緑岩、アプライト、砂岩が若干入る。

覆土　土坑内の覆土は黒色土の単層である。

出土遺物　上部礫の間より縄文土器が1点出土した。小片無文で時期は不明である。

時期　不明。

3．立石遺構3（ＳＲ3）第55図　図版11

位置　第2地区17Ｆグリッドにて検出した。

検出状況　0.72×0.55mの土坑の南寄りに長さ23cmの礫が立てられている。さらにその横に礫を支えるように2個添えられている。いずれも花こう岩の角礫である。立石とそれに接する添石はともに一面が磨られた痕跡がある。立石は花こう閃緑岩、その他は花こう岩である。

覆土　土坑の覆土は黒色土の単層である。

出土遺物　土坑内より縄文土器25点、フレイクが2点出土した。縄文土器はいずれも小片無文で時期は不明である。

時期　不明。

第８節　土坑（ＳＫ）

第１節～第６節までの各遺構を除くその他の掘り込みのうち長軸が0.7mを超えるものをここに土坑として一括した。合計49基検出した。

第２地区：９基（ＳＫ１～９）　第３地区：５基（ＳＫ10～14）　第５地区：35基（ＳＫ15～49）

これら49基の土坑について一覧表にまとめた。項目については以下のとおりである。

番号　　記号（ＳＫ）を省略し土坑番号のみとした。

地区　　出土地区を「地区」、遺構が位置を占める割合が最も高いグリッドを出土区とした。

出土遺物　出土した土器・石器の破片数および個体数を示した。

時期　　出土遺物から時期比定でき得るもののみ示した。

規模　　長軸・短軸・深さの測定値をｍで示した。

長軸方向　真北を基準とし、東西への傾きを「°」で示した。

形態　　上端の平面形の違いを以下のように分類した。

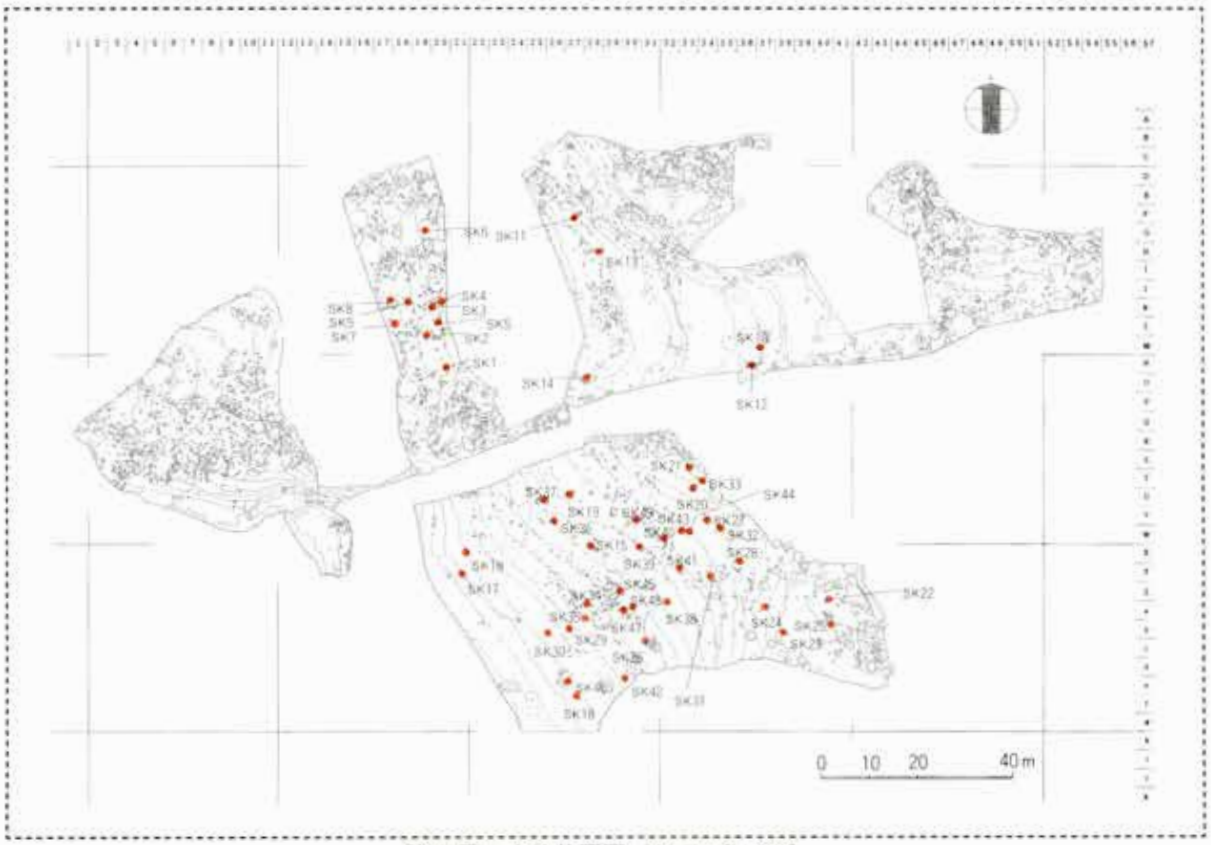
上端の平面形

１．円形　　短径／長径×100＝100～81

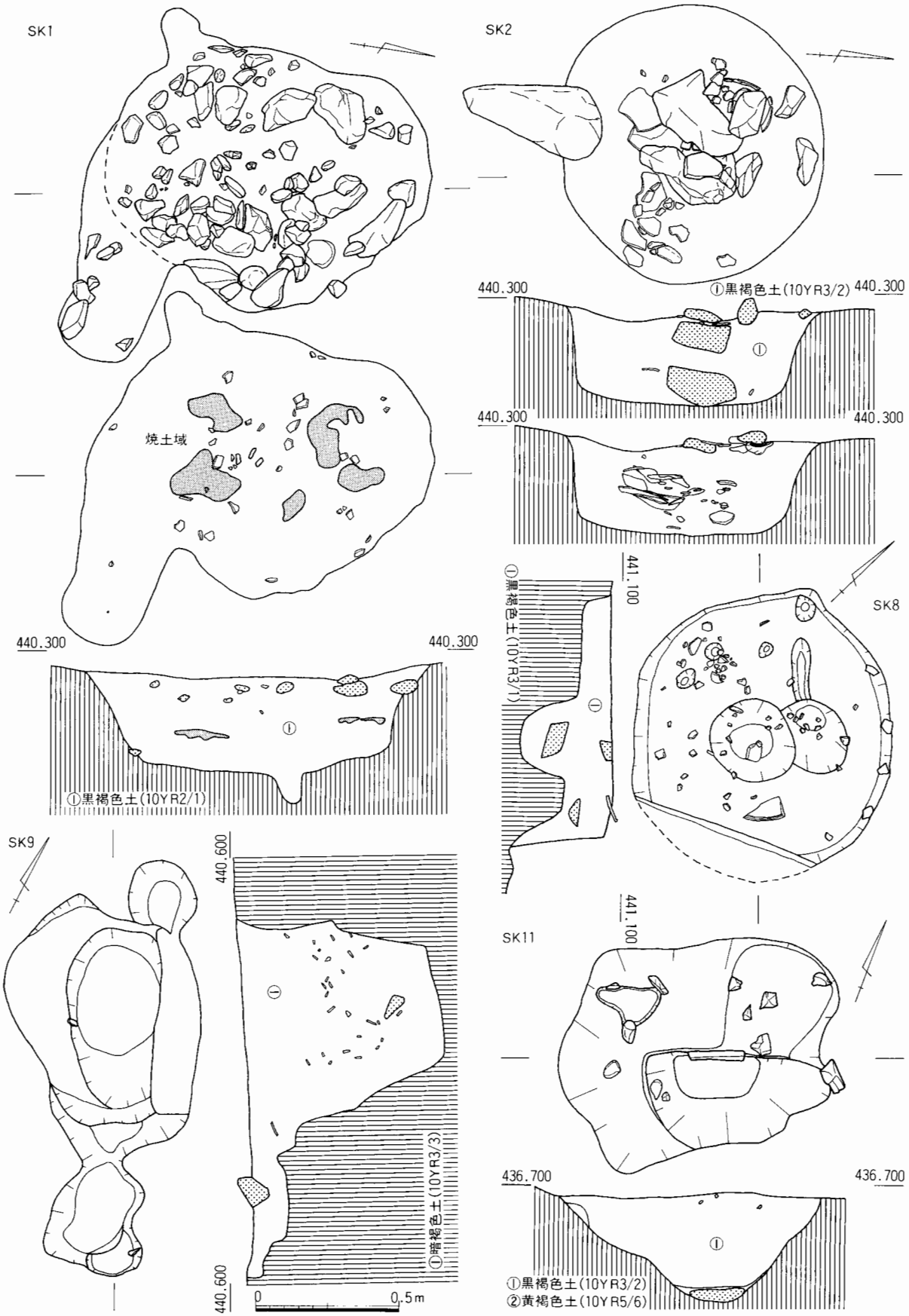
２．楕円形　　短径／長径×100＝80以下

３．隅丸方形　　四辺の直線の接点が円形に巡ると想定できるもの

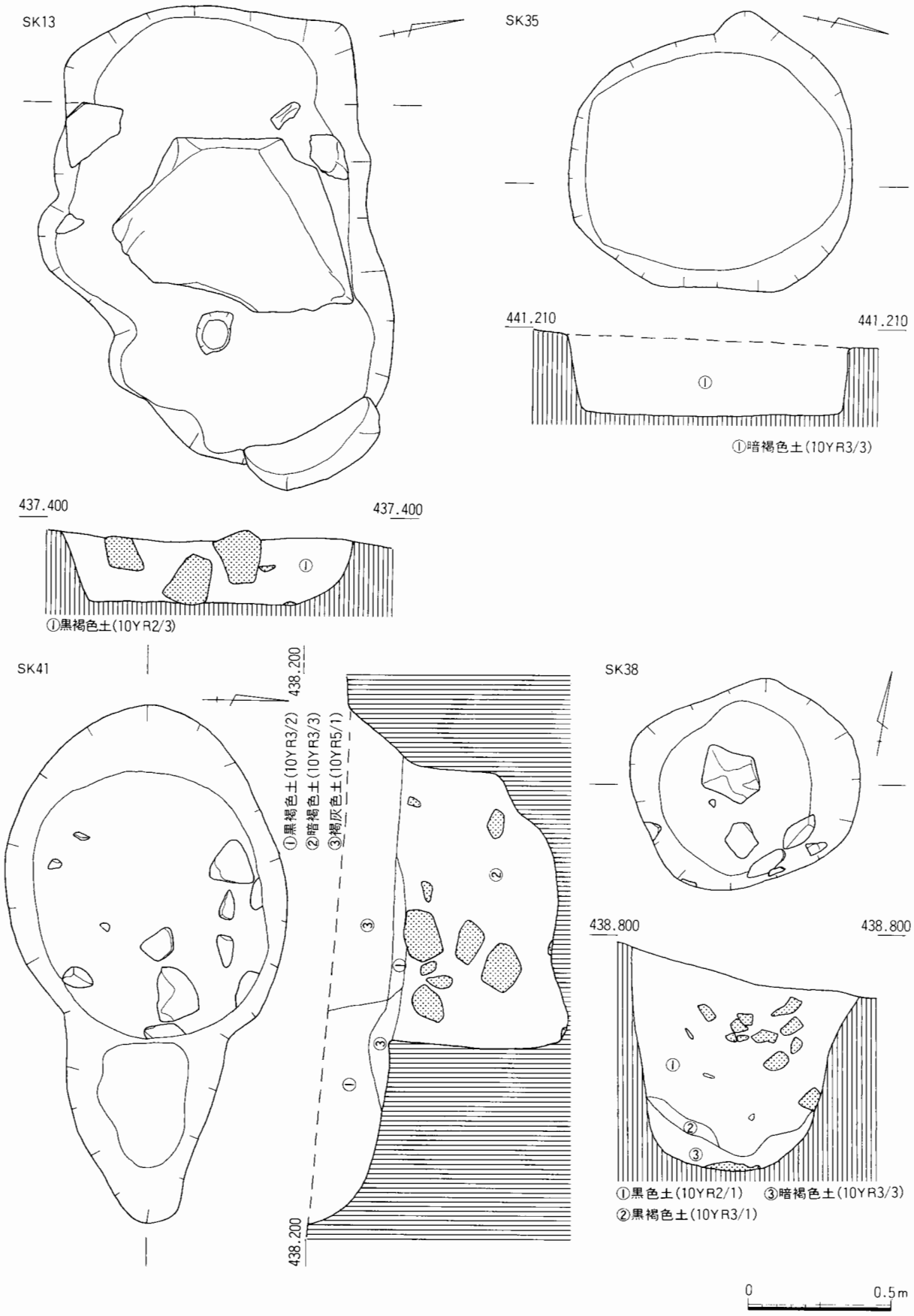
４．不定形　　以上の分類に含みにくい形状を呈するもの



第56図　土坑位置図（S＝1／1,600）



第57図　土坑（1）（S=1／20）



第58図　土坑（2）（S＝1／20）

第2表　土坑一覧表

遺構番号	挿図番号	写真図版	地区	グリッド	出土土器分類	形態分類	長軸方向	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	土器点数	石器点数
1	52	11	2	20N	K－8	2	N 5° W	1.20	0.95	0.40	199	5
2	52	11	2	19L	K－8	1	N85° W	1.00	0.90	0.30	227	
3			2	20K	K－8	4	N63° E	1.20	0.80	0.10	15	
4			2	20K		4	N 8° E	0.70	0.49	0.36	12	3
5			2	20L		4	N78° E	1.10	0.70	0.20	2	
6			2	19G	C－1	1	N53° E	1.00	0.85	0.30	7	
7			2	18L	C－6	2	N35° E	1.30	1.20	0.15	14	2
8	52	11	2	17K		1	N48° W	1.00	0.90	0.30	86	
9	52	12	2	18K	K－7	4	N14° W	1.25	0.70	0.70	217	20
10			3	37M		3	N88° E	1.70	0.95	0.40	1	
11	52	12	3	27F		4	N68° E	0.90	0.70	0.38	20	2
12			3	36N		4	N47° W	1.20	0.70	0.15		
13	53	12	3	28H	K－7	2	N78° E	1.60	1.16	0.22	41	1
14			3	28O		2	N80° W	0.70	0.32	0.14	4	
15			5	28X	C－2	2	N50° W	2.16	1.38	0.38	15	1
16			5	21X		2	N29° E	3.10	1.56	0.36		
17			5	21Y	C－1	4	N85° W	2.97	2.01	1.41	3	1
18			5	27f		2	N23° E	1.12	0.84	0.14	1	
19			5	27U		4	N36° E	2.24	1.48	0.60		
20			5	33U		4	N84° W	1.70	1.00	0.32		
21			5	33S	C－1	1	N 1° W	1.12	0.98	0.46	1	
22			5	40Z		4	N55° E	1.15	0.90	0.45	1	
23			5	38b		2	N54° W	1.40	0.40	0.15	1	
24			5	37a		4	N53° W	0.95	0.70	0.25		
25			5	41b		2	N46° W	1.40	0.80	0.30	5	
26			5	31C	C－4・6・8	4	N36° W	1.56	1.54	0.36	59	1
27			5	34V	C－1・2	2	N52° W	1.50	1.20	0.80	18	3
28			5	36X		1	N45° W	1.40	1.10	0.34		
29			5	26b		1	N35° E	0.72	0.67	0.11		
30			5	24b		3	N26° W	1.15	0.79	0.15	1	
31			5	34Y		2	N23° W	2.16	1.06	0.40	16	2
32			5	35W		2	N53° W	1.29	0.97	0.15	2	
33			5	34T		1	N52° W	0.87	0.79	0.26		
34			5	28a		2	N88° W	1.70	0.79	0.20	3	
35	53	12	5	27b	C－8	2	N15° W	0.98	0.89	0.50	16	1
36			5	26V		4	N35° W	1.10	0.72	0.30		
37			5	25U		4	N23° E	1.80	1.20	0.30		
38	53	12	5	32a		2	N78° E	0.80	0.65	0.70	25	2
39			5	30X		2	N34° W	1.81	1.00	0.80		
40			5	32X		1	N80° E	0.71	0.60	0.50		
41	53	12	5	33Y	C－4	1	N 2° E	1.18	0.98	0.78	90	1
42			5	30e		2	N39° W	1.10	0.85	0.70	3	
43			5	33W		4	N80° E	1.30	1.10	0.25	3	1
44			5	33W		2	N 5° W	1.10	0.80	0.40	1	
45			5	29Z		2	N50° W	1.80	1.05	0.50		1
46			5	27e		2	N65° W	0.75	0.40	0.30		
47			5	30a		2	N51° W	1.10	0.75	0.30	1	
48			5	30a	C－6	2	N45° E	1.15	0.80	0.40	2	
49			5	30V		4	N45° E	2.00	1.43	0.35	9	

第９節　ピット状遺構（Ｐ）

第１節～第６節までの各遺構を除くその他の掘り込みのうち、長軸が0.7m未満のもの516基を一覧にまとめた。本来の機能としては柱穴の可能性が高いものが多い。

第3表　ピット状遺構一覧表（1）

番号	地区	出土区	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)
1	1	3P	0.30	0.23	0.21
2	1	5Q	0.40	0.31	0.16
3	1	5Q	0.30	0.28	0.16
4	1	5Q	0.49	0.43	0.14
5	1	5Q	0.53	0.01	0.21
6	1	14X	0.30	0.24	0.29
7	1	14Y	0.41	0.39	0.42
8	1	14Y	0.21	0.17	0.18
9	1	14Y	0.24	0.23	0.16
10	1	14Y	0.24	0.24	0.19
11	1	14Y	0.29	0.19	0.09
12	1	15X	0.25	0.23	0.19
13	1	7Q	0.40	0.31	0.09
14	1	7Q	0.36	0.16	0.19
15	1	9Q	0.69	0.58	0.17
16	1	9Q	0.69	0.60	0.10
17	1	9Q	0.28	0.21	0.15
18	1	9Q	0.34	0.27	0.09
19	1	10Q	0.37	0.28	0.11
20	1	10P	0.26	0.21	0.08
21	1	10P	0.30	0.29	0.10
22	2	16G	0.30	0.25	0.09
23	2	16I	0.50	0.31	0.17
24	2	17F	0.45	0.28	0.15
25	2	17F	0.68	0.20	0.13
26	2	17F	0.35	0.28	0.28
27	2	17G	0.28	0.20	0.14
28	2	17G	0.46	0.34	0.08
29	2	17I	0.69	0.38	0.14
30	2	17I	0.58	0.45	0.15
31	2	17I	0.29	0.25	0.18
32	2	17I	0.47	0.39	0.09
33	2	17I	0.69	0.48	0.08
34	2	17I	0.46	0.29	0.19
35	2	17K	0.42	0.27	0.12
36	2	17K	0.24	0.22	0.16
37	2	17K	0.22	0.20	0.20
38	2	17J	0.30	0.25	0.15
39	2	18M	0.69	0.60	0.60
40	2	18E	0.29	0.20	0.06
41	2	18E	0.47	0.45	0.17
42	2	18E	0.33	0.30	0.13
43	2	18E	0.48	0.28	0.15
44	2	18E	0.37	0.32	0.20
45	2	18I	0.22	0.17	0.28
46	2	18I-J	0.98	0.52	0.37
47	2	18J	0.35	0.29	0.10
48	2	18K	0.69	0.44	0.37
49	2	18L	0.30	0.24	0.14
50	2	18L	0.61	0.43	0.35
51	2	18L	0.60	0.40	0.40
52	2	18M	0.68	0.55	0.35
53	2	18M	0.46	0.35	0.08
54	2	19E	0.60	0.50	0.30
55	2	19E	0.55	0.45	0.26
56	2	19E	0.46	0.28	0.16
57	2	19E	0.52	0.42	0.25
58	2	19F	0.69	0.67	0.34
59	2	19F	0.40	0.30	0.16
60	2	19F	0.69	0.35	0.25
61	2	19G	0.69	0.35	0.32
62	2	19G	0.58	0.45	0.30
63	2	19H	0.34	0.31	0.37
64	2	19H	0.55	0.48	0.34
65	2	19H	0.55	0.43	0.19
66	2	19H	0.68	0.50	0.60
67	2	19H	0.60	0.50	0.35
68	2	19I	0.39	0.28	0.26
69	2	19I	0.69	0.60	0.40
70	2	19I	0.69	0.55	0.30
71	2	19I	0.46	0.28	0.33
72	2	19I	0.50	0.33	0.10
73	2	19I	0.45	0.40	0.27
74	2	19I	0.36	0.31	0.26
75	2	19J	0.21	0.20	0.26
76	2	19J	0.69	0.40	0.50
77	2	19J	0.51	0.45	0.48
78	2	19J	0.60	0.35	0.33
79	2	19J	0.33	0.23	0.42
80	2	19J	0.40	0.33	0.30
81	2	19J	0.38	0.35	0.14
82	2	19J	0.52	0.30	0.36
83	2	19J	0.45	0.44	0.28
84	2	19K	0.50	0.35	0.40
85	2	19K	0.69	0.64	0.28
86	2	19K	0.27	0.20	0.11
87	2	19K	0.61	0.35	0.40
88	2	19K	0.18	0.13	0.09
89	2	19K	0.60	0.37	0.30
90	2	19K	0.50	0.45	0.22
91	2	19K	0.35	0.33	0.30
92	2	19L	0.50	0.27	0.16
93	2	19L	0.69	0.50	0.40
94	2	19L	0.30	0.28	0.20
95	2	19L	0.34	0.31	0.70
96	2	19L	0.60	0.40	0.21
97	2	19L	0.37	0.33	0.23
98	2	19L	0.34	0.33	0.14
99	2	19L	0.50	0.40	0.50
100	2	19M	0.41	0.30	0.50
101	2	19M	0.40	0.40	0.43
102	2	19M	0.68	0.58	0.26
103	2	19M	0.46	0.35	0.05
104	2	19O	0.64	0.40	0.18
105	2	19P	0.35	0.27	0.14
106	2	19P	0.33	0.24	0.20
107	2	19P	0.68	0.54	0.14
108	2	20E	0.85	0.55	0.25
109	2	20E	0.35	0.32	0.15
110	2	20E	0.68	0.50	0.16
111	2	20F	0.40	0.35	0.21
112	2	20G	0.48	0.40	0.30
113	2	20H	0.28	0.27	0.25
114	2	20H	0.60	0.52	0.26
115	2	20H	0.56	0.38	0.27
116	2	20I	0.30	0.30	0.14
117	2	20I	0.60	0.40	0.27
118	2	20I	0.43	0.28	0.13
119	2	20I	0.65	0.40	0.25
120	2	20I	0.37	0.34	0.11
121	2	20I	0.30	0.29	0.16
122	2	20I	0.32	0.22	0.20

第4表　ピット状遺構一覧表（2）

番号	地区	出土区	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)
123	2	20I	0.55	0.45	0.30
124	2	20I	0.32	0.30	0.12
125	2	20J	0.28	0.26	0.29
126	2	20J	0.51	0.30	0.21
127	2	20J	0.48	0.31	0.50
128	2	20J	0.44	0.27	0.27
129	2	20J	0.16	0.13	0.14
130	2	20J	0.18	0.16	0.16
131	2	20J	0.34	0.25	0.27
132	2	20J	0.30	0.30	0.40
133	2	20J	0.48	0.38	0.13
134	2	20J	0.34	0.29	0.49
135	2	20J	0.51	0.34	0.18
136	2	20J	0.46	0.42	0.30
137	2	20K	0.33	0.27	0.45
138	2	20K	0.20	0.15	0.13
139	2	20K	0.45	0.40	0.39
140	2	20K	0.48	0.28	0.30
141	2	20K	0.33	0.29	0.24
142	2	20K	0.28	0.25	0.30
143	2	20K	0.50	0.48	0.40
144	2	20L	0.35	0.30	0.18
145	2	20L	0.55	0.30	0.45
146	2	20L	0.69	0.50	0.55
147	2	20L	0.66	0.55	0.22
148	2	20M	0.69	0.53	0.31
149	2	20M	0.66	0.60	0.35
150	2	20M	0.65	0.60	0.70
151	2	20N	0.37	0.30	0.20
152	2	20O	0.35	0.25	0.50
153	2	20P	0.66	0.65	0.13
154	2	20P	0.40	0.40	0.23
155	2	21O	0.37	0.36	0.16
156	2	21O	0.57	0.52	0.36
157	2	21O	0.48	0.32	0.19
158	2	21P	0.67	0.60	0.20
159	3	35M	0.45	0.38	0.17
160	3	35M	0.52	0.44	0.11
161	3	35M	0.34	0.30	0.15
162	3	36N	0.69	0.53	0.11
163	3	37N	0.66	0.55	0.10
164	3	37N	0.69	0.50	0.03
165	3	38M	0.66	0.62	0.16
166	3	28I	0.47	0.38	0.11
167	3	28I	0.45	0.36	0.25
168	3	28H	0.50	0.38	0.26
169	3	27I	0.69	0.56	0.26
170	3	27H	0.45	0.40	0.07
171	3	27H	0.48	0.29	0.08
172	3	26G	0.55	0.47	0.24
173	3	27G	0.42	0.31	0.26
174	3	27G	0.56	0.47	0.15
175	3	26G	0.46	0.43	0.11
176	3	26G	0.34	0.32	0.19
177	3	26I	0.45	0.44	0.10
178	3	28L	0.25	0.23	0.17
179	3	29L	0.40	0.25	0.11
180	3	29L	0.40	0.37	0.25
181	3	29L	0.50	0.45	0.27
182	4	45I	0.45	0.37	0.19
183	4	47G	0.60	0.50	0.20
184	4	47G	0.55	0.51	0.10
185	4	45H	0.66	0.50	0.10
186	4	45G	0.69	0.66	0.16
187	5	20X	0.48	0.35	0.09
188	5	20Y	0.44	0.33	0.08
189	5	20Y	0.69	0.42	0.08
190	5	20Y	0.56	0.25	0.20
191	5	20Y	0.67	0.38	0.17
192	5	21W	0.39	0.26	0.17
193	5	21Z	0.38	0.23	0.18
194	5	22V	0.66	0.48	0.15
195	5	22V	0.69	0.39	0.16
196	5	22W	0.66	0.58	0.24
197	5	22W	0.69	0.27	0.11
198	5	22W	0.48	0.29	0.22
199	5	22W	0.65	0.49	0.13
200	5	22X	0.21	0.19	0.27
201	5	22X	0.24	0.19	0.10
202	5	22X	0.19	0.16	0.25
203	5	22X	0.23	0.16	0.16
204	5	22X	0.22	0.19	0.25
205	5	22X	0.21	0.19	0.36
206	5	22b	0.44	0.35	0.16
207	5	22b	0.68	0.50	0.24
208	5	22b	0.32	0.25	0.14
209	5	22b	0.40	0.30	0.10
210	5	23U	0.37	0.25	0.23
211	5	23V	0.46	0.44	0.24
212	5	23V	0.33	0.26	0.33
213	5	23V	0.50	0.31	0.48
214	5	23W	0.21	0.18	0.22
215	5	23W	0.18	0.16	0.17
216	5	23W	0.23	0.14	0.16
217	5	23X	0.20	0.14	0.33
218	5	23X	0.28	0.27	0.65
219	5	23X	0.24	0.20	0.20
220	5	23X	0.31	0.18	0.33
221	5	23X	0.24	0.23	0.16
222	5	23Y	0.32	0.22	0.16
223	5	23Y	0.28	0.18	0.35
224	5	23Y	0.33	0.21	0.15
225	5	23Y	0.23	0.18	0.19
226	5	23a	0.33	0.33	0.41
227	5	24U	0.51	0.29	0.29
228	5	24U	0.43	0.20	0.14
229	5	24V	0.65	0.64	0.15
230	5	24V	0.21	0.16	0.26
231	5	24V	0.69	0.53	0.37
232	5	24V	0.57	0.19	0.35
233	5	24W	0.19	0.16	0.20
234	5	24W	0.35	0.21	0.18
235	5	24W	0.26	0.23	0.15
236	5	24W	0.66	0.58	0.13
237	5	24W	0.69	0.42	0.29
238	5	24W	0.20	0.19	0.21
239	5	24X	0.39	0.26	0.37
240	5	24X	0.29	0.26	0.20
241	5	24X	0.30	0.29	0.23
242	5	24X	0.26	0.20	0.21
243	5	24X	0.36	0.23	0.16
244	5	24a	0.40	0.34	0.39
245	5	24e	0.38	0.31	0.30
246	5	24f	0.52	0.24	0.22
247	5	24f	0.33	0.30	0.25
248	5	25U	0.53	0.45	0.30
249	5	25V	0.42	0.29	0.16
250	5	25V	0.58	0.55	0.30
251	5	25V	0.54	0.40	0.13
252	5	25V	0.52	0.35	0.13
253	5	25V	0.26	0.19	0.21
254	5	25X	0.35	0.32	0.39
255	5	25X	0.23	0.20	0.19
256	5	25X	0.21	0.19	0.15

第5表　ピット状遺構一覧表（3）

番号	地区	出土区	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)
257	5	25X	0.37	0.31	0.36
258	5	25X	0.18	0.15	0.21
259	5	25Z	0.65	0.60	0.35
260	5	25e	0.37	0.35	0.31
261	5	25e	0.31	0.25	0.09
262	5	25f	0.37	0.28	0.47
263	5	25f	0.28	0.24	0.21
264	5	25g	0.49	0.32	0.38
265	5	25g	0.35	0.33	0.25
266	5	26V	0.63	0.61	0.21
267	5	26V	0.49	0.32	0.30
268	5	26V	0.30	0.20	0.29
269	5	26V	0.55	0.32	0.15
270	5	26W	0.25	0.20	0.23
271	5	26X	0.49	0.47	0.29
272	5	26X	0.22	0.15	0.23
273	5	26X	0.28	0.23	0.18
274	5	26X	0.27	0.20	0.21
275	5	26X	0.62	0.42	0.24
276	5	26Y	0.31	0.28	0.25
277	5	26Y	0.47	0.40	0.41
278	5	26Y	0.20	0.16	0.10
279	5	26Y	0.25	0.21	0.24
280	5	26Y	0.31	0.19	0.31
281	5	26Y	0.21	0.18	0.23
282	5	26Y	0.42	0.29	0.35
283	5	26Y	0.30	0.23	0.27
284	5	26Y	0.27	0.26	0.20
285	5	26Y	0.25	0.24	0.31
286	5	26Y	0.23	0.17	0.26
287	5	26Y	0.35	0.32	0.30
288	5	26Y	0.58	0.44	0.18
289	5	26Z	0.58	0.44	0.18
290	5	26Z	0.24	0.23	0.25
291	5	26Z	0.42	0.23	0.35
292	5	26Z	0.20	0.19	0.21
293	5	26Z	0.38	0.25	0.21
294	5	26Z	0.33	0.23	0.16
295	5	26Z	0.69	0.60	0.18
296	5	26Z	0.65	0.26	0.18
297	5	26b	0.36	0.26	0.30
298	5	26c	0.47	0.19	0.44
299	5	26d	0.35	0.28	0.27
300	5	26d	0.35	0.27	0.27
301	5	27U	0.44	0.36	0.19
302	5	27V	0.29	0.28	0.18
303	5	27W	0.31	0.28	0.31
304	5	27W	0.30	0.24	0.59
305	5	27W	0.35	0.21	0.17
306	5	27W	0.37	0.20	0.29
307	5	27W	0.34	0.30	0.41
308	5	27W	0.57	0.32	0.16
309	5	27W	0.29	0.26	0.29
310	5	27W	0.27	0.20	0.22
311	5	27W	0.31	0.20	0.22
312	5	27W	0.23	0.17	0.21
313	5	27W	0.22	0.21	0.24
314	5	27W	0.29	0.18	0.20
315	5	27W	0.21	0.20	0.23
316	5	27W	0.22	0.19	0.29
317	5	27W	0.34	0.20	0.12
318	5	27X	0.53	0.38	0.25
319	5	27X	0.27	0.20	0.26
320	5	27X	0.36	0.26	0.26
321	5	27X	0.40	0.24	0.14
322	5	27X	0.29	0.21	0.25
323	5	27Y	0.43	0.30	0.12

番号	地区	出土区	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)
324	5	27Y	0.22	0.18	0.31
325	5	27Y	0.25	0.20	0.27
326	5	27Y	0.22	0.19	0.24
327	5	27Y	0.26	0.19	0.15
328	5	27Y	0.31	0.25	0.26
329	5	27Y	0.25	0.23	0.17
330	5	27Y	0.21	0.18	0.22
331	5	27Z	0.20	0.19	0.30
332	5	27Z	0.17	0.13	0.20
333	5	27Z	0.24	0.22	0.26
334	5	27Z	0.26	0.26	0.24
335	5	27Z	0.27	0.22	0.36
336	5	27Z	0.19	0.15	0.27
337	5	27Z	0.28	0.16	0.26
338	5	27Z	0.36	0.24	0.30
339	5	27a	0.40	0.34	0.50
340	5	27a	0.32	0.25	0.48
341	5	27a	0.57	0.27	0.20
342	5	27a	0.60	0.48	0.21
343	5	27a	0.48	0.34	0.19
344	5	27a	0.52	0.21	0.13
345	5	27a	0.40	0.25	0.17
346	5	27a	0.36	0.25	0.25
347	5	27a	0.30	0.21	0.26
348	5	27a	0.85	0.62	0.44
349	5	27b	0.25	0.21	0.15
350	5	27b	0.46	0.32	0.14
351	5	27b	0.47	0.23	0.09
352	5	27c	0.36	0.29	0.23
353	5	27c	0.55	0.25	0.19
354	5	27c	0.66	0.44	0.19
355	5	27c	0.22	0.18	0.20
356	5	27c	0.29	0.29	0.29
357	5	27c	0.24	0.21	0.28
358	5	28S	0.69	0.50	0.27
359	5	28S	0.35	0.28	0.33
360	5	28S	0.65	0.42	0.29
361	5	28U	0.69	0.50	0.18
362	5	28W	0.50	0.25	0.32
363	5	28X	0.35	0.26	0.26
364	5	28X	0.27	0.22	0.25
365	5	28X	0.69	0.62	0.58
366	5	28Y	0.68	0.52	0.31
367	5	28Y	0.32	0.26	0.17
368	5	28Y	0.28	0.27	0.18
369	5	28Y	0.33	0.25	0.16
370	5	28Y	0.45	0.32	0.32
371	5	28Y	0.23	0.19	0.36
372	5	28Z	0.27	0.25	0.14
373	5	28Z	0.26	0.22	0.19
374	5	28Z	0.19	0.16	0.29
375	5	28Z	0.30	0.20	0.24
376	5	28Z	0.24	0.18	0.23
377	5	28Z	0.18	0.16	0.29
378	5	28Z	0.56	0.45	0.16
379	5	28Z	0.24	0.15	0.13
380	5	28Z	0.17	0.14	0.26
381	5	28Z	0.26	0.19	0.17
382	5	28Z	0.28	0.19	0.34
383	5	28Z	0.34	0.23	0.25
384	5	28Z	0.35	0.21	0.19
385	5	28Z	0.22	0.18	0.18
386	5	28Z	0.31	0.25	0.30
387	5	28a	0.59	0.36	0.35
388	5	28a	0.65	0.59	0.16
389	5	28a	0.31	0.24	0.47
390	5	28a	0.57	0.42	0.73

第6表　ピット状遺構一覧表（4）

番号	地区	出土区	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)
391	5	28b	0.27	0.22	0.39
392	5	28b	0.24	0.22	0.40
393	5	28b	0.64	0.38	0.45
394	5	29S	0.69	0.35	0.19
395	5	29S	0.69	0.65	0.15
396	5	29T	0.33	0.22	0.22
397	5	29T	0.67	0.35	0.25
398	5	29T	0.36	0.31	0.32
399	5	29T	0.39	0.23	0.27
400	5	29U	0.69	0.55	0.18
401	5	29U	0.69	0.65	0.23
402	5	29U	0.69	0.62	0.18
403	5	29U	0.65	0.35	0.28
404	5	29V	0.50	0.50	0.20
405	5	29V	0.65	0.54	0.19
406	5	29V	0.50	0.49	0.32
407	5	29V	0.65	0.33	0.15
408	5	29V	0.68	0.55	0.59
409	5	29W	0.60	0.38	0.06
410	5	29W	0.69	0.50	0.23
411	5	29X	0.46	0.32	0.26
412	5	29X	0.48	0.43	0.18
413	5	29Y	0.23	0.22	0.29
414	5	29Y	0.46	0.26	0.47
415	5	29Y	0.31	0.25	0.21
416	5	29Y	0.69	0.64	0.35
417	5	29Y	0.24	0.22	0.22
418	5	29a	0.69	0.43	0.38
419	5	29a	0.38	0.28	0.37
420	5	29a	0.29	0.24	0.18
421	5	29a	0.37	0.15	0.16
422	5	29a	0.13	0.13	0.24
423	5	29a	0.25	0.23	0.43
424	5	29c	0.48	0.34	0.49
425	5	29c	0.36	0.16	0.29
426	5	29C	0.69	0.51	0.27
427	5	30T	0.52	0.36	0.33
428	5	30T	0.68	0.50	0.32
429	5	30U	0.69	0.33	0.38
430	5	30U	0.69	0.48	0.20
431	5	30U	0.68	0.49	0.24
432	5	30U	0.68	0.67	0.27
433	5	30U	0.69	0.53	0.12
434	5	30U	0.31	0.24	0.07
435	5	30V	0.65	0.69	0.21
436	5	30V	0.64	0.33	0.23
437	5	30V	0.69	0.50	0.17
438	5	30W	0.67	0.58	0.27
439	5	30W	0.30	0.29	0.17
440	5	30Y	0.54	0.21	0.25
441	5	30Y	0.38	0.20	0.19
442	5	30Y	0.67	0.46	0.18
443	5	30Y	0.36	0.29	0.28
444	5	30Z	0.67	0.50	0.54
445	5	30a	0.68	0.66	0.12
446	5	30a	0.69	0.33	0.17
447	5	30a	0.54	0.31	0.18
448	5	30a	0.37	0.32	0.19
449	5	31T	0.48	0.29	0.28
450	5	31T	0.88	0.29	0.35
451	5	31T	0.69	0.42	0.20
452	5	31T	0.34	0.32	0.08
453	5	31T	0.48	0.38	0.16
454	5	31U	0.32	0.26	0.19
455	5	31U	0.34	0.24	0.20
456	5	31U	0.59	0.43	0.20
457	5	31U	0.39	0.31	0.10
458	5	31U	0.55	0.50	0.12
459	5	31V	0.94	0.38	0.35
460	5	31W	0.69	0.67	0.14
461	5	31W	0.68	0.62	0.12
462	5	31b	0.69	0.68	0.18
463	5	32W	0.62	0.28	0.34
464	5	32W	0.69	0.68	0.29
465	5	32X	0.63	0.39	0.28
466	5	32X	0.29	0.22	0.19
467	5	32Y	0.49	0.29	0.21
468	5	32Y	0.39	0.16	0.32
469	5	32Y	0.26	0.19	0.23
470	5	32Y	0.34	0.24	0.42
471	5	33X	0.41	0.28	0.23
472	5	33Y	0.24	0.22	0.27
473	5	34Y	0.16	0.14	0.14
474	5	34Y	0.18	0.17	0.16
475	5	34Y	0.29	0.28	0.14
476	5	34Z	0.27	0.20	0.18
477	5	34Z	0.27	0.23	0.22
478	5	35Y	0.32	0.24	0.22
479	5	35Y	0.25	0.16	0.12
480	5	35Y	0.20	0.17	0.16
481	5	35Z	0.18	0.17	0.18
482	5	35Z	0.25	0.18	0.07
483	5	38Z	0.62	0.42	0.16
484	5	38a	0.30	0.24	0.27
485	5	39Z	0.34	0.27	0.35
486	5	39b	0.35	0.25	0.17
487	5	40Z	0.41	0.24	0.23
488	5	40Z	0.58	0.50	0.10
489	5	40Z	0.45	0.40	0.25
490	5	40Z	0.29	0.22	0.29
491	5	40a	0.60	0.42	0.50
492	5	40a	0.62	0.30	0.23
493	5	40a	0.69	0.34	0.42
494	5	40a	0.69	0.55	0.35
495	5	40a	0.62	0.47	0.21
496	5	40a	0.52	0.43	0.34
497	5	40a	0.47	0.30	0.46
498	5	40a	0.34	0.25	0.53
499	5	40a	0.53	0.51	0.45
500	5	41Z	0.69	0.38	0.16
501	5	41Z	0.58	0.30	0.16
502	5	41Z	0.27	0.22	0.09
503	5	41Z	0.65	0.24	0.19
504	5	41Z	0.53	0.30	0.16
505	5	41Z	0.48	0.33	0.32
506	5	41Z	0.37	0.18	0.17
507	5	41Z	0.27	0.17	0.15
508	5	41Z	0.39	0.29	0.16
509	5	41Z	0.42	0.24	0.42
510	5	41a	0.69	0.39	0.29
511	5	41a	0.41	0.33	0.23
512	5	41a	0.69	0.47	0.20
513	5	42a	0.58	0.37	0.18
514	5	42a	0.34	0.29	0.18
515	5	42a	0.30	0.24	0.18
516	5	30a	0.43	0.28	0.34

第４章　縄文土器

第１節　分類について

本遺跡から出土した縄文時代の遺物は、縄文早期前半から晩期までの約10万５千点にのぼる。今回の報告では、有文土器を中心に文様要素・文様構成・器形など出土した土器から得られる特徴と既存の型式・近隣地域の遺跡における同時期と考えられる土器の分類等を考慮し、以下のように分類した。

Ｓ：早期
　Ｓ－１群　楕円押型文を施文する土器
　Ｓ－２群　条線文を施文する土器
　Ｓ－３群　山形押型文を主たる文様とし、隆帯・沈線を施す土器
　Ｓ－４群　条痕文系土器
Ｚ：前期
　Ｚ　　群　突帯文系土器
Ｃ：中期
　Ｃ－１群　粗い縄文を地文に施し、頸部がくびれ、キャリパー状を呈する器形の土器
　Ｃ－２群　粗い縄文を地文に施し、１群に比べ頸部のくびれが緩やかな土器
　Ｃ－３群　半截竹管工具による半隆起線文と「Ｃ」字形刺突列を施す土器
　Ｃ－４群　縄文地に半截竹管工具による並行沈線文を施す土器
　Ｃ－５群　縄巻縄文地の土器
　Ｃ－６群　撚糸文地に半截竹管工具による平行沈線文を施す土器
　Ｃ－７群　沈線による渦巻文・区画文を主たる文様とする土器
　Ｃ－８群　口縁部文様帯をもち、胴部に懸垂文を施文する土器
Ｋ：後期
　Ｋ－１群　２本沈線による磨消縄文を施す土器
　Ｋ－２群　幅の狭い２本沈線または３本沈線による磨消縄文を施す土器
　Ｋ－３群　口縁の肥厚が著しく、その上面に主たる文様部をもつ土器
　Ｋ－４群　口縁部の肥厚・屈曲によって文様帯を形成する土器
　Ｋ－５群　堀之内式土器またはそれと並行する土器
　Ｋ－６群　加曽利Ｂ式土器またはそれと並行する土器
　Ｋ－７群　屈曲した口縁部および胴上部に主に沈線による文様を施す土器
　Ｋ－８群　屈曲した口縁部および胴上部に主に凹線による文様を施す土器
Ｂ：晩期
　Ｂ　　群　晩期末・弥生前期の条痕文系土器

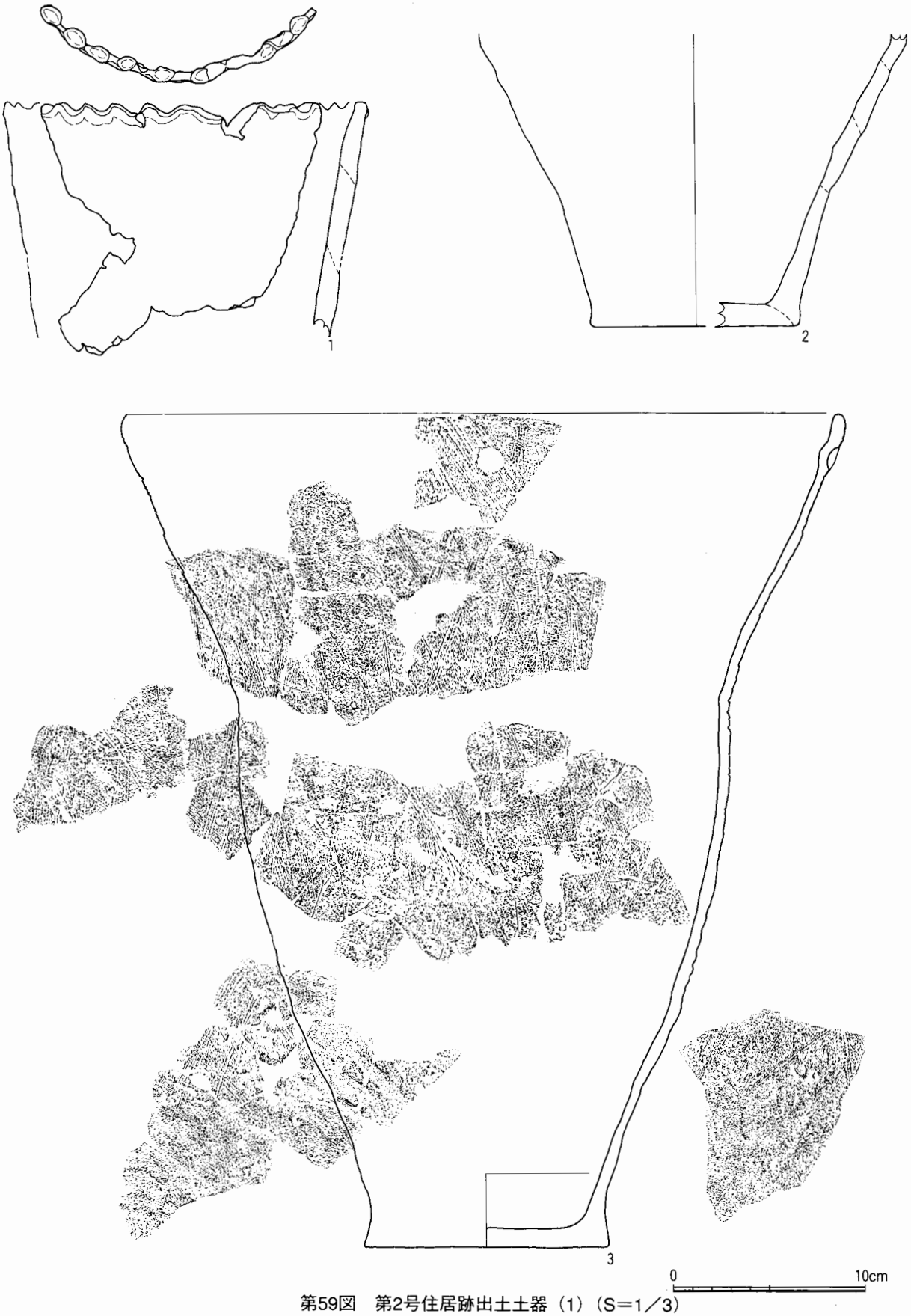
さらに、群の中を「類－種」の順で細分した。細分内容については各群の中で述べることにする。
なお、「第２節　遺構出土土器」の中における記述も基本的に上記の分類記号を使用した。

第２節　遺構出土土器

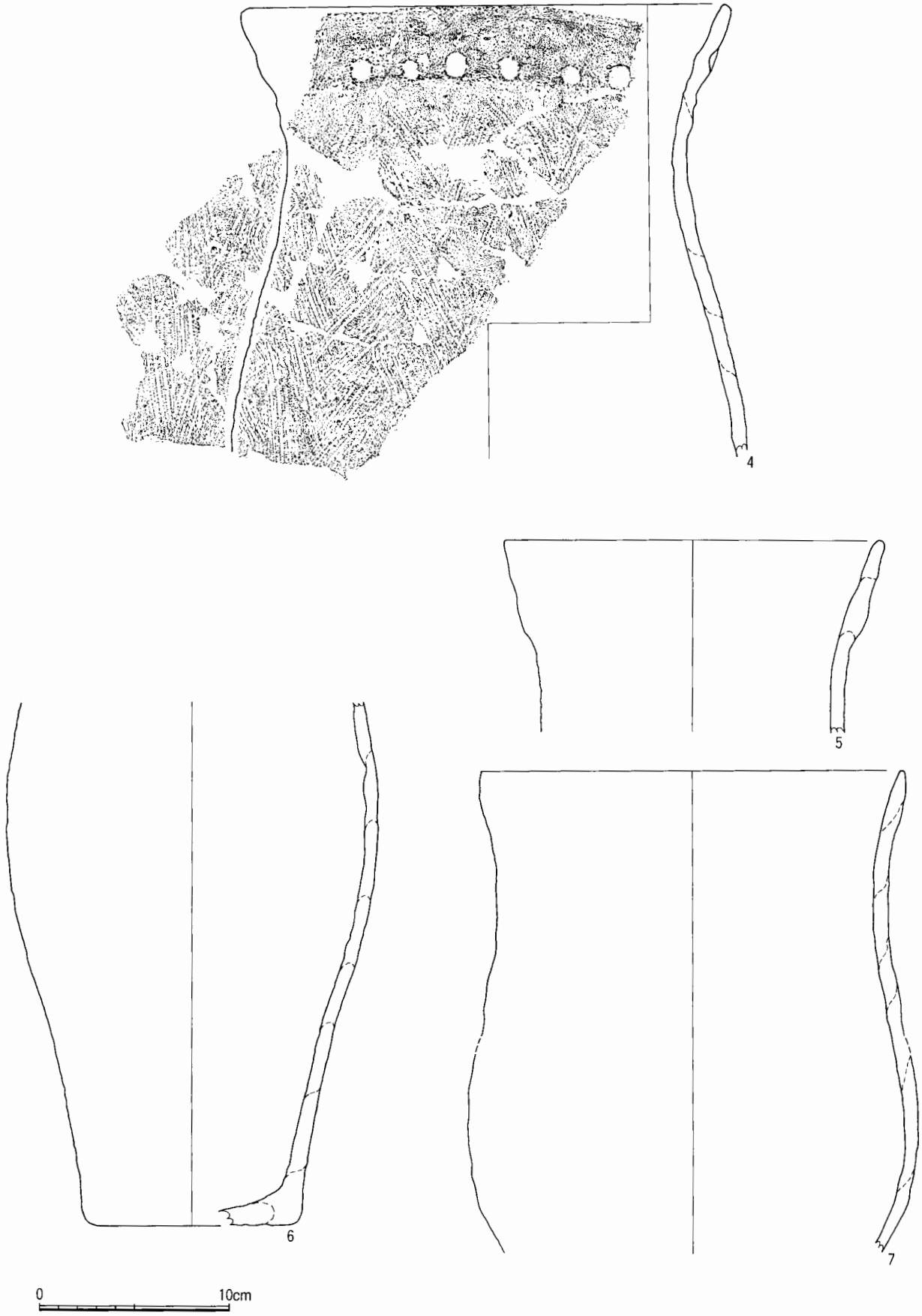
遺構から出土した土器を遺構ごとにまとめて報告する。

１．第２号住居跡　出土土器（第59・60・61図１～38　図版14・15・16）

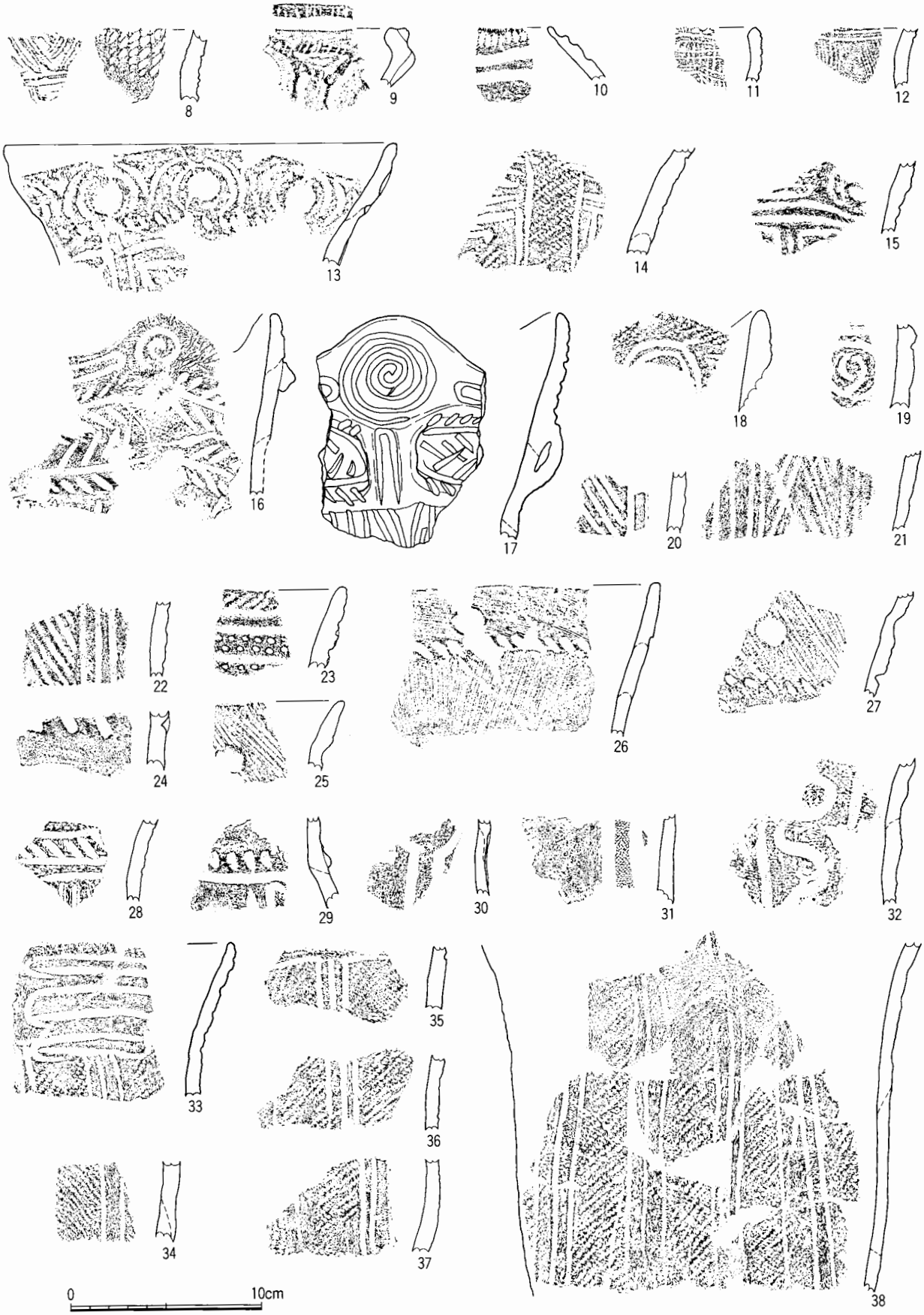
１・２は胎土が類似し、同一個体の口縁部と底部と思われるが胴部の状況がはっきりしない。１はバケツ形の器形を示し、口縁部はほぼ直線的に開く。口唇部に円棒状工具による刻みが施されている。調整は荒いナデによる調整がなされている。２は平底で胴部に向かって大きく開く。胎土は赤褐色で、荒いナデによる調整がなされている。３は平底で、胴部が若干膨らみ頸部で緩くくびれ、口縁部に向かって外反し口縁上端が若干内彎する。口縁部に指頭による円形押圧が施文される。押圧は比較的深く、内面が凸状に膨らむ。口縁部から胴下部にわたって羽状の条線が施文される。中期最終末～後期初頭にさしかかる時期の土器と考える。４は胴部が大きく膨らみ、頸部がくびれる器形を呈する。口縁部は肥厚し肥厚帯の下端に指頭による円形押圧が施文される。胴部には羽状条線が施文される。時期的には３と同時期と考える。５は頸部以上が残存する土器で頸部が若干くびれる。口縁部を肥厚する以外無文である。器形から中期最終末の土器と考える。６も口縁部を欠損する無文の土器である。胴部が膨らみ頸部がくびれる器形を呈する。中期末の土器と考える。７は胴部が大きく膨らみ頸部が若干くびれる器形である。無文である。口縁部の肥厚は見られない。１～７はＣ－８群土器に並行する中期末葉の土器と考える。８はＰ３からの出土である。半截竹管状工具による並行沈線による文様で、内面に縄文が施文される。口縁付近か。９は刻みの入った隆帯を貼り付けている。８・９いずれもＣ－４群ａ類船元Ⅲ式に比定できる。10は口縁上端に口縁ラインに沿って沈線を施文し沈線溝内に刺突を施す。キャリパー状の器形を呈すると想定でき、Ｃ－７群に含まれると考える。11は撚糸文地文に半截竹管状工具による並行沈線が施文されている。12も同じ文様意匠であり、いずれもＣ－６群ａ類に含まれる。13は口縁部が緩く彎曲しながら開く器形を呈し、口縁部に指頭によると思われる円形刺突を施し、その周囲に波紋状に沈線を引く。胴部と口縁部の境に刺突列を巡らし、胴部に縦位区画を作り、区画内に羽状沈線と思われる文様を充填する。縦位区画沈線の上端は横位沈線によって連結する。Ｃ－８群ｂ類に含まれる。14は縦位に２本の沈線が引かれ、沈線間に横位沈線、区画文等が充填されると想定できる。15は頸部に横位沈線が２本巡り、口縁部に渦巻文、胴部に縦位区画文が施文されると考えられる。指頭による円形押圧文も見られる。16・17は同一個体と考えられる。緩やかな波状口縁の波頂部を山形に突出させ、そこに渦巻文を配している。16のそれは渦巻文が小さく、17は大きい。その両側に口縁ラインに沿って横位に区画文が渦巻文と独立して施文される。渦巻文の下部には橋状の把手を付け、把手に沈線による逆Ｕ字状文を施文する。橋状把手の付け根から両側へ貼付隆帯が横位の区画を作る。隆帯の上にはヘラ状工具による斜位の刻みが施される。区画内には羽状沈線が充填される。羽状沈線の施文は、まず口縁側の斜位短沈線を横位に連続施文し、次に底部側の斜位沈線を横位に連続施文していると考えられる。区画直下に胴部文様帯が配され、垂下する沈線による区画の中に羽状沈線が施される。18は波状口縁波頂部と考えられる。渦巻文と地文に縄文が施文されている。19は渦巻文の中央部が観察できる。20は胴部で縦位沈線による区画とその中に羽状沈線が施文されているのがわかる。21・22も胴部に区画文と羽状沈線が充填されている。23は口縁上端に



第59図　第2号住居跡出土土器（1）（S＝1／3）



第60図　第2号住居跡出土土器（2）（S＝1／3）



第61図　第2号住居跡出土土器（3）（S＝1／3）

縄文が施文され、その下に横位沈線が巡り、無文部を置いてさらにその下の沈線間に棒状工具の先端による刺突が充填されている。刺突列充填の文様帯が２段続く。24は頸部にヘラ状工具による刺突列が施されているのが観察できる。25は口縁部に条線を施文し、指頭か先の丸い円棒状工具による刺突が施される。刺突によって土器内面に凸部ができている。26は口縁部に無文帯を形成し、その下にヘラ状工具による横位の連続刺突を施し、その下に条線文が施される。条線は、縦位と斜位のものがあり羽状沈線に近い文様意匠をもっている可能性がある。27は25と同一個体と思われる。28は頸部に２条の横位沈線を引き、沈線間に斜位の短沈線を連続施文している。その下にもう１本沈線を引き、以下に縦位沈線と羽状沈線が施文される。29は刻みを施す隆帯をもち、その下に縦位文様がくると思われる。30は沈線による円文とそこから連結して下方へのびる２条の沈線をもつ。沈線の施文による土器内面の凹凸が特徴である。31も内面に凹凸をもつもので磨消縄文がみられる。32も土器内面に凹凸が見られる。縦位沈線と沈線間に蛇行する懸垂文が施文される。30～32はＣ－８群の中でも特に中期最終末～後期初頭の時期に位置づけることのできる過渡期の文様構成と考える。33は口縁上端に横位縄文帯をつくりその下に横長の沈線区画を２つ配し、さらにその下に１本の横位沈線を施文しそこから垂下する沈線によって縦位区画をつくる。縦位区画は磨消縄文が施される。34～38は文様意匠が同じであり、同一個体の可能性もある。縦位の３本沈線が１セットとなり、セット間を広くとり、そこに磨消縄文を施す。

以上第２号住居跡覆土から出土の土器は、船元Ⅲ式から中期最終末までの土器が出土しているが、８がＰ３から出土しており、住居使用時は船元Ⅲ式期であった可能性を考える。覆土出土の土器の主体から、住居廃絶後中期末葉の時期に多数の土器が投棄されたと考える。

２．第３号住居跡　出土土器（第62図39～48　図版16）

39は撚糸文を地文にもち、その上に半截竹管状工具による連弧文を施す。40にも撚糸文が施される。41は口縁部破片で、円形刺突列が横位に２列並ぶ。42・43も撚糸文が施文される。39～43はＣ－６群に属する。44は、口縁部に円棒状工具による刺突列を押引施文し、その下に同じ工具によると思われる沈線で波状文を描く。45は口縁屈曲部に波状文を横位施文するのがわかる。44・45はＣ－７群に属する。46は頸部に横位沈線、胴部に垂下する沈線が施され、縦位沈線間に羽状条線文が施文されると考えられる。47・48は胴部の縦位沈線とその間に施文される羽状沈線の一部と思われる文様が観察できる。46～48はＣ－８群に属する。

３．第４号住居跡　出土土器（第62図49～51　図版16）

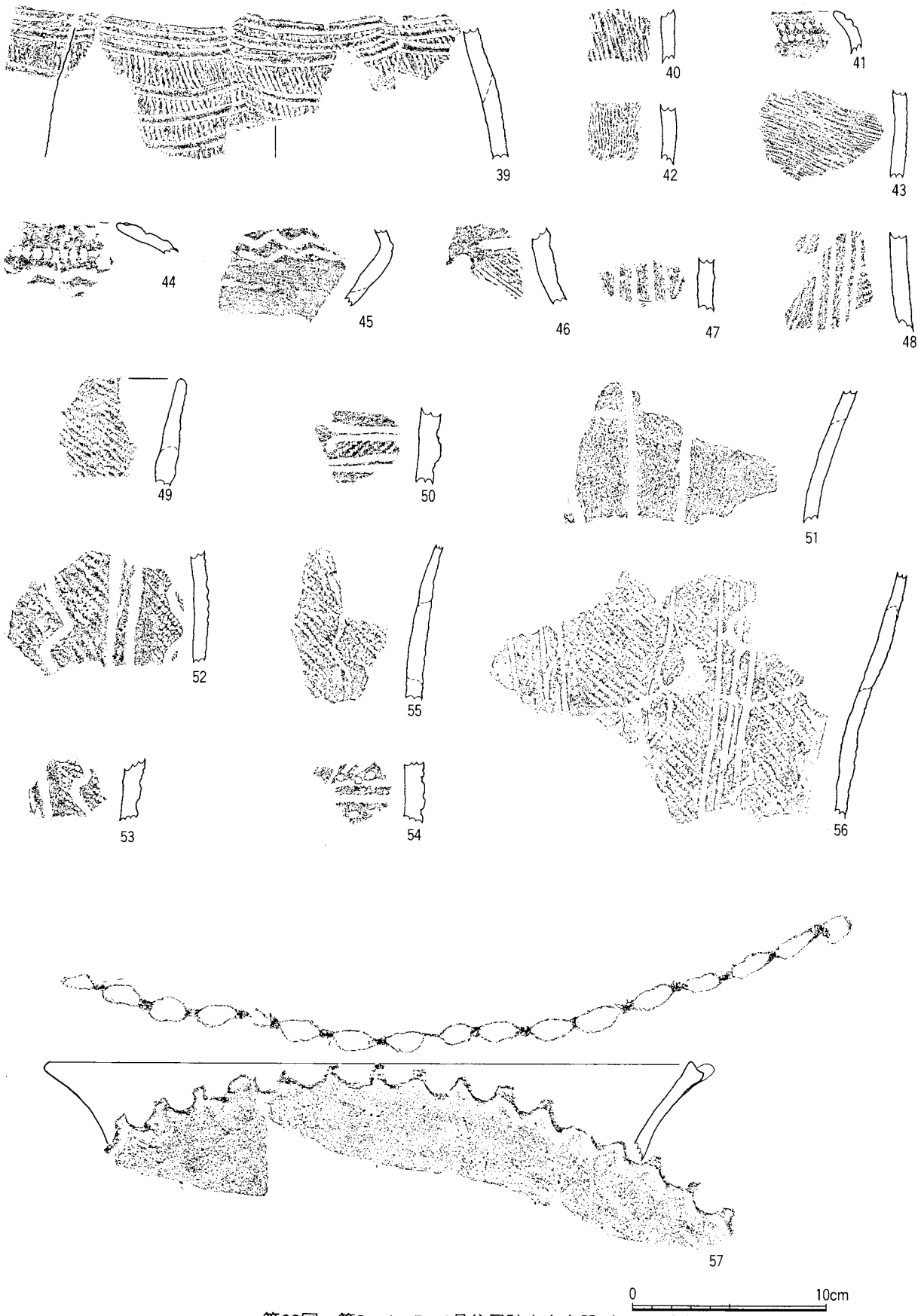
第４号住居跡からは小片無文の土器の出土が多かった。ここでは有文土器のみを掲載する。49は口縁部に縄文を施す。50は縄文地に沈線を施文する。一部沈線の末端部に刺突が観察できる。51は縦位沈線のみ施文される胴部である。沈線施文部の内面が凸状に膨らむ。49～51はいずれもＣ－８群に属する土器と考える。

４．第５号住居跡　出土土器（第62図52～54　図版17）

52・53は胴部に縦位沈線と磨消縄文、蛇行する懸垂文が観察できる。54は２本以上の並行する沈線による区画内に刺突が充填される。いずれもＣ－８群に属する。

５，第６号住居跡　出土土器（第62図55～57　図版17）

55・56は縦位区画内に磨消縄文と蛇行する懸垂文が施文される。57は外反する口縁部器形を呈し、



第62図　第3・4・5・6号住居跡出土土器（S＝1／3）

口唇部を円棒状工具で刻む。第１号住居跡出土土器１の口縁部と類似する。

６．第７号住居跡　出土土器（第63図58～79　図版17・18）

58は縦位の短沈線による施文が見られる。59は縄文地に並行沈線を施文する。60は貼付隆帯の断面が三角形を呈し、隆帯間に沈線が施文される。61も隆帯と沈線による施文である。62は59と類似するが、地文の縄文が異なる。63は隆帯の上に刻みが入る。64は刻みのない隆帯による施文である。66も同類である。いずれもＣ－４群に属する。67は縄巻縄文施文の土器である。Ｃ－５群に属す。68は文様の全容は不明だが、空間は無文、縦位刺突等の特徴からここではＣ－７群に属する土器ととらえる。69～75はＣ－６群に属する土器である。地文に撚糸文をもち、頸部に連弧文が見られる。73は口縁部が内彎し、頸部が若干くびれ、胴部が膨らむ器形を呈する。頸部無文帯の上端と下端に並行沈線による波状文が見られる。74は沈線による連弧文が見られる。75は遺構の床面直上から出土した底部である。Ｃ－６群の時期に比定できると考える。76～78は同一個体と考えられ、口縁部は外反し頸部がくびれ、胴部が膨らむ器形を呈すると想定できる。口唇部を刻み、口縁部から胴部まで縦位に雑な条線状の沈線を施文する。79は頸部無文帯をもち横位沈線以下に縦位の区画をつくり、縄文を充填している。Ｃ－８群、中期末葉のものと考える。

７．第６号集石遺構　出土土器（第64図80～83　図版19）

80は幅の狭い凹線による施文と、その間に刻みの入る土器である。81は口縁部で２本の横位凹線の間に刻みが入る。82は内傾のない口縁部で、内面にも凹線が施文される。83も82同様、口縁内面にも１条凹線が施文される。

８．第11号集石遺構　出土土器（第64図84・85　図版19）

84は頸部以上が緩やかに外反し、口縁部で内折する器形を呈し、口縁部文様帯に２条の沈線を口縁ラインに沿って施文する。２本沈線の上側・下側に刻みを施す。波頂部に下側の沈線から垂下する短沈線が見られる。Ｋ－７群に属する。85は底部中央がくぼみをもち、84と同時期の底部と考える。９．

９．第１号土器埋設遺構　出土土器（第64図86～88　図版19）

86は口縁部が内側へ屈曲する器形を呈し、屈曲部の上下に２条の沈線を施文する。沈線を区切る縦位隆帯を貼付し、沈線の外側および隆帯上に縄文が施文される。また口唇部に刻みを加える。87は並行にならない２条の沈線を口縁部に施文し、その外側に刻みを施す。いずれもＫ－７群に属する。88は胴下部から底部までの破片で、底部中央がくぼむ。Ｋ－７群と同類の土器と考える。

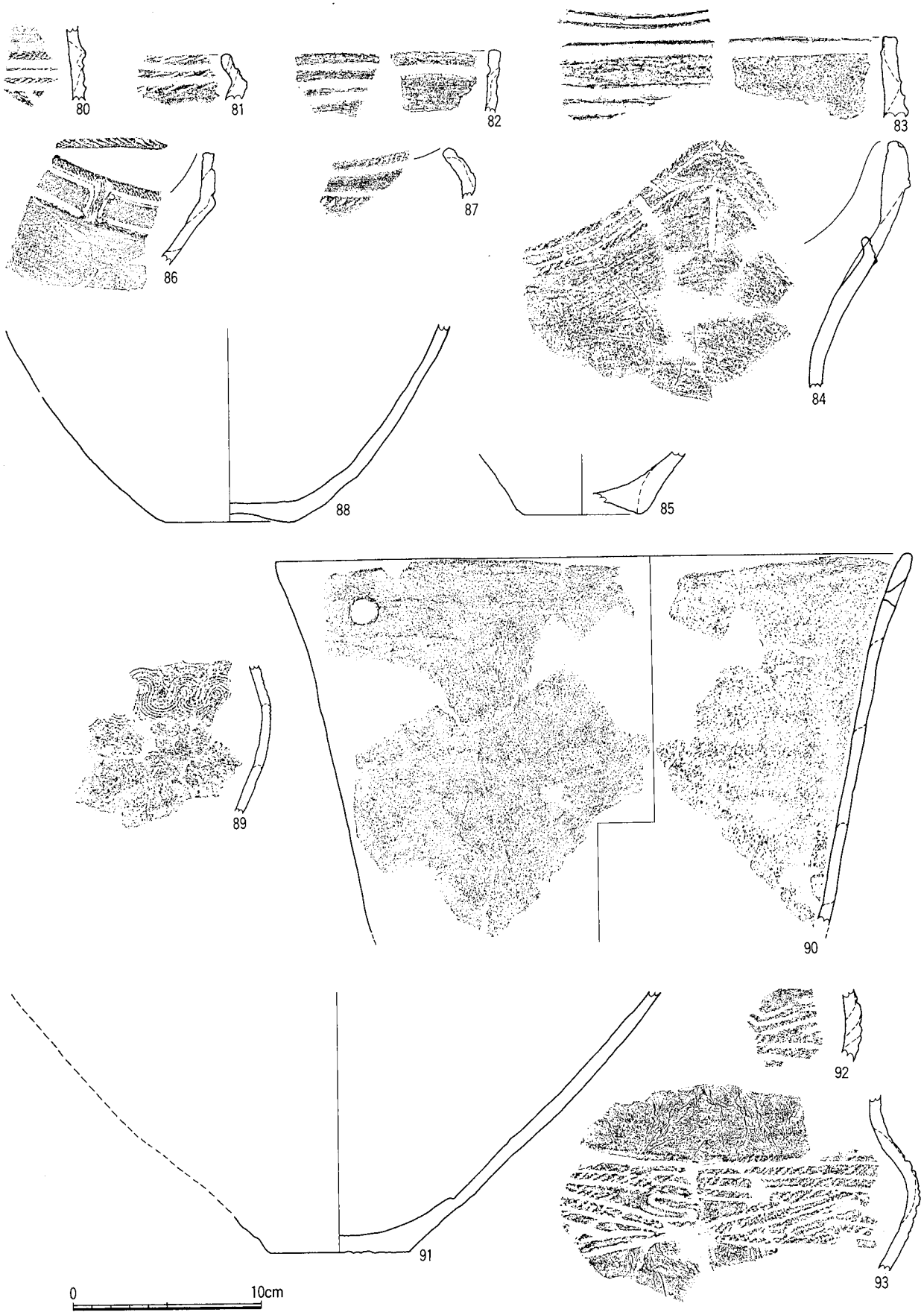
10．第３号土器埋設遺構　出土土器（第64図89～91　図版19）

89は巻貝による条線を交互に回転させて施文していると考えられる。90は無文で胴部から口縁部へほぼ直線的に外へ開く器形をもつ。焼成前の段階で口縁部に孔をあけている。91は胴部径と比較して径の小さい底部をもつ土器である。

11．土器集中区１　出土土器（第65図94　図版20）

この遺構より出土した土器はほぼ１個体と考えられ、残存率の比較的高い土器である。口縁部の残りが良好で全貌を想定できた。頸部の状況および胴部の状況もわずかではあるが手がかりが得られ、復原可能となった。ただし底部は出土していない。９単位の波状口縁と考えられ、２区間が若干広い。頸部はくびれ、胴部は膨らむ。波頂部に指頭によると考えられる円形刺突が施され、それを結ぶように、口縁ラインに沿って、２条の円形刺突列が施文される。口縁部付近には刻みが施される。波頂部

第63図　第7号住居跡出土土器（S＝1／3）



第64図　第6・11号集石遺構、第1・3号土器埋設遺構、土器集中区2出土土器（S＝1／3）

第65図　土器集中区1出土土器（S=1／3）

の円形刺突の下部には、円棒状工具の先端によると考えられる刺突によって円形の浮文がつくられる。さらにその下に同じく円棒状工具の刺突による下弦の連弧文が施文される。このあたりから下へ縄文が施文される。Ｃ－１群に属する土器である。

12. 土器集中区２　出土土器（第64図92・93　図版19）

92は沈線文と磨消縄文が観察できる。93は頸部から口縁部にかけて無文の鉢形土器と考えられる。いずれもＫ－４群土器に属すると考える。

13. 土器集中区３　出土土器（第66図95～97　図版19）

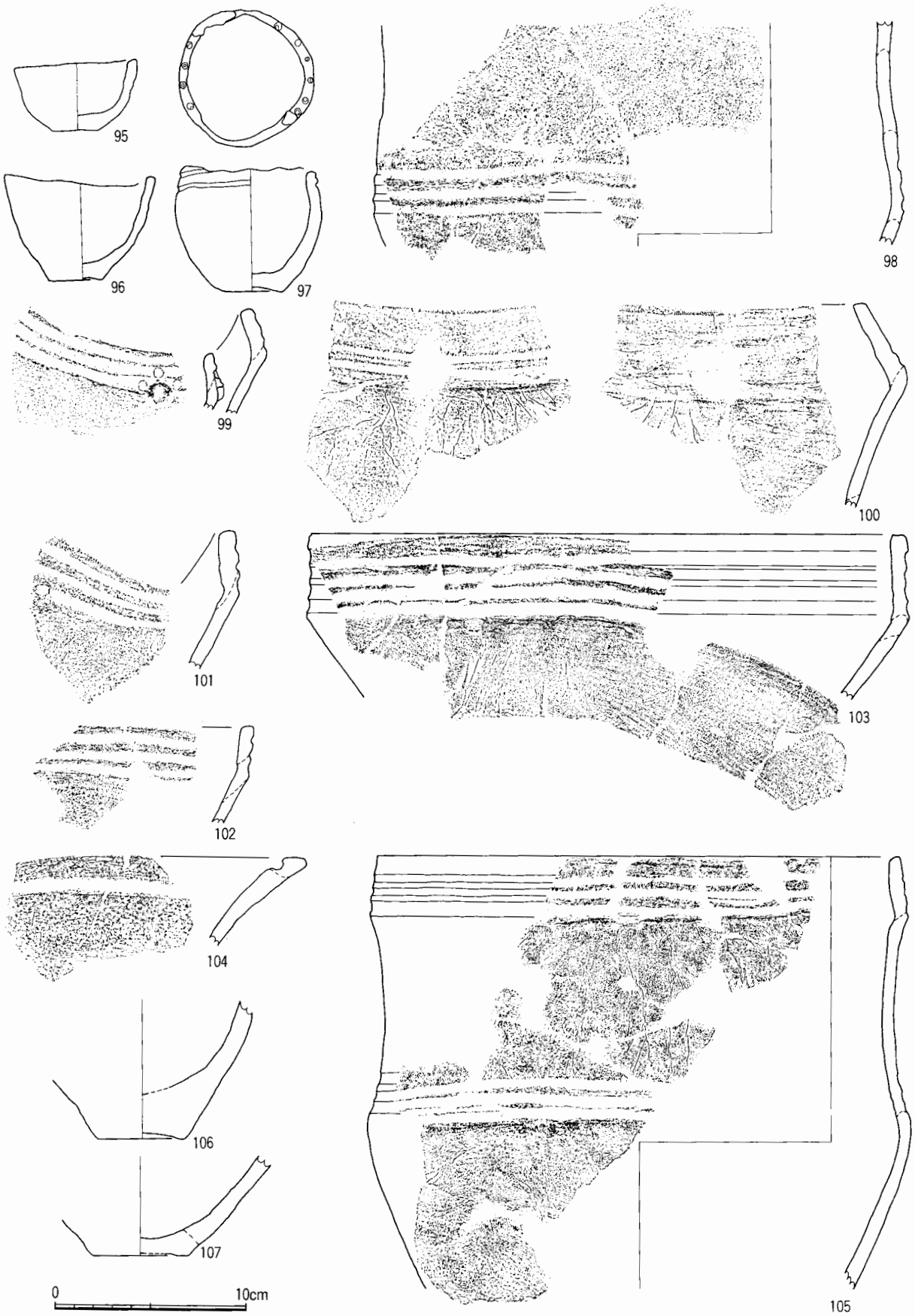
３点とも、他の深鉢・鉢・浅鉢等に比べて小さい土器である。ミニチュア土器とよばれる類に入る。95は３つの中で最も小さい。96は95を納めるのにちょうどよい大きさである。いずれも手捏ねによる製作と考えられる。97は口縁部に沈線文をもつ土器である。粘土紐の輪積みによる製作の可能性が高い。Ｋ－７群に属する土器と考える。

14. 土器集中区４　出土土器（第66・67図98～113　図版20・21）

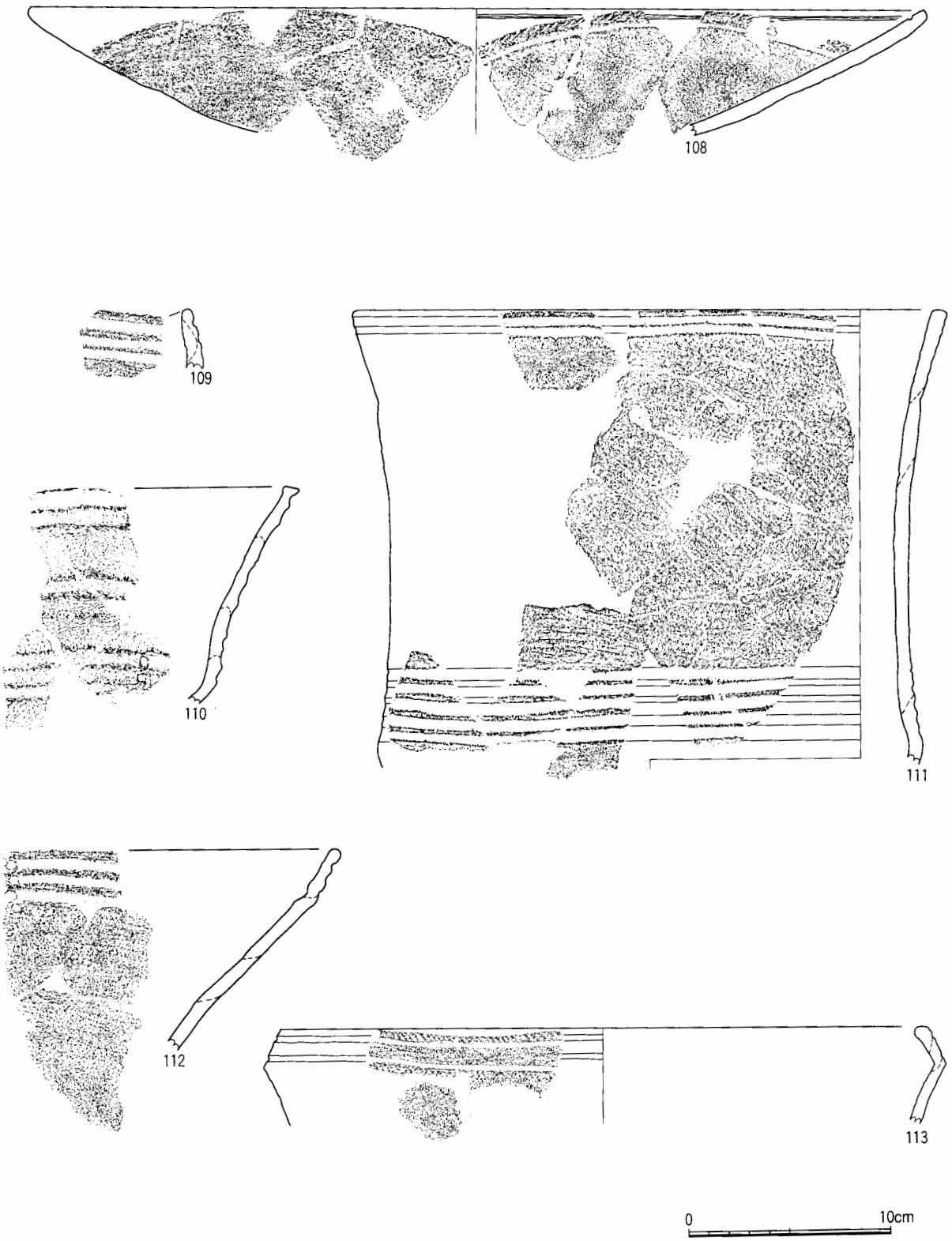
この遺構からは主にＫ－８群の土器が多量に出土した。98は胴上部に３条の凹線をもつ土器である。99は波状を呈する口縁で、口縁屈曲部に３条の凹線を密接して施文し、波底部に粘土を貼り付け、その上から巻貝による刺突を加え、それを取り囲む位置に３カ所刺突を施す。100は屈曲した口縁部の下方に２条の凹線を施文する。101は波頂部にかけて凹線の間隔が広がる特徴をもち、巻貝刺突が見られる。102は屈曲の緩い平口縁で、屈曲部に３条の凹線を施文する。103は口縁屈曲部に４条の凹線を施文するが刺突は見られない。欠損部にある可能性がある。104は外反する口縁部の内側に凹線を施文する。105は胴上部と口縁部に凹線を施文する。106・107は胴部径に比して底部径の小さい底部で他の土器と同類土器と考える。108は浅鉢で、口縁内面に沈線を引き、口縁上端との間に刻みを斜位に施す。109は口縁部に凹線が施文されている。110は頸部から口縁部にかけて外へ開く器形を呈する。口縁部と胴上部に凹線を施文するが、頸部にも施文される。111も頸部から口縁部へ向けて外へ開く器形を呈する。口縁部と胴上部に凹線を施文する。112は頸部から口縁部に向かって外へ開き、口縁部が緩く屈曲する器形を呈する。口縁部凹線の途中に巻貝刺突が縦位に３つ施文されている。113は口縁部に２条の沈線を引きその外側に縄文を施す土器である。これのみＫ－７群に属する。あとはＫ－８群に属する土器と考える。

15. 土器集中区５　出土土器（第68図114～121　図版21・22）

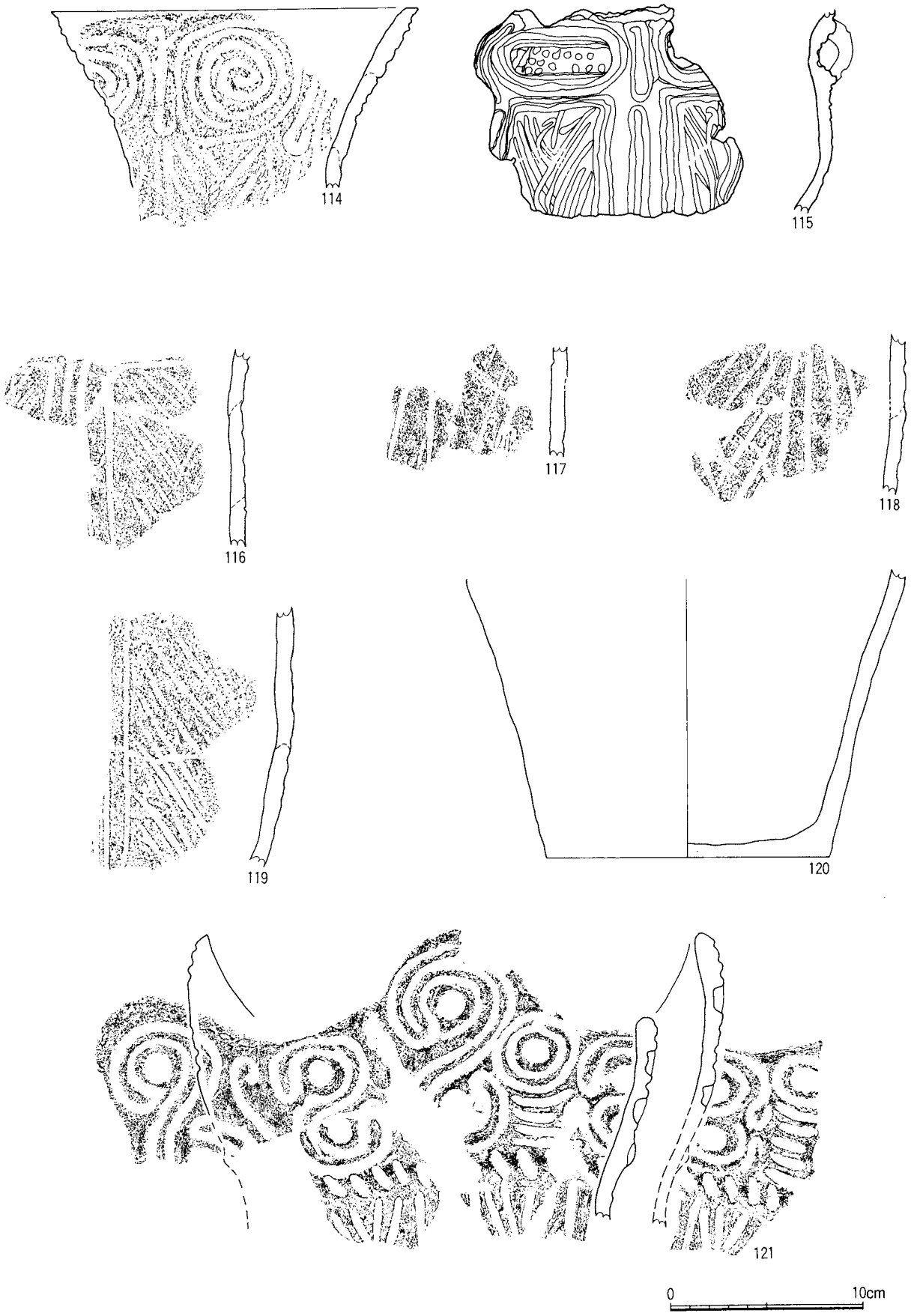
114は頸部から口縁部に向かって外へ開く器形を呈する。口縁部に沈線による渦巻文と、その間に逆Ｓ字状の文様が配される。頸部の境を示す文様はなく、胴部は渦巻文とＳ字状文の直下から縦位の沈線を施文し、それによってできた区画のなかに羽状沈線を施文している。115は口縁部の形状が不明である。頸部と考えられる位置に橋状把手をつくり、その間に隆帯による区画を形成している。区画内には刺突が充填される。その下に沈線による縦位の区画文をつくり、区画内に羽状沈線と羽状文中央部に蛇行する懸垂文を施している。区画と区画の間には、幅の狭い縦位区画文が配される。116は胴部片で縦位沈線と羽状沈線が観察できる。117・118・119も同一個体の可能性が高い。120は無文の底部である。121は５単位と想定できる波状口縁で、逆Ｓ字状文を主たる文様にもつ土器である。波頂部に大きめの逆Ｓ字状文、波底部に小さめの同文様が配され、逆Ｓ字の回り込む中心部には円形の刺突を施している。その間を同心円文や、短沈線等で満たし、頸部に刻みの入った横位隆帯を貼り



第66図　土器集中区3・4出土土器（S＝1／3）



第67図　土器集中区4出土土器（S＝1／3）



第68図　土器集中区5出土土器（S＝1／3）

付けて、口縁部文様帯と胴部文様帯の境としている。その下に縦位沈線と、それによってできる区画内に羽状沈線が充填される。

16．第１号土坑　出土土器（第69図122～124　図版23）

122は屈曲する口縁部で凹線が施文される。123にも凹線が見られる。124は浅鉢的器形の口縁部で凹線が施文される。

17．第２号土坑　出土土器（第69図125・126　図版23）

125は無文の口縁部である。屈曲のない平口縁である。126は左右の器形がいびつな底部で、胴部径に比して底部径が非常に小さい。

18．第26号土坑　出土土器（第69図127～133　図版23）

127～133は第26号土坑出土土器である。127は縦位沈線と縄文が観察できる。Ｃ－８群に属する。128は縄文地に半截竹管状工具による並行沈線が施される。Ｃ－４群に属する。129は条線と縄文施文が見られる。130は撚糸文地に半截竹管状工具による施文が観察できる。Ｃ－６群に属する。131・132・133も同類である。

19．第27号土坑　出土土器（第69図134・135　図版23）

134は縄文施文が観察できる。135は隆帯上に爪形の刻みが施される。

20．第31号土坑　出土土器（第69図136　図版23）

136は沈線間に刺突が充填される。Ｃ－８群に属する。

21．第35号土坑　出土土器（第69図137　図版23）

137は縦位沈線による区画内に羽状条線が充填される。

22．第41号土坑　出土土器（第69図138～142　図版23）

138は隆帯上に並行沈線を施文する。139は隆帯間に短沈線を充填する。140は縄文が施文されている。141は縦位沈線による区画内に縄文を充填している。142は縦位沈線による区画内に条線を施文している。

23．ピット状遺構出土土器（第69図143～158　図版23）

143はＰ36より出土した。胴上部に沈線文、頸部から口縁部にかけて無文の鉢の土器片と思われる。144はＰ52より出土した。注口土器の一部と考える。145はＰ53より出土した。口縁部に沈線文を施し、その間に刻みを施す。146はＰ67より出土した。口縁部下端に１条沈線を施文しその下の屈曲部に刻みを施す。147はＰ73より出土した。縄文地に垂下する蛇行文が観察できる。148はＰ100より出土した。沈線間および沈線と連弧文の間に磨消縄文が見られる。149はＰ101より出土した。口縁部に２条の沈線を引きその外側に刻みを施す。150～154はＰ115より出土した。150は横位沈線と縦位沈線および刻みが見られる。151は横位沈線間に縄文が見られる。152も沈線間がやや広く磨消縄文が見られる。153は２本沈線による磨消縄文である。154は沈線のみ観察できる。155はＰ147より出土した。口縁部と考えられ、２本の凹線と、その途中に巻貝による刺突が見られる。156はＰ348より出土した。胴部片で縦位沈線とそれによる区画内に羽状沈線が充填される。157はＰ416より出土した。波状を呈する口縁部と思われる。波頂部に、中央に円形の刺突をもつ渦巻文が配され、その左側に斜位沈線が施文されていると思われる。右側も同様の文様の可能性が高い。158はＰ516より出土した。羽状文的な条線文が施される胴部である。

第69図　土坑・ピット状遺構出土土器（S＝1／3）

第３節　包含層出土土器

Ｓ－１群土器

楕円押型文を施す土器（第70図159～162　図版24）。

159・160の楕円は４×３㎜、161は7.5×３㎜、162は、６×３㎜の大きさでいずれもポジティブな楕円押型文である。159の口唇部外面に短沈線が施されている。

Ｓ－２群土器

条線文系土器（第70図163・164　図版24）。

格子状に条線を引いている。器壁は比較的厚く、８～10㎜を測る。163の条線は幅４㎜程度の棒状工具で施文されていると考えられる。164は、幅52㎜程度の先が分かれた板状工具で施文されていると考えられる。

Ｓ－３群土器

山形押型文を主に施文する土器（第70図165～180　図版24）。

山の頂部は緩やかである。隆帯・沈線等の文様構成により、６類に分類した。

ａ類　隆帯を貼付し、その上にも地文と同様の山形押型文を施す土器（173）。
　地文と隆帯上の施文方向が異なる。地文は縦位に、隆帯上は横位に回転押捺している。

ｂ類　幅の広い扁平な貼付隆帯の上に指先で刻みを入れ、地文に山形押型文を施文する土器（170～172）。

ｃ類　円棒状工具で縦・横位に押し引き文を施文する土器（179・180）。180からは、胴部に横位に隆帯を貼付し、その上に山形押型文を施文しているのが観察できる。

ｄ類　口縁部と胴部に数条の横位沈線を引き、沈線間が隆帯風に盛り上がった部分を縦位に刻んでいる土器（177・178）。177・178は同一個体の可能性が高い。177は、口縁部に３条の横位沈線を引き、沈線間の隆帯風部分を縦位に刻んでいる。胴部には竹管状工具による斜位沈線と、刺突列を施している。口唇部には刻みを入れ、口縁部内面に横位山形押型文を施文する。178は177の胴部と考えられ、頸部が緩やかにくびれ胴部が膨らみをもつ。口縁部と同様の文様意匠をもち、沈線以下器面全体に山形押型文を施している。

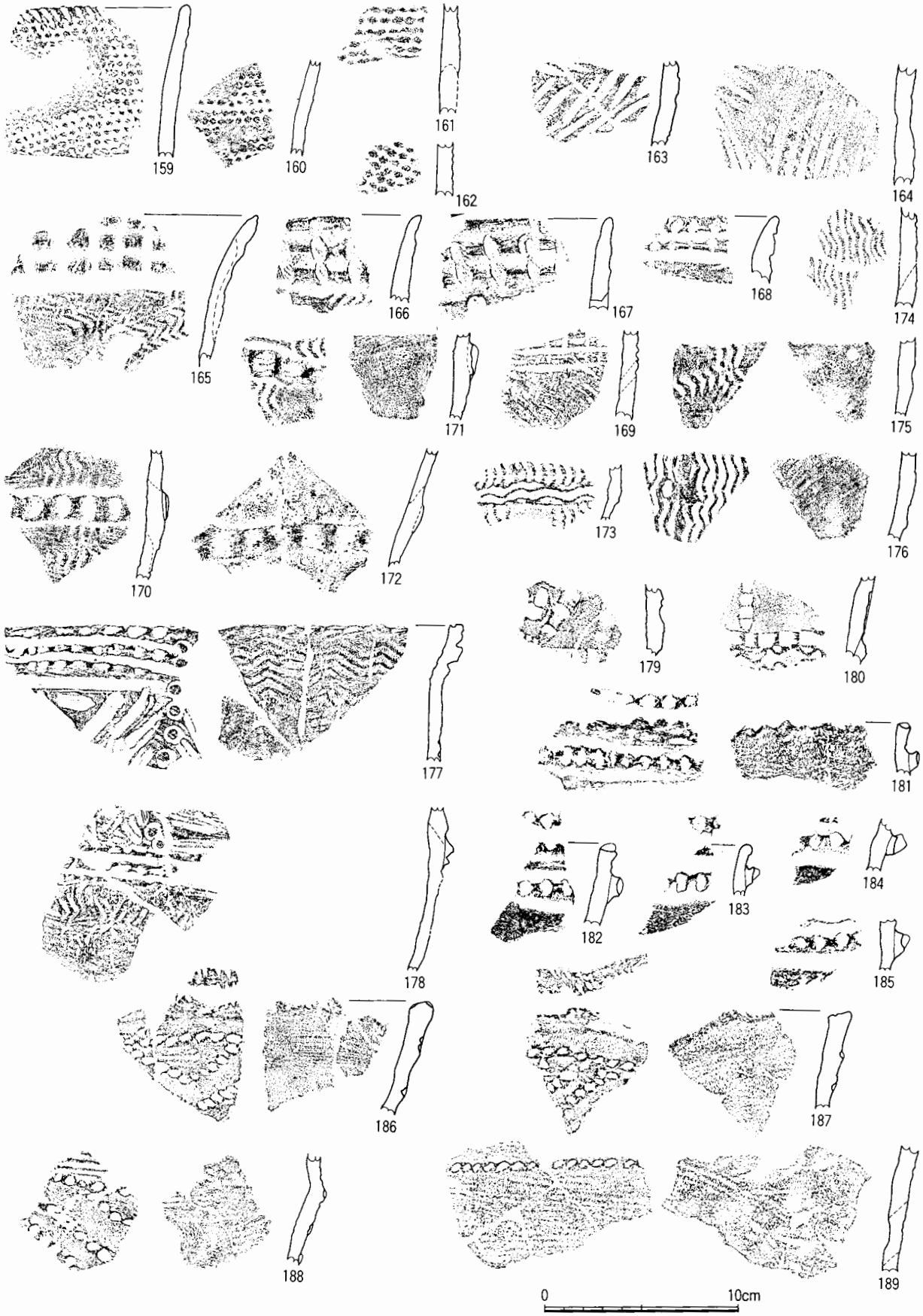
ｅ類　口縁部に横位および縦位沈線によって施文する土器（165～168）。
　口縁部文様帯以下に山形押型文を施す。横位沈線によってできた隆帯風の盛り上がり部分を縦位の沈線で切ることによって刻みを入れたように見える文様をつくる。口縁は外反する器形となる。

ｆ類　この群に属する胴部（174～176）。
　いずれも頂部の緩やかな山形押型文を縦位に施している。

Ｓ－４群土器

整形・調整を主たる目的として条痕が施されていると考えられる土器（第70・71図181～191　図版25）。植物繊維が含まれていた痕跡を多く残す。付加された文様によってａ～ｃ類に分類した。

ａ類　比較的高めの隆帯に円棒状工具で刻みをいれ、口唇部にも同様の刻みを施す土器（181～



第70図　包含層出土土器（1）　S群（S＝1／3）

185)。上ノ山式土器に比定できると考える。

b類　連続爪形文を施す土器（186～189)。186・187は、ともに口縁部で、口唇部に内外両側からの刻みがみられる。188は横位刺突列の上部に条痕文が明瞭に見える。189は胴部下側の刺突列と考えられる。口縁にそって1条の爪形刺突列を施し、以下に波状の刺突列を施文している。八ッ崎Ⅰ式に比定できる。

c類　口縁部に2条の扁平な隆帯を貼付し、隆帯状にヘラ状工具による刻みを入れた土器（190・191)。2条の隆帯の下には波状を呈する同様の隆帯が貼付されている。口唇部もヘラ状工具による刻みが施されている。口縁部は外へ外反する。入海Ⅱ式に比定できる。

Z群土器

縄文前期に比定できると考えられる土器（第71図192～194　図版25)。

本遺跡から出土した縄文土器の中で縄文前期に分類できる土器は極めて少量である。前期に比定できる土器をここに一括した。192・193は地文にＬＲ単節縄文を施し、半截竹管状の工具による押し引きを施した隆帯を貼付している。194は192・193と同様のモチーフだが、地文が不明瞭であり、隆帯も雑なものであり、この群に含まれるかどうか確定はできない。

Ｃ－１群土器

地文に撚りの粗い縄文を施し、頸部がくびれる土器（第71・72図195～224　図版25・26)。

口縁部にヘラ状工具によるＩ字状刻みと、円形刺突列を施す。また口縁部内面には、縄文を施文する。里木貝塚船元Ⅰ式Ａ類に含まれ、1984報告粟津貝塚湖底遺跡Ｃ１群Ｄ類に酷似する。

195～200・202～206は、口縁部に2条の並走する円形刺突列を施している。またＩ字状刻みも見られる。195は内彎気味の口縁部で、口唇部が若干外へ反る。口縁内面に縄文帯を有する。196も195と同様の施文意匠だが、口唇部は外へ反らない。197は並走する2条の刺突列をもつがＩ字状刻みはない。198は2条目の刺突列の直下に貼付隆帯をもつ。197・198の口縁部内面には縄文帯はない。200～203・209は口唇部に突起がついたもので、200・201は、杯状の突起が2個一対となっている。口縁ラインに沿って小さめの円形刺突列とＩ字状刻みが施文されている。209は、塊状の粘土が口唇部に貼付されており、その下に円形刺突列とＩ字状刻みが加わる。204も円形刺突列とＩ字状刻みの意匠で、口縁部上端が外側へ反る。206は刺突列が途中で断絶する。207は側方へ大きく張り出す隆帯が施されている。208は円形刺突列がないが、ヘラ状工具の角で、横位2条の低い隆帯間を連続刺突している。210・211も円形刺突列が施されていることから、この群に含めた。212は二枚貝の背部による圧痕が施され、Ｃ－２群に入るところだが、圧痕の上からヘラ状工具による刻みが確認でき、文様意匠からこの群に含めた。213～223は、この群に含まれる胴部である。213～216は隆帯側部に円形刺突列が施される。217～223からは頸部がくびれる器形が想定できる。218・220には円形刺突列が連弧状に施文される。223は隆帯が剥離し、痕跡のみが残る。224は器形的にはＣ－２群に含めてもいいが、隆帯側部および口縁部縄文帯以下にヘラ状工具による刺突列が見られ、Ｃ－１群の要素を大きく含み、この群に入れた。

Ｃ－２群土器

Ｃ－１群同様、地文に撚りの粗い縄文を施すが、頸部のくびれが弱まり、口縁部と胴部が緩やかにつながる土器（第72・73図225～260　図版26・27)。里木貝塚船元Ⅱ式に比定できる。

第71図　包含層出土土器（2）　S・Z・C－1群（S＝1／3）

225～231は、口縁部に1条の円形刺突列が施され、それ以下に連弧状の刺突列が施文される。225～227は内彎する口縁部で緩やかなくびれをもつと思われる。229～231は口縁部を肥厚し、円形刺突列を施文している。円形刺突列はＣ－１群と同様の意匠であるが、２条の並走が1条になり、Ｉ字状刻みも施文しない点で異なる。

232は押し引きに近い刺突列が連弧状に施され、斜位の刻みが施された隆帯が、縦位に貼付されている。232～236は、貼付隆帯が見られる。233・234は肥厚した口縁部内外面に縄文を施文し、その下に垂下する隆帯または、波状を呈する隆帯が貼付される。隆帯上部と側部に一つの原体で一度に施文したと思われる刻みが入る。235は、口縁上端に円形刺突列を１条施し、口唇部から縦位に隆帯を貼付する。隆帯状は斜位の刻みが入る。これも口縁内面に縄文が施されている。236は口縁ラインにそって隆帯を１条貼付し、さらに連結した隆帯が垂下する。隆帯の間に刺突列を施している。

237～245は、二枚貝の背部による圧痕が施文される土器である。口縁ラインに沿って１条の隆帯を貼付し、それにそって圧痕が並ぶ。237・238は１条の隆帯を巡らし、その上部から二枚貝背圧痕をほどこしている。239は238の意匠が２段になったものである。240は波状口縁を呈する。241は横位貼付隆帯に連結して縦位に隆帯を貼付している。245は貝殻の腹縁部による刻みが入る。

246～249は隆帯に半截竹管状工具による刻みを施す土器である。246は波状口縁の波頂部で、口縁ラインに沿って１条と、波頂部より縦位に１条、刻みの入った隆帯が貼付される。247～249は同類の胴部で口縁部と同じく刻みの入った隆帯が貼付される。250～252は、口縁部が外へ反る器形を呈し、口縁部上端に１条の隆帯を施し、隆帯の両側面から主に円棒状工具によって刺突を加えている。地文の縄文はＣ－１群およびＣ－２群の249までと比較して、粒がはっきりし撚りが細かくなっている。253～260はＣ－１・２群に入る胴部で、頸部のくびれが緩いと想定できるものである。254は円形刺突列が連弧状に１条、縦位に１条入る。256は刻みの入った隆帯が貼付されている。

Ｃ－３群土器

半截竹管による半隆起線を施文する土器を一括した（第73図261～268　図版28）。

口縁上端に半截竹管の押し引きによる連続爪形文をもつものと口縁下半に粘土板を貼付するものをａ類とし、半隆起線・連続刺突・刻みの入った隆帯をもつものをｂ類とした。

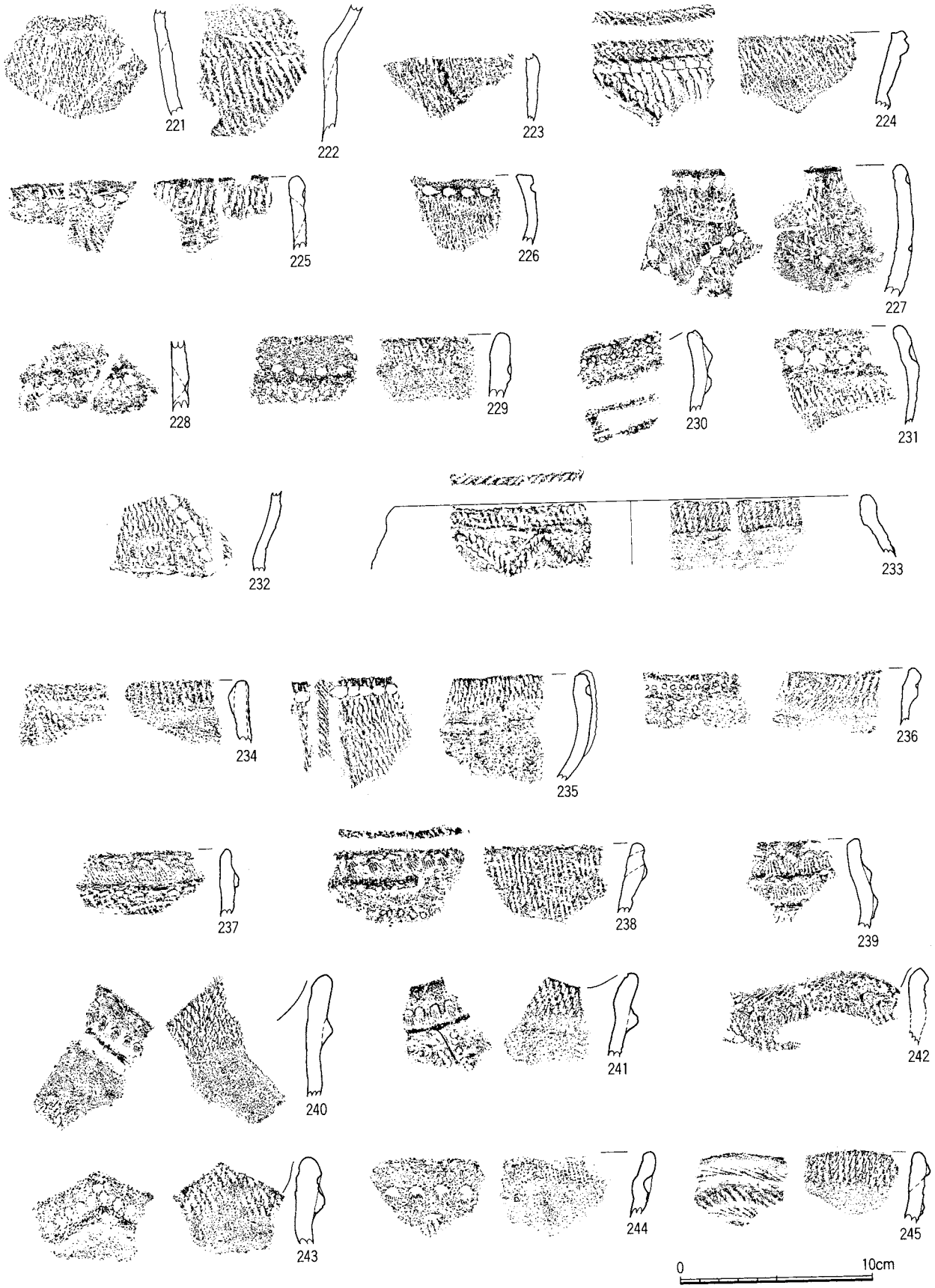
ａ類　口縁上端に半截竹管状工具を用いて押し引いたとみられる連続爪形文を施文し、以下に同じく半截竹管による半隆起線を数条施す土器（261～267）。口縁部は外側へ反る。口縁部から頸部にかけて楕円状または半楕円状と考えられる粘土板を貼付している。東海地方の前畑式に比定できる。261～265は口縁部、266・267は頸部である。266・267はいずれも粘土板の下半分しか確認できない。267は貼り付けられた粘土板の端部に縄文を施文している。

ｂ類　貼り付けられた隆帯の上にＩ字状の刻みが入る土器（268）。勝坂式に比定できる。

Ｃ－４群土器

縄文を地文にもち、半截竹管による文様を施す土器（第73図269～277　図版28）。またこの群に並行すると考えられる土器を一括し、文様意匠の違いでａ～ｆに分類した。269は里木貝塚船元Ⅱ式Ｃ類に、270～276は里木貝塚船元Ⅲ式に比定できる。

ａ類　口縁部に刻みのない隆帯を貼付し、その間を竹管状工具の表側でナデ調整を施す特徴をもつ土器（269）。



第72図　包含層出土土器（3）　C－1・2群（S＝1／3）

頸部以下に縄文を施し、口縁部文様帯同様刻みのない隆帯が貼付されている。口縁部内側上端には縄文が施されている。

b類　縄文地に隆帯を貼付し、隆帯上およびそれ以外の部分に半截竹管状工具による並行沈線で文様を施す土器（270・271・274）。

270・274は隆帯を貼付しその上から半截竹管で並行沈線を施文している。271は半截竹管による並行沈線を施すとともに、波状口縁の波頂部から垂下する隆帯の両側を半截竹管で刺突している。

c類　縄文地に並行沈線以外の文様を施す土器（272・273）。

272は刻みのない隆帯を貼付しその間に沈線を施す。273は並行沈線風の沈線を2条施している。

d類　地文に縄文をもたず、短沈線主体の文様をもつ土器（275・276）。

里木貝塚船元Ⅲ式E類に近い文様意匠をもつ。

e類　文様意匠からこの群に並行すると考えられる土器（277）。

277は口唇部を刻み、地文の縄文の回転施文の単位が短く撚りが細かい。その上を半截竹管状の並行沈線を弧状に施文する。口縁部は外へ開いて終わり、頸部はくびれ、胴部は膨らむ。

C－5群土器

地文に縄巻縄文を施文する土器（第73図278・279　図版28）。極少数出土した。

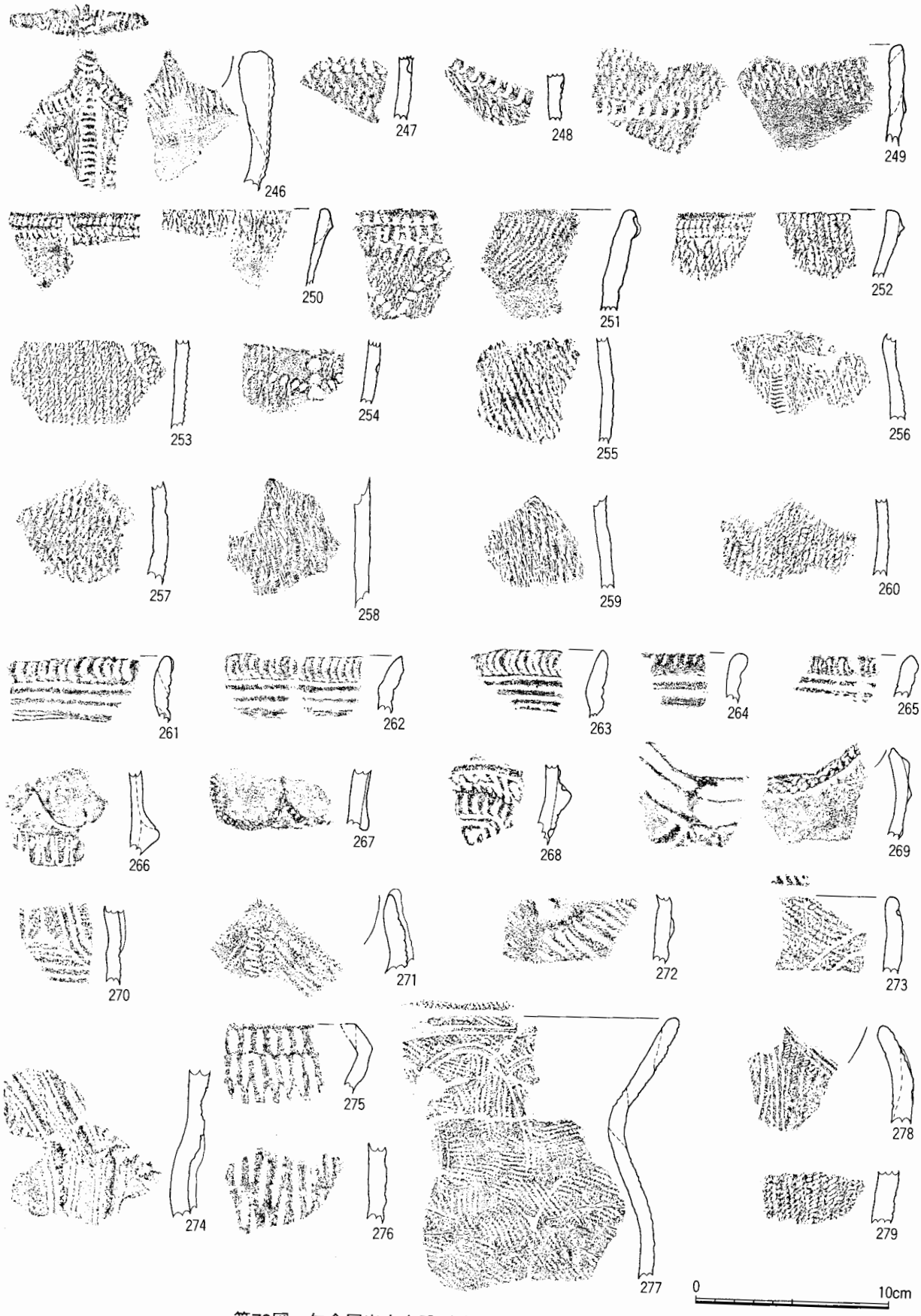
里木貝塚船元Ⅳ式に比定できる。

C－6群土器

地文に撚糸文を施文し、半截竹管による並行沈線で施文する土器。文様意匠は同じで地文に条線が施文されるものも含んだ（第74図280～303　図版29）。地文に撚糸文を施すものをa類、条線文を施すものをb類とした。里木貝塚里木Ⅱ式に比定できる。

a類　地文に撚糸文を施す土器（280～285・290～303）。

280は波頂部分が欠損しているが波状を呈する口縁部である。縦位に撚糸文を施し、その上に口縁ラインに沿って連弧状の並行沈線を施す。281は平口縁で口唇部が細く尖るように整形されている。口縁上端に並行沈線による波状文を施文しそれ以下に同じく並行沈線による連弧文を施す。口縁内面には縄文を施す。282は口縁部が内彎し緩やかなキャリパー状の器形を想定できる口縁部である。口縁ラインに沿って並行沈線を巡らす。283は口縁が内彎する土器で、縄文の間隔が比較的広い撚糸文を縦位に施す。284も口縁部が内彎し緩やかなキャリパー状の器形を想定できる土器である。、撚糸文地の上に横位隆帯と連弧状の隆帯を貼付する。285は、口縁部が外へ反る器形を呈する。口縁ラインにそって並行沈線を2条めぐらし、間隔をおいて頸部・胴部にも横位並行沈線を施文する。口縁内面に短沈線を施す。290・292は口縁部は内彎し、口縁上端で外へ屈曲する部分をもつ土器である。290は屈曲部上、口唇部にかけて地文を磨り消し、下に並行沈線を施文し、波頂部から垂下する隆帯を貼付する。292も291に類似するが屈曲部下および頸上部は並行沈線による波状文を施文し、頸部の地文を磨り消す。さらに胴部との境界に波状文を施文し以下撚糸文が施文されていると考えられる。口縁部波状文間には撚糸文地文の上に波頂部下に紡錘状に並行沈線を、またその間に斜位に同じく並行沈線を施文



第73図　包含層出土土器（4）　C－2・3・4・5群（S＝1／3）

している。293～303はいづれも地文に撚糸文をもつ胴部片である。293は連弧状の並行沈線、縦位の貼付隆帯を施文する。294も293と地文の撚糸文原体に違いがあるものの施文意匠は同じである。295・296からも胴部を連弧状にめぐる並行沈線が想定できる。297は文様意匠から292の胴部片の可能性が高い。特徴的な並行沈線による波状文をもつ。298はおそらく連弧状の並行沈線であろう。299は胴上部と考えられ、並行沈線による波状文とそれ以下に連弧文が見られる。300・301からは撚糸文施文時の文様のつなぎ目がわかる。302・303は地文の撚糸文の縄が特徴的で、粒が大きく間隔の広い原体で施文されている。

b類　地文が条線文の土器（286～289）。

286は地文に条線がみられ、口縁ラインにそって1条の沈線を施文し、直下に棒状工具の先端による下方から上方へ刺突が施されている。少し間隔をおいてそれ以下に並行沈線による連弧文が見られる。287も286と類似するが、並行沈線による弧状または8字状の文様が見られる。288は口縁部分のみだか、同じ文様意匠を呈する。289も類似するが、刺突から垂下する間隔の広い条線が特徴を示す。

C－7群土器

口縁部に沈線または隆帯による渦巻文・連弧文・区画文を施す土器（第74・75図304～329　図版30）。いわゆる咲畑式A類・中富Ⅳ・Ⅴ式の範疇に入る土器。区画内の施文方法によりa・b・c類に分類した。

a類　区画（沈線で作られる空間）内無文の土器（304～319）。

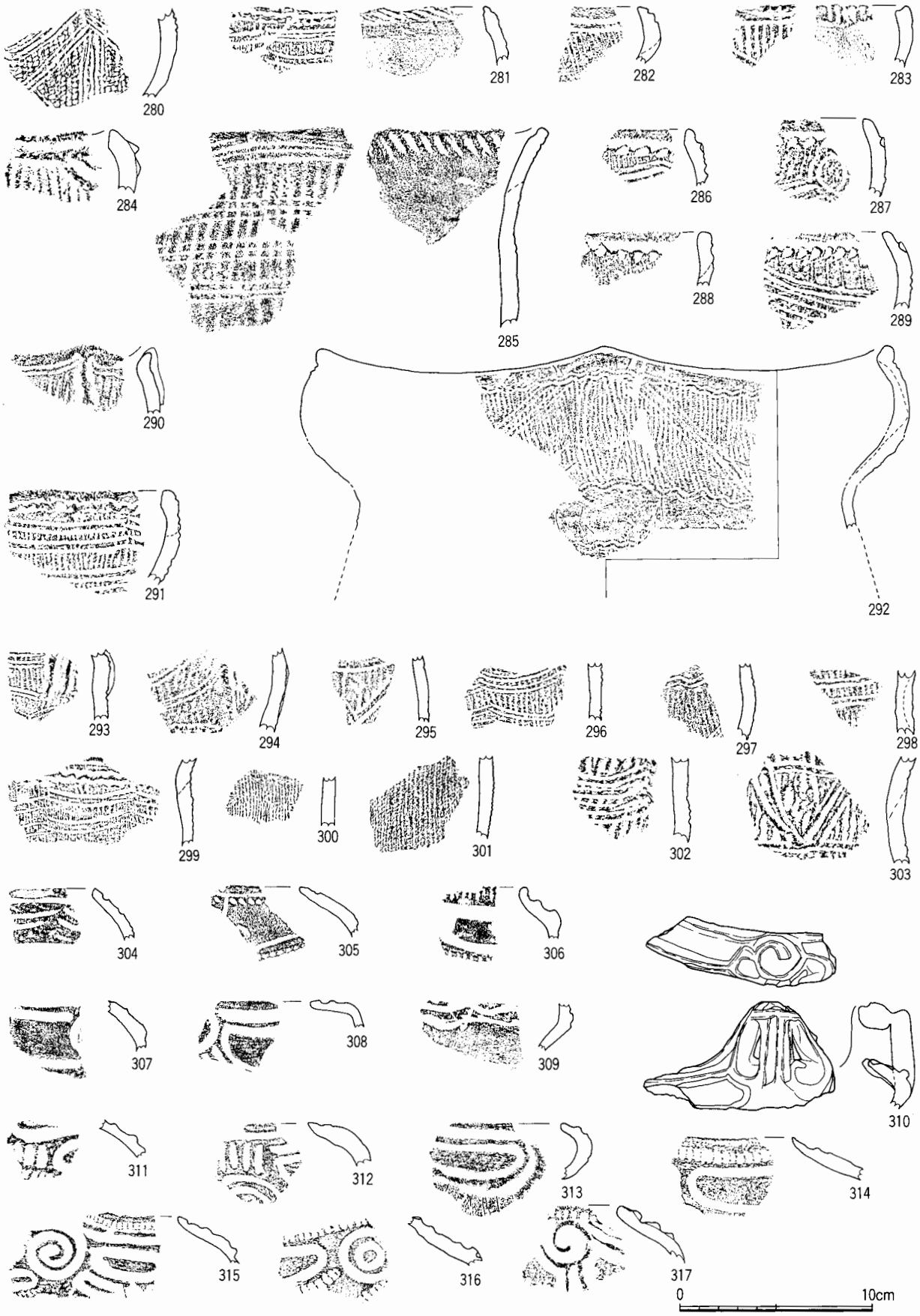
304は口縁上端に1条沈線をひき、その下に沈線による連弧文を施す。305は沈線による空間をつくり、沈線の下側に沈線に沿って刺突を施す。渦巻文も施文される可能性がある。306は口縁上端が上部に直立に近い形状で反り返る。沈線による区画文の上下には沈線に沿って刺突を加えてある。307は渦巻文と横位の沈線による空間が作られる土器である。308は区画文の下に連弧文を施す。309はきつく内彎する口縁部の屈曲部分で波状文が施される。310は区画文間に装飾的な突起がつく。突起の頂部には渦巻文が施され、その左右に区画文が作られる。311は渦巻文か区画文かの間に3本以上の短沈線が施されている。312も同じ文様意匠で4本の短沈線が施される。その下に渦巻文が施される。313は2重の沈線による区画文が見られる。314は区画文と口縁上端との間に横位押引文が施文されている。315も同じく口縁上端から渦巻文・連弧文が施文される間に押引文が施文されている。316は渦巻文でなく同心円文と区画文とからなり、押引文も見られるのでここに入れた。317は口縁上端に押引文、その下に隆帯による渦巻文とそれに連なる連弧文をもち、渦巻文から垂下する2本の隆帯が観察できる。318は口縁上端が若干外へ反り、1条の押引文が施文される。319も若干口縁上端が外へ反り、1条の沈線とその下に渦巻文が施文される可能性が高い。

b類　区画（空間）内に縄文・条線・細い貼付隆帯による格子目文を充填する土器（320～324）。

充填する文様によって細分類した。

1種　区画（空間）内に縄文を充填する土器（321・322）。

321は沈線の上から刺突を施す。刺突の工具が沈線の工具より幅広のため、刺突の幅が沈線からはみ出ている。その刺突の加わる沈線によって区画された内部に縄文が充填される。



第74図　包含層出土土器（5）　C－6・7群（S＝1／3）

322はきつく内彎する口縁部の上部と下部に渦巻文をもち、上側の渦巻文の両側へは沈線が延び、下側の渦巻文の両側へは区画文が作られる。区画内には縄文が充填される。

2種　区間（空間）内に沈線を充填する土器（320・323）。

320と323は同一個体の可能性がある。隆帯を渦巻状に貼り付け隆帯間を沈線でなぞる。渦巻文から口縁上端の間に条線を施す。

3種　区画（空間）内に細い隆帯（ソーメン状隆帯）による格子目文を充填する土器（324）。

324は口縁上端の直下に1条沈線をめぐらし、その下に渦巻文が配される。渦巻文によってできる区画内に細い隆帯による格子目状の文様が充填される。

c類　胴部

頸部がくびれ胴部がやや膨らむキャリパー状の器形を想定でき、尚かつ地文が無文で胴上部に連弧文が配される土器を一括した（325～329）。

325は連弧文でなく波状の文様を呈する。326は3条の連弧文の区切り目である。327は2条の連弧文が見られ、328は4条以上の沈線が見られる。329は頸部に区画文をもち、縄文が充填される。阿曽田遺跡第41A号住居跡出土土器に類似する。

C－8群土器

口縁部に隆帯または沈線による渦巻文・区画文その他の文様をもち、胴部に懸垂文など縦位の文様展開をもつ土器（第75・76図330～388　図版31・32）。中期末葉に位置すると考えられる土器群。小片資料が多数のため型式比定は避けたい。

口縁部をその文様構成によりa・b・c類に分け、胴部をd類に一括し、さらにその中を文様構成の違いによって細分類した。

a類　口縁部に隆帯による渦巻文・区画文をもつ土器（330～336）。

隆帯でなく肉厚風の文様意匠をもつものもここに含めた。区画内の文様の違いによって1・2種に分類した。

1種　区画内に羽状沈線（葉脈状文）を施文する土器（330～332）。

330は、口縁部に帯を貼り付け区画を作り、内部に刺突を充填する。331は沈線による渦巻文が区画文間に配される。332は低い隆帯の上に刻みを入れている。

2種　区画内に縄文を充填する土器（333～336）。

333は隆帯間を円棒状工具でなぞっている。区画は隆帯にそって沈線で作られ、内部に縄文を充填している。

b類　口縁部に沈線による渦巻文・区画文をもつ土器（337～349）。

区画文と渦巻文に分け、さらに区画文の区画内の文様の違いによって細分類した。

1種　区画内に縄文を充填する土器（337）。

2種　区画内に沈線を充填する土器（338～340）。

338は2本の横位沈線と区画された内部に施文される沈線からなる、区画内部に施された沈線は羽状の文様を呈すると考えられる。339は口縁部が若干肉厚風である。340は区画内に羽状沈線が充填されている。341は2本の沈線が並んで区画文を作っている。内部の沈線はおそらく羽状を呈すると考えられる。

第75図　包含層出土土器（6）　C－7・8群（S＝1／3）

３種　渦巻文・同心円文をもつ土器（342～347）。

342は平口縁で、渦巻文をもつ。343・344は波状口縁を呈すると考えられ、その波頂部に渦巻文をもつ。345は渦巻文の上に指頭による押圧痕が見られる。347は渦巻文間に短沈線が２条引かれる。

ｃ類　口縁部文様帯が退化・消失したと考えられる土器（350・352・353・355）。

350は口縁部から蛇行する懸垂文が始まる。懸垂文の左側に沈線が４条見られる。連弧文になる可能性も考えられる。352・353は横位沈線と口唇部との間に縄文が施文されている。この土器はＫ－１群に入れるべきかもしれない土器であるが、沈線が施された内側には凹凸ができ、北白川Ｃ式土器４期に近い文様構成をもつことからここに含めた。

ｄ類　その他（354・356）

354は口唇部から大柄な渦巻意匠の粘土塊を貼付し、その付近に沈線による渦巻文を施文している。また区画を作り、内部に縄文を充填している。356は北白川Ｃ式土器深鉢Ｃ類の突起部の形状に似るが、区画文内部に縄文充填、波頂部に逆Ｓ字状の沈線胴部に懸垂文とそれによって区画される内部に縄文を充填する文様構成がみられ、東海西部の土器の文様意匠に、より近いものをもつ。

ｅ類　胴部（357～388）

胴部片を一括した。区画内の文様の違いにより細分類した。

１種　区画内に縄文を充填する土器（357～364）。

357は太めの沈線によって縦位に区画を作り、縄文を充填している。358・359は３本沈線の懸垂文によってできる区画内に縄文を充填する。360は4本垂下する。362は頸部に刻みの入った隆帯が見られ、懸垂文の沈線上部が逆Ｕ字に連結している。363は隆帯によって口縁部と胴部を区切っている。364は口縁部と胴部の境が文様のみによって区分される。縦位区画の間に蕨手状の沈線が配される。

２種　区画内に沈線による羽状文が充填される土器（365～377）

365は懸垂文が３条以上からなる。367は沈線でなく条線が羽状に施文される。368は頸部に沈線が２条配され、口縁部と胴部が区分されている。369は懸垂文の沈線上部が逆Ｕ字に連結している。370は口縁部に渦巻文、頸部に刺突列、胴部に垂下する沈線、区画内に羽状沈線が配されると推測できる。374～377まで同様に区画内に羽状沈線が施文されている。

３種　区画内に刺突を充填する土器（378～383）

３種・４種はともに沈線が垂下せず区画は縦位にならない。

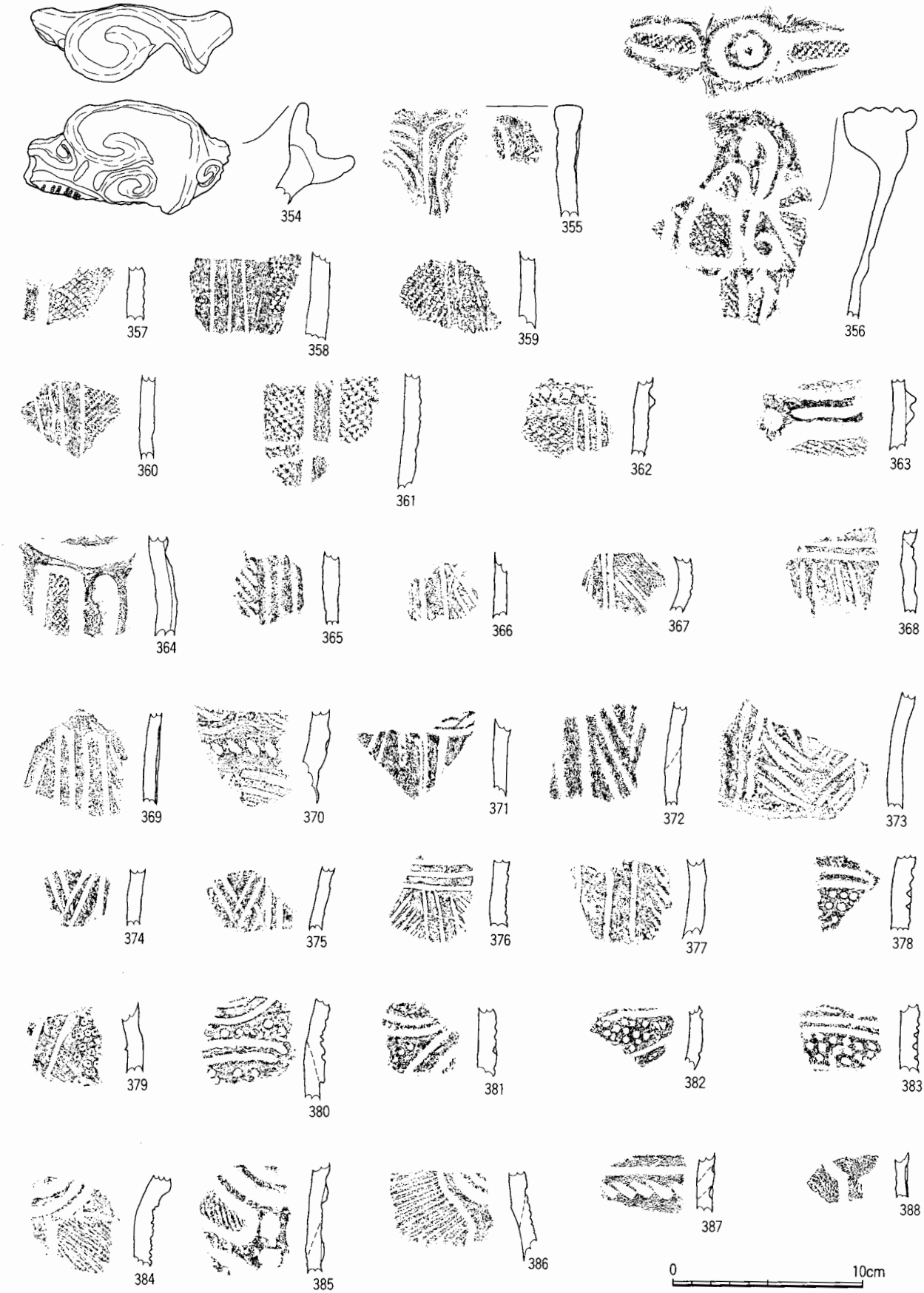
１～２条の沈線によって区画を作り、内部に円棒状工具による刺突を充填する土器。379は竹管状の工具と考えられ、刺突の中央が浮き上がっている。

４種　区画内に条線を施す土器（384）

384は口縁部文様の渦巻文から懸垂文が施され、区画内に条線を施している。

５種　その他（385～388）

385・386は、信州系の文様意匠をもつ。387は頸部の状態のみしか判別できない。388は沈線の裏側に凹凸が生じる状況がｃ類と似るが、磨消縄文は見られない。



第76図　包含層出土土器（7）　C－8群（S＝1／3）

Ｋ－１群土器

２本沈線による磨消縄文を施す土器（第77図389～404　図版33）。

中津式に比定できる。施文方法の違いによりａ～ｄに分類した。

ａ類　沈線を施文することにより、内面に器壁の凹凸が見られる土器（389～391）

389は縄文地の上に幅６㎜の円棒状工具による沈線を施文し、その外側を磨り消している。器壁は３～４㎜と比較的薄く、沈線の施文によって内面が凸状に盛り上がる。390も389と同じ施文状態でＪ字状の文様になる可能性が観察できる。389と同一個体の可能性が高い。391は口縁に近い部分と考えられ、横位の磨消縄文帯が見られる。

ｂ類　口縁部上端に無文帯をもつ土器（392～396）。

392は若干内彎する口縁部で、縄文の上に、幅３㎜の円棒状工具による沈線を引き、外側を丁寧なナデによって磨り消しており、比較的幅の広い（平均18㎜）磨消縄文帯を形成している。393は口縁部を若干肥厚させ無文帯をもつ。394も393と同じく口縁部を若干肥厚させている。沈線は392・393と比較して幅が広い。磨消縄文帯の幅は24㎜程である。395は肥厚が弱い。内彎している器形が観察できる。396は平口縁で、口縁部が肥厚されている。幅６㎜程の棒状工具で口縁から21㎜程下がった部分に横位の沈線を施文し、その下に窓枠状の区画をもつ磨消縄文帯を形成している。器面は丁寧にナデ調整が施されている。

ｃ類　磨消縄文帯の一部が口縁上端で突き抜ける文様意匠をもつ土器（397～399）。

397は、平口縁で口縁上端の無文帯の一部を切って磨消縄文帯が突き抜ける。398は、波状口縁をなし、波頂部で口縁上端に突き抜ける。399も同じ文様意匠をもつ。口縁部の肥厚が著しい。

ｄ類　胴部（400～404）。

400・401は、磨消縄文帯の幅がやや狭いが、文様意匠はこの群に近い。402・403・404は392・393などに近い文様意匠をもつ。

Ｋ－２群土器

幅の狭い２本沈線または３本沈線による磨消縄文を施す土器（第77図405～418　図版33）。

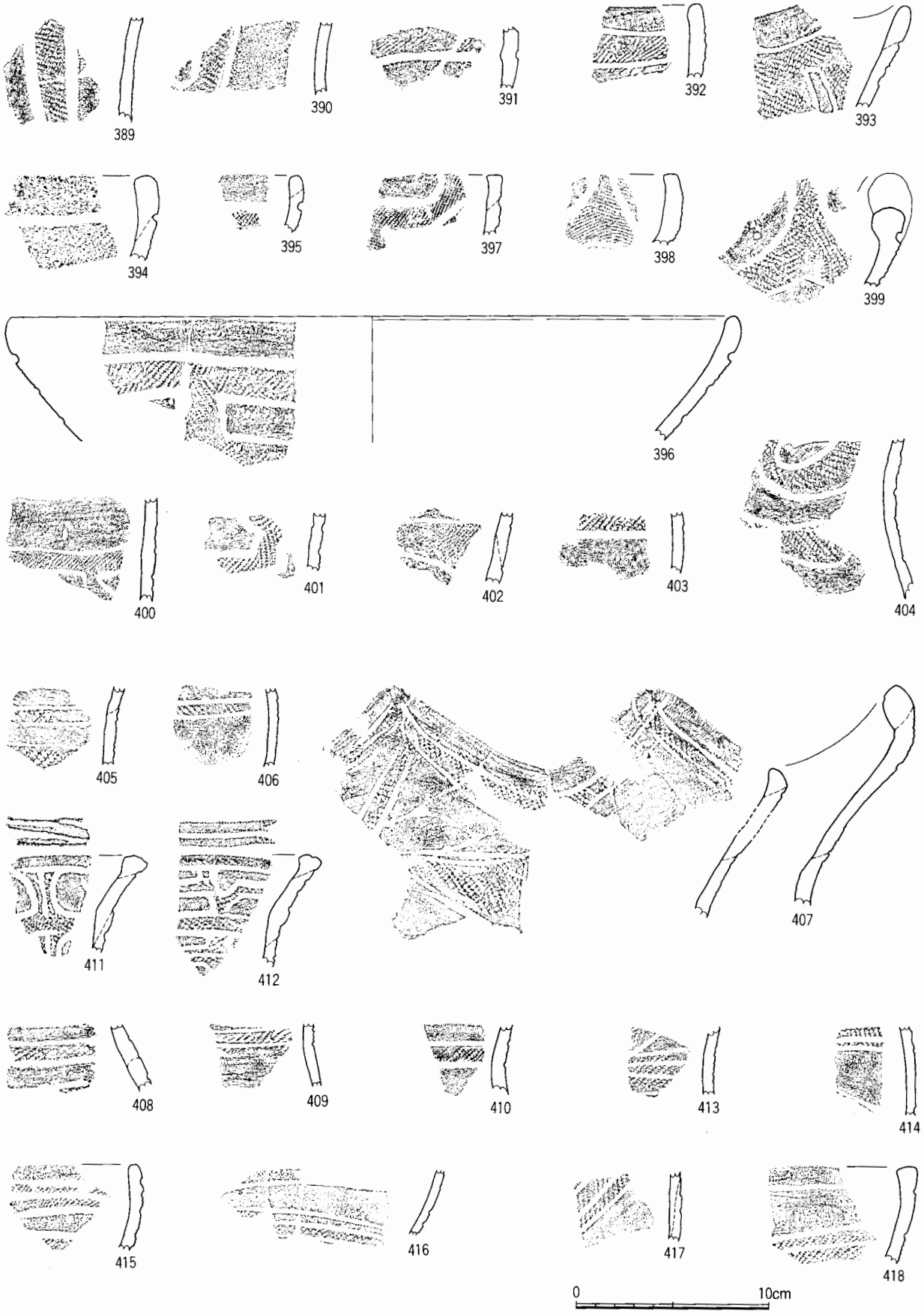
中津Ⅲ式～福田ＫⅡ式に比定できる。ａ・ｂに分類した。

ａ類　幅の狭い２本沈線による磨消縄文帯をもつ土器（405～410）。

充填縄文的手法のものが多い。405・406は磨消縄文帯の幅が９㎜を測る。Ｋ－１群土器と比較して約半分の幅である。407は波状口縁を呈し、口縁部を肥厚する。一方の磨消縄文帯が他方の磨消縄文帯を切る。施文意匠は同じ文様が繰り返されない部分があり、福田ＫⅡ式的要素が観察できる。

ｂ類　３本沈線による磨消縄文帯を施す土器（411～418）。

411・412は共に口縁部で同様の文様意匠をもつ。非常に丁寧な磨きがかかっている。口縁部を肥厚し、口唇部に１本沈線が施されている。413は３本沈線部分に縄文を充填しているため、縄文が沈線からはみ出ている。414・415も充填手法で施文している。はみ出た部分は磨り消されている。416は丁寧なナデ調整が行われている。417も表裏面共に丁寧にナデ調整が施されている。418は口縁部で、口縁を肥厚させ、口縁上端に１本沈線を引いている。



第77図　包含層出土土器（8）　K－1・2群（S＝1／3）

K－3群土器

口縁部の肥厚が著しく、肥厚した上部に文様施文する土器（第78図419　図版34）。縁帯文成立期の土器ととらえ、一括し、文様施文の顕著なものを1点のみ掲載した。

419は、口唇部に粘土をT字状に貼り付け、その上部に沈線を施す。口唇部外端には刻みを施す。小波状の波頂部には沈線による渦巻文を配し、外端に刻みを施す。胴部は雑なナデ調整がなされているが、文様意匠は判明しない。

K－4群土器

口縁部の肥厚・屈曲によって文様帯を形成する土器（第78・79・80図420～529　図版34・35・36・37・38）。いわゆる狭義の縁帯文土器のうち、北白川上層式Ⅲ期におおむね比定できる。口縁部の強調の手法・度合い、および器形・部位によってa～dに分けた。

a類　口縁部を屈曲させ、屈曲上部に文様施文する土器（420～447）。

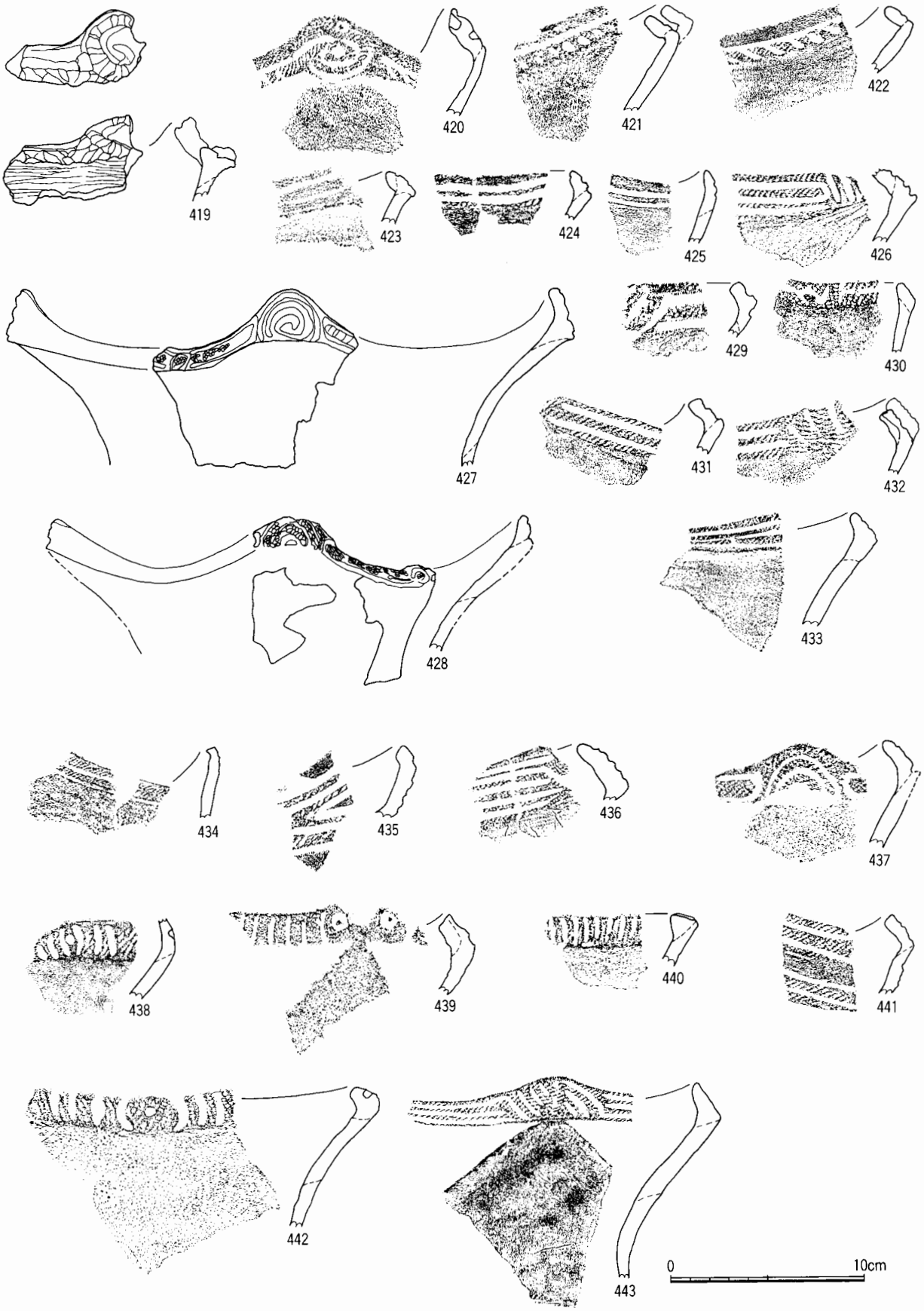
1種　波状口縁を呈し、波頂部に渦巻文、渦巻文間に沈線を施文し、磨消縄文を施す土器（420～437）。北白川上層式Ⅲ期の文様意匠に最も近い一群である。

420は、波頂部の渦巻文と沈線文が連続する。縄文を充填し、沈線以下に刻みを施す。波頂部の口唇部に円棒状工具による刺突を施す。渦巻文の中心にも刺突が見られる。421・422は縁帯部沈線の上部を無文に、下部に縄文を施し、刻みを加えている。423～425は沈線のみの施文である。426は沈線文の上に縄文が充填されている。口縁屈曲部が若干ねじれ、北白川上層式Ⅱ期の様相を残す。427・428は頸部から口縁部にかけて大きく外へ反り、口縁部を屈曲させる器形を読みとることができる。縁帯部の文様は沈線文の上に縄文を充填する手法である。429～433も同じ文様意匠である。432は426と同じく口縁部のねじれが観察できる。434～437も文様手法は同じだが、屈曲部がやや緩やかで、特に434・435は屈曲というよりは内彎という表現が近い。434は口縁部上端に2条の沈線を引きその上に縄文を充填している。435は口縁部屈曲が緩やかで波状をなす。波状と並行する沈線と横位の沈線とによる三角形の区画ができると考えられる。436は波状を呈する口縁の波頂部付近で数条の沈線の上に縄文が充填されている。437は小波状口縁の波頂部に沈線による半円状の同心円文が2条施され、その両側に横位沈線が施文される。横位沈線の端が連結している。

2種　器形は口縁部が屈曲し1種に類似するが、文様意匠が異なる土器（438～443）。

頸部から口縁部にかけて外へ大きく反り、口縁部が内側へ屈曲する器形をもつ。口縁部の文様意匠は、波頂部・波底部に円形刺突を施し、その両側に波紋状の対弧文を施文する。対弧文が横位の沈線と連結するものもある。八王子式に比定できる。

438は口縁部屈曲が緩く、刺突を施しその両側に対弧文を3条施文し、その上から縄文を充填している。439は波頂部の両側に2対の竹管状工具による刺突を施し、さらにその外側へ6条以上対弧文を施している。横位沈線は観察できない。440も同様の文様意匠である。439・440ともに縄文の充填は見られない。441は口縁部と頸部に3本沈線による磨消縄文帯をもつ。442は438に類似する文様構成だが、屈曲が強く、縁帯部が短い。波底部に刺突を施し、その両側に対弧文が施される。443は波頂部の両側に斜位の沈線を施文し、最も外側に引かれた沈線が横位沈線と連結する。口縁部には3本の沈線と縄文が充填されている。



第78図　包含層出土土器（9）　K－3・4群（S＝1／3）

３種　屈曲した口縁部に、刻みを入れた隆帯を縦位に貼付する土器（444～447）。蜆塚遺跡に出土し蜆塚式・蜆塚Ⅲ式・蜆塚ＫⅠ式などと呼称されるが、西北出遺跡分類による２類に比定できる。時期的に幅があると思われるがここでは一括した。

ｂ類　口縁部が屈曲せず、緩やかに内彎する土器（448～484）。器形が明確に判断できなかったため、深鉢及び鉢の可能性をもつものの両者を一括した。

448は波状を呈する口縁部で波頂部に沈線による渦巻文を配し、その上に縄文を充填している。口唇部に若干の肥厚を認める。449は口縁ラインに並行して数条の沈線を引き、その上に縄文を充填している。450は小波状になる可能性が窺える。451は口縁ラインに並行する沈線と斜位の沈線による三角形部分をもつ。452も同じである。口縁部の内彎は弱い。453は口唇部の部分的肥厚が比較的顕著である。454は波状口縁で緩やかに大きく内彎する。455は口縁上端の内側が極端に突き出ている。口唇部は面取りされて平らである。456は口縁ラインに沿った沈線と斜位に沈線が施文される。457は口縁の波頂部へ向かう部分が欠損している。沈線のみの施文で縄文は見られない。458は口縁上端が若干内側へ内彎する。459は左側に斜位の沈線か、渦巻文が配され、横位の沈線を切っている可能性が考えられる。460は横位沈線の端に三日月状の沈線が施文されている。461は口縁部上端に刺突列を配し沈線で区切り、その下に渦巻文を施文する。渦巻文の上には縄文は施文される。460・461は特有の文様意匠が加わる。462は口縁部が開き上部で若干内彎する器形で鉢の可能性もある。口縁部に横位沈線を引き、以下に弧状の沈線を数条施文する。口縁部横位沈線以上は無文とし弧状沈線上に縄文を施文する。463は口縁部に沿って沈線を横位施文し、その上に縄文を施文する。464は斜位の沈線を横位沈線が切る。沈線束上に縄文を充填する。465は波状口縁で、口縁上端が外へ開く。466は462と文様意匠が類似し沈線の端に刺突が入る。467は4本の並走する沈線上に縄文を充填する。468はやや太めの棒状工具による沈線の上に縄文を充填している。３本沈線になるかどうか不明瞭である。口縁上端が若干肥厚する。469は４本以上の沈線が並走する上に縄文を充填していると考えられる。470は４本沈線による磨消縄文で口縁は内彎せず直上方向に向かい終わる。471は口縁上端部で若干内彎すると考えられる。472は３本以上の沈線が横走する。473は横走する沈線の一部が渦巻文に連結する。474は沈線間が比較的狭く５本以上の沈線が並走する。475は口縁部形状から鉢または浅鉢の可能性が高い。476は口縁部がほぼ直立する。477は口縁上端が大きく内彎する横位の３本沈線を渦巻文の沈線が切る。いずれも縄文が充填される。478は渦巻文の一部と思われる斜位沈線の手前で５本以上並走する横位沈線が止められる。口縁上端の無文部を除き沈線文上に縄文が充填される。479は横走する３本沈線がその下に配される斜位の沈線を切る。縄文が充填されはみ出す部分が観察できる。480は鉢か浅鉢の可能性が高い。横位３本沈線上に縄文を充填する。481は浅鉢であろう。横位沈線と渦巻文からなり、横位沈線を渦巻文の沈線が切り口縁に沿って引かれる1条の横位沈線が渦巻文の上端を切る。482は浅鉢の口縁部で横位沈線最上部が渦巻文と連結する。483も渦巻文と横位沈線によって作られる最上部の無文帯とが連結する。484は口縁上端の無文部と以下の渦巻文が連結する。渦巻文の始まる位置より下部に縄文を充填する。中津式に類似する文様の雰囲気があるが、北白川上層Ⅲ式の文様意匠により近いと判断しこの群に含めた。

第79図　包含層出土土器（10）　K－4群（1）（S＝1／3）

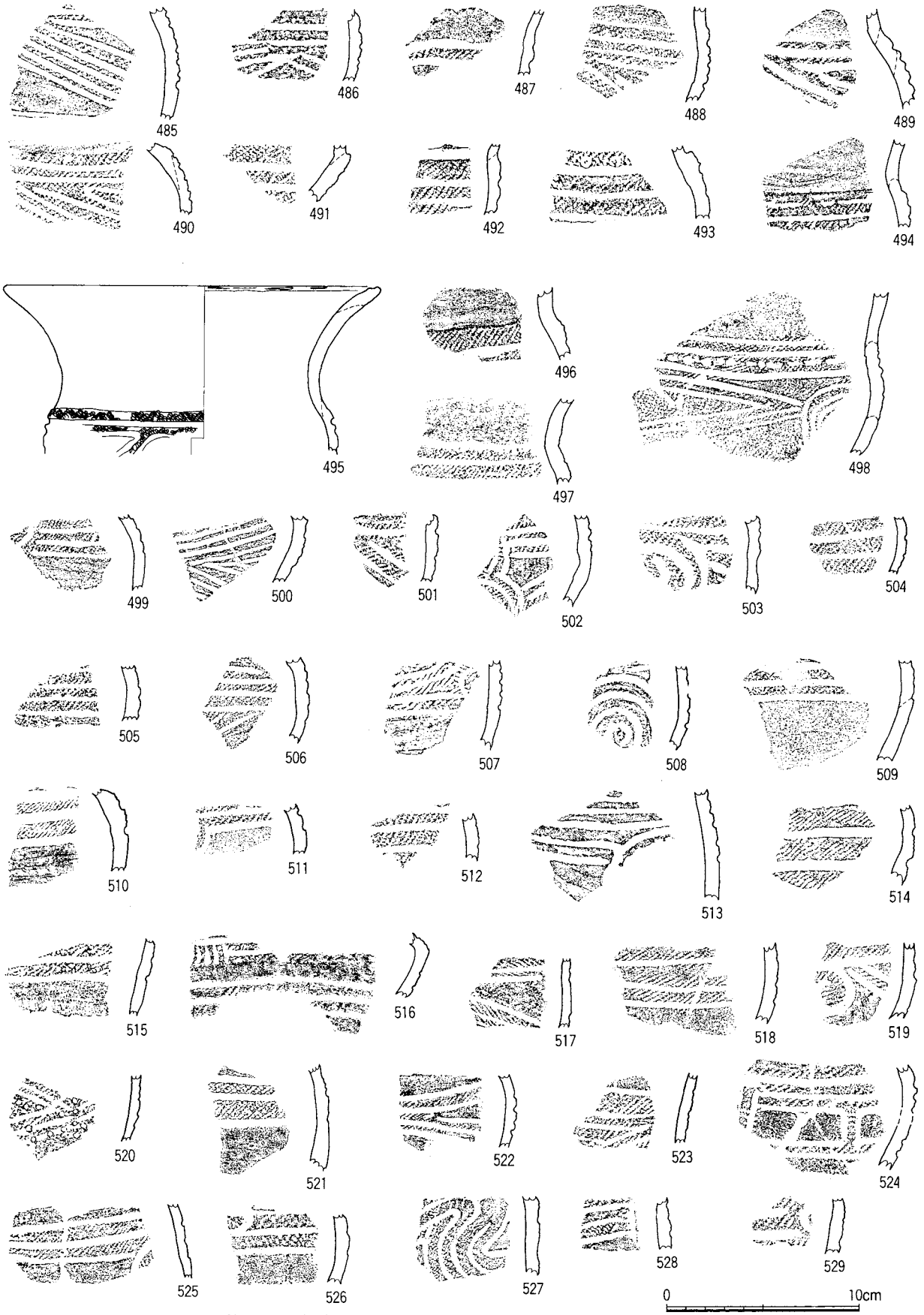
ｃ類　胴上部に主たる文様帯をもち、頸部から口縁部にかけて無文か、口唇部または口縁内面に文様をもつ可能性のある土器（485～498）。器形は鉢の可能性が高い。

485は横位沈線と斜位沈線からなり、５本の並走する沈線上に縄文を充填する。破片上部がやや外反しながら折損している。486も485と同類の文様意匠である。487は頸部と胴部の接点で折損していると考えられ、頸部は外へ開く。488は斜位沈線と横位沈線とが連結する。胴部は膨らみ、頸部は直上方向へ向かう。489は横位沈線と斜位沈線が連結し、間に三角形の無文部ができると想定できる。490は斜位沈線の端が横位沈線とぶつかる直前で止められている。膨らみをもつ胴部と考えられる。491は胴上部が内彎せず外へ開いた状態から、頸部が直上方向へ向かう。492は沈線間が比較的広い。胴部の膨らみは弱い。493は磨消縄文部の最上部に竹管状工具による刺突が加えられている。494は胴部が膨らみ頸部が外反しながら口縁部へ向かう器形を想定できる。495は胴上部から口縁部まで残存している資料で、丁寧なナデによる調整が施されている。沈線間は比較的狭く、斜位沈線と横位沈線が連結する。口唇部内面に等間隔を空けて短沈線を施す。頸部は大きく外反する。496は沈線間が比較的広い。頸部から上へ外反すると想定できる。497も496と同様の部分である。498は堀之内式的文様意匠をもつ。

ｄ類　この群に含まれると考えられる胴部（499～529）。

499は緩やかに彎曲する胴部で渦巻文と横位沈線が観察できる。500は斜位沈線が横位沈線と接する。501は斜位沈線が横位沈線に接する直前で止められている。502は縦位の波状文を描く２条以上の沈線があり、その右へ沈線が延びる。503は渦巻文から横位に沈線が延びる。504は比較的沈線間の広い充填縄文が施文される。505は４条以上の沈線が横位に施文され縄文が充填されている。506は斜位沈線を横位沈線が切っている。507は横位沈線の上部に渦巻文が配されると思われる。508は渦巻文がはっきりわかる。509は横位沈線が３条以上施文され、以下は無文である。510は沈線幅が比較的広い（６㎜）。511は渦巻文らしき文様と横位沈線が連結する。512は沈線間が比較的広い。573は文様意匠は他土器片と類似するが、縄文が充填されていない。514は沈線間が広い。515は彎曲が緩い。516は胴上部で屈曲する。胴部に３本沈線が施され、胴上部には横位沈線を縦位の短沈線が区切っている。八王子式的文様意匠である。注口であろうか。517は斜位および横位の３本沈線による充填縄文が見られる。518の沈線は３本以上になると思われる。519は横位沈線の途中から渦巻文を描く沈線が始まる。充填手法をとる磨消縄文である。520は沈線内外に一定間隔を置きながら刺突が施される。521は沈線間が比較的広い磨消縄文である。522は横位沈線が２方向へ分かれる部分を示す。 523は彎曲がなく、堀之内式的器形である。524は中津式のような窓枠状の文様をもつが、沈線は３本以上で構成されている。525は３本沈線による磨消縄文で渦巻文が横位沈線を切る。526は横位沈線の途中に入る沈線から加曽利Ｂ式的要素をもつが、不明瞭である。527は横位沈線的文様と渦巻文的文様が連続する。528は器形が比較的寸胴なイメージをもつ。529は渦巻文的文様の手前で沈線が止まる部分を示すのであろう。

この群の土器はその大半の磨消縄文が充填手法を用い、縄文の撚りはすべてＬＲである。破片資料が異様なほどに多く、明確な器形がつかめなかったため、他の群に入れるべき土器も存在するのかもしれないが、ひとまず数条の沈線と磨消縄文を文様意匠にもつ土器を一括した。



第80図　包含層出土土器（11）　K－4群（2）（S＝1／3）

Ｋ－５群土器

堀之内式土器、またはそれに並行すると考えられる土器（第81図530～539　図版39）。

いわゆる朝顔形・バケツ形などと言われる胴部から口縁部に向かって外へ開く器形を呈し、沈線と磨消縄文を用い、刻み入りの隆帯を貼付する文様を主たる文様意匠とする。

530は波状を呈する口縁部で、頸部から口縁部にかけて外反の角度を増しながら開いてゆく器形を示す。波頂部をやや内側へ折り曲げ、口縁上方に刻み入り隆帯を口縁ラインに沿って貼付する。隆帯の下に磨消縄文を施す。波頂部には紡錘状の文様が連続する。口縁内面には、波頂部に刺突が施され、口縁ラインに沿って１条の沈線を引く。531の文様意匠も530に類似するが、口唇部に縄文を施文し、波頂部上方からと内側から円棒状工具による刺突を施す。刻み入りの隆帯が口縁ラインに沿って貼付され、その下方に530と比較して幅の狭い磨消縄文が施文される。口縁内面に口縁ラインに沿って１条沈線を施す。532・533は531と同一個体の可能性が高い。文様意匠は酷似する。534・535・536も531・532・533に類似する。537は胴部中央部であろうか。磨消縄文による幾何学的文様意匠をもつ。538は頸部に窓枠状の磨消縄文部をもつ。539は平口縁で横位磨消縄文帯を、縦位に配される波状文が区切る。

Ｋ－６群土器

加曽利Ｂ式土器、またはそれに並行すると考えられる土器（第81図540～560　図版39）。

沈線と磨消縄文を施文することを主体とし、磨消縄文帯の文様意匠が幾何学的になるもの、磨消縄文帯を縦位に区切る蛇行文・直線文・短沈線等を描くものを一括した。加曽利Ｂ１・２式におおむね比定できる。

540は緩やかに内彎する波状口縁で、３単位の可能性がある。口縁ラインにそって３条の沈線を引き、縄文を充填する。波頂部以下の沈線上に円棒状工具による縦位の刺突列を施す。541は頸部が若干くびれ口縁部に向かって内彎する。５条の沈線上に磨消縄文を施し縦位に蛇行文を施文する。542は緩やかに内彎する口縁部で、横位沈線と斜位沈線の組み合わせによる構成で縦位の蛇行文を施す。543は沈線間に短いノ字状の沈線を入れる。544は磨消縄文部に縦位の蛇行文を施す。545は３条の横位沈線の途中で下方へ折れ曲がる。折れ曲がった部分の先端は連続していない。546は渦巻文へ斜位の沈線が向かう。547は沈線間部分に刺突を加える。548は沈線の幅が比較的広く、端が連続せず止められる部分があり、施文が雑な印象をもつ。549は直立する口縁部をもつ器形を呈し、横位に巡る数条の沈線は間隔が疎らで、縦位の直線文がそれらを区切る。550は口縁端部が比較的きつく内彎する器形を呈し、２条の横位沈線間に上弦・下弦の連弧状の文様が入り、短沈線が区切る。横位沈線と連弧文との間に縄文を充填する。551は縦位に蛇行文が施文され、それを中心にして放射状に数条の沈線が配される。552は円状または渦巻文状の文様が入り、それを中心に放射状に沈線が引かれる。553は横位磨消縄文帯の下部に連弧状の並行沈線が入る。磨消縄文帯の幅は比較的狭い。554は幅の狭い棒状工具による深めの沈線を横位に４条引き、縄文が充填されている。555は彎曲のない胴部で磨消縄文帯が比較的広い。556は横位の沈線の途中で縦位の短沈線が入る。557は器壁が厚く、内彎する胴部で、横位磨消縄文帯の途中に渦巻状の文様が入ると考えられる。558は磨消縄文帯の無文部に下弦の連弧文が施文される。559は３条以上の横位沈線に縄文を充填し、はみ出し部を磨り消している。560は渦巻状の文様と沈線を横位に展開する。

第81図　包含層出土土器（12）　K－5・6群（S＝1／3）

K－7群土器

屈曲した口縁部および胴部上半部に主に沈線による文様を施す土器（第82・83図561～616　図版40・41・42）。主体は元住吉山Ⅰ式またはそれと並行する土器と考える。結節縄文を施文する土器が極少量出土しているため、それらを若干先行する土器群としａ類、それ以外を、施文方法の違い、器形の特徴的なもの等によりｂ・ｃ・ｄ類に分類した。

ａ類　胴部が膨らみ頸部がくびれ、口縁部が外反すると想定できる土器（561）。胴上部に結節縄文を施文することを特徴にもつ。一乗寺K式に比定できる。極少数出土し、ここでは顕著なものを１点掲載した。

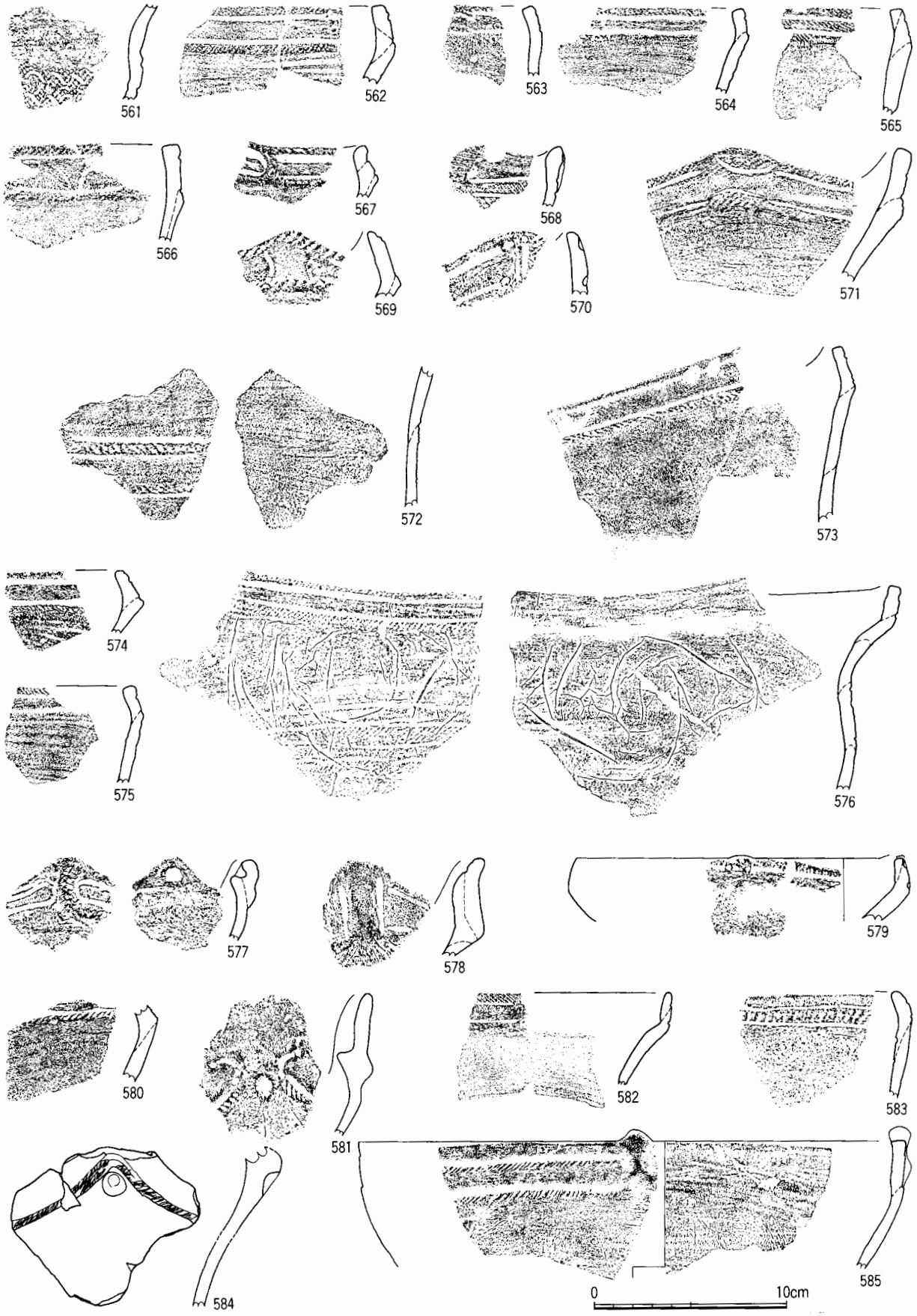
ｂ類　口縁部および胴上部に２条の沈線を施文し、その内外に縄文・刻み・刺突等の文様を付加する土器（562～592）。付加される文様の違いにより３類に細分類した。

１種　縄文を付加する土器（562～576）。

口縁部および胴上部に２本の沈線を施文し、その内外に縄文を施文する。562は平口縁で口縁部を内側に屈曲させる。屈曲部上面に２本の沈線を施文し、その外側部分に縄文を施文する。563は屈曲が緩い。562と同じ文様意匠をもつ。564は口縁部の屈曲が明瞭で、２本沈線の外側に縄文を施す。565は屈曲部の２本沈線の内外ほぼ全面に縄文が充填される。566は口縁屈曲部の幅が比較的広く、屈曲も緩い。567は２本沈線の途中にノ字状の隆帯によって区切られる。568は口縁屈曲が緩い。ノ字状の隆帯が貼付される。569は波状を呈する口縁の波頂部で、横位２本の沈線の上下を波頂部で連結する。曲がり角の部分に刺突が加えられる。570も波状口縁の波頂部で、横位沈線が波頂部で縦位沈線に区切られる。沈線の末端に刺突を加える。571も波状口縁で、波頂部に上が上弦、下が下弦の弧状文を施す。沈線および弧状沈線の外側に縄文を施文される。572は胴上部でくびれ部の下側に縄文を横位施文し、その上に２条の沈線を施文し、はみ出た縄文を磨り消している。573は波状口縁で口縁ラインに沿って２条の沈線が平行に施文されている様子が観察できる。574は平口縁と考えられる。575も同じで、ともに２本沈線の外側に縄文を施す。576は波状を呈する口縁で屈曲は緩く、口縁上端が直上方向または外側へ開く。

２種　刻み・刺突を付加する土器（577～586）。

口縁部および胴上部に２本の沈線を施文し、その内外に刻み・刺突を施文する。577は波頂部から下へノ字状の隆帯が貼付され、刻みの上および２本沈線の下側に刻みを入れる。波頂部内側には刺突を施す。578は口縁が屈曲し上端が外へ反る器形をもつ。波頂部に２本縦位の沈線が施文され、横位沈線を区切る。579は沈線の外側に沈線に沿って刻みを施し、横位沈線を刺突で区切る。580は口縁部の２本沈線の下側の沈線と沈線の下側に沿って刻みを施す施す様子が観察できる。581は波頂部の外面・内面に巻貝による刺突を施す。582は平口縁で２本沈線の外側に細かい刻みを施す。583は２本沈線の内側に２枚貝の腹縁部による刻みを連続して施す。584は明確な沈線はなく屈曲部の上面は１段低くナデ調整してある。屈曲部に細かく刻みを施し、波頂部に巻貝による刺突を施す。585は小突起をもつ平口縁で２本沈線の上下とも下側に沿って刻みを施す。小突起の下に粘土の貼り付けをし、横位沈線を区切っている。586は口縁部に横位沈線とその端の縦位沈線とが一部連結し、横長の区



第82図　包含層出土土器（13）　K－7群（1）（S＝1／3）

画状の文様をつくる。4つの方形状の刺突群が横位沈線を区切る。区画状の文様の内側に、爪形刺突が施文される。雑なナデ調整が施される。

3種　付加する文様が無い土器（587～592）。

口縁屈曲部に2本の沈線を施文するが、その周辺は無文の土器。587は屈曲が比較的強い。沈線は浅く施文する。丁寧にナデ調整される。588は2本沈線の末端が、逆ノ字状になる。整形・施文は雑である。589は屈曲が比較的強い。細い棒状工具で沈線を施文する。590は、比較的屈曲が緩い。591は口縁部に施文する上下2本の沈線のさらに下側に1本沈線を付け足す。592は沈線の引き方が雑である。

c類　口縁部に1条の沈線を施文し、その上・下に縄文、刻み、刺突等を付加する土器（593～601）。東海地方の蜆塚KⅡ式土器に比定できる。付加する文様によって4つに細分類した。

1種　縄文・擬縄文を付加する土器（593～595）。

整形は丁寧なナデ調整が施され、器面がなめらかである。

593は口縁部の中心に沈線を引き、その下側に縄文を施文する。縄文帯の幅が比較的広い。594は口縁部の下端に沈線を1条引き、その下へ屈曲部にかけて巻貝による擬縄文を施す。595は沈線を1条施文し、それを縦位短沈線が区切る。口縁部全体に縄文が施文される。

2種　刻みを付加する土器（596～598）。

596は口縁部下端に1条沈線を施文し、下側に沈線に沿って刻みを施文する。597も同じ文様をもつ。598は波状口縁である。

3種　付加する文様が無い土器（601）。

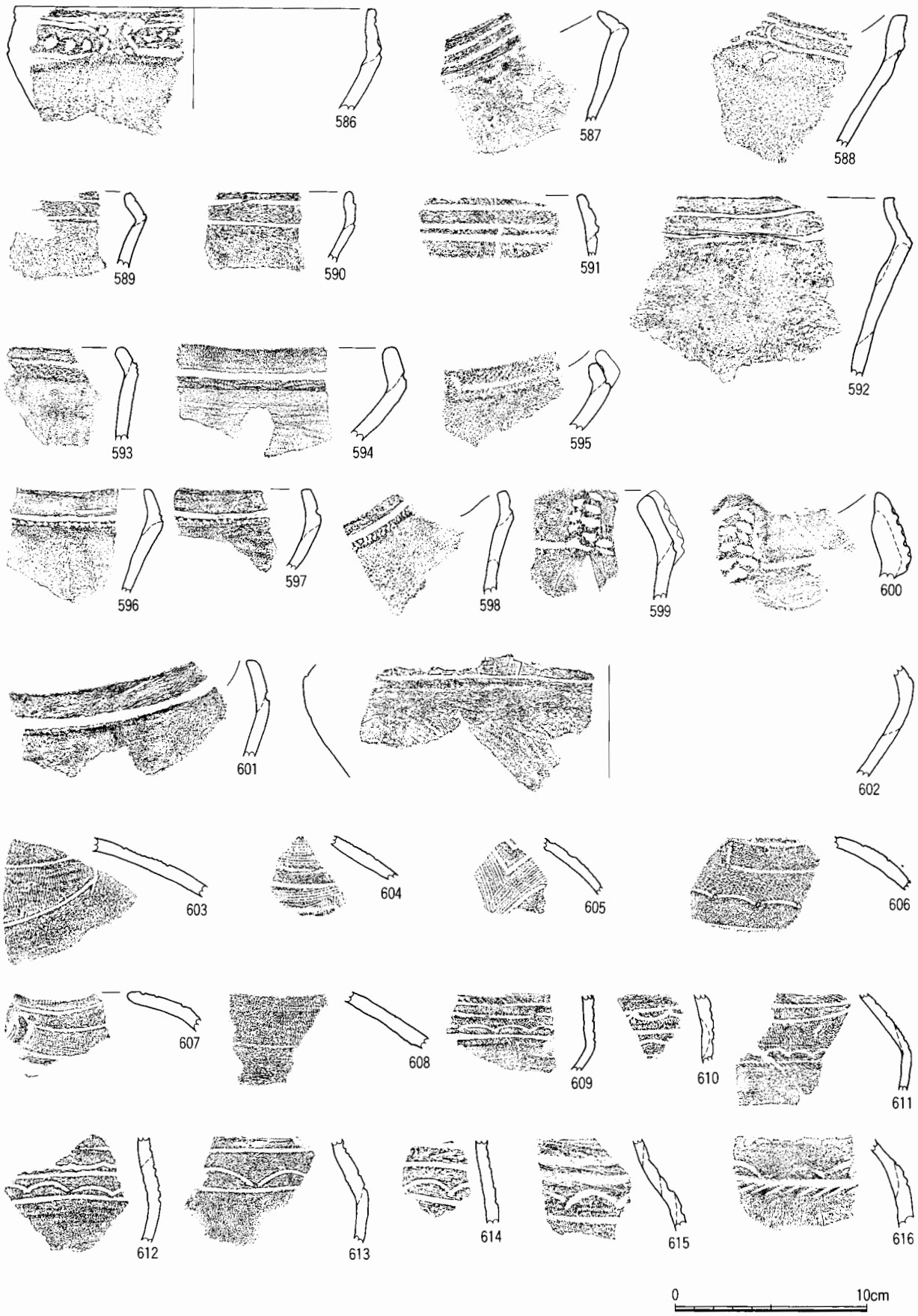
601は屈曲が緩く波状を呈する。口縁部に1条の沈線のみで付加される文様はない。

4種　刺突入りの縦位隆帯を貼り付ける土器（599・600）。

599・600は小突起部をもつ平口縁を呈し、口縁部は他種と同様屈曲する。口縁部下端に1条沈線を施文し、小突起部に縦位の隆帯を貼り付け、隆帯の両側から先の尖った円棒状工具で刺突を交互に施している。

d類　注口土器と考えられる土器の胴部（602～616）。

602は胴上部が内彎し、1条沈線が施文される。603は比較的細い沈線による磨消縄文意匠の文様で縄文のかわりに巻貝による擬縄文が施文される。604は縄文の代わりに条線が沈線の施文方向に沿って施文される。605も沈線の施文方向に沿って条線が施文される。606は横位沈線文と下弦の連弧文を施文し、その区画内に縄文を充填する。沈線の変化点に刺突が施される。607は擬縄文が施文され、小さい粘土が弧状に貼り付けられる。608も擬縄文を施文する。609は沈線間に縄文と連弧文が施される。610も連弧文が見られる。611は擬縄文が施文され、胴部屈曲部に1条の沈線、沈線の上に連弧文、沈線の下に沈線に沿って刻みが施されている。連弧文の間隔は比較的短い。612は沈線間に上弦・下弦の連弧文が施文される。613は胴部上半から内側へ屈曲し、屈曲部の上面に文様を施文する。文様は、横位沈線間に連弧文が施される。614・615も同じ文様意匠をもつ。614は彎曲の弱い器形が想定できる。615は胴部の上半部から立ち上がる器形を観察できる。616は胴部屈曲部に沈線を施文し、上部に連弧文、下部に刻みを斜位に施す。



第83図　包含層出土土器（14）　K－7群（2）（S＝1／3）

K－8群土器

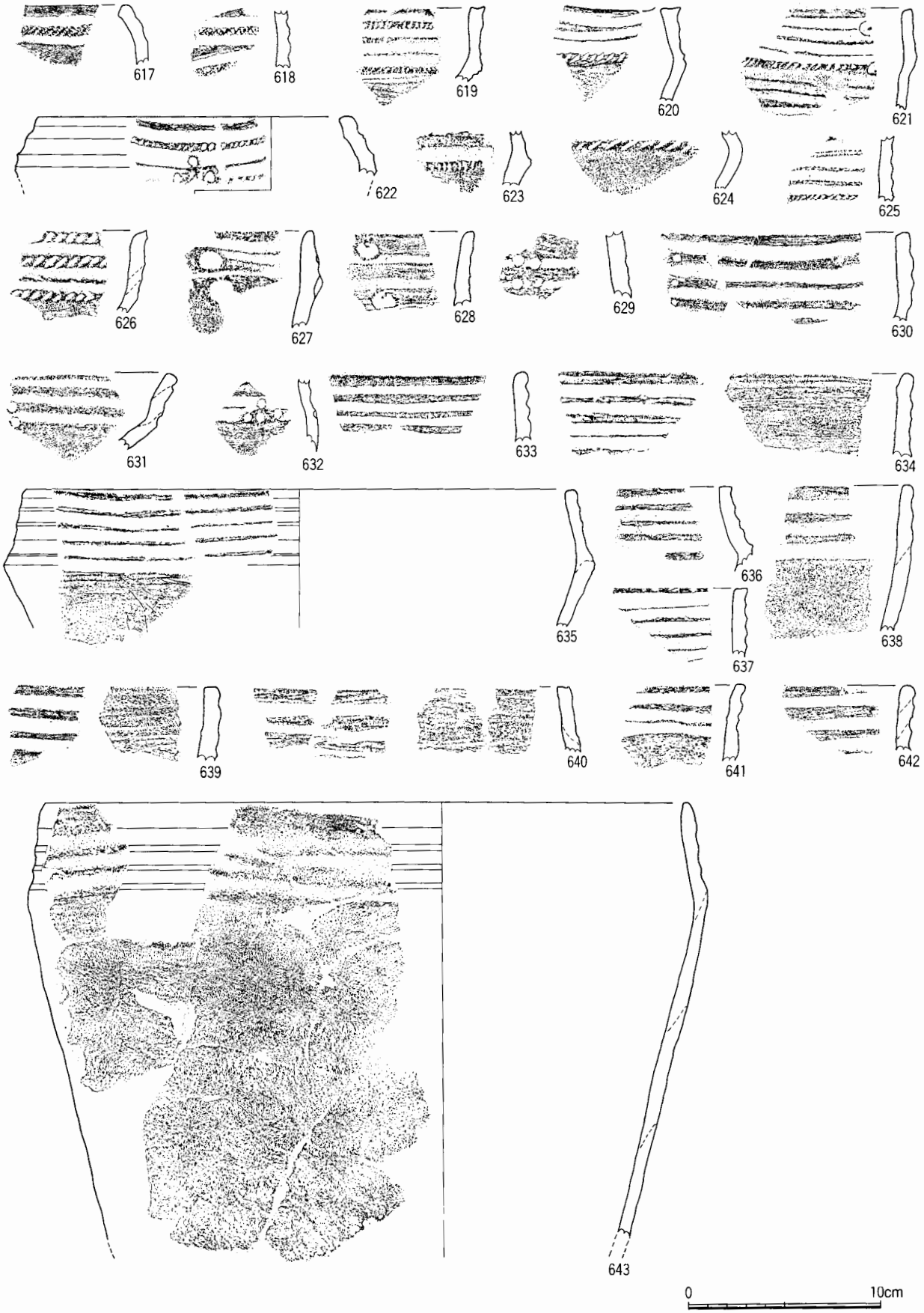
主として凹線文を施す土器（第84・85・86・87図617～694　図版43・44・45・46・47）。巻貝か、または円棒状工具による太めの沈線を主とする文様意匠をもつ。元住吉山Ⅱ式～宮滝式におおむね比定できる。凹線の施文状況、その他の付加される文様の違いからａ・ｂ類に分類した。

ａ類　凹線文を再調整し、凹線の輪郭がはっきりしない断面波状の形態をもつ土器（617～661）。元住吉山Ⅱ式に比定できる。

凹線文の付近に刻みを施し、巻貝による刺突文を施すものが多い。凹線の間隔がないものを１種、凹線が上下２本施文されるものを２種とした。

１種　凹線文を密または間隔を狭く数条施文し、断面が波状に近い形状を呈する土器（617～643・658～661）。凹線施文後、再調整することで凹線施文によってできた角がとれ、断面が波状を呈する。この種の土器片からは、巻貝頂部による刺突や、K－７群にあった文様意匠と同様の縄文・刻みを施すものが多く見られる。

617は凹線間を若干あけ、そこに縄文を施文する。618も同じ文様意匠をもつ。縄文帯は複数見られる。619は頸部がくびれた状態から口縁部に向けて外反し上端で屈曲させ直立する器形を呈する。口縁部文様帯は縄文施文部のみ間隔をおき、あとは間隔をあけずに凹線を施文する。620は口縁屈曲部が若干内側に倒れる。口唇部がやや幅広である。密接する凹線の最下部に刻みを施す。621は口縁部屈曲が緩い。屈曲部に刻みを施し、凹線を間隔なく施文する。凹線文の下側に刻みを施す。屈曲部以下にも凹線文を密に施文する。縦位に並ぶ２つの刺突が観察できる。622は屈曲部の内折が比較的大きい。口縁上から１本目と２本目の凹線間に刻みを施し、２本経て３本目と４本目の間にも刻みが施文される。巻貝の刺突が３つ三角形状に施文される。623は凹線の下側に刻みを施す。624も同じである。刻みが長く斜位に施文される。625は凹線の間隔があるが、再調整によって文様の輪郭が不明瞭で、断面が波状になる。刻みが付加される。626は凹線間の刻みが３カ所に施文される。627・628は、巻貝刺突の径が大きい。頂部の反対側で刺突していると考えられる。629は沈線と凹線との中間的な施文幅で、沈線上に４カ所刺突が施される。630は凹線内でなく凹線間に刺突が施される。631も同じである。631は浅鉢の可能性が高い。凹線施文後丁寧なナデ調整が施され、凹線の輪郭が面取りされている。632からは、胴上部に施文される凹線と刺突文が観察できる。１つは小さい粘土塊を貼り付け、下から上に向かって刺突を施し、それを取り囲むように３点刺突が施される。633は凹線施文後の丁寧なナデ調整がはいり、凹線間がなめらかで、断面波状を呈する。634は凹線が密に施文され、さらに再調整が施されている。635も同じく間隔なく凹線が５条施文され、その後再調整されている。636・637も凹線を密に施文し、ナデによる再調整を施している。638は屈曲の緩い口縁部形状を呈し、凹線間隔は比較的広いが、再調整により断面波状になっている。639～642も同じ文様意匠で、断面波状を呈する。どれも平口縁で内側に若干屈曲する。641は屈曲が緩い。凹線の引き方は雑で波を打つ。上１本と下２本が若干間隔をもつ。642は屈曲すると想定できるが口縁上端部がやや外反する。643は摩耗が激しい。凹線が一部つながらずずれている。やはり再調整により、断面が波状になる。658～660は口縁が屈曲せず外へ開く器形をもつ土器。661は胴部片で凹線間に刻み



第84図　包含層出土土器（15）　K－8群（1）（S＝1／3）

をもち、巻貝による刺突を上からと下から施文する。

2種　口縁部の上下に間隔を置いて凹線を2本施文する土器（644～657）。

644は凹線間が丁寧なナデ調整により、周囲の器面に比べて低い。645も同様で、上端の凹線が二重になっている。つなぎ目か。646は屈曲部が若干丸く内彎している。647は頸部から口縁部にかけての状況を示す。極浅い凹線を施文する。648は波状口縁と思われ、器壁が厚い。649は口縁部が内彎する。650は凹線が浅く器面との境が不明瞭である。651の凹線も浅い。口縁屈曲部が緩く内彎する。652は頸部で胴上部に凹線を施文する。器面が非常に丁寧なナデ調整が施されなめらかである。653も胴上部の状況が観察できる。654は3本の凹線が施文される。口縁部は屈曲し内折する。655は口縁屈曲部が内接せず外へ開く。口縁上端がさらに外反する。656は屈曲がゆるく直立する。657は口縁屈曲部が内折する。

b類　凹線の稜が明瞭な土器（662～694）。

凹線の断面が丸みのある弧状のもの、角のあるものがある。また再調整されず凹線施文による工具の痕跡が比較的明瞭に残るものがある。また巻貝による扇状圧痕が多用される。宮滝式に比定できる。凹線の施文状況、断面形状の違いにより2つに細分類した。

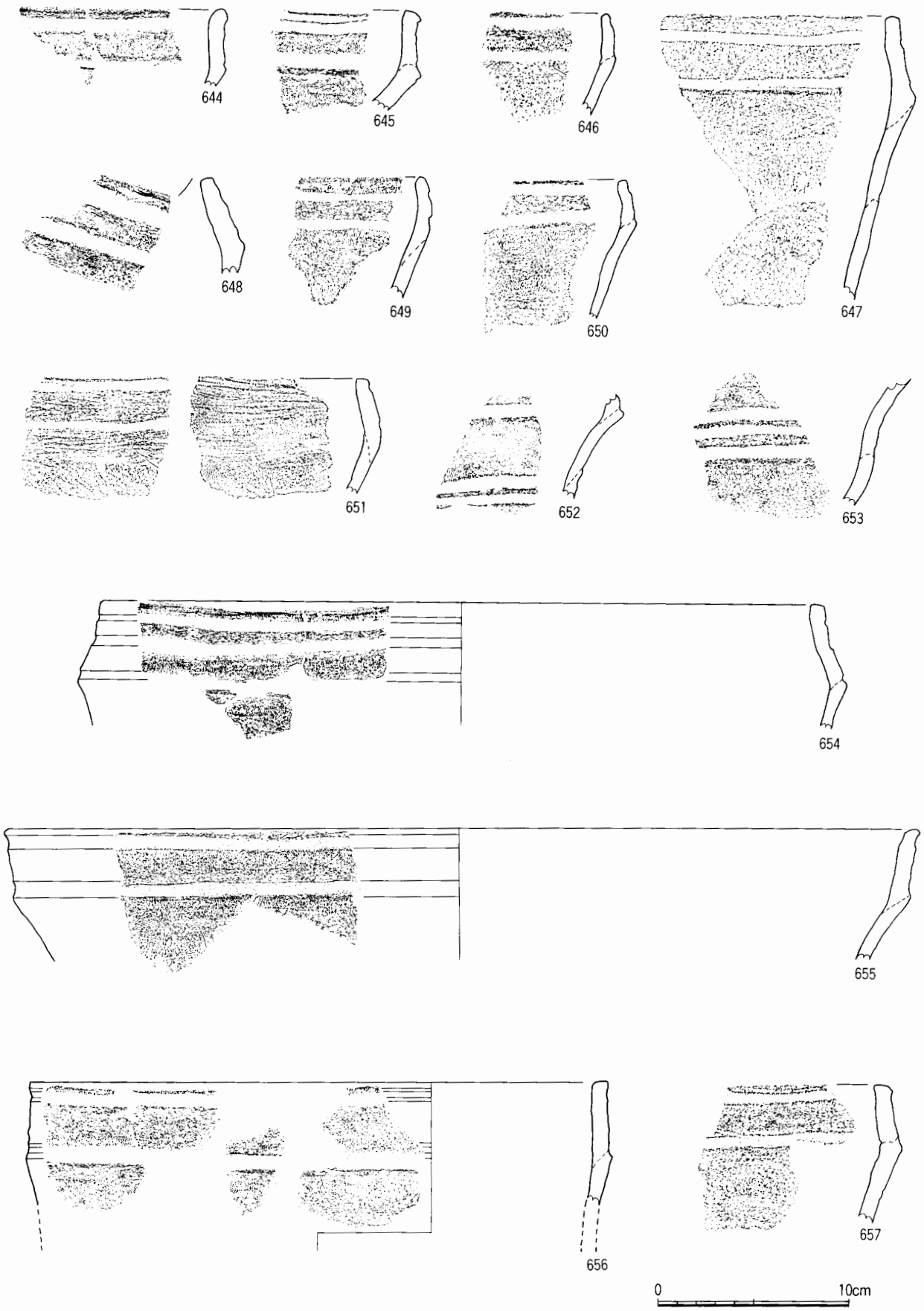
1種　凹線の輪郭が明瞭で、比較的丁寧に仕上げられている土器（662～686・693・694）。

662は円棒状工具による施文と見られ、凹線内に工具の跡が残る。扇状圧痕が観察できる。663は深めの凹線を施文する。頂部が下になる扇状圧痕を施す。664は凹線施文後、再調整されている。扇状圧痕施文があることからこの種に入れた。665は頂部が下になる扇状圧痕を縦位に2カ所施文する。666は胴上部である。667は屈曲が緩く口縁部上端が外へ開いている。凹線の施文が浅く仕上げが雑である。頂部が下の扇状圧痕を縦位に2つもつ。668は円棒状工具によると思われる凹線で施文時の痕跡を残す。扇状圧痕の頂部は下である。669は屈曲部が内折する。670は口縁部上端に刺突が施される。671は胴部屈曲部であろう。672も胴部屈曲部で扇状圧痕を縦位に2つ施文する。673は扇状圧痕の幅が広い。674は口縁部付近か。675・676は口縁部最上部と最下部に扇状圧痕を施文する。677は胴部片で扇状圧痕と凹線の間に間隔をおく。678は波状口縁を呈し、波頂部に扇状圧痕を施文し、口縁ラインに沿って凹線が施文される。679は凹線が口縁ラインと波頂部で離れる。北陸系的要素をもつ。680は凹線施文が雑で再調整はされていないと思われる。681～686はa類同様口縁部の上下に2本間隔を置いて凹線が施文される手法である。凹線は輪郭がはっきりし、再調整の跡は窺えない。693は口縁部が屈曲せず外へ開く器形を呈する。凹線の輪郭がはっきりし、深く施文されている。694は口縁が楕円形または舟形を呈する。

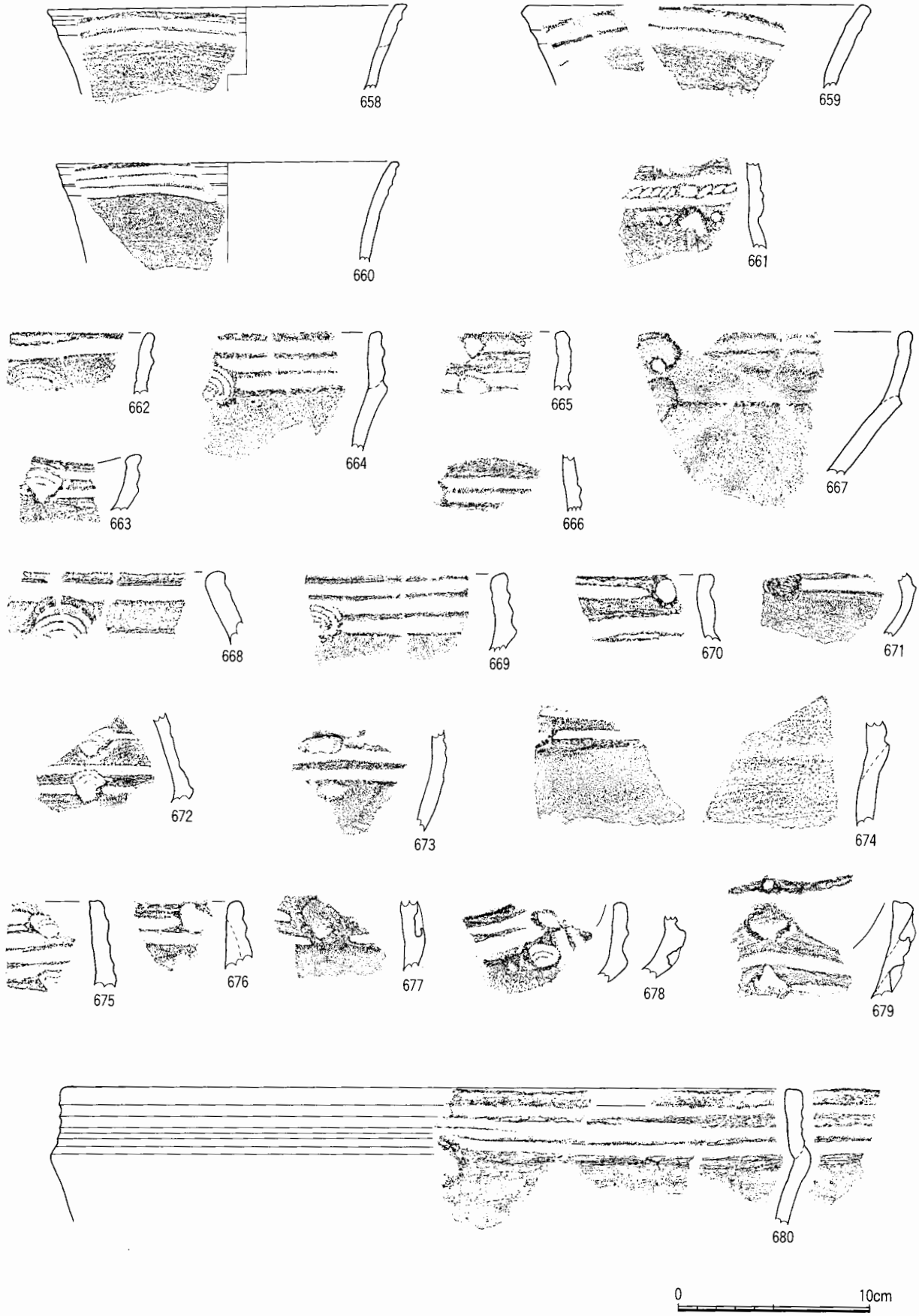
2種　凹線の施文が雑で再調整を施さない土器（687～692）。凹線の断面形状がこれまでと異なり、片側のみ丸みを帯びた弧状で、片側は器面へなだらかにつながり稜がはっきりしない。雑な施文で再調整はなされていない。

B群土器

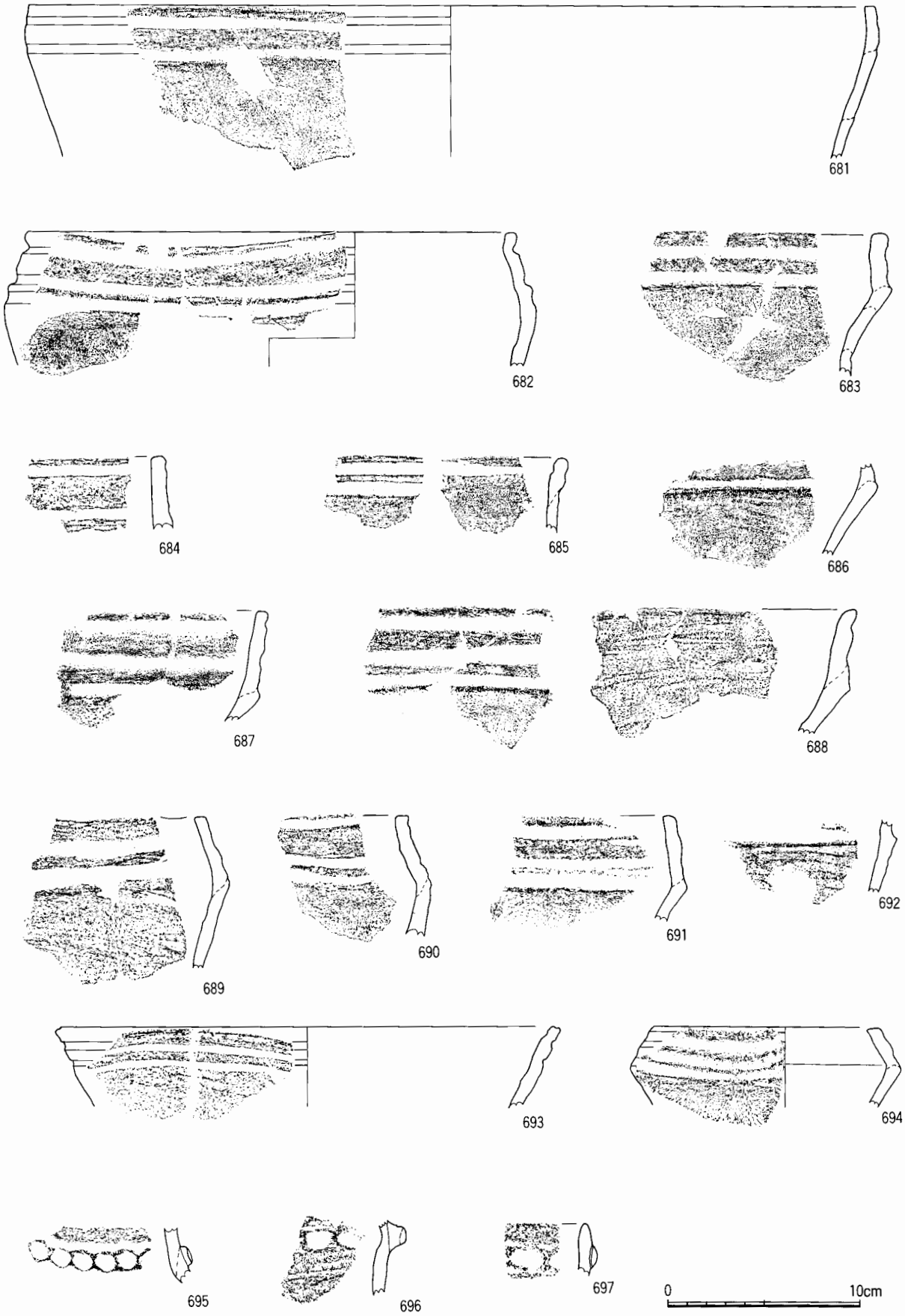
晩期末～弥生前期に比定される条痕文系土器を一括した（第87図695～697　図版47）。樫王式～水神平式期に並行すると考えられる。695は円棒による刺突が施された突帯を有する。696・697は指頭による押圧を加えた突帯を施文する。



第85図　包含層出土土器（16）　K－8群（2）（S＝1／3）



第86図　包含層出土土器（17）　K－8群（3）（S＝1／3）



第87図　包含層出土土器（18）　K－8群・B群（S＝1／3）

底部（第88図698～706　図版48）

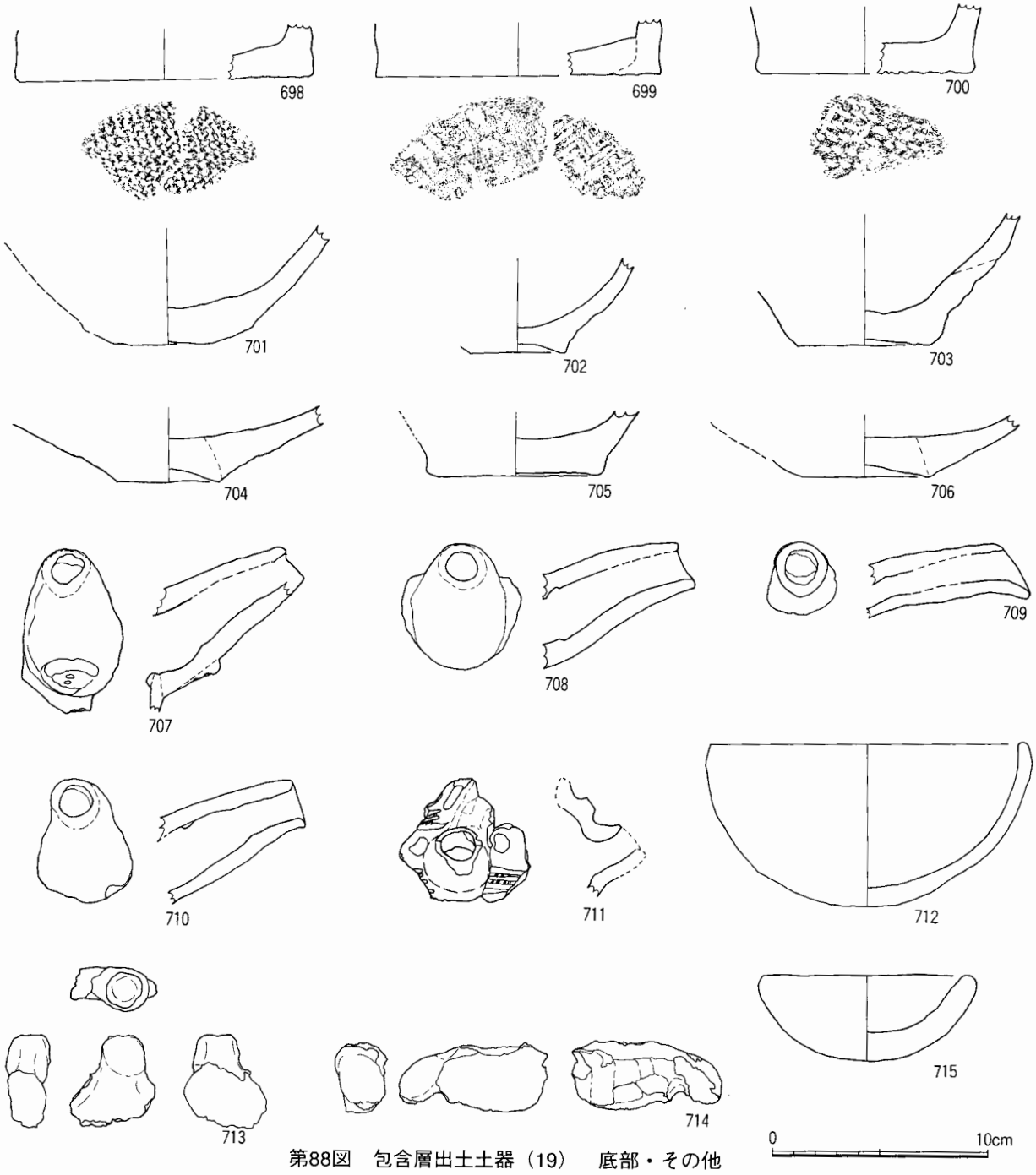
698～700は中期後葉、701～706は後期中葉から後葉の土器の底部と考えられる。

注口土器注口部（第88図707～711　図版49）

注口土器の注口部を一括した。後期中葉～後葉のものと考えられる。711は注口部横の文様意匠から元住吉山Ⅰ式に比定できる。

土偶・鉢（第88図712～715　図版49）

712・713は土偶片で、712は頭部、713は胸部と右肩部が残存する。今朝平タイプに含まれると考える。714は無文の鉢である。底部は丸く、明確な底部はない。715は手捏ねによる鉢である。



第88図　包含層出土土器（19）　底部・その他

第7表　土器観察表（1）

番号	挿図No.	写真図版	地区	遺構グリッド	層位	分類	部位	成形・調整 1表・2裏	色調（1外面・2内面）	胎土の緻・密	含有物	縄文の撚り 1表・2裏	焼成	備考
1	59	14	5	SB2		C－8	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：赤褐色（5YR4/8 2：明赤褐色（5YR5/6）	普通	直径4mm以下の長石・角閃石		良好	
2	59	14	5	SB2		C－8	底部	1：ナデ 2：ナデ	1：赤褐色（5YR4/8） 2：赤褐色（5YR4/6）	普通	直径5mm以下の長石・角閃石		良好	
3	59	14	5	SB2		C－8		1：ナデ 2：ナデ	1：明黄褐色（10YR7/6） 2：にぶい黄褐色（10YR6/4）	密	直径0.1～3mmの長石・チャート・石英・金雲母		やや甘い	
4	60	16	5	SB2		C－8	口縁部・胴部	1：条痕 2：ナデ	1：橙（7.5YR6/6） 2：橙7.5YR6/6	普通	直径1～3mmの長石・石英・角閃石		良好	
5	60	14	5	SB2		C－8	口縁部・頸部	1：ナデ 2：ナデ	1：赤褐色（7.5YR 4 /6） 2：明赤褐色（7.5YR5/8）	普通	直径0.1～3mmチャート・長石・石英・角閃石・金雲母		やや甘い	外面炭化物付着
6	60	14	5	SB2		C－8	胴部・底部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい褐色（7.5YR5/3） 2：にぶい褐色（7.5YR5/3）	普通	直径0.1～1.5mmの長石・石英・金雲母		良好	
7	60	15	5	SB2		C－8	口縁部・胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：明黄褐色（10YR6/6） 2：にぶい黄橙（10YR7/4）	普通	直径位0.2～3mmのチャート・角閃石・石英・長石		やや甘い	
8	61	15	5	SB2		C－4	口縁部付近	2：ナデ	1：褐色（7.5YR 4 /3） 2：にぶい黄橙（10YR6/3）	普通	直径4mm以下の長石・角閃石・金雲母	2：LR	良好	
9	61	15	5	SB2		C－4	口縁部	2：ナデ	1：灰黄褐色（10YR4/2） 2：灰黄褐色（10YR5/2）	密	直径1mm以下の長石・石英・角閃石・金雲母		良好	
10	61	15	5	SB2		C－7	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい黄橙（10YR6/4） 2：明黄褐色（10YR6/8）	普通	直径0.5mm前後の長石・金雲母		良好	
11	61	15	5	SB2		C－6	口縁部	2：ナデ	1：黒褐色（7.5YR3/2） 2：にぶい黄褐色（10YR5/4）	普通	直径2mm以下の金雲母・長石		良好	
12	61	16	5	SB2		C－6	頸部	2：ナデ	1：にぶい橙（7.5YR7/4） 2：にぶい黄橙（10YR6/3）	普通	直径2mm以下の長石・金雲母		良好	
13	61	15	5	SB2		C－8	口縁部・頸部	2：ナデ	1：にぶい黄褐色（10YR5/3） 2：にぶい黄橙（10YR6/ 4 ）	粗	直径0.2～0.8mmの石英・長石・金雲母・角閃石		甘い	
14	61	15	5	SB2		C－8	胴部	2：ナデ	1：にぶい黄橙（10YR6/4） 2：にぶい黄橙（10YR6/4）	普通	直径1～2mmの石英・長石・角閃石	1：RL	良好	
15	61	15	5	SB2		C－8	胴部	2：ナデ	1：黄褐色（10YR5/8） 2：黄褐色（10YR5/8）	粗	直径1mm前後の石英・長石・金雲母		やや甘い	
16	61	15	5	SB2		C－8	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：橙（7.5YR7/6） 2：橙（7.5YR7/6）	普通	直径0.2～2mmの金雲母・石英・長石		良好	
17	61	15	5	SB2		C－8	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：黄褐色（10YR5/8） 2：橙（7.5YR7/6）	普通	直径0.5～2mmの金雲母・石英・長石		良好	
18	61	15	5	SB2		C－8	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい橙（7.5YR6/4） 2：橙（5YR6/6）	普通	直径5mm以下の長石・金雲母	1：LR	良好	
19	61	15	5	SB2		C－8	口縁部付近	1：ナデ 2：ナデ	1：暗赤褐色（5YR3/4） 2：にぶい赤褐色（5YR4/4）	普通	直径4mm以下の長石・チャート・金雲母		良好	
20	61	15	5	SB2		C－8	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい橙（7.5YR7/4） 2：にぶい黄橙（10YR7/4）	普通	直径2mm以下の石英・長石・角閃石・金雲母		良好	外面炭化物付着
21	61	15	5	SB2		C－8	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：明褐色（7.5YR5/6） 2：明赤褐色（5YR5/6）	普通	直径0.5～1.5mmの石英・長石・角閃石		やや甘い	外面炭化物付着
22	61	15	5	SB2		C－8	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：橙（7.5YR6/6） 2：明赤褐色（5YR5/8）	普通	直径0.5～1.5mmの石英・長石・角閃石		やや甘い	
23	61	15	5	SB2		C－8	口縁部	2：ナデ	1：明赤褐色（5YR5/8） 2：橙（7.5YR6/6）	普通	直径0.2～0.5mmの石英・長石	1：LR	やや甘い	
24	61	15	5	SB2		C－8	頸部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい褐（7.5YR5/4） 2：橙（7.5YR7/6）	普通	直径2mm以下の石英・長石・金雲母		良好	
25	61	15	5	SB2		C－8	口縁部	2：ナデ	1：橙（10YR6/6） 2：明褐色（10YR5/6）	普通	直径0.1～0.3mmの長石・石英・金雲母		やや甘い	
26	61	15	5	SB2		C－8	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：明黄褐（10YR6/8） 2：明黄褐（10YR6/6）	普通	直径0.2～0.5mmの石英・長石・角閃石		やや甘い	
27	61	15	5	SB2		C－8	口縁部付近	1：ナデ 2：ナデ	1：赤褐（5YR 4 /8） 2：明赤褐（5YR5/6）	普通	直径0.2～1mmの石英・長石・角閃石・金雲母		良好	
28	61	15	5	SB2		C－8	頸部	1：ナデ 2：ナデ	1：灰黄褐（10YR4/2） 2：にぶい黄褐（10YR 4 /3）	密	直径0.3～0.5mmの石英・長石		良好	外面炭化物付着
29	61	15	5	SB2		C－8	頸部	1：ナデ 2：ナデ	1：明褐（10YR5/6） 2：褐（10YR4/6）	普通	直径0.5mm前後の石英・長石・金雲母		やや甘い	外面炭化物付着
30	61	15	5	SB2		C－8	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：橙（5YR6/6） 2：浅い黄橙（7.5YR8/6）	普通	直径0.2～3mmのチャート・石英・金雲母		やや甘い	
31	61	15	5	SB2		C－8	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：浅い黄橙（7.5YR8/3） 2：浅い黄橙（10YR8/3）	普通	直径1.5mm前後の長石・角閃石・金雲母		良好	
32	61	16	5	SB2		C－8	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：灰白（2.5YR8/1） 2：黄灰（2.5YR5/1）	普通	直径3mm以下の石英・長石・金雲母		良好	
33	61	16	5	SB2		C－8	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：灰褐（7.5YR4/2） 2：褐（7.5YR4/3）	普通	直径2mm前後の石英・長石・金雲母	1：LR	良好	
34	61	16	5	SB2		C－8	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：暗褐（7.5YR3/3） 2：赤褐（5YR 4 /6）	普通	直径4mm以下の長石・角閃石	1：RL	良好	外面炭化物付着
35	61	16	5	SB2		C－8	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい褐（7.5YR5/4） 2：にぶい褐（7.5YR5/4）	普通	直径1mm前後の石英・長石・金雲母	1：RL	良好	
36	61	16	5	SB2		C－8	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい褐（7.5YR5/3） 2：にぶい橙（7.5YR6/4）	普通	直径0.5～3mmの石英・長石・金雲母	1：RL	良好	内外面炭化物付着
37	61	16	5	SB2		C－8	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：橙（5YR6/6） 2：灰褐（7.5YR4/2）	普通	直径0.5～1mmの石英・長石・金雲母	1：RL	良好	内外面炭化物付着
38	61	16	5	SB2		C－8	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい褐（7.5YR5/3） 2：にぶい橙（7.5YR6/4）	普通	直径0.5～3mmの石英・長石・金雲母	1：RL	良好	内外面炭化物付着
39	62	16	5	SB3		C－6	胴部		1：褐（7.5YR 4 /3） 2：にぶい褐（7.5YR5/4）	密	直径1.5mm前後の長石・金雲母		良好	
40	62	16	5	SB3		C－6	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい橙（7.5YR7/4） 2：にぶい橙（7.5YR6/4）	普通	直径0.5～1.5mmの石英・長石・金雲母		良好	
41	62	16	5	SB3		C－6	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：灰褐(7.5YR4/2) 2：褐灰(7.5YR4/1)	普通	直径0.5mm前後の石英・長石・金雲母		良好	
42	62	16	5	SB3		C－6	胴部	2：ナデ	1：にぶい赤褐(5YR5/4) 2：にぶい橙(7.5YR6/4)	普通	直径0.5～1.5mmのチャート・長石		良好	
43	62	16	5	SB3		C－6	胴部	2：ナデ	1：にぶい黄橙(10YR7/4) 2：にぶい黄橙(10YR7/2)	普通	直径3mm前後の長石・石英・金雲母		良好	
44	62	16	5	SB3		C－7	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：灰黄褐(10YR6/2) 2：にぶい黄橙(10YR7/2)	普通	直径1mm以下の石英・長石		良好	
45	62	16	5	SB3		C－7	口縁部付近	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい黄橙(10YR6/3) 2：灰黄(2.5Y6/2)	普通	直径0.5mm前後の石英・長石・金雲母		良好	内外面炭化物付着
46	62	16	5	SB3		C－8	頸部	1：ナデ 2：ナデ	1：橙（7.5YR7/6） 2：にぶい黄橙(10YR6/4)	密	直径1mm以下の石英・長石・チャート		良好	
47	62	16	5	SB3		C－8	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：明赤褐(5YR5/6) 2：明赤褐(5YR5/6)	普通	直径5mm以下の石英・長石		良好	
48	62	16	5	SB3		C－8	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい褐(7.5YR5/4) 2：明褐(7.5YR5/6)	普通	直径1mm前後の石英・長石・金雲母		良好	外面炭化物付着
49	62	16	5	SB4		C－8	口縁部	2：ナデ	1：明赤褐(2.5YR5/6) 2：明赤褐(2.5YR5/8)	普通	直径1mm以下の長石・金雲母	1：LR	良好	
50	62	16	5	SB4		C－8	胴部	2：ナデ	1：にぶい赤褐(5YR5/4) 2：赤褐(5YR4/8)	普通	直径2mm前後の長石・角閃石・金雲母	1：LR	良好	
51	62	16	5	SB4		C－8	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい黄褐(10YR5/3) 2：にぶい黄橙(10YR6/3)	普通	直径3mmの砂岩、直径1mm以下の角閃石・金雲母		良好	
52	62	17	5	SB5		C－8	胴部	2：ナデ	1：黒褐(10YR3/2) 2：橙(5YR6/6)	普通	直径0.2～1mmの長石・角閃石・金雲母	1：LR	良好	

第8表　土器観察表（2）

番号	挿図No.	写真図版	地区	遺構グリッド	層位	分類	部位	成形・調整 1表・2裏	色調（1外面・2内面）	胎土の疎・密	含有物	縄文の撚り 1表・2裏	焼成	備考
53	62	17	5	SB5		C－8	胴部	2：ナデ	1：にぶい褐(7.5YR5/4) 2：にぶい黄褐(10YR4/3)	普通	直径0.2～1.5mmの角閃石・チャート・金雲母	1：LR	良好	
54	62	17	5	SB5		C－8	胴部	2：ナデ	1：にぶい黄橙(10YR7/4) 2：にぶい黄橙(10YR7/3)	普通	直径0.2～2mm長石・角閃石・金雲母		良好	
55	62	17	5	SB6		C－8	胴部	2：ナデ	1：橙(7.5YR6/6) 2：にぶい黄橙(10YR7/4)	普通	直径0.5～1mmの長石・角閃石・チャート	1：LR	良好	
56	62	17	5	SB6		C－8	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：明褐(7.5YR5/6) 2：明黄褐(10YR7/6)	普通	直径0.5～1mmの長石・角閃石	1：LR	良好	外面炭化物付着
57	62	17	5	SB6		C－8	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：橙(7.5YR7/6) 2：橙(7.5YR7/6)	普通	直径0.2～1mmの石英・長石・角閃石・チャート・金雲母		良好	
58	63	18	5	SB7		C－4	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい黄褐(10YR5/3) 2：黒(10YR2/1)	普通	直径0.5mm以下の石英・長石・金雲母		良好	内外面炭化物付着
59	63	18	5	SB7		C－6	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：黒褐(7.5YR3/2) 2：にぶい黄褐(10YR 4 /3)	普通	直径0.2～3mmの石英・長石・角閃石・金雲母	1：RL	やや甘い	
60	63	18	5	SB7		C－4	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：明褐(7.5YR5/6) 2：黒褐(7.5YR3/1)	普通	直径0.1～1mmの石英・長石・角閃石・金雲母		やや甘い	内外面炭化物付着
61	63	18	5	SB7		C－4	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい黄橙(10YR7/4) 2：橙(7.5YR6/6)	普通	直径0.1～1mmの石英・長石・チャート・金雲母		やや甘い	
62	63	18	5	SB7		C－4	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：橙(7.5YR6/6) 2：にぶい黄橙(10YR6/4)	普通	直径2mm以下の石英・チャート・金雲母 直径6.5mm以下の長石	1：RL	やや甘い	
63	63	18	5	SB7		C－4	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：明赤褐(10YR5/6) 2：明赤褐(5YR5/6)	普通	直径0.1～1mmの石英・長石・金雲母・角閃石		やや甘い	外面炭化物付着
64	63	18	5	SB7		C－4	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい黄(2.5Y6/3) 2：黒褐(2.5Y3/2)	普通	直径0.1～3mmの石英・長石・金雲母		やや甘い	
65	63	18	5	SB7		C－4	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：黒褐(10YR2/3) 2：黒(5Y2/1)	普通	直径0.1～2mmの石英・長石・金雲母		やや甘い	外面炭化物付着
66	63	18	5	SB7		C－4	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい褐(7.5YR5/4) 2：黒褐(10YR3/1)	密	直径2mm以下の石英・長石・金雲母		良好	内外面炭化物付着
67	63	18	5	SB7		C－6	胴部	2：ナデ	1：浅黄(2.5Y7/4) 2：にぶい黄(2.5Y6/4)	普通	直径0.2～3mmの石英・長石・角閃石・チャート・金雲母	1：RL	やや甘い	
68	63	18	5	SB7		C－7	頸部	1：ナデ 2：ナデ	1：灰黄褐(10YR5/2) 2：にぶい褐(7.5YR5/3)	普通	直径0.5～1mmの長石・金雲母		良好	外面炭化物付着
69	63	18	5	SB7		C－6	胴部	2：ナデ	1：にぶい黄褐(10YR5/3) 2：にぶい黄橙(10YR6/3)	普通	直径0.2～3mmの石英・長石・角閃石・チャート・金雲母	1：RL	やや甘い	
70	63	18	5	SB7		C－6	頸部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい黄(2.5Y6/4) 2：浅黄(2.5YR7/4)	普通	直径2mm以下の石英・長石・角閃石・チャート・金雲母		やや甘い	
71	63	18	5	SB7		C－6	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：橙(5YR6/6) 2：にぶい赤褐(5YR5/4)	普通	直径0.2～1mmの石英・長石・角閃石・金雲母		やや甘い	内外面炭化物付着
72	63	18	5	SB7		C－6	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：橙（7.5YR6/6） 2：褐(7.5YR 4 /3)	普通	直径0.1～1mmの石英・長石・角閃石・金雲母		やや甘い	内面炭化物付着
73	63	17	5	SB7		C－6	口縁部・胴部	1：ナデ 2：ナデ・指頭痕	1：灰褐(7.5YR5/2) 2：にぶい橙(7.5YR7/4)	普通	直径2mm以下の長石・金雲母		良好	
74	63	18	5	SB7		C－6	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：橙(7.5YR6/8) 2：橙(7.5YR6/6)	普通	直径0.2～3mmの石英・長石・角閃石・金雲母		やや甘い	
75	63	18	5	SB7		C－6	底部	1：ナデ・指頭痕 2：ナデ・指頭痕	1：にぶい橙(7.5YR7/4) 2：黒褐(10YR3/1)	粗	直径1～2mmの石英・長石・チャート		良好	
76	63	18	5	SB7		C－8	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：褐(7.5YR 4 /3) 2：にぶい黄橙(10YR6/4)	密	直径2mm前後の石英・長石・角閃石・チャート・金雲母		良好	外面炭化物付着
77	63	18	5	SB7		C－8	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：褐(7.5YR 4 /3) 2：にぶい黄橙(10YR7/4)	密	直径2mm前後の石英・長石・角閃石・チャート・金雲母		良好	
78	63	18	5	SB7		C－8	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい黄褐(10YR5/3) 2：にぶい黄橙(10YR6/4)	密	直径2mm以下の石英・長石・チャート・金雲母		良好	外面炭化物付着
79	63	18	5	SB7		C－8	頸部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい橙(7.5YR6/4) 2：にぶい黄橙(10YR6/4)	普通	直径0.5～1.5mmの石英・長石・金雲母	1：RL	良好	外面炭化物付着
80	64	19	2	SI6		K－4	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい黄褐(10YR5/4) 2：褐(7.5YR 4 /6)	密	直径0.1～1mmの石英・長石・金雲母	1：LR	良好	
81	64	19	2	SI6		K－8	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：明赤褐(5YR5/8) 2：明赤褐(5YR5/6)	普通	直径0.2～3mmの石英・長石・角閃石・金雲母		やや甘い	
82	64	19	2	SI6		K－8	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：明褐(7.5YR5/8) 2：赤褐(5YR 4 /8)	密	直径0.1～2mmの石英・長石・金雲母		良好	
83	64	19	2	SI6		K－8	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：黒褐(7.5YR3/1) 2：褐(7.5YR 4 /6)	普通	直径0.5～1mmの石英・長石・金雲母		良好	
84	64	19	2	SI11		K－7	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：黒(10YR2/1) 2：褐(7.5YR4/3)	普通	直径1mm前後の石英・長石・金雲母		良好	外面炭化物付着
85	64	19	2	SI11		K－7	底部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい橙(7.5YR7/4) 2：にぶい橙(7.5YR7/4)	普通	直径1mm前後の石英・長石・金雲母		良好	
86	64	19	2	SM1		K－7	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：褐灰(10YR4/1) 2：黒(10YR2/1)	密	直径0.1mm前後の石英・長石・金雲母	1：RL	良好	
87	64	19	2	SM1		K－7	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい黄橙(10YR6/4) 2：灰黄(2.5Y7/2)	普通	直径0.1～1mmの石英・長石・角閃石・チャート・金雲母		やや甘い	
88	64	19	2	SM1		K－7	底部	1：ナデ 2：ナデ	1：橙(7.5YR7/6) 2：にぶい黄橙(10YR7/4)	普通	直径0.5～2mmの石英・長石・金雲母・黒雲母		良好	
89	64	19	2	SM3		K－7？	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：灰黄褐(10YR4/2) 2：黒褐(10YR3/2)	普通	直径0.2～2mmの長石・角閃石・金雲母		良好	
90	64	19	2	SM3		K－7？	口縁部・胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい黄橙(10YR7/4) 2：にぶい黄橙(10YR6/3)	普通	直径0.2～2mmの長石・角閃石・金雲母		良好	外面炭化物付着
91	64	19	2	SM3			底部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい黄褐(10YR5/3) 2：にぶい黄褐(10YR5/3)	普通	直径3mm以下の石英・長石・角閃石・金雲母		良好	内面炭化物付着
92	64	19	2	SU2		K－4	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：橙(7.5YR6/6) 2：にぶい黄橙(10YR7/4)	普通	直径0.2～2.5mmの石英・長石・角閃石・金雲母	1：LR	やや甘い	
93	64	19	2	SU2		K－4	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：橙(7.5YR6/6) 2：にぶい黄橙(10YR7/4)	普通	直径0.2～2.5mmの石英・長石・角閃石・チャート・金雲母	1：LR	やや甘い	外面炭化物付着
94	65	20	2	SU1		C－1	口縁部・胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい褐(7.5YR6/4) 2：にぶい褐(7.5YR6/4)	密	直径1mm前後の石英・長石・チャート・金雲母	1：RL	良好	内外面炭化物付着
95	66	19	2	SU3		K－7		1：ナデ 2：ナデ	1：明黄褐(10YR6/6) 2：褐(10YR 4 /6)	密	直径0.2～4mmの石英・長石・角閃石・金雲母		良好	外面炭化物付着
96	66	19	2	SU3		K－7		1：ナデ 2：ナデ	1：明黄褐(10YR7/6) 2：にぶい黄褐(10YR5/4)	密	直径0.2～3mmの石英・長石・角閃石・金雲母		良好	外面炭化物付着
97	66	19	2	SU3		K－7		1：ナデ 2：ナデ	1：明褐(7.5YR5/6) 2：黒褐(10YR3/2)	普通	直径0.2～1mmの長石・角閃石・金雲母		良好	
98	66	20	3	SU4		K－8	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：褐灰(10YR4/1) 2：橙(7.5YR6/8)	普通	直径0.1～3mmの石英・長石・チャート・金雲母		やや甘い	外面炭化物付着
99	66	21	3	SU4		K－8	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：明黄褐(10YR6/8) 2：明黄褐(10YR6/8)	普通	直径0.2mm前後の石英・長石・角閃石・金雲母・黒雲母		良好	
100	66	20	3	SU4		K－8	口縁部	1：条痕 2：条痕	1：にぶい黄橙(10YR6/4) 2：灰黄褐(10YR4/2)	普通	直径2mm以下の石英・長石・金雲母		良好	
101	66	21	3	SU4		K－8	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：明褐(7.5YR5/6) 2：褐(10YR4/6)	普通	直径0.2～0.5mmの長石・角閃石・金雲母		やや甘い	内外面炭化物付着
102	66	21	3	SU4		K－8	口縁部	1：ナデ 2：指ナデ	1：灰黄褐(10YR4/2) 2：暗褐(10YR3/3)	普通	直径0.2～0.5mmの長石・角閃石・金雲母		良好	外面炭化物付着
103	66	20	3	SU4		K－8	口縁部	1：ナデ 2：条痕	1：橙(5YR6/6) 2：にぶい赤褐5YR5/4)	普通	直径1mm前後の石英・長石・金雲母		良好	
104	66	20	3	SU4		K－8	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：黒褐(10YR2/2) 2：暗褐(10YR3/3)	密	直径0.5～1mmの長石・金雲母		良好	

第9表　土器観察表（3）

番号	挿図No.	写真図版	地区	遺構グリッド	層位	分類	部位	成形・調整 1表・2裏	色調（1外面・2内面）	胎土の密・密	含有物	縄文の撚り 1表・2裏	焼成	備考
105	66	20	3	SU4		K－8	口縁部・胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：黒褐(7.5YR3/1) 2：にぶい赤褐(5YR4/4)	普通	直径3mm以下の石英・長石・角閃石・金雲母		良好	外面炭化物付着
106	66	21	3	SU4		K－8？	底部	1：ナデ 2：ナデ	1：明赤褐(2.5YR5/6) 2：黒褐(10YR3/1)	普通	直径1mm前後の石英・長石・金雲母		良好	外面炭化物付着
107	66	21	3	SU4		K－8？	底部	1：ナデ 2：ナデ	1：明赤褐(2.5YR5/6) 2：赤褐(5YR4/6)	普通	直径0.5～1.5mmの石英・長石・金雲母		良好	
108	67	20	3	SU4		K－8	口縁部・胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：明赤褐(5YR5/6) 2：にぶい赤褐(5YR4/3)	普通	直径0.2～2mmの石英・長石・角閃石・金雲母		良好	外面炭化物付着
109	67	21	3	SU4		K－8	口縁部	1：ナデ 2：指ナデ	1：黒(10YR2/1) 2：にぶい黄褐(10YR5/4)	普通	直径0.1～2.5mm前後の石英・長石・角閃石・金雲母		やや甘い	
110	67	21	3	SU4		K－8	口縁部・胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：赤褐(5YR4/8) 2：極暗褐(7.5YR2/3)	密	直径0.5mm前後の石英・長石・金雲母		良好	外面炭化物付着
111	67	21	3	SU4		K－8	口縁部・胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい黄褐(10YR5/3) 2：にぶい黄橙(10YR6/4)	普通	直径2mm以下の石英・長石・角閃石・金雲母・黒雲母		良好	
112	67	21	3	SU4		K－8	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：褐(7.5YR4/3) 2：明褐(7.5YR5/6)	普通	直径0.5mm前後の長石・金雲母		やや甘い	
113	67	20	3	SU4		K－7	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：黒褐(10YR3/1) 2：にぶい黄褐(10YR4/3)	密	直径0.1～1mmの石英・角閃石・金雲母	1：RL	良好	内外面炭化物付着
114	68	21	5	SU5		C－8	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：暗褐(7.5YR3/3) 2：明赤褐(5YR5/8)	普通	直径2～5mmの石英・長石・角閃石・金雲母		やや甘い	外面炭化物付着
115	68	22	5	SU5		C－8	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：橙(7.5YR6/8) 2：橙(7.5YR6/6)	普通	直径0.2～0.3mmの石英・長石・角閃石・金雲母		やや甘い	
116	68	22	5	SU5		C－8	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：黄褐(10YR5/6) 2：明褐(7.5YR5/6)	普通	直径0.1～0.5mmの石英・長石・金雲母		やや甘い	外面炭化物付着
117	68	22	5	SU5		C－8	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：明黄褐(10YR6/6) 2：暗褐(10YR3/4)	粗	直径0.2～5mmの石英・長石・角閃石・チャート・金雲母		やや甘い	
118	68	22	5	SU5		C－8	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい黄褐(10YR4/3) 2：にぶい黄褐(10YR5/4)	普通	直径0.2～0.5mmの石英・長石・金雲母		やや甘い	
119	68	22	5	SU5		C－8	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：明黄褐(10YR6/6) 2：橙(7.5YR6/6)	普通	直径0.5～1mmの石英・長石・角閃石・金雲母		やや甘い	
120	68	22	5	SU5		C－8	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい黄橙(10YR7/4) 2：にぶい橙(7.5YR7/4)	普通	直径3mm以下の石英・長石・金雲母		良好	内面炭化物付着
121	68	22	5	SU5		C－8	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい黄橙(10YR7/3) 2：にぶい黄褐(10YR5/3)	普通	直径1～1.5mmの石英・長石・金雲母		良好	内外面炭化物付着
122	69	22	2	SK1		K－8	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：明赤褐(5YR5/6) 2：にぶい黄褐(10YR5/3)	密	直径0.2～1.5mmの石英・角閃石・チャート・金雲母		良好	
123	69	22	2	SK1		K－8	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：明赤褐(5YR5/6) 2：灰褐(7.5YR4/2)	普通	直径0.2～2mmの石英・長石・角閃石・金雲母		良好	
124	69	22	2	SK1		K－8	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：暗赤褐(5YR3/4) 2：橙(5YR6/6)	密	直径0.2～1.5mmの石英・長石・角閃石・金雲母		良好	
125	69	22	2	SK2			口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい褐(7.5YR5/4) 2：にぶい褐(7.5YR6/3)	普通	直径0.5～1.5mmの石英・長石・金雲母		良好	外面炭化物付着
126	69	22	2	SK2		K－8？	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい黄橙(10YR6/4) 2：にぶい褐(7.5YR6/3)	普通	直径1～2mmの石英・長石・金雲母		良好	
127	69	23	5	SK26		C－4	胴部	2：ナデ	1：にぶい黄橙(10YR6/3) 2：にぶい黄橙(10YR7/2)	普通	直径3mm以下の長石・角閃石	1：RL	良好	外面炭化物付着
128	69	23	5	SK26		C－4	胴部	2：ナデ	1：黒褐(10YR3/2) 2：にぶい黄橙(10YR7/3)	普通	直径2mm以下の石英・長石・角閃石		良好	
129	69	23	5	SK26		C－4	口縁部	2：ナデ	1：にぶい黄橙(10YR7/4) 2：にぶい黄橙(10YR6/3)	普通	直径0.2～1mmの長石・角閃石・金雲母	1：RL	良好	
130	69	23	5	SK26		C－6	口縁部	2：ナデ	1：橙(7.5YR6/6) 2：明黄褐(10YR6/6)	普通	直径0.2～1mmの長石・角閃石・チャート・金雲母		良好	
131	69	23	5	SK26		C－6	胴部	2：ナデ	1：にぶい黄褐(10YR5/3) 2：にぶい黄橙(10YR7/4)	普通	直径0.2～2mmの石英・長石・金雲母		良好	
132	69	23	5	SK26		C－6	胴部	2：ナデ	1：灰黄褐(10YR4/2) 2：にぶい黄橙(10YR6/4)	普通	直径0.2～1mmの長石・チャート・金雲母		良好	
133	69	23	5	SK26		C－6	胴部	2：ナデ	1：にぶい黄橙(10YR6/3) 2：灰黄褐(10YR6/2)	普通	直径0.2～1.5mmの長石・角閃石・金雲母		良好	
134	69	23	5	SK27		C－1	胴部	2：ナデ	1：にぶい橙(7.5YR6/4) 2：黒褐(10YR3/2)	普通	直径0.5～1mmの石英・長石・金雲母		良好	
135	69	23	5	SK27		C－3	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：橙(7.5YR6/6) 2：橙（7.5YR7/6)	密	直径0.5mm前後の石英・長石		良好	内面炭化物付着
136	69	23	5	SK31		C－8	胴部	2：ナデ	1：黒褐(10YR3/2) 2：褐(7.5YR4/6)	粗	直径3mm以下の石英・長石・角閃石・金雲母		良好	外面炭化物付着
137	69	23	5	SK35		C－8	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：橙(7.5YR7/6) 2：橙(7.5YR7/6)	普通	直径1～4mmの石英・長石・チャート		良好	
138	69	23	5	SK41		C－4	胴部	2：ナデ	1：にぶい赤褐(5YR4/3) 2：にぶい橙(7.5YR6/4)	普通	直径0.5～2mmの石英・長石・金雲母	1：LR	良好	
139	69	23	5	SK41		C－4	胴部	2：ナデ	1：にぶい黄橙(10YR5/3) 2：にぶい黄褐(10YR4/3)	普通	直径2mm以下の石英・長石		良好	
140	69	23	5	SK41		C－1	胴部	2：ナデ	1：にぶい褐(7.5YR5/4) 2：にぶい黄橙(10YR6/3)	普通	直径5mm以下の石英・長石・角閃石	1：LR	良好	内面炭化物付着
141	69	23	5	SK41		C－8	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい黄褐(10YR4/3) 2：にぶい黄褐(10YR5/4)	粗	直径0.2～3.5mmの石英・長石・角閃石・チャート	1：RL	甘い	外面炭化物付着
142	69	23	5	SK41		C－8	胴部	2：ナデ	1：にぶい黄橙(10YR6/4) 2：褐灰(10YR5/1)	普通	直径4mm以下の長石・角閃石・金雲母		良好	外面炭化物付着
143	69	23	2	P36		K－4	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：明黄褐(10YR7/6) 2：明黄褐(10YR6/6)	普通	直径0.1～5mmの石英・長石・角閃石		やや甘い	
144	69	23	2	P52		K－7	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：灰黄褐(10YR6/2) 2：黒褐(10YR3/1)	普通	直径0.1～3mmの石英・長石・チャート		やや甘い	
145	69	23	2	P53		K－7	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：橙(5YR7/8) 2：橙(5YR7/6)	普通	直径0.5～1.5mmの石英・長石・金雲母		やや甘い	
146	69	23	2	P67		K－7	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：灰褐(7.5YR4/2) 2：にぶい黄橙(10YR7/4)	密	直径1mm以下の石英・長石・金雲母		良好	内外面炭化物付着
147	69	23	2	P73		K－6	胴部	1：ナデ 2：指ナデ	1：褐(7.5YR4/4) 2：にぶい褐(7.5YR5/4)	普通	直径0.1～4mmの石英・長石・角閃石・チャート・金雲母	1：LR	やや甘い	
148	69	23	2	P100		K－6	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：褐(10YR4/6) 2：浅黄橙(10YR8/3)	普通	直径0.1～5mmの・長石・角閃石・チャート・金雲母	1：LR	良好	
149	69	23	2	P101		K－7	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい黄褐(10YR5/3) 2：オリーブ黒(5Y3/1)	密	直径0.5～1.5mm前後の長石・金雲母		良好	
150	69	23	2	P115		K－5	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい褐(7.5YR5/3) 2：黒褐(10YR3/2)	密	直径1mm以下の石英・長石・金雲母		良好	
151	69	23	2	P115		K－8	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい黄褐(10YR5/3) 2：灰黄褐(10YR4/2)	密	直径1mm以下の長石・金雲母	1：RL	良好	
152	69	23	2	P115		K－4？	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：黒(10YR2/1) 2：にぶい黄橙(10YR7/2)	普通	直径0.5～1mmの長石・角閃石・金雲母	1：RL	良好	
153	69	23	2	P115		K－6	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい黄橙(10YR6/3) 2：にぶい黄橙(10YR7/2)	密	直径1mm以下の石英・長石・角閃石・金雲母	1：RL	良好	
154	69	23	2	P115		K－6？	胴部	2：ナデ	1：黒(10YR2/1) 2：浅黄橙(10YR8/3)	密	直径0.5mm前後の石英・長石・金雲母		良好	
155	69	23	2	P147		K－8	口縁部付近	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい黄橙(10YR6/4) 2：明褐(7.5YR5/6)	普通	直径0.1～3mmの石英・長石・角閃石・金雲母		やや甘い	外面炭化物付着
156	69	23	5	P348		C－8	胴部	2：ナデ	1：褐(7.5YR4/6) 2：明褐(7.5YR5/6)	普通	直径5mm以下の石英・長石・金雲母		良好	

第10表　土器観察表（4）

番号	挿図No.	写真図版	地区	遺構グリッド	層位	分類	部位	成形・調整 1表・2裏	色調（1外面・2内面）	胎土の密・密	含有物	縄文の撚り 1表・2裏	焼成	備考
157	69	23	5	P416		C－8	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：橙(5YR6/8) 2：橙(5YR6/8)	普通	直径0.1～3.5mmの石英・長石・角閃石・金雲母		やや甘い	内面炭化物付着
158	69	23	5	P516		C－8	胴部	2：ナデ	1：橙(7.5YR6/6) 2：橙(7.5YR6/6)	普通	直径0.5～1mmの石英・長石・金雲母		良好	外面炭化物付着
159	70	24	1	9M	Ⅱa	S	口縁部		1：黒褐(10YR3/2) 2：褐(10YR4/6)	普通	直径2mm以下の長石・金雲母		良好	外面炭化物付着
160	70	24	1	10M	Ⅲ	S	胴部	2：ナデ	1：にぶい黄褐(10YR4/3) 2：にぶい黄褐(10YR4/3)	普通	直径0.3～0.5mmの石英・長石・金雲母		良好	外面炭化物付着
161	70	24	2	19H	Ⅲ	S	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：明黄褐(10YR7/6) 2：にぶい黄褐(10YR4/3)	普通	直径0.1～1mmの石英・長石・角閃石		やや甘い	内面に繊維痕有り
162	70	24	2	17H	Ⅲ	S	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：明黄褐(10YR7/6) 2：にぶい黄褐(10YR4/3)	普通	直径0.1～1.5mmの石英・長石・角閃石		やや甘い	
163	70	24	3	30E	Ⅲ	S	胴部	2：ナデ	1：明赤褐(5YR5/6) 2：にぶい黄褐(10YR5/4)	普通	直径0.2～2mmの石英・長石・角閃石		良好	
164	70	24	3	28E	Ⅲ	S	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：明褐(7.5YR5/6) 2：にぶい黄褐(10YR5/4)	普通	直径0.2～2mmの石英・長石・角閃石		やや甘い	
165	70	24	2	19G	Ⅳ	S	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：明赤褐(5YR5/6) 2：褐(7.5YR4/4)	普通	直径0.1～3mmの石英・長石・角閃石		やや甘い	内面に繊維痕有り
166	70	24	2	19G	Ⅳ	S	口縁部	2：ナデ・指頭痕	1：黒褐(7.5YR3/1) 2：灰褐(7.5YR4/2)	普通	直径1.5mm以下の石英・長石・角閃石		良好	
167	70	24	2	19G	Ⅲ	S	口縁部	2：ナデ	1：にぶい赤褐(5YR4/4) 2：にぶい赤褐(5YR4/4)	普通	直径4.5mmの石英・直径0.1mm以下の金雲母・石英		良好	
168	70	24	3	27G	Ⅲ	S	口縁部	2：ナデ	1：にぶい褐(7.5YR5/3) 2：灰褐(7.5YR4/2)	普通	直径0.1～1.5mmの長石・角閃石・金雲母		良好	
169	70	24	3	29G	Ⅲ	S	胴部	1：条痕 2：条痕	1：にぶい黄褐(10YR4/3) 2：暗褐(10YR3/3)	普通	直径0.2～3mmの石英・長石・金雲母		やや甘い	内面に繊維痕有り
170	70	24	2	17F	Ⅲ	S	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：明赤褐(5YR4/6) 2：褐(7.5YR4/4)	普通	直径0.1～4mmの石英・長石・角閃石・金雲母		甘い	
171	70	24	2	17G	Ⅲ	S	胴部		1：にぶい褐(7.5YR5/4) 2：灰褐(7.5YR4/2)	普通	直径1mm以下の石英・長石・角閃石・金雲母		良好	
172	70	24	2	19G	Ⅳ	S	胴部	2：ナデ・指頭痕	1：にぶい橙(7.5YR6/4) 2：にぶい褐(7.5YR5/4)	普通	直径0.1～3mmの石英・長石・角閃石		良好	内面に繊維痕有り
173	70	24	1	11M	Ⅲ	S	胴部	2：ナデ	1：暗褐色(10YR3/3) 2：褐(7.5YR4/4)	普通	直径1.8～2.6mmの長石・チャート		良好	外面炭化物付着
174	70	24	1	11L	Ⅲ	S	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：橙(7.5YR7/6) 2：黒褐(10YR3/2)	普通	直径0.1～3.5mmの石英・長石・金雲母		やや甘い	内外面炭化物付着
175	70	24	2	16G	Ⅲ	S	胴部		1：暗褐(10YR3/3) 2：褐(10YR4/6)	普通	直径2mm以下の長石・角閃石・金雲母		良好	
176	70	24	2	17G	Ⅲ	S	胴部	2：ナデ・指頭痕	1：褐(7.5YR4/3) 2：褐(7.5YR4/3)	普通	直径1.2mm以下の長石・金雲母・黒雲母		良好	
177	70	24	3	29K	Ⅲ	S	口縁部	2：ナデ	1：黒褐(10YR2/3) 2：褐(10YR4/4)	普通	直径0.5mm以下の石英・長石・金雲母		良好	
178	70	24	3	29L	Ⅲ	S	胴部	2：ナデ	1：黒褐(10YR3/1) 2：明黄褐(10YR6/6)	普通	直径0.2～1mmの長石・角閃石・金雲母		やや甘い	
179	70	24	3	29L	Ⅲ	S	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：黒褐(10YR3/2) 2：褐(7.5YR4/3)	密	直径0.5～1mmの長石・金雲母		良好	
180	70	24	3	32H	Ⅰ	S	胴部		1：黒褐(10YR2/2) 2：黒褐(10YR3/2)	普通	直径3mm以下の石英・長石・金雲母		良好	
181	70	25	4	44M	Ⅳ	S	口縁部	1：指ナデ 2：ナデ	1：にぶい褐(7.5YR5/4) 2：明褐(7.5YR5/6)	普通	直径2mm以下の石英・長石		良好	内外面繊維痕有り 炭化物付着
182	70	25	4	44M	Ⅳ	S	口縁部	1：ナデ	1：暗褐(10YR3/3) 2：褐(10YR4/6)	普通	直径0.2～1mmの石英・長石・金雲母		良好	外面炭化物付着 内面繊維痕有り
183	70	25	4	44M	Ⅳ	S	口縁部	2：ナデ	1：にぶい褐(7.5YR5/4) 2：にぶい褐(7.5YR5/4)	普通	直径0.5～2mmの石英・長石・金雲母		良好	外面炭化物付着 内面繊維痕有り
184	70	25	4	44L	Ⅳ	S	口縁部付近	1：ナデ 2：ナデ	1：黒褐(7.5YR3/2) 2：にぶい褐(7.5YR5/4)	普通	直径0.2～2mm長石・金雲母		良好	内面繊維痕有り
185	70	25	4	44M	Ⅳ	S	口縁部付近	2：ナデ	1：にぶい橙(7.5YR6/4) 2：明褐(7.5YR5/6)	普通	直径0.2～2mmの石英・長石・金雲母		良好	外面炭化物付着 内外面繊維痕有り
186	70	25	3	29K	Ⅲ	S	口縁部	1：貝殻条痕 2：貝殻条痕・指頭痕	1：にぶい褐(7.5YR5/3) 2：にぶい褐(7.5YR5/4)	普通	直径1mm以下の石英・長石・金雲母		良好	外面炭化物付着 内面繊維痕有り
187	70	25	3	29K	Ⅲ	S	口縁部	1：条痕 2：条痕	1：褐(7.5YR4/3) 2：褐(7.5YR4/6)	普通	直径1mm以下の長石・金雲母		良好	外面炭化物付着 内面繊維痕有り
188	70	25	3	29K	Ⅲ	S	胴部	1：貝殻条痕 2：貝殻条痕	1：褐(7.5YR4/3) 2：明褐(7.5YR5/6)	普通	直径1～3mmの石英・金雲母		良好	外面繊維痕有り
189	70	25	3	29K	Ⅲ	S	胴部	1：条痕 2：条痕・指頭痕	1：暗褐(10YR3/3) 2：褐(7.5YR4/3)	普通	直径1.5～3mmの石英・長石・金雲母		良好	外面炭化物付着 内面繊維痕有り
190	71	25	5	36b	Ⅳ	S	口縁部	2：ナデ	1：にぶい橙(7.5YR6/4) 2：橙(7.5YR6/6)	普通	直径1mm以下の石英・長石・金雲母		良好	
191	71	25	5	40a	Ⅳ	S	口縁部	2：ナデ	2：にぶい褐(7.5YR5/4) 2：橙(7.5YR6/6)	普通	直径1mm以下の石英・長石・角閃石・金雲母		良好	
192	71	25	4	46G	Ⅲ	Z	口縁部	2：ナデ	1：黒褐(10YR2/2) 2：暗褐(10YR3/3)	密	直径0.2～0.5mmの長石	1：LR	良好	
193	71	25	4	47G	Ⅲ	Z	胴部	2：ナデ	1：にぶい褐(7.5YR5/4) 2：褐(7.5YR4/3)	密	直径0.2～0.5mm石英・長石	1：LR	良好	内外面炭化物付着
194	71	25	2	19E	Ⅲ	Z	胴部	1：ナデ 2：指ナデ	1：にぶい黄褐(10YR5/3) 2：褐(10YR4/4)	普通	直径0.1mm以下の金雲母		良好	
195	71	25	3	25D	Ⅲ	C－1	口縁部	2：ナデ	1：黒褐(7.5YR3/2) 2：にぶい黄橙(10YR6/3)	普通	直径2mm以下の石英・長石・金雲母		良好	
196	71	25	3	28O	Ⅲ	C－1	口縁部	2：指ナデ	1：灰黄(2.5YR6/2) 2：にぶい黄橙(10YR6/4)	普通	直径0.2～1.5mmの石英・長石・角閃石・金雲母		良好	
197	71	25	3	26I	Ⅲ	C－1	口縁部	2：ナデ	1：にぶい黄橙(10YR7/4) 2：にぶい黄橙(10YR6/4)	普通	直径3mm以下の石英・長石	1：RL	良好	
198	71	25	3	26E	Ⅲ	C－1	口縁部	2：ナデ	1：灰黄褐(10YR6/2) 2：灰黄褐(10YR4/2)	普通	直径2mm以下の長石・角閃石	1：RL	良好	
199	71	25	3	25D	Ⅱc	C－1	口縁部	2：指ナデ	1：にぶい橙(7.5YR7/4) 2：にぶい黄橙(10YR6/3)	普通	直径1mm～2mmの石英・チャート・金雲母	2：RL	良好	
200	71	25	5	30a	Ⅲ	C－1	口縁突起部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい橙(5YR6/4) 2：橙(5YR6/6)	普通	直径1mm以下の石英・長石・金雲母	1：RL	良好	
201	71	25	5	33S・33T	Ⅲ	C－1	口縁突起部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい橙(5YR6/6) 2：橙(7.5YR6/6)	普通	直径1mm前後の石英・長石		良好	
202	71	25	5	33S	Ⅲ	C－1	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：橙(5YR6/6) 2：橙(5YR6/6)	普通	直径1mm以下の石英・長石	2：RL	良好	
203	71	25	5	29W	Ⅱa	C－1	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：橙(5YR6/6) 2：橙(5YR6/6)	普通	直径1mm前後の石英・長石・チャート・金雲母	2：RL	良好	
204	71	25	3	26F	Ⅲ	C－1	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：灰褐(7.5YR4/2) 2：にぶい褐(7.5YR5/4)	普通	直径1mm以下の石英・長石・金雲母		良好	
205	71	25	2	17F	Ⅲ	C－1	口縁部		1：褐(7.5YR4/6) 2：明褐(7.5YR5/6)	普通	直径3mm以下の長石・角閃石	2：RL	良好	
206	71	25	3	28K	Ⅲ	C－1	口縁部		1：明黄褐(10YR7/6) 2：浅黄橙(10YR8/4)	普通	直径2mm以下の石英・長石・チャート	2：LR	良好	
207	71	25	2	17I	Ⅲ	C－1	口縁部	2：ナデ・指頭痕	1：にぶい褐(7.5YR5/4) 2：にぶい褐(7.5YR5/4)	普通	直径1～1.5mmの石英・長石・チャート・金雲母		良好	
208	71	25	3	29D	Ⅲ	C－1	口縁部		1：にぶい黄褐(10YR5/3) 2：にぶい黄橙(10YR7/4)	普通	直径4mm以下の石英・角閃石・チャート・金雲母		良好	

第11表　土器観察表（5）

番号	挿図No.	写真図版	地区	遺構 グリッド	層位	分類	部位	成形・調整 1表・2裏	色調（1外面・2内面）	胎土の疎・密	含有物	縄文の撚り 1表・2裏	焼成	備考
209	71	26	3	26F	Ⅲ	C－1	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：明黄褐(10YR7/6) 2：明黄褐(10YR6/8)	粗	直径0.2～3mmの石英・角閃石・チャート		甘い	
210	71	26	2	20K	Ⅲ	C－1	胴部	2：ナデ	1：赤褐(2.5YR4/6) 2：黒褐(7/5YR3/2)	普通	直径4mm以下の石英・長石・角閃石・金雲母	1：RL	良好	外面炭化物付着
211	71	26	3	29O	Ⅲ	C－1	口縁部		1：灰白(2.5YR8/2) 2：灰白(2.5YR7/1)	普通	直径2mm以下の長石・角閃石		良好	内面炭化物付着
212	71	26	2	18G	Ⅲ	C－1	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい黄橙(10YR6/3) 2：灰黄褐(10YR4/2)	普通	直径0.1～2mmの石英・長石		良好	
213	71	26	2	19G	Ⅳ	C－1	頸部	2：ナデ	1：暗褐(7.5YR3/3) 2：にぶい褐(7.5YR5/4)	普通	直径1mm以下の石英・長石・金雲母	1：RL	良好	外面炭化物付着
214	71	26	2	19G	Ⅳ	C－1	胴部	2：ナデ	1：黒褐(10YR3/2) 2：灰黄褐(10YR4/2)	普通	直径2mm以下の石英・長石・黒雲母	1：RL	良好	
215	71	26	2	17I	Ⅳ	C－1	胴部		1：にぶい赤褐(5YR4/4) 2：黒褐(10YR3/2)	普通	直径2mm以下の長石・角閃石・チャート・金雲母		良好	
216	71	26	2	20J	Ⅱd	C－1	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい黄褐(10YR5/4) 2：明褐(7.5YR5/6)	普通	直径0.2～3mm石英・長石・角閃石・チャート・金雲母	1：RL	やや甘い	
217	71	26	3	25D	Ⅲ	C－1	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい黄褐(10YR5/4) 2：浅黄(2.5YR7/3)	普通	直径0.1～3mmの石英・長石・チャート・金雲母	1：LR	やや甘い	外面炭化物付着
218	71	26	3	33L	Ⅱc	C－1	頸部	2：ナデ	1：明褐(7.5YR5/6) 2：橙(7/5YR6/6)	普通	直径2mm以下の石英・長石・角閃石		やや甘い	
219	71	26	3	26F	Ⅲ	C－1	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：褐灰(10YR5/1) 2：黒(N2/0)	普通	直径0.5～4mmの石英・長石・チャート	1：RL	やや甘い	
220	71	26	2	16F	Ⅳ	C－1	口縁部付近	2：ナデ	1：にぶい褐(7.5YR5/4) 2：暗灰黄(2.5YR5/2)	普通	直径2mm以下の石英・長石・角閃石・チャート	1：RL	良好	
221	72	26	2	19F	Ⅳ	C－1	頸部直下	1：指頭痕 2：ナデ	1：にぶい黄橙(10YR6/4) 2：にぶい橙(7.5YR6/4)	普通	直径1mm以下の石英・長石・金雲母	1：RL	良好	外面炭化物付着 指頭痕有り
222	72	26	2	16F	Ⅳ	C－1	頸部	2：ナデ	1：にぶい黄褐(10YR5/3) 2：にぶい黄橙(10YR6/4)	普通	直径2mm以下の石英・長石・金雲母	1：RL	良好	
223	72	26	5	39b	Ⅳ	C－1	胴部	2：ナデ	1：にぶい黄褐(10YR5/4) 2：灰黄褐(10YR4/2)	粗	直径2mm以下の石英・長石・角閃石・	1：RL	良好	
224	72	26	2	19F	Ⅲ	C－1	口縁部		1：橙(7.5YR7/6) 2：にぶい橙(7.5YR7/4)	普通	直径1mm以下の石英・長石・角閃石	1：RL	良好	
225	72	26	2	20F	Ⅲ	C－2	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい黄橙(10YR7/3) 2：橙(7.5YR7/6)	普通	直径0.5～3mmの石英・チャート・金雲母	1：LR	やや甘い	
226	72	26	2	19G	Ⅲ	C－2	口縁部	2：ナデ	1：浅黄橙(10YR8/3) 2：浅黄橙(10YR8/3)	普通	直径1～2mmの石英・角閃石・チャート	1：RL	良好	
227	72	26	2	19F	Ⅲ	C－2	口縁部	2：ナデ	1：明黄褐(10YR6/6) 2：明黄褐(10YR7/6)	普通	直径0.5～4mmの石英・長石・チャート・金雲母	1：LR	やや甘い	
228	72	26	2	17G	Ⅲ	C－2	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：明黄褐(10YR6/6) 2：明黄褐(10YR7/6)	普通	直径0.5～4mmの石英・長石・角閃石・チャート金雲母	1：LR	やや甘い	
229	72	26	3	26I	Ⅲ	C－2	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい褐(7.5YR5/4) 2：浅黄橙(10YR8/3)	普通	直径0.1～3mmの石英・長石・角閃石・チャート・金雲母	2：LR	甘い	
230	72	26	5	27a	Ⅲ	C－2	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：橙(7.5YR7/6) 2：明黄褐(10YR7/6)	粗	直径1.5mm以下の石英・長石		やや甘い	
231	72	26	2	18G	Ⅲ	C－2	口縁部	2：ナデ	1：明赤褐(5YR5/6) 2：橙(5YR6/8)	粗	直径2mm前後の石英・長石	1：RL	良好	
232	72	27	2	17F	Ⅲ	C－2	胴部	2：ナデ	1：褐(7.5YR4/4) 2：明赤褐(5YR5/6)	普通	直径0.2～1mm長石・金雲母	1：RL	良好	内外面炭化物付着
233	72	26	2	20R	Ⅱc	C－2	口縁部	2：ナデ	1：明褐(7.5YR5/6) 2：にぶい褐(7.5YR5/4)	普通	直径1mm以下の石英・長石・角閃石	2：RL	良好	
234	72	27	2	21P	Ⅲ	C－2	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい黄橙(10YR6/4) 2：にぶい黄橙(10YR7/4)	粗	直径1.5mm以下の石英・長石・角閃石	1：RL 2：RL	良好	
235	72	27	2	17F	Ⅳ	C－2	口縁部		1：明赤褐(5YR5/6) 2：赤褐(5YR4/8)	普通	直径2mm以下の長石・角閃石・金雲母	1：RL 2：RL	良好	外面炭化物付着
236	72	27	3	29E	Ⅲ	C－2	口縁部		1：明褐(7.5YR5/6) 2：明褐(7.5YR5/6)	普通	直径2mm以下の石英・長石・角閃石	2：LR	良好	外面炭化物付着
237	72	27	5	40a	Ⅲ	C－2	口縁部		1：にぶい黄褐(10YR5/4) 2：にぶい黄褐(10YR4/3)	粗	直径3mm以下の石英・長石		良好	
238	72	27	5	40b	Ⅲ	C－2	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：褐(10YR4/4) 2：にぶい黄橙(10YR6/3)	粗	直径0.2～4mmの石英・長石・チャート・金雲母		甘い	
239	72	27	3	28C	Ⅲ	C－2	口縁部	2：ナデ	1：淡黄(2.5YR8/3) 2：黄灰(2.5YR4/1)	普通	直径0.2～2mmの石英・チャート・金雲母		良好	
240	72	27	2	20D	Ⅱc	C－2	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい橙(7.5YR6/4) 2：橙(7.5YR6/6)	普通	直径0.1～2.5mmの石英・角閃石・チャート	2：LR	良好	
241	72	27	2	20D	Ⅱc	C－2	口縁部	2：ナデ	1：明赤褐(5YR5/6) 2：にぶい褐(7.5YR5/4)	普通	直径5mm以下の石英・角閃石・チャート	2：LR	良好	
42	72	27	2	16E	Ⅲ	C－2	口縁部	2：ナデ	1：にぶい褐(7.5YR5/4) 2：にぶい褐(7.5YR5/4)	普通	直径0.2～2mmの石英・長石・角閃石・金雲母		良好	
243	72	27	3	28D	Ⅱc	C－2	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：黄褐(10YR5/6) 2：黄褐(10YR5/6)	普通	直径0.1～6mmの石英・長石・チャート・金雲母	2：RL	やや甘い	
244	72	27	3	32F	Ⅱb	C－2	口縁部		1：赤褐(5YR4/8) 2：明赤褐(5YR5/6)	普通	直径4mm以下の石英・長石・チャート		良好	
245	72	27	2	19F	Ⅳ	C－2	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：黒褐(10YR3/1) 2：灰黄褐(10YR4/2)	普通	直径1mm以下の石英・長石・金雲母	1：RL 2：RL	良好	
246	73	27	2	17P	Ⅲ	C－2	口縁部	2：ナデ	1：にぶい黄橙(10YR7/4) 2：橙(5YR6/6)	普通	直径1.5mm以下の石英・長石	1：LR 2：LR	良好	
247	73	27	5	29a	Ⅳ	C－2	胴部	2：ナデ	1：にぶい褐(7.5YR5/4) 2：橙(5YR6/8)	普通	直径1mm前後の石英・長石・角閃石	1：LR	良好	
248	73	27	5	33X	Ⅲ	C－2	胴部	2：ナデ	1：暗褐(7.5YR3/3) 2：暗褐(7.5YR3/4)	普通	直径0.2mm以下の石英・長石・金雲母	1：LR	良好	
249	73	27	5	30Z	Ⅱa	C－2	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい褐(7.5YR5/3) 2：灰褐(7.5YR4/2)	普通	直径0.5～2.5mmの石英・長石・角閃石	1：LR 2：LR	甘い	
250	73	27	3	31I	Ⅲ	C－2	口縁部		1：にぶい褐(7.5YR5/4) 2：灰黄褐(10YR4/2)	普通	直径1～1.5mmの石英・長石	1：RL 2：RL	良好	
251	73	27	2	18D	Ⅱc	C－2	口縁部		1：にぶい黄橙(10YR7/4) 2：にぶい黄橙(10YR7/4)	粗	直径1～3mmの石英	1：LR 2：LR	良好	
252	73	27	3	26F	Ⅲ	C－2	口縁部		1：にぶい褐(7.5YR5/4) 2：にぶい黄褐(10YR5/3)	普通	直径2mm前後の石英・長石	1：RL 2：RL	良好	
253	73	27	3	25D	Ⅲ	C－2	胴部	2：ナデ	1：にぶい黄橙(10YR6/4) 2：にぶい黄橙(10YR6/4)	普通	直径2mm以下の長石・角閃石・金雲母・直径6mmの長石	1：LR	良好	外面炭化物付着
254	73	27	2	17L	Ⅲ	C－2	胴部	2：ナデ	1：にぶい黄橙(10YR6/4) 2：にぶい黄橙(10YR6/4)	普通	直径4mm以下の石英・角閃石	1：RL	良好	
255	73	27	2	17J	Ⅲ	C－2	胴部	2：ナデ	1：にぶい黄褐(10YR5/4) 2：にぶい黄褐(10YR5/4)	普通	直径5mm以下の石英・長石・金雲母	1：RL	良好	内面炭化物付着
256	73	27	3	25D	Ⅱc	C－2	胴部	2：ナデ	1：にぶい褐(7.5YR5/4) 2：にぶい黄橙(10YR6/4)	普通	直径2mm以下の石英・長石・角閃石・金雲母		良好	
257	73	27	2	19F	Ⅳ	C－2	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：橙(5YR6/6) 2：明赤褐(5YR5/6)	普通	直径0.5～3mm以下の石英・長石・角閃石・チャート・金雲母	1：LR	やや甘い	
258	73	27	2	19F	Ⅲ	C－2	胴部	2：ナデ	1：にぶい黄褐(10YR5/4) 2：にぶい黄(10YR6/3)	普通	直径3mm以下の石英・長石・角閃石	1：LR	良好	
259	73	27	2	19F	Ⅲ	C－2	胴部	2：ナデ	1：橙(7.5YR6/6) 2：橙(7.5YR7/6)	普通	直径0.2～1mmの石英・長石・角閃石・金雲母	1：LR	良好	
260	73	27	2	16E	Ⅲ	C－2	胴部	2：ナデ	1：黒褐(7.5YR2/2) 2：にぶい黄褐(10YR5/3)	普通	直径2mm以下の石英・長石・金雲母	1：RL	良好	外面炭化物付着

第12表　土器観察表（6）

番号	挿図No.	写真図版	地区	遺構グリッド	層位	分類	部位	成形・調整 1表・2裏	色調（1外面・2内面）	胎土の疎・密	含有物	縄文の撚り 1表・2裏	焼成	備考
261	73	28	2	19G	Ⅲ	C－3	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：黒褐(10YR3/1) 2：褐(7.5YR4/3)	普通	直径0.5mm以下の石英・長石・金雲母・黒雲母		良好	
262	73	28	2	19G	Ⅲ	C－3	胴部	2：指頭痕	1：黒褐(5YR2/1) 2：にぶい黄褐(10YR5/3)	普通	直径2mm以下の石英・長石・金雲母		良好	
263	73	28	2	19F	Ⅲ	C－3	口縁部	2：ナデ・指頭痕	1：にぶい黄橙(10YR6/3) 2：にぶい黄橙(10YR6/3)	普通	直径0.2～1mmの石英・長石・角閃石・金雲母		良好	
264	73	28	1	13S	Ⅲ	C－3	口縁部		1：暗褐(10YR3/3) 2：にぶい黄褐(10YR5/4)	普通	直径3mm以下の長石・金雲母		良好	
265	73	28	2	19E	Ⅳ	C－3	口縁部	2：ナデ	1：赤褐(5YR4/8) 2：赤褐(2.5YR4/8)	普通	直径2mm以下の石英・長石・金雲母		良好	
266	73	28	2	18Q	Ⅲ	C－3	胴部	2：ナデ	1：黒褐(7.5YR2/2) 2：褐(7.5YR4/4)	普通	直径2mm以下の石英・長石・金雲母		良好	外面炭化物付着
267	73	28	2	19F	Ⅲ	C－3	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：暗赤褐(5YR3/4) 2：赤褐(5YR4/6)	普通	直径1.5mm以下の石英・長石	1：LR	良好	
268	73	28	2	19F	Ⅲ	C－3	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：明赤褐(2.5YR5/6) 2：赤(10R4/8)	普通	直径1mm前後の石英・長石		良好	
269	73	28	5	28d	Ⅳ	C－4	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい黄褐(10YR5/3) 2：暗褐(10YR3/3)	普通	直径0.5～3mmの石英・長石	2：LR	良好	
270	73	28	3	26R	Ⅲ	C－4	胴部	2：ナデ	1：黒褐(10YR3/2) 2：褐(10YR4/6)	普通	直径2mm以下の石英・長石・角閃石		良好	
271	73	28	3	25E	Ⅲ	C－4	口縁部	2：指頭痕	1：にぶい黄橙(10YR6/4) 2：にぶい黄橙(10YR6/4)	普通	直径0.5mm以下の石英・長石・金雲母・白雲母		良好	
272	73	28	5	33Y	Ⅲ	C－4	胴部		1：にぶい黄褐(10YR4/3) 2：明黄褐(10YR6/6)	普通	直径2mm以下の石英・長石・金雲母		良好	外面炭化物付着
273	73	28	3	25D	Ⅱc	C－4	口縁部		1：にぶい黄橙(10YR6/4) 2：にぶい黄橙(10YR7/3)	普通	直径2mm以下の長石・角閃石・金雲母	1：RL	良好	外面炭化物付着
274	73	28	1	8L	Ⅲ	C－4	胴部	2：ナデ	1：褐(7.5YR4/4) 2：橙(7.5YR6/6)	普通	直径0.2～2mmの長石・角閃石・金雲母		良好	外面炭化物付着
275	73	28	1	11M	Ⅲ	C－4	口縁部		1：にぶい黄橙(10YR6/4) 2：黒褐(10YR3/2)	普通	直径2mm以下の長石・金雲母		良好	外面炭化物付着
276	73	28	1	5T	Ⅲ	C－4	胴部		1：にぶい黄褐(10YR5/3) 2：にぶい黄橙(10YR6/3)	普通	直径3mm以下の石英・長石・角閃石		良好	
277	73	28	1	13S	Ⅲ	C－4	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：明褐(7.5YR5/6) 2：にぶい褐(7.5YR5/4)	普通	直径0.1～2mmの石英・長石・角閃石・金雲母	1：RL	やや甘い	
278	73	28	2	20I	Ⅲ	C－5	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：浅黄橙(10YR8/4) 2：浅黄(2.5Y7/4)	普通	直径0.1～3mmの石英・長石・金雲母	1：RL	やや甘い	
279	73	28	2	17I	Ⅲ	C－5	胴部	2：ナデ	1：橙(7.5YR6/6) 2：橙(7.5YR6/6)	普通	直径0.2～2mmの石英・長石・角閃石・金雲母		良好	
280	74	29	5	20W	Ⅳ	C－6	口縁部	2：ナデ	1：黒褐(10YR3/2) 2：にぶい黄褐(10YR5/3)	普通	直径0.2～1.5mmの長石・角閃石・金雲母	1：LR	良好	
281	74	29	5	33Y	Ⅱb	C－6	口縁部		1：橙(7.5YR6/6) 2：明褐(7.5YR5/6)	普通	直径2mm以下の石英・長石・金雲母	2：LR	良好	
282	74	29	5	32b	Ⅲ	C－6	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：黒褐(7.5YR3/1) 2：明赤褐(5YR5/6)	普通	直径1mm以下の石英・長石・金雲母		良好	外面炭化物付着
283	74	29	5	31b	Ⅲ	C－6	口縁部		1：にぶい褐(7.5YR5/4) 2：にぶい褐(7.5YR6/4)	普通	直径3mm以下の長石・金雲母・白雲母		良好	
284	74	29	5	30d	Ⅲ	C－6	口縁部		1：橙(7.5YR6/6) 2：橙(7/5YR6/6)	普通	直径5mm以下の石英・長石	1：LR	良好	
285	74	29	5	27Z	Ⅲ	C－6	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：明褐(7.5YR5/6) 2：赤褐(5YR4/6)	普通	直径1mm前後の石英・長石	1：RL	良好	
286	74	29	5	29a	Ⅲ	C－6	口縁部	2：ナデ	1：橙(7.5YR6/6) 2：橙(7.5YR6/6)	普通	直径0.2～2mmの石英・長石・金雲母直径4mmの長石		良好	
287	74	29	5	29b	Ⅳ	C－6	口縁部		1：にぶい黄橙(10YR6/4) 2：にぶい黄橙(10YR6/3)	普通	直径3mm以下の石英・長石		良好	
288	74	29	5	28S	Ⅲ	C－6	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：オリーブ黒(5Y3/1) 2：にぶい橙(7.5YR6/4)	普通	直径1mm前後の長石・金雲母		良好	
289	74	29	5	28W	Ⅲ	C－6	口縁部		1：にぶい黄褐(10YR5/3) 2：にぶい黄橙(10YR6/3)	普通	直径4mm以下の石英・長石・金雲母		良好	外面炭化物付着
290	74	29	5	30C	Ⅲ	C－6	口縁部	2：ナデ	1：暗褐(7.5YR3/3) 2：黒褐(7/5YR3/2)	粗	直径0.2～1mmの角閃石・金雲母		良好	
291	74	29	5	29U	Ⅲ	C－6	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：浅黄橙(7.5YR8/4) 2：橙(7.5YR6/6)	普通	直径0.1～2mmの石英・長石・チャート・金雲母		やや甘い	
292	74	29	5	26a	Ⅳ	C－6	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：褐(10YR4/4) 2：にぶい黄橙(10YR6/4)	普通	直径0.5～4mmの石英・長石・金雲母		やや甘い	
293	74	29	2	17I	Ⅰ	C－6	胴部	2：ナデ	1：明赤褐(5 YR5/6) 2：暗褐(10YR3/3)	普通	直径0.2～1mmの長石・角閃石・金雲母		良好	
294	74	29	5	32X	Ⅱb	C－6	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：橙(7.5YR6/6) 2：橙(7.5YR6/8)	普通	直径0.1～4mmの石英・長石・角閃石・チャート・金雲母		甘い	
295	74	29	3	29F	Ⅲ	C－6	胴部	2：ナデ	1：にぶい黄橙(7.5YR6/4) 2：灰黄褐(10YR4/2)	普通	直径0.1～1.5mmの石英・長石・角閃石・金雲母		良好	
296	74	29	2	17J	Ⅲ	C－6	胴部	2：ナデ	1：褐(7.5YR4/3) 2：にぶい黄褐(10YR4/3)	普通	直径0.1～1mmの長石・角閃石・金雲母		良好	
297	74	29	5	27b	Ⅳ	C－6	胴部	2：ナデ	1：にぶい黄褐(10YR4/3) 2：黒褐(10YR3/2)	普通	直径0.2～1.5mmの石英・長石・角閃石		良好	
298	74	29	5	29d	Ⅳ	C－6	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：明褐(7.5YR5/6) 2：明赤褐(5YR5/6)	普通	直径0.2～3mmの石英・長石・角閃石・金雲母		やや甘い	
299	74	29	5	31b	Ⅲ	C－6	頸部	2：ナデ	1：黒褐(7.5YR3/2) 2：黒褐(7.5YR3/2)	普通	直径1.5mm以下の石英・長石・金雲母		良好	
300	74	29	5	27d	Ⅲ	C－6	胴部	2：ナデ	1：にぶい黄褐(10YR5/4) 2：にぶい黄褐(10YR5/3)	普通	直径1mm前後の石英・長石・金雲母		良好	
301	74	29	5	33Z	Ⅱb	C－6	胴部	2：ナデ	1：明黄褐(10YR6/6) 2：にぶい褐(7.5YR5/4)	普通	直径2mm以下の石英・長石・角閃石		良好	
302	74	29	5	31C	Ⅲ	C－6	胴部		1：暗灰黄(2.5YR5/2) 2：にぶい黄橙(10YR6/4)	普通	直径3mm以下の石英・長石・金雲母		良好	
303	74	30	1	8L	Ⅲ	C－6	頸部	1：ナデ	1：にぶい黄橙(10YR7/4) 2：浅黄橙(10YR8/4)	普通	直径0.5～1.5mmの石英・長石・金雲母		良好	
304	74	30	5	31D	Ⅲ	C－7	口縁部	2：ナデ	1：にぶい黄橙(10YR6/4) 2：褐灰(10YR4/1)	普通	直径1.5mm以下の石英・長石・角閃石・チャート・金雲母		良好	
305	74	30	5	30d	Ⅲ	C－7	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい黄褐(10YR5/3) 2：にぶい黄褐(10YR5/3)	普通	直径2mm以下の長石・金雲母		良好	
306	74	30	5	20P	Ⅲ	C－7	口縁部	2：ナデ	1：褐灰(10YR4/1) 2：にぶい黄橙(10YR6/4)	普通	直径1.5mm以下の石英・長石・角閃石		良好	
307	74	30	2	16H	Ⅲ	C－7	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：褐灰(7.5YR4/1) 2：にぶい褐(7.5YR5/4)	普通	直径1mm以下の石英・長石・金雲母		良好	
308	74	30	2	16H	Ⅲ	C－7	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：褐(7.5YR4/3) 2：灰褐(7.5YR4/2)	密	直径0.2mm以下長石・角閃石・金雲母		良好	外面炭化物付着
309	74	30	5	31C	Ⅲ	C－7	胴部	2：ナデ	1：明褐(7.5YR5/6) 2：にぶい黄橙(10YR7/4)	普通	直径1mm前後の石英・長石・角閃石・金雲母・黒雲母		良好	
310	74	30	1	9R	Ⅲ	C－7	口縁突起部	1：ナデ 2：ナデ	1：橙(5YR6/6) 2：にぶい赤褐(5YR5/4)	密	直径0.5mm以下の石英・長石・金雲母		良好	
311	74	30	1	19Q	Ⅲ	C－7	口縁部付近	2：ナデ	1：にぶい褐(7.5YR5/4) 2：褐(7.5YR4/4)	普通	直径0.2～1mmの長石・角閃石・黒雲母		良好	内面炭化物付着
312	74	30	2	16F	Ⅲ	C－7	口縁部	2：ナデ・指頭痕	1：にぶい褐(7.5YR5/4) 2：にぶい黄褐(10YR5/3)	普通	直径2mm以下の石英・長石・金雲母		良好	

第13表　土器観察表（7）

番号	挿図No.	写真図版	地区	遺構グリッド	層位	分類	部位	成形・調整 1表・2裏	色調（1外面・2内面）	胎土の疎・密	含有物	縄文の撚り 1表・2裏	焼成	備考
313	74	30	1	9P·	Ⅲ	C－7	口縁部		1：にぶい橙(5YR6/4) 2：褐灰(10YR4/1)	普通	直径2mm以下の長石・角閃石・金雲母		良好	
314	74	30	5	20W	Ⅳ	C－7	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：褐(7.5YR4/6) 2：黄褐(10YR5/8)	密	直径0.2～0.5mmの長石・金雲母・黒雲母		良好	
315	74	30	5	27a	Ⅲ	C－7	口縁部	1：ナデ 2：指ナデ	1：褐(7.5YR4/3) 2：明褐(7.5YR6/5)	密	直径0.5mm以下の長石・金雲母		良好	
316	74	30	5	28b	Ⅳ	C－7	胴部	2：ナデ	1：明赤褐(5YR5/6) 2：にぶい黄褐(10YR5/4)	普通	直径2mm以下の長石・角閃石・金雲母		良好	
317	74	30	5	28b	Ⅳ	C－7	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい橙(7.5YR6/4) 2：にぶい褐(7.5YR5/4)	普通	直径1mm以下の石英・長石・金雲母		良好	
318	75	30	5	29b	Ⅲ	C－7	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：褐(7.5YR4/3) 2：褐(7.5YR4/4)	普通	直径0.1～1mmの石英・長石・角閃石		やや甘い	
319	75	30	5	27F	Ⅲ	C－7	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：明褐(7.5YR5/6) 2：褐(7.5YR4/4)	普通	直径0.5～1.5mmの石英・長石・角閃石		やや甘い	
320	75	30	2	18L	Ⅲ	C－7	口縁部	2：ナデ	1：浅黄橙(7.5YR8/4) 2：にぶい黄橙(10YR6/3)	普通	直径1mm以下の石英・長石・金雲母		良好	
321	75	30	2	18L	Ⅲ	C－7	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：褐灰(10YR4/1) 2：黄褐(10YR5/6)	密	直径0.5mm以下の石英・長石・角閃石・金雲母	1：RL	良好	
322	75	30	3	30H	Ⅲ	C－7	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：橙(7.5YR7/6) 2：橙(7.5YR7/6)	普通	直径3mm以下の石英・長石・角閃石・チャート	1：RL	やや甘い	
323	75	30	2	18L	Ⅲ	C－7	口縁部付近	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい黄橙(10YR7/3) 2：浅黄橙(10YR8/3)	普通	直径1.5mm以下の石英・長石・黒雲母		良好	外面炭化物付着
324	75	30	2	17K	Ⅲ	C－7	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい黄橙(10YR7/4) 2：にぶい黄橙(10YR6/4)	普通	直径1.5～2mmの石英・長石・角閃石		良好	外面炭化物付着
325	75	30	5	28b	Ⅲ	C－7	頸部	1：ナデ 2：ナデ	1：褐(7.5YR4/4) 2：褐(10YR4/4)	普通	直径0.2～0.5mmの長石・金雲母		良好	
326	75	30	1	9Q	Ⅲ	C－7	胴部	2：ナデ	1：橙(5YR6/6) 2：橙(7.5YR7/6)	普通	直径0.2～1mmの石英・長石・角閃石・金雲母・黒雲母		良好	
327	75	30	5	38Z	Ⅱb	C－7	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：明赤褐(5YR5/6) 2：にぶい黄褐(10YR4/3)	普通	直径2mm以下の石英・長石・角閃石・金雲母		やや甘い	
328	75	30	5	30S	Ⅱa	C－7	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい橙(7.5YR7/4) 2：橙(7.5YR6/6)	普通	直径0.2～2mmの長石・角閃石・チャート・金雲母		やや甘い	
329	75	30	3	31I	Ⅲ	C－7	胴部	2：ナデ	1：にぶい黄橙(10YR6/4) 2：橙(7.5YR6/6)	普通	直径2mm以下の石英・長石・金雲母・黒雲母	1：RL	良好	
330	75	31	5	32W	Ⅳ	C－8	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい橙(7.5YR6/4) 2：橙(7.5YR6/6)	粗	直径1mm以下の石英・長石・黒雲母		良好	
331	75	31	2	19Q	Ⅱc	C－8	口縁部	2：ナデ	1：橙(7.5YR7/6) 2：にぶい黄橙(10YR7/3)	普通	直径2mm以下の石英・長石・角閃石・金雲母		良好	
332	75	31	5	29Z	Ⅲ	C－8	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：橙(7.5YR6/8) 2：橙(7.5YR6/6)	普通	直径0.1～0.2mmの石英・長石		良好	
333	75	31	5	34Z	Ⅲ	C－8	口縁部	2：ナデ	1：橙(7.5YR6/6) 2：橙(5YR6/8)	普通	直径2mm前後の石英・長石・角閃石	1：RL	良好	
334	75	31	5	32w	Ⅳ	C－8	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：褐(7.5YR4/3) 2：橙(5YR6/6)	普通	直径1～5mmの石英	1：LR	良好	
335	75	31	5	34Z	Ⅲ	C－8	口縁部	1：ナデ 2：ナデ・調整	1：にぶい褐(7.5YR5/4) 2：橙(5YR6/6)	粗	直径3mm前後の石英・長石・金雲母		良好	
336	75	31	5	34Z	Ⅲ	C－8	胴部	2：ナデ	1：褐(7.5YR4/4) 2：明褐(7.5YR5/6)	普通	直径0.2～2mmの石英・長石・角閃石・金雲母	1：RL	良好	
337	75	31	5	33Y	Ⅲ	C－8	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：明赤褐(2.5YR5/6) 2：明赤褐(2.5YR5/6)	普通	直径1～1.5mmの石英・長石・角閃石	1：RL	良好	
338	75	31	5	29Y	Ⅲ	C－8	口縁部	2：ナデ	1：橙(7.5YR6/6) 2：明赤褐(5YR5/6)	普通	直径1mm以下の石英・長石・角閃石・金雲母		良好	
339	75	31	5	32Y	Ⅱb	C－8	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：橙(7.5YR6/6) 2：にぶい黄橙(10YR6/4)	普通	直径1mm以下の石英・長石・金雲母		良好	
340	75	31	5	34Z	Ⅲ	C－8	口縁部	2：ナデ	1：にぶい黄橙(10YR6/4) 2：にぶい黄橙(10YR6/4)	普通	直径2mm以下の石英・長石・黒雲母		良好	内面炭化物付着
341	75	31	5	28a	Ⅳ	C－8	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい黄橙(10YR7/4) 2：にぶい橙(7.5YR6/4)	粗	直径2.5mm以下の長石・石英		良好	
342	75	31	5	31a	Ⅲ	C－8	口縁部	2：ナデ	1：にぶい黄橙(10YR6/4) 2：にぶい黄橙(10YR6/4)	普通	直径2mm以下の石英・長石・角閃石・金雲母・黒雲母		良好	
343	75	31	5	27C	Ⅳ	C－8	口縁部	2：ナデ	1：橙(5YR6/8) 2：橙(7.5YR6/6)	普通	直径2mm以下の石英・長石・角閃石・チャート		良好	
344	75	31	5	27Z	Ⅲ	C－8	口縁部付近	1：ナデ 2：ナデ	1：橙(5YR6/6) 2：にぶい赤褐(5YR5/4)	普通	直径1mm以下の石英・長石・金雲母		良好	
345	75	31	5	26b	Ⅳ	C－8	口縁部	2：指頭痕	1：橙(7.5YR7/6) 2：にぶい橙(7.5YR6/4)	普通	直径3mm以下の長石・角閃石・金雲母		良好	外面炭化物付着
346	75	31	5	25W	Ⅲ	C－8	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：橙(10YR6/6) 2：橙(10YR6/6)	普通	直径0.1～0.3mmの石英・長石・角閃石		良好	
347	75	31	5	34E	Ⅲ	C－8	口縁部	2：ナデ	1：褐灰(10YR4/1) 2：にぶい黄橙(10YR6/3)	普通	直径3mm以下の石英・長石・角閃石・チャート・金雲母		良好	
348	75	31	5	28a	Ⅳ	C－8	口縁部		1：黒褐(7.5YR3/1) 2：赤褐(5YR4/6)	普通	直径2mm以下の石英・長石・角閃石・金雲母		良好	
349	75	31	5	28Y	Ⅲ	C－8	口縁部	1：条痕 2：ナデ	1：橙(7.5YR6/6) 2：明褐(7.5YR5/6)	普通	直径2mm以下の石英・長石・角閃石・金雲母		良好	
350	75	31	5	33W	Ⅳ	C－8	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい橙(7.5YR7/4) 2：にぶい橙(7.5YR6/4)	粗	直径1.5mm以下の石英・長石・金雲母		良好	
351	75	31	3	28I	Ⅲ	C－8	口縁部		1：にぶい黄褐(10YR4/3) 2：にぶい黄褐(10YR4/3)	普通	直径2mm以下の長石		良好	
352	75	31	5	34a	Ⅲ	C－8	口縁部	2：ナデ	1：にぶい黄橙(10YR7/4) 2：にぶい黄橙(10YR6/4)	普通	直径1mm前後の長石・チャート・金雲母	1：LR	良好	
353	75	31	5	29Z	Ⅲ	C－8	口縁部	2：指ナデ	1：浅黄橙(10YR8/3) 2：にぶい黄橙(10YR7/2)	普通	直径3mm前後の長石・角閃石・金雲母	1：LR	良好	
354	76	31	3	30F	Ⅲ	C－8	口縁部		1：にぶい黄褐(10YR5/4) 2：橙(7.5YR6/6)	普通	直径4mm以下の石英・長石・角閃石・金雲母	1：RL	良好	外面炭化物付着
355	76	31	5	27F	Ⅲ	C－8	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：明黄褐(10YR7/6) 2：明黄褐(10YR6/8)	粗	直径0.5～6mmの石英・長石・チャート・金雲母		甘い	
356	76	31	5	28U	Ⅲ	C－8	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：褐(7.5YR4/6) 2：赤褐(5YR4/8)	普通	直径3mm前後の石英・長石・金雲母	1：LR	良好	
357	76	32	5	33X	Ⅲ	C－8	胴部	2：ナデ	1：にぶい橙(7.5YR7/4) 2：にぶい橙(7.5YR7/4)	普通	直径3mm前後長石・角閃石・チャート・金雲母	1：LR	良好	
358	76	32	5	28F	Ⅰ	C－8	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：橙(5YR6/6) 2：橙(7.5YR6/6)	普通	直径0.2～2mmの長石・角閃石・金雲母	1：RL	良好	
359	76	32	5	31b	Ⅲ	C－8	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：橙(5YR6/6) 2：灰褐(7.5YR4/2)	普通	直径1mm前後の石英・長石・金雲母	1：RL	良好	
360	76	32	5	30d	Ⅲ	C－8	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい黄橙(10YR6/4) 2：にぶい黄橙(10YR7/4)	普通	直径0.1～2.5mmの石英・長石・角閃石・チャート	1：RL	やや甘い	
361	76	32	5	32W	Ⅳ	C－8	胴部	2：ナデ	1：橙(5YR6/8) 2：黒褐(7.5YR3/2)	普通	直径2mm以下の長石・角閃石・チャート・金雲母	1：LR	良好	内面炭化物付着
362	76	32	5		Ⅰ	C－8	胴部		1：にぶい黄橙(10YR5/4) 2：にぶい黄橙(10YR6/4)	普通	直径3mm以下の石英・長石・角閃石・金雲母	1：RL	良好	
363	76	32	3	31H	Ⅲ	C－8	胴部		1：にぶい褐(7.5YR5/3) 2：橙(7.5YR6/6)	粗	直径5mm前後の石英・長石・角閃石・チャート・金雲母	1：RL	良好	
364	76	32	3	30H	Ⅱc	C－8	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：橙(5YR6/6) 2：にぶい褐(7.5YR5/4)	粗	直径1.5mm以下の石英・長石	1：RL	良好	内面炭化物付着

第14表　土器観察表（8）

番号	挿図No.	写真図版	地区	遺構グリッド	層位	分類	部位	成形・調整 1表・2表	色調（1外面・2内面）	胎土の粒・密	含有物	縄文の撚り 1表・2表	焼成	備考
365	76	32	5	27a	Ⅲ	C－8	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：橙(5YR6/6) 2：橙(5YR6/6)	粗	直径2mm前後の石英・長石・金雲母	1：RL	やや甘い	
366	76	32	5	29u	Ⅲ	C－8	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：灰褐(7.5YR4/2) 2：にぶい赤褐(5YR4/3)	普通	直径1mm以下の石英・長石・金雲母		良好	
367	76	32	5	30d	Ⅲ	C－8	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：明黄褐(10YR6/6) 2：褐灰(10YR4/1)	普通	直径0.2～2.5mmの石英・長石・角閃石・金雲母		やや甘い	
368	76	32	5	27Z	Ⅲ	C－8	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：褐(7.5YR4/4) 2：褐(7.5YR4/4)	普通	直径5mm前後の石英・長石・金雲母		良好	外面炭化物付着
369	76	32	5	31b	Ⅱa	C－8	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：明褐(7.5YR5/6) 2：にぶい褐(7.5YR5/3)	普通	直径0.3～0.5mmの石英・長石・角閃石		やや甘い	外面炭化物付着
370	76	32	5	27e	Ⅲ	C－8	胴部	2：ナデ	1：橙(7.5YR6/6) 2：赤褐(5YR4/6)	普通	直径3mm以下の石英・長石・角閃石・金雲母		良好	
371	76	32	5	31b	Ⅲ	C－8	頸部	1：ナデ 2：ナデ	1：褐灰(10YR4/1) 2：にぶい黄橙(10YR7/3)	普通	直径0.5mm前後の石英・長石・金雲母		良好	
372	76	32	5	26b	Ⅲ	C－8	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい黄橙(10YR7/4) 2：にぶい橙(7.5YR7/4)	粗	直径2mm以下の石英・長石・金雲母		良好	
373	76	32	5	28T	Ⅱa	C－8	胴部	2：ナデ	1：にぶい褐(7.5YR5/4) 2：明赤褐(5YR5/6)	普通	直径3mm以下の石英・長石・角閃石・金雲母		良好	
374	76	32	5	28Y	Ⅲ	C－8	胴部		1：にぶい褐(7.5YR5/4) 2：にぶい黄褐(10YR6/4)	普通	直径2mm以下の石英・長石・角閃石		良好	内面炭化物付着
375	76	32	5	28Y	Ⅲ	C－8	胴部		1：にぶい橙(7.5YR7/4) 2：黒褐(7.5YR3/2)	普通	直径3mm以下の長石・角閃石・金雲母		良好	内面炭化物付着
376	76	32	3	27J	Ⅲ	C－8	胴部	2：ナデ	1：灰褐(7.5YR5/2) 2：にぶい褐(7.5YR5/4)	普通	直径1.5～2mmの石英・長石・金雲母		良好	
377	76	32	5	33Y	Ⅲ	C－8	胴部	2：指頭痕	1：にぶい黄褐(10YR5/3) 2：灰黄褐(10YR4/2)	普通	直径5mm以下の石英・長石・角閃石・金雲母	1：L (無節)	良好	
378	76	32	5	30Y	Ⅱa	C－8	胴部	2：ナデ	1：橙(5YR6/6) 2：橙(5YR6/6)	普通	直径0.2～2mmの石英・長石・角閃石・金雲母		良好	
379	76	32	5	33V	Ⅲ	C－8	胴部		1：にぶい黄褐(10YR4/3) 2：黒褐(2.5YR3/1)	普通	直径4mm以下の石英・長石・角閃石		良好	
380	76	32	5	33Y	Ⅲ	C－8	胴部	2：ナデ	1：橙(5YR6/6) 2：にぶい褐(7.5YR5/4)	普通	直径2mm以下の石英・長石・角閃石・黒雲母		良好	内面炭化物付着
381	76	32	5	34Z	Ⅲ	C－8	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい橙(7.5YR7/4) 2：にぶい橙(7.5YR7/4)	粗	直径2～3mmの長石		良好	
382	76	32	2	18O	Ⅲ	C－8	胴部		1：黒褐(10YR2/2) 2：褐(10YR4/6)	普通	直径2mm以下の長石・角閃石・金雲母		良好	
383	76	32	5	28d	Ⅱd	C－8	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：橙(5YR7/6) 2：橙(5YR6/6)	普通	直径2mm前後の石英・長石・金雲母		良好	
384	76	32	3	29G	Ⅱc	C－8	胴部	2：ナデ	1：明赤褐(5YR5/6) 2：明褐(7.5YR5/6)	普通	直径0.2～2mmの長石・角閃石・金雲母・白雲母・黒雲母		良好	
385	76	32	3	31H	Ⅲ	C－8	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい橙(7.5YR6/4) 2：橙(5YR6/6)	粗	直径2mm以下の石英・長石	1：LR	良好	
386	76	32	3	28G	Ⅲ	C－8	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい褐(7.5YR5/4) 2：褐(7.5YR4/3)	普通	直径0.5mm前後の石英・長石・金雲母		良好	
387	76	32	3	28P	Ⅲ	C－8	胴部	2：ナデ	1：橙(7.5YR6/8) 2：橙(5YR6/8)	普通	直径2.5mm以下の石英・長石・角閃石・チャート・金雲母		やや甘い	
388	76	32	5	30Z	Ⅱa	C－8	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：黒褐(7.5YR3/1) 2：灰褐(7.5YR5/2)	普通	直径2mm以下の長石・角閃石・チャート・金雲母		やや甘い	
389	77	33	5	26d	Ⅳ	K－1	胴部	1：ナデ 2：条痕	1：灰(5Y4/1) 2：浅黄(2.5YR7/3)	普通	直径3mm以下の石英・長石・金雲母	1：RL	良好	
390	77	33	5	27e	Ⅲ	K－1	胴部	1：ナデ 2：条痕	1：灰(5Y4/1) 2：にぶい黄橙(10YR7/4)	普通	直径2mm以下の石英・長石・金雲母	1：RL	良好	
391	77	33	5	29Z	Ⅲ	K－1	胴部	2：ナデ	1：にぶい黄橙(10YR6/3) 2：灰黄褐(10YR5/2)	粗	直径1.5mm以下の石英・長石・角閃石・金雲母		良好	
392	77	33	2	20F	Ⅱd	K－1	口縁部	2：ナデ	1：黒褐(10YR3/2) 2：にぶい橙(7.5YR6/4)	普通	直径3mm以下の石英・長石・金雲母	1：LR	良好	外面炭化物付着
393	77	33	2	20E	Ⅲ	K－1	口縁部	2：ナデ	1：褐(7.5YR 4 /3) 2：橙(7.5YR6/6)	普通	直径4mm以下の石英・長石・角閃石・金雲母	1：RL	良好	
394	77	33	3	29G	Ⅱb	K－1	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：橙(7.5YR7/6) 2：褐灰(10YR4/1)	普通	直径1.5mm以下の石英・長石・角閃石・金雲母	1：LR	良好	
395	77	33	3	29E	Ⅲ	K－1	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい褐(7.5YR5/4) 2：にぶい褐(7.5YR5/4)	密	直径1mm以下の石英・長石	1：LR	良好	
396	77	33	3	31I	Ⅱc	K－1	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：灰褐(7.5YR5/2) 2：にぶい褐(7.5YR5/3)	密	直径1mm以下の石英・長石	1：LR	良好	
397	77	33	3	29F	Ⅲ	K－1	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい赤褐(5YR5/4) 2：明赤褐(2.5YR5/6)	普通	直径1mm以下の石英・長石・金雲母	1：LR	良好	内面炭化物付着
398	77	33	3	27O	Ⅱa	K－1	口縁部	2：ナデ	1：にぶい褐(7.5YR5/4) 2：にぶい褐(7.5YR5/4)	普通	直径0.2～1mmの長石・角閃石・金雲母	1：LR	良好	
399	77	33	2	19F	Ⅳ	K－1	口縁部	2：ナデ	1：灰黄褐(10YR4/2) 2：にぶい黄橙(10YR7/3)	普通	直径2.1mm以下の長石・チャート・金雲母	1：RL	良好	
400	77	33	3	29O	Ⅲ	K－1	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：黒褐(10YR3/1) 2：灰黄褐(10YR4/2)	密	直径0.1～0.3mmの石英・角閃石・金雲母	1：LR	良好	内外面炭化物付着
401	77	33	3	30H	Ⅱc	K－1	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい黄橙(10YR6/3) 2：にぶい黄褐(10YR5/3)	普通	直径0.2～1.5mmの石英・長石・角閃石・金雲母	1：LR	良好	
402	77	33	3	29O	Ⅲ	K－1	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：黒褐(5YR2/2) 2：黒褐(7.5YR3/2)	密	直径0.5mm以下の石英・長石・金雲母	1：RL	良好	内外面炭化物付着
403	77	33	3	29E	Ⅱc	K－1	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：褐(7.5YR4/3) 2：にぶい褐(7.5YR5/4)	普通	直径3mm前後の石英・金雲母	1：LR	良好	
404	77	33	2	19G	Ⅳ	K－1	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：黒褐(10YR3/2) 2：にぶい黄褐(10YR5/3)	普通	直径2.5mm前後の石英・チャート・金雲母	1：RL	良好	
405	77	33	3	28G	Ⅲ	K－2	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：灰褐 (7.5YR4/2) 2：明赤褐(2.5YR5/6)	普通	直径1mm以下の石英・長石・チャート・金雲母	1：LR	良好	外面炭化物付着
406	77	33	3	29E	Ⅱc	K－2	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい褐(7.5YR5/4) 2：黒褐(10YR3/2)	普通	直径2mm以下の長石・金雲母	1：LR	良好	
407	77	33	2	20E	Ⅲ	K－2	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：明赤褐(5YR5/6) 2：にぶい褐(7.5YR5/3)	普通	直径1mm前後の石英・長石・金雲母	1：RL	良好	
408	77	33	2	20Q	Ⅱd	K－2	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：黒褐(7.5YR3/1) 2：にぶい黄橙(10YR7/4)	普通	直径1mm以下の石英・長石	1：LR	良好	
409	77	33	2	17K	Ⅲ	K－2	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい黄褐(10YR5/3) 2：褐灰(10YR4/1)	普通	直径0.2～1mmの長石・角閃石・金雲母	1：LR	良好	
410	77	33	2	22G	Ⅲ	K－2	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：橙(5YR6/6) 2：橙(7.5YR7/6)	普通	直径0.1～0.5mmの石英・長石・金雲母	1：LR	やや甘い	
411	77	33	2	17F	Ⅲ	K－2	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：褐灰(10YR4/1) 2：にぶい黄(2.5YR6/3)	普通	直径1mm以下の石英・長石・角閃石・金雲母	1：RL	良好	
412	77	33	2	17E	Ⅲ	K－2	口縁部	1：ナデ 2：ミガキ	1：にぶい黄橙(10YR6/4) 2：褐灰(10YR4/1)	普通	直径0.5mm以下の長石・金雲母	1：LR	良好	
413	77	33	2	20F	Ⅲ	K－2	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：灰褐(7.5YR5/2) 2：橙(7.5YR7/6)	普通	直径0.2～1mmの石英・長石・角閃石・金雲母	1：LR	やや甘い	
414	77	33	2	18F	Ⅲ	K－2	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：褐(7.5YR 4 /3) 2：黒褐(7.5YR3/1)	密	直径1.5mm以下の石英・長石・金雲母	1：RL	良好	
415	77	33	3	32D	Ⅲ	K－2	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい黄橙(10YR7/3) 2：黒(N2/0)	普通	直径2mm以下の石英・長石・角閃石・金雲母	1：RL	良好	
416	77	33	3	28F	Ⅱb	K－2	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい褐(7.5YR5/4) 2：にぶい褐(7.5YR5/3)	普通	直径2mm以下の石英・長石・角閃石	1：LR	良好	

第15表　土器観察表（9）

番号	挿図No.	写真図版	地区	遺構 グリッド	層位	分類	部位	成形・調整 1表・2裏	色調（1外面・2内面）	胎土の疎・密	含有物	縄文の撚り 1表・2裏	焼成	備考
417	77	33	3	29G	Ⅱb	K－2	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい黄橙(10YR6/3) 2：灰黄褐(10YR6/2)	普通	直径2mm以下の長石・角閃石・金雲母		良好	
418	77	33	3	29F	Ⅲ	K－2	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい黄橙(10YR7/3) 2：にぶい黄橙(10YR7/2)	普通	直径3mm以下の石英・長石・角閃石・金雲母		良好	外面炭化物付着
419	78	34	2	20G	Ⅲ	K－3	口縁部	1：条痕 2：ナデ	1：にぶい黄褐(10YR5/3) 2：にぶい黄褐(10YR5/4)	密	直径1mm前後の石英・金雲母		良好	
420	78	34	3	25E	Ⅲ	K－4	口縁部	2：ナデ	1：にぶい橙(7.5YR7/4) 2：にぶい橙(7.5YR6/4)	普通	直径0.6mm前後の石英・長石・チャート・金雲母	1：LR	良好	
421	78	34	3	26E	Ⅱc	K－4	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい黄褐(10YR4/3) 2：明褐(7.5YR5/6)	普通	直径0.2～2mmの長石・金雲母・黒雲母・白雲母		良好	
422	78	34	3	25E	Ⅲ	K－4	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：灰褐(7.5YR4/2) 2：にぶい橙(7.5YR7/4)	普通	直径1～3mmの長石・金雲母・白雲母	1：LR	良好	
423	78	34	3	30G	Ⅰ	K－4	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい黄橙(10YR7/3) 2：にぶい黄橙(10YR6/3)	普通	直径1mm以下の長石・金雲母		良好	
424	78	34	3	28C	Ⅲ	K－4	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい橙(7.5YR6/4) 2：橙(7.5YR6/6)	普通	直径1mm前後の石英・長石・チャート	1：LR	良好	
425	78	34	2	17F	Ⅱc	K－4	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：暗褐(7.5YR3/3) 2：黒褐(7.5YR3/2)	普通	直径2mm以下の長石・金雲母		良好	外面炭化物付着
426	78	34	2	17H	Ⅲ	K－4	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：褐(7.5YR 4 /3) 2：黒褐(7.5YR3/1)	密	直径1mm以下の石英・長石・金雲母	1：RL	良好	
427	78	34	3	30G	Ⅲ	K－4	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい橙(7.5YR7/4) 2：にぶい黄褐(10YR7/4)	普通	直径1mm前後の長石	1：LR	良好	外面炭化物付着
428	78	34	3	31F	Ⅲ	K－4	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：黒褐(10YR3/2) 2：にぶい黄橙(10YR6/3)	普通	直径1mm以下の長石・金雲母	1：LR	良好	内外面炭化物付着
429	78	34	3	28O	Ⅱc	K－4	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：褐灰(10YR5/1) 2：にぶい黄橙(10YR7/4)	普通	直径2mm以下の長石・角閃石	1：RL	良好	
430	78	34	2	17G	Ⅲ	K－4	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：黒褐(10YR3/1) 2：褐灰(10YR4/1)	普通	直径1mm以下の石英・長石・角閃石	1：LR	良好	外面炭化物付着
431	78	34	2	21O	Ⅱc	K－4	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい黄褐(10YR5/4) 2：にぶい黄褐(10YR5/3)	普通	直径0.2～2mmの長石・角閃石・金雲母	1：LR	良好	
432	78	34	2	17K	Ⅲ	K－4	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：黒褐（10YR3/2) 2：黒褐(10YR3/2)	普通	直径0.2～2mmの長石・金雲母・白雲母	1：LR	良好	
433	78	34	3	31G	Ⅲ	K－4	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい橙(7.5YR6/4) 2：にぶい黄橙(10YR7/4)	普通	直径1mm以下の石英・長石・チャート・金雲母	1：LR	良好	
434	78	34	2	17F	Ⅲ	K－4	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい黄橙(10YR6/4) 2：暗褐(10YR3/3)	普通	直径0.2mm以下の長石・金雲母・黒雲母	1：LR	良好	
435	78	34	3	27C	Ⅱd	K－4	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい橙(7.5YR6/4) 2：にぶい橙(7.5YR7/3)	普通	直径1.5mm前後の石英・長石・角閃石・金雲母・黒雲母	1：LR	良好	
436	78	34	2	17E	Ⅲ	K－4	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：黒褐(10YR3/2) 2：黒褐(10YR3/2)	普通	直径2mm以下の長石・金雲母	1：LR	良好	外面炭化物付着
437	78	34	3	31E	Ⅲ	K－4	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい黄橙(10YR6/3) 2：にぶい黄橙(10YR6/3)	普通	直径2mm以下の石英・長石・角閃石・金雲母	1：LR	良好	
438	78	35	3	27D	Ⅱc	K－4	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい黄橙(10YR6/4) 2：にぶい黄橙(10YR6/3)	普通	直径4mm前後の石英　2mm前後の長石・チャート・金雲母	1：LR	良好	
439	78	35	3	30F	Ⅲ	K－4	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：橙(5YR6/6) 2：橙(5YR6/6)	普通	直径1mm前後の石英・長石・チャート	1：RL	良好	
440	78	35	3	31J	Ⅲ	K－4	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：赤褐(2.5YR4/6) 2：褐(7.5YR 4 /6)	普通	直径1mm前後の石英・長石・金雲母	1：LR	良好	
441	78	35	2	17I	Ⅲ	K－4	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい橙(7.5YR7/4) 2：にぶい黄橙(10YR6/4)	普通	直径1～1.5mmの石英・金雲母	1：LR	良好	
442	78	35	3	26F	Ⅲ	K－4	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：暗褐(7.5YR3/3) 2：にぶい褐(7.5YR5/4)	普通	直径2.5mm前後の石英・長石・角閃石・チャート・金雲母	1：LR	良好	外面炭化物付着
443	78	35	3	31G	Ⅲ	K－4	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい黄橙(10YR6/3) 2：にぶい黄橙(10YR7/4)	普通	直径2.5mm前後の石英・長石・角閃石・チャート	1：RL	良好	
444	79	35	3	27D	Ⅱc	K－4	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい黄橙(10YR7/4) 2：にぶい黄橙(10YR6/4)	普通	直径1.5mm前後の石英・長石・金雲母		良好	
445	79	35	2	22P	Ⅲ	K－4	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい赤褐(5YR4/4) 2：橙(7.5YR6/6)	普通	直径2mm以下の石英・長石・金雲母		良好	外面炭化物付着
446	79	35	2	21Q	Ⅱd	K－4	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい赤褐(5YR4/4) 2：にぶい赤褐(5YR4/3)	粗	直径0.5～3mmの石英・長石・金雲母		やや甘い	
447	79	35	2	21Q	Ⅲ	K－4	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：明褐(7.5YR5/6) 2：にぶい黄褐(10YR4/3)	普通	直径0.2～1.5mmの角閃石・金雲母		良好	外面炭化物付着
448	79	35	2	18F	Ⅲ	K－4	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：黒褐(10YR3/2) 2：にぶい黄褐(10YR4/3)	普通	直径1mm以下の石英・長石・角閃石・金雲母	1：LR	良好	
449	79	35	2	20G	Ⅲ	K－4	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：浅黄橙(10YR8/3) 2：にぶい黄橙(10YR7/4)	普通	直径1～1.5mmの石英・長石・角閃石・金雲母	1：LR	良好	
450	79	35	3	27I	Ⅱc	K－4	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい黄橙(10YR6/3) 2：にぶい黄橙(10YR6/3)	普通	直径1mm前後の長石・角閃石・チャート・黒雲母	1：LR	良好	
451	79	35	3	28F	Ⅲ	K－4	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：明黄褐(10YR6/6) 2：にぶい黄褐(10YR5/3)	普通	直径1mm以下の石英・長石・金雲母・白雲母	1：LR	良好	
452	79	35	3	32G	Ⅲ	K－4	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：黒褐(10YR3/1) 2：にぶい黄橙(10YR6/3)	普通	直径2mm前後の石英・長石・角閃石	1：LR	良好	
453	79	35	2	17E	Ⅲ	K－4	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい黄橙(10YR6/3) 2：橙(5YR6/6)	普通	直径0.2～1.5mmの石英・長石・金雲母	1：LR	良好	
454	79	35	2	17F	Ⅲ	K－4	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい黄褐(10YR5/4) 2：黒褐(10YR2/3)	普通	直径0.2～2mmの長石・角閃石・金雲母・黒雲母	1：LR	良好	
455	79	35	3	27B	Ⅱc	K－4	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい黄橙(10YR6/3) 2：にぶい黄橙(10YR6/3)	密	直径1mm以下の角閃石	1：LR	良好	
456	79	35	3	32F	Ⅱb	K－4	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい黄橙(10YR6/4) 2：にぶい黄橙(10YR6/4)	普通	直径2mm以下の石英・長石		良好	
457	79	35	2	18E	Ⅳ	K－4	口縁部付近	1：ナデ 2：ナデ	1：明褐(7.5YR5/6) 2：にぶい黄褐(10YR5/4)	密	直径0.2～0.8mmの石英・長石・角閃石・金雲母		良好	外面炭化物付着
458	79	35	3	28O	Ⅲ	K－4	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい橙(5YR6/4) 2：橙(7.5YR7/6)	普通	直径0.2～2mmの石英・長石・角閃石・金雲母	1：RL	やや甘い	
459	79	35	3	26E	Ⅱc	K－4	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい黄橙(10YR7/3) 2：にぶい黄橙(10YR7/2)	普通	直径2mm以下の石英・長石・角閃石		良好	
460	79	35	2	21O	Ⅲ	K－4	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい黄橙(10YR7/3) 2：にぶい黄橙(10YR7/3)	普通	直径1mm前後の石英・長石・金雲母	1：RL	良好	
461	79	35	2	17J	Ⅲ	K－4	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい黄橙(10YR7/4) 2：明黄褐(10YR7/6)	普通	直径2mm以下の石英・長石・角閃石・金雲母	1：LR	良好	
462	79	36	3	26E	Ⅱc	K－4	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：明赤褐(2.5YR5/6) 2：赤褐(5YR4/6)	密	直径1mm以下の石英・長石・角閃石・チャート	1：LR	良好	外面炭化物付着
463	79	36	2	17F	Ⅲ	K－4	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい黄橙(10YR7/4) 2：にぶい黄橙(10YR6/4)	普通	直径1mm以下の石英・長石・角閃石・金雲母	1：LR	良好	
464	79	36	2	18E	Ⅲ	K－4	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：黒褐(7.5YR3/1) 2：黄灰(7.5YR5/1)	普通	直径3mm以下の長石・金雲母	1：LR	良好	
465	79	36	3	29N	Ⅲ	K－4	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい黄橙(10YR7/3) 2：灰白(10YR8/2)	普通	直径2mm以下の石英・長石・角閃石・金雲母		良好	
466	79	36	2	17G	Ⅱc	K－4	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：黒褐(10YR2/2) 2：にぶい黄褐(10YR4/3)	普通	直径1mm以下の長石・金雲母・黒雲母	1：LR	良好	
467	79	36	2	20G	Ⅲ	K－4	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：明赤褐(5YR5/6) 2：赤褐(5YR4/8)	普通	直径3mm以下の石英・長石・角閃石・金雲母	1：LR	良好	
468	79	36	3	28C	Ⅲ	K－4	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい黄橙(10YR7/4) 2：明黄褐(10YR6/6)	普通	直径0.2～1.5mmの石英・長石・角閃石・金雲母	1：LR	良好	

第16表　土器観察表（10）

番号	挿図No.	写真図版	地区	遺構グリッド	層位	分類	部位	成形・調整 1表・2裏	色調（1外面・2内面）	胎土の疎・密	含有物	縄文の撚り 1表・2裏	焼成	備考
469	79	36	3	25E	Ⅱc	K－4	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい黄褐(10YR4/3) 2：暗褐(10YR3/3)	密	直径0.2mm以下の長石・金雲母	1：LR	良好	
470	79	36	3	29F	Ⅲ	K－4	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい黄橙(10YR7/4) 2：にぶい黄橙(10YR7/4)	密	直径0.2～1mmの長石・チャート・白雲母	1：LR	良好	
471	79	36	3	27B	Ⅱc	K－4	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい黄橙(10YR6/3) 2：にぶい黄橙(10YR6/3)	普通	直径1～1.9mmのチャート・角閃石	1：LR	良好	
472	79	36	3	37J	Ⅲ	K－4	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい黄橙(10YR7/4) 2：にぶい黄橙(10YR7/3)	普通	直径2mm以下の長石・角閃石・金雲母		良好	
473	79	36	3	27E	Ⅲ	K－4	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：灰黄褐(10YR6/2) 2：にぶい黄橙(10YR7/3)	普通	直径1mm前後の石英・長石・角閃石・金雲母	1：LR	良好	
474	79	36	2	17E	Ⅲ	K－4	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい黄橙(10YR6/3) 2：灰黄(2.5YR6/2)	普通	直径0.2～2mmの長石・角閃石・黒雲母	1：LR	良好	
475	79	36	3	28N	Ⅲ	K－4	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：褐(7.5YR4/4) 2：褐(7.5YR4/4)	普通	直径2mm以下の長石・金雲母	1：LR	良好	外面炭化物付着
476	79	36	2	19J	Ⅲ	K－4	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい褐(7.5YR5/3) 2：にぶい橙(7.5YR6/4)	普通	直径1mm以下の角閃石・チャート	1：LR	良好	
477	79	36	2	17H	Ⅲ	K－4	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい黄橙(10YR7/3) 2：にぶい黄橙(10YR6/4)	普通	直径1mm以下の角閃石・長石・金雲母	1：RL	良好	
478	79	36	3	26E	Ⅱc	K－4	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：暗赤褐(7.5YR3/6) 2：赤褐(7.5YR4/6)	普通	直径2mm以下の長石	1：LR	良好	外面炭化物付着
479	79	36	3	29F	Ⅲ	K－4	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：明赤褐(5YR5/8) 2：明褐(7.5YR5/6)	普通	直径0.2～3mmの石英・長石・角閃石・金雲母	1：LR	やや甘い	
480	79	36	3	29E	Ⅲ	K－4	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：黒褐(10YR3/2) 2：黒褐(10YR3/1)	密	直径0.2mm以下の長石・金雲母・黒雲母	1：LR	良好	
481	79	36	3	28F	Ⅱc	K－4	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい橙(7.5YR6/4) 2：にぶい褐(7.5YR5/4)	普通	直径1mm以下の石英・長石・角閃石	1：LR	良好	
482	79	36	2	18K	Ⅲ	K－4	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい赤褐(5YR5/4) 2：暗赤褐(5YR3/3)	密	直径1mm以下の長石・金雲母	1：LR	良好	
483	79	36	3	25D	Ⅲ	K－4	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：灰褐(7.5YR4/2) 2：灰褐(7.5YR4/2)	密	直径1mm以下の石英・長石・金雲母	1：LR	良好	
484	79	36	1	13S	Ⅲ	K－4	口縁部・胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：明赤褐(2.5YR5/6) 2：赤褐(2.5YR4/6)	密	直径2mm前後の石英・長石・金雲母	1：LR	良好	内外面炭化物付着
485	80	37	2	17F	Ⅲ	K－4	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい黄褐(10YR5/4) 2：明褐(7.5YR5/6)	普通	直径1mm以下の石英・長石・金雲母	1：LR	良好	外面炭化物付着
486	80	37	2	16E	Ⅲ	K－4	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい黄橙(10YR6/4) 2：にぶい黄橙(10YR7/4)	普通	直径2mm前後の石英・長石・角閃石・金雲母	1：LR	良好	
487	80	37	2	17D	Ⅱc	K－4	胴部	1：ナデ 2：ナデ・指頭痕	1：にぶい橙(7.5YR6/4) 2：橙(7.5YR6/6)	普通	直径1.5mm前後の石英・長石・角閃石・チャート	1：LR	良好	
488	80	37	2	20J	Ⅲ	K－4	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：黒褐(7.5YR3/1) 2：黄橙(10YR8/6)	普通	直径0.3～1mmの石英・長石・角閃石・金雲母	1：LR	やや甘い	外面炭化物付着
489	80	37	2	16H	Ⅲ	K－4	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい褐(7.5YR5/4) 2：にぶい赤褐(5YR5/4)	密	0.5mm以下の金雲母	1：LR	良好	
490	80	37	2	17F	Ⅲ	K－4	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：橙(7.5YR7/6) 2：にぶい橙(7.5YR6/4)	密	直径1mm前後の石英・長石・金雲母	1：LR	良好	
491	80	37	3	31E	Ⅲ	K－4	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい黄橙(10YR7/4) 2：灰白(10YR7/1)	普通	直径4mm以下の長石・金雲母	1：LR	良好	
492	80	37	3	33L	Ⅱc	K－4	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：灰褐(7.5YR4/2) 2：にぶい褐(7.5YR5/4)	普通	直径1mm以下の石英・長石・角閃石・金雲母	1：RL	良好	
493	80	37	3	29F	Ⅱc	K－4	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい黄橙(10YR7/4) 2：にぶい黄橙(10YR7/3)	普通	直径0.2～2mmの石英・角閃石・チャート・金雲母	1：LR	良好	
494	80	37	2	16D	Ⅱc	K－4	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい褐(7.5YR5/4) 2：橙(7.5YR6/6)	普通	直径1.5mm以下の石英・長石・角閃石・金雲母	1：LR	良好	
495	80	37	3	30H	Ⅲ	K－4	口縁部・胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：灰黄褐(10YR4/2) 2：にぶい黄橙(10YR6/4)	密	直径1mm以下の石英・長石・金雲母	1：LR	良好	内外面炭化物付着
496	80	37	3	25F	Ⅲ	K－4	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい黄橙(10YR6/4) 2：にぶい黄橙(10YR7/4)	普通	直径2mm前後の石英・長石・角閃石	1：RL	良好	
497	80	37	3	31H	Ⅰ	K－4	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい黄褐(10YR7/4) 2：橙(7.5YR6/6)	普通	直径0.2～2mmの石英・長石・角閃石・金雲母	1：LR	やや甘い	
498	80	37	2	10F	Ⅲ	K－4	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい黄橙(10YR7/4) 2：にぶい黄橙(10YR7/4)	普通	直径3mm以下の石英・長石・角閃石・金雲母	1：LR	良好	外面炭化物付着
499	80	38	2	17D	Ⅲ	K－4	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい黄橙(10YR6/3) 2：褐灰(10YR6/1)	密	直径0.5mm以下の石英・長石・金雲母	1：LR	良好	
500	80	38	2	18E	Ⅳ	K－4	口縁部付近	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい褐(7.5YR5/3) 2：にぶい黄橙(10YR7/4)	普通	直径2mm以下の長石・角閃石・金雲母		良好	外面炭化物付着
501	80	38	3	31H	Ⅲ	K－4	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい黄褐(10YR4/3) 2：にぶい黄橙(10YR7/4)	普通	直径3mm以下の長石・角閃石・金雲母	1：RL	良好	外面炭化物付着
502	80	38	3	29F	Ⅲ	K－4	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：灰黄褐(10YR6/2) 2：黒(10YR2/1)	普通	直径2mm以下の長石・角閃石・金雲母	1：LR	良好	外面炭化物付着
503	80	38	3	29F	Ⅲ	K－4	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい橙(7.5YR7/4) 2：灰白(10YR8/2)	普通	直径2mm以下の石英・角閃石・チャート	1：LR	良好	
504	80	38	3	31E	Ⅲ	K－4	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：橙(7.5YR7/6) 2：橙(7.5YR7/6)	普通	直径0.2～2mmの石英・長石・角閃石・チャート・白雲母	1：LR	良好	
505	80	38	2	17E	Ⅲ	K－4	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい褐(7.5YR5/3) 2：にぶい黄橙(10YR6/4)	普通	直径1.5mm以下の石英・長石・金雲母・黒雲母	1：LR	良好	外面炭化物付着
506	80	38	3	26E	Ⅱc	K－4	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：灰黄(2.5YR6/2) 2：黄灰(2.5YR4/1)	普通	直径2mm以下の石英・長石・角閃石・金雲母	1：LR	良好	
507	80	38	3	26F	Ⅱc	K－4	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい褐(7.5YR5/4) 2：黒褐(10YR3/2)	密	直径0.2～1.5mmの石英・長石・金雲母	1：LR	良好	
508	80	38	3	30E	Ⅲ	K－4	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：橙(7.5YR7/6) 2：にぶい黄褐(10YR7/4)	普通	直径0.2～1.5mmの石英・長石・金雲母	1：LR	良好	
509	80	38	3	27D	Ⅱc	K－4	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：明褐(7.5YR6/6) 2：灰黄褐(10YR5/2)	普通	直径2mm以下の長石・角閃石・金雲母	1：LR	良好	
510	80	38	3	29F	Ⅲ	K－4	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい黄橙(10YR6/3) 2：橙(7.5YR7/6)	普通	直径0.2～1mmの長石・角閃石・黒雲母	1：LR	良好	
511	80	38	3	28C	Ⅲ	K－4	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：黒褐(10YR3/1) 2：にぶい黄橙(10YR7/4)	普通	直径0.2～1.5mmの石英・長石・角閃石・チャート・金雲母	1：LR	良好	
512	80	38	3	25F	Ⅲ	K－4	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい黄橙(10YR7/3) 2：にぶい黄橙(10YR7/3)	普通	直径1mm以下の石英・長石・角閃石	1：LR	良好	
513	80	38	2	17I	Ⅲ	K－4	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい黄褐(10YR5/3) 2：にぶい黄橙(10YR6/4)	普通	直径1mm以下の石英・長石・角閃石・金雲母		良好	
514	80	38	2	17E	Ⅲ	K－4	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：明褐(7.5YR5/8) 2：橙(7.5YR6/6)	普通	直径0.2～0.5mmの石英・長石・角閃石	1：LR	良好	内外面炭化物付着
515	80	38	2	21P	Ⅲ	K－4	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：赤褐(5YR4/6) 2：赤褐(5YR4/6)	普通	直径0.2～0.5mmの長石・角閃石・金雲母	1：LR	良好	
516	80	38	2	17E	Ⅲ	K－4	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい黄褐(10YR5/4) 2：黒褐(10YR3/2)	粗	直径1mm以下の石英・長石	1：LR	良好	
517	80	38	2	17F	Ⅲ	K－4	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：橙(7.5YR7/6) 2：灰褐(7.5YR4/2)	普通	直径0.3～1mmの石英・長石・角閃石・金雲母	1：LR	やや甘い	外面炭化物付着
518	80	38	2	20F	Ⅲ	K－4	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：褐灰(10YR6/1) 2：にぶい黄橙(10YR7/3)	密	直径0.2～1mmの石英・長石・角閃石・チャート・金雲母	1：LR	良好	
519	80	38	2	17F	Ⅲ	K－4	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい黄褐(10YR6/4) 2：にぶい黄褐(10YR5/3)	密	直径0.5mm前後の石英・長石・金雲母	1：LR	良好	外面炭化物付着
520	80	38	2	17K	Ⅲ	K－4	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい橙(7.5YR6/4) 2：にぶい褐(7.5YR5/4)	普通	直径1～1.5mmの石英・長石・角閃石	1：RL	良好	

第17表　土器観察表（11）

番号	挿図No.	写真図版	地区	遺構 グリッド	層位	分類	部位	成形・調整 1表・2裏	色調（1外面・2内面）	胎土の疎・密	含有物	縄文の撚り 1表・2裏	焼成	備考
521	80	38	3	30G	Ⅰ	K－4	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：褐灰(10YR4/1) 2：にぶい黄橙(10YR7/3)	普通	直径0.5～1mmの長石・角閃石・金雲母	1：LR	良好	
522	80	38	2	17I	Ⅲ	K－4	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：明褐(7.5YR5/1) 2：褐灰(10YR4/1)	普通	直径1.5mm以下の長石・角閃石・チャート・金雲母	1：LR	良好	
523	80	38	2	17D	Ⅱc	K－4	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：褐灰(10YR4/1) 2：にぶい黄橙(10YR7/4)	普通	直径1mm以下の石英・長石・金雲母・黒雲母	1：RL	良好	
524	80	38	2	17F	Ⅱb	K－4	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：浅黄(2.5Y7/4) 2：浅黄(2.5Y7/4)	普通	直径0.1～0.5mmの石英・長石・角閃石・金雲母	1：LR	やや甘い	外面炭化物付着
525	80	38	2	17F	Ⅲ	K－4	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：橙(7.5YR6/6) 2：黒褐10YR3/2)	普通	直径0.2～1mmの長石・角閃石・金雲母	1：LR	良好	外面炭化物付着
526	80	38	3	30E	Ⅲ	K－4	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい黄褐(10YR5/3) 2：灰黄褐10YR5/2)	普通	直径2mm以下の石英・長石・角閃石	1：LR	良好	
527	80	38	2	16G	Ⅲ	K－4	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい黄褐(10YR5/4) 2：にぶい黄褐(10YR4/3)	普通	直径2mm以下の石英・長石・金雲母	1：RL	良好	
528	80	38	3	27D	Ⅱc	K－4	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：灰黄褐(10YR6/2) 2：にぶい黄橙(10YR6/3)	普通	直径1mm以下の石英・長石・角閃石	1：RL	良好	
529	80	38	3	29O	Ⅱc	K－4	胴部	2：ナデ	1：暗褐(7.5YR3/3) 2：橙(7.5YR6/6)	普通	直径0.2～1mmの石英・長石・角閃石	1：LR	良好	
530	81	39	3	30H	Ⅲ	K－5	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：褐(7.5YR4/3) 2：黒褐(7.5YR3/2)	密	直径1mm以下の石英・長石・角閃石		良好	
531	81	39	3	29F	Ⅲ	K－5	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい褐(7.5YR5/4) 2：黒褐(7.5YR3/2)	密	直径0.5mm以下の長石・角閃石・金雲母		良好	
532	81	39	3	29D	Ⅲ	K－5	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい黄橙(7.5YR6/6) 2：にぶい黄橙(10YR7/4)	普通	直径0.2～2mmの長石・金雲母・黒雲母		良好	
533	81	39	3	29E	Ⅲ	K－5	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：橙(5YR6/6) 2：にぶい黄橙(10YR7/3)	普通	直径2mm以下の石英・長石・角閃石・金雲母		良好	
534	81	39	3	31H	Ⅲ	K－5	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい褐(7.5YR6/3) 2：褐灰(10YR4/1)	普通	直径1.5mm前後の長石・角閃石・チャート・金雲母		良好	
535	81	39	3	29E	Ⅲ	K－5	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：橙(7.5YR6/6) 2：にぶい黄橙(10YR4/3)	普通	直径0.2～1mmの長石・チャート・金雲母		良好	
536	81	39	3	30G	Ⅱc	K－5	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい赤褐(5YR5/4) 2：にぶい橙(7.5YR6/4)	普通	直径1.5mm前後の石英・長石・チャート・金雲母		良好	
537	81	39	3	25D	Ⅱc	K－5	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：黒(7.5YR2/1) 2：明褐(7.5YR5/6)	普通	直径0.5～3.5mmの石英・長石・角閃石・金雲母		やや甘い	外面炭化物付着
538	81	39	2	17I	Ⅲ	K－5	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：黒褐(10YR3/1) 2：にぶい赤褐(5YR4/4)	密	直径1mm前後の金雲母		良好	
539	81	39	3	28E	Ⅲ	K－5	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：黒褐(10YR3/1) 2：灰黄褐(10YR6/2)	密	直径1mm以下の長石・角閃石		良好	
540	81	39	2	30P	Ⅲ	K－6	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい黄橙(10YR6/4) 2：灰黄褐(10YR6/2)	普通	直径2mm前後の石英・長石・金雲母		良好	
541	81	39	2	22Q	Ⅱd	K－6	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：浅黄橙(10YR8/3) 2：浅黄橙(10YR8/4)	普通	直径0.2～2mmの石英・長石・角閃石・チャート・金雲母		やや甘い	
542	81	39	2	17F	Ⅲ	K－6	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい橙(7.5YR6/4) 2：にぶい黄橙(10YR6/3)	普通	直径1mm以下の石英・長石・角閃石		良好	
543	81	39	2	17G	Ⅲ	K－6	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい黄橙(10YR6/3) 2：灰黄褐(10YR5/2)	密	直径0.2～0.8mmの石英・長石・角閃石・チャート		良好	
544	81	39	2	17F	Ⅲ	K－6	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい黄褐(10YR6/4) 2：にぶい黄橙(10YR7/4)	普通	直径0.2～1.5mmの角閃石・長石・金雲母		良好	
545	81	39	2	17F	Ⅳ	K－6	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：黒褐(10YR3/1) 2：褐灰(10YR4/1)	普通	直径1mm以下の石英・長石・角閃石		良好	外面炭化物付着
546	81	39	3	30F	Ⅲ	K－6	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：明黄褐(10YR6/6) 2：黒褐(2.5YR3/2)	普通	直径0.2～2mmの石英・長石・金雲母		良好	
547	81	39	2	17G	Ⅱc	K－6	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい褐(7.5YR5/4) 2：にぶい褐(7.5YR5/4)	普通	直径1mm前後の長石・金雲母		良好	外面炭化物付着
548	81	39	3	28B	Ⅲ	K－6	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい褐(7.5YR5/3) 2：褐灰(10YR6/1)	普通	直径2mm以下の石英・長石		良好	外面炭化物付着
549	81	39	2	19H	Ⅳ	K－6	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：灰褐(7.5YR4/2) 2：にぶい橙(7.5YR6/4)	普通	直径1mm前後の石英・長石		良好	
550	81	39	2	19F	Ⅲ	K－6	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい黄橙(10YR6/3) 2：浅黄(2.5YR7/3)	普通	直径1mm前後の石英・長石・角閃石・金雲母		良好	外面炭化物付着
551	81	39	3	28D	Ⅱc	K－6	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい黄橙(10YR6/4) 2：にぶい黄橙(10YR6/4)	普通	直径0.2～1mmの石英・長石・角閃石・金雲母・白雲母		良好	
552	81	39	2	17J	Ⅲ	K－6	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい黄褐(10YR5/3) 2：にぶい黄褐(10YR5/4)	普通	直径4mm以下の石英・長石・金雲母		良好	外面炭化物付着
553	81	39	2	17I	Ⅲ	K－6	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい橙(7.5YR7/4) 2：にぶい橙(7.5YR7/4)	普通	直径1～2mmの石英・長石・角閃石・金雲母・黒雲母		良好	
554	81	39	3	34J	Ⅲ	K－6	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい褐(7.5YR5/4) 2：にぶい橙(7.5YR7/4)	普通	直径3mm前後の長石		良好	外面炭化物付着
555	81	39	2	20O	Ⅲ	K－6	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：暗褐(7.5YR3/3) 2：にぶい橙(7.5YR7/4)	普通	直径0.5mm前後の石英・長石・金雲母		良好	外面炭化物付着
556	81	39	2	20P	Ⅱd	K－6	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：黒褐(10YR3/1) 2：にぶい黄橙(10YR7/4)	普通	直径1mm以下の石英・長石・金雲母		良好	
557	81	39	2	17G	Ⅱc	K－6	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい褐(7.5YR5/4) 2：橙(7.5YR6/6)	普通	直径2mm以下の石英・長石・角閃石		良好	
558	81	39	3	31J	Ⅲ	K－6	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい黄橙(10YR6/3) 2：にぶい黄橙(10YR7/4)	普通	直径0.2～2mmの石英・長石・角閃石・金雲母		良好	
559	81	39	3	26E	Ⅱc	K－6	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：暗褐(10YR3/3) 2：黒褐(10YR3/1)	普通	直径2mm以下の長石・角閃石・金雲母		良好	外面炭化物付着
560	81	39	3	26E	Ⅲ	K－6	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい褐(7.5YR5/4) 2：にぶい褐(7.5YR5/4)	普通	直径0.2～2mmの石英・長石・角閃石・金雲母・白雲母		良好	
561	82	40	3	34J	Ⅲ	K－7	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい赤褐(5YR4/3) 2：暗褐(7.5YR3/4)	普通	直径2mm以下の石英・長石・角閃石・金雲母	1：LR	良好	外面炭化物付着
562	82	40	2	22D	Ⅲ	K－7	口縁部	1：条痕	1：褐(7.5YR4/4) 2：にぶい黄橙(10YR7/4)	普通	直径3mm前後の石英・長石・金雲母	1：RL	良好	外面炭化物付着
563	82	40	2	26F	Ⅲ	K－7	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：橙(5YR6/6) 2：灰褐(7.5YR4/2)	普通	直径1.5mm以下の石英・金雲母	1：RL	良好	
564	82	40	3	26E	Ⅱc	K－7	口縁部	1：条痕 2：条痕	1：橙(7.5YR7/6) 2：橙(7.5YR6/6)	普通	直径1mm以下の石英・長石・角閃石		良好	
565	82	40	3	22P	Ⅲ	K－7	口縁部	1：ナデ 2：条痕	1浅黄橙(10YR8/3) 2：褐灰(10YR4/1)	普通	直径1mm以下の長石・金雲母	1：R (無節)	良好	外面炭化物付着
566	82	40	2	17J	Ⅲ	K－7	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：黒褐(10YR3/1) 2：にぶい黄褐(10YR5/3)	密	直径1mm以下の長石・角閃石	1：LR	良好	
567	82	40	2	20P	Ⅱc	K－7	口縁部	2：ナデ	1：黒褐(10YR3/1) 2：黒褐(10YR3/1)	普通	直径1mm以下の石英・長石・角閃石・金雲母・黒雲母		良好	
568	82	40	2	18G	Ⅲ	K－7	口縁部	1：ナデ 2：条痕	1：にぶい黄褐(10YR4/3) 2：褐(7.5YR4/4)	普通	直径0.2～1mmの石英・長石・金雲母	1：RL	良好	
569	82	40	3	30F	Ⅲ	K－7	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい黄橙(10YR6/4) 2：褐灰(10YR4/1)	普通	直径1mm以下の石英・長石	1：LR	良好	
570	82	40	3	28E	Ⅲ	K－7	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：黒褐(7.5YR3/2) 2：にぶい橙(7.5YR6/4)	普通	直径1～3mmの石英・長石・角閃石・金雲母	1：LR	良好	
571	82	40	2	18K	Ⅳ	K－7	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：橙(5YR6/6) 2：黄褐(10YR5/3)	密	直径0.5mm以下の長石・金雲母	1：LR	良好	
572	82	40	2	22P	Ⅲ	K－7	胴部	1：ナデ 2：貝殻条痕	1：褐(7.5YR4/3) 2：にぶい黄褐(10YR5/3)	普通	直径1.5mm以下の石英・長石・金雲母	1：LR	良好	外面炭化物付着

第18表　土器観察表（12）

番号	挿図No.	写真図版	地区	遺構 グリッド	層位	分類	部位	成形・調整 1表・2裏	色調（1外面・2内面）	胎土の疎・密	含有物	縄文の撚り 1表・2裏	焼成	備考
573	82	40	3	30E	Ⅲ	K－7	口縁部	1：ナデ 2：条痕	1：褐灰(7.5YR4/1) 2：にぶい橙(7.5YR6/4)	普通	直径1.5mm前後の石英・長石・角閃石・金雲母		良好	
574	82	41	3	30D	Ⅲ	K－7	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：褐灰(10YR4/1) 2：褐灰(10YR4/1)	普通	直径1mm以下の石英・長石・金雲母		良好	
575	82	41	3	28C	Ⅲ	K－7	口縁部	1：条痕 2：条痕	1：明赤褐(5YR5/6) 2：明褐(7.5YR5/6)	普通	直径0.2～2mmの長石・角閃石・金雲母		良好	
576	82	40	3	20P	Ⅲ	K－7	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい黄褐(10YR4/3) 2：黄褐(10YR5/6)	普通	直径0.2～0.5mmの石英・長石・金雲母	1：LR	良好	外面炭化物付着
577	82	41	2	21P	Ⅲ	K－7	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：褐灰(10YR4/1) 2：黒(10YR2/1)	普通	直径1mm以下の長石・金雲母	1：LR	良好	
578	82	41	2	22P	Ⅲ	K－7	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい橙(7.5YR7/3) 2：灰白(10YR8/2)	普通	直径0.2～3mmの長石・角閃石・チャート・金雲母		やや甘い	
579	82	41	3	37F	Ⅲ	K－7	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい橙(7.5YR6/4) 2：にぶい赤褐(5YR5/4)	普通	直径2mm以下の石英・長石・角閃石		良好	
580	82	41	2	20G	Ⅱc	K－7	口縁部付近	2：ナデ	1：褐灰(10YR4/1) 2：にぶい黄橙(10YR6/3)	普通	直径2mm以下の石英・長石・角閃石・金雲母		良好	
581	82	41	2	20P	Ⅲ	K－7	口縁部	1：ナデ 2：指ナデ	1：黒褐(7.5YR3/2) 2：褐(7.5YR4/3)	密	直径1mm以下の石英・長石・白雲母	1：R (無節)	良好	
582	82	41	2	22P	Ⅲ	K－7	口縁部		1：暗褐(7.5YR3/3) 2：褐(7.5YR4/3)	普通	直径1mm前後の長石・金雲母		良好	内外炭化物付着
583	82	41	3	30C	Ⅲ	K－7	口縁部		1：明黄褐(10YR6/6) 2：にぶい黄橙(10YR7/4)	普通	直径2mm以下の石英・長石・角閃石・金雲母	1：LR	良好	
584	82	41	2	17K	Ⅲ	K－7	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：明赤褐(5YR5/8) 2：黒褐(5YR2/1)	普通	直径0.2～1mmの石英・長石・角閃石・金雲母		やや甘い	
585	82	41	2	22P	Ⅲ	K－7	口縁部	1：ナデ 2：貝殻条痕	1：灰黄褐(10YR5/2) 2：にぶい黄褐(10YR5/3)	普通	直径2mm以下の石英・金雲母		良好	外面炭化物付着
586	83	41	3	29F	Ⅲ	K－7	口縁部	1：ナデ 2：貝殻条痕	1：にぶい褐(7.5YR5/4) 2：黒褐(7.5YR3/1)	普通	直径1.5mm以下の石英・長石・金雲母		良好	
587	83	41	2	18K	Ⅳ	K－7	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：灰黄褐(10YR4/2) 2：にぶい褐(7.5YR5/4)	普通	直径3mm以下の石英・金雲母		良好	外面炭化物付着
588	83	41	2	22P	Ⅲ	K－7	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：黒褐(7.5YR3/1) 2：暗褐(7.5YR3/4)	普通	直径1mm前後の石英・長石・金雲母		良好	内外炭化物付着
589	83	41	3	29G	Ⅱc	K－7	口縁部	2：ナデ	1：灰褐(7.5YR6/2) 2：にぶい黄橙(10YR7/2)	普通	直径0.1～2mmの石英・長石・金雲母・黒雲母		良好	
590	83	41	3	27J	Ⅲ	K－7	口縁部		1：暗褐(7.5YR3/3) 2：黒褐(7.5YR3/1)	普通	直径3mm以下の長石・金雲母		良好	外面炭化物付着
591	83	41	2	22Q	Ⅱd	K－7	口縁部		1：褐(7.5YR4/6) 2：褐(7.5YR4/4)	普通	直径0.2～1mmの石英・長石・角閃石・金雲母		良好	
592	83	41	2	22Q	Ⅲ	K－7	口縁部	1：ナデ 2：ナデ・指頭痕	1：黒褐(7.5YR3/2) 2：明褐(7.5YR5/6)	普通	直径0.2～2mmの石英・長石・金雲母		良好	外面炭化物付着
593	83	42	2	18O	Ⅱc	K－7	口縁部	2：ナデ	1：にぶい黄褐(10YR4/3) 2：にぶい黄褐(10YR5/4)	普通	直径2mm以下の石英・長石・角閃石・金雲母		良好	外面炭化物付着
594	83	42	2	22P	Ⅲ	K－7	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい褐(7.5YR5/4) 2：にぶい褐(7.5YR5/4)	普通	直径2mm以下の長石・角閃石・金雲母		良好	
595	83	42	3	31H	Ⅲ	K－7	口縁部	2：ナデ	1：にぶい黄橙(10YR7/4) 2：黒褐(10YR3/2)	普通	直径0.2～1.5mmの長石・角閃石・黒雲母		良好	外面炭化物付着
596	83	42	2	22P	Ⅲ	K－7	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：黒褐(10YR2/2) 2：黒褐(10YR2/2)	普通	直径2mm以下の長石・金雲母		良好	外面炭化物付着
597	83	42	2	21P	Ⅲ	K－7	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい褐(7.5YR5/4) 2：にぶい黄褐(10YR5/4)	普通	直径0.2～1.5mmの石英・長石・金雲母・黒雲母		良好	外面炭化物付着
598	83	42	2	20P	Ⅱc	K－7	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：黒褐(7.5YR3/2) 2：黒褐(7.5YR3/2)	普通	直径1.5mm以下の石英・長石・金雲母		良好	
599	83	42	2	18E	Ⅲ	K－7	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：橙(7.5YR6/6) 2：にぶい褐(10YR5/4)	密	直径1mm以下の石英・長石・金雲母		良好	
600	83	42	2	18E	Ⅲ	K－7	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：灰黄褐(10YR4/2) 2：暗褐(10YR3/3)	密	直径0.5mm以下の石英・長石・金雲母		良好	
601	83	42	2	20P	Ⅱc	K－7	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい橙(5YR7/4) 2：灰褐(7.5YR5/2)	普通	直径1.5mm以下の石英・長石・角閃石・金雲母		良好	
602	83	42	3	29E	Ⅱb	K－7	胴部	1：ナデ 2：条痕	1：黒褐(10YR2/2) 2：灰黄褐(10YR4/2)	普通	直径0.5～3mmの石英・長石		良好	外面炭化物付着
603	83	42	3	27B	Ⅲ	K－7	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい黄橙(10YR7/4) 2：にぶい黄橙(10YR7/4)	普通	直径2mm以下の石英・長石・角閃石・金雲母		良好	
604	83	42	3	26F	Ⅲ	K－7	口縁付近	2：指ナデ	1：にぶい黄橙(10YR6/3) 2：にぶい黄橙(10YR6/3)	普通	直径2mm以下の石英・長石・角閃石		良好	
605	83	42	3	27M	Ⅲ	K－7	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい橙(7.5YR6/4) 2：にぶい赤褐(5YR5/4)	普通	直径1mm以下の石英・長石・角閃石・金雲母		良好	
606	83	42	2	22Q	Ⅲ	K－7	口縁付近	2：ナデ	1：黄褐(10YR5/6) 2：にぶい黄橙(10YR6/4)	普通	直径2mm以下の石英・長石・金雲母・黒雲母		良好	
607	83	42	3	29C	Ⅲ	K－7	口縁部	2：指ナデ・撫痕	1：橙(7.5YR6/6) 2：橙(7.5YR6/6)	普通	直径0.2～1mmの長石・金雲母		良好	
608	83	42	2	22Q	Ⅲ	K－7	口縁付近	2：ナデ	1：にぶい黄橙(10YR6/4) 2：褐灰(10YR6/1)	普通	直径2mm以下の石英・長石・黒雲母		良好	
609	83	42	3	26F	Ⅲ	K－7	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい褐(7.5YR5/4) 2：黒褐(10YR3/2)	密	直径0.5mm以下の石英・長石・金雲母	1：RL	良好	
610	83	42	2	20Q	Ⅲ	K－7	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい褐(7.5YR5/4) 2：にぶい黄褐(10YR4/3)	普通	直径0.2～1mmの石英・長石・チャート・金雲母		やや甘い	
611	83	42	2	20P	Ⅱd	K－7	口縁付近	1：ナデ 2：ナデ	1：黒褐(10YR3/2) 2：にぶい黄橙(10YR6/4)	密	直径1mm以下の石英・長石・金雲母		良好	内外炭化物付着
612	83	42	2	21P	Ⅲ	K－7	胴部	1：ナデ 2：条痕	1：明褐(7.5YR5/6) 2：にぶい黄橙(10YR6/3)	普通	直径1mm以下の石英・長石・角閃石		良好	
613	83	42	2	21P	Ⅲ	K－7	胴部	2：条痕	1：にぶい黄橙(10YR7/4) 2：にぶい黄橙(10YR7/3)	普通	直径1mm以下の石英・長石・角閃石・金雲母		良好	外面炭化物付着
614	83	42	2	20P	Ⅱc	K－7	胴部		1：にぶい褐(7.5YR5/4) 2：にぶい黄褐(10YR4/3)	普通	直径0.2～1.5mmの石英・長石・金雲母		良好	
615	83	42	2	17J	Ⅲ	K－7	口縁付近	1：ナデ 2：指ナデ	1：黒褐(10YR3/1) 2：にぶい赤褐(5YR4/4)	普通	直径1mm以下の石英・長石・金雲母		良好	
616	83	42	2	20M	Ⅲ	K－7	口縁付近	1：ナデ 2：指ナデ	1：灰褐(7.5YR4/2) 2：橙(5YR6/6)	粗	直径1mm前後の石英・長石・金雲母		良好	外面炭化物付着
617	84	43	3	28E	Ⅱc	K－8	口縁部	2：ナデ	1：にぶい黄褐(10YR5/3) 2：にぶい褐(7.5YR5/3)	普通	直径1mm以下の石英・長石・角閃石	1：RL	良好	
618	84	43	3	29G	Ⅲ	K－8	胴部	2：ナデ	1：灰(5Y6/1) 2：灰黄(2.5Y7/2)	普通	直径2mm以下の石英・長石・角閃石・金雲母	1：LR	良好	
619	84	43	3	30E	Ⅲ	K－8	口縁部	1：ナデ	1：にぶい黄橙(10YR6/3) 2：にぶい黄橙(10YR7/4)	普通	直径2mm以下の石英・長石・角閃石		良好	
620	84	43	2	22O	Ⅲ	K－8	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：明褐(7.5YR5/6) 2：褐(10YR4/6)	密	直径0.2～2mmの石英・長石・金雲母		良好	
621	84	43	3	29F	Ⅱc	K－8	口縁部	2：ナデ	1：赤褐(5YR4/6) 2：褐(7.5YR4/4)	普通	直径1mm以下の石英・金雲母・白雲母・黒雲母		良好	
622	84	43	2	22O	Ⅲ	K－8	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい黄褐(10YR5/3) 2：黒褐(10YR3/2)	普通	直径0.2～1.5mmの石英・長石・金雲母		良好	
623	84	43	3	28O	Ⅲ	K－8	胴部	2：ナデ	1：明赤褐(5YR5/6) 2：明赤褐(5YR5/6)	普通	直径3mm以下の石英・長石・チャート・金雲母		良好	
624	84	43	2	19O	Ⅱd	K－8	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい褐(7.5YR5/4) 2：にぶい黄褐(10YR5/3)	普通	直径1～2mmの石英・長石・角閃石・金雲母		良好	

第19表　土器観察表（13）

番号	挿図No.	写真図版	地区	遺構グリッド	層位	分類	部位	成形・調整 1表・2裏	色調（1外面・2内面）	胎土の疎・密	含有物	縄文の撚り 1表・2裏	焼成	備考
625	84	43	3	26E	Ⅲ	K－8	胴部	2：ナデ	1：にぶい褐(7.5YR5/4) 2：にぶい褐(7.5YR5/4)	普通	直径2mm以下の長石・金雲母		良好	外面炭化物付着
626	84	43	2	20M	Ⅲ	K－8	口縁部	2：ナデ	1：赤褐(5YR4/4) 2：明赤褐(5YR5/6)	普通	直径3mm以下の石英・長石・金雲母		良好	外面炭化物付着
627	84	43	2	26a	Ⅱc	K－8	口縁部	2：ナデ	1：灰褐(7.5YR4/2) 2：にぶい橙(7.5YR6/4)	普通	直径2mm以下の石英・長石・金雲母		良好	
628	84	43	3	27E	Ⅰ	K－8	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：橙(7.5YR7/6) 2：にぶい橙(7.5YR7/4)	普通	直径2mm以下の石英・長石・黒雲母		良好	
629	84	43	3	29E	Ⅲ	K－8	胴部	2：ナデ	1：にぶい黄褐(10YR5/3) 2：にぶい褐(7.5YR5/4)	普通	直径0.2～2mmの石英・長石・角閃石・金雲母		良好	
630	84	43	2	18L	Ⅲ	K－8	口縁部	2：ナデ	1：赤褐(2.5YR6/4) 2：暗赤褐(5YR3/4)	普通	直径0.2～2mmの長石・角閃石・金雲母		良好	
631	84	43	3	28F	Ⅲ	K－8	口縁部	1：ナデ 2：指ナデ	1：褐(7.5YR4/6) 2：にぶい黄橙(10YR6/4)	密	直径0.1～1mmの石英・長石・金雲母		良好	外面炭化物付着
632	84	43	3	28F	Ⅱc	K－8	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：黒褐(10YR3/1) 2：明黄褐(10YR6/6)	普通	直径0.1～3mmの石英・長石・チャート・金雲母		やや甘い	
633	84	43	3	26F	Ⅲ	K－8	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：黒(7.5YR2/1) 2：黒褐(7.5YR3/1)	密	直径0.5～1mmの長石・角閃石・金雲母		良好	
634	84	43	3	29F	Ⅲ	K－8	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：明赤褐(5YR5/6) 2：にぶい赤褐(5YR4/3)	普通	直径0.1～0.3mmの石英・長石・角閃石・金雲母		良好	
635	84	43	3	29F	Ⅲ	K－8	口縁部	1：条痕 2：ナデ・指頭	1：赤褐(5YR4/8) 2：にぶい黄橙(10YR6/4)	普通	直径2mm以下の石英・長石・金雲母		良好	
636	84	43	3	29G	Ⅲ	K－8	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：黒褐(10YR3/2) 2：にぶい黄褐(10YR4/3)	普通	直径0.3～0.5mmの長石・角閃石・金雲母		良好	
637	84	43	2	19I	Ⅳ	K－8	口縁部	2：ナデ	1：橙(5YR6/6) 2：明赤褐(5YR5/6)	普通	直径1.5mm以下の石英・長石・金雲母		良好	外面炭化物付着
638	84	43	2	17I	Ⅲ	K－8	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：褐(7.5YR4/3) 2：褐(7.5YR4/6)	普通	直径0.5～1.5mmの石英・長石・角閃石・金雲母		良好	外面炭化物付着
639	84	43	3	28N	Ⅱc	K－8	口縁部	2：ナデ	1：灰褐(7.5YR4/2) 2：灰褐(7.5YR4/2)	普通	直径1mm以下の石英・長石・角閃石・チャート・金雲母		良好	
640	84	43	3	29G	Ⅲ	K－8	口縁部	1：貝殻条痕 2：貝殻条痕	1：暗褐(10YR3/3) 2：暗褐(10YR3/3)	普通	直径0.5mm前後の長石・角閃石・金雲母		良好	
641	84	43	3	30O	Ⅱc	K－8	口縁部	2：ナデ	1：灰褐(7.5YR4/2) 2：にぶい褐(7.5YR5/3)	普通	直径3mm以下の石英・長石・金雲母		良好	外面炭化物付着
642	84	43	2	20L	Ⅳ	K－8	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：明赤褐(5YR5/8) 2：赤褐(5YR4/6)	普通	直径0.5～2mmの石英・長石・角閃石・金雲母		やや甘い	
643	84	45	2	22P	Ⅲ	K－8	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：黒褐(5YR2/1) 2：赤褐(5YR4/6)	粗	直径1mm前後の石英・長石・金雲母		良好	外面炭化物付着
644	85	43	3	31E	Ⅲ	K－8	口縁部	2：ナデ	1：にぶい黄橙(10YR6/4) 2：にぶい黄橙(10YR5/3)	普通	直径0.2～2mmの石英・角閃石・金雲母・白雲母		良好	
645	85	43	2	22P	Ⅱd	K－8	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：赤褐(5YR4/6) 2：赤褐(5YR4/6)	普通	直径0.2～2mmの長石・角閃石・金雲母・黒雲母		良好	
646	85	43	3	30F	Ⅲ	K－8	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：明赤褐(5YR5/6) 2：にぶい黄橙(10YR7/3)	普通	直径3mm以下の石英・長石・角閃石・金雲母・白雲母		良好	外面炭化物付着
647	85	44	2	20F	Ⅲ	K－8	口縁部		1：にぶい赤褐(5YR4/4) 2：橙(7.5YR6/6)	普通	直径3mm以下の長石・角閃石・金雲母		良好	外面炭化物付着
648	85	43	3	31E	Ⅲ	K－8	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：黒褐(10YR3/2) 2：灰黄褐(10YR4/2)	普通	直径0.5～3mmの石英・長石・金雲母		良好	外面炭化物付着
649	85	44	3	32H	Ⅰ	K－8	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：灰褐(7.5YR4/2) 2：にぶい橙(7.5YR7/4)	普通	直径2mm以下の石英・長石・金雲母		良好	
650	85	44	3	31E	Ⅰ	K－8	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：明褐(7.5YR5/6) 2：橙(7.5YR7/6)	普通	直径4mm以下の長石・角閃石・金雲母・白雲母		良好	外面炭化物付着
651	85	44	2	20F	Ⅲ	K－8	口縁部	1：ナデ 2：貝殻条痕	1：暗褐(7.5YR3/3) 2：黒褐(5YR3/1)	普通	直径1mm以下の石英・長石・金雲母		良好	
652	85	44	3	30E	Ⅱc	K－8	胴部	2：ナデ	1：灰黄褐(10YR4/2) 2：褐灰(10YR4/1)	普通	直径1mm以下の石英・長石・角閃石・金雲母		良好	
653	85	44	3	27J	Ⅲ	K－8	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい黄褐(10YR4/3) 2：にぶい黄褐(10YR5/4)	普通	直径0.2～3mmの長石・角閃石・チャート・金雲母・黒雲母		良好	外面炭化物付着
654	85	44	3	30P	Ⅲ	K－8	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：黒褐(5YR2/1) 2：暗赤褐(5YR3/3)	密	直径0.5～1.5mmの石英・長石・角閃石・金雲母		良好	
655	85	44	2	22P	Ⅱd	K－8	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：褐(10YR4/6) 2：黄褐(10YR5/8)	普通	直径3mm以下の石英・長石・チャート・金雲母		良好	外面炭化物付着
656	85	44	3	27G	Ⅲ	K－8	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい橙(7.5YR6/4) 2：にぶい橙(7.5YR7/4)	普通	直径1～2mmの石英・長石・金雲母		良好	
657	85	44	2	22P	Ⅲ	K－8	口縁部	1：ナデ 2：条痕	1：褐(7.5YR4/4) 2：赤褐(2.5YR4/6)	普通	直径2mm以下の長石・角閃石・金雲母		良好	
658	86	45	2	22Q	Ⅲ	K－8	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：赤褐(5YR4/6) 2：褐灰(5YR4/1)	密	直径0.5～4mmの石英・長石・角閃石・金雲母		良好	
659	86	45	3	30H	Ⅲ	K－8	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい褐(7.5YR5/3) 2：暗褐(10YR3/3)	密	直径1mm以下の長石・角閃石・チャート		良好	
660	86	45	2	17K	Ⅲ	K－8	口縁部	2：ナデ	1：橙(7.5YR5/6) 2：黒褐(7.5YR3/2)	普通	直径1mm以下の石英・長石・角閃石・金雲母		良好	外面炭化物付着
661	86	45	2	18P	Ⅲ	K－8	胴部	2：条痕	1：黒褐(10YR3/2) 2：にぶい褐(7.5YR5/4)	普通	直径3mm以下の石英・長石・角閃石・金雲母		良好	外面炭化物付着
662	86	46	3	32F	Ⅲ	K－8	口縁部	2：ナデ	1：にぶい褐(7.5YR5/4) 2：にぶい黄橙(10YR7/4)	普通	直径3mm以下の石英・長石・金雲母・黒雲母		良好	
663	86	46	3	30F	Ⅲ	K－8	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい褐(7.5YR5/4) 2：明黄褐(10YR6/6)	普通	直径0.5～1mmの石英・長石・角閃石・金雲母		良好	内面炭化物付着
664	86	46	3	30E	Ⅲ	K－8	口縁部		1：にぶい黄橙(10YR6/4) 2：にぶい黄橙(10YR7/4)	普通	直径3mm以下の石英・長石・角閃石		良好	
665	86	46	2	18G	Ⅲ	K－8	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：黒褐(7.5YR3/2) 2：暗褐(10YR3/3)	普通	直径0.5mm以下の石英・長石・金雲母		良好	
666	86	46	2	20J	Ⅳ	K－8	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：灰褐(7.5YR4/2) 2：橙(7.5YR7/6)	普通	直径1.2～2.5mmの石英・長石・チャート・金雲母		良好	
667	86	46	3	30F	Ⅱc	K－8	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：明黄褐(10YR6/6) 2：褐灰(10YR4/1)	粗	直径0.2～3mmの石英・長石・角閃石・金雲母・白雲母・黒雲母		やや甘い	
668	86	46	3	30C	Ⅲ	K－8	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい黄褐(10YR5/4) 2：褐灰(10YR4/1)	普通	直径2mm以下の長石・角閃石・金雲母・黒雲母		良好	
669	86	46	3	30H	Ⅱc	K－8	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：灰褐(7.5YR5/2) 2：にぶい褐(7.5YR5/3)	普通	直径1.1mm前後の石英・長石・角閃石・チャート・金雲母		良好	内面炭化物付着
670	86	46	3	29G	Ⅲ	K－8	口縁部	2：条痕	1：暗褐(7.5YR3/3) 2：にぶい褐(7.5YR5/4)	普通	直径3mm以下の石英・長石・黒雲母		良好	
671	86	46	2	22O	Ⅲ	K－8	口縁付近	2：ナデ	1：褐灰(10YR4/1) 2：にぶい黄橙(10YR7/3)	普通	直径1mm以下の石英・長石・角閃石		良好	
672	86	46	3	31E	Ⅲ	K－8	胴部		1：にぶい黄橙(10YR6/4) 2：橙(7.5YR6/6)	普通	直径3mm以下の石英・長石・角閃石・金雲母		良好	外面炭化物付着
673	86	46	3	30F	Ⅲ	K－8	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい橙(7.5YR7/3) 2：浅黄橙(10YR8/3)	普通	直径2mm以下の石英・長石・角閃石・金雲母		良好	外面炭化物付着
674	86	46	3	29F	Ⅱc	K－8	胴部	2：条痕	1：にぶい赤褐(5YR4/4) 2：赤褐(2.5YR4/8)	普通	直径2mm以下の長石・金雲母		良好	外面炭化物付着
675	86	46	3	29G	Ⅲ	K－8	口縁部	2：ナデ	1：にぶい褐(7.5YR5/4) 2：にぶい黄橙(10YR6/4)	普通	直径2mm以下の石英・長石・金雲母		良好	
676	86	46	3	20J	Ⅱd	K－8	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：暗赤褐(5YR3/4) 2：赤褐(5YR4/6)	粗	直径1mm前後の石英・長石・金雲母		良好	

第20表　土器観察表（14）

番号	挿図No.	写真図版	地区	遺構グリッド	層位	分類	部位	成形・調整 1表・2裏	色調（1外面・2内面）	胎土の質・密	含有物	縄文の撚り 1表・2裏	焼成	備考
677	86	46	3	30H	Ⅲ	K－8	胴部	2：ナデ	1：にぶい赤褐(5YR4/3) 2：橙(7.5YR6/6)	普通	直径1.2～2mmの石英・長石・チャート・金雲母		良好	外面炭化物付着
678	86	46	2	18K	Ⅲ	K－8	口縁部		1：浅黄(2.5YR7/3) 2：灰黄褐(10YR4/2)	普通	直径2mm以下の角閃石・金雲母		良好	内面炭化物付着
679	86	46	2	17J	Ⅲ	K－8	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：暗赤褐(5YR3/4) 2：暗赤褐(2.5YR3/4)	密	直径2mm以下の石英・長石・金雲母		良好	
680	86	46	3	30F	Ⅲ	K－8	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：明褐(7.5YR5/6) 2：明赤褐(5YR5/6)	普通	直径1.5mm以下の石英・長石・金雲母		良好	
681	87	46	2	20L	Ⅲ	K－8	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：褐(7.5YR4/3) 2：にぶい赤褐(5YR4/4)	普通	直径1mm～2mmの石英・長石・角閃石・金雲母		良好	外面炭化物付着
682	87	47	3	30H	Ⅲ	K－8	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：明赤褐(5YR6/5) 2：にぶい赤褐(5YR4/4)	普通	直径0.5～3mmの石英・長石・角閃石・金雲母		やや甘い	
683	87	46	2	21M	Ⅲ	K－8	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：黒褐(7.5YR3/2) 2：明赤褐(2.5YR5/8)	普通	直径0.1～3mmの石英・長石・角閃石・金雲母		良好	外面炭化物付着
684	87	47	3	31H	Ⅲ	K－8	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：褐(7.5YR4/3) 2：明褐(7.5YR5/6)	普通	直径1mm以下の石英・長石・角閃石・黒雲母		良好	
685	87	47	2	20K	Ⅱc	K－8	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：褐(7.5YR4/4) 2：にぶい赤褐(5YR4/4)	密	直径1mm以下の石英・長石・金雲母		良好	外面炭化物付着
686	87	47	3	30H	Ⅱc	K－8	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：褐(7.5YR4/3) 2：褐(7.5YR4/3)	普通	直径1mm以下の石英・長石・角閃石・金雲母・白雲母・黒雲母		良好	
687	87	47	3	31E	Ⅲ	K－8	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：橙(5YR6/6) 2：明赤褐(5YR5/6)	普通	直径0.3～3mmの石英・長石・金雲母		やや甘い	
688	87	47	3	30E	Ⅲ	K－8	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい橙(7.5YR6/4) 2：にぶい赤褐(5YR5/4)	普通	直径0.1～2mmの石英・長石・金雲母		良好	
689	87	47	3	29G	Ⅲ	K－8	口縁部	1：ナデ 2：条痕	1：にぶい褐(7.5YR5/4) 2：にぶい黄褐(10YR5/3)	普通	直径2mm以下の石英・長石・チャート・金雲母		良好	外面炭化物付着
690	87	47	3	30H	Ⅱc	K－8	口縁部	1：ナデ 2：指ナデ	1：明赤褐(2.5YR5/6) 2：暗赤褐(2.5YR3/4)	普通	直径3mm以下の石英・長石・金雲母		良好	
691	87	47	3	27C	Ⅱc	K－8	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：褐(7.5YR4/3) 2：にぶい褐(7.5YR5/4)	普通	直径2mm以下の石英・長石・金雲母		良好	外面炭化物付着
692	87	47	3	29E	Ⅲ	K－8	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい黄橙(10YR6/4) 2：にぶい橙(7.5YR7/4)	普通	直径1mm前後の石英・長石・金雲母		良好	
693	87	47	3	30E	Ⅲ	K－8	口縁部	1：条痕 2：条痕	1：にぶい黄橙(10YR6/3) 2：にぶい黄褐(10YR5/3)	普通	直径3mm以下の石英・長石・角閃石・金雲母		良好	
694	87	47	3	29F	Ⅱc	K－8	口縁部	1：ナデ 2：ナデ・ケズリ	1：橙(5YR6/6 2：橙(5YR6/6)	普通	直径1.5mm以下の石英・長石		良好	
695	87	47	5	25a	Ⅲ	B	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい褐(7.5YR5/3) 2：にぶい褐(7.5YR5/4)	普通	直径1mm以下の石英・長石・金雲母		良好	
696	87	47	2	20G	Ⅳ	B	胴部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい橙(7.5YR6/4) 2：にぶい黄橙(10YR6/4)	普通	直径3mm以下の石英・長石・金雲母		良好	
697	87	47	2	19E	Ⅱc	B	口縁部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい黄橙(10YR4/3) 2：にぶい黄橙(10YR4/3)	普通	直径2mm以下の石英・長石・金雲母		良好	
698	88	48	5	28f	Ⅲ		底部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい黄橙(10YR7/4) 2：浅い黄橙(10YR8/3)	普通	直径2mm以下の石英・長石・角閃石・金雲母		やや甘い	底部網代痕
699	88	48	5	25f	Ⅲ		底部	1：ナデ 2：ナデ	1：橙(7.5YR7/6) 2：橙(7.5YR7/6)	普通	直径2mm以下の石英・長石・角閃石・金雲母		やや甘い	底部網代痕
700	88	48	5	31c	Ⅲ		底部	1：ナデ 2：ナデ	1：橙(2.5YR6/8) 2：橙(2.5YR6/8)	普通	直径2mm以下の長石・角閃石・チャート・金雲母		良好	底部網代痕
701	88	48	2	22P	Ⅲ		底部	1：ナデ 指頭痕 2：ナデ	1：にぶい橙(7.5YR6/4) 2：にぶい橙(7.5YR6/4)	普通	直径0.5～3mmの石英・長石・黒雲母		良好	
702	88	48	2	19M	Ⅲ		底部	1：ナデ 2：ナデ・指頭痕	1：褐(10YR4/4) 2：黒(2.5Y2/1)	普通	直径0.5～1mmの長石・金雲母		良好	
703	88	48	2	21P	Ⅲ		底部	1：ナデ 2：ナデ	1：橙(7.5YR6/6) 2：にぶい黄橙(10YR7/4)	普通	直径1mm前後の石英・長石・金雲母・黒雲母		良好	
704	88	48	2	20I	Ⅲ		底部	1：ナデ 2：ナデ・指頭痕	1：褐(7.5YR4/3) 2：にぶい褐(7.5YR6/3)	普通	直径0.5～1.5mmの石英・長石・金雲母		良好	
705	88	48	2	22P	Ⅲ		底部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい褐(7.5YR6/3) 2：にぶい黄橙(10YR6/3)	普通	直径0.5～1.5mmの石英・長石・金雲母		良好	
706	88	48	3	29F	Ⅱc		底部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい橙(5YR6/4) 2：にぶい黄橙(10YR6/4)	普通	直径0.5～2mmの石英・長石・金雲母		良好	
707	88	49	2	17F	Ⅲ	注口	注口部	1：ナデ 2：ナデ	1：明赤褐(2.5YR5/6) 2：明赤褐(5YR5/6)	普通	直径0.5～1mm前後の石英・長石・金雲母		良好	
708	88	49	2	17L	Ⅲ	注口	注口部	1：ナデ 2：ナデ	1：褐(7.5YR4/4) 2：にぶい黄橙(10YR4/3)	普通	直径0.2～2mmの石英・長石・金雲母・白雲母		良好	外面炭化物付着
709	88	49	2	20D	Ⅲ	注口	注口部	1：ナデ 2：ナデ	1：明黄褐(10YR6/6) 2：明黄褐(10YR6/8)	密	直径0.1～2.5mmの石英・長石・角閃石・金雲母		良好	
710	88	49	2	17F	Ⅳ	注口	注口部	1：ナデ 2：ナデ	1：にぶい黄橙(10YR6/4) 2：浅い黄橙(10YR8/4)	密	直径0.1～0.5mmの石英・長石・チャート・金雲母		やや甘い	
711	88	49	2	17L	Ⅱb	注口	注口部	1：ナデ 2：ナデ	1：灰褐(7.5YR4/2) 2：灰褐(7.5YR4/2)	普通	直径2mm以下の長石・金雲母		良好	
712	88	49	2	18K	Ⅳ	土偶	頭部	1：ナデ 2：ナデ	1：明赤褐(2.5YR5/6) 2：明赤褐(2.5YR5/6)	普通	直径0.5～1mm前後の石英・長石・金雲母		良好	
713	88	49	2	19Q	Ⅲ	土偶	肩・腕部	1：ナデ 2：ナデ	1：橙(7.5YR7/6) 2：橙(5YR6/6)	普通	直径0.5～1mm前後の石英・長石・金雲母		良好	
714	88	49	2	22P	Ⅲ	鉢		1：ナデ 2：ナデ	1：褐(10YR4/4) 2：にぶい黄橙(10YR6/3)	普通	直径2mm以下の長石・金雲母・白雲母・黒雲母		良好	外面炭化物付着
715	88	49	3	30F	Ⅲ	鉢		1：ナデ 2：ナデ・指頭痕	1：赤褐(5YR4/6) 2：明赤褐(5YR5/6)	普通	直径0.5～1.5mm前後の石英・長石・金雲母		良好	内外面炭化物付着
939	128		2	18M	Ⅲ	K－6	胴部	2：ナデ	1：にぶい黄橙(10YR6/4) 2：にぶい黄褐(10YR5/3)	普通	直径2mm以下の石英・長石・金雲母	1：RL	良好	外面赤色顔料付着
940	128		3	31F	Ⅲ	K－5？	胴部		1：にぶい黄橙(10YR6/4) 2：にぶい黄橙(10YR7/4)	普通	直径2mm以下の石英・白雲母・黒雲母	1：LR	良好	外面赤色顔料付着
941	128		2	20E	Ⅲ	K－8？	口縁	1：ナデ 2：ナデ	1：灰褐(7.5YR4/2) 2：灰褐(7.5YR4/2)	普通	直径2mm以下の石英・長石・金雲母	1：LR	良好	外面炭化物付着 内面赤色顔料付着

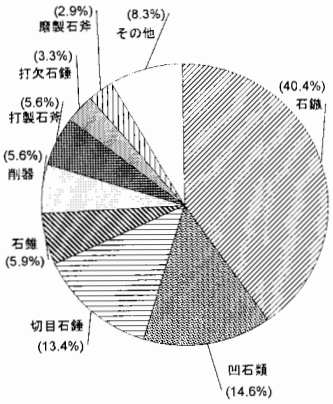
第５章　石　器

第１節　石器の概要

岩井谷遺跡からは合計5,068点の石器、及び剥片・砕片・石核類が出土した。そのうち、遺構内からの出土は230点、包含層からの出土は4,838点であった。その種類と点数は、第21表の通りである。

石器組成グラフは、第89図の通りである。なお、剥片石器のうち、石核、調整剥離を施された剥片（ＲＦ、以下ＲＦとする）、微細な剥離痕を有する剥片（ＵＦ、以下ＵＦとする）、剥片については組成資料から省いた。これを見ると、本遺跡では、石鏃、凹石類、切目石錘の割合が多く、中でも石鏃は375点（40.4％）と製品全体の約４割を占める。

以下、主な遺構から出土した石器について触れた後、各器種の定義や使用用途、分類、出土点数、石材などについて順に報告する。なお、包含層出土石器に示したデータは遺構出土石器の点数も含む。



第89図　石器組成図

第２節　遺構出土石器

１．第２号住居跡　出土石器（第90図716～717　第91図732・733・746　図版50・51）

石鏃２点（716・717）、ＲＦ４点、ＵＦ５点、剥片10点、切目石錘３点（732・733）、凹石類１点（746）の合計25点が出土した。石鏃は、鋭角な先端部を持ち抉入部がないもの（716）、薄手で主要剥離面を中央に残し、基部は凹状のわすがな抉りの入るもの（717）の２点である。切目石錘は、どちらも切目を作出しているが、732は、上下端部が潰れている。746の凹石類は、縦長の亜円礫の側面に磨面を有し、背面は敲打により凹みを形成している。使用により折損したと推測される。

２．第３号住居跡　出土石器（第91図734・735　図版51）

切目石錘２点（734・735）が出土した。どちらも端部に切目を作出しているが、734は上下の端部に潰れ痕を残している。石材は砂岩で、粗雑な作りである。735は、泥岩製で切目は明確である。

３．第５号住居跡　出土石器（第90図718　図版50）

石鏃１点（718）が出土した。石材は下呂石で、薄手の素材剥片全体に連続的な剥離調整を施している。先端部は尖り、側縁部に肩が張った形状を持つ。基部は深い抉りが入る。

４．第７号住居跡　出土石器（第90図720　第91図736　図版50・51）

石鏃１点（720）、切目石錘１点（736）、ＵＦ１点、剥片６点の合計９点が出土した。720は、厚手の素材剥片の全体に粗雑な調整を施す。先端部は折損している。736は、下部は端部を打ち欠いた後、切目を作出しているが、上部は打ち欠かずにほぼ垂直に擦り切ることで切目を作出している。

５．土器集中区４　出土石器（第90図719・727・728　第91図738　図版50・51）

石鏃１点（719）、掻器Ⅰ１点（727）、削器１点（728）、ＲＦ３点、ＵＦ２点、剥片12点、切目石錘１点（738）の合計21点が出土した。719は、厚手の素材剥片の側縁部に粗雑な剥離調整を施している。やや大きめの剥離で細部まで押圧剥離はない。727は、厚手の剥片の両側縁部に粗い剥離調整を施し、急角度の刃部を作出している。また、腹面には主要剥離面を大きく残す。728は、厚手の素材剥片の末端部に、両面から連続した剥離調整を施している。

６．立石遺構１　出土石器（第92図749　図版52）

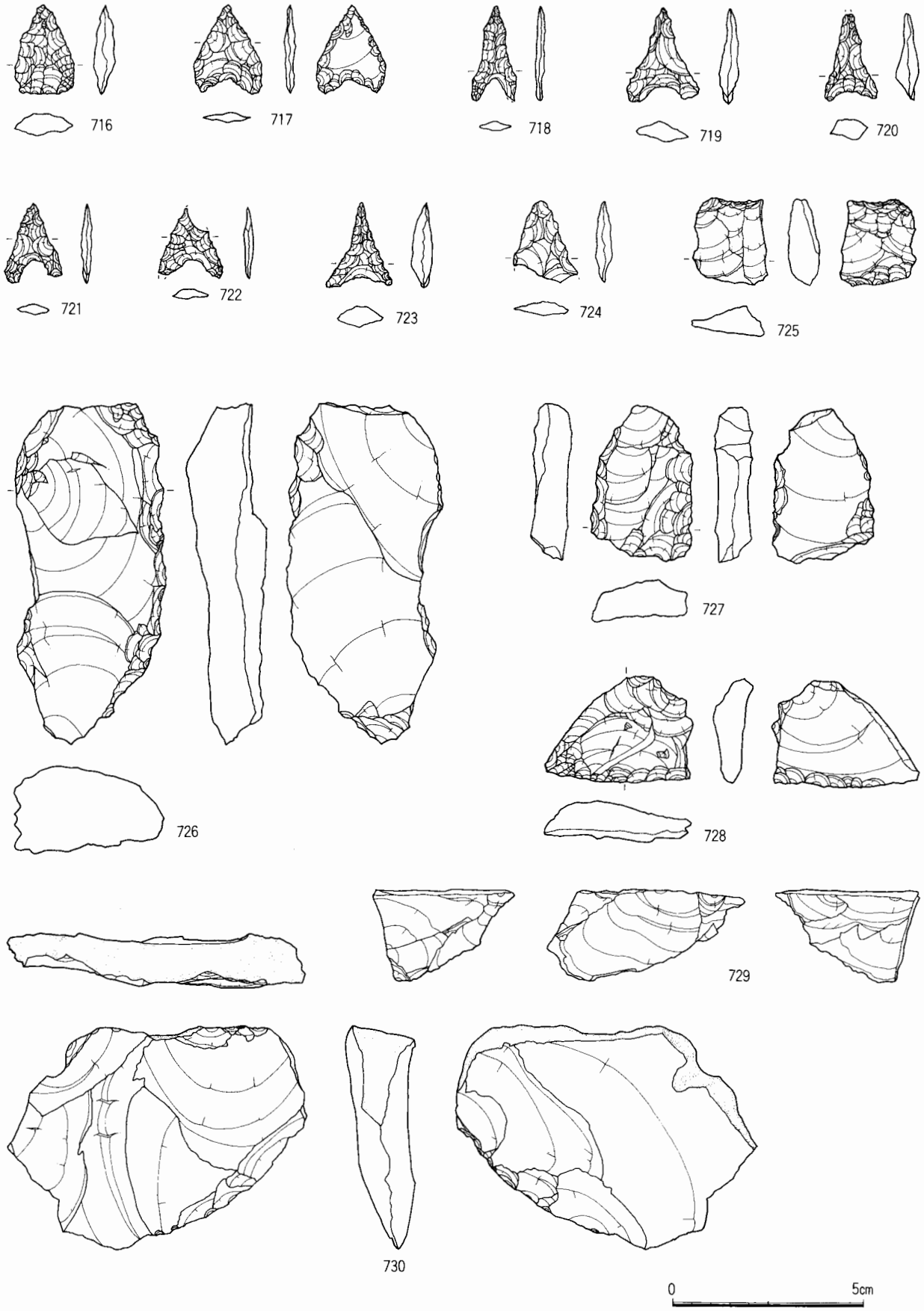
石皿１点（749）が出土した。これは、第３章第７節でも述べたように縦位にほぼ垂直に立てられていた 。石皿は長円形の有縁石皿で縦に二つに割られている。また、上部を磨って形を整えた形跡があるが、その意図は不明である。掃き出し口は右下方にあったと考えられ、皿部は頻繁な使用により擂鉢状の磨面を形成している。また裏面は、地面に置いて安定するように丁寧に形作られている。

７．その他の遺構から出土した石器

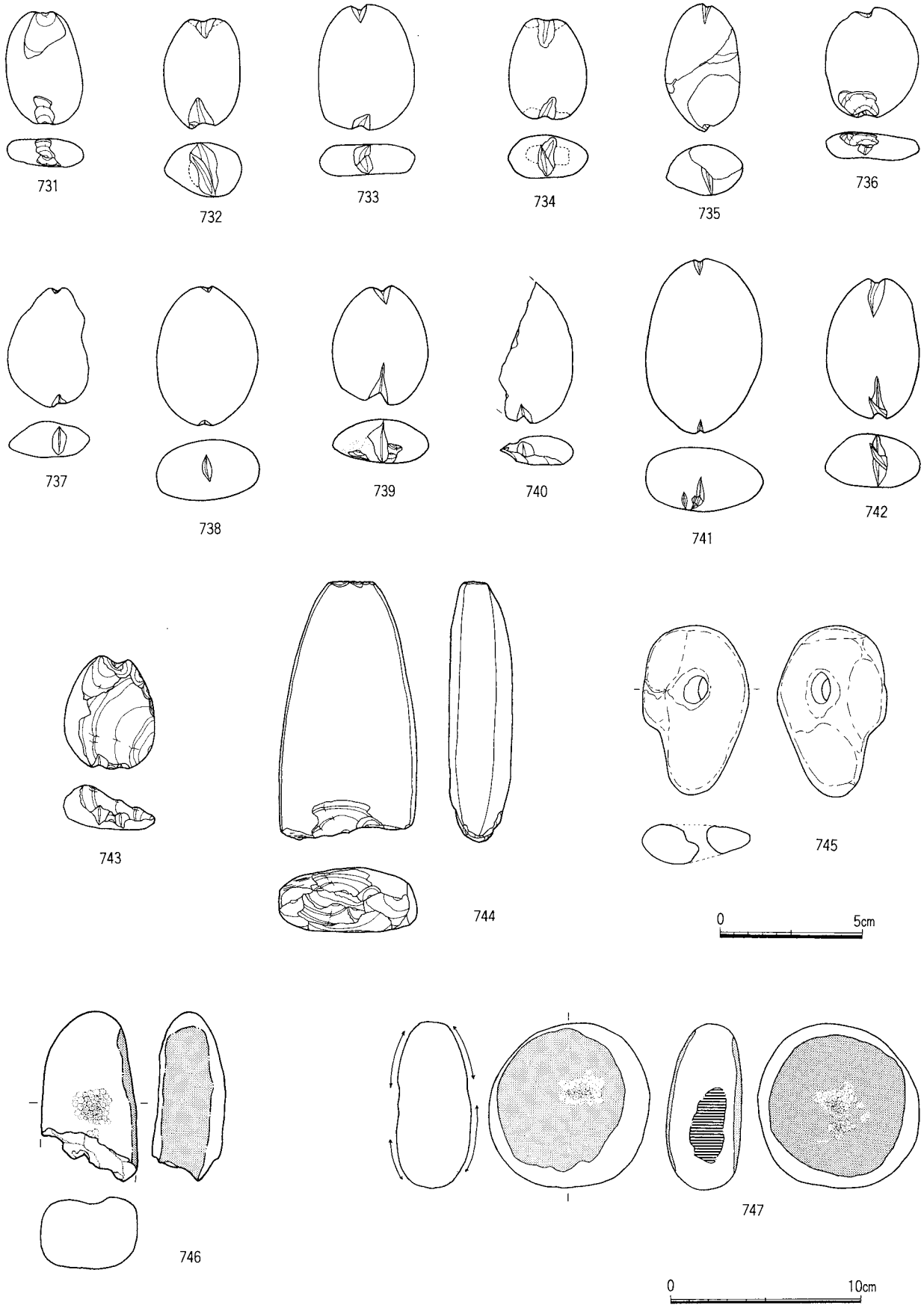
Ｐ39から出土した磨製石斧（744）は、最大幅が刃部に位置し、両側縁が基部に向かって収束するもので、刃部には階段状剥離が見られる。また、基部にも小さな剥離を伴い、磨製石斧を転用し、クサビのように使用されたとも思われる。Ｐ76から出土した垂飾（745）は、中心よりやや左側の方が厚めである。孔付近は粗雑で、自然の凹みを利用し孔をあけたと考えられる。Ｐ117から出土した凹石類（747）は、表裏両面に磨面及びわずかな敲打が見られ、また側面にも一部敲打によって形成された面が見られる。同じくＰ117より出土の掻器Ⅰ（726）は、厚手の素材剥片の側縁部に粗雑な剥離調整を施し、急角度の刃部を作出している。片面からのみ剥離調整し、腹面からの調整はほとんど見られない。Ｐ290から出土した切目石錘（743）は、やや厚めの小礫を大きく打ち欠き、その後上下の端部ともほぼ垂直方向に磨り切り、切目を作出している。

第21表　遺構別石器一覧表

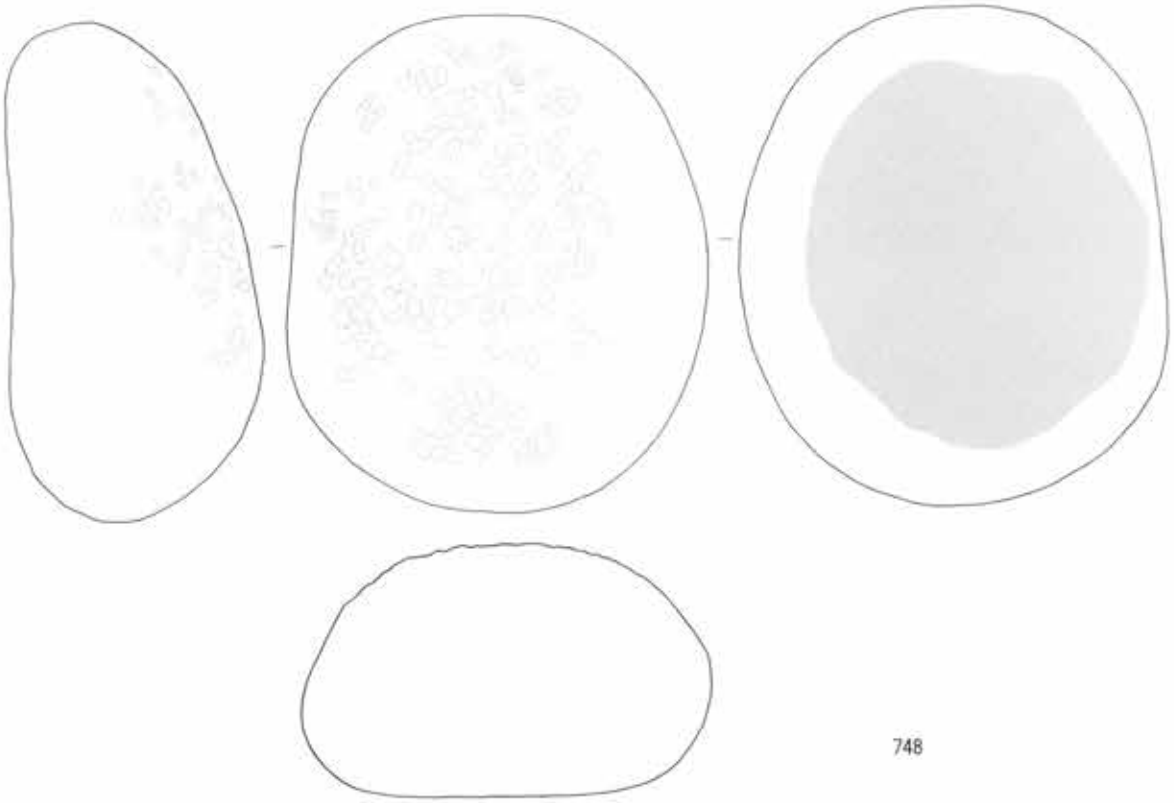
番号	石鏃	有舌	石錐	石匙	掻器Ⅰ	掻器Ⅱ	複合	削器	ﾋﾟｴｽ	打斧	磨斧	石核	剥片類	ＲＦ	ＵＦ	打欠	切目	有溝	凹石類	台石	石皿	砥石	石製品	合計
SB1														1										1
SB2	2												10	4	5		3		1					25
SB3																	2							2
SB4													1	4										5
SB5	1																							1
SB6														2										2
SB7	1												6		1		1							9
SI4													2	1										3
SI5														1										1
SI6													1		3									4
SI8														1										1
SI11													9	1										10
SM1	1												13	1										15
SM2															1									1
SM3													1		1									2
SU3																	1							1
SU4	1				1			1					12	3	2		1							21
SU5													1											1
SR1																					1			1
SR3													2	1										3
SK1	1												3	1										5
SK4													2		1									3
SK8													2											2
SK9	2												11	2	5									20
SK11													1		1									2
SK13									1															1
SK15														1										1
SK17														1										1
SK26																	1							1
SK27													2	1										3
SK31														1		1								2
SK35													1											1
SK38															2									2
SK41													1											1
SK43													1											1
SK45													1											1
その他	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	3	45	8	8	0	4	0	1	1	0	0	1	74
遺構計	10	0	0	0	2	0	0	1	1	0	1	3	128	35	30	1	13	0	2	1	1	0	1	230
包含層計	365	2	52	21	14	3	1	51	14	52	27	54	3,459	186	239	30	111	2	133	3	2	6	11	4,838
合計	375	2	52	21	16	3	1	52	15	52	28	57	3,587	221	269	31	124	2	135	4	3	6	12	5,068

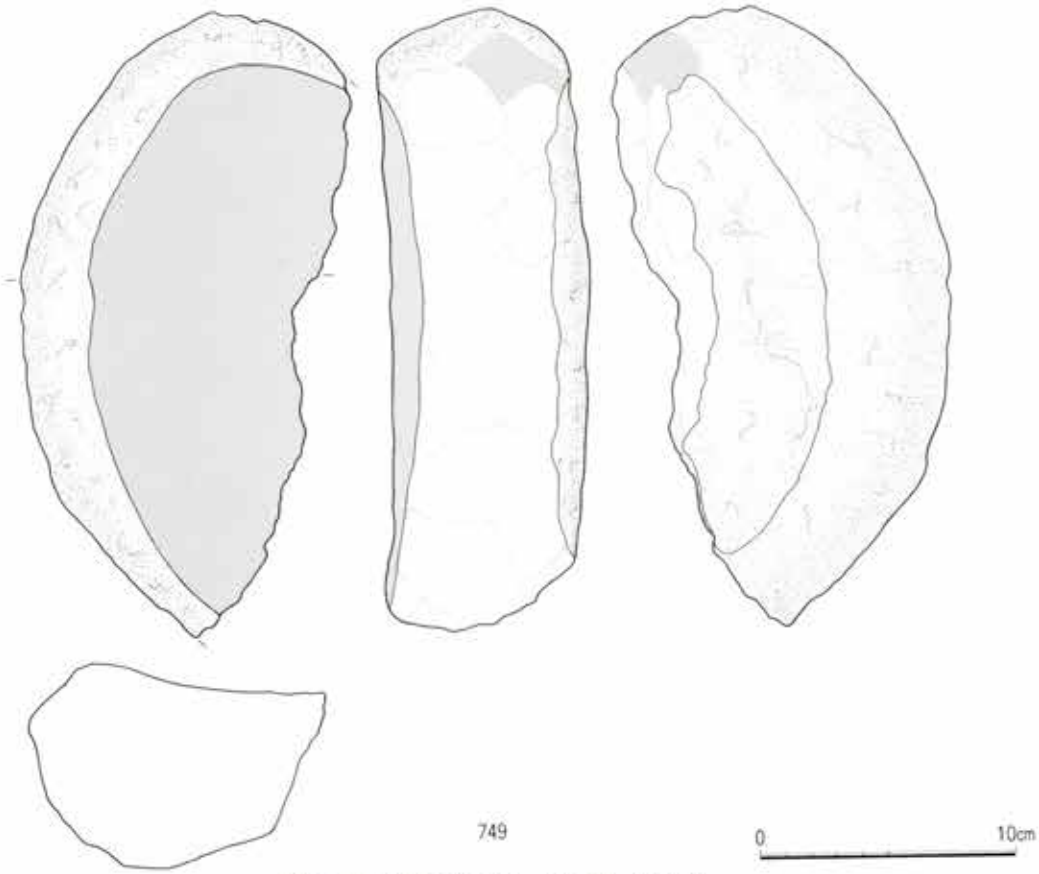


第90図　遺構出土石器（1）（S＝2／3）



第91図　遺構出土石器（2）（S＝1／2、S＝1／３）



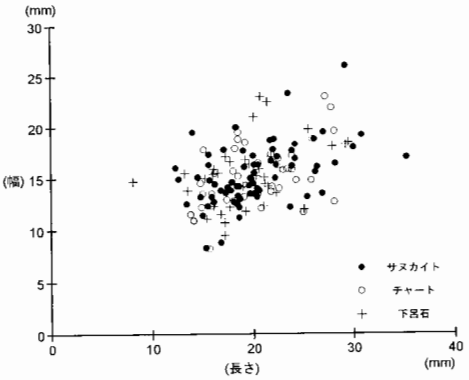


第92図　遺構出土石器（3）（S＝2／3）

第３節　包含層出土石器

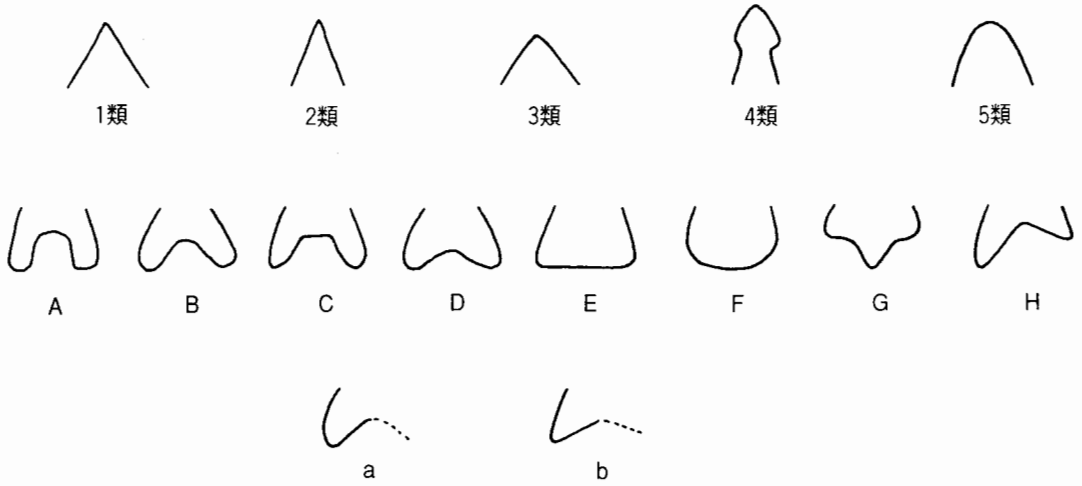
１．石　鏃（第98図750～785　図版53）

刺突による作業が想定できる石器。375点出土した。その多くが貝殻状の剥片および横長剥片の縁辺に調整を加え、形状を整えたものである。未製品53点を除く322点のうち、チャートが91点で全体の28.2％を占めるが、サヌカイトは138点で42.9％、下呂石が84点で26.0％と他地域からの搬入石材のものも多い。その他凝灰岩1点、石英1点が出土した。第93図は石鏃の長さと幅の相関関係を石材別に表したものである。サヌカイト製の石鏃は、他の石材に比べやや長いものを含み、また、下呂石製の石鏃は幅がやや小さい傾向がうかがえる。



第93図　石鏃法量相関

刺突の度合いを示唆する先端部と、矢柄との装着を示唆し石鏃の形態を最も特徴づける基部の形態をもとに次のように分類した。



第94図　石鏃の平面形による分類

＜鏃身部を含む先端部の分類＞

１類：鋭角な先端部をもつもの。（平面形先端角≒60°前後）

２類：１類より鋭角な先端部をつもの。（平面形先端角≒40°前後）

３類：鈍角な先端部をもつもの。（平面形先端角≒70°以上）

４類：先端部は尖り、側縁部に肩が張った形状をもつもの。

５類：先端部が尖らず、丸いカーブを描くもの。

＜基部の分類＞

Ａ類：Ｕ字状の抉りが入るもの。

Ｂ類：丸みを帯びた深い抉りが入るもの。

Ｃ類：抉りの部分が直線状になるもの。

Ｄ類：凹状のわずかな抉りが入るもの。

Ｅ類：いわゆる平基鏃で、基部が直線状になるもの。

Ｆ類：いわゆる円基鏃で、基部が丸みを帯びて突出するもの。

Ｇ類：いわゆる有茎鏃で、基部に茎部をもつもの。

Ｈ類：いわゆる片足鏃で、基部の片方にしか脚部がないもの。または、片方の脚部が、もう一方に比べ小さいもの。

＜脚部先端形の分類＞

ａ類：先端が丸みを帯びるもの。

ｂ類：先端が三角状に尖るもの。

各類の出土点数と各類の掲載番号を第22表に示した。

第22表　石鏃の分類別出土点数　( )内は掲載番号

	Ａ類		Ｂ類		Ｃ類		Ｄ類		Ｅ類		Ｆ類		Ｇ類		Ｈ類		不明	合計
	a	b	a	b	a	b	a	b	a	b	a	b	a	b	a	b		
１類	4 (750)		15	11 (751・752)	4 (753)	2	35	25 (754)	12	2 (755)	12 (756)		2 (757)		4 (758)	1	8	137
２類	3 (759)		6 (660・761)	4	1	2 (762)	17 (763)	19 (764・765)	6 (766)	3	3 (767)					1 (768)	2	67
３類			7 (769)				18 (770)	7 (771)	7 (772)		10 (773)						10	59
４類		1	3 (774)		1 (775)		14 (776・777)	6	2 (778)	1 (779)					1	2 (780・781)	2	33
５類			1 (782)				2 (783)		2 (784)		3 (785)						1	9
不明	1		3				3		3	2	3						2	17
合計	8	1	35	15	6	4	89	57	32	8	31		2		5	4	25	322

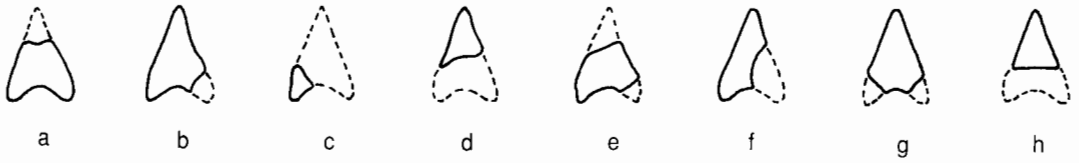
形態的、あるいは製作方法について特徴のあるものについて説明することにする。757は、厚手の素材剥片の縁辺部に粗雑な剥離調整を施したもので、基部が突出する凸基有茎鏃である。759は、全長が全幅の２倍以上あり、鋭角な先端部を有する。厚手の素材剥片の背面に粗雑な剥離調整を施し、基部はＵ字形の大きな抉りが入る。761は、薄手の縦長剥片を表裏から押圧剥離し、側縁部は鋸歯状を呈する。脚部を折損しているが、深い抉りが入る。772は、厚手の素材剥片の縁辺部に剥離調整を施したもので、基部は直線状を呈する。775は、脚部を折損しているが基部には丸みを帯びた深い抉りが入る。先端部は、両側縁に肩が大きく張ったもので、薄手で石材はサヌカイトである。782は、

基部に深い抉りが入るもので、長軸と短軸のバランスから先端部は一度折損したものを再加工して使用したものと考えられる。

45点を図示したが、主要剥離面が確認できるものは両面を図化し、確認できなかったものは片面のみを図化した。

また、未製品を除く合計322点のうち、折損のみられるものは168点であった。その部位によって第95図のように分類した。それぞれの点数は次のとおりである。

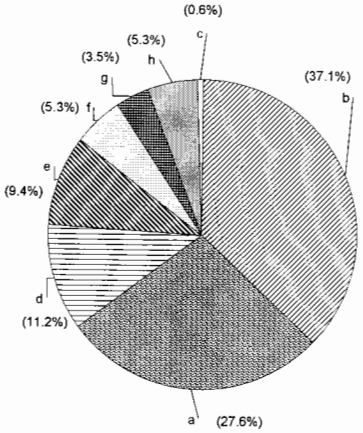
a　47点、　b　62点、　c　１点、　d　19点、　e　15点、　f　９点、　g　６点、　h　９点



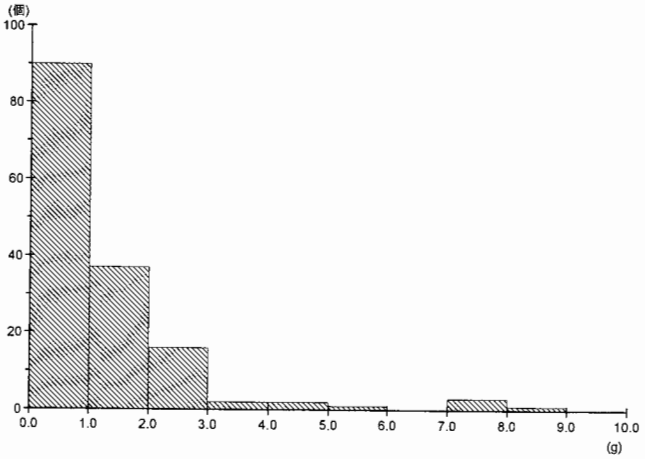
第95図 石鏃の折損部位による分類

折損部位をみる限り、先端部と脚部をわずかに折損するものが圧倒的に多いことがわかる。

第97図に示すように、１g～３gのものが全体の92.8％を占め、１ｇ未満のものが90点と大半を占める。中に772・773・785のように厚手の剥片を利用したやや重いものも見られるが、数は少ない。



第96図　石鏃の折損部位

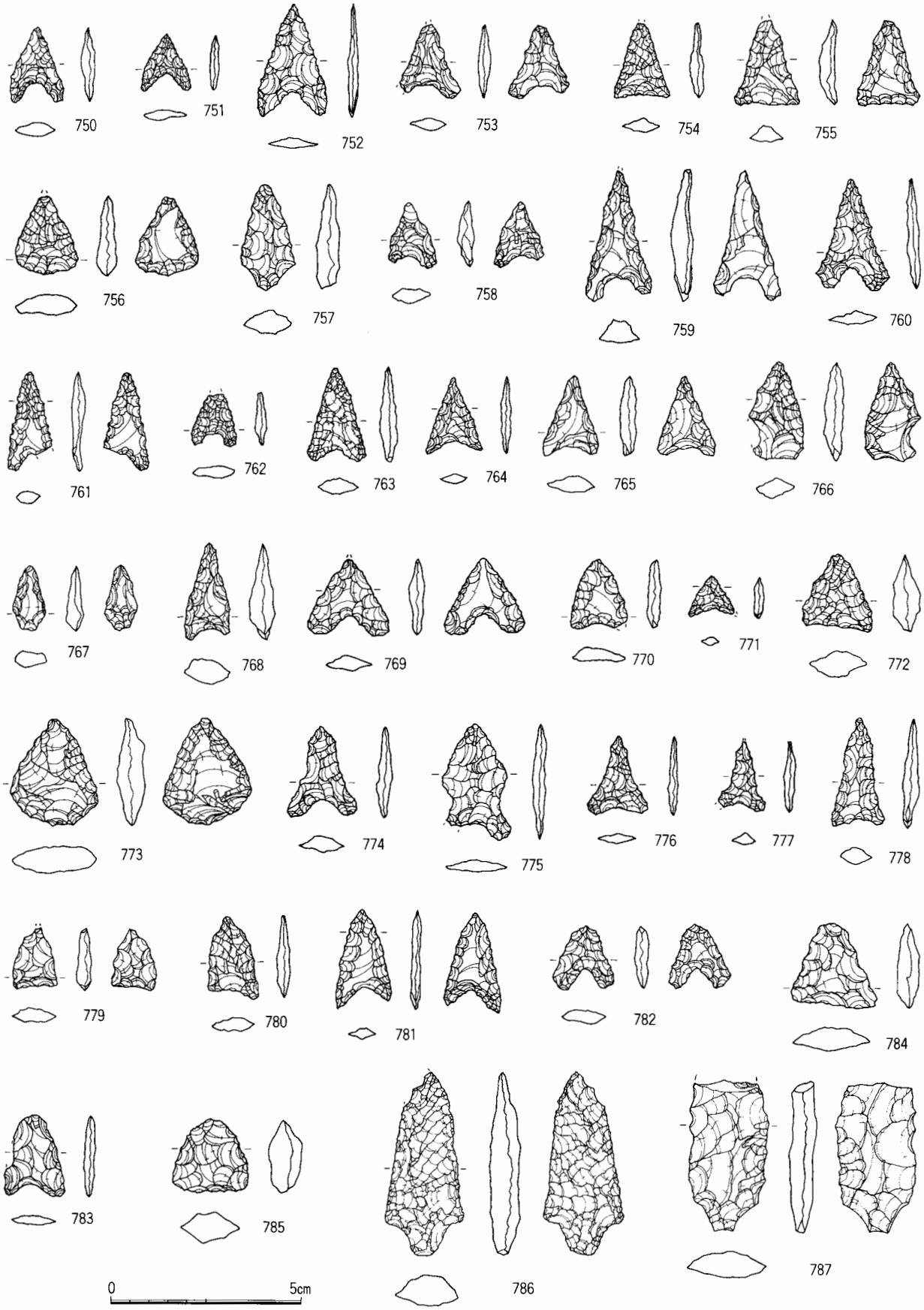


第97図　石鏃の質量分布

２．有舌尖頭器（第98図786・787　図版54）

刺突による作業が想定される石器。2点出土。石材はチャート１点、サヌカイト１点。素材剥片の一端に舌状の柄（茎）を作出したもの。この柄は装着を目的にしたものと思われ、樹皮等で縛り使用したと推測される。

786は、長さが4.75cmというやや大型のもので、側縁部には樋状剥離が発達し、鋭いエッジを作出している。また、基部に返しをもち、獲物からの逸脱を防ぐことを目的にしたと考えられる。787は、両面に粗雑な剥離調整を施したもので、先端部が折損している。未製品の可能性も考えられる。



第98図　包含層出土石器（1）　石鏃・有舌尖頭器（S＝2／3）

３．石　錐（第100図788～794　図版54）

穿孔および刺突の作業が想定される石器。両側縁からの調整により、錐状の突出した機能部を作出している。52点出土。石材は、チャートが19点、サヌカイトは17点、下呂石15点、その他１点である。第99図に示すように、１g～３gのものが全体の64％を占め、小型なものが多く見られる。

機能部の形態や数などにより、次のように分類した。

１類：不定形な剥片を素材とし、その端部に簡単な調整を加え、錐部を作出したもの。９点出土。(788・789)

２類：錐部作出のための調整が１類より進み、基部（つまみ部）を有し、錐部と基部が区分されるもの。

ａ類：１カ所の錐部をもつもの。33点出土。(790・791)

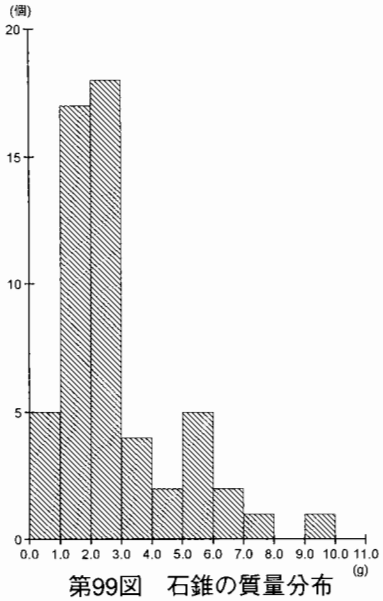
ｂ類：２カ所の錐部をもつもの。２点出土。(792)

３類：素材となる剥片のほぼ全面に調整剥離が施され、細身棒状に仕上げられたもの。８点出土。

ａ類：１カ所の錐部をもつもの。５点出土。(793)

ｂ類：２カ所の錐部をもつもの。３点出土。(794)

素材の選択にあたっては、縦長剥片を素材とするものが37点、横長剥片を素材とするものが15点であり、その多くは２ａ類の形態を呈している。



第99図　石錐の質量分布

４．スクレイパー類（第100・101・104図795～815　図版54・55）

切削、または掻くなどの作業が想定される石器。出土総数94点。

素材となる剥片の形態は多岐にわたり、剥片素材の縁辺に緩い角度、または急な角度の剥離を施した石器群をスクレイパー類とした。形態、刃部の位置、刃部調整方法などにより、次の５種に器種分類した。なお、図化にあたっては、つまみ部付きスクレイパーと掻器Ⅱは刃部を下にし、他は基本的に素材となる剥片の打点を上に、刃部を下または右になるように表現した。

(1) つまみ部付きスクレイパー（石匙）（第100図795～801　図版54）

素材剥片の一部に２カ所から抉り込みを入れることによって、つまみ状の小突起を作出し、縁辺部に片面もしくは両面からの調整により刃部を作出した石器。折損を含む21点出土。そのうち７点を図示した。石材は、サヌカイト６点、下呂石が１点で、残りはすべてチャートである。全体に急角度の刃部を有している。

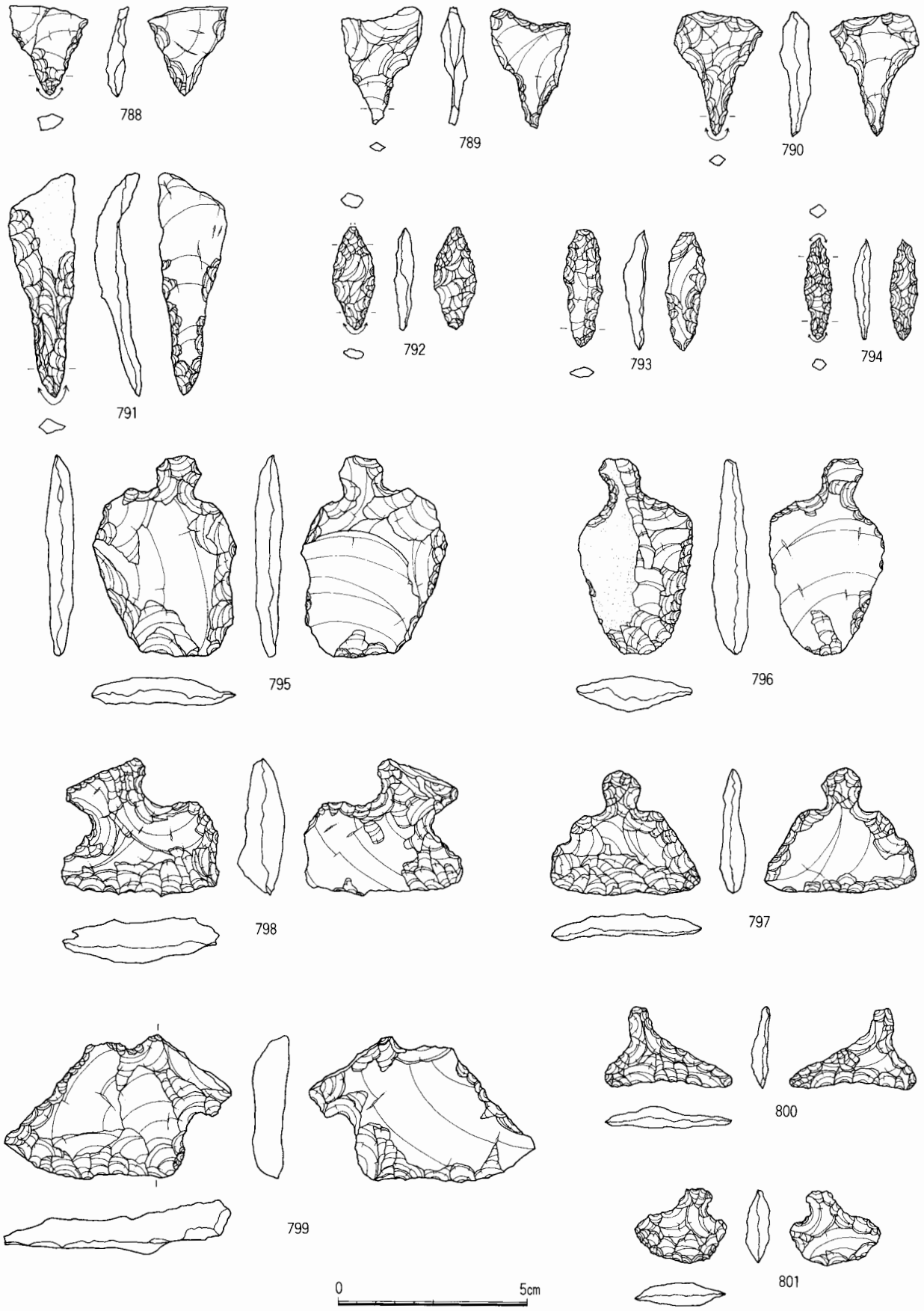
つまみ部（茎部）と刃部との位置関係により、次のように分類した。

１類：つまみ部を上にしたとき、器形が縦長で側縁部に刃部を有するもの。４点出土。(795・796)

２類：つまみ部を上にしたとき、器形が横長で直交するその下端の縁部に刃部を有するもの。２点出土。(797)

３類：１と２の中間的形態のもの。７点出土。(798・799)

４類：小型のもの。６点出土。(800・801)



第100図　包含層出土石器（2）　石錐・つまみ部付きスクレイパー（S＝2／3）

795・796・798は、ほぼ直線状に刃部を加工していて、いずれも片面調整である。797は、ほぼ左右対称な平面形を有し、つまみ部が中軸線上に位置している。刃部は両面調整である。他につまみ部が中軸に対して斜交するもの（798・799）も見られる。799は、二つの刃部を持ち、一つは外彎し、急角度を持つが、もう一つはほぼ直線上で角度は緩く削器的に用いたと考えられる。800・801は、小型のものではあるが、一般の石匙と同じように丁寧に加工されている。800は、他の剥離調整に比べ、やや大きめの剥離調整によりつまみ部が作出されていることから石匙としたが、石鏃として用いられた可能性もある。801は、つまみ部と直交する下端に粗い剥離調整を施した後、つまみ部を作り出している。刃部は、その後背面から丁寧に仕上げている。

(2) 掻　器 Ⅰ（第101図802～806　図版55）

素材となる剥片の縁辺に、急角度（概ね60°以上）による調整を施して刃部を作出した石器のうち、不定形な剥片を素材として用い、刃部の位置や平面形、刃部作出方法がランダムなものを掻器Ⅰとした。16点出土。石材は、チャート11点、サヌカイト３点、石英１点、泥岩１点である。刃部数と調整方法により、次のように分類した。

１類：刃部数１のもの。

ａ類：片面調整により刃部を作出したもの。８点出土。（802～804）

ｂ類：両面調整により刃部を作出したもの。７点出土。（805）

２類：刃部数３のもの。１点出土。（806）

刃部は、全部で18カ所。刃部平面形は、直線状のものが10カ所で全体の58％、凸状のものが８カ所で42％であった。805は、厚手の縦長剥片の側縁部に両面調整を施し刃部を作出したもので、下部ほど角度が小さくなることから削器的に用いられた可能性もある。806は、厚手の縦長剥片の側縁部と下部に背面側から粗い剥離調整を施し刃部を作出している。

(3) 掻　器 Ⅱ（ラウンドスクレイパー）（第101図807　図版55）

素材となる剥片のほぼ全周に急角度の連続調整による刃部を作出し、石器の平面形を円形または楕円形に仕上げた石器。３点出土。石材は、チャート１点、サヌカイト２点を使用している。

刃部の調整方法により次のように分類した。

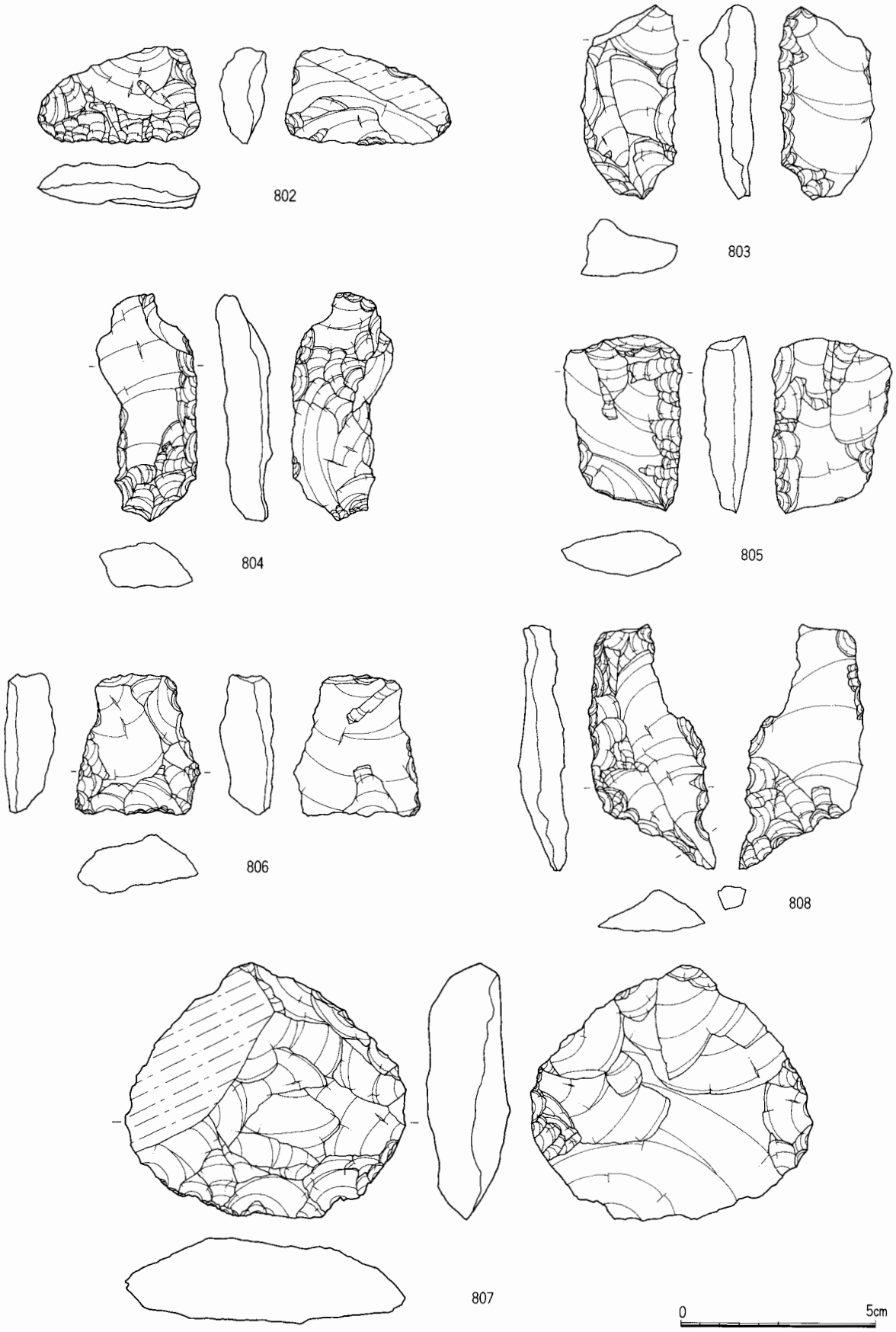
１類：片面調整により刃部を作出したもの。１点出土。（807）

２類：両面調整により刃部を作出したもの。２点出土。

807は、基本的に背面からの剥離調整により刃部を作出し、腹面上部のやや大きめの粗い剥離は、器形を整えるためのものと考えられる。２類の２点は、粗雑なつくりで図示するには至らなかった。

(4) 複合スクレイパー（第101図808　図版55）

素材となる剥片の縁辺に、掻器と刃部の一端に石錐の機能を併せもつ石器。１点出土。石材はチャートを用いている。808は、稜線の残る角礫から縦長剥片をとり、側縁に連続した片面調整を施し、急角度の刃部を作出している。また下部には稜を中央に、その左右縁辺部を折り取り錐部を作出している。断面形は菱形を呈する。



第101図　包含層出土石器（3）　掻器Ⅰ・掻器Ⅱ・複合スクレイパー（S＝2／3）

(5) 削　器（第104図809～815 図版55）

不定形な剥片の縁辺に、概ね60°以下の緩い角度の連続調整（縁辺の長さの２分の１以上）を施して刃部を作出した石器。52点出土。石材は、チャートが36点、サヌカイトが16点である。

なお刃部の角度が、一部において60°以上の箇所がみられても刃部全体の傾向として判断した。このことは、他のスクレイパー類でも同様に判断した。

刃部数および調整方法により次のように分類した。

１類：１カ所に刃部を有するもの。

ａ類：片面調整により刃部を作出したもの。16点出土。(809・810)

ｂ類：両面調整により刃部を作出したもの。23点出土。(811)

２類：２カ所に刃部を有するもの。

ａ類：片面調整により作出した刃部を同一面（背面または腹面）の２カ所に有するもの。３点出土。(812)

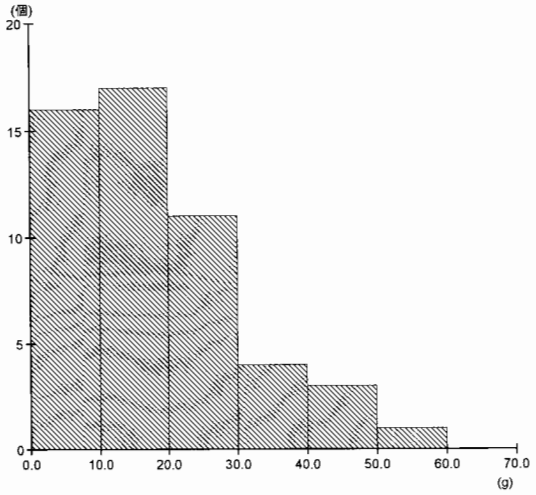
ｂ類：片面調整により作出した刃部と、両面調整により作出した刃部を１カ所ずつ有するもの。６点出土。(813)

ｃ類：２カ所とも両面調整により作出した刃部を有するもの。２点出土。(814)

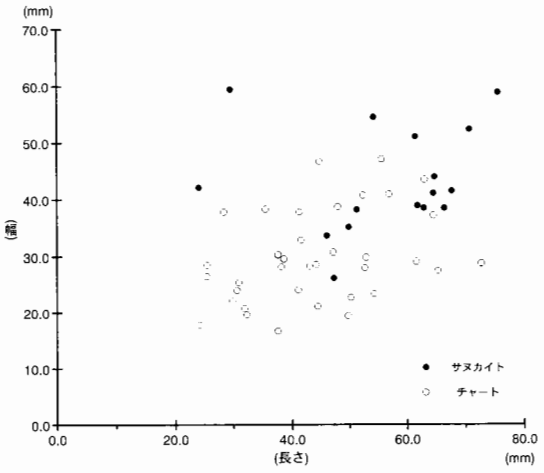
３類：３カ所に刃部を有し、すべて両面調整により作出した刃部を有するもの。２点出土。(815)

合計52点の削器には、62カ所の刃部が確認できた。刃部の平面形については、直線状のものが30カ所で全体の48.4％、凸状のものが25カ所で40.3％、凹状のものが７カ所で11.3％であった。また、刃部の調整方法は、両面調整36カ所で58.1％、片面調整が26カ所で41.9％であった。

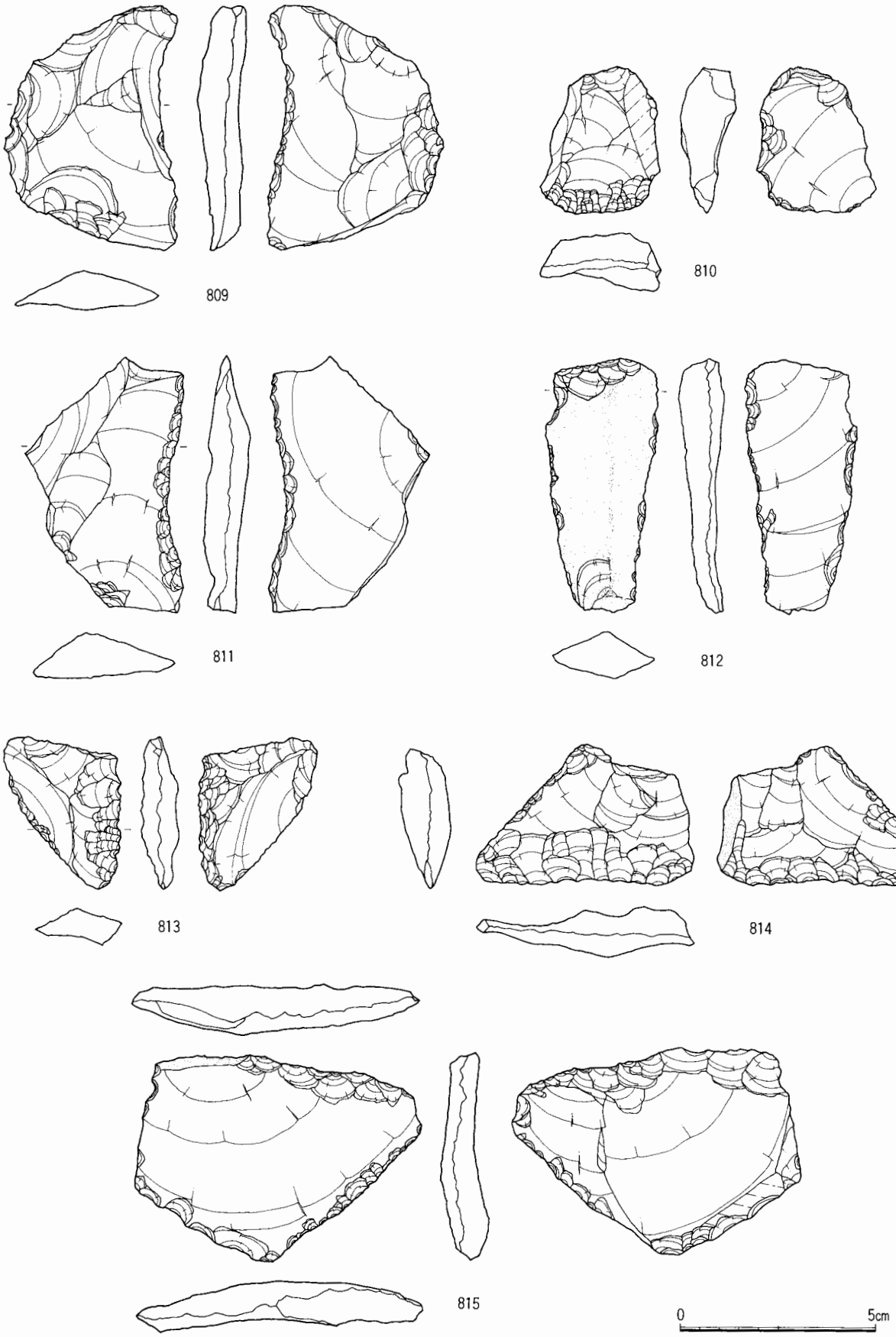
810は、節理面を持つ剥片の縁辺部を折り取り、下部に刃部を作出している。812は、稜を残す剥片の側縁部に剥離調整を施している。814は、上部にバルブが発達し、薄くなった末端部に両面から刃部を作出している。815は、押圧剥離によって表裏両面に全面調整が施され、３カ所の直線刃を有するものである。第102図は質量分布を示したものである。０g～20gのものが全体の63％を越える。また第103図は長さと幅の相関を石材別に示したものであるが、サヌカイトはチャートに比べやや大きめのサイズが多いという傾向がうかがえる。



第102図　削器の質量分布



第103図　削器の法量相関



第104図　包含層出土石器（4）　削器（S＝2／3）

５．ピエス･エスキーユ（楔形石器）（第106図816～820　図版56）

被加工物を割るためのクサビとしての使用が想定される石器。15点出土。そのうち５点を潰れ状の剥離痕が上下になるように実測した。石材は、チャート６点、下呂石５点、サヌカイト４点であった。平面形は四辺形を基本とし、向かい合った二辺の縁辺部に加撃と衝撃による階段状の剥離痕が対になって存在する。いわゆる挟み撃ちによって形成された端部をもち、剥片剥離以外の意図的な作出を有しているもの。

１類：縦長で縦に一対の剥離痕の見られるもの。10点出土。(816～818)

２類：横長で縦に一対の剥離痕の見られるもの。４点出土。(819)

３類：横長で二対の剥離痕の見られるもの。１点出土。(820)

818は厚手のサヌカイトの左右両側縁を折り取り、上端および下端に両極打法による潰れ痕を有する。820は上方部と下方部の対になる潰れ痕とやや斜め方向にもう一対の潰れ痕を有する。

６．打製石斧（第106図821～826　図版56）

名称は石斧であるものの、主に掘削などの作業が想定される石器。原礫や剥片を素材とし、縁辺から粗めの調整を施して形状を整え、長軸の一端に刃部を作出している。52点出土した。

石材は、泥岩33点で63.5％、安山岩10点で19.2％、泥岩のホルンフェルス６点で11.6％、粘板岩２点で3.8％、砂岩１点で1.9％であった。基部にわずかな装着痕が残るものは20点で、38.5％を占める。

柄部分との着装を意識し、素材の厚みを調整するための剥離を施したり、折り取ったりしている。

形態的視点から類別をすると次の３分類となる。

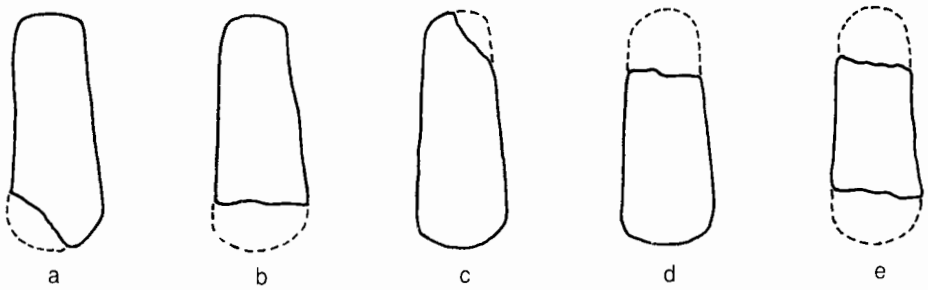
１類：両側縁がほぼ平行するもの。いわゆる短冊形。14点出土。(821・822)

２類：両側縁が基部に向かって収束するもので、刃部が最大幅となるもの。17点出土。(823･824)

３類：両側縁に、着装のための加工による抉りを作出したもの。15点出土。(825・826)

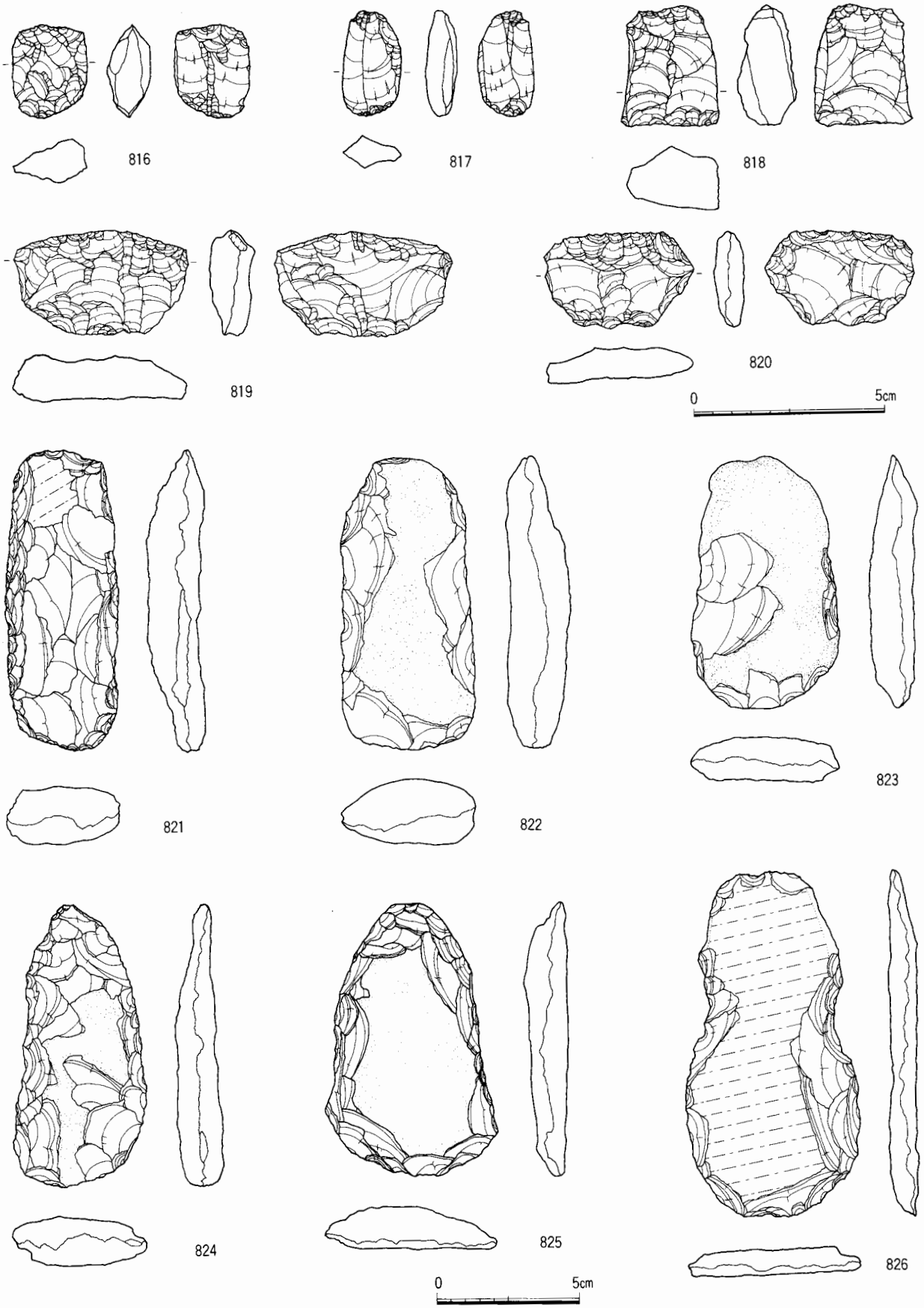
なお、折損により分類不明のものは６点であった。また、合計52点のうち、折損のみられるものは25点であり、その部位によって第105図のように分類した。それぞれの点数は次のとおりである。

a　５点、b　９点、c　４点、d　７点であった。



第105図　打製石斧の折損部位による分類

821は、背面に節理面を有する厚手の横長剥片を使用し、左右側縁部に剥離調整を加え形を整えている。823は、刃部が最大幅になるタイプで、背面に自然面を有する。刃部の磨耗は少ないが、基部に装着痕を残す。826は、節理面を両面に有する薄手の縦長剥片で、いわゆる分銅形である。基部は、装着のためにかなり磨耗している。



第106図　包含層出土石器（5）　ピエス･エスキーユ（S＝2／3）・打製石斧（S＝1／2）

７．磨製石斧（第109図827～835　図版57）

伐採・切断・加工の作業が想定される石器。対象物は木材と推定される。27点出土。

石材は、火成岩を主体とし、安山岩13点で、48.1％を占める。その他蛇紋岩４点、凝灰岩４点、泥岩２点などわずかである。大割りした剥片を整形し、その後研磨を加えている。

平面形、および断面形、サイズにより次のように分類した。

＜平面形による分類＞

１類：最大幅が刃部に位置し、両側縁が基部に向かって収束するタイプのもの。24点出土。

２類：両側縁がほぼ平行になるタイプのもの。１点出土。

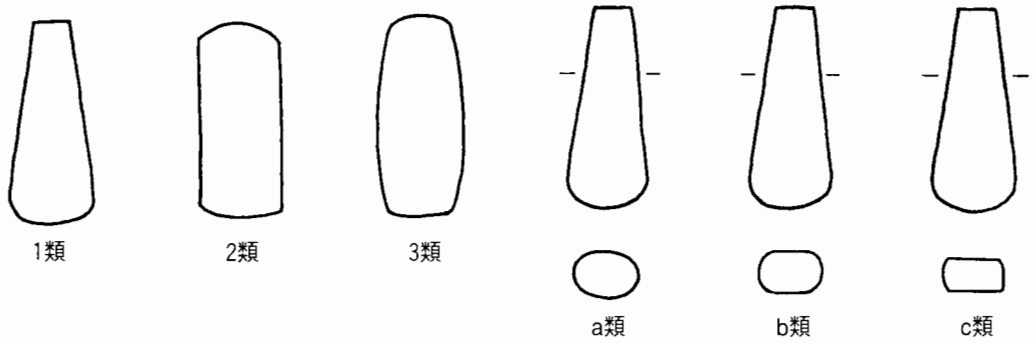
３類：最大幅が胴部に位置し、両側縁がわずかに外彎するタイプのもの。２点出土。

＜断面形とサイズによる分類＞

ａ類：基部断面形が楕円形で、乳棒状と呼ばれる分厚い斧身を有するのもの。１点出土。

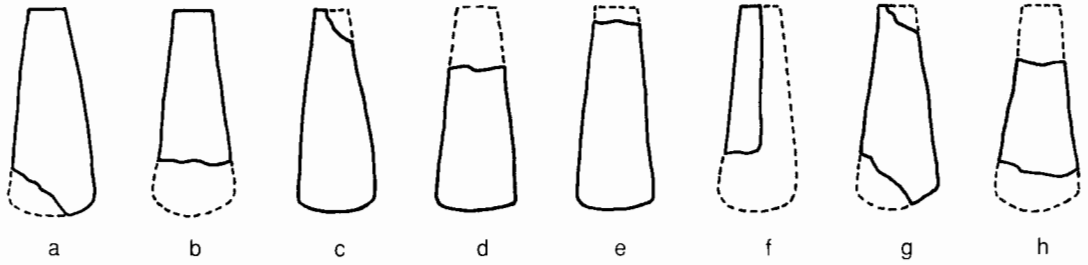
ｂ類：基部断面形が丸みを帯びた長方形で、定角式の稜が不明瞭なもの。４点出土。

ｃ類：基部断面形が丸みを帯びた長方形で、定角式の稜が明瞭なもの。22点出土。



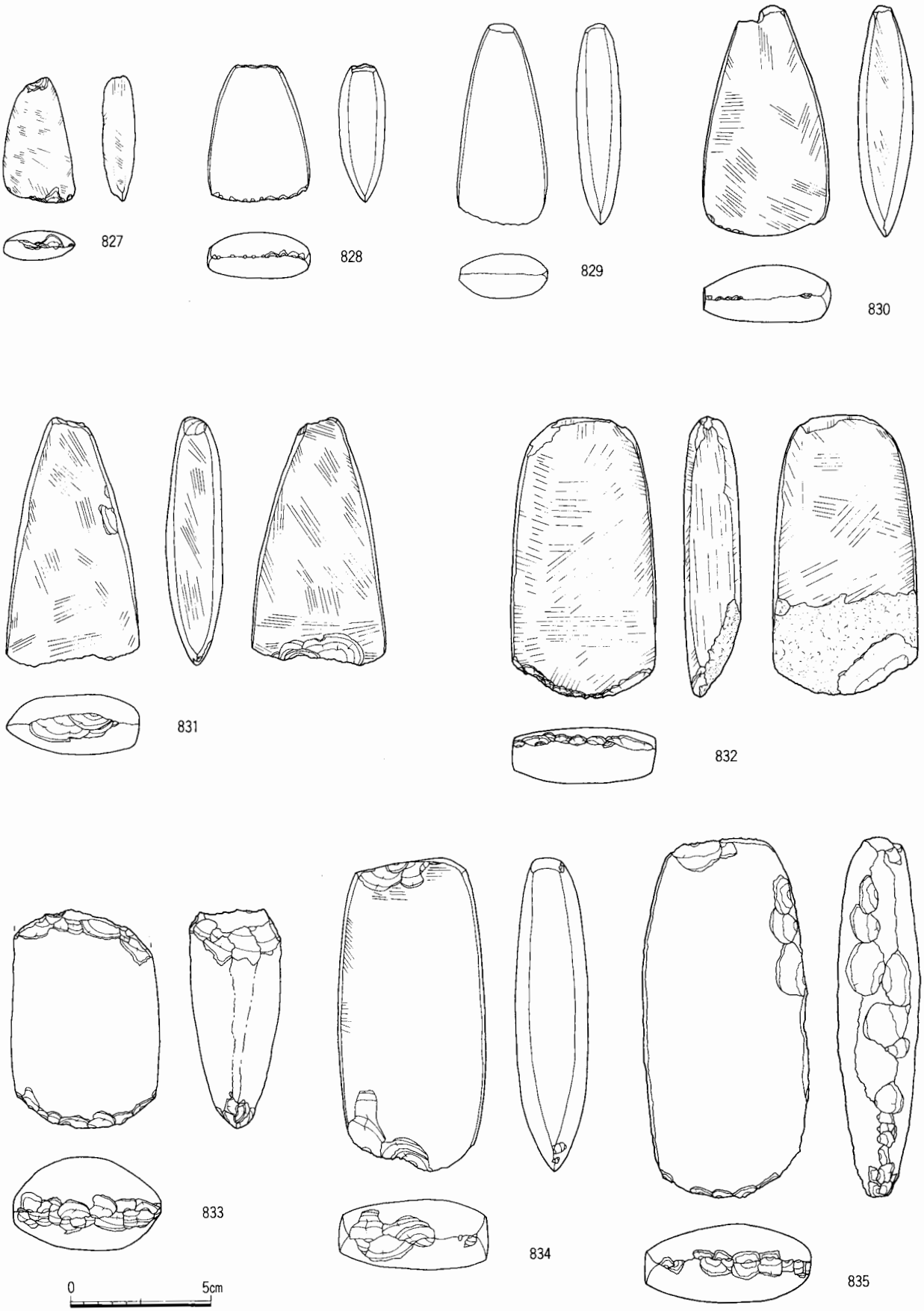
第107図　磨製石斧の形態による分類

また、合計27点のうち、折損のみられるものは21点であった。その部位によって第108図のように分類した。それぞれの点数は次のとおりである。ａ　３点、ｂ　５点、ｃ　１点、ｄ　７点、ｅ　１点、ｆ　１点、ｇ　２点、ｈ　１点、であった。



第108図　磨製石斧の折損部位による分類

全体的な傾向として最大幅が刃部に位置し、基部断面形が丸みを帯びた長方形で、稜が明瞭なものが圧倒的に多い。刃部の形態は、円刃が830・833などで６点で、直刃は828・831などで８点であった。



第109図　包含層出土石器（6）　磨製石斧（S＝1／2）

使用により片減りし、偏刃となっているものは、827・834などで７点であった。830は、基部を一部折損しているが全面にわたる研磨を施している。832は、使用により折損した刃部を再び研磨して再生したものと思われる。835は、安山岩製で風化が激しいが、右側面には敲打に使用した痕跡が残る。

８．石核（第110・111図836～843　図版58）

素材剥片を剥離した残核を総称し石核とした。石器の製作方法や仕事量を考察する要素となり得るものである。57点出土。石材は、チャートが42点で73.7％、サヌカイトが６点で10.5％、泥岩が５点で8.8％、砂岩が３点で5.3％、下呂石１点1.7％である。このうち８点を図示した。

石核の最終的な形態をもとに、素材の選択や剥片の剥ぎ取り方を次のように類型化した。

１類：剥片を素材とし、その縁辺の平坦部（背面、腹面でない部分）を打面とするタイプ。

ａ類：作業面が背面のみとなるもの。12点出土。(836)

ｂ類：作業面が背面・腹面の両面に及ぶもの。４点出土。(837)

２類：剥片を素材とし、その背面または腹面を打面とするタイプ。

ａ類：背面・腹面の両面を打面とするもの。４点出土。(838)

３類：剥片を素材とし、その縁辺の平坦部と側面を打面とするタイプで、背面と腹面とが作業面となるもの。５点出土。(839)

４類：厚手の分割礫、または原礫を素材に用い、数枚の剥片を剥離しているが、打面、作業面の設定に規則性が乏しく、打面、作業面転移が90°または180°でないため、不定形の残核となるタイプ。17点出土。(840～842)

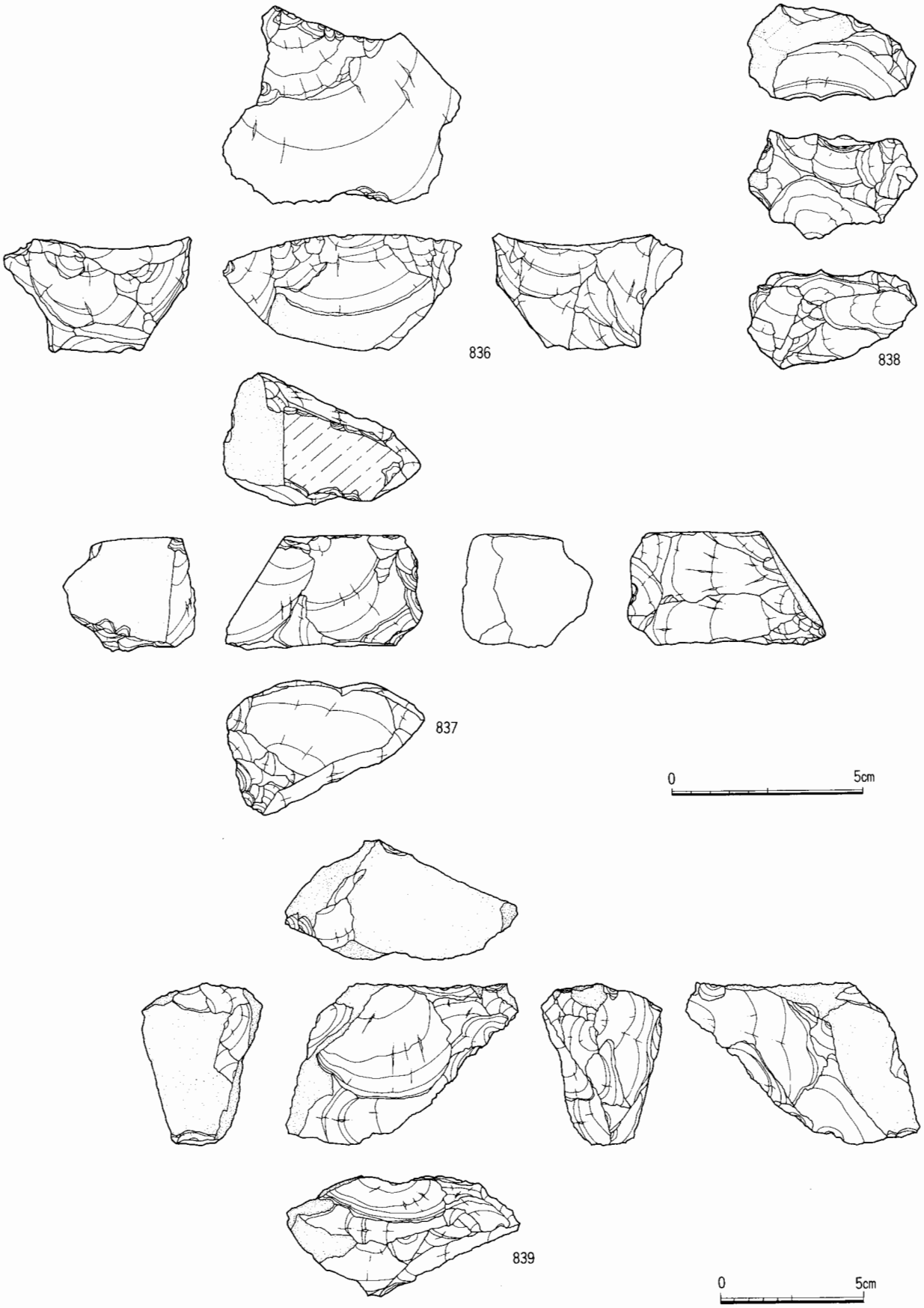
５類：４類と同様の素材を用い、大きな平坦面を打面として、その縁辺から剥片剥離作業を行うタイプ。作業面が全周におよび、亀甲状になるものが多い。打面転移は行わない。15点出土。(843)

出土した57点の石核を素材からみると、剥片を素材としたものは25点、分割礫・原礫を素材としたものは32点であった。これらのうち、自然面を有するものは44点、節理面を有するものは26点であった。確認できる打面や作業面の数は、次のとおりである。

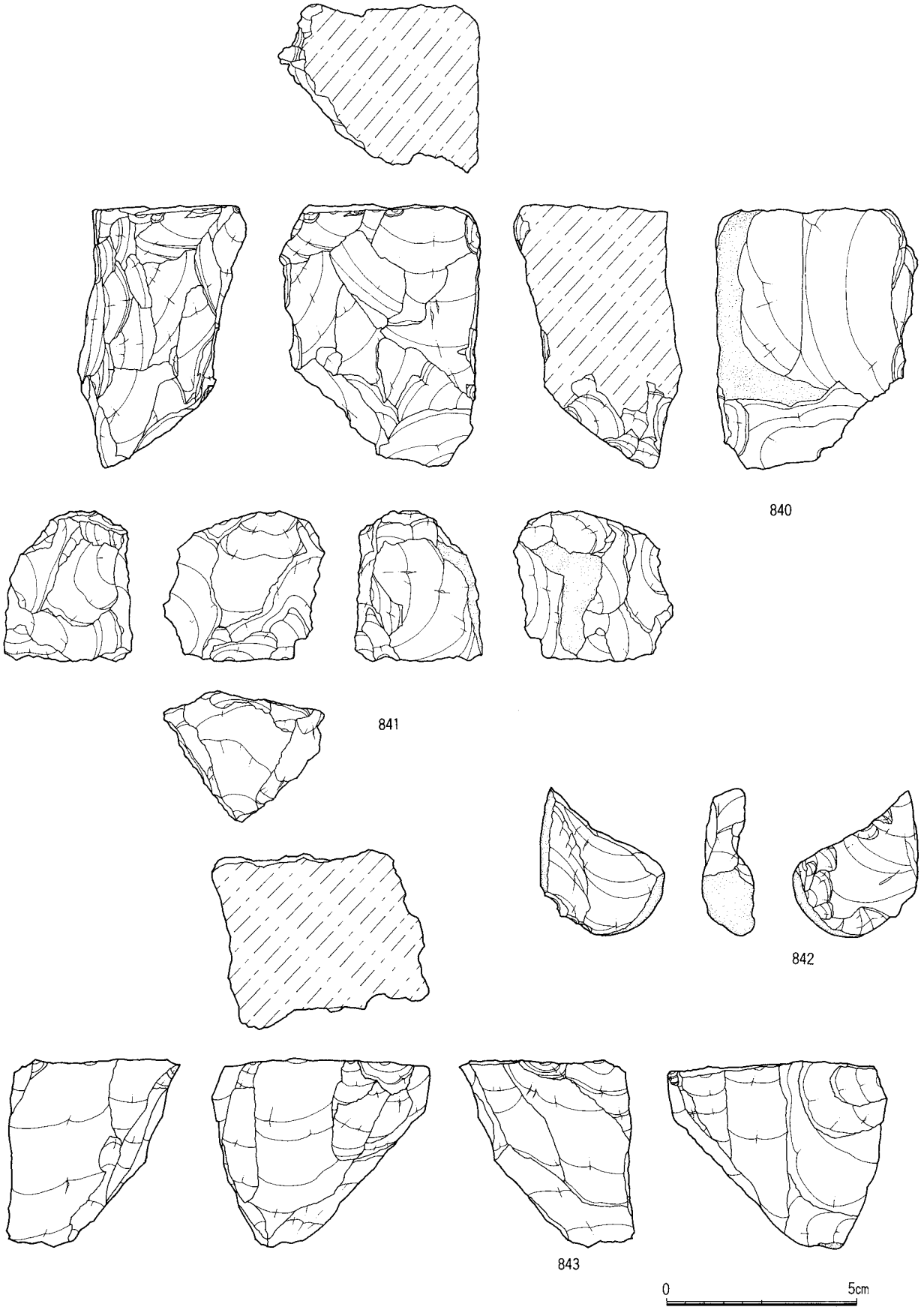
・打面数１・・・38点	・作業面数１・・・24点
・打面数２・・・18点	・作業面数２・・・22点
・打面数３・・・１点	・作業面数３・・・８点
	・作業面数４・・・２点
	・作業面数５・・・１点

石核１個当たりの平均打面数は1.35面、平均作業面は1.84面であった。

838は、石材にサヌカイトを用いている。石核としては小型のもので、剥片剥離の結果得られた剥片はサイズ的に小さいものであったことが推察される。842は、やや縦長の下呂石の円礫を原石とした石核で、台石の上での挟み撃ちにより大きく剥片剥離している。腹面左下の縁辺部の小さい剥離はそのためのものであると考えられる。自然面を縁辺部に残すことから、およそ卵大程度の下呂石の転石であると考えられる。この大きさから美濃加茂市付近より上流の飛騨川・木曽川水系から搬入されたと推察される。



第110図　包含層出土石器（7）　石核（1）（S＝2／3、S＝1／2）



第111図　包含層出土石器（8）　石核（2）（S＝2／3）

９．剥片類

剥片剥離によって生産された素材を間接的に推定できる要素となり、原石・石核として遺跡内に残された資料の限界を補う資料となり得るものである。出土総数は3,500点を超える。数多くの剥片が出土しているが、石材別に分類したのが第23表である。

第23表　石材別の出土剥片数（剥片類）

石　　材	遺　構		包含層	
	点数（個）	質量（ｇ）	点数（個）	質量（ｇ）
チャート	31	140.6	1,142	4,741.7
サヌカイト	54	110.0	1,616	4,786.6
下呂石	25	73.8	468	1,203.7
泥　岩	7	29.7	125	885.7
砂　岩	2	45.0	25	314.6
石　英	5	10.6	51	260.3
凝灰岩	1	6.9	21	167.0
安山岩	3	19.7	3	67.8
花こう岩	0	0.0	1	8.2
ホルンフェルス	0	0.0	6	34.7
黒曜石	0	0.0	1	0.6
合　　計	128	436.3	3,459	12,471.9

10. 調整剥離を施された剥片（ＲＦ）

素材となる不定形な剥片の縁辺に、二次加工を施して刃部を形成するが、連続性・統一性に乏しく定形的な刃部をもたないものを総称した。出土総数221点。

第24表　石材別の出土剥片数（ＲＦ）

石　　材	遺　構		包含層	
	点数（個）	質量（ｇ）	点数（個）	質量（ｇ）
チャート	21	96.2	110	1,186.8
サヌカイト	6	46.3	65	680.6
下呂石	5	27.1	8	45.7
泥　岩	1	3.0	3	68.4
石　英	2	25.8	0	0.0
合　　計	35	198.4	186	1,981.5

11. 細微な剥離痕を有する剥片（ＵＦ）

素材となる剥片の鋭い縁辺を刃部に用い、その結果として、ある程度連続的に刃こぼれ状の微細な剥離痕を有するものを総称する。出土総数269点。

第25表　石材別の出土剥片数（UF）

石　　材	遺　構		包含層	
	点数（個）	質量（ｇ）	点数（個）	質量（ｇ）
チャート	9	54.5	144	1,506.4
サヌカイト	18	101.3	57	505.9
下呂石	1	1.0	16	110.0
泥　岩	1	84.8	10	215.1
石　英	1	3.4	5	23.1
凝灰岩	0	0.0	6	110.6
黒曜石	0	0.0	1	0.8
合　　計	30	245.0	239	2,471.9

剥片類・ＲＦ・ＵＦの石材別の分布については、後で考察することにする。

12. 打欠石錘（第114図844～847　図版59）

礫の長軸または短軸の両端を打ち欠き、紐掛かりの部位を作出した石器を打欠石錘とした。全部で31点出土した。片面（表裏は任意とした）と紐掛かり部位を図示した。また上下は、重心が全長の半分より下にくるようにして決めた。石材は、泥岩が18点で58.1％、砂岩が11点で35.5％、ホルンフェルスが２点で6.4％であった。第112図に示すように20g～40gのものが18点で、全体の58％を占める。

打欠石錘全体を、機能部の数と加工方法によってそれぞれ２種類に大別し分類した。

＜向かい合った機能部の数＞

１類：長軸方向に一対の機能部を持つ。

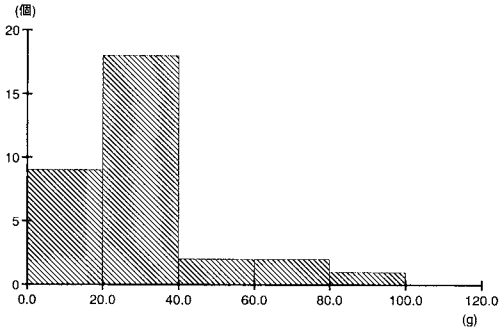
２類：長軸・短軸方向に各一対の機能部を持つ。

＜機能部の加工方法による分類＞

ａ類：機能部を片側から打ち欠く。

ｂ類：機能部を両側から打ち欠く。

844など１ａ類は９点で29.0％、845・846など１ｂ類は20点で64.5％、また847など２ａ類は２点で6.4％であった。



第112図　打欠石錘の質量分布

本類の石錘の多くは、長軸方向に紐を掛けて使用したと考えられるが、847は扁平な小礫の長軸、短軸の両端を片側から打ち欠き二対の機能部を持たせている。

13. 切目石錘（第114図848～860　図版59）

礫の長軸または短軸の両端に切目を入れることにより紐掛かり部を作出した石器を切目石錘とした。全部で124点出土した。図示の方法は打欠石錘と同様であるが、855・859のように紐を掛けたと考えられる部分が磨滅せずに帯状に残り、その両側が磨滅している、いわゆる「帯状痕跡」が表面に確認できるものについてはその範囲を点描した。石材は、泥岩84点で67.7％、砂岩39点で31.5％、凝灰岩１点で0.8％であった。第113図に示すように０g～20gのものが52点で、全体の41.9％を占める。

切目石錘についても打欠石錘と同じように、機能部の加工方法や切目作出法にも特徴が見い出せるので、それらの違いによって分類した。その基準については以下のとおりである。

＜機能部の加工方法による分類＞

１種：端部を打ち欠いた後、切目を作出する。

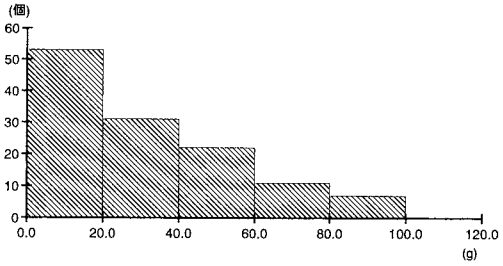
２種：打ち欠かずに、端部に直接切目を作出する。

＜切目作出法による分類＞

ａ項：ほぼ垂直方向に擦り切る。

ｂ項：斜め方向に片側だけ擦り切る。

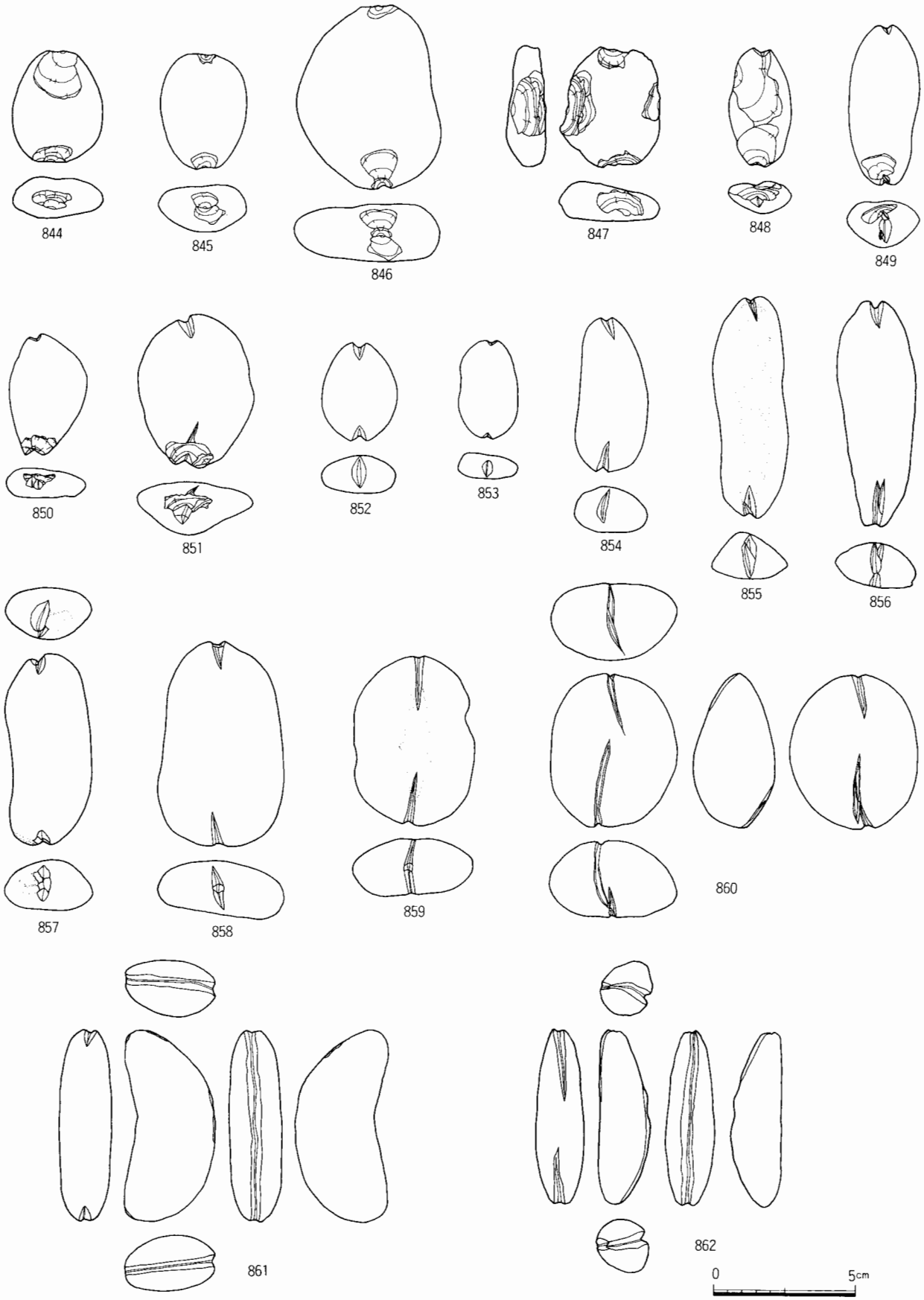
ｃ項：斜め方向に両側から擦り切る。



第113図　切目石錘の質量分布

848～850など１ａ類は６点で4.8％、851など１ｂ類は13点で10.5％、また852・853など２ａ類は33点で26.6％、854～860など２ｂ類は72点で58.1％であった。

848は、長軸端を予め打ち欠き、その後浅い切り込みを入れている。粗雑な作りではあるが、全体にベンガラが塗られていた（自然科学分析を参照）。857は、やや長めの小礫の長軸端に深い切目を入



第114図　包含層出土石器（9）　打欠石錘・切目石錘・有溝石錘（S＝1／2）

れているが、その後端部を上下から敲打した痕跡がみられる。860は、厚手の小礫の長軸端に表裏面から浅い切り込みを入れている。切目の先端がややずれているが切り込みは長めである。前述した855・859など「帯状圧痕」が残るものは18点で、全体の14.5％である。

14. 有溝石錘（第114図861・862　図版57）

礫の長軸あるいは短軸の両端に切目を入れ、その切目が上から下までつながった形態のものを有溝石錘とした。２点出土した。石材はともに泥岩である。861・862ともに平面形はバナナ状を呈し、溝は外彎する縁部に沿ってやや深めに入っている。

15. 凹石類（第120～122図863～880　図版60・61）

主に円礫を素材とし、その表面に使用痕としての凹みや敲打痕、叩き痕、磨痕など観察できる石器を凹石類とした。これらの石器は、その使用痕により、凹石、敲石、磨石、叩石と分類されてきたが、複数の使用痕を併せもつものが多い。そこで、ここでは、凹石類と大きくひとまとめにした上で、形態、質量、使用痕等について検討する。なお、凹石類は全部で135点出土し、本遺跡では石鏃に次いで数多く出土した。遺構からは、２点(746・747)、包含層から133点出土している。ここでは、このうちの20点を図示した。

図示するにあたっては、凹みや敲打痕の範囲と形状は点描で表し、叩きはその程度によって通常の剥離痕および破線で表現した。また、面を形成する敲打痕はストライプのスクリーントーンで、磨面は、ドットのスクリーントーンを用いて表現した。

(1) 形態による分類

ここでは、縦軸に長さ/幅、横軸に厚さ/幅を表示したグラフによって“かたち”のまとまりを求める。そのまとまりの中での質量分布を検討し、かたちと質量の相関関係を考慮して形態分類を試みた。第115図はそのグラフであり、第26表は群別の質量分布を示したものである。形態的には次の大きく４分類８グループに分類可能と考える。なお、これらの分類には折損等による形態の不明なもの33点は除いた。

１群　球状の礫　30点出土。(863～865)

A　縦の数字が1.2未満、横0.7以上、0以上～700g未満。

B　縦の数字が1.2未満、横0.7以上、700g以上。

２群　円礫　25点出土。(866～869)

C　縦の数字が1.2未満、横0.7未満、0以上～600g未満。

D　縦の数字が1.2未満、横0.7未満、600g以上。

３群　楕円礫　44点出土。(870～878)

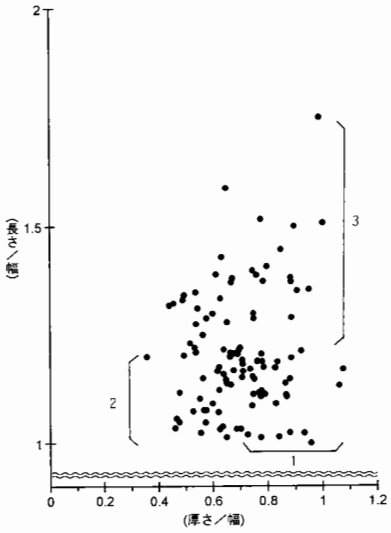
E　縦の数字が1.2以上1.5未満、0以上～700g未満。

F　縦の数字が1.2以上1.5未満、700g以上。

G　E・Fの中で縦の数字が1.2以上、横0.7以上。

４群　不定形の礫　３点出土。(879・880)

H　その他。



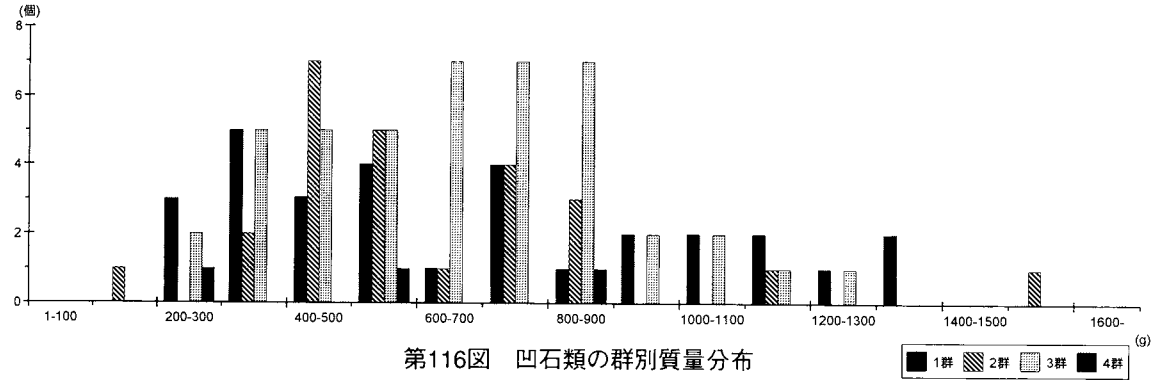
第115図　凹石類の法量相関

(2) 質量について

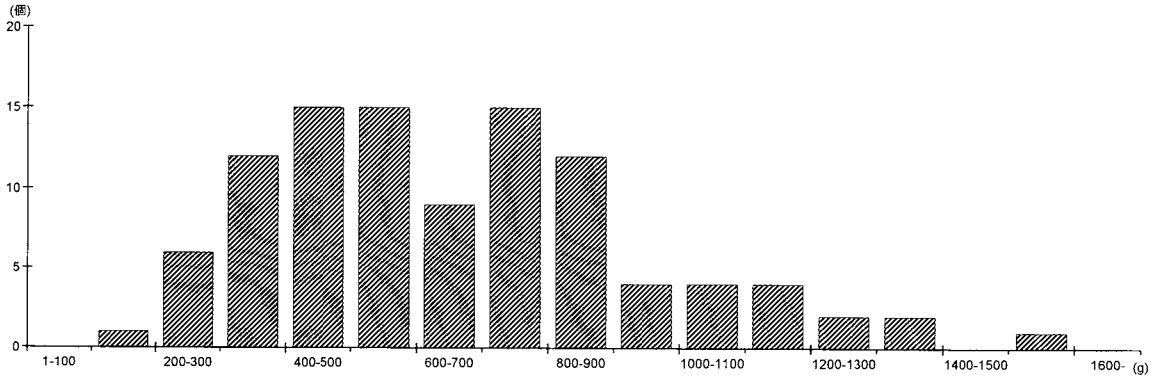
(1)で分類したそれぞれのまとまり別に質量分布を表したグラフが第116図で、第117図は凹石類全体の質量分布である。全体の分布から300ｇ～900ｇ程度の片手に持って作業をする際に丁度よい質量のものを使用したと推察される。一方で865のように1,300ｇ以上のものも見られる。片手で持つには長さ・幅ともやや大きく、表裏にはわずかな凹みの他に磨面が明確に表れ、持ち上げるよりも磨る行為の頻度の方が高いものと推察される。

第26表　凹石類の群別質量分布表

質量(g)	1群			2群			3群				4群		合計
	A	B	小計	C	D	小計	E	F	G	小計	H	小計	
1-100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
100-200	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1
200-300	3	0	3	0	0	0	0	0	2	2	1	1	6
300-400	5	0	5	2	0	2	3	0	2	5	0	0	12
400-500	3	0	3	7	0	7	3	0	2	5	0	0	15
500-600	4	0	4	5	0	5	4	0	1	5	1	1	15
600-700	1	0	1	0	1	1	5	0	2	7	0	0	9
700-800	0	4	4	0	4	4	0	5	2	7	0	0	15
800-900	0	1	1	0	3	3	0	4	3	7	1	1	12
900-1000	0	2	2	0	0	0	0	1	1	2	0	0	4
1000-1100	0	2	2	0	0	0	0	1	1	2	0	0	4
1100-1200	0	2	2	0	1	1	0	0	1	1	0	0	4
1200-1300	0	1	1	0	0	0	0	1	0	1	0	0	2
1300-1400	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
1400-1500	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1500-1600	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1
1600-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合　計	16	14	30	15	10	25	15	12	17	44	3	3	102



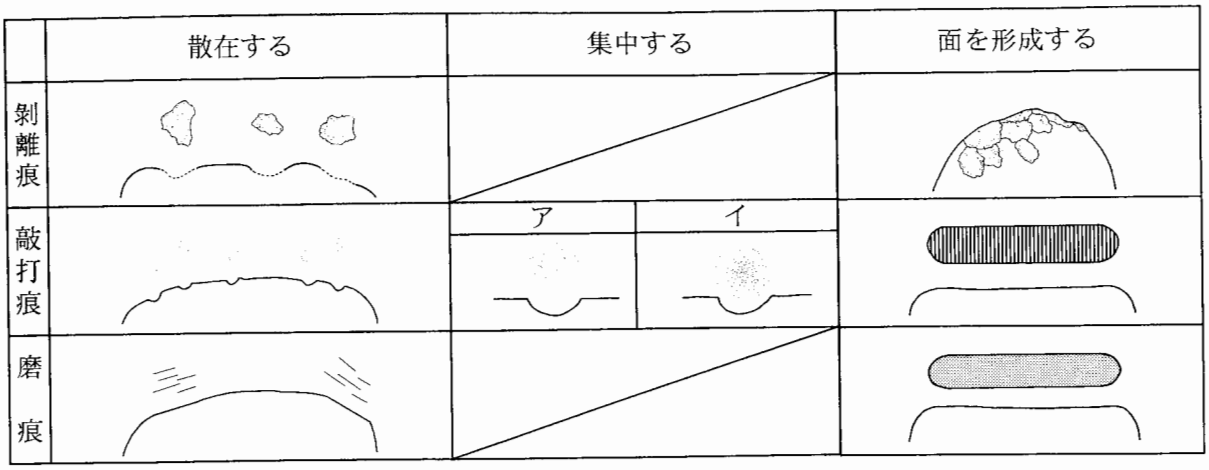
第116図　凹石類の群別質量分布



第117図　凹石類全体の質量分布

(3) 使用痕について

石器の使用がもたらす痕跡には、さまざまなスケールのものがあり、それらが複雑に組み合わさって構成されている。凹石類にも前述したように、剥離痕、敲打痕、磨痕が見られるがこれらが単独で見られることは少なく、多くは複数の痕跡が認められる。また、凹みや磨面、敲打面は、そうした痕跡の連続により生まれたものと考え、痕跡の状態を形状と頻度により第118図のように分類した。ただし敲打痕の集中については、その使用頻度により敲打の痕跡が判別できるものはアで、判別できないものはイで表現した。



第118図　凹石類の使用痕による分類

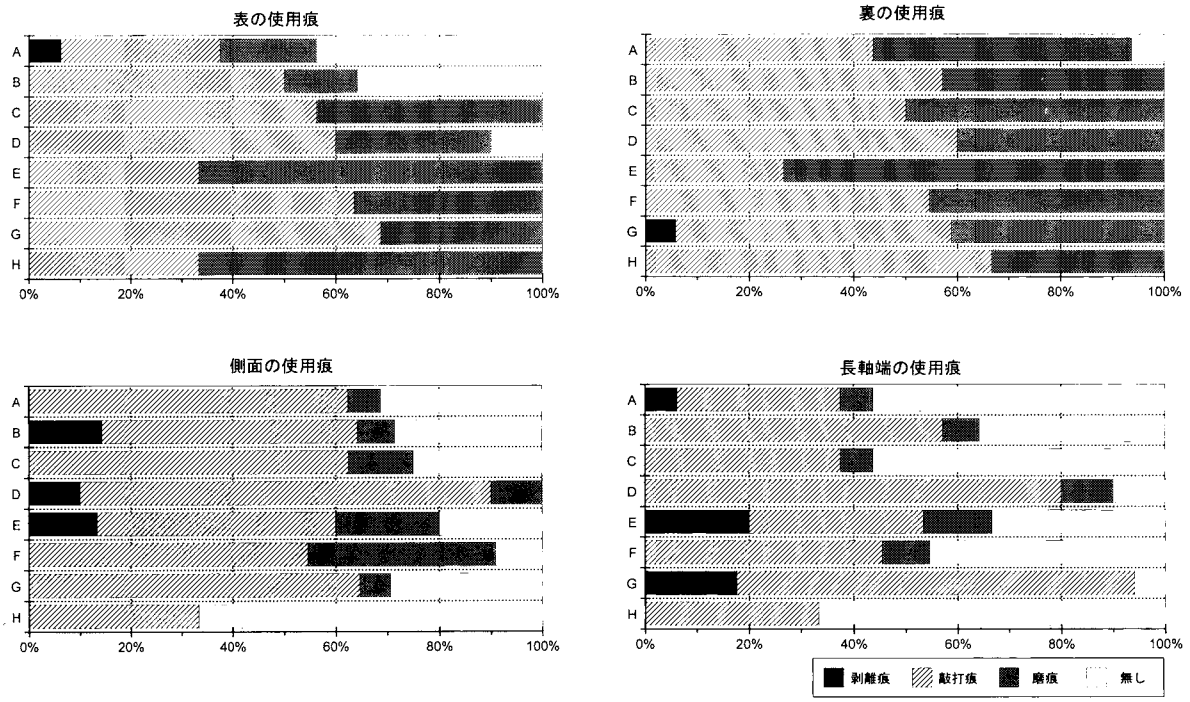
各群の痕跡の数を観察した場所ごとに表したのが第27表で、グループの個数に対するその割合を示したのが第119図である。なお、同じ１個体の中に表、裏と同じ痕跡があるものは、多数の痕跡を持つものとして総数をカウントした。

第27表　グループ別にみた使用痕の総数

グループ	表面				裏面				側面				長軸端				分類別個数
	剥離痕	敲打痕	磨痕	無	剥離痕	敲打痕	磨痕	無	剥離痕	敲打痕	磨痕	無	剥離痕	敲打痕	磨痕	無	
A	1	5	3	7	0	7	8	1	0	10	1	5	1	5	1	9	16
B	0	7	2	5	0	8	6	0	2	7	1	4	0	8	1	5	14
C	0	9	7	0	0	8	8	0	0	10	2	4	0	6	1	9	15
D	0	6	3	1	0	6	4	0	1	8	1	0	0	8	1	1	10
E	0	5	10	0	0	4	11	0	2	7	3	3	3	5	2	5	15
F	0	7	4	0	0	6	5	0	0	6	4	1	0	5	1	5	12
G	0	11	5	0	1	9	7	0	0	11	1	5	3	13	0	1	17
H	0	1	2	0	0	2	1	0	0	1	0	2	0	1	0	2	3

各グループの主な特徴として、863に見られるようにＡグループは、どの面にも敲打が存在し、表裏関係なくどの面も利用した傾向がある。Ｂグループは、数字の上ではＡとそれほど変化はないが、磨面が明確にみられる。864・865は、敲打痕も表裏に有するが磨面が全体を取り巻いている。Ｃグループは、866に見られるように敲打による凹みが深くなり、側面と長軸端にも敲打があるものと、867のように側面と長軸端に敲打を有するが、磨面を有するものに大別される。Ｄグループは、868・869のように敲打による凹みがさらに深くなる反面、表裏に磨面が明確になる。868は安山岩製で表裏の

凹み付近にベンガラが付着している。849のベンガラ付着の石皿と出土地点もほぼ同じで、セットで用いられた可能性もある。Ｅグループは、870～872にみられるように表裏に磨面を有するものが多く、全体的に薄手である。特に871のようにいわゆる石鹸形と呼ばれるように磨面が明確なものを含んでいる。同様に磨面を有するがＥグループほど薄手でなく、やや厚手の礫を用いているのがＦグループである。また、874・875のように側面に敲打痕がみられ、面を形成しているのがＥグループとの大きな違いである。Ｇグループは、磨面も有するが、877・878のように長軸端に敲打痕が多くなる。また、876のように長軸端に剥離痕を有するものも増える。Ｈグループは、不定形のものとした。879は、表裏に深い凹みを有する。880は、凹みはそれほど深くないが、表裏に磨面を有し、側面には敲打による面をもつ。Ｄグループは敲きの頻度が高く、Ｅグループは磨る行為、Ｇグループは叩く行為が想定できる。



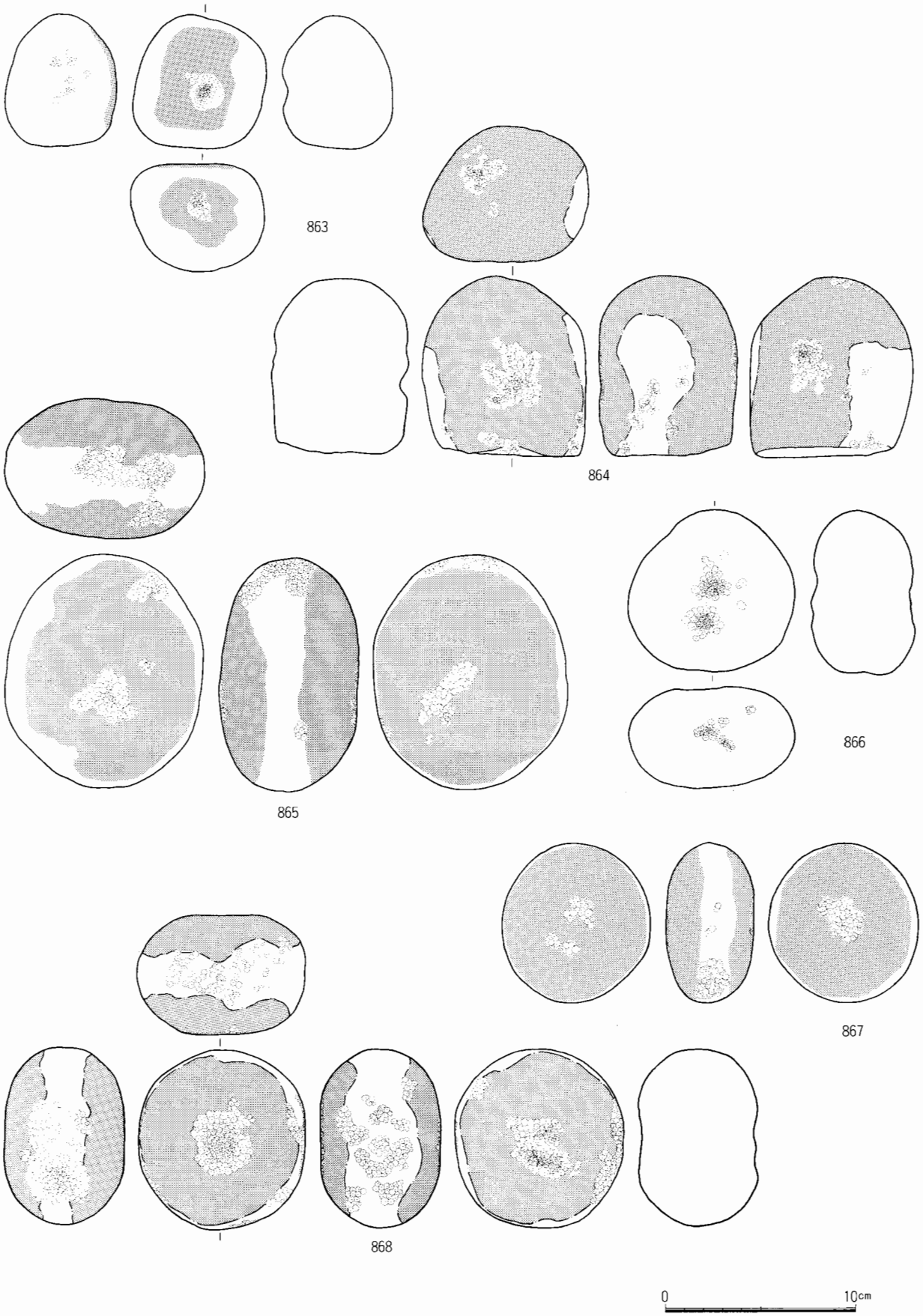
第119図　凹石類の使用痕の割合

16. 台石（第123図881　図版62）

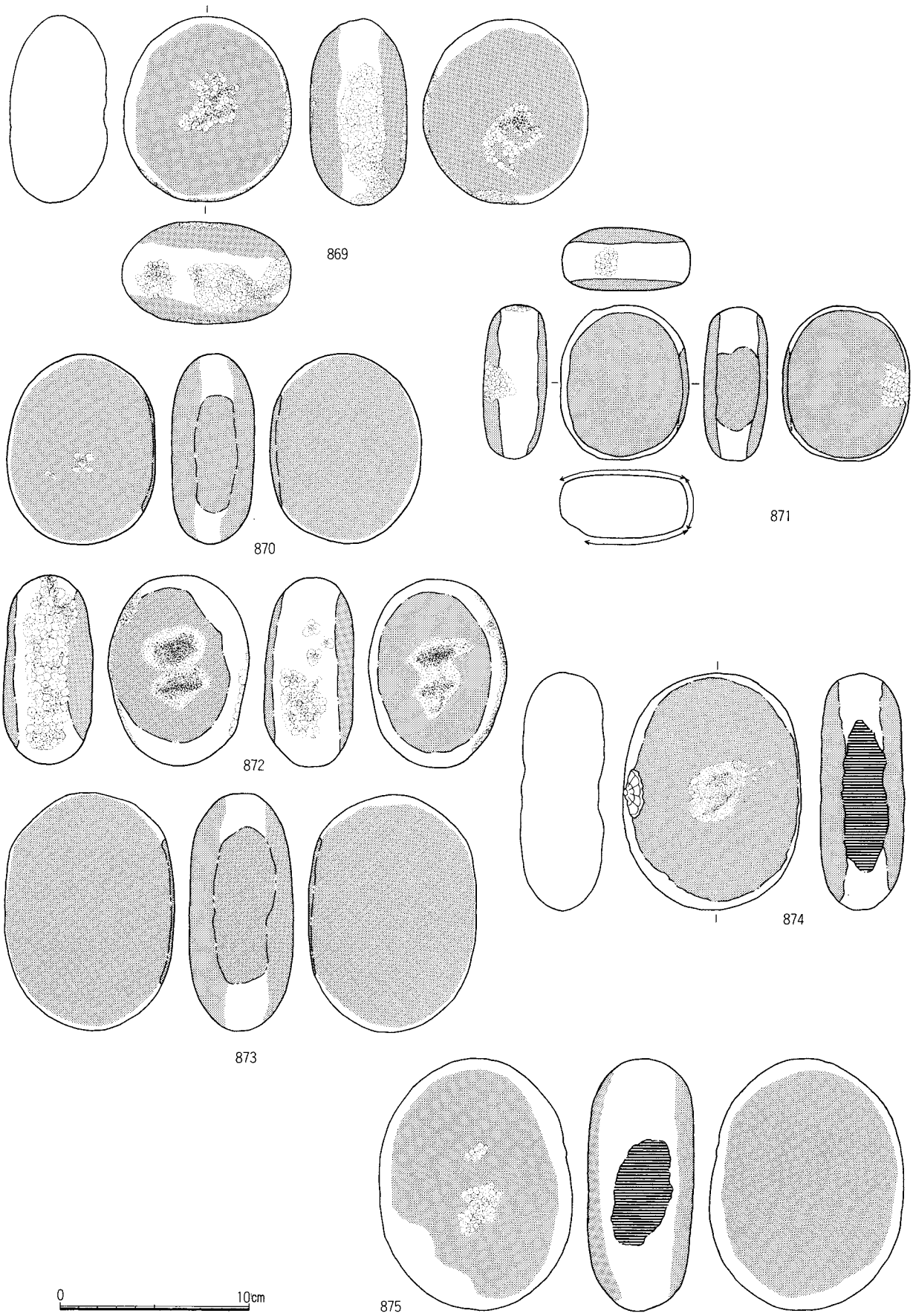
石皿ほど平らな面はないものの、表面に凹みを持ち質量が1,600ｇ以上で、持って使用するには重すぎるものを台石とした。４点出土したうち３点は花こう岩製である。881は、表裏に磨面を有し、石皿のように使用されたことも想定されるが、背面は凸状を呈し中央の凹みは深い。また、敲打の痕跡も広く散在している。腹面側は平らで、地面に設置することを考えると安定している。縁面部は大きく剥離し折損している。

17. 石皿（第123図882　図版62）

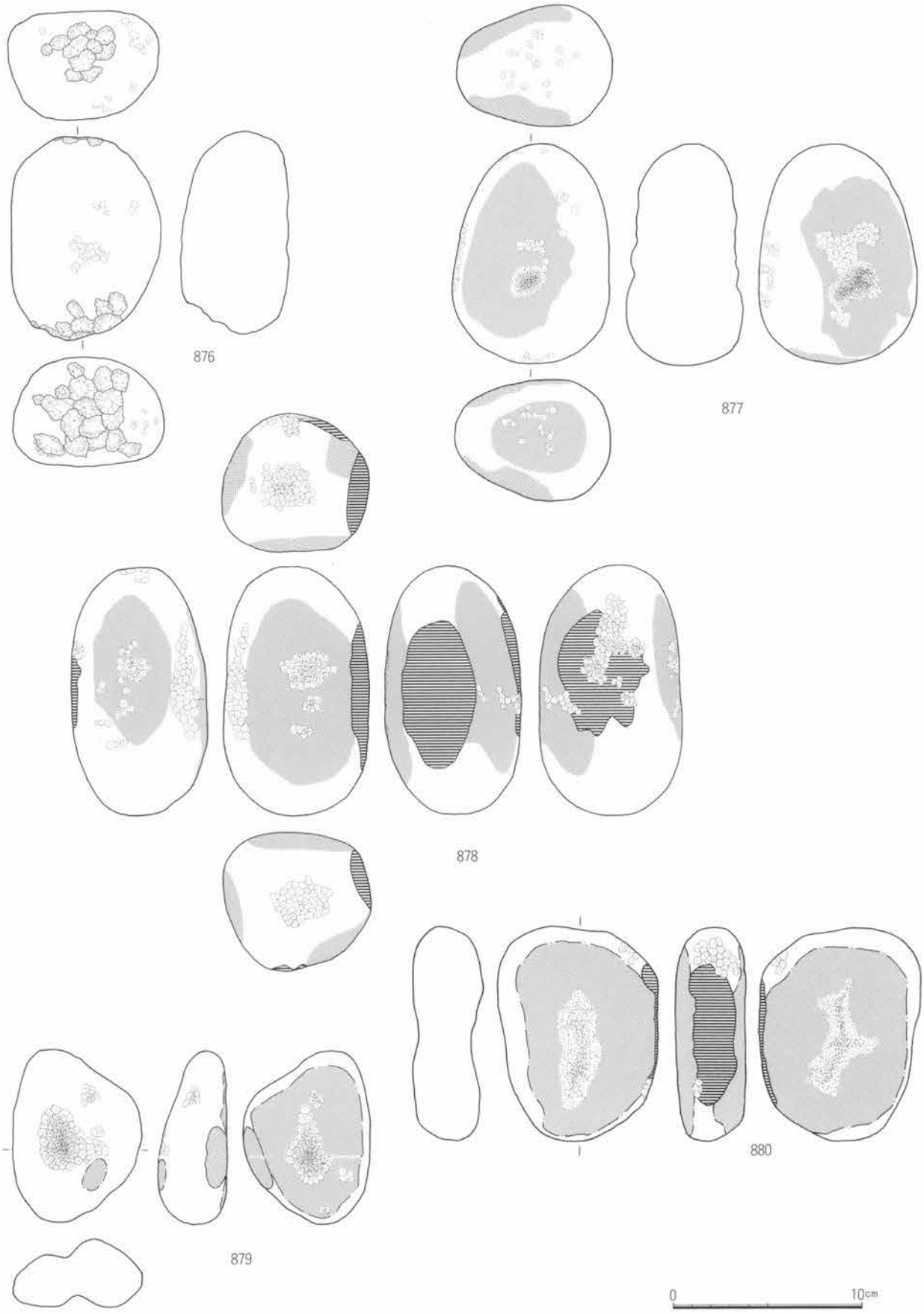
磨る・敲く（叩く）などの作業が想定され、扁平な形状で器面に凹部や磨面を有する石器。堅果類



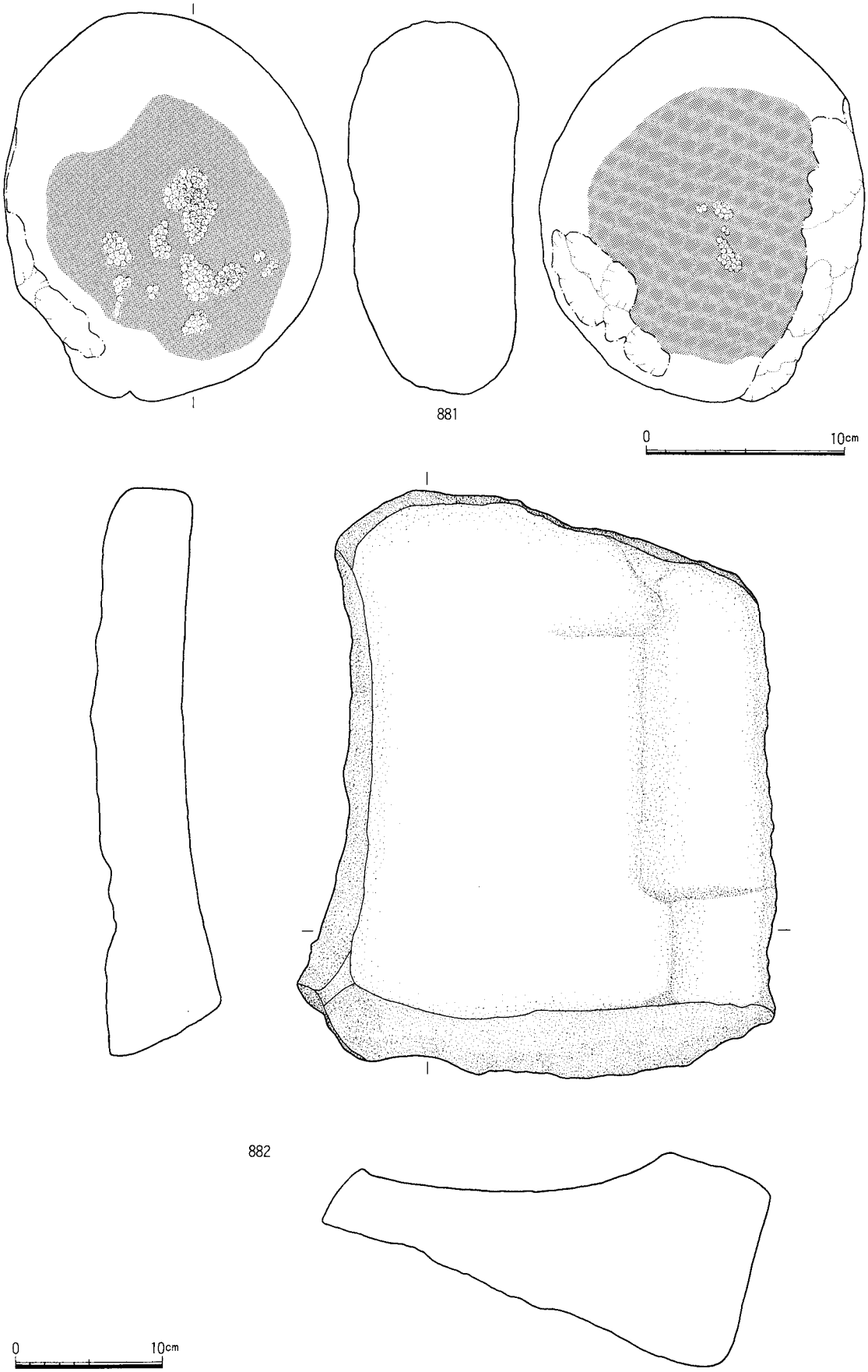
第120図　包含層出土石器（10）　凹石類（1）（S＝1／3）



第121図　包含層出土石器（11）　凹石類（2）（S＝1／3）



第122図　包含層出土石器（12）　凹石類（3）（S＝1／3）



第123図　包含層出土石器（13）　台石（S＝1／3）・石皿（S＝1／4）

の製粉具としての用途が考えられる。３点出土。石材には、安山岩や花こう岩などを用いている。その多くは入手が容易な自然面を有する円礫を使用しており、平面形は円形または楕円形を呈している。

これらは皿部の断面形から、凹状を呈するタイプと平板な形状を呈するタイプの２種に分類できるが、凹状のものは２点で、平板状のものは１点であった。

882は、本遺跡における最も大きなサイズと質量を有するものである。裏面が扁平な形状ではないことから、地面に直接埋め込んで安定させたものと思われる。皿部の長辺は33.8㎝、短辺は19.5㎝の縁のない石皿である。

18. 砥石（第124図883～885　図版62）

研ぎの作業が想定できる石器。６点出土。石材は砂岩３点、蛇紋岩１点。泥岩１点、パイロフィライト１点である。883は、磨製石斧を転用し使用したと思われ、扁平で方形の砥石である。表裏に多条の線条痕を残している。緻密な石材を使用した仕上げ砥石と考えられる。884は、砥面に線状の深い溝のある有溝砥石で、側面にも数条の線状痕を有する。泥岩製で、仕上げ用に使用したと推察される。885は、柱状の砥石で側面に数条の線状痕を有する。上部は一部折損しているが、やや太めの溝がある。下部は棒状の先端を回転使用したと推察され磨耗している。

19. 石製品（第124図886～893　図版63）

(1)石刀（886）１点出土。砂岩製で、有溝石錘を転用したと考えられる。背面左側縁部に一条の溝を有し、右側縁部は平らに整形している。

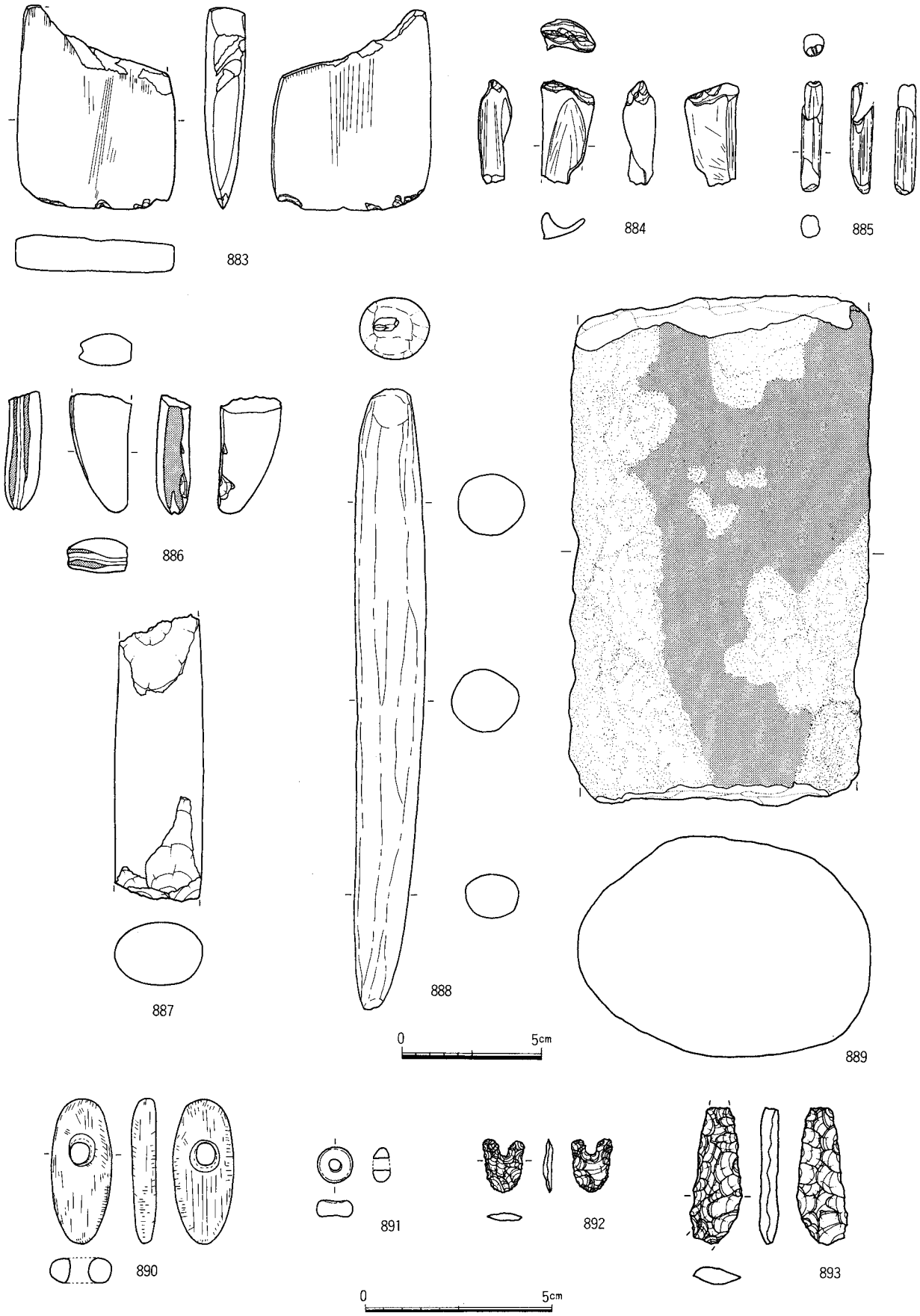
(2)石棒 (887～889) 6 点出土。887は、結晶片岩製で両端が折損している。断面形は、楕円形を呈するが、上部はやや扁平化されている。888は、泥岩製で精巧に研磨されている。断面形は楕円形で、頭部のみ陰刻を施すがくびれはない。889は、安山岩製で、敲打によって形状を整えた後、上半部を中心に研磨を加えている。

(3)垂飾（890）２点出土。890は、表面に整形のための擦痕が多く見られる。翡翠の可能性もあるが比重は2.79でやや軟質のためパイロフィライト製であると考える。穿孔は、表裏の両面から行われたと考えられるが、擦痕が顕著でなく、孔内はつるつるした感触を受ける。また、素材に対してやや軸が垂直ではないが、表面やや上部から裏面中央にかけて、ドリル状工具の回転運動によりあけられたと推察される。表裏面の研磨は基本的には素材に対して縦方向に行われている。

(4)玉類（891）１点出土。蛇文岩製で、ほぼ中央にドリル状工具によってあけられた穿孔を有する。風化しており明確に擦痕は見当たらないが、小型で丹念に整形されている。

(5)異形石器（892）１点出土。両側縁が脚部の上で少しくびれる形態をとる石器。乳白色のチャートを使用。表裏面は左右側縁部を鱗状に剥離調整し、上部に抉りを入れている。裏面は主要剥離面を中央に残しているが、明確な研磨は見当たらない。小型できわめて薄いことから、用途的に切削や掻く作業には適さない。先端の尖り具合やサイズ、そして、縁辺を鋭く連続調整していることから推察すれば、石鏃としての機能も考えられ、形態的にも早期の石鏃に類似するものである。

(6)不明石器（893）１点出土。薄手のサヌカイト製で、上下端が折損している。下部折損が中軸よりややずれており、用途は不明である。



第124図　包含層出土石器（14）　砥石・石刀・石棒（S＝1／2）・その他石製品（S＝2／3）

第28表　石鏃計測・観察表（1）

No.	地区	出土区	層位	遺物番号	石材	法量 長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	質量(g)	抉深(mm)	先端角(°)	折損部位	先端部分類	基部分類	脚部分類	掲載番号	挿図No.	写真図版	備考
1	5	SB2		1469	チャート	23.9	15.8	5.8	2.0		63.5		1	E	a	716	90	50	
2	5	SB2		950	凝灰岩	23.3	18.1	2.9	1.1	4.0	57.2		3	D	b	717	90	50	
3	5	SB5		1162	下呂石	25.1	12.0	2.5	0.4	5.6	42.5		4	A	b	718	90	50	
4	3	SU4		005	下呂石	25.0	(18.9)	5.2	(1.1)	(4.1)	22.5	b	1	D	a	719	90	50	
5	2	SK1		005	下呂石	22.3	13.6	6.0	0.9	2.1	28.0		2	D	b	720	90	50	
6	2	SK9		019	下呂石	21.1	15.1	3.0	0.5	5.7	43.5		1	B	a	721	90	50	
7	2	SK9		006	下呂石	(18.8)	17.2	2.4	(0.4)	5.0	(48.5)	a	(1)	D	b	722	90	50	
8	2	P128		001	サヌカイト	22.0	17.2	5.2	7.9	2.9	21.5		1	D	b	723	90	50	
9	2	SM1		010	下呂石	(21.6)	(16.9)	(4.2)	(1.0)		37.5	d	1			724	90	50	
10	5	37Z	Ⅱd	002	チャート	(14.2)	12.1	2.0	(0.4)	3.5	(48.5)	a	(1)	A	a				
11	2	19G	Ⅲ	002	サヌカイト	20.4	(12.1)	3.2	(1.0)	(2.0)	43.5	b	1	A	a				
12	5	23W	Ⅱa	001	チャート	12.9	(10.7)	1.8	(0.4)	(2.4)	60.5	b	1	A	a				
13	3	28O	Ⅲ	055	サヌカイト	20.1	14.0	3.8	0.7	5.0	45.5		1	A	a	750	98	53	
14	2	22Q	Ⅲ	014	下呂石	20.9	(14.2)	2.2	(0.6)	(4.4)	66.5	b	1	B	a				
15	2	17F	Ⅱc	005	サヌカイト	11.9	(15.1)	3.2	(0.5)	(6.0)	59.5	b	1	B	a				
16	2	18J	Ⅳ	003	サヌカイト	20.9	(13.1)	2.1	(0.5)	(3.7)	48.0	b	1	B	a				
17	3	29O	Ⅰ	007	サヌカイト	(28.5)	(10.7)	3.6	(1.2)	(7.8)	43.5	f	1	B	a				
18	5	33S	Ⅲ	001	サヌカイト	(23.3)	(8.2)	3.1	(0.7)	(4.5)	62.5	f	1	B	a				
19	2	20P	Ⅱd	024	サヌカイト	(24.7)	(14.3)	4.0	(1.1)	(7.2)	49.5	f	1	B	a				
20	3	37K	Ⅱc	014	サヌカイト	18.5	13.3	2.2	0.4	4.4	50.0		1	B	a				
21	2	20P	Ⅱd	013	サヌカイト	20.1	16.3	4.2	1.1	4.8	46.0		1	B	a				
22	2	17G	Ⅲ	012	サヌカイト	19.1	16.1	3.8	0.8	5.1	47.5		1	B	a				
23	3	29D	Ⅲ	004	下呂石	16.1	15.9	2.5	0.4	4.9	58.0		1	B	a				
24	3	28F	Ⅱc	001	サヌカイト	20.6	13.8	2.7	0.7	3.9	45.5		1	B	a				
25	3	28H	Ⅱc	001	サヌカイト	18.6	14.2	3.5	0.8	5.4	47.5		1	B	a				
26	2	22P	Ⅲ	087	サヌカイト	(19.1)	(15.4)	3.2	(0.7)	(4.5)	(40.0)	e	(1)	B	a				
27	3	30C	Ⅲ	005	サヌカイト	(18.8)	(16.7)	3.5	(0.9)	(2.8)	(42.5)	e	(1)	B	a				
28	2	表採		032	下呂石	(23.7)	(18.2)	4.3	(17.9)	(2.2)	(50.0)	e	(1)	B	a				
29	5	28X	Ⅲ	001	チャート	15.1	17.8	2.8	0.3	4.7	63.5	b	1	B	b	751	98	53	
30	2	21P	Ⅲ	001	下呂石	29.9	18.5	3.1	1.0	6.2	32.5		1	B	b	752	98	53	
31	2	16F	Ⅲ	007	下呂石	14.4	(13.7)	2.0	(0.4)	(5.0)	61.0	b	1	B	b				
32	3	29G	Ⅰ	002	サヌカイト	19.8	(12.0)	2.8	(4.0)	(4.7)	53.5	b	1	B	b				
33	3	28I	Ⅱc	001	チャート	15.1	(13.2)	2.8	(0.3)	(4.8)	45.5		1	B	b				
34	2	表採		023	下呂石	16.5	15.5	3.0	0.7	4.1	62.0		1	B	b				
35	3	29F	Ⅱc	020	下呂石	22.7	16.0	3.7	0.7	5.5	54.5		1	B	b				
36	2	18J	Ⅳ	007	チャート	18.0	15.7	4.1	0.6	3.8	46.5		1	B	b				
37	2	18D	Ⅲ	001	サヌカイト	17.8	13.8	3.2	0.6	5.7	49.5		1	B	b				
38	2	18N	Ⅱc	001	チャート	19.6	14.3	3.5	0.9	5.2	61.5		1	B	b				
39	5	31S	Ⅲ	001	チャート	23.4	15.9	4.0	1.0	5.7	38.5		1	B	b				
40	3	26F	Ⅲ	010	サヌカイト	19.5	(16.0)	3.4	(0.7)	(3.8)	41.5	b	1	C	a	753	98	53	
41	2	22P	Ⅲ	058	サヌカイト	(17.0)	14.4	3.3	(0.9)	1.2	(39.5)	a	(1)	C	a				
42	3	31I	Ⅲ	019	下呂石	20.3	(18.5)	4.9	(1.1)	(3.0)	51.5	b	1	C	a				
43	3	29G	Ⅲ	013	サヌカイト	18.6	(14.8)	2.8	(0.5)	(4.1)	51.5	b	1	C	a				
44	3	27I	Ⅱc	007	下呂石	16.1	(13.5)	2.7	(0.4)	(2.5)	50.5	b	1	C	b				
45	2	21O	Ⅳ	012	下呂石	17.2	(13.2)	3.3	(0.6)	(1.6)	45.5	b	1	C	b				
46	2	22P	Ⅲ	077	サヌカイト	(18.1)	18.2	3.5	(0.9)	5.6	(55.5)	a	(1)	D	a				
47	2	20L	Ⅱd	006	下呂石	(16.6)	16.2	3.6	(0.8)	3.7	(45.5)	a	(1)	D	a				
48	5	26b	Ⅲ	001	下呂石	(12.8)	13.5	3.4	(0.4)	3.9	(62.5)	a	(1)	D	a				
49	3	27K	Ⅱc	001	サヌカイト	(18.1)	16.2	3.8	(1.4)	0.8	(47.5)	a	(1)	D	a				
50	2	22Q	Ⅱd	001	下呂石	(21.0)	19.2	2.7	(1.1)	3.8	(45.5)	a	(1)	D	a				
51	5	25Z	Ⅲ	004	チャート	15.0	(13.9)	3.2	(0.5)	(2.6)	43.5	b	1	D	a				
52	5	30c	Ⅲ	004	チャート	13.5	(0.9)	2.6	(0.3)	(2.0)	55.5	b	1	D	a				
53	3	28F	Ⅱc	002	サヌカイト	20.2	(14.8)	4.0	(1.0)	(4.0)	54.5	b	1	D	a				
54	3	27H	Ⅳ	001	サヌカイト	24.2	(13.9)	2.9	(0.8)	(2.2)	46.5	b	1	D	a				
55	2	20N	Ⅱc	003	サヌカイト	18.7	(12.8)	2.1	(0.5)	(2.3)	45.5	b	1	D	a				
56	3	26F	Ⅱc	026	サヌカイト	19.4	(13.6)	2.8	(0.7)	(1.8)	47.0	b	1	D	a				
57	3	28N	Ⅲ	039	サヌカイト	25.6	(17.1)	6.8	(2.6)	(1.8)	45.5	b	1	D	a				
58	2	22P	Ⅲ	035	チャート	17.5	(13.5)	4.1	(0.7)	(1.1)	48.5	b	1	D	a				
59	2	19G	Ⅲ	005	チャート	18.7	(12.5)	4.2	(1.7)	(1.1)	62.5	b	1	D	a				
60	3	30G	Ⅱc	019	サヌカイト	6.2	(13.2)	4.0	(0.7)	(1.2)	58.5	b	1	D	a				
61	3	32G	Ⅱc	010	サヌカイト	17.3	(11.9)	2.3	(0.5)	(1.4)	64.5	b	1	D	a				
62	2	22Q	Ⅱc	003	サヌカイト	23.2	(15.8)	3.9	(1.0)	(1.1)	52.5	b	1	D	a				
63	3	31J	Ⅱc	002	サヌカイト	22.0	(17.8)	3.3	(0.9)	(1.8)	62.5	b	1	D	a				
64	3	30E	Ⅲ	032	サヌカイト	(30.0)	(12.1)	3.5	(1.4)	(1.0)	46.1	f	1	D	a				
65	2	20M	Ⅳ	005	下呂石	(15.2)	(13.2)	2.3	(0.4)		47.5	g	1	D	a				
66	5	25f	Ⅲ	006	下呂石	(13.5)	(11.1)	2.5	(0.5)		50.0	g	1	D	a				
67	3	28I	Ⅲ	030	サヌカイト	21.8	16.7	3.8	0.9	2.2	54.5		1	D	a				
68	2	17F	Ⅱd	019	サヌカイト	20.5	16.3	5.5	1.2	3.5	49.5		1	D	a				
69	2	17E	Ⅲ	008	サヌカイト	14.8	13.2	2.9	0.5	2.4	53.5		1	D	a				
70	2	18L	Ⅲ	007	チャート	21.8	17.3	5.0	1.4	2.2	41.5		1	D	a				
71	2	18F	Ⅳ	006	下呂石	16.0	15.4	2.9	0.4	3.5	63.5		1	D	a				
72	3	30C	Ⅲ	006	チャート	14.1	10.9	2.2	0.3	1.9	62.5		1	D	a				
73	2	19J	Ⅱc	001	下呂石	16.8	11.5	3.2	0.6	1.4	45.0		1	D	a				
74	5	35X	Ⅳ	001	下呂石	19.2	16.8	3.4	0.6	2.3	58.5		1	D	a				
75	3	30M	Ⅱc	005	サヌカイト	22.1	18.8	5.0	2.0	0.8	48.5		1	D	a				

第29表　石鏃計測・観察表（2）

No.	地区	出土区	層位	遺物番号	石材	法量 長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	質量(g)	抉深(mm)	先端角(°)	折損部位	先端部分類	基部分類	脚部分類	掲載番号	挿図No.	写真図版	備考
76	2	23P	Ⅱc	004	サヌカイト	29.2	26.0	5.7	3.9	2.1	63.5		1	D	a				
77	3	40K	Ⅱc	003	下呂石	15.2	15.0	3.3	0.6	3.0	64.5		1	D	a				
78	2	20G	Ⅳ	002	サヌカイト	15.5	12.3	3.3	0.3	1.0	52.5		1	D	a				
79	1	8T	Ⅲ	001	チャート	19.8	14.0	3.9	0.7	0.4	35.5		1	D	b	754	98	53	
80	2	20Q	Ⅱd	024	サヌカイト	(23.5)	15.7	3.1	(0.9)	2.5	(56.0)	a	(1)	D	b				
81	5	29R	Ⅲ	002	チャート	(14.8)	13.7	3.5	(0.6)	3.1	(35.5)	a	(1)	D	b				
82	2	20R	Ⅱc	004	サヌカイト	(20.8)	17.0	3.8	(1.1)	3.1	(46.5)	a	(1)	D	b				
83	5	26g	Ⅲ	001	チャート	(13.8)	14.1	4.6	(0.6)	3.7	(66.5)	a	(1)	D	b				
84	5	28b	Ⅳ	004	下呂石	(15.7)	14.5	3.0	(0.6)	1.6	(52.5)	a	(1)	D	b				
85	5	27b	Ⅲ	003	チャート	19.5	(14.9)	4.1	(1.4)	(2.1)	64.5	b	1	D	b				
86	3	28O	Ⅱc	022	下呂石	15.4	(16.3)	4.5	(0.7)	(2.1)	47.5	b	1	D	b				
87	2	20J	Ⅱd	012	サヌカイト	14.6	(14.2)	4.0	(0.6)	(1.1)	54.5	b	1	D	b				
88	2	20G	Ⅳ	010	サヌカイト	18.0	(13.4)	3.2	(0.6)	(2.9)	44.5	b	1	D	b				
89	2	18E	Ⅱd	001	サヌカイト	13.9	(14.2)	3.2	(0.5)	(2.0)	57.5	b	1	D	b				
90	5	28T	Ⅲ	001	サヌカイト	22.6	(17.8)	5.4	(1.3)	(2.2)	57.5	b	1	D	b				
91	3	28H	Ⅲ	013	下呂石	18.2	(13.8)	2.9	(0.5)	(1.8)	43.5	b	1	D	b				
92	2	17J	Ⅱc	035	チャート	18.5	19.5	3.0	0.6	3.2	61.5		1	D	b				
93	3	31I	Ⅲ	018	サヌカイト	13.4	12.5	4.0	0.4	1.7	50.5		1	D	b				
94	2	19I	Ⅲ	008	チャート	19.1	13.2	3.2	0.5	2.5	50.5		1	D	b				
95	2	17K	Ⅱc	007	チャート	13.8	11.5	3.5	0.3	3.0	60.5		1	D	b				
96	2	16H	Ⅳ	001	チャート	18.2	17.9	3.6	0.7	2.6	55.5		1	D	b				
97	3	29H	Ⅱc	001	チャート	18.5	18.8	5.7	1.2	3.2	52.5		1	D	b				
98	5	31T	Ⅲ	001	下呂石	15.4	11.1	3.3	0.5	2.0	47.5		1	D	b				
99	3	29F	Ⅱc	035	下呂石	17.7	16.6	2.7	0.5	3.5	51.5		1	D	b				
100	2	22R	Ⅱc	001	サヌカイト	20.4	14.0	3.9	1.0	1.2	37.5		1	D	b				
101	3	表採		002	チャート	(17.0)	(16.2)	2.8	(0,7)	(2.5)	(47.5)	e	(1)	D	b				
102	3	31E	Ⅱb	005	下呂石	(21.6)	(13.3)	1.0	(0.8)	(3.5)	(41.5)	e	(1)	D	b				
103	2	19J	Ⅱc	004	チャート	(22.5)	19.2	7.5	(3.3)		(45.0)	a	(1)	E	a				
104	2	17I	Ⅲ	008	下呂石	(19.8)	21.5	4.2	(1.5)		(53.5)	a	(1)	E	a				
105	2	21Q	Ⅱd	001	泥岩	28.4	(18.2)	4.2	(2.3)		50.0	b	1	E	a				
106	2	17F	Ⅱc	011	下呂石	19.6	16.4	4.6	1.0		61.5		1	E	a				
107	2	20I	Ⅳ	008	下呂石	19.0	14.2	5.0	1.2		48.5		1	E	a				
108	2	22Q	Ⅱc	005	サヌカイト	19.0	17.7	4.0	1.1		51.5		1	E	a				
109	3	31J	Ⅱc	004	サヌカイト	21.7	18.7	5.8	2.3		58.5		1	E	a				
110	2	21P	Ⅲ	003	下呂石	25.5	19.8	5.9	2.4		62.5		1	E	a				
111	3	32G	Ⅲ	001	下呂石	(17.8)	17.0	4.1	(1.9)		(45.5)	a	(1)	E	a				
112	3	29L	Ⅱc	005	下呂石	(21.5)	16.2	5.0	(2.2)		(60.1)	a	(1)	E	a				
113	2	18G	Ⅲ	009	サヌカイト	(16.1)	(17.0)	3.2	(1.0)		(50.5)	e	(1)	E	a				
114	2	17J	Ⅳ	004	チャート	22.5	17.0	5.1	7.3		32.5		1	E	b	755	98	53	
115	5	26e	Ⅲ	014	チャート	15.8	(10.5)	2.9	(0.2)		50.5	b	1	E	b				
116	2	22O	Ⅱc	014	サヌカイト	(20.3)	(14.6)	4.2	(1.0)		63.5	g	1	F	a				
117	2	16H	Ⅳ	008	チャート	21.0	16.5	5.5	1.8		57.5		1	F	a	756	98	53	
118	2	17J	Ⅱc	029	サヌカイト	27.0	19.5	4.5	2.1		58.0		1	F	a				
119	2	20M	Ⅱc	007	下呂石	23.8	16.0	5.2	2.0		54.5		1	F	a				
120	3	27N	Ⅱc	001	泥岩	19.8	14.9	2.9	0.9		64.5		1	F	a				
121	3	31I	Ⅲ	028	サヌカイト	30.0	18.0	5.3	2.9		60.5		1	F	a				
122	2	22O	Ⅲ	009	サヌカイト	26.2	15.6	3.2	1.4		58.5		1	F	a				
123	3	28H	Ⅲ	008	下呂石	27.9	18.1	4.4	2.2		63.5		1	F	a				
124	2	20P	Ⅲ	006	サヌカイト	26.1	18.8	6.5	2.7		56.0		1	F	a				
125	3	29N	Ⅲ	005	サヌカイト	24.2	16.9	4.8	2.1		64.5		1	F	a				
126	2	21O	Ⅱc	004	サヌカイト	16.1	12.7	2.6	0.6		41.5		1	F	a				
127	3	31I	Ⅲ	002	チャート	16.2	15.5	3.8	0.8		60.5		1	F	a				
128	2	18F	Ⅳ	010	チャート	22.7	(16.4)	7.2	(4.1)		48.5	b	1	G	a				
129	5	40Z	Ⅲ	004	サヌカイト	27.8	14.3	6.5	1.4		48.5		1	G	a	757	98	53	
130	5	27W	Ⅱa	004	チャート	17.6	13.0	4.8	0.7	2.8	54.5		1	H	a	758	98	53	
131	3	表採		001	サヌカイト	(19.2)	16.1	3.1	(0.7)	5.2	(43.5)	a	(1)	H	a				
132	2	18L	Ⅱc	011	下呂石	(11.9)	15.0	2.6	(0.5)	3.8	(54.0)	a	(1)	H	a				
133	2	19G	Ⅳ	002	チャート	14.9	12.2	2.5	0.4	1.3	45.5		1	H	a				
134	5	29Y	Ⅲ	001	チャート	15.9	12.3	3.5	0.5	2.0	47.5		1	H	b				
135	3	29L	Ⅱc	009	サヌカイト	(26.7)	(18.0)	(3.5)	(1.4)		(58.5)	c	(1)						
136	2	19F	Ⅲ	020	サヌカイト	(25.5)	(13.9)	(2.2)	(0.8)		43.0	d	1						
137	2	17K	Ⅱc	012	サヌカイト	(20.0)	(17.2)	(4.3)	(1.2)		47.5	d	1						
138	2	18D	Ⅱc	011	チャート	(7.1)	(12.1)	(3.4)	(0.5)		45.5	d	1						
139	2	19I	Ⅳ	006	石英	(16.7)	(14.5)	(6.1)	(1.4)		50.5	d	1						
140	3	31H	Ⅲ	006	サヌカイト	(22.2)	(16.2)	3.2	(0.9)		59.5	g	1						
141	2	17E	Ⅳ	001	チャート	(22.3)	(15.5)	3.2	(1.3)		45.5	g	1						
142	2	18H	Ⅱc	002	サヌカイト	(22.3)	14.6	4.6	(1.3)	4.0	(33.5)	a	(2)	A	a				
143	2	19E	Ⅲ	024	サヌカイト	34.8	17.0	5.9	2.3	4.8	24.2		2	A	a	759	98	53	
144	2	20E	Ⅲ	002	チャート	20.8	12.1	3.7	0.9	3.9	33.5		2	A	a				
145	2	19E	Ⅲ	018	下呂石	29.4	19.1	3.4	1.2	5.2	32.5		2	B	a	760	98	53	
146	3	31O	Ⅲ	005	チャート	26.0	(12.0)	3.5	(0.7)	(4.1)	26.5	b	2	B	a	761	98	53	
147	3	26F	Ⅱc	012	サヌカイト	(19.4)	13.6	3.8	(0.8)	3.5	(28.5)	a	(2)	B	a				
148	3	27N	Ⅱc	002	下呂石	26.3	(13.9)	4.0	(0.9)	(5.8)	24.5	b	2	B	a				
149	2	16E	Ⅳ	001	チャート	15.9	13.5	2.8	0.4	3.8	35.5		2	B	a				
150	3	28D	Ⅰ	003	下呂石	(23.3)	(23.1)	3.2	(0.6)	(7.3)	(37.5)	e	(2)	B	a				

第30表　石鏃計測・観察表（3）

No.	地区	出土区	層位	遺物番号	石材	法量 長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	質量(g)	抉深(mm)	先端角(°)	折損部位	先端部分類	基部分類	脚部分類	掲載番号	神図No.	写真図版	備考
151	5	27c	Ⅰ	001	チャート	28.1	19.6	4.1	1.2	6.1	34.0		2	B	b				
152	2	17E	Ⅲ	001	泥岩	18.1	12.7	3.0	0.5	4.0	31.5		2	B	b				
153	2	19F	Ⅳ	001	下呂石	16.1	12.3	2.6	0.4	4.1	38.5		2	B	b				
154	3	29L	Ⅲ	001	下呂石	21.5	14.2	2.5	0.8	4.6	35.5		2	B	b				
155	3	31H	Ⅲ	001	サヌカイト	15.3	8.3	2.2	0.3	1.0	56.5		2	C	a				
156	5	25Z	Ⅲ	005	チャート	(14.2)	12.0	3.1	(0.4)	3.2	(39.8)	a	(2)	C	b	762	98	53	
157	3	30H	Ⅱc	004	サヌカイト	23.7	12.2	3.8	0.6	2.3	29.5		2	C	b				
158	5	29a	Ⅲ	004	チャート	25.0	14.8	4.2	1.1	3.3	43.5		2	D	a	763	98	53	
159	5	26Y	Ⅲ	006	サヌカイト	(25.0)	17.2	3.2	(1.1)	3.8	(31.5)	a	(2)	D	a				
160	5	29b	Ⅲ	001	チャート	(33.5)	20.1	7.1	(4.4)	2.7	(36.5)	a	(2)	D	a				
161	2	17K	Ⅲ	006	チャート	(21.1)	13.1	3.5	(0.6)	3.0	(34.5)	a	(2)	D	a				
162	3	27I	Ⅱc	008	サヌカイト	(18.1)	15.9	3.2	(0.9)	1.5	(38.5)	a	(2)	D	a				
163	2	19M	Ⅳ	004	サヌカイト	(20.0)	15.8	3.7	(4.6)	2.3	(33.5)	a	(2)	D	a				
164	2	22P	Ⅱd	018	泥岩	(26.9)	18.9	5.2	(1.9)	2.0	(36.5)	a	(2)	D	a				
165	2	20I	Ⅱd	015	サヌカイト	(21.8)	17.9	4.1	(1.4)	0.3	(36.5)	a	(2)	D	a				
166	3	28N	Ⅲ	001	下呂石	(19.1)	16.6	4.8	(1.1)	0.7	(41.5)	a	(2)	D	a				
167	2	19F	Ⅲ	015	チャート	20.4	(12.8)	4.2	(1.0)	(1.4)	39.5	b	2	D	a				
168	2	20M	Ⅲ	005	サヌカイト	17.9	(13.8)	3.8	(0.7)	(1.0)	38.5	b	2	D	a				
169	2	22P	Ⅲ	018	下呂石	27.1	(16.0)	3.1	(0.9)	(1.6)	33.0	b	2	D	a				
170	2	17G	Ⅲ	014	サヌカイト	18.4	12.5	3.0	0.5	2.0	36.5		2	D	a				
171	2	19E	Ⅲ	019	サヌカイト	20.1	13.5	3.0	0.7	1.1	20.0		2	D	a				
172	5	25X	Ⅲ	003	チャート	21.9	14.2	5.0	1.2	1.4	47.5		2	D	a				
173	3	28B	Ⅲ	001	サヌカイト	15.9	13.2	3.8	0.5	1.3	32.5		2	D	a				
174	2	20H	Ⅱd	006	サヌカイト	20.4	13.2	3.9	0.8	0.9	39.5		2	D	a				
175	2	20G	Ⅱd	006	サヌカイト	20.2	14.8	2.9	0.5	2.9	37.5		2	D	b	764	98	53	
176	3	29K	Ⅱc	001	下呂石	21.2	14.5	3.7	0.5	2.5	41.5		2	D	b	765	98	53	
177	2	20H	Ⅱd	007	サヌカイト	(23.4)	16.2	3.2	(0.9)	3.1	(37.0)	a	(2)	D	b				
178	3	30H	Ⅱc	005	下呂石	(17.1)	16.1	3.2	(0.7)	2.2	(28.5)	a	(2)	D	b				
179	3	29G	Ⅱc	002	下呂石	(21.5)	16.2	2.8	(0.7)	4.2	(30.0)	a	(2)	D	b				
180	2	17G	Ⅱc	006	チャート	(14.2)	11.2	3.0	(0.4)	1.4	(34.0)	a	(2)	D	b				
181	2	16H	Ⅲ	006	下呂石	(15.0)	12.1	3.8	(0.6)	2.9	(32.5)	a	(2)	D	b				
182	2	17I	Ⅳ	003	下呂石	(15.9)	12.0	5.2	(13.7)	1.2	(35.0)	a	(2)	D	b				
183	4	46L	Ⅲ	004	チャート	28.2	(14.9)	3.6	(1.3)	(2.5)	37.5	b	2	D	b				
184	2	17F	Ⅱd	011	下呂石	19.2	(11.8)	1.9	(0.5)	(1.0)	36.0	b	2	D	b				
185	2	17F	Ⅳ	001	チャート	22.2	(13.8)	4.2	(1.0)	(2.0)	34.0	b	2	D	b				
186	2	17G	Ⅲ	013	チャート	15.7	8.2	2.5	0.4	2.6	30.5		2	D	b				
187	2	20F	Ⅱd	009	サヌカイト	22.2	15.0	2.2	0.8	2.0	36.0		2	D	b				
188	2	20M	Ⅳ	001	サヌカイト	25.4	13.2	4.5	1.2	1.4	34.5		2	D	b				
189	3	30P	Ⅱc	002	サヌカイト	23.9	16.2	2.7	0.7	2.4	39.5		2	D	b				
190	2	表採		033	チャート	20.5	13.5	4.6	8.5	1.5	34.0		2	D	b				
191	2	20I	Ⅱd	016	下呂石	17.2	10.7	3.2	0.5	1.1	40.5		2	D	b				
192	2	19G	Ⅱc	001	サヌカイト	(12.2)	(12.9)	3.2	(0.6)	(3.1)	(29.5)	e	(2)	D	b				
193	2	22P	Ⅲ	069	チャート	(26.0)	(14.6)	5.5	(1.7)		34.5	f	2	E	a	766	98	53	
194	2	19K	Ⅳ	006	下呂石	(14.5)	16.9	3.5	(1.8)		(36.5)	a	(2)	E	a				
195	2	19J	Ⅲ	001	チャート	(20.8)	22.1	3.8	(1.8)		(34.5)	a	(2)	E	a				
196	3	31F	Ⅰ	001	サヌカイト	(14.5)	12.2	3.5	(0.7)		(36.5)	a	(2)	E	a				
197	2	20I	Ⅳ	007	下呂石	21.0	12.3	4.5	1.0		31.5		2	E	a				
198	2	18H	Ⅲ	007	下呂石	19.1	14.1	2.3	2.5		39.2		2	E	a				
199	3	28O	Ⅱc	059	サヌカイト	(23.9)	12.9	3.3	(1.1)		(28.5)	a	(2)	E	b				
200	2	18G	Ⅲ	015	下呂石	19.9	(15.5)	2.0	(0.4)		20.5	b	2	E	b				
201	3	27F	Ⅲ	007	サヌカイト	18.6	12.2	2.4	0.6		26.5		2	E	b				
202	5	38X	Ⅲ	003	チャート	(28.9)	22.1	6.6	(3.9)		(41.5)	a	(2)	F	a				
203	2	17E	Ⅲ	009	サヌカイト	17.0	9.0	4.8	0.6		36.2		2	F	a	767	98	53	
204	3	26G	Ⅱc	002	下呂石	(27.9)	(11.2)	5.8	(2.8)		(43.2)	e	(2)	F	a				
205	5	31X	Ⅱb	003	チャート	25.1	11.8	6.8	1.5	2.4	32.0		2	H	b	768	98	53	
206	3	26F	Ⅱc	013	下呂石	(24.0)	(14.8)	(3.0)	(0.9)		34.0	d	2						
207	2	17K	Ⅱc	008	チャート	(16.9)	(14.0)	(4.7)	(0.8)		41.5	d	2						
208	2	表採		024	下呂石	20.1	21.1	4.1	1.2	5.4	63.0		3	B	a	769	98	53	
209	2	22P	Ⅲ	068	下呂石	(24.2)	22.9	3.6	(1.4)	5.8	(73.5)	a	(3)	B	a				
210	3	30M	Ⅱc	008	泥岩	17.5	(17.5)	3.2	(0.7)	(5.8)	86.5	b	3	B	a				
211	2	22P	Ⅲ	066	下呂石	(32.5)	(13.7)	2.5	(1.4)	(4.1)	63.4	f	3	B	a				
212	2	20P	Ⅲ	015	下呂石	13.2	15.5	4.2	0.4	3.9	71.5		3	B	a				
213	2	17K	Ⅲ	012	下呂石	20.7	23.0	3.1	1.0	6.9	81.5		3	B	a				
214	2	19Q	Ⅱc	001	サヌカイト	17.1	17.8	2.2	0.7	5.3	52.5		3	B	a				
215	3	30M	Ⅱc	006	サヌカイト	18.1	14.5	3.9	1.0	1.2	78.5		3	D	a	770	98	53	
216	2	20F	Ⅱd	010	サヌカイト	(16.7)	16.7	2.3	(0.7)	2.8	(77.5)	a	(3)	D	a				
217	2	18E	Ⅲ	007	下呂石	(16.3)	15.7	2.5	(0.6)	1.3	(73.5)	a	(3)	D	a				
218	3	表採		031	下呂石	19.3	(9.8)	5.0	(1.0)	(3.0)	67.5	b	3	D	a				
219	2	22P	Ⅱd	017	サヌカイト	22.3	16.3	3.5	1.0	4.0	72.5		3	D	a				
220	2	17G	Ⅱc	011	サヌカイト	15.6	16.3	4.0	0.7	1.9	68.5		3	D	a				
221	5	32b	Ⅰ	003	チャート	15.0	13.5	3.1	0.4	1.8	87.5		3	D	a				
222	3	29N	Ⅲ	032	サヌカイト	16.2	14.4	1.7	0.3	3.6	75.5		3	D	a				
223	2	19D	Ⅱc	020	サヌカイト	12.3	16.0	3.9	1.0	2.5	71.0		3	D	a				
224	2	18M	Ⅲ	008	サヌカイト	14.5	15.1	3.8	0.7	4.5	74.5		3	D	a				
225	5	25Z	Ⅲ	004	チャート	14.8	14.5	4.0	0.8	3.2	70.5		3	D	a				

第31表　石鏃計測・観察表（4）

No.	地区	出土区	層位	遺物番号	石材	法量 長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	質量(g)	抉深(mm)	先端角(°)	折損部位	先端部分類	基部分類	脚部分類	掲載番号	挿図No.	写真図版	備考
226	5	20X	Ⅲ	001	チャート	18.5	15.2	3.8	1.1	4.0	80.5		3	D	a				
227	2	20F	Ⅲ	027	サヌカイト	20.5	13.9	4.3	1.2	0.7	74.5		3	D	a				
228	3	29G	Ⅲ	014	下呂石	8.1	14.7	3.6	0.6	1.8	76.5		3	D	a				
229	2	20E	Ⅱd	008	泥岩	18.3	20.0	4.8	1.4	2.0	76.5		3	D	a				
230	3	28F	Ⅱc	005	チャート	18.1	12.8	3.2	0.7	0.5	81.5		3	D	a				
231	3	32O	Ⅱc	004	サヌカイト	24.2	18.3	5.2	2.4	2.7	91.5		3	D	a				
232	2	20R	Ⅱc	003	サヌカイト	14.0	19.5	3.2	1.3	1.2	74.5		3	D	a				
233	2	17H	Ⅱc	009	チャート	10.4	12.0	2.5	0.2	2.0	71.5		3	D	b	771	98	53	
234	3	28P	Ⅲ	001	サヌカイト	(21.3)	17.2	2.7	(1.0)	4.5	(69.5)	a	(3)	D	b				
235	3	28I	Ⅲ	003	泥岩	20.0	17.2	3.2	0.8	4.4	69.5		3	D	b				
236	2	18L	Ⅳ	010	サヌカイト	12.6	14.9	2.1	0.4	1.6	69.5		3	D	b				
237	3	27I	Ⅲ	004	下呂石	13.5	13.8	3.6	0.6	1.5	64.5		3	D	b				
238	3	31G	Ⅰ	007	サヌカイト	(19.5)	(16.4)	4.1	(1.0)	(1.9)	(62.5)	e	(3)	D	b				
239	5	32X	Ⅳ	002	チャート	26.2	(16.4)	8.1	(3.6)		83.4	b	3	E	a				
240	2	16I	Ⅳ	003	サヌカイト	(30.0)	(29.8)	8.2	(5.6)		71.5	f	3	E	a				
241	2	20I	Ⅳ	003	サヌカイト	18.4	14.2	4.8	7.1		67.5		3	E	a				
242	3	28O	Ⅱc	021	下呂石	17.3	17.1	2.0	0.5		75.5		3	E	a				
243	2	18E	Ⅲ	009	チャート	20.3	18.5	6.9	3.0		71.5		3	E	a	772	98	53	
244	2	19K	Ⅳ	003	サヌカイト	15.6	17.3	2.8	0.8		98.0		3	E	a				
245	5	33Y	Ⅲ	007	チャート	23.9	17.2	4.2	2.0		80.5		3	E	a				
246	2	19R	Ⅱc	001	サヌカイト	27.1	(19.2)	7.4	(3.3)		70.5	b	3	F	a				
247	5	28T	Ⅲ	009	チャート	19.1	(15.9)	4.7	(1.5)		82.5	b	3	F	a				
248	2	17I	Ⅱc	005	チャート	18.0	(14.6)	3.9	(0.9)		77.5	b	3	F	a				
249	2	23R	Ⅲ	003	チャート	21.1	(13.9)	3.8	(0.6)		80.5	b	3	F	a				
250	2	17F	Ⅱd	025	サヌカイト	22.4	17.1	4.8	1.7		78.5		3	F	a				
251	3	28K	Ⅲ	006	チャート	27.8	21.9	9.3	5.6		62.5		3	F	a				
252	2	表採		026	サヌカイト	30.8	19.2	5.5	4.9		69.5		3	F	a				
253	2	18L	Ⅱc	013	下呂石	21.8	17.1	5.5	1.8		66.5		3	F	a				
254	2	17F	Ⅲ	010	チャート	25.9	18.8	5.5	2.8		74.5		3	F	a				
255	2	17K	Ⅲ	009	チャート	27.9	23.1	7.4	4.7		75.5		3	F	a	773	98	53	
256	3	25E	Ⅱc	028	チャート	(23.7)	(21.5)	(7.8)	(3.7)		82.5	d	3						
257	3	30M	Ⅱc	007	チャート	(15.6)	(12.6)	(4.3)	(0.6)		74.5	d	3						
258	2	22R	Ⅱd	004	サヌカイト	(15.0)	(11.4)	(4.2)	(0.7)		75.5	d	3						
259	3	28D	Ⅰ	003	サヌカイト	(17.6)	(18.0)	(2.8)	(1.0)		79.5	d	3						
260	5	37Z	Ⅱc	001	チャート	(13.6)	(16.8)	(5.1)	(1.1)		70.5	d	3						
261	3	26D	Ⅰ	005	サヌカイト	(18.1)	(15.3)	(4.4)	(1.6)		74.5	d	3						
262	5	28W	Ⅰ	001	チャート	(19.8)	(15.2)	(7.2)	(2.6)		82.0	d	3						
263	2	21O	Ⅳ	009	下呂石	(19.8)	(18.9)	(2.0)	(0.8)		72.5	d	3						
264	3	29L	Ⅱc	008	サヌカイト	(23.3)	(16.4)	(5.1)	(1.9)		74.0	d	3						
265	2	16P	Ⅲ	010	サヌカイト	(25.2)	(9.8)	3.1	(0.7)		65.5	f	3						
266	3	27I	Ⅲ	003	サヌカイト	24.0	(16.2)	4.5	(1.1)	(4.2)	74.5	b	4	B	a				
267	3	31O	Ⅲ	004	サヌカイト	24.0	18.1	4.2	0.9	4.5	69.5		4	B	a	774	98	53	
268	2	19Q	Ⅲ	009	チャート	23.0	15.8	2.6	0.8	4.3	87.5		4	B	a				
269	5	35Z	Ⅳ	002	サヌカイト	30.2	(18.7)	3.3	(1.5)	(4.2)	63.5	b	4	C	a	775	98	53	
270	3	29G	Ⅲ	005	サヌカイト	20.1	16.2	2.7	0.5	1.9	45.5		4	D	a	776	98	53	
271	3	28J	Ⅲ	001	下呂石	18.5	12.2	3.1	0.3	1.5	60.5		4	D	a	777	98	53	
272	2	20E	Ⅲ	001	下呂石	17.2	(12.9)	3.1	(0.6)	(1.5)	82.2	b	4	D	a				
273	2	20K	Ⅳ	007	サヌカイト	21.4	(14.0)	2.9	(0.8)	(2.7)	78.5	b	4	D	a				
274	2	19Q	Ⅱd	001	サヌカイト	19.9	(13.0)	3.5	(1.0)	(1.2)	48.0	b	4	D	a				
275	3	31I	Ⅲ	017	サヌカイト	19.7	15.0	1.7	0.4	1.2	83.5		4	D	a				
276	2	17E	Ⅲ	002	サヌカイト	17.5	14.1	2.9	0.4	2.6	46.5		4	D	a				
277	3	29E	Ⅱc	002	サヌカイト	18.7	13.0	2.7	0.4	2.7	60.5		4	D	a				
278	3	29G	Ⅱc	001	サヌカイト	16.8	13.8	1.8	0.4	1.7	58.5		4	D	a				
279	3	27F	Ⅱc	001	サヌカイト	17.3	13.6	2.9	0.5	1.2	60.5		4	D	a				
280	2	22P	Ⅱd	014	サヌカイト	23.9	17.7	4.9	1.8	2.3	62.5		4	D	a				
281	3	29G	Ⅱc	028	サヌカイト	28.2	16.4	3.9	0.7	2.2	71.5		4	D	a				
282	2	18L	Ⅱd	006	下呂石	19.2	11.8	2.0	0.4	2.0	75.5		4	D	a				
283	3	29F	Ⅱc	036	サヌカイト	15.7	14.8	3.0	0.6	0.8	78.5		4	D	a				
284	2	20H	Ⅳ	004	チャート	28.8	13.1	4.5	1.1	2.2	45.5		4	D	b	778	98	53	
285	2	20M	Ⅲ	001	下呂石	24.4	(15.2)	4.0	(1.1)	(2.3)	44.5	b	4	D	b				
286	2	16G	Ⅳ	002	下呂石	24.5	(16.0)	3.1	(0.8)	(1.5)	78.5	b	4	D	b				
287	2	22Q	Ⅲ	005	下呂石	17.2	9.5	3.0	0.5	1.3	61.5		4	D	b				
288	2	22P	Ⅲ	023	サヌカイト	19.7	13.5	3.2	0.8	2.2	64.5		4	D	b				
289	1	10M	Ⅳ	001	チャート	22.6	14.0	3.3	0.9	2.3	36.5		4	D	b				
290	2	19O	Ⅲ	007	サヌカイト	(22.2)	(16.1)	3.7	(1.2)		85.5	g	4	E	a				
291	3	29G	Ⅲ	018	サヌカイト	18.6	11.2	4.0	0.7		59.5		4	E	a				
292	3	28D	Ⅱc	005	サヌカイト	16.0	11.8	4.0	0.7		63.5		4	E	b	779	98	53	
293	2	22P	Ⅲ	073	サヌカイト	26.4	16.1	4.9	1.4	2.8	76.5		4	H	a				
294	2	17H	Ⅳ	008	チャート	21.8	13.4	3.6	1.2	3.1	73.8		4	H	b	780	98	53	
295	5	23U	Ⅲ	001	チャート	25.8	15.0	2.7	0.8	5.6	61.5		4	H	b	781	98	53	
296	2	17H	Ⅲ	010	サヌカイト	(21.1)	15.1	4.5	(1.4)		(30.5)	a	(4)						
297	3	29O	Ⅱc	002	チャート	(13.2)	(11.3)	(3.1)	(0.4)		66.5	d	4						
298	2	22P	Ⅲ	045	下呂石	(32.8)	(13.0)	(2.4)	(1.3)		70.5	d	4						
299	2	20M	Ⅱc	012	サヌカイト	16.7	16.3	3.5	0.7	5.2	42.5		5	B	a	782	98	53	
300	3	26E	Ⅱc	012	チャート	20.0	(15.3)	5.3	(1.3)	(3.0)	94.5	b	5	D	a				

第32表　石鏃計測・観察表（5）

No.	地区	出土区	層位	遺物番号	石材	法量 長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	質量(g)	抉深(mm)	先端角(°)	折損部位	先端部分類	基部分類	脚部分類	掲載番号	挿図No.	写真図版	備考
301	3	26F	Ⅲ	025	下呂石	21.5	15.5	2.9	1.1	2.8	96.5		5	D	a	783	98	53	
302	5	33T	Ⅱd	002	チャート	(21.3)	(15.0)	4.6	(1.5)		94.5	f	5	E	a				
303	2	19O	Ⅲ	005	下呂石	22.1	23.0	5.9	2.3		85.5		5	E	a	784	98	53	
304	3	28J	Ⅲ	009	チャート	19.2	(19.8)	8.5	(3.3)		71.5	b	5	F	a	785	98	53	
305	5	31a	Ⅲ	007	チャート	20.5	16.5	4.2	1.8		81.5		5	F	a				
306	3	29J	Ⅱc	001	サヌカイト	24.1	17.3	2.5	3.1		81.2		5	F	a				
307	2	22R	Ⅱc	003	サヌカイト	(19.1)	(19.8)	(5.4)	(2.3)		86.1	d	5	不明					
308	2	17G	Ⅱc	016	チャート	(14.8)	(11.0)	3.8	(0.6)	(2.3)	(31.5)	e	不明	A	a				
309	2	19P	Ⅱc	001	下呂石	(15.6)	(15.8)	3.5	(0.7)	(2.2)	(47.5)	e	不明	B	a				
310	3	30E	Ⅲ	005	下呂石	(14.8)	(16.2)	3.2	(0.6)	(3.9)	(39.5)	e	不明	B	a				
311	3	31I	Ⅲ	020	サヌカイト	(16.9)	18.3	(3.2)	(0.9)	5.1		h	不明	B	a				
312	3	29F	Ⅱc	026	サヌカイト	(19.4)	12.5	(3.5)	(0.6)			h	不明	D	a				
313	3	30E	Ⅲ	039	チャート	(15.6)	12.3	(3.2)	(0.9)	1.2		h	不明	D	a				
314	2	19Q	Ⅱc	003	チャート	(19.4)	17.4	(3.2)	(1.1)			h	不明	D	a				
315	2	19E	Ⅱc	007	サヌカイト	(23.0)	18.2	5.1	(1.9)		(62.5)	a	不明	E	a				
316	5	29W	Ⅱc	003	チャート	(13.5)	19.1	(8.5)	(4.2)			h	不明	E	a				
317	5	34b	Ⅱb	002	チャート	(14.1)	23.0	(7.0)	(4.5)			h	不明	E	a				
318	5	36Z	Ⅱd	002	チャート	(19.2)	16.8	(5.9)	(2.1)			h	不明	E	b				
319	2	20K	Ⅳ	006	下呂石	(11.1)	21.1	(4.3)	(1.0)			h	不明	E	b				
320	2	表採		038	下呂石	(22.9)	(20.2)	7.2	(1.2)		(71.5)	e	不明	F	a				
321	5	26d	Ⅲ	003	チャート	(24.1)	(18.4)	4.8	(2.7)		(112.5)	e	不明	F	a				
322	3	31H	Ⅰ	009	サヌカイト	(19.5)	21.5	(7.6)	(4.1)			h	不明	F	a				
323	3	28O	Ⅲ	030	チャート	(17.2)	(14.7)	3.6	(0.9)		(42.0)	e	不明						
324	2	19M	Ⅱc	001	サヌカイト	(31.5)	(21.9)	(8.6)	(4.9)										未製品
325	3	27G	Ⅱc	002	サヌカイト	(16.8)	(17.1)	(3.1)	(0.8)										未製品
326	3	30F	Ⅲ	019	下呂石	(13.3)	(14.8)	(2.7)	(0.6)										未製品
327	2	表採		015	泥岩	(22.5)	(23.2)	(8.2)	(2.8)										未製品
328	2	20I	Ⅱd	017	下呂石	(11.7)	(10.4)	(2.7)	(0.3)										未製品
329	2	21N	Ⅱc	021	サヌカイト	(15.0)	(21.2)	(4.2)	(1.2)										未製品
330	3	29F	Ⅱc	028	下呂石	(15.8)	(14.5)	(2.8)	(0.5)										未製品
331	2	21Q	Ⅲ	003	サヌカイト	(22.0)	(17.8)	(3.1)	(1.3)										未製品
332	5	28X	Ⅲ	002	サヌカイト	(16.9)	(16.2)	(2.9)	(0.9)										未製品
333	2	20M	Ⅱc	021	サヌカイト	(23.1)	(18.0)	(3.4)	(1.6)										未製品
334	3	28O	Ⅱc	067	サヌカイト	(19.7)	(16.2)	(3.3)	(1.3)										未製品
335	2	22P	Ⅲ	021	サヌカイト	(18.8)	(14.9)	(2.5)	(0.8)										未製品
336	3	26F	Ⅲ	041	サヌカイト	(20.2)	(16.0)	(3.7)	(0.8)										未製品
337	2	19H	Ⅱc	005	サヌカイト	(17.1)	(11.7)	(2.8)	(0.5)										未製品
338	5	26e	Ⅲ	003	チャート	(16.9)	(12.4)	(3.9)	(0.5)										未製品
339	5	33c	Ⅰ	004	チャート	(19.3)	(12.2)	(3.5)	(0.9)										未製品
340	3	29F	Ⅱc	018	サヌカイト	(25.8)	(20.8)	(17.1)	(3.0)										未製品
341	3	34J	Ⅲ	002	チャート	(17.9)	(11.5)	(3.7)	(0.3)										未製品
342	3	29E	Ⅰ	005	サヌカイト	(32.5)	(20.2)	(3.9)	(3.1)										未製品
343	3	28D	Ⅲ	003	下呂石	(29.2)	(19.0)	(5.1)	(2.3)										未製品
344	5	28J	Ⅱc	004	サヌカイト	(28.2)	(17.8)	(4.8)	(2.9)										未製品
345	2	19O	Ⅲ	011	サヌカイト	(24.1)	(15.8)	(2.7)	(0.7)										未製品
346	2	18D	Ⅱc	012	チャート	(18.0)	(12.0)	(2.5)	(0.4)										未製品
347	2	19D	Ⅲ	004	下呂石	(21.0)	(14.4)	(2.9)	(0.7)										未製品
348	3	31G	Ⅰ	006	チャート	(39.0)	(19.2)	(7.3)	(6.5)										未製品
349	2	22P	Ⅱd	013	サヌカイト	(27.2)	(19.9)	(5.0)	(1.6)										未製品
350	2	20P	Ⅱc	007	サヌカイト	(17.1)	(24.2)	(3.2)	(1.1)										未製品
351	2	17E	Ⅲ	022	サヌカイト	(26.7)	(23.1)	(6.2)	(3.5)										未製品
352	3	30H	Ⅱc	003	サヌカイト	(22.8)	(16.2)	(4.2)	(1.6)										未製品
353	2	17L	Ⅱc	002	チャート	(28.1)	(22.2)	(8.0)	(4.4)										未製品
354	2	20N	Ⅲ	003	サヌカイト	(21.7)	(17.8)	(4.9)	(2.0)										未製品
355	3	28F	Ⅱc	007	チャート	(22.5)	(19.5)	(5.3)	(2.0)										未製品
356	3	37K	Ⅱc	005	サヌカイト	(20.6)	(20.8)	(6.7)	(2.4)										未製品
357	3	28K	Ⅱc	003	サヌカイト	(17.6)	(18.7)	(4.8)	(1.7)										未製品
358	5	26e	Ⅲ	011	チャート	(32.5)	(21.5)	(8.6)	(2.1)										未製品
359	5	29Y	Ⅲ	002	チャート	(23.2)	(13.5)	(4.5)	(2.5)										未製品
360	2	20P	Ⅱd	015	下呂石	(29.6)	(17.2)	(3.7)	(2.3)										未製品
361	3	30F	Ⅲ	016	サヌカイト	(23.1)	(20.1)	(4.7)	(2.0)										未製品
362	3	27D	Ⅱc	008	サヌカイト	(28.2)	(15.4)	(5.3)	(2.3)										未製品
363	5	30V	Ⅱb	002	チャート	(17.2)	(16.1)	(3.6)	(1.5)										未製品
364	5	29b	Ⅱa	002	チャート	(14.6)	(10.5)	(3.3)	(0.3)										未製品
365	3	26F	Ⅱc	022	サヌカイト	(22.5)	(17.9)	(3.2)	(1.7)										未製品
366	3	27C	Ⅲ	002	サヌカイト	(19.6)	(19.8)	(2.8)	(1.4)										未製品
367	3	33E	Ⅲ	001	チャート	(18.8)	(19.0)	(4.1)	(1.1)										未製品
368	2	17L	Ⅱc	009	下呂石	(23.4)	(11.8)	(4.3)	(1.1)										未製品
369	2	22P	Ⅲ	042	泥岩	(34.0)	(20.5)	(5.1)	(3.7)										未製品
370	5	36X	Ⅱd	001	チャート	(16.5)	(14.5)	(3.0)	(1.5)										未製品
371	2	19P	Ⅲ	004	サヌカイト	(21.1)	(15.3)	(2.0)	(2.2)										未製品
372	2	20R	Ⅲ	006	サヌカイト	(15.6)	(9.4)	(3.5)	(0.5)										未製品
373	2	18E	Ⅱc	006	チャート	(26.9)	(18.2)	(6.8)	(3.2)										未製品
374	3	表採		005	チャート	(17.2)	(22.5)	(2.8)	(2.5)										未製品
375	3	25E	Ⅱc	001	下呂石	(11.7)	(15.3)	(2.3)	(0.5)										未製品

第33表　有舌尖頭器計測表

No.	地区	出土区	層位	遺物番号	石材	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	質量(g)	掲載番号	挿図No.	写真図版
1	5	28X	Ⅰ	001	チャート	47.5	20.5	8.3	7.7	786	98	54
2	5	31W	Ⅱb	005	サヌカイト	(39.9)	20.9	6.1	6.5	787	98	54

第34表　石錐計測・観察表

No.	地区	出土区	層位番号	遺物	石材	法量				錐部			磨耗	折損	素材剥片	分類	掲載番号	挿図No.	写真図版
						長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	質量(g)	幅(mm)	厚(mm)	断面形							
1	3	31F	Ⅱc	001	下呂石	24.2	10.8	8.0	1.6	5.6	3.6	五角	有		縦長	1			
2	2	17G	Ⅲ	005	チャート	23.7	21.1	5.8	1.4	5.0	4.5	台形	有		縦長	1	788	100	54
3	3	30H	Ⅱc	030	下呂石	(22.9)	(19.0)	(4.5)	(1.9)	(5.1)	(3.5)	菱形	有	有	縦長	1			
4	2	20K	Ⅳ	001	サヌカイト	31.1	21.2	7.0	2.5	3.4	2.2	台形	有		横長	1	789	100	54
5	5	31V	Ⅱb	002	チャート	23.1	14.1	7.2	2.5	5.7	4.1	三角			縦長	1			
6	3	27F	Ⅰ	004	サヌカイト	(34.8)	(11.4)	(5.6)	(2.5)	(4.0)	(2.0)	台形		有	横長	1			
7	2	19E	Ⅲ	005	下呂石	18.7	22.0	5.0	2.6	8.0	4.1	菱形			横長	1			
8	2	19G	Ⅲ	016	チャート	27.2	18.0	8.0	3.7	6.5	3.6	三角	有		横長	1			
9	2	19N	Ⅱc	004	サヌカイト	29.5	22.2	14.1	7.1	5.9	3.1	三角			縦長	1			
10	2	17D	Ⅱc	006	チャート	(19.9)	(8.8)	(5.5)	(0.8)	5.0	3.6	菱形		有	縦長	2a			
11	2	22O	Ⅲ	016	下呂石	32.0	10.9	3.1	1.3	4.1	2.0	菱形	有		縦長	2a			
12	2	20R	Ⅲ	008	サヌカイト	20.1	16.1	5.0	1.3	3.9	2.1	台形	有		縦長	2a			
13	3	29E	Ⅱc	005	チャート	25.7	13.1	4.6	1.3	4.6	1.8	三角			縦長	2a			
14	2	23R	Ⅲ	002	下呂石	23.0	14.9	4.6	1.4	5.2	3.0	菱形	有		縦長	2a			
15	3	29K	Ⅲ	015	下呂石	25.3	12.2	4.9	1.7	4.9	3.2	台形	有		横長	2a			
16	2	18M	Ⅱd	002	下呂石	22.0	13.1	4.9	1.7	5.1	4.0	菱形			横長	2a			
17	2	表採		025	下呂石	23.0	18.2	5.1	1.8	4.1	0.2	菱形			縦長	2a			
18	3	30F	Ⅲ	014	下呂石	25.3	18.2	5.0	1.9	6.9	3.1	三角			縦長	2a			
19	3	30F	Ⅲ	013	下呂石	37.9	10.7	5.1	2.2	4.8	3.1	菱形	有		縦長	2a			
20	2	18I	Ⅱc	014	下呂石	20.5	15.5	6.0	1.3	6.2	3.8	台形	有		横長	2a			
21	2	19Q	Ⅲ	001	サヌカイト	28.9	22.5	5.0	2.3	4.5	3.2	菱形			縦長	2a			
22	3	28N	Ⅲ	035	チャート	(28.1)	10.1	8.2	(2.3)	(5.0)	(3.0)	三角		有	縦長	2a			
23	3	28G	Ⅲ	001	サヌカイト	24.8	15.3	5.4	2.4	5.1	4.0	台形	有		縦長	2a			
24	3	31E	Ⅱc	003	下呂石	30.3	20.8	5.1	2.5	6.0	3.0	菱形			縦長	2a			
25	2	19P	Ⅲ	003	下呂石	30.2	17.9	4.2	2.6	7.0	3.9	菱形	有		横長	2a			
26	3	30G	Ⅰ	007	サヌカイト	41.3	13.9	5.1	2.6	6.5	2.9	台形	有		横長	2a			
27	3	29N	Ⅱc	011	チャート	33.9	11.0	5.8	2.7	5.5	3.1	台形	有		横長	2a			
28	3	26D	Ⅰ	003	チャート	33.7	13.0	6.0	2.7	4.9	4.0	菱形	有		横長	2a			
29	5	28a	Ⅲ	004	チャート	30.8	12.8	5.0	2.8	6.9	3.9	菱形	有		横長	2a			
30	2	18E	Ⅱc	012	サヌカイト	41.6	11.5	11.6	3.1	4.9	2.5	台形	有		縦長	2a			
31	2	19R	Ⅱc	001	サヌカイト	26.5	18.7	7.5	3.3	8.7	3.2	台形			縦長	2a			
32	2	22P	Ⅲ	017	下呂石	32.5	23.0	8.1	3.6	4.2	2.8	菱形			横長	2a	790	100	54
33	3	31K	Ⅱc	002	サヌカイト	35.2	17.1	6.4	4.3	6.6	1.9	菱形			縦長	2a			
34	3	29N	Ⅱb	004	チャート	35.4	19.8	5.9	4.7	5.9	3.0	台形	有		縦長	2a			
35	5	33S	Ⅱa	001	チャート	33.1	19.9	7.1	5.0	6.7	3.2	菱形	有		縦長	2a			
36	2	22P	Ⅲ	062	下呂石	38.6	20.5	6.1	5.3	6.6	4.9	台形			横長	2a			
37	5	40a	Ⅲ	001	チャート	35.0	18.8	8.0	5.5	7.0	4.1	三角	有		縦長	2a			
38	5	30R	Ⅱa	001	チャート	33.3	21.1	8.2	5.7	7.2	5.0	菱形			縦長	2a			
39	3	27O	Ⅱc	009	チャート	(35.7)	(14.5)	(8.1)	(5.8)	(8.9)	(7.9)	三角		有	縦長	2a			
40	3	28J	Ⅱc	002	サヌカイト	58.0	18.0	12.0	6.2	7.0	4.0	三角	有		縦長	2a	791	100	54
41	3	28N	Ⅲ	034	鉄石英	48.9	19.6	9.8	6.2	5.2	4.2	菱形	有		縦長	2a			
42	2	17F	Ⅱd	010	サヌカイト	35.2	25.0	12.0	9.7	4.8	3.1	三角			縦長	2a			
43	5	31b	Ⅱa	001	チャート	27.1	11.0	4.1	1.5	6.2	4.1	菱形	有		縦長	2b	792	100	54
										6.6	3.0	三角	有						
44	3	28O	Ⅱc	045	チャート	(22.9)	11.2	5.9	(1.5)	6.1	4.0	台形	有	有	縦長	2b			
										(4.6)	(2.9)	三角							
45	3	28O	Ⅲ	005	サヌカイト	23.8	6.0	3.1	0.4	4.1	2.9	三角	有		縦長	3a			
46	3	36I	Ⅱc	002	チャート	21.9	8.1	3.2	0.7	5.1	1.9	三角	有		縦長	3a			
47	5	28Y	Ⅲ	008	チャート	31.1	10.2	6.2	1.6	6.4	2.8	三角			縦長	3a	793	100	54
48	2	17F	Ⅲ	008	サヌカイト	40.9	8.6	4.8	1.7	3.5	5.0	台形	有		縦長	3a			
49	3	26G	Ⅱc	001	サヌカイト	35.9	6.1	6.7	2.0	6.0	4.1	台形	有		横長	3a			
50	2	19E	Ⅱd	001	チャート	27.0	7.2	4.5	0.8	4.2	3.9	菱形	有		縦長	3b	794	100	54
										4.0	2.9	菱形							
51	2	17I	Ⅲ	019	サヌカイト	22.0	8.1	4.1	0.8	4.0	2.3	台形	有		縦長	3b			
										4.0	2.0	台形							
52	2	16I	Ⅲ	003	サヌカイト	(34.9)	9.0	6.2	(2.1)	6.0	3.2	菱形	有	有	縦長	3b			
										(5.0)	(4.0)	菱形							

第35表　スクレイパー類（つまみ部付きスクレイパー）計測・観察表

No.	地区	出土区	層位	遺物番号	石材	法量				刃部			折損	分類	掲載番号	挿図No.	写真図版
						長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	質量(g)	刃部数	平面形	調整					
1	5	27V	Ⅱa	002	チャート	50.5	20.5	8.8	8.6	1	外彎2	両面2		1			
2	3	29K	Ⅲ	017	下呂石	52.9	38.0	7.1	14.3	2	不定形2	片面2		1	795	100	54
3	3	26F	Ⅲ	018	チャート	51.5	30.2	9.7	12.0	2	直線2	片面2		1	796	100	54
4	4	50K	Ⅲ	001	サヌカイト	86.1	34.9	12.2	43.5	2	直線2	両面2		1			
5	2	19L	Ⅲ	006	チャート	33.0	39.3	7.0	6.4	1	直線1	両面1		2	797	100	54
6	2	17J	Ⅳ	004	チャート	29.7	35.0	6.9	7.3	1	内彎1	両面1		2			
7	2	18G	Ⅲ	017	チャート	36.1	41.8	12.4	14.7	1	直線1	両面1		3	798	100	54
8	3	29K	Ⅲ	014	チャート	23.9	34.1	5.5	3.2	1	直線1	両面1		3			
9	5	29b	Ⅲ	001	チャート	25.2	32.6	11.2	4.4	1	直線1	両面1		3			
10	5	25C	Ⅲ	007	チャート	28.9	36.0	4.7	6.1	1	直線1	両面1		3			
11	3	27G	Ⅲ	011	チャート	38.4	51.2	10.0	22.0	1	外彎1	両面1		3			
12	5	29a	Ⅲ	001	チャート	36.1	42.0	8.6	9.3	2	外彎1．直線1	両面2		3			
13	5	38Z	Ⅲ	002	チャート	38.2	60.0	14.4	19.9	2	外彎1．直線1	両面2		3	799	100	54
14	2	17K	Ⅲ	001	チャート	16.2	21.1	4.9	1.3	1	外彎1	両面1		4			
15	2	21N	Ⅱc	022	チャート	16.5	23.9	3.8	1.3	1	直線1	両面1		4			
16	3	37J	Ⅱc	003	サヌカイト	21.3	33.0	5.0	2.0	1	内彎1	両面1		4	800	100	54
17	2	20H	Ⅳ	002	サヌカイト	20.0	23.8	6.5	2.4	1	外彎1	両面1		4	801	100	54
18	2	16H	Ⅳ	007	サヌカイト	17.2	31.5	3.1	2.8	1	内彎1	両面1		4			
19	5	29Z	Ⅳ	001	チャート	23.5	26.1	7.5	4.2	1	外彎1	両面1		4			
20	5	26Y	Ⅲ	007	サヌカイト	(14.1)	(17.5)	(6.1)	(1.5)	不明	不明	不明	有	不明			
21	5	28U	Ⅱa	002	サヌカイト	(20.1)	(17.7)	(6.0)	(2.9)	不明	不明	不明	有	不明			

第36表　スクレイパー類（掻器Ⅰ）計測・観察表

No.	地区	出土区	層位	遺物番号	石材	法量				刃部			折損	分類	掲載番号	挿図No.	写真図版
						長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	質量(g)	刃部数	平面形	調整					
1	3	SU4		001	チャート	40.5	26.5	11.0	11.4	1	外彎	両面		1b	727	90	50
2	2	P117		001	サヌカイト	89.8	41.0	21.4	73.5	1	外彎	片面		1a	726	90	50
3	5	31Z	Ⅲ	001	石英	29.9	49.4	13.1	20.6	1	外彎	片面		1a			
4	5	40a	Ⅳ	001	チャート	19.1	10.4	6.8	5.6	1	直線	片面		1a			
5	5	26g	Ⅲ	005	チャート	25.1	42.5	12.0	12.9	1	直線	片面		1a	802	101	55
6	1	3R	Ⅲ	002	チャート	50.3	24.8	15.0	16.3	1	直線	片面		1a	803	101	55
7	3	29G	Ⅲ	009	チャート	58.5	26.2	14.9	22.1	1	外彎	片面		1a	804	101	55
8	2	17H	Ⅱc	001	チャート	41.4	(38.6)	12.1	25.4	1	直線	片面		1a			
9	2	表採	Ⅲ	022	泥岩	46.5	60.5	14.4	41.3	1	直線	片面		1a			
10	3	25F	Ⅲ	003	チャート	22.1	40.8	10.2	10.1	1	直線	両面		1b			
11	5	33Y	Ⅳ	006	チャート	45.8	30.4	12.6	17.7	1	直線	両面		1b	805	101	55
12	2	16H	Ⅲ	010	チャート	20.3	51.0	5.3	33.7	1	直線	両面		1b			
13	5	33Y	Ⅱb	004	チャート	48.3	31.9	13.1	18.8	1	外彎	両面		1b			
14	2	17I	Ⅲ	012	サヌカイト	41.2	88.2	14.3	52.5	1	外彎	両面		1b			
15	3	30G	Ⅰ	005	チャート	34.8	52.8	12.5	21.5	1	外彎	両面		1b			
16	3	32K	Ⅲ	003	サヌカイト	(36.4)	32.5	14.2	(16.2)	3	直線2・外彎1	両面1,片面2	有	2	806	101	55

第37表　スクレイパー類（掻器Ⅱ）計測・観察表

No.	地区	出土区	層位	遺物番号	石材	法量				刃部					分類	掲載番号	挿図No.	写真図版
						長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	質量(g)	刃部数	刃部位置	平面形	調整	調整方向				
1	5	34Z	Ⅲ	003	サヌカイト	67.0	72.5	21.8	171.1	1	末端部	幅広丸	片面	表から裏	1	807	101	55
2	2	22O	Ⅲ	006	サヌカイト	51.9	69.6	20.8	60.4	2	末端部，側縁部	幅広丸	両面	両面から	2			
3	3	31G	Ⅱc	004	チャート	48.9	56.9	16.2	41.0	2	末端部，側縁部	幅広丸	両面	両面から	2			

第38表　スクレイパー類（複合スクレイパー）計測・観察表

No.	地区	出土区	層位	遺物番号	石材	法量				刃部			分類	掲載番号	挿図No.	写真図版
						長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	質量(g)	刃部数	平面形	調整				
1	2	17K	Ⅳ	006	チャート	36.4	32.8	13.0	18.2	1	直線	片面	1a	808	101	55
						法量				錐部			分類			
						長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	質量(g)	幅(mm)	厚(mm)	断面形				
						36.4	32.8	13.0	18.2	6.0	6.8	三角	1			

第39表　スクレイパー類（削器）計測・観察表

No.	地区	出土区	層位	遺物番号	石材	法量				刃部			分類	掲載番号	挿図No.	写真図版
						長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	質量(g)	刃部数	平面形	調整				
1	3	SU4		019	チャート	38.2	28.2	9.8	10.6	1	直線	両面	1b	728	90	50
2	2	表採		040	サヌカイト	70.5	52.4	10.8	44.0	1	直線	片面	1a			
3	2	16F	Ⅲ	005	サヌカイト	64.5	45.2	13.0	34.6	1	内彎	片面	1a	809	104	55
4	2	17F	Ⅱd	023	チャート	47.9	38.7	16.6	27.4	1	外彎	片面	1a			
5	3	31E	Ⅱc	009	チャート	52.8	29.8	9.8	15.3	1	外彎	片面	1a			
6	2	17H	Ⅳ	006	チャート	32.3	19.6	5.0	3.7	1	外彎	片面	1a			
7	5	31a	Ⅲ	005	チャート	38.1	30.6	14.5	13.5	1	外彎	片面	1a	810	104	55
8	2	17G	Ⅱc	004	チャート	47.1	30.7	10.3	13.2	1	外彎	片面	1a			
9	3	31D	Ⅱc	002	チャート	49.7	19.4	9.6	9.4	1	外彎	片面	1a			
10	3	40N	Ⅱb	001	チャート	61.5	29.1	12.0	23.9	1	外彎	片面	1a			
11	2	18L	Ⅱc	008	チャート	62.9	43.5	18.8	58.4	1	直線	片面	1a			
12	3	28O	Ⅲ	056	チャート	35.5	38.3	7.3	12.3	1	直線	片面	1a			
13	2	18K	Ⅳ	004	チャート	52.3	40.7	12.6	29.2	1	直線	片面	1a			
14	3	32K	Ⅲ	002	サヌカイト	49.8	35.1	5.9	14.1	1	直線	片面	1a			
15	2	16F	Ⅲ	001	チャート	41.0	24.1	5.4	6.0	1	直線	片面	1a			
16	2	20I	Ⅲ	007	チャート	56.8	40.9	11.6	28.1	1	外彎	両面	1a			
17	2	17G	Ⅲ	010	サヌカイト	29.5	59.4	6.8	11.5	1	直線	片面	1a			
18	3	29K	Ⅲ	020	チャート	44.7	46.7	10.1	21.5	1	内彎	片面	1b			
19	3	27F	Ⅱb	006	サヌカイト	66.0	41.0	12.5	27.3	1	内彎	両面	1b	811	104	55
20	2	18E	Ⅱc	011	サヌカイト	66.3	38.5	9.4	27.1	1	外彎	両面	1b			
21	2	19E	Ⅲ	009	チャート	30.9	25.4	11.6	5.4	1	外彎	両面	1b			
22	2	20G	Ⅲ	009	チャート	52.6	28.0	11.1	19.2	1	外彎	両面	1b			
23	3	31G	Ⅱb	004	チャート	50.2	22.7	6.7	9.3	1	外彎	両面	1b			
24	3	31G	Ⅱb	003	サヌカイト	54.1	54.5	11.6	29.9	1	直線	両面	1b			
25	2	18F	Ⅲ	001	チャート	43.0	28.3	7.3	9.0	1	外彎	両面	1b			
26	2	17E	Ⅲ	019	チャート	72.5	28.8	16.7	43.4	1	直線	両面	1b			
27	3	28F	Ⅰ	006	サヌカイト	61.3	51.1	8.2	25.2	1	直線	両面	1b			
28	2	16E	Ⅳ	004	チャート	54.2	23.4	14.2	15.4	1	直線	両面	1b			
29	2	17G	Ⅱc	003	サヌカイト	46.0	33.6	7.9	13.3	1	直線	両面	1b			
30	5	25a	Ⅰ	002	チャート	31.9	20.7	9.2	6.3	1	直線	両面	1b			
31	2	19F	Ⅲ	002	チャート	28.4	37.8	8.2	10.0	1	直線	両面	1b			
32	3	27N	Ⅲ	002	サヌカイト	47.2	26.2	12.6	12.7	1	外彎	両面	1b			
33	2	16G	Ⅳ	001	チャート	37.6	16.7	7.1	4.8	1	直線	両面	1b			
34	3	40N	Ⅲ	001	チャート	41.5	32.8	6.7	11.4	1	直線	両面	1b			
35	3	28D	Ⅲ	001	チャート	38.6	29.6	11.1	13.5	1	直線	両面	1b			
36	2	20O	Ⅲ	007	サヌカイト	61.7	38.9	9.1	27.7	1	外彎	両面	1b			
37	2	20I	Ⅳ	005	チャート	25.5	28.5	10.3	7.5	1	内彎	両面	1b			
38	2	17J	Ⅳ	001	サヌカイト	24.1	42.1	5.5	8.5	1	直線	両面	1b			
39	2	16H	Ⅲ	010	チャート	41.2	37.8	17.4	33.5	1	外彎	両面	1b			
40	3	30H	Ⅱc	012	チャート	30.6	24.0	6.3	4.4	1	外彎・直線	片面	2a			
41	2	17I	Ⅲ	020	チャート	65.7	28.8	12.0	18.1	2	外彎・直線	片面・片面	2a	812	104	55
42	2	17G	Ⅱc	012	サヌカイト	62.8	38.5	12.5	32.1	2	外彎・直線	片面・片面	2a			
43	2	19Q	Ⅲ	004	サヌカイト	51.2	38.2	8.7	16.1	2	外彎・直線	片面・片面	2b			
44	5	32V	Ⅲ	002	チャート	29.8	22.1	5.2	4.6	2	外彎・直線	片面・片面	2b			
45	2	19N	Ⅱc	002	サヌカイト	67.5	41.5	10.3	32.0	2	外彎	片面・片面	2b			
46	2	17K	Ⅲ	013	チャート	64.4	37.2	13.7	29.1	2	外彎・直線	片面・片面	2b			
47	2	17D	Ⅱc	004	チャート	39.2	30.4	10.1	8.9	2	外彎・直線	片面・片面	2b	813	104	55
48	3	29G	Ⅱc	004	チャート	25.4	26.5	5.1	3.5	2	外彎・直線	片面・片面	2b			
49	2	20G	Ⅱd	005	チャート	36.5	56.1	13.9	18.9	2	外彎・直線	片面・片面	2c	814	104	55
50	3	28O	Ⅲ	058	チャート	24.2	17.8	6.2	3.6	2	外彎・直線	片面・片面	2c			
51	3	30L	Ⅲ	002	チャート	44.4	21.1	9.4	8.9	3	外彎	両面	3			
52	3	25E	Ⅲ	001	サヌカイト	53.3	74.0	12.5	41.5	3	直線	両面	3	815	104	55

第40表　ピエス･エスキーユ（楔形石器）計測・観察表

No.	地区	出土区	層位	遺物番号	石材	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	質量(g)	分類	掲載番号	挿図No.	写真図版
1	3	SK13		001	下呂石	22.8	20.0	7.3	3.2	1	725	90	50
2	5	28C	Ⅲ	002	チャート	24.5	20.1	11.4	5.9	1	816	106	56
3	5	25W	Ⅲ	001	サヌカイト	28.0	15.5	8.5	3.5	1	817	106	56
4	2	17H	Ⅱc	005	サヌカイト	32.0	25.0	15.6	14.6	1	818	106	56
5	2	19D	Ⅱc	013	チャート	28.8	15.2	10.0	4.6	1			
6	3	28D	Ⅱc	002	チャート	31.4	24.4	9.3	2.9	1			
7	3	表採		018	下呂石	23.7	19.8	7.7	4.2	1			
8	3	28O	Ⅱc	047	サヌカイト	25.6	19.3	10.9	5.0	1			
9	3	28P	Ⅱc	002	下呂石	25.9	23.6	7.5	5.0	1			
10	5	26g	Ⅲ	007	チャート	27.6	16.7	6.9	3.9	1			
11	5	36Z	Ⅲ	001	チャート	27.9	46.3	12.4	17.9	2	819	106	56
12	3	27O	Ⅱc	018	下呂石	21.7	16.7	5.7	2.7	2			
13	3	32H	Ⅲ	011	チャート	29.5	32.9	9.2	10.3	2			
14	2	19D	Ⅱc	023	下呂石	24.2	34.2	7.9	7.5	2			
15	2	17I	Ⅱd	001	サヌカイト	25.2	39.2	8.2	10.6	3	820	106	56

第41表　打製石斧計測・観察表

No.	地区	出土区	層位	遺物番号	石材	法量 長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	質量(g)	最大幅位置	刃部磨耗	基部装着痕	自然面の有無	折損部位	分類	掲載番号	挿図No.	写真図版
1	3	28H	Ⅲ	012	泥岩	106.6	40.2	20.3	108.9	胴部	有		有		1	821	106	56
2	3	31E	Ⅱc	001	安山岩	103.0	47.0	23.0	136.7	胴部	有		有		1	822	106	56
3	5	27S	Ⅲ	001	安山岩	94.7	54.8	16.2	110.6	刃部	有		有		1			
4	5	31a	Ⅰ	001	泥岩	(74.2)	56.1	13.9	(85.0)	胴部	有		有	a	1			
5	3	29G	Ⅱb	007	安山岩	95.5	56.9	20.8	160.5	胴部	有		有		1			
6	3	28I	Ⅲ	001	泥岩	83.2	34.2	18.0	61.3	胴部	有	有	有		1			
7	5	31W	Ⅱb	001	泥岩	56.2	36.2	9.8	24.2	胴部	有		有		1			
8	3	29F	Ⅰ	002	泥岩ﾎﾙﾝﾌｪﾙｽ	100.6	50.9	18.2	139.7	胴部	有		有		1			
9	3	28N	Ⅲ	048	泥岩	(59.7)	39.1	12.1	(39.8)	不明	不明		有	a	1			
10	1	9S	Ⅲ	001	泥岩ﾎﾙﾝﾌｪﾙｽ	(57.3)	44.9	(17.1)	(70.7)	不明	不明		有	a	1			
11	3	28I	Ⅲ	002	泥岩ﾎﾙﾝﾌｪﾙｽ	(109.9)	44.0	(22.4)	(132.5)	不明	不明	有		a	1			
12	5	30a	Ⅲ	001	砂岩	(81.5)	43.0	21.2	(118.9)	不明	不明		有	b	1			
13	3	29N	Ⅲ	011	泥岩	(70.6)	45.9	14.2	(72.4)	不明	有	不明	有	b	1			
14	3	29E	Ⅱc	006	泥岩	(94.3)	42.8	17.1	(78.3)	不明			有	c	1			
15	3	30G	Ⅱa	010	泥岩	88.1	52.2	19.3	105.9	胴部	有	有	有		2	823	106	56
16	2	18F	Ⅲ	001	泥岩	99.1	48.0	18.1	81.1	刃部	有		有		2	824	106	56
17	3	31O	Ⅱc	001	泥岩	(62.2)	(57.5)	15.3	(82.0)	刃部	有	不明	有	b	2			
18	2	16F	Ⅲ	016	泥岩ﾎﾙﾝﾌｪﾙｽ	(104.5)	47.0	22.1	(139.7)	刃部	有			c	2			
19	2	17E	Ⅲ	006	粘板岩	(90.8)	52.5	8.2	(55.7)	刃部	有		有	d	2			
20	2	22Q	Ⅲ	022	安山岩	119.3	51.8	15.0	115.4	刃部					2			
21	3	28O	Ⅱc	002	泥岩ﾎﾙﾝﾌｪﾙｽ	130.2	62.1	19.7	200.6	刃部	有				2			
22	3	30H	Ⅲ	002	安山岩	(94.1)	(50.2)	14.1	(68.1)	胴部	有		有	a	2			
23	3	29G	Ⅱc	027	泥岩	(70.3)	45.2	6.3	(31.0)	胴部	有	不明	有	d	2			
24	2	表採		020	泥岩	137.6	53.5	16.1	150.7	胴部	有		有		2			
25	3	28J	Ⅱc	001	泥岩	110.2	44.8	14.0	91.7	胴部	有	有	有		2			
26	3	29G	Ⅲ	008	泥岩	94.1	47.0	22.1	96.6	胴部	有	不明	有		2			
27	3	30G	Ⅱa	001	泥岩ﾎﾙﾝﾌｪﾙｽ	101.0	49.4	14.1	101.4	胴部	有	有	有		2			
28	3	31E	Ⅱc	006	泥岩	85.2	59.6	20.0	102.5	胴部	有				2			
29	2	17F	Ⅱd	022	安山岩	(104.0)	(51.8)	23.3	(158.6)	不明	不明		有	b	2			
30	5	25U	Ⅲ	004	泥岩	(83.2)	47.9	20.1	(102.9)	不明	不明		有	d	2			
31	2	19P	Ⅱc	004	安山岩	100.5	44.3	20.8	120.9	刃部	有	有	有		2			
32	2	19E	Ⅱd	002	泥岩	96.1	60.1	17.5	113.4	刃部	有	有	有		3	825	106	56
33	1	13S	Ⅲ	001	粘板岩	120.5	61.7	12.0	90.2	胴部	有	有	有		3	826	106	56
34	3	28C	Ⅲ	004	泥岩	(87.0)	(61.2)	23.2	(162.1)	刃部	不明	有		b	3			
35	3	37J	Ⅱc	005	泥岩	(74.5)	50.7	15.3	(63.9)	刃部	不明	有	有	c	3			
36	2	18G	Ⅲ	001	泥岩	89.3	55.1	10.1	60.6	刃部	有	有	有		3			
37	2	20R	Ⅱd	001	安山岩	102.9	55.3	13.0	95.5	刃部	有	有	有		3			
38	2	22O	Ⅲ	017	泥岩	92.8	59.4	14.0	107.0	刃部	有	有	有		3			
39	2	19N	Ⅱc	001	泥岩	99.0	53.1	23.2	147.9	刃部	有	有	有		3			
40	3	28F	Ⅲ	002	泥岩	99.8	65.8	17.0	149.0	刃部	有	有	有		3			
41	5	37b	Ⅱc	001	泥岩	(116.8)	63.9	14.5	(97.8)	胴部	有	有	有	c	3			
42	3	32N	Ⅲ	005	泥岩	97.5	43.1	14.1	69.7	胴部	有	有	有		3			
43	2	18H	Ⅱc	010	泥岩	116.9	40.5	24.3	117.6	胴部	有	有	有		3			
44	5	28S	Ⅲ	002	安山岩	113.8	58.0	19.3	121.6	胴部	有	有	有		3			
45	5	29U	Ⅲ	003	泥岩	(84.3)	(60.6)	(17.8)	(134.1)	不明	不明	有	有	b	3			
46	3	31J	Ⅲ	002	泥岩	(82.0)	(68.1)	26.0	(155.0)	胴部		不明	有	d	3			
47	3	29C	Ⅲ	006	泥岩	(38.4)	(41.8)	(9.3)	(20.0)	不明	不明	不明	有	b	不明			
48	5	30a	Ⅲ	003	安山岩	(49.7)	(59.5)	(9.1)	(28.6)	刃部	有	不明	有	d	不明			
49	3	31E	Ⅱc	007	泥岩	(47.9)	(40.2)	(11.9)	(33.4)	不明	不明	不明	有	e	不明			
50	3	表採		013	泥岩	(66.4)	(52.9)	(14.8)	(55.5)	不明	不明	不明	有	e	不明			
51	2	20P	Ⅱd	017	泥岩	(68.8)	(68.6)	(11.8)	(64.3)	不明	不明	不明	有	d	不明			
52	3	29K	Ⅱc	008	泥岩	(65.9)	(47.9)	(22.4)	(67.3)	不明	不明	不明		b	不明			

第42表　磨製石斧計測・観察表(1)

No.	地区	出土区	層位	遺物番号	石材	法量 長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	質量(g)	最大幅位置	刃部形態	折損部位	分類	掲載番号	挿図No.	写真図版
1	2	P39		003	安山岩	(91.2)	(49.4)	23.0	(162.2)	刃部	直刃	b	1c	744	91	52
2	2	19G	Ⅱc	006	チャート	44.2	26.1	12.8	19.8	刃部	偏刃		1b	827	109	57
3	2	19K	Ⅲ	001	安山岩	(50.5)	(47.3)	29.2	(97.5)	胴部	不明	b	1b			
4	2	17E	Ⅲ	014	安山岩	51.2	28.2	13.1	27.9	刃部	直刃		1b			
5	3	31H	Ⅰ	002	凝灰岩	(48.5)	(37.0)	21.0	(49.8)	不明	不明	b	1b			
6	2	18D	Ⅱc	014	安山岩	(79.1)	54.4	23.0	(149.3)	刃部	円刃	d	1c			
7	2	19E	Ⅱc	011	安山岩	(57.1)	49.0	18.0	(86.1)	刃部	円刃	d	1c			
8	2	19F	Ⅲ	014	安山岩	48.5	36.2	16.3	43.9	刃部	直刃		1c	828	109	57
9	2	19H	Ⅲ	002	凝灰岩	(49.5)	32.0	13.9	(34.2)	胴部	直刃	e	1c			
10	2	18L	Ⅳ	017	安山岩	70.9	31.7	15.4	50.7	刃部	円刃		1c	829	109	57
11	3	32I	Ⅱc	001	蛇紋岩	(81.5)	(44.1)	19.2	(18.8)	刃部	円刃	g	1c	830	109	57
12	2	20H	Ⅲ	001	蛇紋岩	(44.9)	27.3	10.4	(21.2)	刃部	偏刃	d	1c			
13	2	20Q	Ⅱd	018	泥岩	(36.0)	28.5	10.1	(20.0)	刃部	直刃	d	1c			
14	2	20F	Ⅱd	001	花こう斑岩	(74.1)	(47.8)	24.2	(141.0)	不明	不明	b	1c			
15	2	17K	Ⅲ	015	安山岩	(51.0)	32.7	15.3	(46.3)	刃部	偏刃	d	1c			
16	3	32I	Ⅱc	001	蛇紋岩	(49.3)	(30.1)	7.9	(18.8)	刃部	偏刃	g	1c			
17	2	21O	Ⅳ	001	泥岩	87.5	46.5	21.0	(108.1)	刃部	直刃	c	1c	831	109	57
18	3	31I	Ⅲ	009	凝灰岩	(49.1)	35.0	12.2	(33.5)	刃部	直刃	d	1c			

第43表　磨製石斧計測・観察表(2)

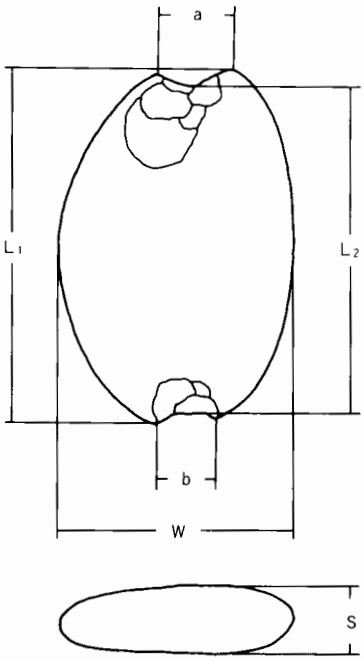
No.	地区	出土区	層位	遺物番号	石材	法量				最大幅位置	刃部形態	折損部位	分類	掲載番号	挿図No.	写真図版
						長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	質量(g)							
19	3	29F	Ⅲ	007	安山岩	(56.1)	(18.2)	(15.3)	(27.4)	不明	不明	f	1c			
20	5	33Z	Ⅱb	001	安山岩	(47.0)	22.2	9.3	(15.4)	刃部	偏刃	a	1c			
21	5	31W	Ⅲ	1676	アプライト	(94.8)	(51.0)	20.0	(177.2)	不明	不明	b	1c			
22	5	33X	Ⅲ	1417	蛇紋岩	(110.0)	(52.0)	25.0	(245.7)	不明	直刃	h	1c			
23	5	33Y	Ⅲ	1084	蛇紋岩	(99.6)	51.0	19.8	(87.2)	刃部	円刃	a	1c	832	109	57
24	5	27Y	Ⅳ	001	安山岩	(7.9)	(4.1)	2.0	(111.5)	刃部	不明	b	1c			
25	5	34b	Ⅲ	001	安山岩	(43.4)	(19.0)	(5.7)	(5.3)	不明	不明	f	1c			
26	3	27C	Ⅱc	007	安山岩	(78.0)	52.7	(34.0)	(186.3)	刃部	円刃	d	2a	833	109	57
27	5	33Y	Ⅲ	418	凝灰岩	(116.0)	53.1	25.0	(245.6)	胴部	偏刃	a	3c	834	109	57
28	5	30a	Ⅲ	420	安山岩	127.0	58.1	28.8	309.0	胴部	偏刃		3c	835	109	57

第44表　石核計測・観察表

No.	地区	出土区	層位	遺物番号	石材	素材	自然面	節理面	打面数	打面状態	作業面数	素材分類	掲載番号	挿図No.	写真図版
1	2	P67		001	サヌカイト	分割礫		有	1	節理２	2	4			
2	2	P67		002	サヌカイト	厚手の剥片	有		3	自然３	3	1b	730	90	50
3	5	P424		001	泥岩	分割礫		有	1	節理１	1	5	729	90	50
4	3	29L	Ⅲ	019	チャート	厚手の剥片			1	剥離４	4	1a	836	110	58
5	3	37J	Ⅱc	004	砂岩	厚手の剥片	有	有	1	節理１	2	1a			
6	2	21O	Ⅱc	001	砂岩	剥片	有	有	2	自然１、節理１	2	1a			
7	3	表採		014	チャート	剥片	有		1	剥離１	1	1a			
8	2	17J	Ⅳ	006	チャート	剥片	有		1	剥離１	1	1a			
9	3	29K	Ⅲ	004	チャート	剥片			1	剥離１	1	1a			
10	3	31O	Ⅱc	002	チャート	剥片	有		1	剥離１	1	1a			
11	3	38L	Ⅱc	001	チャート	剥片	有		1	剥離１	1	1a			
12	3	40K	Ⅱb	001	チャート	剥片			1	剥離１	1	1a			
13	3	28O	Ⅲ	059	チャート	厚手の剥片		有	1	剥離１	1	1a			
14	3	25E	Ⅱc	021	チャート	剥片			1	自然１	1	1a			
15	2	18F	Ⅱc	003	チャート	剥片	有		1	自然１	1	1a			
16	5	27c	Ⅳ	001	チャート	厚手の剥片	有		2	剥離２	2	1b			
17	3	31I	Ⅲ	040	サヌカイト	厚手の剥片	有	有	2	節理１、自然面１	2	1b	837	110	58
18	2	20G	Ⅳ	003	チャート	剥片	有	有	1	自然１	2	1b			
19	2	15E	Ⅲ	001	チャート	剥片			1	剥離１	1	2a			
20	2	20I	Ⅱd	014	泥岩	厚手の剥片	有		1	剥離１	1	2a			
21	3	29L	Ⅲ	004	サヌカイト	剥片	有		1	剥離２	2	2a	838	110	58
22	3	37K	Ⅱc	001	チャート	剥片	有		1	剥離３	3	2a			
23	3	表採		029	チャート	厚手の剥片	有		1	剥離２	2	3			
24	3	29Z	Ⅲ	002	チャート	剥片	有	有	1	節理１	2	3			
25	5	31U	Ⅲ	001	チャート	剥片	有		2	自然１、剥離２	3	3			
26	5	25V	Ⅱa	001	チャート	厚手の剥片	有		2	自然１、剥離１	3	3	839	110	58
27	5	29U	Ⅱb	004	チャート	剥片	有		2	自然１、剥離１	2	3			
28	5	29U	Ⅲ	002	チャート	分割礫	有	有	2	節理１、剥離１	2	4	840	111	58
29	3	32H	Ⅰ	005	チャート	分割礫	有	有	2	自然１、節理１	3	4			
30	5	30c	Ⅰ	002	チャート	分割礫	有		2	剥離２	2	4	841	111	58
31	3	31M	Ⅱc	001	チャート	分割礫	有		1	剥離１	1	4			
32	5	33U	Ⅱd	001	チャート	分割礫			1	剥離１	1	4			
33	3	32F	Ⅱb	012	チャート	分割礫	有	有	2	剥離２	3	4			
34	5	29U	Ⅱb	005	チャート	分割礫			2	剥離２	2	4			
35	3	27O	Ⅱc	010	下呂石	自然礫	有		1	自然１	1	4	842	111	58
36	2	19Q	Ⅲ	007	サヌカイト	分割礫	有		1	自然１	1	4			
37	5	34a	Ⅱd	005	チャート	分割礫	有		1	自然１	1	4			
38	3	29H	Ⅱc	004	チャート	分割礫	有		1	自然１	1	4			
39	5	23a	Ⅲ	001	チャート	分割礫	有	有	1	自然１	1	4			
40	5	27e	Ⅲ	004	チャート	分割礫	有		2	自然１、剥離１	2	4			
41	4	43M	Ⅳ	002	サヌカイト	分割礫	有		1	自然１	1	4			
42	5	27c	Ⅳ	003	チャート	分割礫	有	有	1	剥離１	2	4			
43	5	26g	Ⅰ	001	チャート	分割礫	有		1	自然１	1	4			
44	2	17J	Ⅳ	003	チャート	分割礫	有	有	1	節理１	5	5	843	111	58
45	5	26T	Ⅰ	006	チャート	分割礫	有		1	節理１	1	5			
46	5	29Z	Ⅰ	002	チャート	分割礫		有	1	節理１	1	5			
47	2	18Q	Ⅱc	001	チャート	分割礫	有	有	1	節理１	3	5			
48	3	34I	Ⅲ	004	チャート	分割礫	有	有	2	節理１、剥離１	2	5			
49	3	33I	Ⅱc	002	チャート	分割礫	有	有	2	節理１、剥離１	2	5			
50	5	36b	Ⅱa	001	砂岩	分割礫	有	有	2	節理１、剥離１	4	5			
51	3	26E	Ⅱc	003	泥岩	分割礫	有	有	1	節理２	2	5			
52	2	19G	Ⅲ	001	泥岩	分割礫	有	有	2	節理２	2	5			
53	5	30c	Ⅰ	001	チャート	分割礫		有	2	節理２	2	5			
54	3	29O	Ⅰ	001	チャート	分割礫	有	有	1	節理３	3	5			
55	2	18G	Ⅳ	003	泥岩	分割礫	有	有	2	自然１、節理１	2	5			
56	3	28O	Ⅱc	023	チャート	分割礫	有	有	1	節理１	2	5			
57	3	29E	Ⅲ	007	チャート	分割礫	有	有	1	節理１	1	5			

第45表　打欠石錘計測・観察表

No.	地区	出土区	層位	遺物番号	石材	a(mm)	b(mm)	L1(mm)	L2(mm)	W(mm)	S(mm)	質量(g)	分類	残	掲載番号	挿図No.	写真図版
1	5	SK31		1081	泥岩	6.1	6.0	40.0	39.1	27.9	9.9	12.9	1b	完	731	91	51
2	5	27b	Ⅳ	004	泥岩	10.6	10.0	40.0	39.2	32.5	14.8	23.5	1a	完	844	114	59
3	3	29F	Ⅱc	019	泥岩	6.6	8.1	53.4	51.0	40.3	22.2	66.8	1a	完			
4	3	33F	Ⅱb	001	砂岩	11.5	9.1	44.2	36.9	47.3	18.4	38.6	1a	完			
5	3	30F	Ⅲ	017	泥岩ﾎﾙﾝﾌｪﾙｽ	5.4	3.1	49.7	47.4	(24.8)	(18.9)	(14.3)	1a	欠			
6	3	32D	Ⅲ	013	砂岩	8.4	10.1	53.1	50.6	44.1	19.3	68.7	1a	完			
7	3	27B	Ⅲ	003	泥岩	7.4	7.7	51.3	49.7	(33.3)	(10.6)	25.4	1a	完			
8	5	31Z	Ⅰ	001	砂岩	20.7	17.4	57.5	50.2	47.1	8.9	52.6	1a	完			
9	5	30S	Ⅲ	001	泥岩	5.4	6.8	44.0	42.8	31.9	11.1	4.0	1a	完			
10	5	30T	Ⅲ	001	泥岩	9.0	10.3	48.8	48.4	35.5	12.1	30.0	1a	完			
11	3	32G	Ⅱc	003	泥岩	7.1	6.5	41.1	39.6	32.2	16.9	26.8	1b	完	845	114	59
12	3	29L	Ⅱc	026	砂岩	8.7	5.9	66.0	63.6	51.8	21.0	95.4	1b	完	846	114	59
13	2	20P	Ⅱd	010	泥岩	7.2	21.4	69.7	68.1	49.2	18.5	0.8	1b	完			
14	5	32d	Ⅱa	001	泥岩	10.4	6.1	39.7	38.0	33.6	1.8	22.3	1b	完			
15	5	37b	Ⅱa	001	砂岩	8.9	17.7	40.8	37.8	34.8	15.4	29.2	1b	完			
16	5	32W	Ⅱb	001	砂岩	5.8	8.8	49.9	46.8	34.3	18.8	41.2	1b	完			
17	5	37Z	Ⅱd	001	泥岩	6.9	11.3	37.1	34.9	27.3	10.0	14.8	1b	完			
18	5	27b	Ⅰ	001	泥岩ﾎﾙﾝﾌｪﾙｽ	8.0	4.5	47.5	45.3	34.9	13.0	27.2	1b	完			
19	5	28Y	Ⅲ	012	泥岩	7.3	6.0	36.9	35.3	37.9	10.8	21.5	1b	完			
20	5	26d	Ⅲ	003	砂岩	9.8	8.0	40.6	38.9	34.1	13.7	2.7	1b	完			
21	5	30a	Ⅲ	002	泥岩	8.5	10.3	47.7	46.5	34.2	6.0	34.8	1b	完			
22	5	27T	Ⅲ	001	泥岩	8.8		(30.6)	(28.1)	(30.8)	(10.9)	(10.6)	1b	欠			
23	5	28C	Ⅲ	001	砂岩	12.0	7.5	45.1	44.1	37.5	9.0	21.5	1b	完			
24	5	30Z	Ⅲ	001	泥岩	5.5	8.8	41.6	37.9	42.3	15.9	35.8	1b	完			
25	5	33Y	Ⅲ	001	砂岩	8.8	10.0	30.0	28.8	27.6	13.1	14.1	1b	完			
26	5	33C	Ⅲ	001	砂岩	10.6	9.3	48.7	46.0	33.8	12.5	26.7	1b	完			
27	5	24X	Ⅳ	003	泥岩	8.7	12.8	40.1	37.4	39.8	13.9	31.5	1b	完			
28	5	34Z	Ⅳ	005	泥岩	(12.8)	(13.9)	(43.8)	(37.8)	(29.4)	(11.7)	(18.5)	1b	欠			
29	3	27D	Ⅱa	002	泥岩	3.6	8.2	51.8	51.0	36.1	16.4	34.0	1b	完			
30	5	35Z	Ⅱa	001	砂岩	10.3	7.9	50.0	48.9	18.7	14.7	30.0	2a	完			
						4.5	2.0	27.9	27.5	48.5	1.4		2a				
31	2	18J	Ⅲ	010	泥岩	9.2	6.8	42.9	39.3	(35.0)	(14.1)	26.7	2a	完	847	114	59
						11.3	20.4	33.8	31.7	42.5	13.5		2a				



第125図　打欠石錘計測部位説明図

打欠石錘について

(1) 計測部位については、渡辺誠氏の提唱を参考とした。（渡辺　誠　1988　落合五郎遺跡発掘調査報告書他）

(2) 長さをＬ１、幅をW、厚み（Ｓ）の差による重心のかかる部位を下にした場合の上部の打欠き部分をａ、下部のそれをｂで示した。また、打欠き間の最短距離をＬ２で示した。

(3) 表中のａ・ｂの計測値で（ ）で示したものは、磨滅・破損によりその正確な計測が困難であったことを示す。

(4) 残存の度合いは完形品を完、欠損品を欠で示した。

第46表　切目石錘計測・観察表(1)

No.	地区	出土区	層位	遺物番号	石材	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	質量(g)	分類	残	掲載番号	挿図No.	写真図版
1	5	SB2		1508	砂岩	36.5	27.0	19.0	25.8	2c	完	732	91	51
2	5	SB2		1140	砂岩	44.2	34.2	11.0	25.9	2c	完	733	91	51
3	5	SB2		918	泥岩	(39.9)	(20.9)	(11.9)	(12.1)	2b	欠			
4	5	SB4		1484	砂岩	36.0	27.4	15.0	19.1	2c	完	734	91	51
5	5	SB4		111	泥岩	(45.0)	(27.0)	(17.5)	(22.0)	2b	欠	735	91	51
6	5	SB7		1575	泥岩	39.0	32.1	10.1	15.2	1b	完	736	91	51
7	2	SU3		001	泥岩	42.0	28.8	13.0	16.8	2a	完	737	91	51
8	3	SU4		015	砂岩	49.1	36.3	21.7	48.9	2a	完	738	91	51
9	5	SK20		1070	泥岩	41.8	34.0	15.5	27.6	1b	完	739	91	51
10	5	SX2		771	砂岩	(49.0)	(26.1)	(10.0)	(13.6)	2b	欠	740	91	51
11	2	P70		001	泥岩	61.4	41.0	23.0	69.2	2b	完	741	91	51
12	2	P62		001	泥岩	49.0	33.0	19.1	42.0	2b	完	742	91	51
13	5	P290		001	泥岩	40.8	32.2	16.1	19.7	1b	完	743	91	51
14	2	17H	Ⅲ	016	泥岩	42.2	22.2	11.4	11.2	1a	完	848	114	59
15	3	26F	Ⅲ	014	泥岩	57.2	25.0	16.3	33.0	1a	完	849	114	59
16	5	40Z	Ⅱd	001	泥岩	42.9	28.0	10.9	12.7	1a	完	850	114	59
17	1	10Q	Ⅲ	001	泥岩	(44.3)	(27.3)	(16.8)	(24.7)	1a	欠			
18	2	17D	Ⅳ	001	砂岩	56.4	34.7	18.2	52.7	1a	完			
19	5	31a	Ⅲ	002	泥岩	41.1	30.2	9.8	12.7	1a	完			
20	5	31V	Ⅱb	012	泥岩	33.4	18.5	9.0	8.4	1b	完			
21	5	28e	Ⅲ	001	泥岩	46.2	26.5	11.7	19.6	1b	完			
22	5	32X	Ⅱb	003	砂岩	37.8	35.2	17.6	28.2	1b	完			
23	2	18L	Ⅳ	002	泥岩	45.0	31.8	17.8	35.8	1b	完			
24	2	22P	Ⅲ	040	砂岩	44.2	31.9	21.3	37.8	1b	完			
25	2	20G	Ⅲ	004	砂岩	50.7	35.3	15.1	41.8	1b	完			
26	5	37a	Ⅱd	001	泥岩	54.2	41.0	17.0	44.2	1b	完	851	114	59
27	1	11M	Ⅲ	002	泥岩	69.6	37.3	20.1	72.6	1b	完			
28	3	29G	Ⅱb	007	泥岩	(85.2)	(40.8)	(19.4)	(95.6)	1b	欠			
29	5	34Z	Ⅱb	002	泥岩	(27.2)	(21.1)	(3.5)	(2.7)	2a	欠			
30	5	19X	Ⅱ	002	泥岩	(32.4)	(20.5)	(5.1)	(4.3)	2a	欠			
31	2	19I	Ⅲ	002	泥岩	(33.1)	(19.7)	(6.2)	(4.8)	2a	欠			
32	5	38X	Ⅲ	001	泥岩	(20.1)	(25.3)	(9.1)	(5.7)	2a	欠			
33	5	27Z	Ⅲ	001	泥岩	33.4	17.5	7.3	5.8	2a	完			
34	5	33Y	Ⅲ	005	泥岩	(30.9)	(15.5)	(10.3)	(6.2)	2a	欠			
35	3	28O	Ⅲ	004	泥岩	(36.3)	(41.1)	(14.2)	(6.5)	2a	欠			
36	3	30E	Ⅲ	010	泥岩	(45.4)	(29.8)	(13.3)	(6.6)	2a	欠			
37	1	11S	Ⅲ	003	砂岩	37.6	18.8	8.2	8.6	2a	完			
38	3	31H	Ⅱa	008	泥岩	(42.4)	(36.8)	(5.9)	(9.5)	2a	欠			
39	5	30b	Ⅳ	002	砂岩	35.0	26.8	13.7	15.3	2a	完	852	114	59
40	1	13S	Ⅱa	001	泥岩	35.0	21.1	9.7	9.7	2a	完	853	114	59
41	5	28Y	Ⅲ	004	砂岩	31.9	24.8	11.2	10.9	2a	完			
42	1	8Q	Ⅲ	002	泥岩	57.6	19.6	7.0	11.4	2a	完			
43	5	27c	Ⅲ	001	泥岩	20.0	24.3	10.5	14.0	2a	完			
44	1	12S	Ⅲ	002	砂岩	43.9	23.4	10.1	15.4	2a	完			
45	5	32T	Ⅱa	002	泥岩	38.6	29.9	9.9	16.6	2a	完			
46	5	31a	Ⅲ	003	泥岩	(52.0)	(31.9)	(8.4)	(16.7)	2a	欠			
47	2	18L	Ⅳ	011	泥岩	(49.5)	(35.1)	(11.4)	(19.3)	2a	欠			
48	1	8Q	Ⅲ	003	砂岩	44.4	31.3	9.2	20.3	2a	完			
49	1	14X	Ⅲ	002	砂岩	39.9	28.9	16.1	22.0	2a	完			
50	5	23V	Ⅱ	002	泥岩	50.5	33.2	11.6	27.1	2a	完			
51	5	35c	Ⅲ	001	砂岩	51.2	30.2	11.7	27.2	2a	完			
52	5	30Z	Ⅱa	001	砂岩	(36.5)	(32.5)	(16.4)	(27.5)	2a	欠			
53	5	28b	Ⅳ	001	泥岩	43.5	33.8	14.3	30.8	2a	完			
54	3	27P	Ⅱc	003	泥岩	57.8	35.9	11.3	30.9	2a	完			
55	3	30G	Ⅱc	001	泥岩	(60.0)	(42.4)	(12.4)	(36.9)	2a	欠			
56	2	20H	Ⅳ	001	泥岩	(43.3)	(47.9)	(19.1)	(53.2)	2a	欠			
57	2	19I	Ⅱc	001	砂岩	57.7	39.5	19.2	64.4	2a	完			
58	2	18E	Ⅱc	010	泥岩	64.8	41.1	22.3	77.9	2a	完			
59	3	30C	Ⅲ	012	泥岩	74.8	35.5	18.9	85.8	2a	完			
60	2	表採		021	泥岩	(45.5)	(40.3)	(17.6)	(39.0)	2b	欠			
61	2	21P	Ⅲ	010	泥岩	(33.9)	(20.4)	(5.6)	(4.3)	2b	欠			
62	1	14X	Ⅲ	001	泥岩	(2.6)	(28.2)	(9.2)	(6.9)	2b	欠			
63	5	26c	Ⅲ	002	砂岩	33.0	18.8	10.2	7.3	2b	完			
64	5	33Y	Ⅲ	002	砂岩	(25.5)	(23.7)	(13.6)	(8.0)	2b	欠			
65	2	17G	Ⅲ	007	泥岩	37.4	21.0	8.9	9.2	2b	完			
66	5	25c	Ⅱa	001	泥岩	(32.4)	(22.9)	(12.4)	(10.6)	2b	欠			
67	5	30a	Ⅲ	008	泥岩	35.4	19.9	12.5	11.3	2b	完			
68	2	18D	Ⅱc	020	泥岩	34.2	22.6	11.5	12.5	2b	完			
69	5	35W	Ⅳ	001	泥岩	(37.9)	(22.1)	(12.9)	(13.2)	2b	欠			
70	2	20P	Ⅲ	021	泥岩	35.2	29.6	10.3	14.0	2b	完			
71	5	36Z	Ⅳ	001	泥岩	(41.0)	(29.9)	(8.5)	(14.1)	2b	欠			
72	2	22K	Ⅲ	005	砂岩	41.3	22.2	11.8	14.6	2b	完			
73	2	19N	Ⅱc	008	泥岩	35.9	24.0	23.3	15.1	2b	完			
74	2	18H	Ⅲ	003	泥岩	37.0	23.1	12.8	16.2	2b	完			
75	2	22O	Ⅲ	013	砂岩	31.5	27.5	13.1	16.3	2b	完			

第47表　切目石錘計測・観察表(2)

No.	地区	出土区	層位	遺物番号	石材	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	質量(g)	分類	残	掲載番号	挿図No.	写真図版
76	2	18L	Ⅲ	008	砂岩	47.2	23.2	12.3	19.4	2b	完			
77	2	18J	Ⅱc	004	泥岩	33.4	33.3	12.5	20.4	2b	完			
78	1	13S	Ⅲ	004	砂岩	47.6	28.3	14.0	24.1	2b	完			
79	5	29Z	Ⅲ	003	泥岩	39.1	32.2	12.6	24.8	2b	完			
80	1	13S	Ⅲ	005	砂岩	37.0	33.2	17.0	25.2	2b	完			
81	5	24c	Ⅱa	001	砂岩	40.1	28.7	18.2	26.6	2b	完			
82	1	11S	Ⅲ	002	泥岩	58.9	26.2	14.8	26.6	2b	完			
83	2	17I	Ⅲ	007	泥岩	39.1	34.3	13.8	27.0	2b	完			
84	1	13S	Ⅲ	003	泥岩	42.3	34.8	12.0	27.1	2b	完			
85	2	18F	Ⅳ	002	泥岩	47.5	32.8	13.1	28.2	2b	完			
86	2	20D	Ⅱd	001	泥岩	39.1	31.0	16.9	28.8	2b	完			
87	2	20F	Ⅲ	007	泥岩	46.9	31.8	15.4	30.0	2b	完			
88	5	25a	Ⅲ	001	泥岩	(44.1)	(27.8)	(17.0)	(30.2)	2b	欠			
89	2	16E	Ⅳ	003	泥岩	54.0	26.4	14.9	30.3	2b	完			
90	2	18H	Ⅲ	004	凝灰岩	41.4	32.1	16.6	30.4	2b	完			
91	2	19F	Ⅲ	017	泥岩	55.0	(25.8)	16.7	31.5	2b	完	854	114	59
92	3	27E	Ⅱ	007	砂岩	(35.5)	(34.4)	(17.2)	(31.9)	2b	欠			
93	1	10U	Ⅲ	001	泥岩	(49.9)	(39.0)	(18.2)	(38.2)	2b	欠			
94	2	19D	Ⅱc	021	泥岩	(41.2)	(32.6)	(21.3)	(39.0)	2b	欠			
95	2	20G	Ⅲ	003	泥岩	52.4	41.4	13.4	41.4	2b	完			
96	2	20G	Ⅲ	002	泥岩	78.8	27.0	16.7	41.5	2b	完	855	114	59
97	2	20G	Ⅳ	009	砂岩	48.7	37.0	18.2	42.1	2b	完			
98	2	19R	Ⅲ	001	砂岩	75.1	24.9	17.1	42.3	2b	完			
99	1	13T	Ⅲ	001	泥岩	44.9	27.6	14.4	18.1	2b	完			
100	5	30T	Ⅱa	001	泥岩	80.0	28.0	16.0	43.4	2b	完	856	114	59
101	2	19E	Ⅱc	001	泥岩	48.8	28.9	21.0	44.7	2b	完			
102	2	17I	Ⅱc	001	砂岩	57.6	31.7	18.2	48.3	2b	完			
103	2	17E	Ⅲ	015	泥岩	46.8	40.2	19.8	50.9	2b	完			
104	2	19G	Ⅲ	015	泥岩	54.6	39.5	18.1	52.3	2b	完			
105	2	20G	Ⅱc	001	砂岩	58.1	42.5	17.2	52.4	2b	完			
106	2	19G	Ⅲ	003	泥岩	47.7	38.2	21.0	52.9	2b	完			
107	2	22Q	Ⅲ	010	砂岩	57.9	33.3	20.2	53.0	2b	完			
108	2	20P	Ⅱd	009	泥岩	68.0	31.0	17.9	53.0	2b	完	857	114	59
109	2	18F	Ⅱc	002	泥岩	67.3	35.0	15.4	56.1	2b	完			
110	2	17E	Ⅲ	020	泥岩	61.0	37.0	18.9	57.9	2b	完			
111	3	27P	Ⅱc	004	砂岩	(59.6)	(35.1)	(21.9)	(59.2)	2b	欠			
112	3	27L	Ⅱ	001・002	泥岩	69.7	32.5	17.0	59.7	2b	完			
113	2	20G	Ⅲ	010	砂岩	63.1	41.2	20.2	60.5	2b	完			
114	3	30G	Ⅱ	003	泥岩	55.6	39.1	21.5	61.8	2b	完			
115	3	28O	Ⅱc	035	砂岩	69.2	33.8	10.7	63.1	2b	完			
116	3	26F	Ⅱc	004	砂岩	(54.2)	(38.8)	(24.6)	(70.3)	2b	欠			
117	2	19F	Ⅲ	001	泥岩	72.5	44.5	21.0	92.3	2b	完	858	114	59
118	2	20G	Ⅱd	004	泥岩	62.1	37.2	23.2	79.0	2b	完			
119	2	17G	Ⅱb	001	泥岩	54.8	42.8	24.1	79.5	2b	完			
120	3	27P	Ⅱc	002	泥岩	61.0	42.7	20.9	74.9	2b	完	859	114	59
121	2	17E	Ⅲ	017	砂岩	74.3	45.6	19.0	85.0	2b	完			
122	2	26Q	Ⅱc	001	泥岩	54.2	44.0	27.0	81.4	2b	完	860	114	59
123	2	17E	Ⅲ	027	砂岩	62.7	45.2	25.2	96.1	2b	完			
124	2	15F	Ⅳ	002	砂岩	(65.8)	(50.1)	(26.5)	(96.9)	2b	欠			

第48表　有溝石錘計測・観察表

No.	地区	出土区	層位	遺物番号	石材	長(mm)	幅(mm)	厚(m)	質量(g)	残	掲載番号	挿図No.	写真図版
1	3	26F	Ⅲ	026	泥岩	66.3	30.1	18.6	57.0	完	861	114	59
2	2	18G	Ⅱc	003	泥岩	60.5	16.3	16.9	22.1	完	862	114	59

第49表　凹石類計測・観察表(1)

No.	地区	出土区	層位	遺物番号	石材	法量 長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	質量(g)	使用痕 表面	裏面	側面	長軸端	折損	群	ｸﾞﾙｰﾌﾟ	掲載番号	挿図No.	写真図版
1	5	SB2		1309	安山岩	(9.0)	5.1	3.8	(213.9)	2b	無	3c	無	有	3	G	746	91	52
2	2	P69		002	花こう閃緑岩	8.9	8.7	4.0	480.6	2b,3c	2b,3c	2a,2c	無		2	C	747	91	52
3	3	26F	Ⅲ	012	花こう岩	6.3	5.8	4.3	222.8	2b	3c	2a	2a		1	A			
4	2	20M	Ⅲ	004	砂岩	6.5	5.8	4.5	214.3	無	3b,3c	3c	3c		1	A			
5	2	22Q	Ⅲ	020	花こう閃緑岩	7.5	6.4	4.7	252.6	2b	3a,3b	2b	無		1	A			
6	3	表採		015	花こう閃緑岩	7.4	6.3	5.2	312.5	3b	無	無	無		1	A			
7	2	18K	Ⅳ	007	花こう岩	7.9	7.1	5.3	393.7	無	2b,3c	2b	無		1	A			
8	3	29N	Ⅲ	006	花こう岩	7.4	6.5	5.6	353.2	無	2a	無	1c		1	A			
9	2	20Q	Ⅱd	017	花こう岩	7.9	7.1	5.6	402.6	2b	2b	2a	無		1	A			
10	2	17F	Ⅲ	001	花こう岩	6.9	6.8	5.7	381.1	3c	3c	2b	無		1	A			
11	2	20E	Ⅲ	009	花こう岩	9.0	7.8	5.8	634.0	2b	3c	無	無		1	A			
12	3	32G	Ⅰ	001	閃緑岩	7.1	7.0	5.7	450.6	3b,3c	無	2b	3b,3c		1	A	863	120	60
13	3	32N	Ⅱc	001	花こう岩	9.7	8.2	5.8	460.1	1c,2b	2a	2a	無		1	A			
14	3	表採		016	花こう岩	8.7	7.4	5.8	501.3	無	3b,3c	2a	2a		1	A			
15	1	表採		003	花こう岩	6.7	6.7	6.4	387.0	2b	3c	2a	2a		1	A			
16	3	28E	Ⅱc	002	花こう岩	8.5	7.4	6.5	567.1	2b	2b	無	2b,1c		1	A			
17	3	30E	Ⅲ	002	花こう岩	8.3	7.5	6.5	518.5	無	2b,1a	2a	2a		1	A			
18	2	20R	Ⅲ	011	砂岩	7.7	6.8	7.2	509.8	無	3b,3c	無	無		1	A			
19	3	30H	Ⅱc	008	花こう岩	9.3	9.0	6.3	773.0	2b	3b,3c	2b	無		1	B			
20	2	18L	Ⅱd	010	花こう岩	10.0	8.4	6.4	821.0	2a,3c	3b,3c	1c	2a		1	B			
21	3	32G	Ⅱc	001	花こう岩	9.3	8.4	6.5	718.0	無	3c	2a	2a		1	B			
22	2	22O	Ⅲ	011	花こう岩	10.1	8.8	6.6	786.0	2b	2a	2a,3c	2a		1	B			
23	3	27C	Ⅱc	008	花こう閃緑岩	11.2	9.6	6.8	1181.0	無	2b,3c	無	無		1	B			
24	3	29F	Ⅱc	022	花こう岩	9.0	8.1	7.0	722.0	2a	2b	2c	2a		1	B			
25	3	27G	Ⅲ	008	安山岩	(9.6)	8.7	7.2	(952.0)	2b,3c	2b,3c	2a	2b,3c	有	1	B	864	120	60
26	1	表採		004	安山岩	11.3	9.5	7.4	1148.0	2a	2b,3c	3c	2a		1	B			
27	3	30F	Ⅲ	011	花こう岩	10.4	10.2	7.4	1058.0	無	3c	2a	2a		1	B			
28	2	18M	Ⅲ	009	花こう岩	12.4	10.5	7.4	1379.0	2b,3c	2b,3c	無	2a,2b		1	B	865	120	60
29	3	28E	Ⅲ	004	花こう岩	10.7	9.0	7.5	957.0	無	3c	2b,3c	1c		1	B			
30	5	27e	Ⅳ	001	花こう岩	11.9	10.0	7.6	1342.0	2b,3c	2b,3c	2c,3c	無		1	B			
31	5	27Z	Ⅲ	007	花こう岩	10.3	8.6	7.6	1020.0	無	3c	無	2b		1	B			
32	2	22P	Ⅲ	063	花こう岩	10.8	9.9	8.2	1247.0	3c	2b,3c	無	3c		1	B			
33	3	31I	Ⅲ	008	花こう岩	9.6	8.2	8.8	906.0	2a	2a,3c	2b	無		1	B			
34	3	27F	Ⅰ	003	花こう岩	(9.9)	9.4	9.1	(1069.0)	2a	2b	3a	無	有	1	B			
35	3	30G	Ⅰ	004	砂岩	(8.2)	(9.2)	(5.2)	(529.8)	3c	3c	2a	2a	有	2	C			
36	4	48K	Ⅲ	001	花こう岩	(7.7)	(7.7)	(5.1)	(363.1)	3a	3c	2a	無	有	2	C			
37	5	36Z	Ⅲ	002	花こう閃緑岩	5.4	5.2	3.3	112.1	3b	3b	無	無		2	C			
38	3	27F	Ⅱc	024	安山岩	9.6	8.6	4.1	(486.9)	3c	3c	3c	無	有	2	C			
39	1	11O	Ⅲ	002	花こう岩	9.3	8.8	4.1	465.0	3b,3c	3c	無	無		2	C			
40	3	33O	Ⅰ	001	安山岩	9.2	8.0	4.5	533.0	3b,3c	2b,3c	2c,1c	2a		2	C			
41	5	33Z	Ⅳ	001	花こう岩	8.7	(7.4)	4.6	(392.9)	2a	2b,3c	無	無	有	2	C			
42	5	28Y	Ⅱa	001	花こう岩	8.8	8.7	5.5	563.9	2b	2b	無	2b		2	C	866	120	60
43	3	28C	Ⅲ	001	安山岩	8.5	8.3	4.6	472.7	3b,3c	2b,3c	2a	無		2	C			
44	2	26P	Ⅲ	002	安山岩	9.1	7.8	4.8	(491.2)	3c	3b	無	無	有	2	C			
45	3	31E	Ⅲ	013	安山岩	7.5	7.4	4.8	377.1	3c	3c	2a	2a		2	C			
46	1	2P	Ⅱc	001	花こう岩	8.8	8.4	4.8	446.7	2b.3c	3c	2a	2a		2	C			
47	2	17D	Ⅱc	003	花こう岩	9.2	8.2	5.1	552.4	2a,3c	2a,3c	2a	無		2	C			
48	3	27F	Ⅲ	001	花こう岩	9.1	8.0	5.2	539.2	2b	2b,3c	2a	2a		2	C			
49	3	28D	Ⅲ	004	花こう閃緑岩	8.5	7.7	4.6	456.7	2b,3c	3b,3c	2c	3c		2	C	867	120	60
50	3	27F	Ⅰ	002	花こう岩	9.4	8.2	5.3	543.5	2b	3c	2a	2a		2	C			
51	2	18L	Ⅲ	006	花こう岩	13.0	10.9	7.7	1557.0	2a,3c	3c	2b	無		2	C			
52	3	26F	Ⅱc	015	花こう岩	10.8	10.3	4.9	806.0	3b,3c	3c,3b	2a	2a		2	D			
53	3	29F	Ⅱc	023	安山岩	10.2	9.5	5.0	722.0	3b,3c	2b,3c	2a	2b		2	D			
54	2	20F	Ⅲ	023	安山岩	9.4	8.9	6.3	806.0	2b,3c	2b,3c	2b	2c		2	D	868	120	60
55	2	18L	Ⅲ	010	安山岩	10.8	9.8	5.4	795.0	3c	3c	2a	2b		2	D			
56	3	31D	Ⅱb	003	花こう岩	9.6	9.3	5.8	725.0	2a,3c	3c,2a	2a,2b	3b		2	D			
57	2	22P	Ⅲ	094	花こう岩	11.4	(9.4)	5.9	(931.0)	2b,3c	2b,3c	2a	2a	有	2	D			
58	1	13S	Ⅱa	003	花こう岩	10.9	9.4	6.0	865.0	2a,3c	3c	2a	2a		2	D			
59	3	32G	Ⅱc	002	花こう岩	9.7	(8.8)	6.0	(687.0)	2b	2b,3c	2a	無	有	2	D			
60	3	26F	Ⅲ	002	花こう岩	10.4	8.9	6.0	737.0	無	2b	2a	2a		2	D			
61	2	18M	Ⅲ	007	砂岩	10.0	9.0	5.3	668.0	2b,3c	2b,3c	2c	2a,2c		2	D	869	121	60
62	3	30G	Ⅱc	009	花こう岩	9.9	(7.0)	6.6	(544.0)	2a	2a,3c	2a	2a	有	2	D			
63	2	19D	Ⅲ	003	花こう岩	11.8	10.4	6.9	1100.0	2b	2b	2c	2a		2	D			
64	3	30F	Ⅲ	012	花こう岩	10.7	8.8	6.1	759.0	3b	2b,3c	1c	2b		3	D			
65	3	29E	Ⅲ	006	安山岩	11.2	8.8	(4.7)	(490.5)	3b	3b,1c	2a	2a	有	3	E			
66	5	25c	Ⅲ	008	安山岩	10.8	9.0	3.2	494.3	2b,3c	3c,2b	3c	無		3	E			
67	5	27g	Ⅳ	001	安山岩	10.0	8.0	4.4	545.0	2a,3c	3c	3c	無		3	E	870	121	60
68	3	33C	Ⅲ	001	砂岩	10.8	8.2	3.6	468.2	3b,3c	3b,3c	2a,2c	2a		3	E			
69	3	27F	Ⅰ	001	安山岩	(9.0)	6.8	3.7	(378.3)	2a,3c	2a,3c	2a,3c	2a	有	3	E			
70	3	26F	Ⅲ	011	花こう岩	8.5	6.6	3.8	347.5	3c	2b,3c	2b	2a		3	E			
71	2	18J	Ⅲ	007	砂岩	11.9	9.0	4.1	676.0	3b,3c	3b,3c	2a	1c		3	E			
72	2	20F	Ⅲ	013	花こう岩	(9.4)	7.5	4.1	(482.4)	2b,3c	2b,3c	無	無	有	3	E			
73	5	30a	Ⅲ	010	花こう岩	9.4	7.7	4.1	417.9	3c,2a	3b,3c	2a,3c	無		3	E			
74	3	28F	Ⅰ	011	砂岩	10.2	8.0	4.3	631.0	2a,3c	3c	無	2b		3	E			
75	2	20P	Ⅲ	016	花こう岩	7.8	6.5	4.3	309.2	2b,3c	2b,3c	2a	1c		3	E			

第50表　凹石類計測・観察表(2)

No.	地区	出土区	層位	遺物番号	石材	法量				使用痕				折損	群	ｸﾞﾙｰﾌﾟ	掲載番号	挿図No.	写真図版
						長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	質量(g)	表面	裏面	側面	長軸端						
76	3	29K	Ⅲ	012	安山岩	8.4	6.9	3.4	334.5	3c	3c	2b,3c	2a		3	E	871	121	60
77	2	20D	Ⅱa	001	花こう岩	10.0	7.7	4.6	554.8	2b,3c	2b,3c	無	無		3	E			
78	3	27G	Ⅲ	009	安山岩	10.0	7.5	4.7	534.0	3b,3c	3b,3c	2c	3c		3	E	872	121	61
79	3	25D	Ⅱc	002	花こう岩	9.3	7.7	5.2	552.2	2b	2b	1c	2a		3	E			
80	2	26P	Ⅲ	004	花こう岩	10.1	8.3	5.3	627.0	2b,3c	3c	2c	1c		3	E			
81	2	18E	Ⅳ	001	花こう岩	10.1	9.4	5.4	677.0	3c	3c	無	無		3	E			
82	2	19E	Ⅳ	002	安山岩	10.4	8.6	5.7	687.0	3c	3c	3c	無		3	E			
83	3	26F	Ⅱc	014	安山岩	(10.4)	(4.7)	(4.6)	(292.1)	3c	2b,3c	2a	2a	有	3	F			
84	5	30S	Ⅱa	001	砂岩	(11.7)	(8.2)	3.9	(473.3)	3c	3c	3c	2a	有	3	F			
85	2	20F	Ⅲ	026	花こう岩	12.6	9.0	(5.5)	(1010.0)	2b,3a	1c	2a	無	有	3	F			
86	2	18F	Ⅱc	013	安山岩	(9.6)	8.5	4.8	(655.0)	3c	2b,3c	4c	2a	有	3	F			
87	1	3R	Ⅲ	001	花こう岩	11.7	9.5	4.9	790.0	3b,3c	3c	無	2a		3	F			
88	5	27b	Ⅲ	001	安山岩	9.8	(8.1)	5.0	(575.6)	2b,3c	3c	無	無	有	3	F			
89	4	45H	Ⅲ	001	安山岩	11.5	9.5	5.1	836.0	2b,3c	2b,3c	3c	2a		3	F			
90	1	表採		002	花こう岩	12.0	8.4	5.3	812.0	2b,3c	2a,3c	3c	2a		3	F			
91	2	17K	Ⅲ	011	花こう閃緑岩	10.9	7.9	5.3	736.0	2a,3c	3c	2c	3b		3	F			
92	2	20J	Ⅳ	003	花こう岩	11.1	8.1	5.4	748.0	2a	2b,3c	2c	無		3	F			
93	2	22R	Ⅲ	007	安山岩	12.5	9.0	5.5	1010.0	3c	3c	3c	無		3	F	873	121	61
94	3	29F	Ⅲ	001	砂岩	12.5	9.3	4.5	904.0	3b,3c	2b,3c	2c	無		3	F	874	121	61
95	2	18D	Ⅱc	009	花こう岩	13.5	10.3	5.6	1266.0	2b,3c	3c	2c	無		3	F	875	121	61
96	3	26E	Ⅱc	008	花こう閃緑岩	11.0	8.6	5.6	895.0	3b	2b,2c	2c	2a		3	F			
97	2	20E	Ⅲ	008	花こう岩	10.5	8.7	6.0	830.0	2b,3c	2b,3c	3c	2a		3	F			
98	2	17F	Ⅲ	022	花こう岩	10.5	8.6	6.0	729.0	2b	3b,3c	2a	無		3	F			
99	3	25F	Ⅲ	002	花こう岩	(10.2)	6.3	(6.6)	(265.6)	2b	2b	無	無	有	3	G			
100	2	22Q	Ⅲ	015	花こう岩	7.6	5.4	4.3	245.0	2a	2a,3c	2a	2a		3	G			
101	2	17E	Ⅲ	026	花こう閃緑岩	7.0	5.8	4.5	236.8	2a	3b	2c	2a		3	G			
102	2	26P	Ⅲ	005	花こう岩	8.6	6.2	4.7	350.0	3a	3b,3c	2a	2b		3	G			
103	3	27H	Ⅳ	003	花こう岩	9.3	7.2	5.4	474.8	2a	2a,1c	無	1b		3	G			
104	2	19E	Ⅳ	001	花こう岩	9.4	6.5	5.5	472.8	2a,3c	2b,3c	2a	2a		3	G			
105	2	22P	Ⅱd	016	花こう岩	10.9	7.9	5.9	717.0	2a	2b,3c	2a	1c,2c		3	G	876	122	61
106	2	17J	Ⅲ	022	花こう岩	8.9	6.9	6.1	548.0	3a	3c	無	2a		3	G			
107	3	26F	Ⅲ	001	花こう岩	11.4	8.3	6.3	886.0	3b,3c	3b,3c	2a	2a,3c		3	G	877	122	61
108	3	26F	Ⅱc	005	花こう岩	11.3	8.7	6.5	923.0	4c	3c	2c	1c		3	G			
109	3	29N	Ⅲ	007	花こう閃緑岩	10.0	7.4	6.7	687.0	3b	1c	2a	2b		3	G			
110	5	41a	Ⅳ	002	花こう岩	10.5	7.6	6.7	856.0	2b,3c	2b,3c	3c	2a		3	G			
111	2	17K	Ⅳ	001	砂岩	10.7	7.9	7.5	880.0	2a,3c	3c	無	2a		3	G			
112	2	17G	Ⅲ	017	花こう岩	11.8	8.6	7.6	1062.0	2a,2b	2b,3c	2b,3c	2a		3	G			
113	5	28b	Ⅳ	002	花こう岩	9.4	6.2	4.8	372.3	2a	3a	無	2a		3	G			
114	3	29G	Ⅲ	015	花こう岩	11.4	7.6	6.8	785.0	3c	2a,2b	2a	2a		3	G			
115	2	26P	Ⅲ	003	安山岩	10.4	6.9	6.9	668.0	2a,3b	3b,3c	無	2a		3	G			
116	3	28F	Ⅰ	012	安山岩	13.3	7.9	7.5	1134.0	2b	2b,3c	2c,3c	2c		3	G	878	122	61
117	5	27d	Ⅳ	001	安山岩	9.3	6.8	3.7	254.5	2b,3c	2b	3c	無		4	H	879	122	61
118	3	26E	Ⅱc	007	安山岩	11.3	8.5	3.8	561.5	3b,3c	3b,3c	2c	無		4	H	880	122	61
119	5	表採		006	花こう閃緑岩	10.6	6.3	(6.4)	(551.0)	2b,3c	2b,3c	2b	無	有	4	H			
120	3	表採		001	花こう閃緑岩	(8.2)	(3.3)	(6.5)	(206.1)	2b	不明	不明	不明	有	不明				
121	3	30F	Ⅱc	001	安山岩	8.7	(5.8)	(6.1)	(237.0)	2b,3c	不明	不明	2a	有	不明				
122	3	26D	Ⅱc	002	安山岩	(6.2)	(4.7)	(5.3)	(210.9)	2a	3a	無	2b	有	不明				
123	3	28F	Ⅰ	005	花こう岩	(7.2)	(6.2)	(5.2)	(339.1)	2b	2a	無	2a	有	不明				
124	3	31I	Ⅲ	003	安山岩	(7.9)	(5.0)	(5.1)	(279.7)	3b,3c	3c	2c	不明	有	不明				
125	5	27b	Ⅳ	002	安山岩	(6.4)	(2.1)	8.0	(61.1)	不明	不明	不明	2b	有	不明				
126	2	19N	Ⅳ	004	花こう岩	6.3	6.0	(4.8)	(215.2)	2b	2a	無	無	有	不明				
127	2	25Q	Ⅱc	001	砂岩	(6.7)	(5.7)	(4.7)	(210.9)	2a	無	無	2a	有	不明				
128	3	28O	Ⅲ	031	安山岩	(7.1)	(2.5)	(4.3)	(81.3)	3c	不明	不明	2a	有	不明				
129	3	25D	Ⅱc	001	安山岩	(5.8)	(3.5)	(3.8)	(98.4)	2b,3c	1b	不明	2a	有	不明				
130	3	25D	Ⅲ	001	花こう閃緑岩	5.0	4.9	(3.6)	(105.8)	無	1b	2a	2a	有	不明				
131	3	31L	Ⅱc	001	安山岩	(6.4)	(6.7)	(2.8)	(130.3)	3c	3c	無	無	有	不明				
132	3	30H	Ⅱc	035	安山岩	(6.9)	(6.6)	(2.6)	(155.9)	3c	3c	2a	無	有	不明				
133	5	27Z	Ⅲ	009	花こう閃緑岩	(4.4)	(3.7)	(1.6)	(43.5)	不明	不明	2b	不明	有	不明				
134	3	28E	Ⅱc	007	安山岩	7.3	(5.7)	4.9	(244.1)	2b,3c	3c	2b	2b	有	不明				
135	2	18F	Ⅲ	009	花こう岩	(11.8)	(7.9)	6.0	(779.0)	2a	2b	2a	2b	有	不明				

第51表　台石計測・観察表

No.	地区	出土区	層位	遺物番号	石材	法量				使用痕			長軸端	折損	掲載番号	挿図No.	写真図版
						長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	質量(g)	表面	裏面	側面					
1	2	P47		001	花こう岩	19.8	16.8	10.0	4674.0	2a	3c	無	無		748	92	52
2	3	30H	Ⅱc	036	泥岩	17.0	11.0	8.2	2156.0	2b	2b	無	2a				
3	3	26F	Ⅱc	006	花こう岩	(19.5)	(16.5)	(8.7)	(4033.0)	3c,3b	2b,2c	2a,5	無	有	881	123	62
4	3	表採		021	花こう岩	15.0	11.0	7.0	1875.0	2b,3c	2a	1a	無				

第52表　石皿計測表

No.	地区	出土区	層位	遺物番号	石材	法量				掲載番号	挿図No.	写真図版
						長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	質量(kg)			
1	2	SR1		001	安山岩	24.5	13.2	8.5	2.5	749	92	52
2	3	表採		020	安山岩	39.8	32.4	14.6	21.7	882	123	62
3	2	17I	Ⅲ	024	アプライト	49.8	19.8	11.3	17.4			

第53表　砥石計測表

No.	地区	出土区	層位	遺物番号	石材	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	質量(g)	掲載番号	挿図No.	写真図版
1	5	29e	Ⅲ	001	蛇紋岩	(71.0)	56.0	(14.0)	(90.2)	883	124	62
2	5	26Y	Ⅲ	001	泥岩	(36.7)	(19.2)	(12.1)	(6.5)	884	124	62
3	5	27Z	Ⅲ	002	ﾊﾟｲﾛﾌｨﾗｲﾄ	38.9	7.2	7.9	(3.8)	885	124	62
4	5	32S	Ⅲ	003	砂岩	(78.1)	(37.1)	(31.8)	(99.0)			
5	5	38X	Ⅲ	002	砂岩	(59.8)	(69.8)	(11.8)	(63.8)			
6	5	29U	Ⅱa	001	砂岩	(65.5)	(51.2)	(26.1)	(131.3)			

第54表　石製品計測・観察表

No.	製品	地区	出土区	層位	遺物番号	石材	法量				折損	掲載番号	挿図No.	写真図版
							長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	質量(g)				
1	垂飾	2	P76		001	泥岩	6.0	38.1	14.3	42.7		745	91	52
2	垂飾	5	33b	Ⅰ	001	ﾊﾟｲﾛﾌｨﾗｲﾄ	38.0	16.4	7.2	6.8		890	124	63
3	石刀	3	26F	Ⅲ	042	砂岩	(40.9)	(21.8)	(12.5)	(14.3)	有	886	124	63
4	石棒	2	17L	Ⅲ	001	結晶片岩	(111.2)	31.1	21.7	(125.5)	有	887	124	63
5	石棒	2	17I	Ⅲ	001	泥岩	220.0	25.6	21.1	195.5		888	124	63
6	石棒	3	27E	Ⅰ	001	安山岩	(181.0)	106.0	89.0	(2549.6)	有	889	124	63
7	石棒	2	22Q	Ⅱd	026	安山岩	(43.2)	(42.3)	(10.1)	(20.0)	有			
8	石棒	3	31I	Ⅱc	001	泥岩	(37.6)	(19.7)	(5.5)	(5.0)	有			
9	石棒	3	31I	Ⅱ	002	泥岩	(42.2)	(24.1)	(6.7)	(8.0)	有			
10	玉類	2	22P	Ⅲ	019	蛇紋岩	8.9	10.0	5.1	0.7		891	124	63
11	異形石器	5	25c	Ⅳ	002	チャート	14.2	11.1	2.6	0.5		892	124	63
12	その他	5	28d	Ⅲ	004	サヌカイト	(36.5)	13.6	5.0	(2.3)	有	893	124	63

＜石器計測・観察表　凡例＞

1．石器全体について

(1) 法量計測については、次の器具を使用した。

・長さ・幅・厚さ…カーボンファイバーノギス　DIAL15（TAJIMA製）

・質量 ～600g：LIBROR Ⅰ EL600（SHIMADZU製　秤量600ｸﾞﾗﾑ）

600g～6,000g：LIBROR EL6000（SHIMADZU製　秤量6,000ｸﾞﾗﾑ）

6kg～20kg：SD20（Yamato製秤量20kg）　20kg～　：ヘルスメーター（TANITA製秤量120kg）

(2) 折損などにより、完形でない場合の法量については（ ）で示した。

(3) 磨耗の有無は、ルーペ観察による。

(4) 石材鑑定は、当センターの鈴木隆雄・増子　誠・千藤克彦・藤岡・浅野が行った。

2．石鏃について

(1) 折損により、先端角が測定不能の場合は空欄とし、わずかに折損するが両側辺の角度が安定しているもの は（ ）で示した。

(2) 折損により、基部の形態が不明なものは空欄にした。

3．石錐について

(1) 錐部の幅と厚さは、錐部の先端から5mmの所での測定値である。

(2) 錐部が折損している場合は、折損箇所での幅と厚さを測定し（ ）で示した。

4．スクレイパー類について

(1) 刃部数のカウントは、刃部が連続していても平面形が明確に変わっている場合は、別の刃部として数えた。

(2) 掻器Ⅱの刃部位置については、素材となる剥片の打点側を「基端部」、末端側を「末端部」とした。

5．石核について

(1) 打面数・作業面数は、剥片剥離作業により欠損したものは含めず、確認できるものの数を記した。

6．切目石錘について

(1) （ ）で示したものは、磨滅・破損によりその正確な計測が困難であったことを示す。

(2) 残存の度合いは完形品は完、欠損品を欠で示した。

7．凹石類について

(1) 凹みにおける敲打痕、磨痕の違いは、ルーペ観察による。

8．台石について

(1) 使用痕については凹石類に準ずる。

第６章　古代以降の遺物

出土遺物は接合前の破片数で804点を数え、その内訳は須恵器２、灰釉陶器碗皿類285、灰釉陶器壺類26、古代の土師器甕１、山茶碗111、小皿12、鉢５、古瀬戸17、大窯21、古瀬戸～大窯22、中国磁器５、常滑40、信楽２、土師器皿14、土師器煮沸具５、近世陶磁器類214、近世土製品10、加工円盤４、銭貨２、その他の土師器６である。

須恵器は図化していないが、８世紀代の美濃須衛産の杯身片が２点出土している。

灰釉陶器は極めて精緻な胎土を有する一群と、若干の砂粒を含むやや粗い胎土を有する一群があり、その比率は後者の方がわずかに多い。時期的には、高台の形態から判断して確実に黒笹90号窯式まで遡る個体は皆無であり、東山72号窯式を中心とするものが大半であると思われる。また、底部が残存している27点の破片のうち、内面が平滑な個体は４点確認できる。、そのうち、896は擂鉢や山茶碗の底部内面が平滑になっている状態よりもはるかに滑らかであるといえるが、内面に硯のような黒色ないしは赤色を呈する有機物がしみ込んでいる痕跡は確認できない。また、灰釉陶器のうち唯一の完形品である895の段皿も底部内面は比較的平滑であり、その周縁部まで灰釉が刷毛塗りされている。一方、口縁部破片111点のうち、輪花が施されているものは４点確認でき、ヘラで押さえただけのものが３点、指で押さえただけのもの(900)が１点あり、いずれも口縁端部まで伸びている。

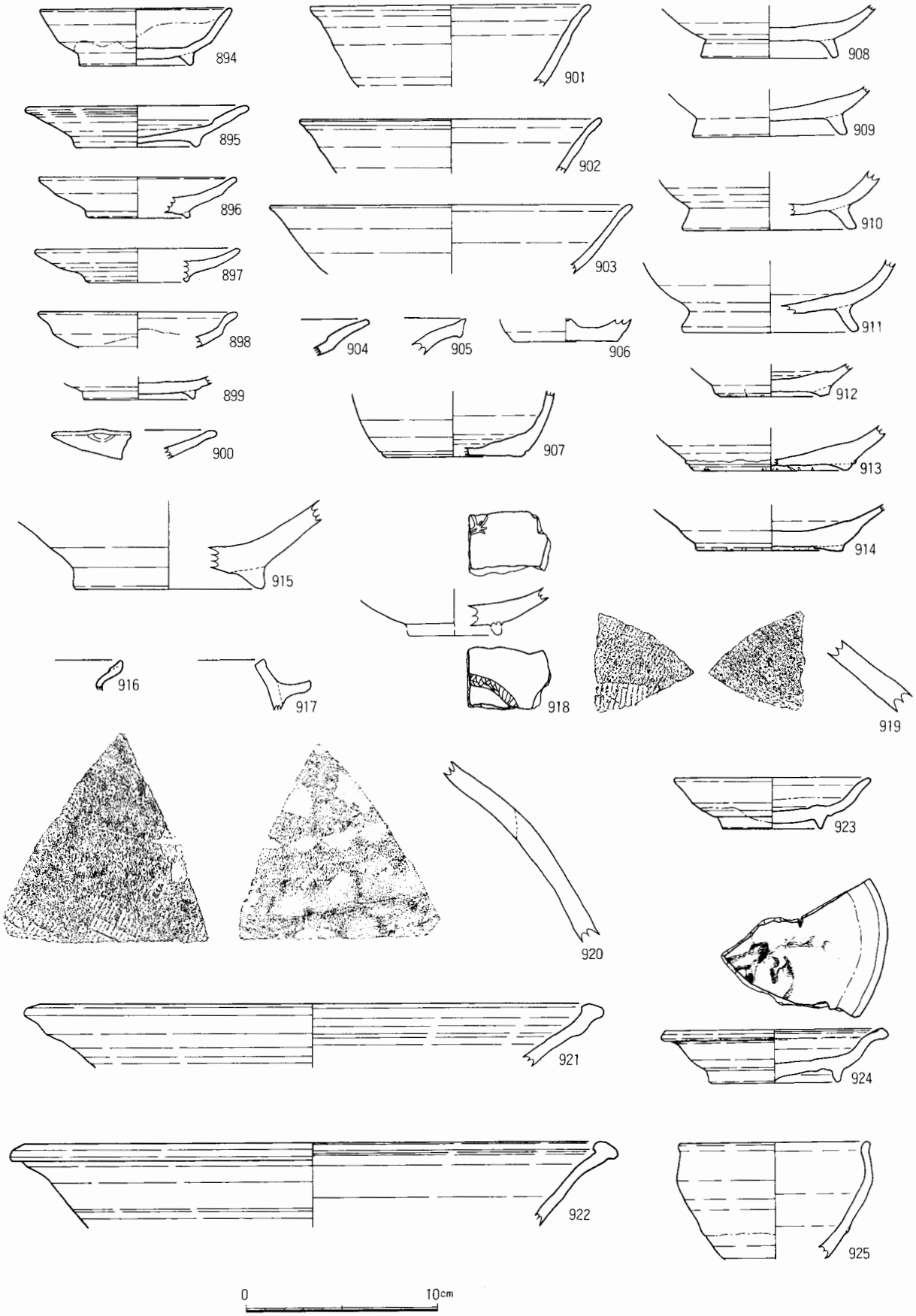
古代の土師器甕は図化していないが、頸部の屈曲具合や胎土などからその時期を古代と判断した。

山茶碗、小皿、鉢はいずれも荒肌手であり、均質手は皆無である。また、荒肌手の中でも一般的に尾張型と呼称されている荒肌手山茶碗とは胎土や調整が異なる破片が数点確認でき、このような山茶碗は本遺跡から西約１㎞の場所に位置する細野遺跡(早野他1999)でも出土している。これらの時期は、高台と底部内面の形態から判断して藤澤編年(藤澤1994)第４～６型式までであり、その中でも第５型式後半～第６型式の遺物が多い印象を受ける。山茶碗の底部破片43点のうち、底部内面が平滑であるもの(平滑か否かは報告者の判断であり、客観性はない)は９点認められ、そのうち、内面に黒褐色の有機物が付着している破片が１点みられる。山茶碗と小皿の比率は破片数では山茶碗が圧倒的に多いが、口縁部計測法(宇野1992)では山茶碗2.52個体、小皿1.23個体となり、山茶碗：小皿はおよそ２：１の比率となる。

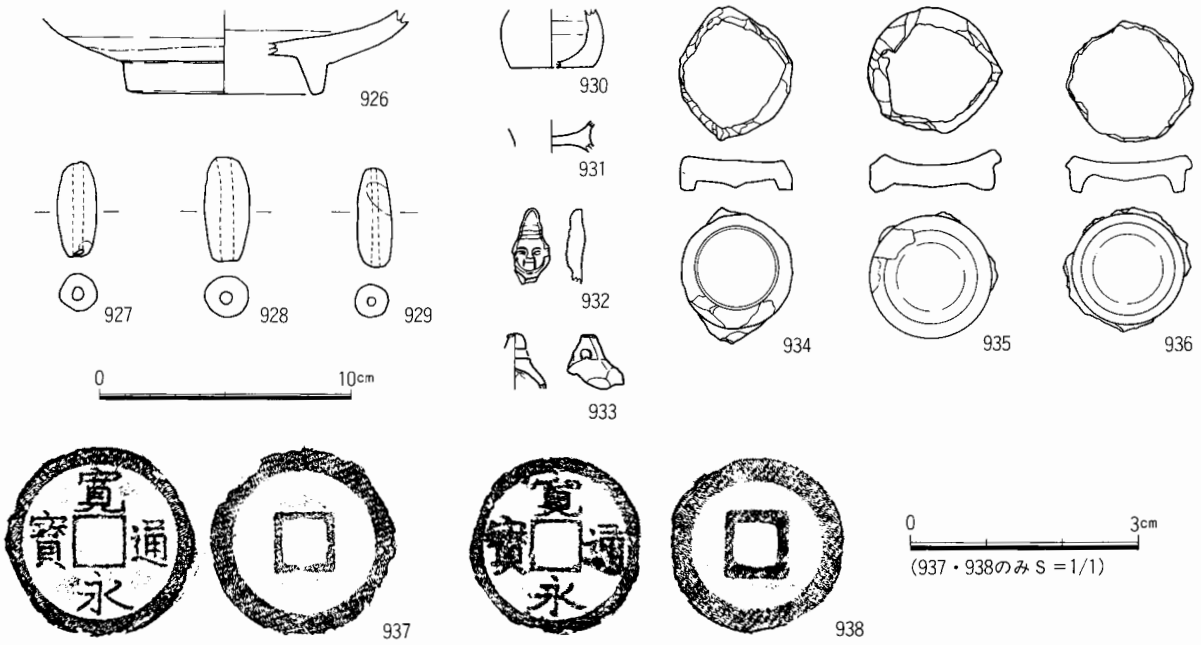
古瀬戸17点の内訳は卸皿３、平碗３、天目茶碗４、柄付片口１、大皿類１、折縁深皿１、擂鉢３、壺類１である。そのうち、時期がある程度わかる資料は後期前半の折縁深皿、柄付片口、後期後半の平碗、天目茶碗、後Ⅳ期新の擂鉢３点などであり、全体では後期後半に属する個体が多いといえる。

大窯期の器種は鉄釉丸皿、灰釉丸皿、志野丸皿、天目茶碗、擂鉢であり、擂鉢の破片が最も多い。そして、擂鉢の口縁部の形態から判断できる時期は大窯第１～３段階までであるが、第４段階以降に出現する志野丸皿が出土していることから、大窯期は出土数が少ないものの全時期にわたり遺物が供給されていたと想定される。

中国磁器５点の内訳は鎬蓮弁文を有する青磁碗1、幅の広い蓮弁文を有する青磁碗１、内外面が無文の青磁碗１、底部内面にスタンプが施されている青磁碗(実測番号918)１、白磁皿１である。そのうち918は高台内が露胎であり、高台は細かく丁寧に打ち欠かれている。



第126図　古代以降の遺物（1）（S＝1／3）



第127図　古代以降の遺物（2）（S＝1／3）

常滑はいずれも甕であるが、口縁部破片が皆無であるため時期が言及できない。また、信楽としたものは常滑よりも胎土が白く、長石の含有率が高いものである。

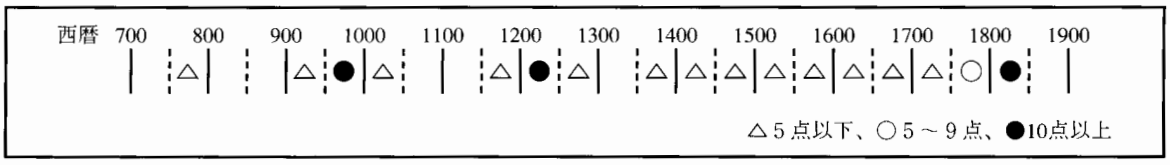
土師器煮沸具５点の内訳は羽釜4、伊勢型鍋1であり、羽釜は北村氏の時期区分(北村1996)のⅡ－２～３、伊勢型鍋はⅠ－３～Ⅱ－１に属すると思われる。

土師器皿はいずれも口縁部外面に指頭圧痕が残り、横ナデが施されている破片は皆無であることから、時期的には中世後期以降に属すると思われる。

近世陶磁器類は大半が瀬戸美濃製品である。その器種は染付湯呑、天目茶碗、灰釉丸碗、鉄釉丸碗、緑釉丸碗、腰錆茶碗、尾呂茶碗、卸皿、香炉、鉢類、仏花瓶、徳利、擂鉢、壺類、甕類、土瓶、行平、鍋などがあり、時期的には18世紀以降に属するものが多いと思われる。

以上をまとめると、およそ第55表のように時期毎の出土量の推移が想定できる(第55表は確実に時期が判明した個体の点数のみを対象としている)。これによると本遺跡では陶器の使用量が増加した時期はおよそ10世紀後半、13世紀前半、19世紀前半の３時期であり、14世紀後半以降は少量ずつではあるが絶えず遺物が供給されていたことが看取できる。また、木器の食膳具がどの時代からどれほど使用されていたかは定かでないが、先に報告された細野・梨子谷・千日・宮上遺跡(早野他1999)と本遺跡の出土遺物から判断する限りでは、当地では縄文時代以後、10世紀になるまで本格的に集落として機能していなかった可能性が高いといえ、この様相は美濃北西部の山間部(旧徳山地区)の様相と類似しているといえよう。

第55表　時期別出土量の推移



第56表　古代以降の遺物観察表（1）

実測番号	挿図番号	図版番号	位置層位	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	整形・調整	胎土	焼成	色調	備考
894	126	64	22Q Ⅲ	灰釉陶器 皿	(10.2)	(6.1)	3.1	底部外面回転糸切り、体部外面下方回転ヘラ削り、他は回転ナデ	密、径５mm以下の長石、石英を幾つか含む	良好	にぶい黄橙色(10YR7/2)	体部内外面上方灰釉
895	126	64	20O Ⅲ	灰釉陶器 段皿	12.0	6.4	2.2	底部外面回転糸切り、他は回転ナデ	密、径２mm以下の長石、石英を幾つか含む	良好	褐灰色(10YR6/1)	体部内外面に灰釉、底部内面平滑、２２Ｐグリッドと接合
896	126	64	19Q Ⅱ	灰釉陶器 皿	(8.2)	(5.5)	2.2	底部外面回転糸切り、他は回転ナデ	密、径１mm以下の長石、石英をわずかに含む	良好	灰白色(10YR7/1)	底部内面が極めて平滑
897	126	64	22P Ⅶ	灰釉陶器 皿	(10.9)	(7.3)	1.8	体部内外面回転ナデ	密、径１mm以下の長石、石英、雲母をわずかに含む	良好	灰黄褐色(10YR6/2)	底部内面は極めて平滑、全面？に灰釉
898	126	64	20Q Ⅲ	灰釉陶器 折縁皿	(10.6)			体部内外面回転ナデ	密、径１mm以下の長石をわずかに含む	良好	灰白色(2.5Y7/1)	口縁部内外面に灰釉
899	126	64	20Q Ⅲ	灰釉陶器 碗		(5.8)		底部外面回転糸切り後、ナデ調整、他は回転ナデ	密、径１mm以下の長石をわずかに含む	良好	灰白色(2.5Y8/1)	体部内外面に灰釉
900	126	64	10M Ⅲ	灰釉陶器 輪花碗				口縁部内外面回転ナデ	密、径１mm以下の長石をわずかに含む	普通	灰白色(2.5Y7/1)	口縁部内外面に灰釉
901	126	64	19P Ⅲ	灰釉陶器 碗	(14.8)			体部内外面回転ナデ	密、径1 以下の長石わずかに含む	良好	灰白色(2.5Y８/1)	全面？に灰釉
902	126	64	20P Ⅱd	灰釉陶器 輪花碗	(16.0)			体部内外面回転ナデ	密、径0.2mm以下の長石、石英をわずかに含む	良好	灰色(2.5Y7/1)	全面に灰釉、口縁部に指による輪花
903	126	64	20Q Ⅱb	灰釉陶器 碗	(19.0)			体部内外面回転ナデ	密、径１mm以下の長石をわずかに含む	良好	灰色(10YR7/1)	全面に灰釉
904	126	64	１１ MⅡ	灰釉陶器 段皿				体部～口縁部内外面回転ナデ	密、径１mm以下の長石、石英、雲母、赤色酸化土粒を幾つか含む	普通	灰白色(7.5Y7/1)	全面に灰釉
905	126	64	表採	灰釉陶器 壺				口縁部内外面回転ナデ	密、径1mm以下の長石をわずかに含む	良好	灰白色(5Y7/1)	全面に灰釉
906	126	64	19O Ⅲ	灰釉陶器 壺	(6.9)	(5.6)		底部外面回転糸切り、他は回転ナデ	やや粗、径１mm以下の長石をわずかに含む	良好	灰白色(5Y8/1)	
907	126	64	17K Ⅲ	灰釉陶器 壺		(7.0)		体部～底部外面回転ヘラ削り、体部内面回転ナデ	密、径１mm以下の長石、石英を幾つか含む	良好	灰白色(10YR7/1)	体部外面に灰釉
908	126	64	20P Ⅱc	灰釉陶器 碗		(7.2)		底部外面回転糸切り、他は回転ナデ	密、径３mm以下の長石、石英を幾つか含む	良好	灰黄褐色(10YR5/2)	体部内外面灰釉
909	126	64	20S Ⅱ	灰釉陶器 碗		(8.2)		底部外面回転糸切り、他は回転ナデ	密、径１mm以下の長石を幾つか含む	良好	灰白色(5Y8/2)	
910	126	64	22Q Ⅲ	灰釉陶器 碗		(9.1)		底部外面回転糸切り後ナデ調整、他は回転ナデ	密、径１mm以下の長石をわずかに含む	良好	灰色(2.5Y8/2)	
911	126	64	19Q Ⅲ	灰釉陶器 碗		(5.2)		体部外面下方向回転ヘラ削り後、回転ナデ	密、径3mm以下の長石をわずかに含む	良好	浅黄橙色(10YR8/3)	
912	126	64	25b 表採	山茶碗		(7.8)		底部外面回転糸切り後ナデ調整、高台端部籾殻痕、他は回転ナデ	やや粗、径１mm以下の長石、石英を幾つか含む	良好	灰白色(5Y7/1)	
913	126	64	32F 攪乱	山茶碗		(7.8)		底部外面回転糸切り後ナデ調整、高台端部籾殻痕、他は回転ナデ	密、径３mm以下の長石、石英を幾つか含む	良好	にぶい黄橙色(10YR7/2)	
914	126	64	33S Ⅱa	山茶碗		(10.2)		底部外面回転糸切り、板目、高台端部籾殻痕、他は回転ナデ	密、径１mm以下の長石、石英を幾つか含む	良好	にぶい黄橙色(10YR7/2)	底部内面平滑
915	126	64	28G SU 1	片口鉢				体部外面～底部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ	やや粗、径５mm以下の長石、石英、雲母を多く含む	普通	褐灰色(10YR6/1)	底部内面平滑
916	126	64	46F Ⅲ	土師器 伊勢型鍋				口縁部内外面横ナデ	やや粗、径２mm以下の長石、石英、雲母を幾つか含む	普通	明褐灰色(7.5YR7/1)	
917	126	64	排土	土師器 羽釜				体部内外面横ナデ	やや粗、径２mm以下の長石、石英、雲母、赤色酸化土粒を幾つか含む	普通	褐灰色(7.5YR5/1)	
918	126	64	21N Ⅲ	青磁碗				体部内外面回転ヘラ削り	密、径1mm以下の長石をわずかに含む	良好	灰白色(N8/1)	底部外面を除き施釉、底部内面に文様あり

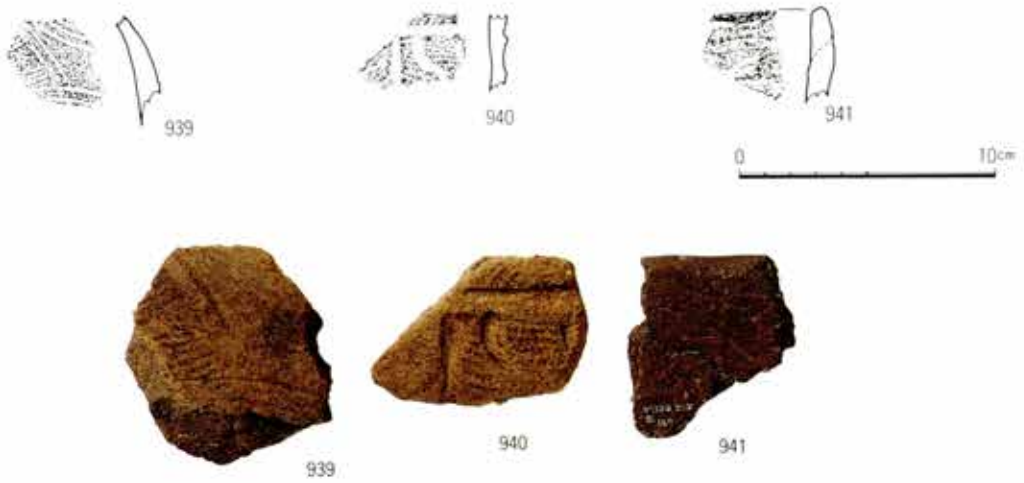
第57表　古代以降の遺物観察表（2）

実測番号	挿図番号	図版番号	位置層位	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	整形・調整	胎土	焼成	色調	備考
919	126	64	28E	常滑甕				体部内面横方向の板ナデ、体部外面縦方向のヘラケズリ	やや粗、径1mm以下の長石、石英を多く含む	良好	褐灰色(10YR6/1)	体部外面に押印文
920	126	64	29K Ⅲ	常滑甕				体部内面横方向の板ナデ	やや粗、径１mm以下の長石、石英を多く含む	良好	灰白色(10YR7/1)	体部外面に押印帯
921	126	64	50H Ⅲ	瀬戸美濃擂鉢	(30.8)			体部内外面回転ナデ	やや粗、径10mm以下の長石、石英をわずかに含む	良好	にぶい黄橙色(10YR7/3)	全面に錆釉
922	126	64	19P Ⅲ	瀬戸美濃擂鉢	(32.1)			体部外面下方回転ヘラ削り、他は回転ナデ	密、径２mm以下の長石、石英を幾つか含む	良好	灰白色(7.5YR8/2)	全面に錆釉
923	126	64	29G Ⅱ	瀬戸美濃輪禿皿	(11.0)	(5.2)	2.7	体部外面下方～底部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ	やや粗、径４mm以下の長石、石英、雲母をわずかに含む	普通	灰白色(10YR8/1)	底部外面に煤付着、底部外面を除き灰釉、底部内面周縁釉の拭い取り
924	126	64	29FP	瀬戸美濃折縁皿	(12.0)	(7.0)	2.8	体部外面下方～底部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ	密、径１mm以下の長石、石英、雲母を幾つか含む	良好	灰白色(2.5Y8/2)	口縁部内外面に灰釉、底部名面に鉄絵
925	126	64	27N Ⅱ	瀬戸美濃天目茶碗	(10.0)			体部外面下方回転ヘラ削り、他は回転ナデ	密、径２mm以下の長石、石英雲母をわずかに含む	良好	にぶい黄橙色(10YR7/3)	体部外面下方を除き鉄釉
926	127	64	D2 表採	瀬戸美濃片口鉢		(7.8)		体部外面下方～底部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ	密、径１mm以下の長石、赤色酸化土粒を幾つか含む	普通	にぶい黄橙色(10YR7/2)	体部内外面上方灰釉
927	127	64	20P 撹乱	土師器土錘				長さ3.8cm、幅1.6cm	やや粗、径１mm以下の長石をわずかに含む	良好	橙色(7.5YR7/6)	
928	127	64	33S Ⅲ	土師器土錘				長さ4.2cm、幅1.8cm	密、径１mm以下の長石、石英、雲母をわずかに含む	普通	にぶい橙色(7.5YR6/4)	
929	127	64	29G 撹乱	土師器土錘				長さ4.0cm、幅1.4cm	やや粗、径１mm以下の石英、雲母、赤色酸化土粒を幾つか含む	普通	にぶい黄橙色(10YR7/3)	
930	127	64	25E Ⅱc	瀬戸美濃杯		(3.2)		底部外面回転糸切り、他は回転ナデ	密、径１mm以下の雲母を幾つか含む	良好	灰白色(2.5Y8/1)	体部外面に灰釉
931	127	64	26Y Ⅱa	土師器不明				体部内外面調整不明	やや粗、径１mm以下の長石をわずかに含む	良好	にぶい黄橙色(10YR7/3)	
932	127	64	27A 表採	土師器土人形				内面に指圧痕	やや粗、径１mm以下の長石、石英、雲母、赤色酸化土粒をわずかに含む	普通	浅黄橙色(10YR8/3)	
933	127	64	41M Ⅲ	土師器土鈴				体部外面指圧	やや粗、径１mm以下の長石、石英、雲母、赤色酸化土粒をわずかに含む	普通	灰白色(10YR8/1)	
934	127	64	2DN Ⅱc	加工円盤				長軸5.3cm、短軸4.4cm	密、径１mm以下の長石、石英を幾つか含む	良好	灰黄色(2.5Y7/2)	天目茶碗の底部を転用
935	127	64	31M Ⅱ	加工円盤				長軸5.2cm、短軸5.0cm	密、径１mm以下の長石、石英を幾つか含む	良好	にぶい黄橙色(10YR7/2)	長軸5.2cm、短軸5.0cm、天目茶碗の底部を転用
936	127	64	13S Ⅱ	加工円盤		4.4		長軸5.0cm、短軸4.8cm	密、径１mm以下の長石、雲母をわずかに含む	普通	灰白色(2.5Y8/2)	飴釉丸碗の底部を転用
937	127	64		寛永通寶				直径2.5cm				
938	127	64		寛永通寶				直径2.3cm				

第７章　自然科学分析

第１節　赤色顔料付着遺物

本遺跡からわずかではあるが、赤色顔料が付着した遺物が出土した。縄文土器は第128図939～941、石器は第91図745、第92図749、第114図848、第120図868である。尚土器941は、顔料が内面に付着していた。（土器の詳細については、「第７～20表　土器観察表」を参照されたい。）



第128図　赤色顔料付着土器

遺物に付着する赤色物の蛍光Ｘ線分析

宮野義則・藤根 久（パレオ・ラボ）

１．はじめに

岩井谷遺跡において、縄文土器あるいは縄文時代中期～後期の石皿の立石や凹石や石錘などが出土した。これらの遺物の表面には、赤色顔料と思われる赤色物が付着していた。ここでは、これら赤色物に含まれる元素を蛍光Ｘ線分析によって定性的に調べ、赤色物の同定および推定を行った。

２．試料

赤色物の付着した遺物は、土器が３点（939～941）と745（垂飾）、749（石皿の立石）、848（石錘）、868（凹石）の各１点である。

測定試料は、各土器の外側表面、石皿の立石の表面と周囲土壌の小赤塊、凹石表面、石錘表面、垂飾表面と溝内部のそれぞれにセロハン粘着テープを貼りつけ、赤色部を剥離して採取した。

３．分析方法

分析試料は、蛍光Ｘ線分析計を用いて定性的に元素組成を調べた。分析装置は、セイコー電子工業(株)製のエネルギー分散型蛍光Ｘ線分析計SEA-2001L、Ｘ線発生部の管球はロジウム(Rh)ターゲット、ベリリウム(Be)窓、Ｘ線検出器はSi(Li)半導体検出器である。測定条件は、測定時間100～300秒、照射径10mm、電流10～60μm、電圧50kV、試料室内は真空である。

４．分析結果

第129図～第132図に蛍光Ｘ線スペクトル図を示す。第58表に分析試料の概略、採取位置、検出された元素、顔料の同定、図版番号を示す。

土器941では、水銀からなる複数ピークが高率で検出され、その他の試料では、Fe(鉄)とSi(ケイ素)が高率で検出された。なお、石皿の立石、凹石、垂飾ではCa(カルシウム)が比較的高率で検出され、土器939や土器940、石錘および垂飾の溝内部からはS(イオウ)が高率で検出された。その他では、土壌中において同定に検出されるAl(アルミニウム)、Zn(亜鉛)、K(カリウム)、Ti(チタン)が検出された。また、低率でながら、P(リン)、K(カリウム)、Cr(クロム)、Mn(マンガン)、Ni(ニッケル)、Cu(銅)、Sr(ストロンチウム)などが検出された。なお、ロジウム(Rh)のピークはＸ線発生部の管球(ロジウムターゲット)に由来するものであり、赤色物に含まれる元素とは関係がない。

５．考察

一般的に、赤色顔料として水銀朱（HgS）、ベンガラ（Fe_2O_3）などが知られている（市毛、1984）。土器941では、水銀からなる複数ピークが高率で検出され、土器表面に付着する赤色物は、塗布された水銀朱であることが判明した。この水銀朱は、主な成分が硫化第二水銀からなる辰砂（cinnabar）から磨り潰して作られる。

一方、これ以外の土器や石皿などにおいては、Fe(鉄)からなる複数ピークが比較的高率で検出された。一般的に、Fe(鉄)は岩石や土壌中にも普通に5～10％程度含まれること、土中に埋積する遺物表面にはしばしば褐鉄鉱などの鉄酸化物が付着することから、ベンガラであると断定できないが、赤色顔料としてのベンガラである可能性が高い。ベンガラ(Fe_2O_3)は赤色の由来となる主成分元素がFe(鉄)であるものを言う。古代においては、鉄分に富んだ土壌(例えば褐鉄鉱など)を焼いて作られたと考えられている(山崎，1987)。また、天然の赤鉄鉱などの鉄鉱石を採取して製造した可能性も考えられる。近世においては、硫化鉄(磁鉄鉱：FeS、黄鉄鉱FeS_2)が風化して形成された緑礬(りょくばん、硫化鉄($FeSO_4,7H_2O$))を原材料とし、これを焼焙してベンガラを生産していたことが知られている(北野，1994)。なお、最近の研究では、縄文時代や弥生時代の赤色漆に用いられた赤色顔料中に珪藻化石が見られることから、水成環境下で生成した酸化鉄であることも分かってきた(岡田，1997)。

揖斐川流域の揖斐郡旧徳山村に所在する塚遺跡では、縄文中期末鍔付壺型土器や縄文後期前葉浅鉢の外側において水銀朱からなる赤色顔料が検出され、当時赤色顔料として水銀朱が利用されていたことが分かった(菱田，1998)。遺跡は、隣接する南側の長谷川谷内に所在する遺跡であるが、この遺跡においても水銀朱の利用が確認できた。水銀朱の利用については、今後調査・分析の機会があるごとに確認しておきたい事柄である。

引用文献

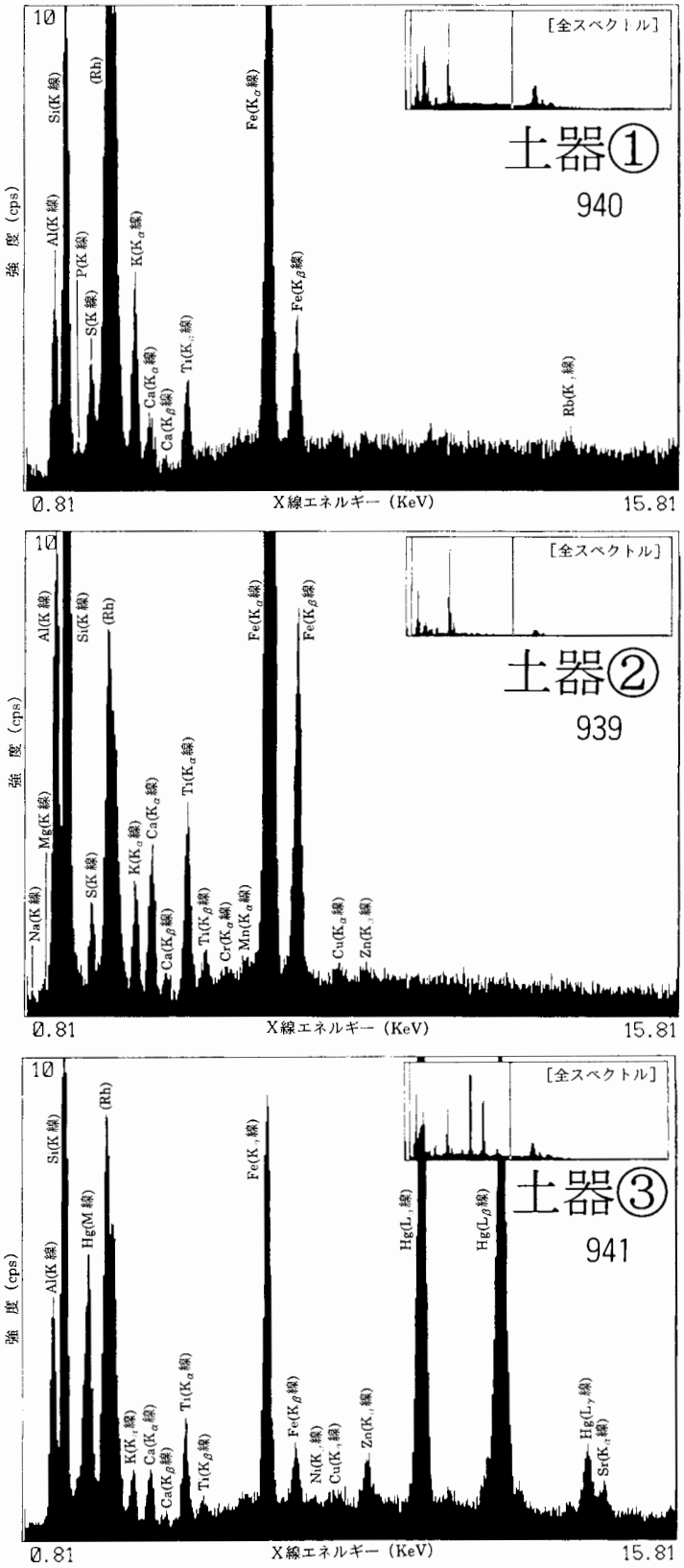
市毛　勲(1984)「増補 朱の考古学」,第2版,考古学選書12,雄山閣出版,P.324.

岡田文男(1997)「パイプ状ベンガラ粒子の復元」,日本文化財科学会,第14回大会研究発表要旨集,P.38-P.39.

北野信彦(1994)「近世出土漆器資料の保存処理に関する問題点Ⅱ－文献史料から見た赤色系漆に使用するベンガラの製法について－」「古文化財の科学」,39,P.93-P.102.

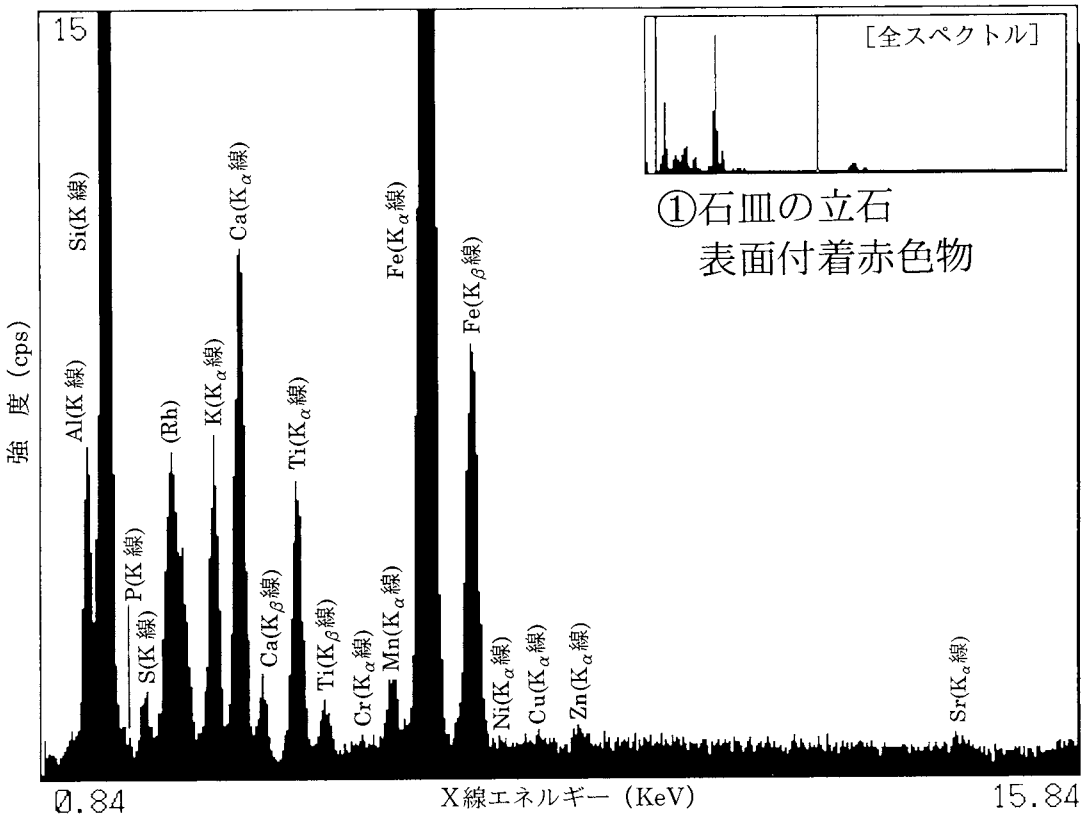
菱田　量(1998)「塚遺跡」，岐阜県文化財保護センター調査報告書,第27集,P.147-P.152.

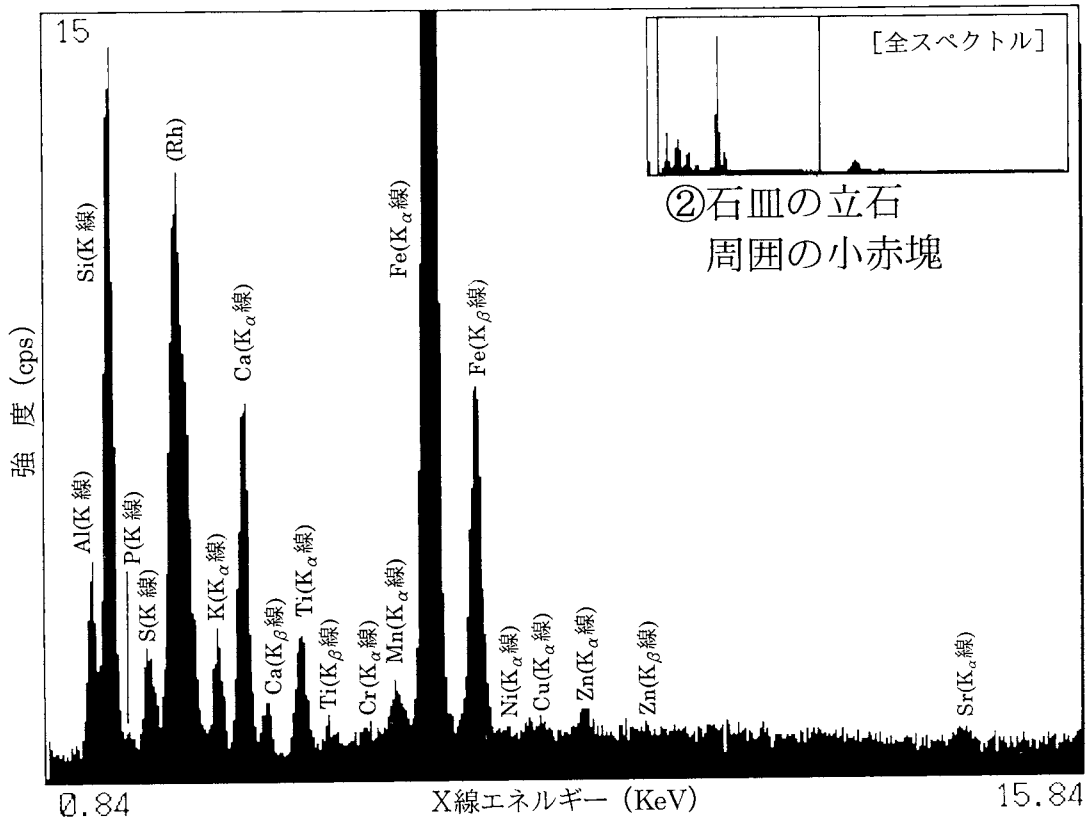
山崎一雄(1987)「古文化財の科学」,思文閣出版,P.352.



第129図　土器塗布、赤色顔料の蛍光X線スペクトル図

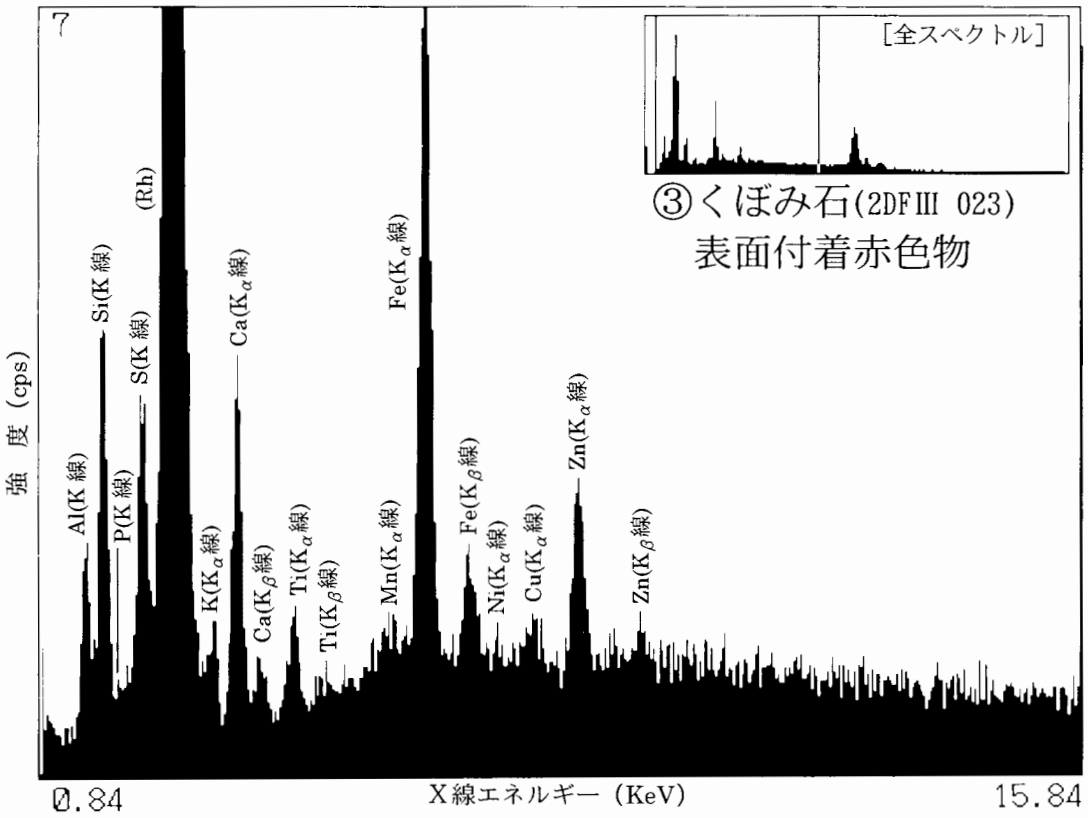
（元素記号；Na:ナトリウム、Mg:マグネシウム、Al:アルミニウム、Si:ケイ素、P:リン、S:イオウ、K:カリウム、Ca:カルシウム、Ti:チタン、Cr:クロム、Mn:マンガン、Fe:鉄、Ni:ニッケル、Cu:銅、Zn:亜鉛、Hg:水銀、Rb:ルビジウム、Sr:ストロンチウム

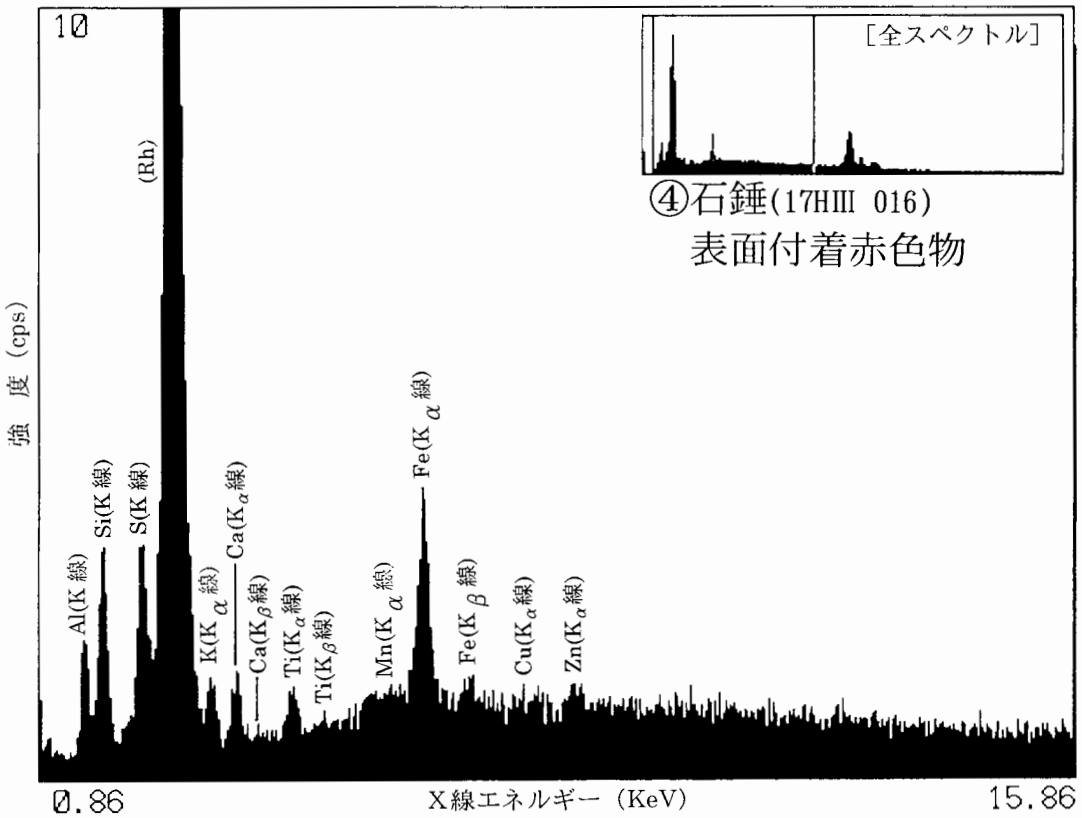




第130図　各遺物に付着する赤色物の蛍光X線スペクトル図（1）

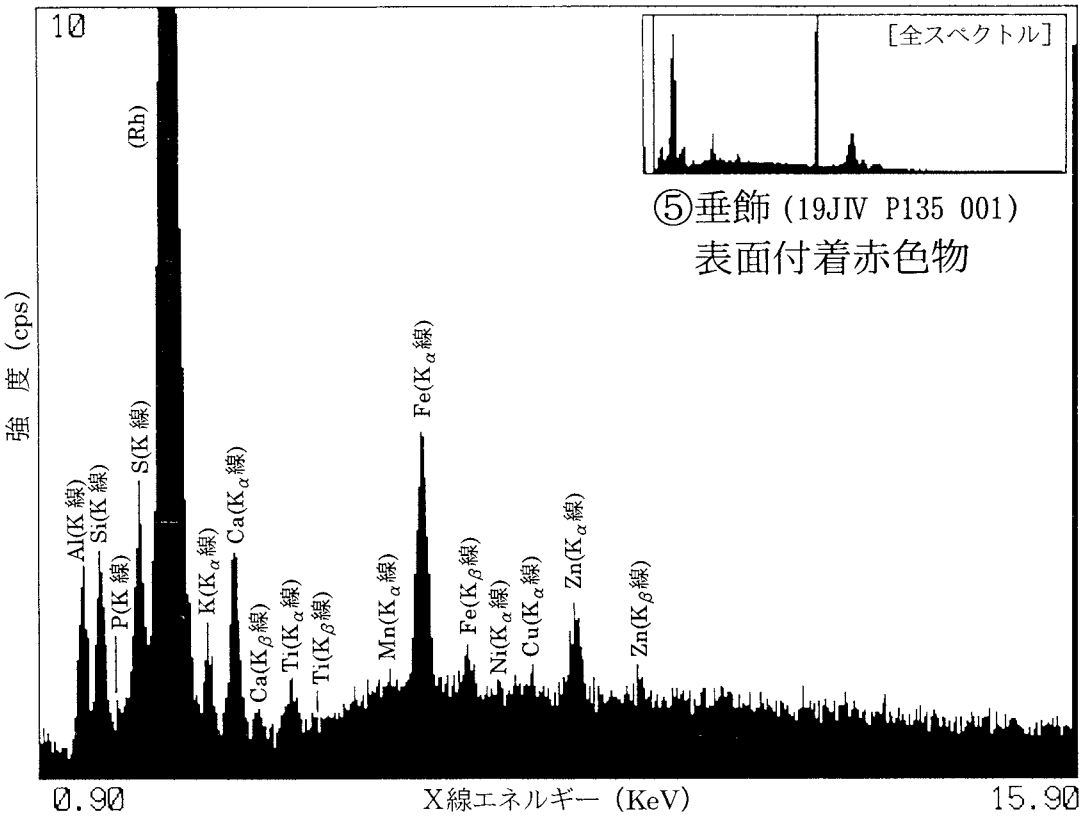
（元素記号；Al:アルミニウム、Si:ケイ素、P:リン、S:イオウ、K:カリウム、Ca:カルシウム、Ti:チタン、Cr:クロム、Mn:マンガン、Fe:鉄、Ni:ニッケル、Cu:銅、Zn:亜鉛、(Rh):ロジウム（X線管球ターゲットから）

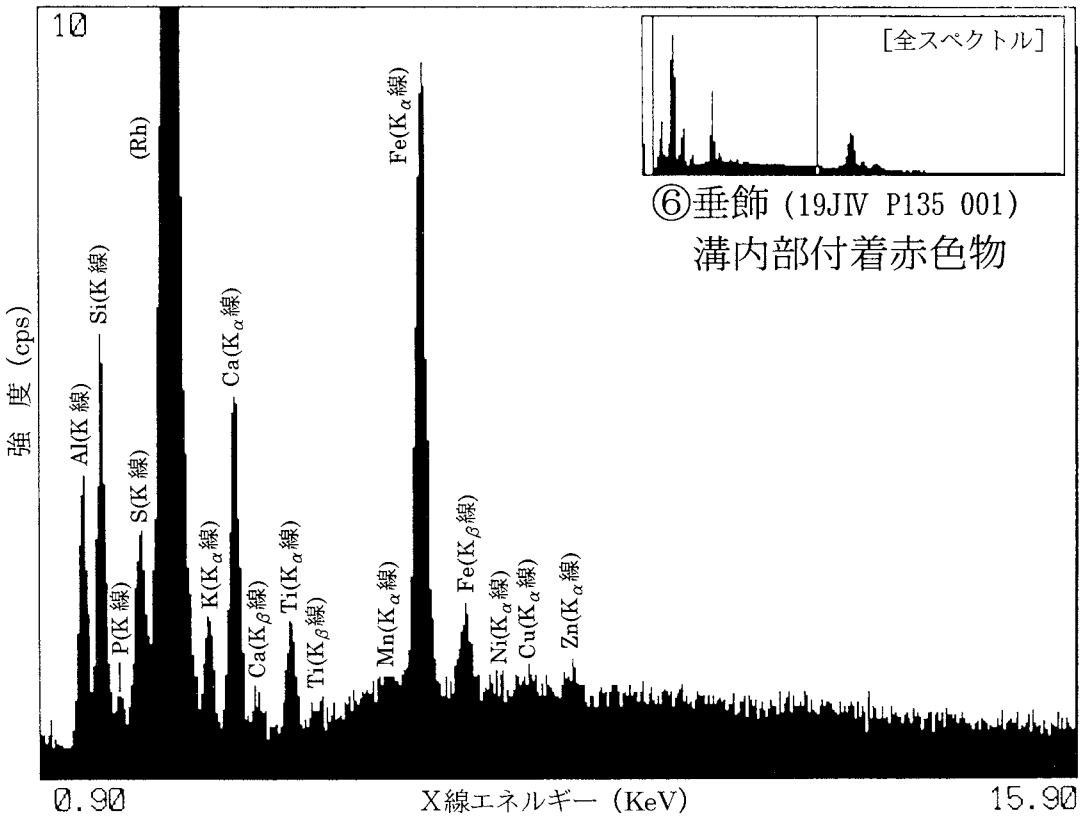




第131図　各遺物に付着する赤色物の蛍光X線スペクトル図（2）

（元素記号；Al:アルミニウム、Si:ケイ素、P:リン、S:イオウ、K:カリウム、Ca:カルシウム、Ti:チタン、Cr:クロム、Mn:マンガン、Fe:鉄、Ni:ニッケル、Cu:銅、Zn:亜鉛、(Rh):ロジウム（X線管球ターゲットから）





第132図　各遺物に付着する赤色物の蛍光X線スペクトル図（3）

（元素記号；Al:アルミニウム、Si:ケイ素、P:リン、S:イオウ、K:カリウム、Ca:カルシウム、Ti:チタン、Cr:クロム、Mn:マンガン、Fe:鉄、Ni:ニッケル、Cu:銅、Zn:亜鉛、(Rh):ロジウム（X線管球ターゲットから）

第58表　遺物付着の赤色物から検出された元素

（元素記号；Na:ナトリウム、Al:アルミニウム、Si:ケイ素、P:リン、S:イオウ、K:カリウム、Ca:カルシウム、
Ti:チタン、Cr:クロム、Mn:マンガン、Fe:鉄、Ni:ニッケル、Cu:銅、Zn:亜鉛、Sr:ストロンチウム

種類	時代	付着位置	赤色物に関係する元素	顔料の同定	その他検出される元素（ピーク高順）	図版
土器939	縄文時代後期中葉	外側表面	Fe	ベンガラ	Na,Mg,Al,Si,S,K,Ca,Ti,Cr,Mn,Cu,Zn	図版129-②
土器940	縄文時代中末～後前	外側表面	Fe	ベンガラ	Al,Si,P,S,K,Ca,Ti,Rb	図版129-①
土器941	縄文時代後期後半	外側表面	Hg	水銀朱	Al,Si,K,Ca,Ti,Fe,Ni,Cu,Zn,Sr	図版129-③
745（垂飾）	縄文時代	表面	Fe	ベンガラ	Al,Si,P,S,K,Ca,Ti,Mn,Ni,Cu,Zn	図版132-⑤
	縄文時代	溝内	Fe	ベンガラ	Al,Si,P,S,K,Ca,Ti,Mn,Ni,Cu,Zn	図版132-⑥
749（石皿の立石）	縄文中期～後期	表面	Fe	ベンガラ	Al,Si,P,S,K,Ca,Ti,Cr,Mn,Ni,Cu,Zn,Sr	図版130-①
	縄文中期～後期	周囲土壌	Fe	ベンガラ	Al,Si,P,S,K,Ca,Ti,Cr,Mn,Ni,Cu,Zn,Sr	図版130-②
848(石錘)	縄文中期～後期	表面	Fe	ベンガラ	Al,Si,S,K,Ca,Ti,Mn,Cu,Zn	図版131-④
868（凹石）	縄文中期～後期	表面	Fe	ベンガラ	Al,Si,P,S,K,Ca,Ti,Mn,Ni,Cu,Zn	図版131-③

第２節　遺構出土炭化物の放射性炭素年代測定

山形　秀樹（パレオ・ラボ）

１．放射性炭素年代測定について

試料は，アルカリ・酸処理を施して不純物を除去し，炭化処理をした後リチウムと混合して反応管内に入れ，真空ポンプで引きながら800°Cまで加熱して炭化リチウム（ｶｰﾊﾞｲﾄﾞ）を生成後，加水分解によりアセチレンを生成した。

測定は，約一ヶ月放置した後，精製したアセチレンを比例計数管（400cc）を用いて，β^-線を計数して年代値を算出した。その結果は下記に示す。

なお，年代値の算出には^{14}Cの半減期としてLibbyの半減期5,570年を使用した。また，付記した年代誤差は，計数値の標準偏差σに基づいて算出し，標準偏差（One sigma）に相当する年代である。試料のβ^-線計数率と自然計数率との差が2σ以下の時は，3σに相当する年代を下限の年代値として表示し，試料のβ^-線計数率と現在の標準炭素(Modern standard carbon)の計数率との差が2σ以下の時は，Modernと表示し，$^{14}C_{(Sample)}/^{14}C_{(Modern)}$の値を付記し，$^{14}C_{(Sample)}/^{14}C_{(Modern)}<1$であれば，yrBPの値を付記する。

暦年代の補正は，大気中の^{14}C濃度が一定で半減期が5,568年として算出された^{14}C年代値（yrBP）に対し，過去の宇宙線強度の変動による大気中の^{14}C濃度の変動および半減期の違い（^{14}Cの半減期5,730±30年）を補正して，より正確な年代を求めるものであり，具体的には年代既知の樹木年輪の^{14}C年代の詳細な測定値を用いて補正曲線を作成し，これを用いて暦年代を算出する。補正暦年代の算出にCALIB3.0{Stuiver and Reimer,1993:IBM-PC用:Reference(Stuiver & Pearson,1993)}を使用した。なお，交点年代値は^{14}C年代値に相当する補正曲線上の年代値であり，１σ年代幅は^{14}C年代誤差に相当する補正曲線上の年代範囲を示す。年代を検討する場合は，68%の確率で１σ年代幅に示すいずれかの年代になる。暦年代の補正は約一万年前からAD 1,950年までが有効であり，該当しないものについては補正暦年代を***またはModernと表示する。また，AD 1,955*はModernを意味する。

２．放射性炭素年代測定結果

測定No.	試　　料	^{14}C年代値	補正暦年代	
PLD-436	炭化物 98ID5 ＳＢ３	4,380 ± 110 yrBP (BC 2,430年)	交点年代値	BC 3,015/ 3,000/ 2,925年
			１σ年代幅	BC 3,290 to 3,280
				BC 3,265 to 3,240
				BC 3,105 to 2,890
PLD-437	炭化物 98ID5 ＳＢ５	3,930 ± 110 yrBP (BC 1,980年)	交点年代値	BC 2,455年
			１σ年代幅	BC 2,570 to 2,520
				BC 2,505 to 2,275
				BC 2,225 to 2,205

PLD-438	炭化物 98ID5 ＳＢ２-①	4,090 ± 100 yrBP （BC 2,140年）	交点年代値 １σ年代幅	BC 2,610年 BC 2,870 to 2,800 BC 2,775 to 2,715 BC 2,705 to 2,470
PLD-439	炭化物 98ID5 ＳＢ２-②	4,050 ± 110 yrBP （BC 2,100年）	交点年代値 １σ年代幅	BC 2,570/ 2,515/ 2,510年 BC 2,860 to 2,810 BC 2,740 to 2,725 BC 2,695 to 2,460
PLD-440	炭化物 98ID5 ＳＢ６	4,100 ± 100 yrBP （BC 2,150年）	交点年代値 １σ年代幅	BC 2,615年 BC 2,875 to 2,795 BC 2,780 to 2,485
PLD-441	炭化物 98ID5 ＳＩ15	7,160 ± 150 yrBP （BC 5,210年）	交点年代値 １σ年代幅	BC 5,980年 BC 6,155 to 6,140 BC 6,125 to 6,085 BC 6,070 to 5,845
PLD-442	炭化物 98ID5 ＳＢ７	4,170 ± 110 yrBP （BC 2,220年）	交点年代値 １σ年代幅	BC 2,865/ 2,810/ 2,755年 BC 2,725/ 2,700年 BC 2,890 to 2,575
PLD-443	炭化物 98ID5 ＳＫ20	1,920 ± 90 yrBP （AD 30年）	交点年代値 １σ年代幅	AD 85年 AD 5 to 225
PLD-444	炭化物 98ID5 ＳＫ27	4,090 ± 120 yrBP （BC 2,140年）	交点年代値 １σ年代幅	BC 2,610年 BC 2,875 to 2,795 BC 2,785 to 2,465
PLD-445	炭化物 98ID5 ＳＫ31	3,140 ± 110 yrBP （BC 1,190年）	交点年代値 １σ年代幅	BC 1,410年 BC 1,515 to 1,265
PLD-446	炭化物 98ID5 ＳＵ５	3,850 ± 100 yrBP （BC 1,900年）	交点年代値 １σ年代幅	BC 2,290年 BC 2,460 to 2,140
PLD-448	炭化物 98ID2 ＳＫ９	3,310 ± 100 yrB （BC 1,360年）	交点年代値 １σ年代幅	BC 1,595/ 1,570/ 1,530年 BC 1,730 to 1,725 BC 1,685 to 1,495 BC 1,485 to 1,450

引用文献

Stuiver,M. and Reimer, P.J. (1993) Extended ^{14}C database and revised CALIB3.0 ^{14}C Age Calibration Program.

第３節　岩井谷遺跡出土炭化材の樹種同定

植田弥生（パレオ・ラボ）

１．はじめに

本遺跡は伊吹山系東側の春日村に所在し、標高1,000m前後の山々に囲まれた山間部で、粕川上流の支流に形成された標高450m前後の小扇状地上に立地する縄文時代を中心とする遺跡である。本遺跡のほかにも水系沿いには縄文時代の遺跡が多数分布していることから、当地区一帯は縄文時代から生活の場であったことが判る。ここでは、主に縄文時代の遺構から出土した炭化材の樹種同定結果を報告する。縄文時代に山間部ではどのような樹種の材が利用され生活が営まれていたのかは、あまり知られていないようである。当地区においても、炭化材樹種調査は今回が初めてである。

検討試料は、集石遺構(ＳＩ15)、住居跡(ＳＢ２、ＳＢ４、ＳＢ６)、不明土坑(ＳＫ31)、土器集中区(ＳＵ５)、炭化物集中区(41Z)から出土した複数の炭化材片である。これらの遺構から出土した遺物は少ないため、出土炭化材を用いた放射性炭素年代測定が先に行われ(別報)、樹種同定はこの残りの試料について実施した。そのため同定結果は出土した炭化材の一部であり検出された樹種に偏りがある懸念もあるが、当地区では初めての調査事例であることから今後の参考資料となるはずである。

２．炭化材樹種同定の方法

試料は各遺構ごとにビニール袋に一括して取り上げられ入っていた。炭化材の形状は、破片がほとんどであるが細い枝材も少数あった。状況のよさそうな大きな破片だけを同定の対照にすると結果に偏りが出る恐れがあるので、３方向断面が観察可能な破片は大小にかかわらず同定を行った。

先ず、炭化材の横断面（木口）を手で割り実体顕微鏡で分類群のおおよその目安をつけ、次に３方向の破断面（横断面・接線断面・放射断面）を走査電子顕微鏡で観察し同定を決定した。走査電子顕微鏡用の試料は、３断面を５㎜角以下の大きさに整え、直径１cmの真鍮製試料台に両面テープで固定し、その周囲に導電性ペーストを塗り充分乾燥させた後、金蒸着を施し、走査電子顕微鏡（日本電子㈱製　JSM-T100型）で観察と写真撮影を行った。

樹種同定を行った残りの炭化材は、同定された分類群ごとにチャック袋に入れ遺構別にまとめ岐阜県文化財保護センターに保管されている。

３．結果

各遺構ごとの同定結果を第59表に示した。炭化材は脆いためもとは同一のものが割れた可能性がある破片もあったため、結果は定性的に表示した。各遺構の試料は主に比較的小さな破片が多く、細枝も少数ではあるが見られ、破片数・量は遺構により一様ではなかった。

集石遺構(ＳＩ15)の炭化材は燃料材と考えられるもので、ブナ属・クリ・ヌルデ・トチノキが検出された。ブナ属は推定直径が約2cmで11年輪が数えられ、クリは直径約5mmの細枝であり、ヌルデとトチノキは微破片であった。

住居跡の可能性が高い３軒(ＳＢ２、ＳＢ３、ＳＢ６)から出土した炭化材は、建築材の一部と予想される。ＳＢ３からは、オニグルミ・イヌシデ節・ブナ属・ケヤキ・ヤマグワ属・サクラ属・カエデ属a・ガマズミ属の８分類群が検出された。ＳＢ２からは、イヌシデ節・ブナ属・クリ・カエデ属b・ケンポナシ属・トネリコ属の6分類群が検出された。ＳＢ６からは、クリ・シラキ・カエデ属a・ケン

ポナシ属の4分類群が検出された。

不明土坑(ＳＫ31)は住居跡ＳＢ５の住居内の土坑であった可能性が高く、破片は比較的大きなものが大量にまとまって出土した。樹種はサクラ属とガマズミ属の２分類群で、ガマズミ属は直径５mmの細枝が１点だけであり、残りすべてはサクラ属であった。このサクラ属の破片には傷害樹脂腔が見られたものが多く、その接線状に連続した傷害樹種腔付近の年輪の様子は類似していることからこれらの破片は同一の木が炭化後に多数に割れた可能性がある。

土器集中区(ＳＵ５)からはイヌシデ節・ブナ属・クリ・ケヤキ・サクラ属・シラキ・トチノキ・ケンポナシ属・ガマズミ属の9分類群が検出され、一つの遺構から最も多くの分類群が検出された。

炭化物集中区(41Z)からは、イヌシデ節・ブナ属・クリ・カエデ属a・トチノキの５分類群が検出された。このうちトチノキは大きな破片がまとまって多数出土し、典型的な幹部の組織構造とはやや異なり管孔配列や放射組織の形態から樹皮に近い部分と推定される破片も含まれており、樹皮付きの太い材が炭化したものと推測された。

以下に同定の根拠とした材組織の観察結果を記載する。

1)オニグルミ　Juglans mandshurica Maxim. subsp. sieboldiana (Maxim.) Kitamura　クルミ科　図版65　1a.-1c.(ＳＢ３)

単独あるいは２～３個が複合した中型で楕円形の管孔が除々に径を減じながら散在し、接線状の柔組織が顕著な散孔材である。道管の壁孔は交互状、穿孔は単一、チロースが顕著である。放射組織はほぼ同性または上下端部に方形細胞がある異性、３細胞幅が多い。

オニグルミは暖帯から温帯のやや湿った所に生育する落葉高木で、種子は食用になり、材は加工しやすく狂いは少ない。

2)クマシデ属イヌシデ節 Carpinus sect. Eucarpinus　カバノキ科　図版65 2a.-2c.(ＳＢ３)

放射組織が集合する部分と２～数個の小型の管孔が放射方向に複合し配列する部分とがある放射孔材である。道管の壁孔は小型で交互状に密在、穿孔は単一である。放射組織は方形細胞が混じるがほぼ同性、１～２細胞幅、道管との壁孔はやや大きく対列状に配列している。集合放射組織があり、穿孔も単一であることから、イヌシデ節と同定した。なおクマシデ節は集合放射組織の出現頻度が低く、穿孔は横棒が10本以下の階段状のものが多いことで区別している。

クマシデ属は暖帯および温帯の山地に生育する落葉高木または大形低木で、イヌシデ節には山野に普通のイヌシデとアカシデ、乾いた山稜に生育するイワシデがある。材は丈夫で有用である。

3)ブナ属　Fagus　ブナ科　図版65 3a.-3c.(41Z)

丸みをおびた小型の管孔が密在し除々に径を減じてゆき、年輪界では極めて小型となり分布数も減少する散孔材である。道管の壁孔は交互状で孔口はレンズ状に水平に大きく開く部分もあり、穿孔は単穿孔と横棒が10～20本の階段穿孔がある。放射組織は異性、１～３細胞幅と細胞幅が広く背の高い広放射組織があり上下端に方形細胞があり、道管との壁孔は大きなレンズ状である。

ブナ属は温帯極相林の主要素で、大木となる落葉広葉樹である。北海道南部以南の肥沃な山地に群生するブナと、本州以南のおもに太平洋側に分布してブナより低地から生育するイヌブナの２種がある。果実は食用となり、材も建築材から漆器まで用途が広い。

4)クリ　Castanea crenata Sieb. et Zucc.　ブナ科　図版66 4a.-4c.(ＳＢ６)

年輪の始めに中型～大型の管孔が密に配列し除々に径を減じ、晩材部では非常に小型の管孔が火炎状に配列し、柔組織が接線状に配列する環孔材である。道管の壁孔は小型で交互状、穿孔は単一、内腔にはチロースがある。放射組織は単列同性、道管との壁孔は孔口が大きく交互状である。

クリは北海道西南部以南の暖帯から温帯下部の山野に普通の落葉高木である。果実は食用になり、材の加工はやや困難であるが狂いは少なく粘りがあり耐朽性にすぐれている。

5)ケヤキ Zelkova serrata (Thunb.) Makino　ニレ科 図版66 5a.-5c.(ＳＵ５)

年輪の始めに中型の管孔が１～２層配列し、その後小型の管孔が集合して接線状・斜状に配列する環孔材である。道管の壁孔は交互状、穿孔は単一、小道管にはらせん肥厚がある。放射組織は異性、１～８細胞幅の紡錘形、上下端や縁に結晶細胞があり、道管との壁孔は交互状に密在する。

ケヤキは暖帯下部から温帯の山中や川岸に生育する落葉高木である。材質は堅く、木目が美しい材である。用途は建築材や容器が多い。

6)クワ属 Morus クワ科　図版66 6a.-6c.(ＳＢ３)

年輪の始めに中型の管孔が配列し除々に径を減じて行き、晩材部では小型や非常に小型の大きさの不揃いな管孔が集合し斜状・波状に配列する環孔材である。ケヤキの横断面に似るが、晩材部の塊状の集合管孔の構成数はケヤキより少なく管孔の孔口は全般に大きい。道管の壁孔はやや大きくて交互状、穿孔は単一、小道管にらせん肥厚があり、内腔にはチロースがある。放射組織は異性、１～５細胞幅の紡錘形で上下端に方形細胞があり、道管との壁孔は大きて交互状に配列している。

クワ属は落葉高木または低木で、温帯から亜熱帯の山中に広く分布するヤマグワと、和歌山県・中国地方・四国・九州の暖帯の山中に希にあるケグワがある。果実は食用となり、材は重硬・強靭で心材は特に保存性が高い有用材である。

7)サクラ属 Prunus バラ科　図版67　7a.-7c.(ＳＵ５)

小型の管孔が年輪の始めにやや密に分布し、晩材部は放射方向・接線方向・斜状に複合し全体的にうねるように分布している散孔材である。道管の壁孔は対列状または交互状、穿孔は単一、内腔に細いらせん肥厚がある。放射組織はほぼ同性、1～4細胞幅、道管との壁孔は小型で密在する。

サクラ属は、暖帯から温帯の山地に生育する温帯落葉広葉樹林の代表的な属であり多くの種を含み、モモ・ウメ・スモモなどの栽培種を含む。ほとんどの種が落葉性の高木であり、果実が食べられるものが多い。材は粘り気があり強く、保存性も高い。

8)シラキ Sapium japonica Pax et Hoffm. トウダイグサ科　図版67 8a.-8c.(ＳＢ６)

小型で厚壁の管孔が単独または２～数個が放射方向に複合しややまばらに散在する散孔材である。周囲状柔組織がある。道管の壁孔は交互状、穿孔は単一である。放射組織は単一異性、放射柔細胞は大きく、道管との壁孔は交互状である。

シラキは岩手県以南の暖帯から温帯の山地の川沿い生育する落葉小高木である。

9)ヌルデ Rhus javanica L.　ウルシ科　図版67 9a.-9c.(ＳＩ15)

年輪の始めに中型の管孔が配列し晩材に向かい徐々に径を減じ、晩材部では非常に小型の管孔が塊状に集合して接線状・斜状に配列する環孔材である。木部柔組織は周囲状、特に晩材部では集合管孔の周囲に多い。道管の壁孔は交互状、穿孔は単一、小道管には明瞭ならせん肥厚がある。放射組織は異性、１～２細胞幅、輪郭はやや不斉、道管との壁孔はやや大きく孔口もレンズ状に大きく開き交互

状配列である。

ヌルデは北海道以南の温帯から熱帯にまで広く分布し山野に普通の落葉小木である。

10)カエデ属ａ　Acer a カエデ科　図版68 10a.-10c.(41Z)

小型の管孔が単独または２～３個が複合して散在し年輪界は不明瞭な散孔材である。道管の壁孔は交互状、穿孔は単一、内腔に細いらせん肥厚がある。放射組織は同性、１～４細胞幅、道管との壁孔は交互状で孔口はやや大きく整然と配列している。

カエデ属は日本全土の暖帯から温帯の山地や谷間に生育する温帯落葉広葉樹林の主要構成樹であり、約２６種と多くの変種が知られている。材は堅く緻密で割れにくく保存性は中程度である。

11)カエデ属ｂ　Acer b カエデ科　図版68 11a.-11c.(ＳＵ５)

放射組織は単列と15～20細胞幅で細胞高も非常に高いものとが顕著である。その他の形質は上記のカエデ属ａと同様である。

12)トチノキ Aesculus turbinata Blume　トチノキ科 図版68 12a.-12c.(41Z) 図版69 13a.-13c.(41Z)

小型の管孔が単独または２～数個が複合し、年輪の始めは分布数がやや多く晩材部では減少する散孔材である。道管の壁孔は交互状、穿孔は単一、内腔にらせん肥厚がある。放射組織は単列同性で層階状に配列し、道管の壁孔はやや大きな円形で交互状に密在する。

放射組織はほとんどが単列で細胞高もほぼ同じで層階状の傾向が見られるが、管孔はやや小さく分布も疎らである破片が複数観察され、これらは樹皮に近い部分と思われる。

トチノキは北海道以南の温帯の谷間に生育する落葉高木である。種子はアク抜きが必要だが食用となり、材は軽軟で緻密で加工し易く、材面は絹系光沢がある。

13)ケンポナシ属 Hovenia クロウメモドキ科　図版68 14a.-14c.(ＳＢ２)

年輪の始めに中型の管孔が１～２層あり除々に径を減じ、晩材部は単独または２～３個が放射方向に複合した非常に小型で厚壁の管孔が散在し、周囲状・翼状の柔組織が顕著な環孔材である。道管の壁孔は小型で交互状、穿孔は単一である。放射組織は異性、１～３細胞幅、上下端に方形細胞・直立細胞が単列で１～３層ほどあり、結晶細胞がある。

ケンポナシ属は暖帯の山中に生育する落葉高木である。本州・四国に分布するケケンポナシと北海道から九州に広く分布するケンポナシがある。果実は食べられる。材質は良い。

14)トネリコ属 Fraxinus モクセイ科　図版68 15a.-15c.(ＳＢ２)

中型の管孔が１～２層配列し、晩材部では小型で厚壁の管孔が単独または２個が複合し散在する環孔材である。周囲状柔組織がある。道管の壁孔は小型で交互状、穿孔は単一である。放射組織は同性、1～4細胞幅の紡錘形で細胞高はほぼ均一である。

トネリコ属はおもに温帯に生育する落葉高木である。シオジ・ヤチダモ・トネリコ・アオダモなど約９種ある。材は重硬で弾力性があり折れ難い。

15)ガマズミ属　Viburnum スイカズラ科　図版70 16a.-16c.(ＳＵ５)

非常に小型の管孔がほぼ単独で散在する散孔材である。道管の壁孔は交互状、穿孔は横棒数が10～30本ほどの階段穿孔である。放射組織は異性、１～２細胞幅、上下端の単列部は方形・直立細胞からなり、道管との壁孔は小型で交互状に配列する。道管内壁のらせん肥厚は確認できなかった。

ガマズミ属は暖帯から温帯のおもに日当りのよい山野に生育する常緑または落葉の低木または小高

木で、約13種がある。

４．まとめ

本遺跡から検出された分類群はすべて落葉広葉樹であり合計15分類群が検出された。土坑ＳＫ31は同一材と推定されるサクラ属の破片が多数とガマズミ属の細枝が１点の合計２分類群だけであったが、それ以外の遺構からは4～９分類群の複数種が検出され、本遺跡全体では多種多様な樹種が利用られていたことが明らかになった。これらの樹種構成は、ブナ属・クリ・カエデ属・トチノキ・オニグルミなどを含む中間温帯林から冷温帯落葉広葉樹林の樹種構成に類似している。この森林環境は本遺跡の立地と一致しており、縄文時代から種類数が豊富で豊かな森林環境を利用した生活が営まれていたことが明らかになった。遺構別の検出樹種を見ると(第59表)、検出分類群の種類数や樹種構成に特徴が見られた。ただし冒頭で付記したように、詳細な時期を決める遺物の出土が少なかったために炭化材を用いて放射性炭素年代測定を先行し樹種同定はこの残りの試料を用いたため、同定結果は出土した炭化材の一部で検出された分類群は偏りがあるかもしれないことを再度断っておく。

まずひとつは、出土遺物と放射性炭素年代測定値から縄文時代早期に対比される集石遺構(ＳＩ15)の炭化材はブナ属・クリ・ヌルデ・トチノキの4分類群で他の遺構と比べ検出種類数は少なかった。千野(1983、1991)は各集石遺構から同定される樹種は主に１～２種類で多くても4種類ほどであることを指摘しており、当遺跡においても同様であった。各遺構で一度に使用した燃料材の樹種数はそれほど多くはなかったようである。また、本遺跡から検出された4分類群のうちヌルデ以外のブナ属・クリ・トチノキはその果実が当時の重要な食料源となる樹種である。南関東の遺跡では、クリと共にクヌギ節・コナラ節・カシ類も使用されており(千野、1983、1991)、これらの樹種もやはりその果実が重要な食料源であった樹種である。集石遺構では、主に果実が食料源となる樹種が選択されて使用されていたのか？、今後も資料を増やし検討して見る必要がある。

次に、土器集中区(ＳＵ５)からは9分類群と最も多くの分類群が検出された。土器や炭化材などの廃棄場であったためにその時どきの利用樹種が蓄積してゆき、その結果検出分類群が多かったものと考えられる。

また３番目として、住居跡の可能性があるＳＢ２・ＳＢ３・ＳＢ６からは1住居跡につき４～８分類群が検出され合計13分類群であり使用樹種数が多かった。イヌシデ節・ブナ属・クリ・カエデ属ａ・ケンポナシ属は2軒から検出されたが、３住居跡から共通して検出された分類群は無く、各住居ごとに多種多様な樹種を使用していたと推測される。検出された分類群のすべては建築材として有用な樹種であったことから、炭化材は建築材であった可能性はあると思われる。

千野(1983、1991)や山田(1993)は、縄文時代の材利用の特徴と伐採により森林に及ぼした影響を理解するために、遺跡の樹種報告結果を集計し検討している。それによると、縄文時代の建築材も燃料材も全国的にクリが圧倒的に多く使われていた。しかし、本遺跡では建築材や燃料材と推定される炭化材からは、クリはブナ属と共に検出頻度が高いがほかの分類群に比べ量的にも際立って多いことは無かった。揖斐川上流の徳山地区は本遺跡の北東に位置し、同様な山間部遺跡であり、縄文時代遺構の炭化材樹種同定結果が報告されている（藤根・吉川、1994、植田、1997、植田、1998、藤根・吉川、1999、植田・藤根、1999)。この地区での住居跡・住居跡炉・埋甕内・土坑・ピット・遺物包含層などから出土した炭化材樹種同定結果は、クリ・ブナ属・カエデ属・ケヤキが目立ち、特にクリは様々

な種類の遺構から出土して検出頻度は高いが際立って多い傾向は見られないなど、検出樹種は本遺跡と類似性が高い。本遺跡と徳山地区の今までの調査からは、南関東の遺跡とは異なりクリが圧倒的に多い傾向は見られない。また当地域一帯の植生の主要素でありその果実は食用となるコナラ節やクヌギ節も南関東の事例とは異なり、あまり出土していない。このように当地域の特徴や南関東との相違点が見えてきたが、当周辺域の炭化材樹種調査はまだ充分とは言えないので今後も資料の蓄積がなされ、まず当周辺域の山間部での樹種利用を明らかにして行く必要があると言える。

第59表　岩井谷遺跡出土炭化材の遺構別検出樹種

遺構 / 分類群	SI15 集石 PLD-441 残り	SB2 住居跡 PLD-439 残り	SB3 住居跡 PLD-436 残り	SB6 住居跡 PLD-440 残り	SK31 土坑 PLD-445 残り	SU5 土器集中区 PLD-446 残り	41Z 炭化物集中区 PLD-447 残り
オニグルミ			○				
イヌシデ節		○	○			○	○
ブナ属	○	○	○			○	○
クリ	○	○		○		○	○
ケヤキ			○			○	
クワ属			○				
サクラ属			○		●1	○	
シラキ				○		○	
ヌルデ	○						
カエデ属a			○	○			○
カエデ属b		○					
トチノキ	○					○	●2
ケンポナシ属		○		○		○	
トネリコ属		○					
ガマズミ属			○		○	○	

●1：多数出土 ●2：大破片多数、樹皮?に近い破片も多数出土

引用文献

千野裕道、1983、縄文時代のクリと集落周辺植生-南関東地方を中心に-、P25-P42、図版1-4、財団法人東京都埋蔵文化財センター。

千野裕道、1983、縄文時代に二次林はあったか-遺跡出土の植物性遺物からの検討-、P215-P249、図版1-4、財団法人東京都埋蔵文化財センター。

山田昌久、1993、日本列島における木質遺物出土遺跡文献集成-用材から見た人間・植物関係史、242.、植生史研究 特別第1号。

藤根　久・吉川純子、1994、戸入村平遺跡出土炭化材の樹種同定および炭化種実同定、P314-P318、図版60-64、「戸入村平遺跡」、財団法人岐阜県文化財保護センター。

藤根　久・吉川純子、1999、上開田村平遺跡出土炭化材の樹種同定および種実同定、P145-P146、「上開田村平遺跡」、財団法人岐阜県文化財保護センター。

植田弥生、1997、炭化材の樹種同定、P206-P214、図版63-70、「山手宮前遺跡」、財団法人岐阜県文化財保護センター。

植田弥生、1998、塚遺跡から出土した炭化材の樹種について、P153-P155、図版115-117、「塚遺跡」、財団法人岐阜県文化財保護センター。

植田弥生・藤根　久、1999、上開田村平遺跡ＳＩ３出土炭化材の樹種同定および放射性炭素年代測定値、P136-P144、「上開田村平遺跡」、財団法人岐阜県文化財保護センター。

第８章　まとめと考察

第１節　縄文土器の出土状況

今回の調査において出土した縄文土器のうち、時期比定の可能な土器は3,064点であった。第133図～第142図はその分布状況をまとめたものである。おおよその時期ごとに、出土した地点ごとにまとめたもの（各図上）と、層位ごとにまとめたもの（各図下）を示した。

時期の分類

時期記号		本報告上の分類	想定した時期
Ｓ　期	・・・	Ｓ群	早期
ＣⅠ期	・・・	Ｃ－１～Ｃ－３群	中期前半
ＣⅡ期	・・・	Ｃ－４～Ｃ－８群	中期後半
ＫⅠ期	・・・	Ｋ－１～Ｋ－５群	後期前半
ＫⅡ期	・・・	Ｋ－６～Ｋ－８群	後期後半

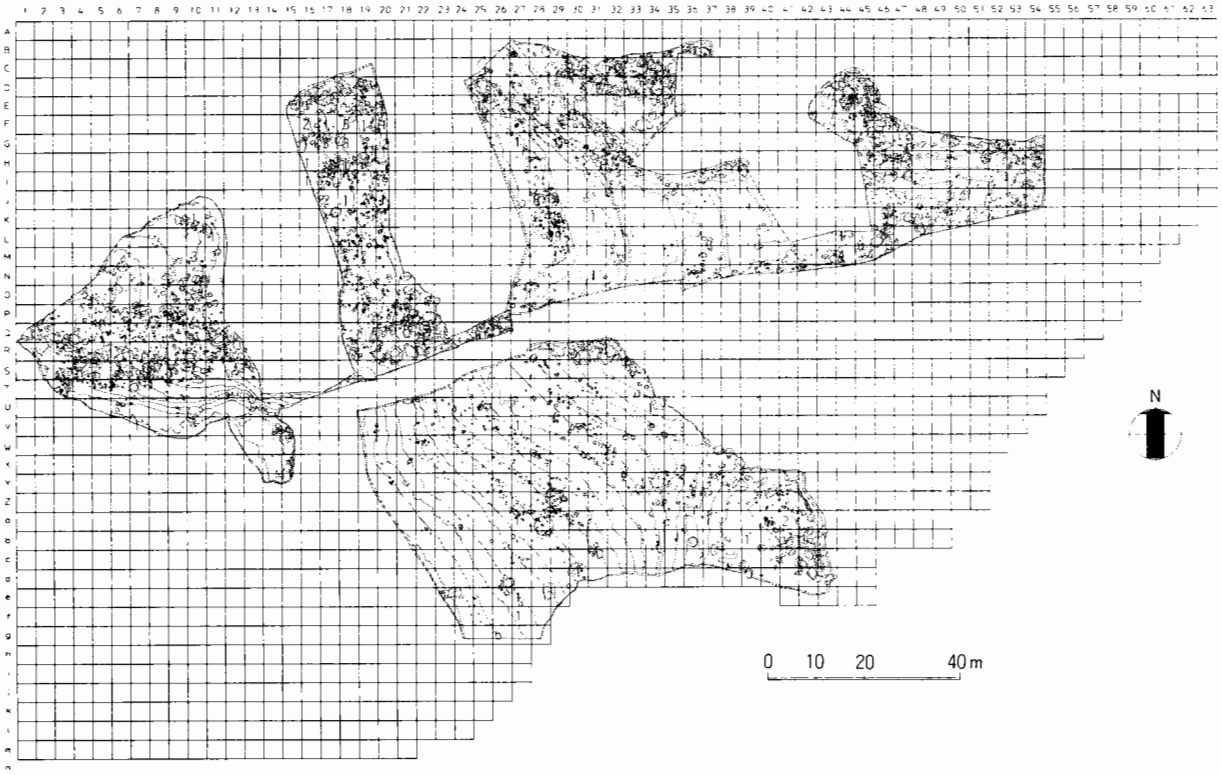
遺跡は先述したとおり、傾斜地であり尚かつ自然災害および開田による削平のため、包含層が調査区全体にわたって均一に堆積した状況を確認できたわけでなく、出土点数においては偏りがあるため小地域を取り扱うことはできないが、今回の調査で第１地区～第５地区と設定した地域の比較はおおむね可能ではないかと考え集計した。集計した結果から次のことを読みとることができる。

① 第２地区および第３地区は早期から後期という長期にわたる土器が出土している。
② 第５地区では、中期後半が中心時期であると言える。
③ 第２地区・第３地区においては特に後期が中心時期であり、第２地区北部に後期前半、第２地区南部および第３地区北部に後期後半のピークを見る。

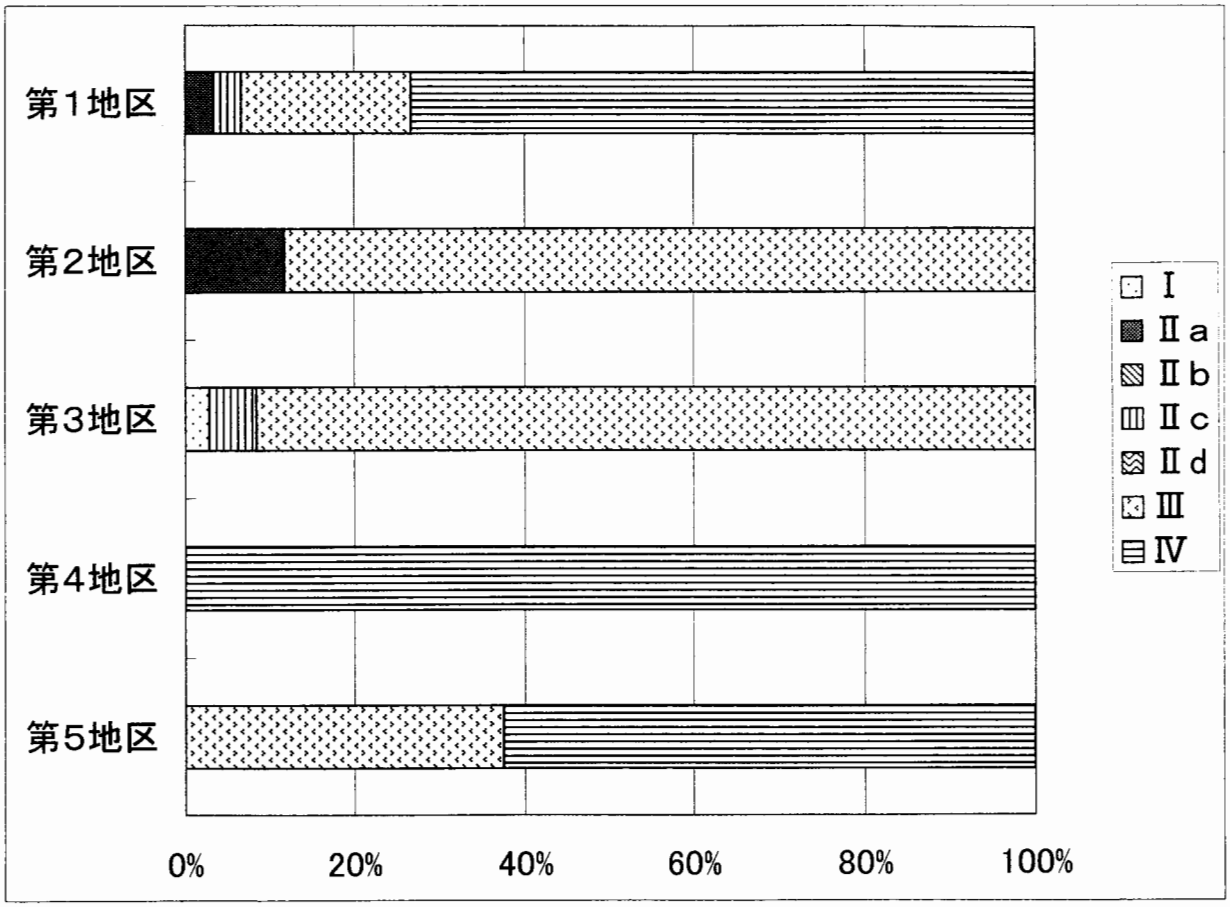
以上３点から、この小段丘面の中においても、時期による生活中心の場の変遷があると考えられる。早期は確かなことは言い難いが、中期中葉から後葉にかけて段丘面南部の地域を中心にした集落が営まれ、やがて後期に入ると北部地域に生活の中心が移る。

遺構との関連から考えると、第２地区からは立石遺構、土器埋設遺構を検出し、さらに土偶・石棒の出土と祭祀に関係する遺構・遺物の検出および出土が顕著である。第２地区においては当時特別な地域であった可能性が考えられる。

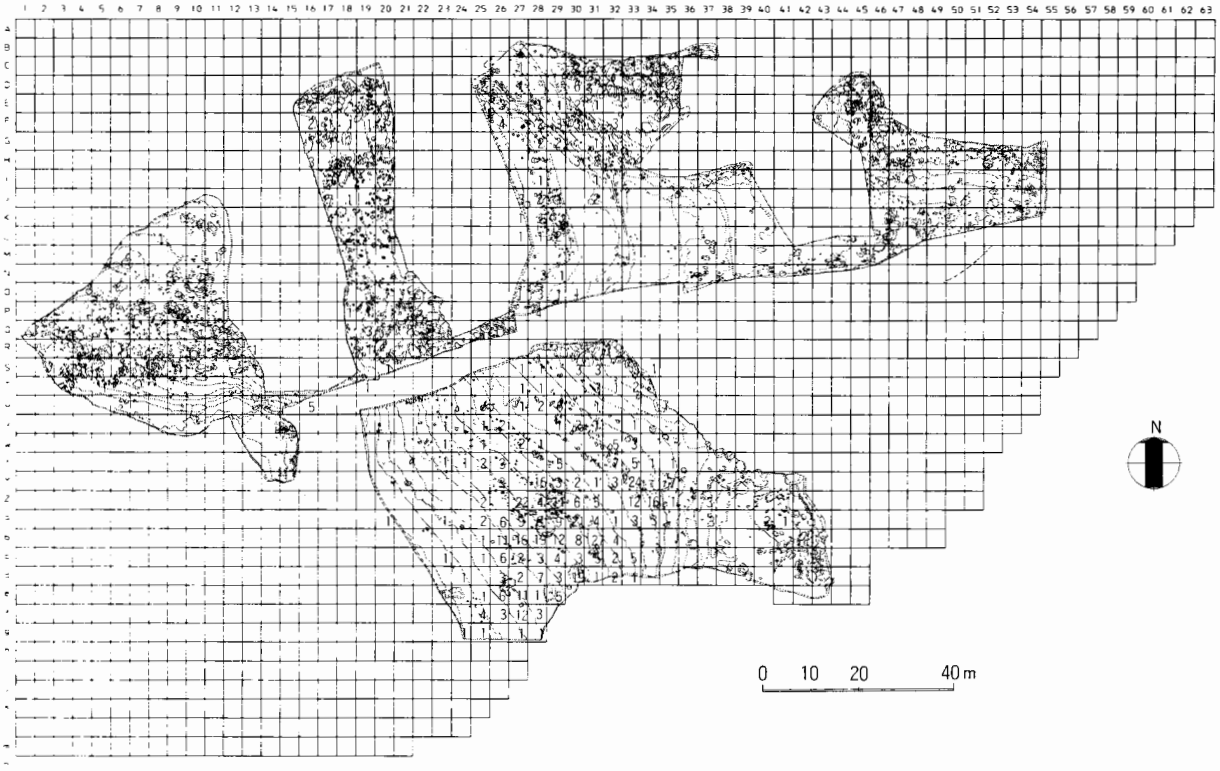
さらに、第２地区の祭祀関連遺構の東に、柱穴群が見られ、第３地区からは石囲炉をもった住居跡を検出している。第２地区東端の柱穴群は住居跡の可能性が高く、今回調査対象外であった第２地区と第３地区の間の部分を含めた地域は住居域であった可能性が考えられる。祭祀関連遺構群と住居域との関連が今後の調査によって解明されることが望まれる。



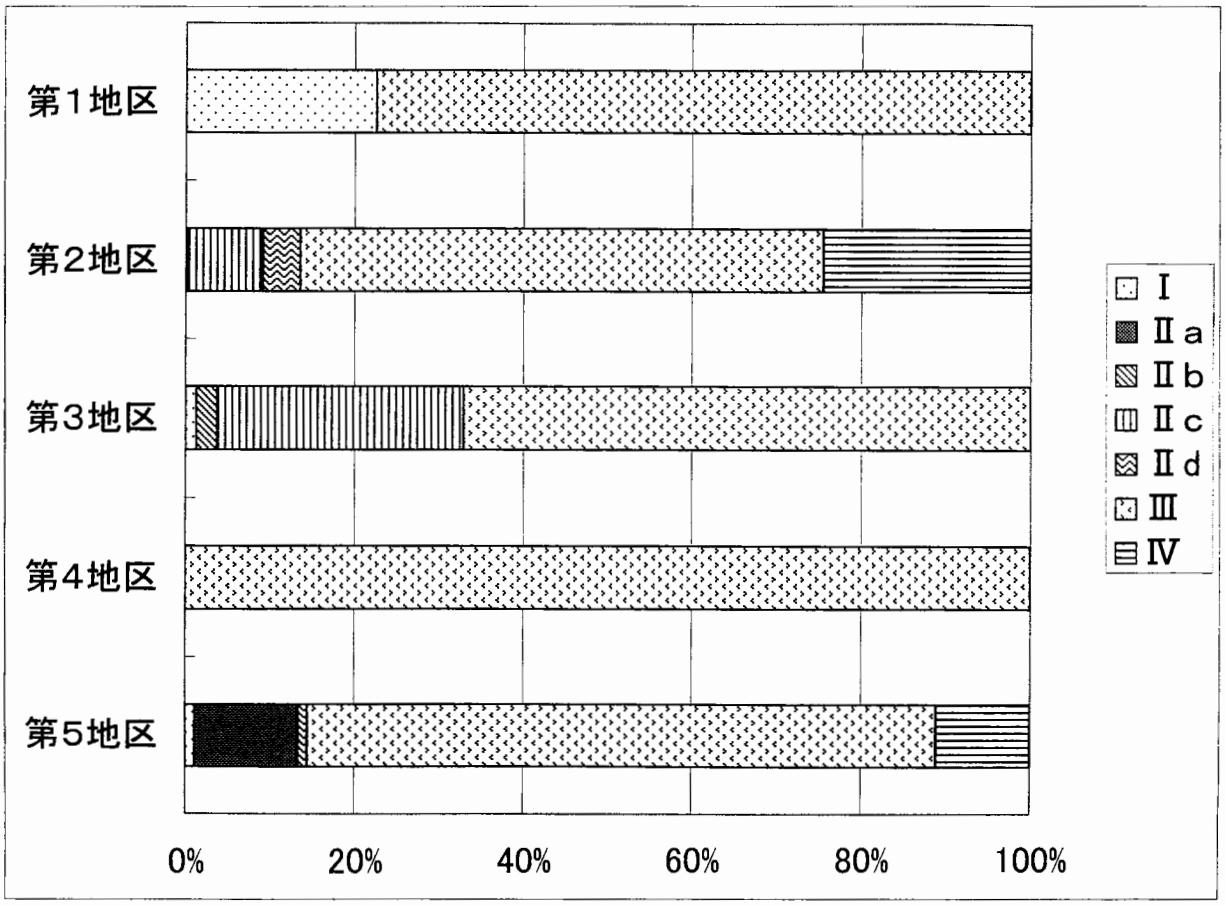
第133図　土器出土分布状況　S期



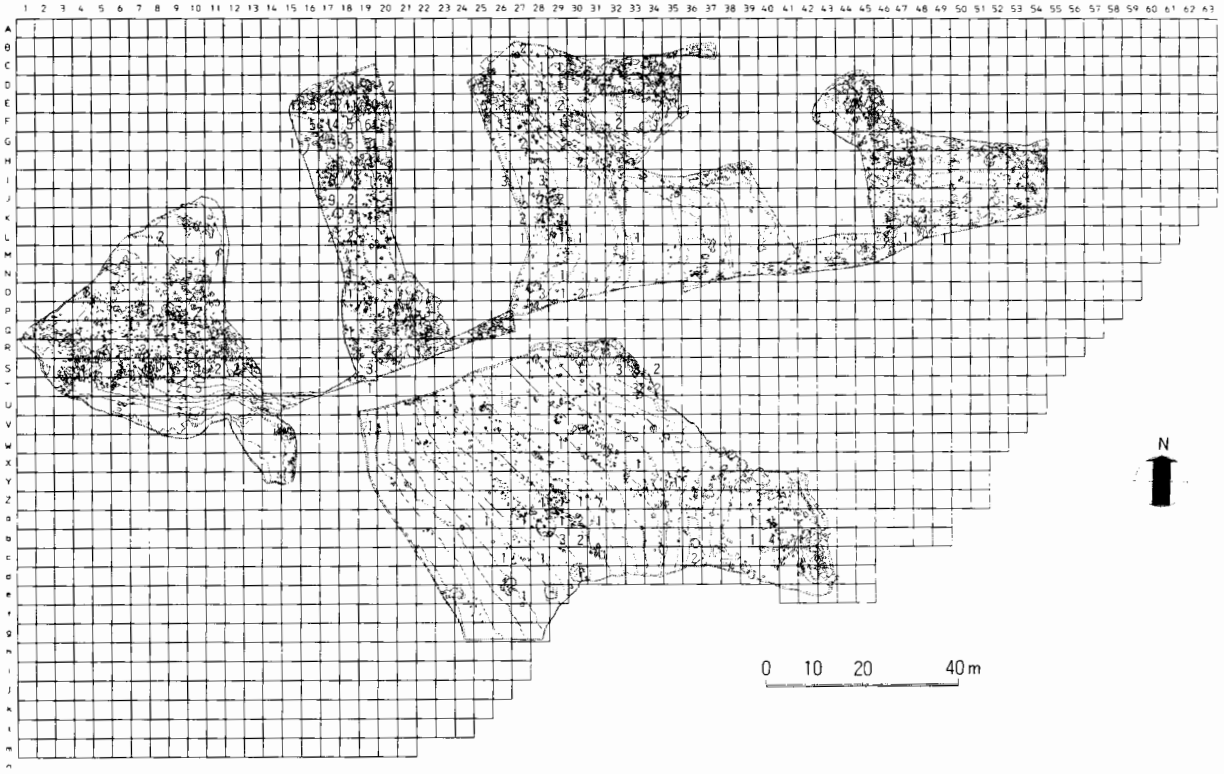
第134図　層位別出土割合　S期



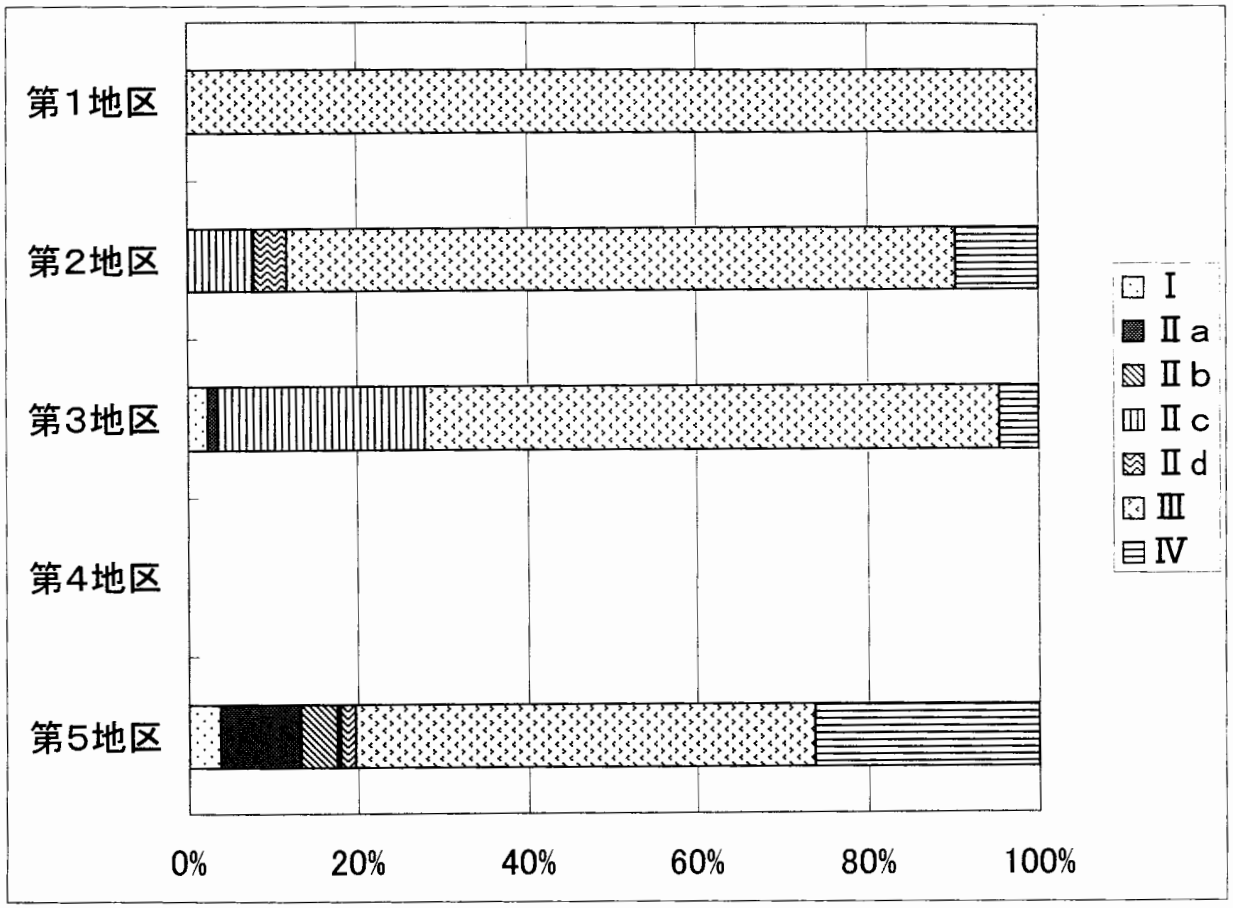
第135図　土器出土分布状況　ＣＩ期



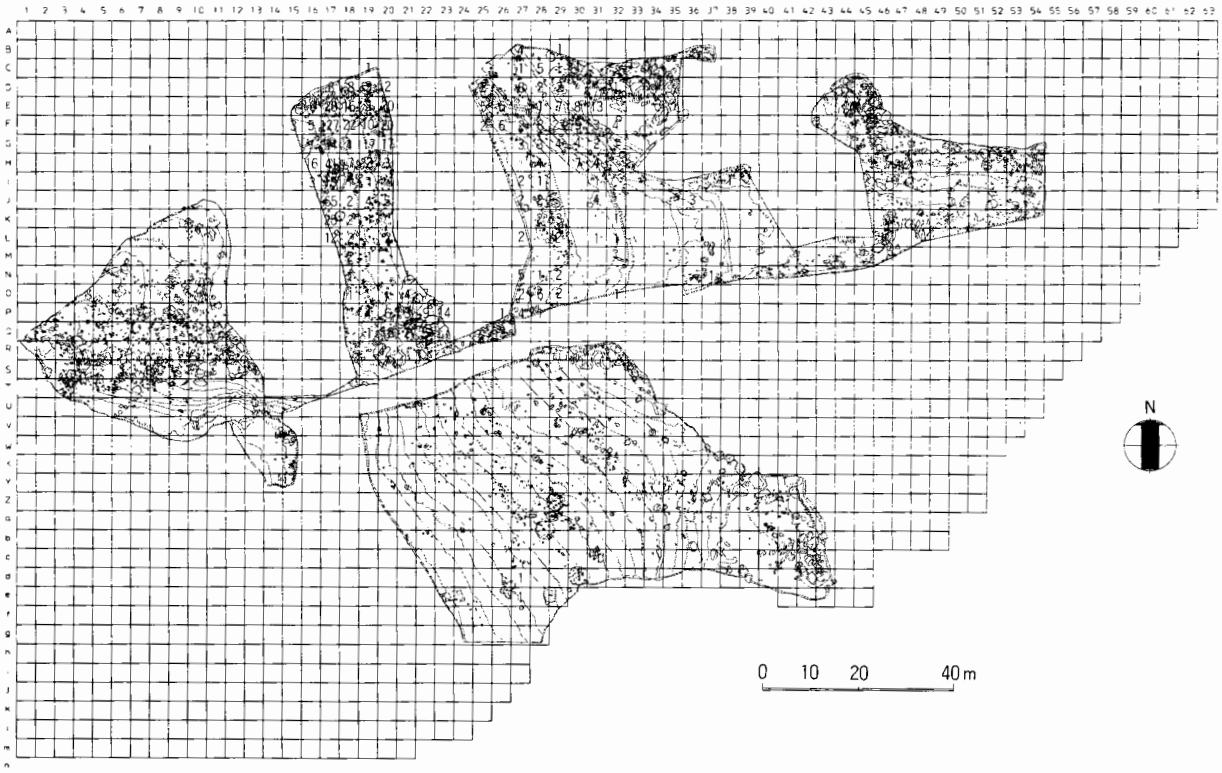
第136図　層位別出土割合　ＣＩ期



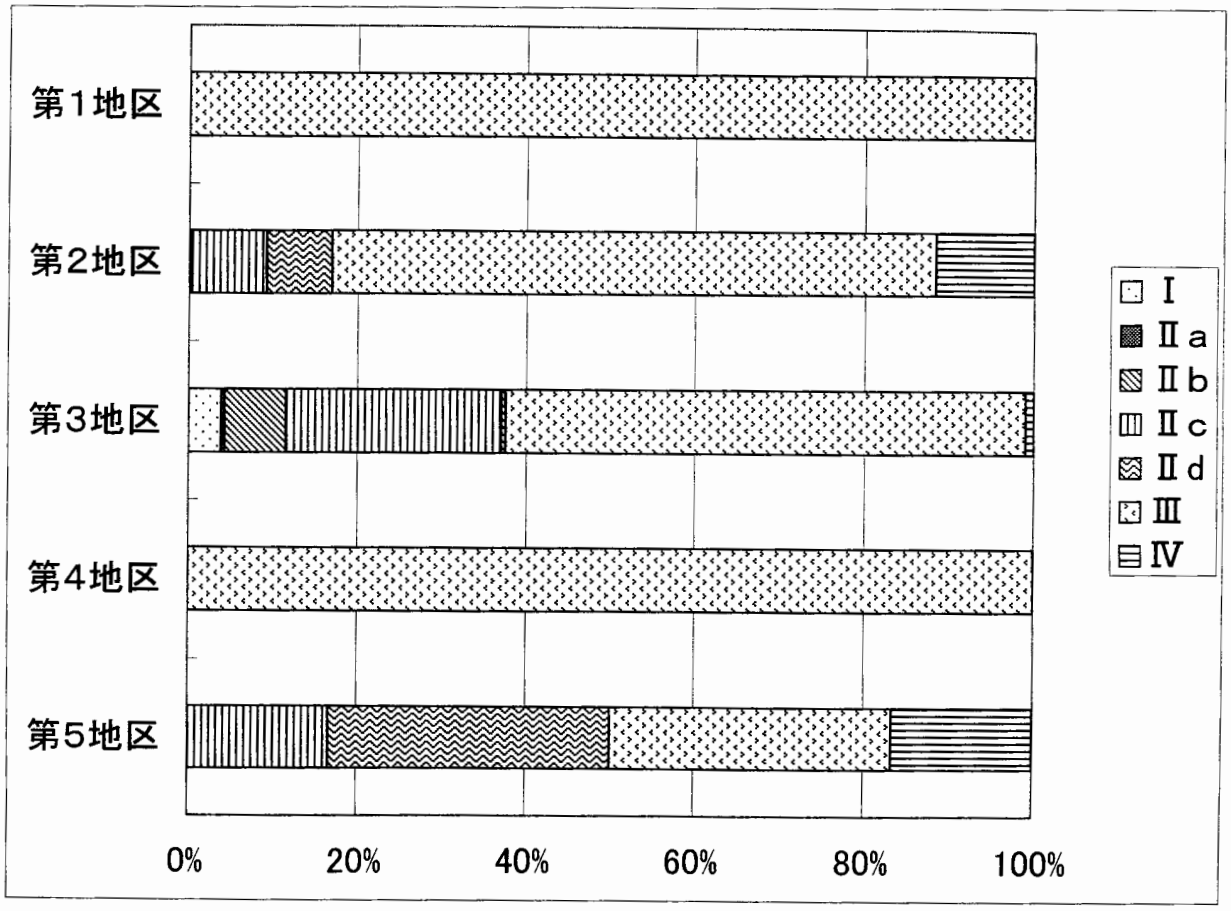
第137図　土器出土分布状況　CⅡ期



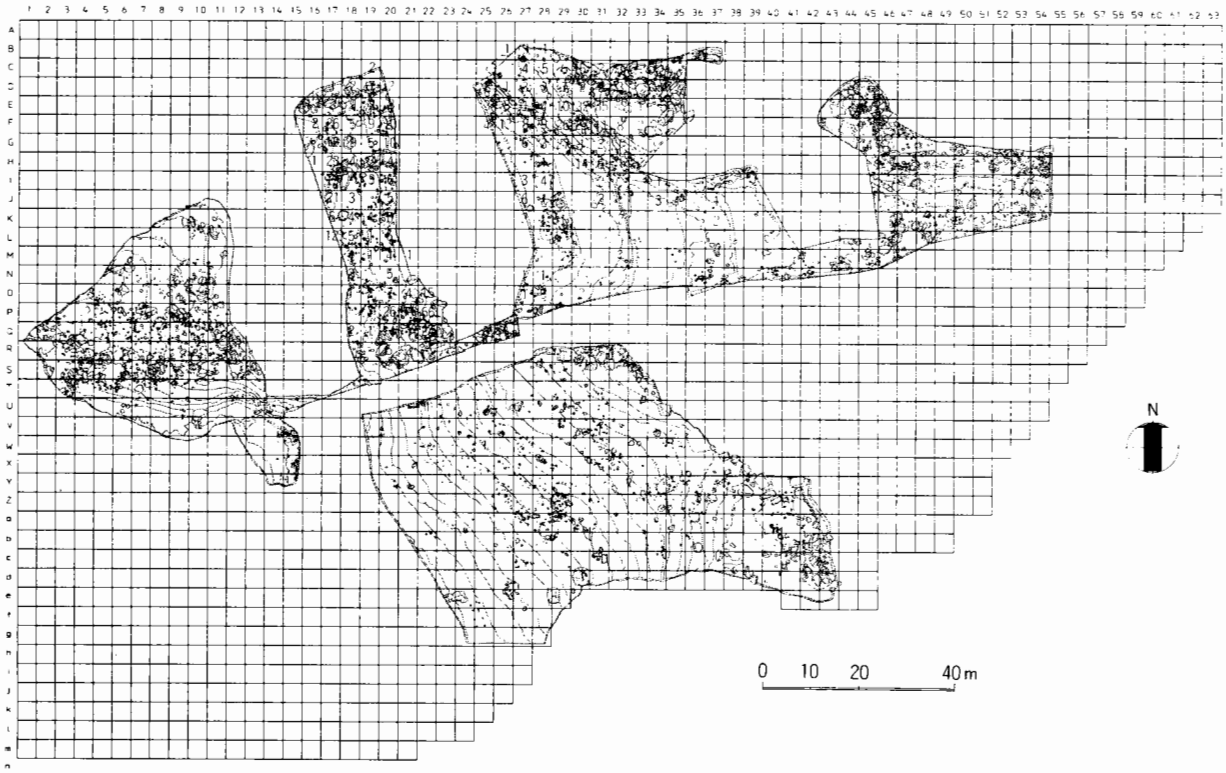
第138図　層位別出土割合　CⅡ期



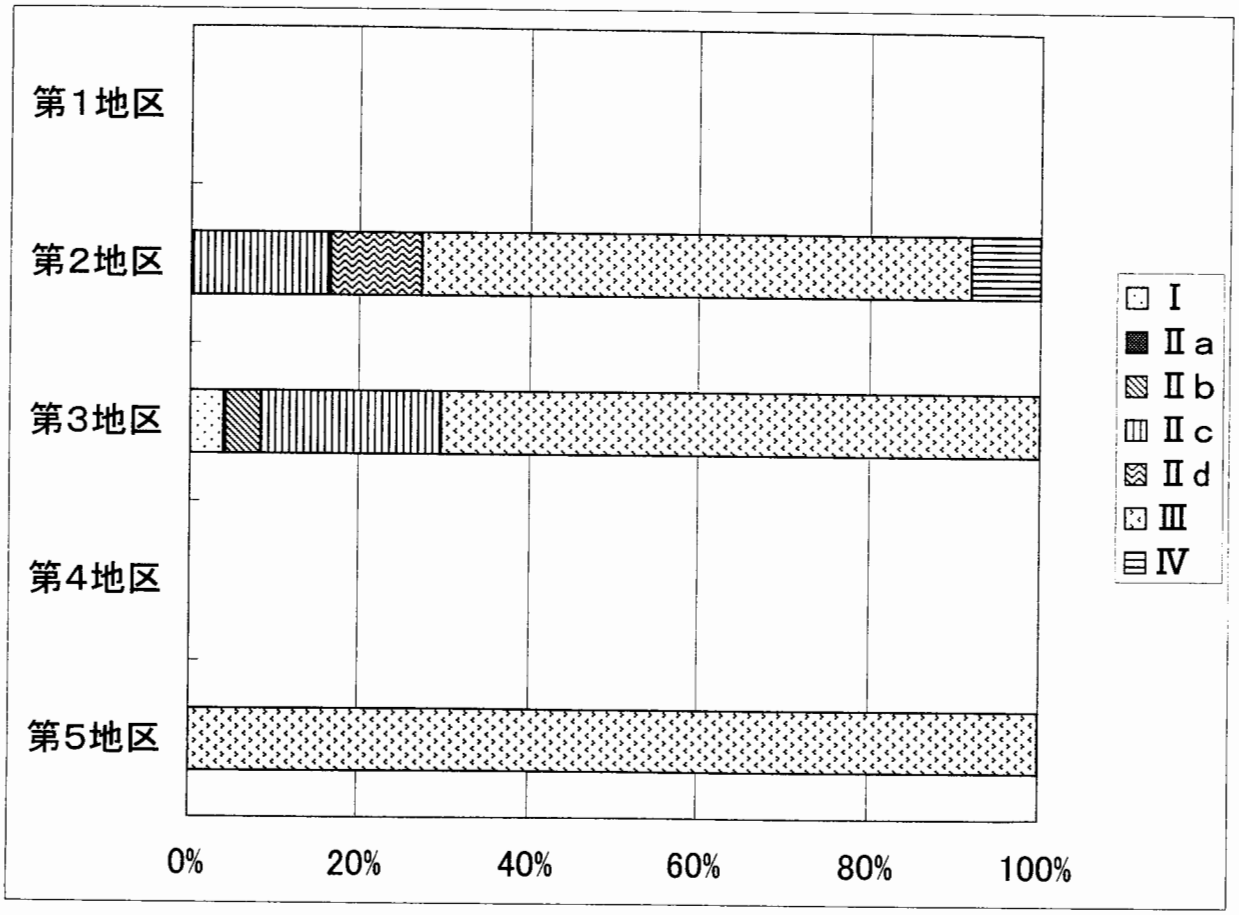
第139図　土器出土分布状況　ＫＩ期



第140図　層位別出土割合　ＫＩ期



第141図　土器出土分布状況　KⅡ期



第142図　層位別出土割合　KⅡ期

第２節　剥片石器の石材分布状況

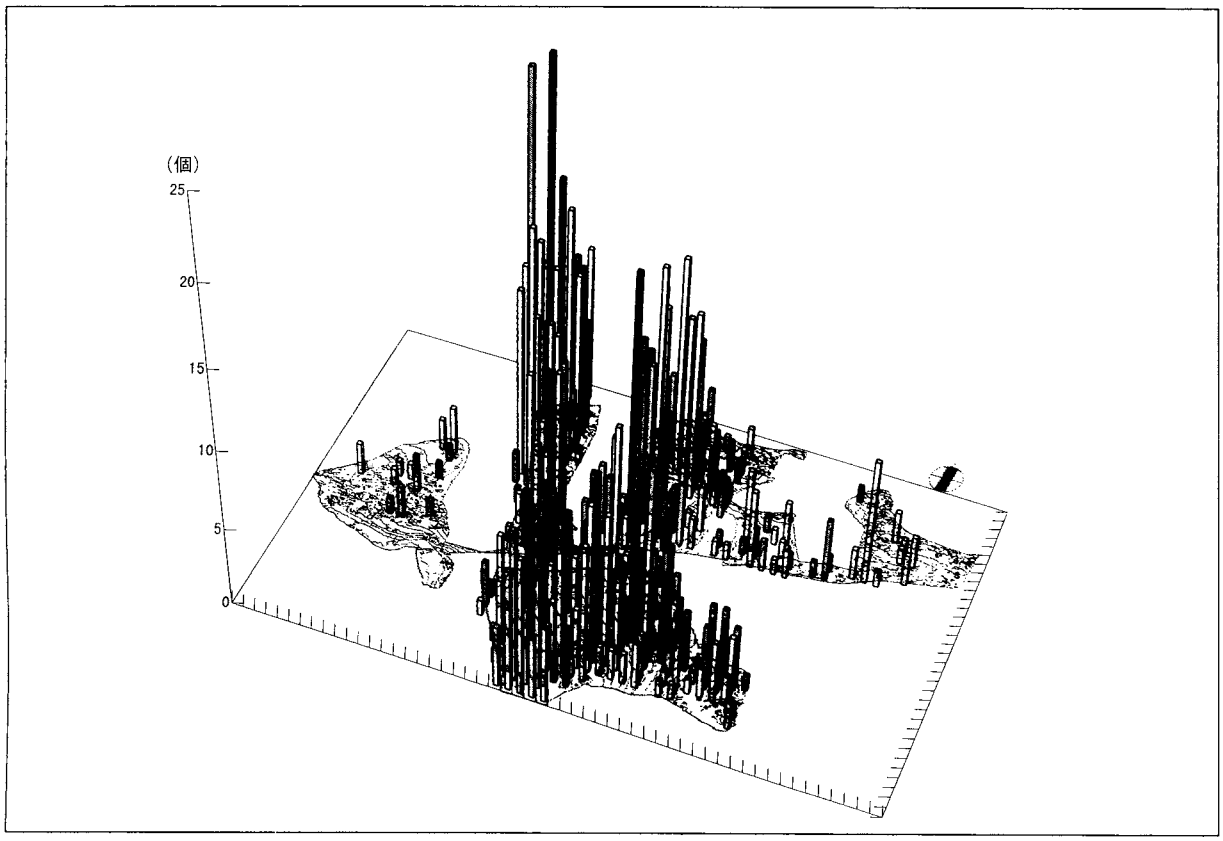
本遺跡が所在する春日村周辺には、砂岩、泥岩、チャート、玄武岩質溶岩など岐阜県美濃地方に広く分布する美濃帯堆積物及び火砕岩、安山岩の貫入岩と、貝月山を中心として広がる花こう岩が分布する。粕川の支流である岩井谷と尾西谷に挟まれた本遺跡周辺の川からは、主に花こう岩、泥岩、安山岩等の礫が存在するが、チャートの礫は現在観察される限り見当たらない。ただし、遺跡から１～1.5㎞下流の谷から下流にかけては、良質のチャートの存在が確認できる。また、明らかに他地域からの搬入と考えられるサヌカイト・下呂石については、その量も多い。ここでは、主に剥片石器に多く用いられたチャート・サヌカイト・下呂石（黒曜石はわずかであるため除いた）の出土状況について述べる。

第60表に剥片石器の石材別出土点数を示した。チャートは、総数においても剥片１個あたりの質量においても一番多い。遺跡周辺にはないものの、いわゆる在地の石材で多く利用されるのも当然といえる。ところが、搬入されたサヌカイトや下呂石もかなりの数を占めている。特に、石鏃においてはチャートよりも多く利用されている。薄く剥がれやすいこれらの石材は、石鏃など薄手の剥片石器を作る上で好都合だったことをうかがわせる。このように、手に入れやすいチャートとは別に、サヌカイトや下呂石を好んで用いたことをも想像させる。

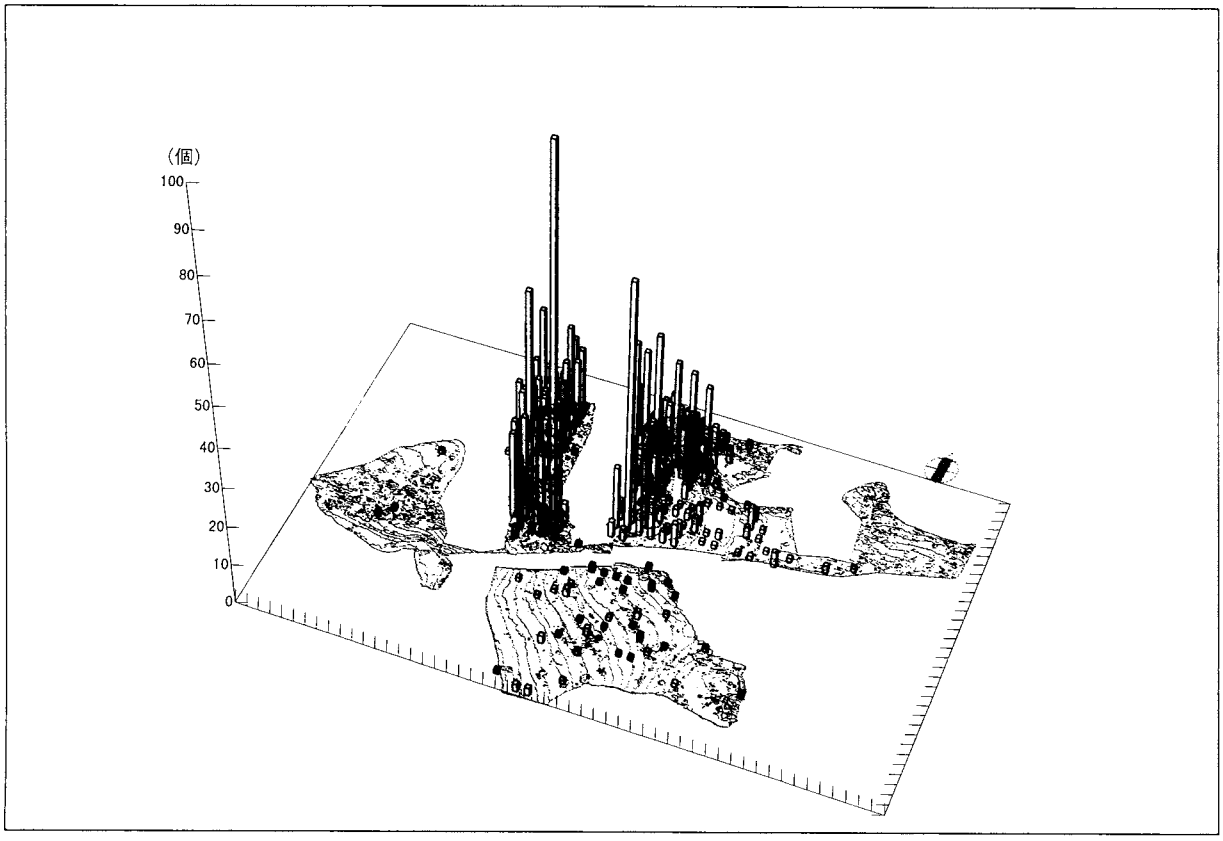
また、サヌカイトや下呂石が何らかの交易でもたらされたとするならば、そこには時期的な差がその要因となっている可能性も考えられる。第143～145図は、剥片類の出土状況を個数分布で示したものである。これらから、チャートはどの地点においても出土割合が高いのに対して、第144図や第145図に見られるようにサヌカイトや下呂石は第２地区・第３地区の出土割合が高く、逆に第５地区においては少数である。第146図は地区別の剥片類の質量を比較したもので、ここでも同様のことが言えそうである。こうした出土分布の違いは、当時の生活・文化の変化が考えられるのではないだろうか。

第60表　剥片石器の石材別出土点数

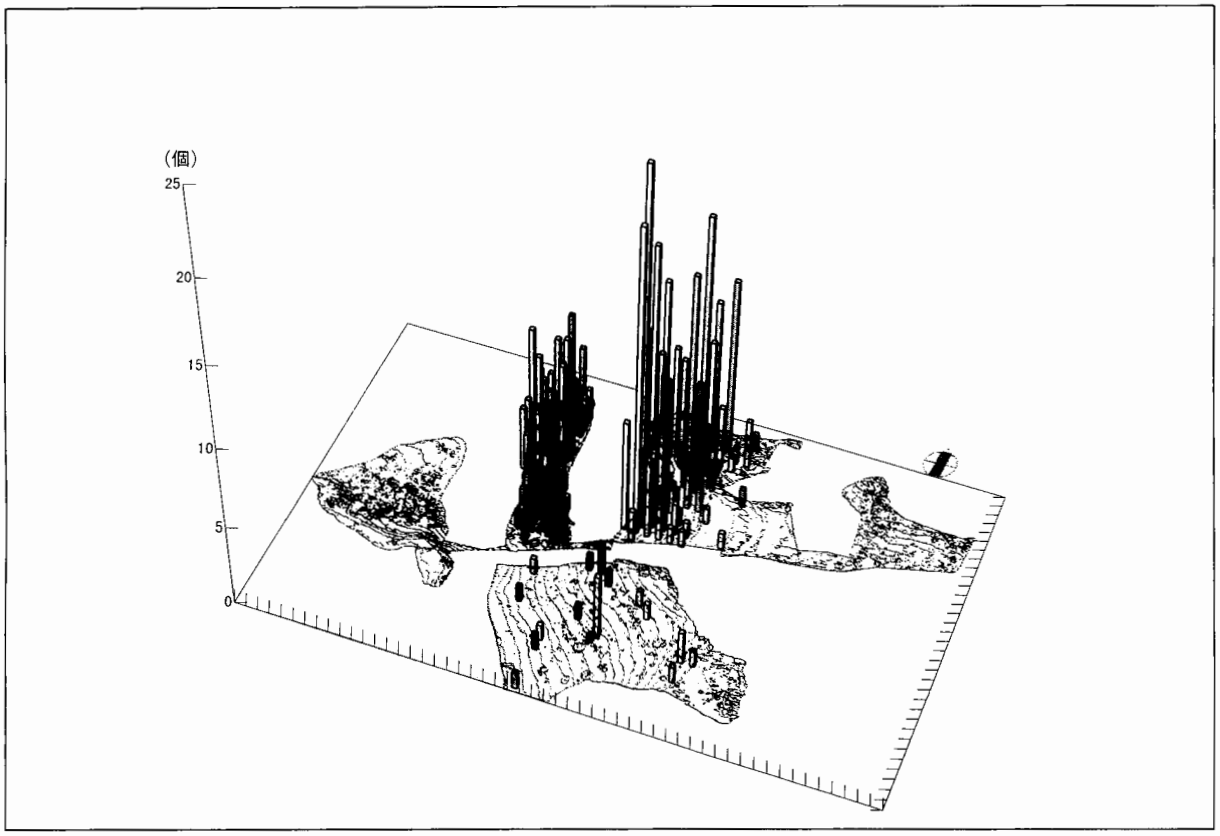
	チャート	サヌカイト	下呂石	合計
石　鏃	91	138	84	313
有舌尖頭器	1	1	0	2
石　錐	19	17	15	51
スクレイパー類（石匙）	14	6	1	21
スクレイパー類（掻器Ⅰ）	12	3	0	15
スクレイパー類（掻器Ⅱ）	1	2	0	3
スクレイパー類（複合スクレイパー）	1	0	0	1
スクレイパー類（削器）	36	16	0	52
ピエス･エスキーユ（楔形石器）	6	4	5	15
石　核	42	6	1	50
石製品	1	1	0	2
合　計	224	194	106	524
剥　片	1173	1670	493	
R　F	131	71	13	
U　F	153	75	17	
剥片類合計	1,457	1,816	523	
剥片類総質量(g)	7,726.2	6,230.7	1,461.3	
剥片類平均質量(g)	5.30	3.43	2.79	



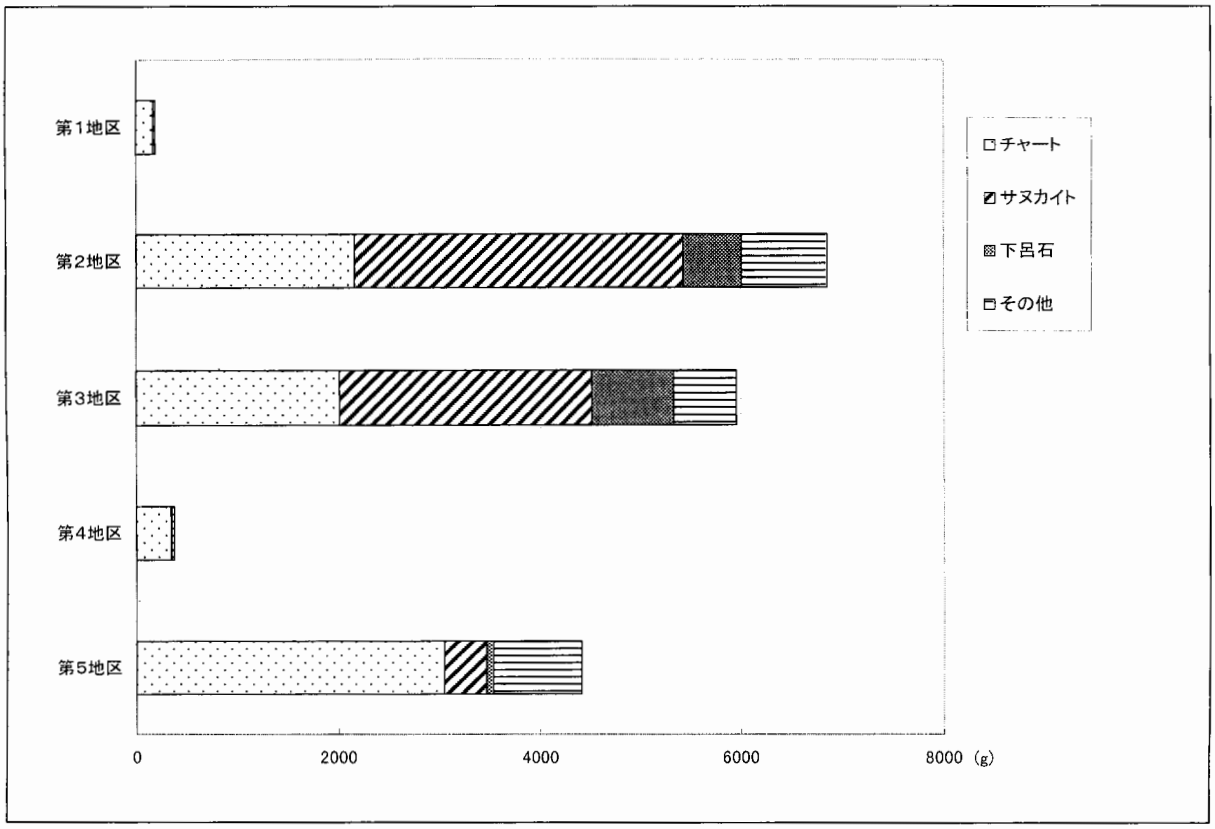
第143図　チャートの地区別出土状況



第144図　サヌカイトの地区別出土状況



第145図　下呂石の地区別出土状況



第146図　剥片類（RF・UF含む）における石材別質量

引用・参考文献（第２章第１節、第７章を除く）

遺構・縄文土器関係

赤星直忠・岡本勇　1957　「茅山貝塚」『横浜市博物館研究報告』第１号 横浜市博物館

阿部芳郎　1997　「判ノ木山西遺跡出土土器の分類と編年」『シンポジウム押型文と沈線文　本編』長野県考古学会縄文時代（早期）部会編

安孫子昭二　1988　「勝坂式土器様式」『縄文土器大観２　中期Ⅰ』

伊藤正人・川合剛　1997　「東海の中・後期土偶」『土偶シンポジウム６　奈良大会　西日本をとりまく土偶』「土偶とその情報」研究会

泉拓良　1982　「西日本縄文土器再考－近畿地方縄文時代中期後半を中心に－」『考古学論考　小林行雄博士古稀記念論文集』

泉拓良　1988　「船元・里木式土器様式」『縄文土器大観３　中期Ⅱ』

泉拓良　1988　「咲畑・醍醐式土器様式」『縄文土器大観３　中期Ⅱ』

泉拓良　1988　「縁帯文土器様式」『縄文土器大観４　後期　晩期　続縄文』

泉拓良　1993　「北白川上層式土器の細分－京都大学教養部構内ＡＯ24区出土の縄文土器を中心に－」『京都大学構内遺跡調査研究年報』 京都大学埋蔵文化財研究センター

泉拓良・家根祥多　1985　「北白川追分町遺跡出土の縄文土器」『京都大学埋蔵文化財調査報告Ⅲ－北白川追分町縄文遺跡の調査－』京都大学埋蔵文化財研究センター

大参義一　1978　「東海地方における縄文時代後期前半期の土器について」

大野市教育委員会　1985　『右近次郎遺跡Ⅱ』

春日井恒　1996　「東海地方縄文中期における中富式土器群の問題」『美濃の考古学』創刊号

春日村　1983　『春日村史』

京都教育大学考古学研究会　1989　「考古学資料室所蔵の縄文時代遺物資料紹介」『史想』第22号

京都大学文学部博物館　1991　『先史時代の北白川』

桐生直彦　1987　「竪穴住居址を中心とした遺物出土状態の分類について－研究史と整理－」『東国史論』第２号

紅村弘・増子康眞　1977　『東海先史文化の諸段階』（資料編Ⅰ・Ⅱ）

紅村弘・増子康眞　1981　『東海先史文化の諸段階』（本文編・補足改訂版）

静岡県考古学会シンポジウム実行委員会　1998　『縄文時代中期前半の東海系土器群　北屋敷式土器の成立と展開　予稿集』

鈴木保彦・山本暉久　1988　「加曽利Ｅ式土器様式」『縄文土器大観２　中期Ⅰ』

玉田芳英　1988　「中津・福田ＫⅡ式土器様式」『縄文土器大観４　後期　晩期　続縄文』

夏目和之　1994　「矢作川上流域の縄文文化研究(Ⅳ)」『古代人』55

丹羽佑一　1988　「凹線文系土器様式」『縄文土器大観４　後期　晩期　続縄文』

間壁忠彦・葭子　1971　「里木貝塚」『倉敷考古館研究集報』第７号

増子康眞　1978　「縄文中期後半土器の編年－東海地方西部地域－」『古代人』34

増子康眞　1983　「八ッ崎Ⅰ式土器をめぐって」『古代人』41
増子康眞　1983　「入海式土器の再検討」『古代人』42
増子康眞　1988　「東海地方の凹線文土器再考」『古代人』50
増子康眞　1994　「加曽利Ｂ式に平行する東海地方の縄文後期土器」『古代人』55
増子康眞　1995　「稲武町大野瀬ヒロノ遺跡略報」『古代人』56
増子康眞　1997　「東平遺跡の縄文土器(２)－特に中期中葉の前畑式土器を中心に－」『古代人』58
三上徹也　1993　「縄文時代居住システムの一様相－中部・関東地方の中期を中心として－」『駿台史学』88
南知多町教育委員会　1983　『林ノ峰貝塚Ⅰ』
美濃加茂市教育委員会　1973　『牧野小山遺跡』
宮本長二郎　1996　「竪穴住居の復元」『考古学による日本歴史15　家族と住まい』
森川幸雄他　1995　『天白遺跡』三重県埋蔵文化財センター
守屋豊人　1997　「中部地方における押型文土器後半期の様相」『シンポジウム押型文と沈線文　本編』長野県考古学会縄文時代（早期）部会編
矢野健一　1997　「中四国地方における押型文土器後半期の様相」『シンポジウム押型文と沈線文　本編』長野県考古学会縄文時代（早期）部会編
渡辺誠　1975　『桑飼下遺跡発掘調査報告書』平安博物館

石器関係

阿子島香　1999　『石器の使用痕』
岩田修　1997　「河川礫中の岐阜県下呂町湯ケ峰流紋岩－下呂石・小川石－」『岐阜地理』第40号
河村一彦他　1999　『上原遺跡Ⅰ』岐阜県文化財保護センター
後藤秀一　1983　「縄文時代石器研究の基礎作業　凹石・敲石・磨石の器種分類についての検討」『考古学論叢Ⅰ』
鈴木道之助　1991　『石器入門事典－縄文－』
町田勝則　1993　『北村遺跡』長野県埋蔵文化財調査センター
町田勝則　1996　「石器研究法　報告書作成に伴う観察・記録法①」『長野の考古学』
渡辺誠　1981　「編み物用錘具としてしの自然石の研究」『名古屋大学文学部研究論集』80

古代以降遺物関係

宇野隆夫　1992　「食器計量の意義と方法」『国立歴史民俗博物館研究報告』第40集
北村和宏　1996　「尾張の「伊勢型鍋」『鍋と甕　そのデザイン　第４回東海考古学フォーラム』
北村和宏　1996　「尾張の羽釜」『鍋と甕　そのデザイン　第４回東海考古学フォーラム』
斎藤孝正　1994　「１　東海地方の施釉陶器生産－猿投窯を中心に－」『古代の土器研究－律令的土器様式の西・東３　施釉陶器－』古代の土器研究会
藤澤良祐　1994　「山茶碗研究の現状と課題」『研究紀要』第３号　三重県埋蔵文化財センター

共通

早野壽人他　1999　『細野遺跡・梨子谷遺跡・千日遺跡・宮上遺跡』岐阜県文化財保護センター
増子誠他　1998　『塚遺跡』岐阜県文化財保護センター

図　　版

岩井谷遺跡発掘前の状況（西から）

岩井谷遺跡全景（東から）

作業風景（第5地区）

作業風景（第2地区）

図版2

第1地区　完掘状況

第2地区　完掘状況①
（上層部）

第2地区　完掘状況②
（下層部）

第3地区　完掘状況

第4地区　完掘状況

第5地区　完掘状況

図版4

第1号住居跡（SB1）完掘状況

第1号住居跡（SB1）炉跡

第2号住居跡（SB2）平面検出状況

第2号住居跡（SB2）遺物出土状況

第2号住居跡（SB2）土器出土状況

第2号住居跡（SB2）完掘状況

第3号住居跡（SB3）完掘状況

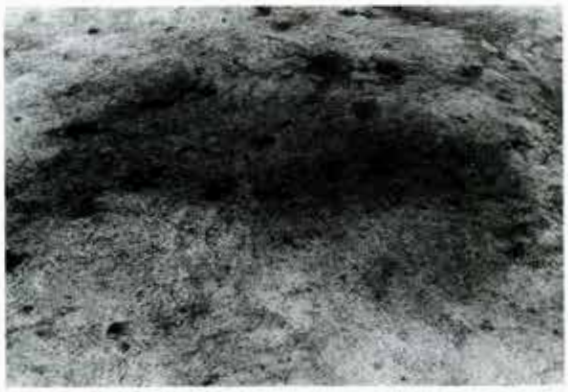
第4号住居跡（SB4）半割状況

第4号住居跡（SB4）炉跡

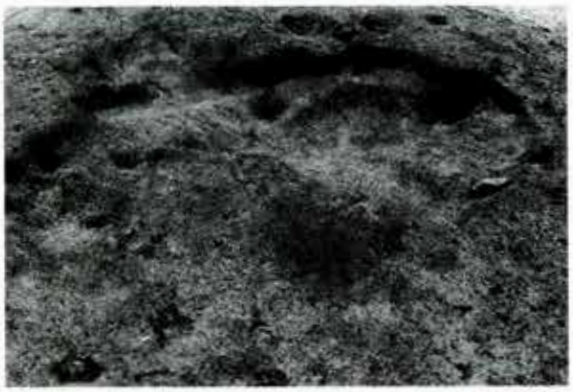
第4号住居跡（SB4）完掘状況

第5号住居跡（SB5）完掘状況

第第5号住居跡（SB5）炉跡

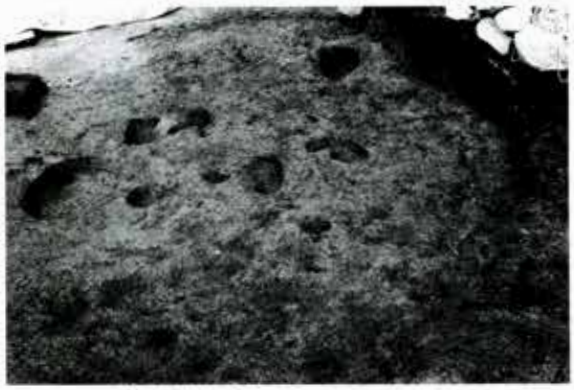


第6号住居跡（SB6）平面検出状況



第6号住居跡（SB6）完掘状況

第7号住居跡（SB7）半割状況



第7号住居跡（SB7）完掘状況

図版6

第1号集石遺構（SI1）平面検出状況

第1号集石遺構（SI1）半割状況

第2号集石遺構（SI2）平面検出状況

第2号集石遺構（SI2）半割状況

第3号集石遺構（SI3）平面検出状況

第3号集石遺構（SI3）半割状況

第4号集石遺構（SI4）平面検出状況

第4号集石遺構（SI4）半割状況

第5号集石遺構（SI5）平面検出状況

第8号集石遺構（SI8）平面検出状況

第6号集石遺構（SI6）平面検出状況

第6号集石遺構（SI6）半割状況

第7号集石遺構（SI7）平面検出状況

第7号集石遺構（SI7）半割状況

第9号集石遺構（SI9）平面検出状況

第9号集石遺構（SI9）半割状況

図版8

第10号集石遺構（SI10）完掘状況

第11号集石遺構（SI11）半割礫出土状況

第12号集石遺構（SI12）平面検出状況

第12号集石遺構（SI12）半割状況

第13号集石遺構（SI13）平面検出状況

第14号集石遺構（SI14）平面検出状況

第15号集石遺構（SI15）平面検出状況

第16号集石遺構（SI16）平面検出状況

第1号土器埋設遺構（SM1）平面検出状況

第1号土器埋設遺構（SM1）土器出土状況

第2号土器埋設遺構（SM2）半割状況

第2号土器埋設遺構（SM2）半割土器出土状況

第3号土器埋設遺構（SM3）半割土器出土状況

第3号土器埋設遺構（SM3）完掘途中土器出土状況

土器集中区1（SU1）平面検出状況

土器集中区2（SU2）平面検出状況

図版10

土器集中区3（SU3）平面検出状況

土器集中区3（SU3）完掘途中土器出土状況

土器集中区4（SU4）平面検出状況

土器集中区4（SU4）平面検出状況

土器集中区5（SU5）平面検出状況

土器集中区5（SU5）土器出土状況

第1号立石遺構（SR1）平面検出状況

第2号立石遺構（SR2）平面検出状況

第3号立石遺構（SR3）半割状況

第3号立石遺構（SR3）完掘途中礫出土状況

第1号土坑（SK1）完掘途中礫出土状況

第1号土坑（SK1）完掘状況

第2号土坑（SK2）半割状況

第2号土坑（SK2）完掘状況

第8号土坑（SK8）半割状況

第8号土坑（SK8）完掘状況

図版12

第9号土坑（SK9）完掘状況

第11号土坑（SK11）完掘状況

第13号土坑（SK13）完掘状況

第35号土坑（SK35）完掘状況

第38号土坑（SK38）半割状況

第38号土坑（SK38）完掘状況

第41号土坑（SK41）半割状況

第41号土坑（SK41）完掘状況

石棒（888）出土状況

磨製石斧（832）出土状況

磨製石斧（834）出土状況

磨製石斧（835）出土状況

土偶（712）出土状況

土偶（713）出土状況

鉢（715）出土状況

土錘（927）出土状況

3

6

7

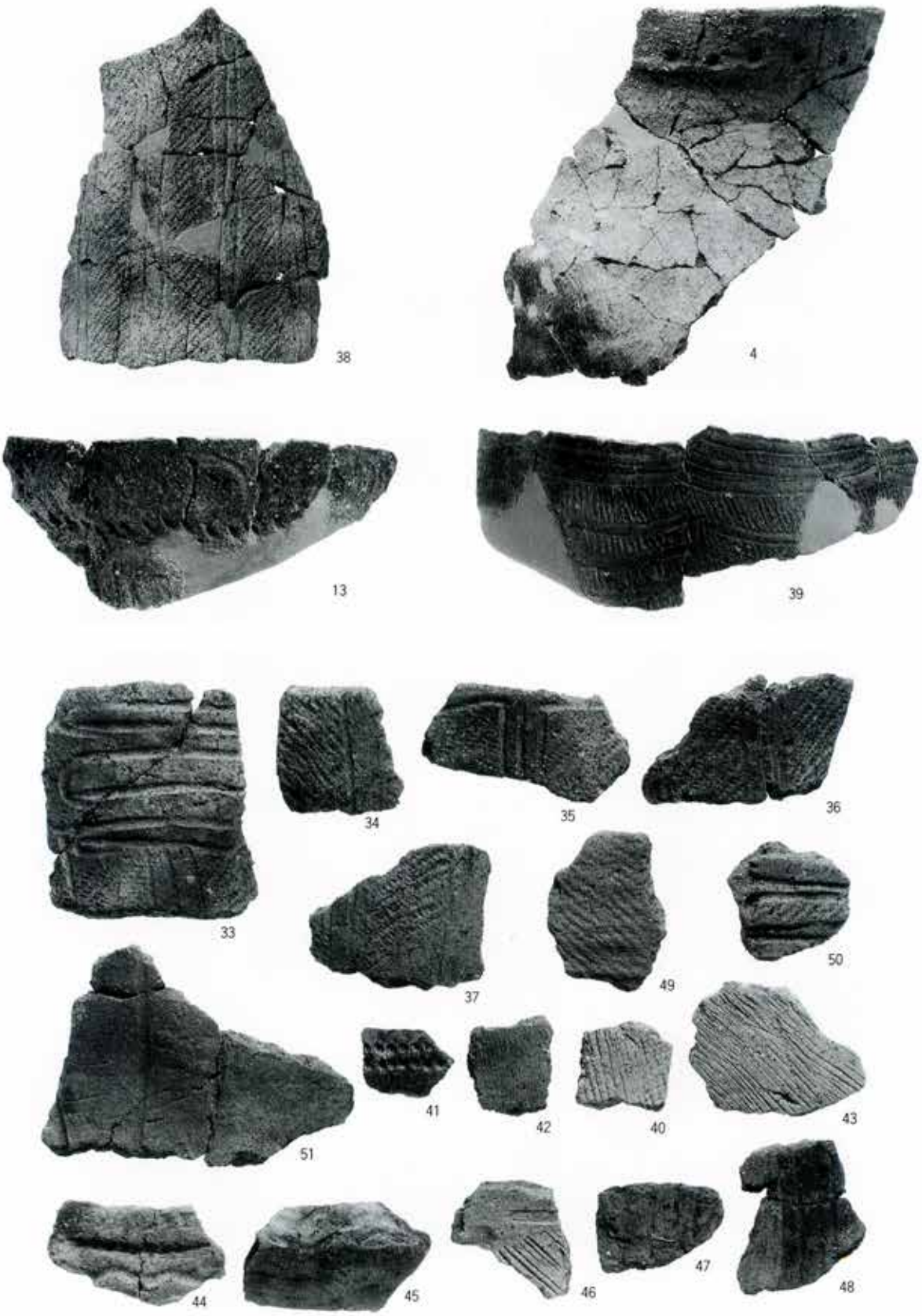
5

1

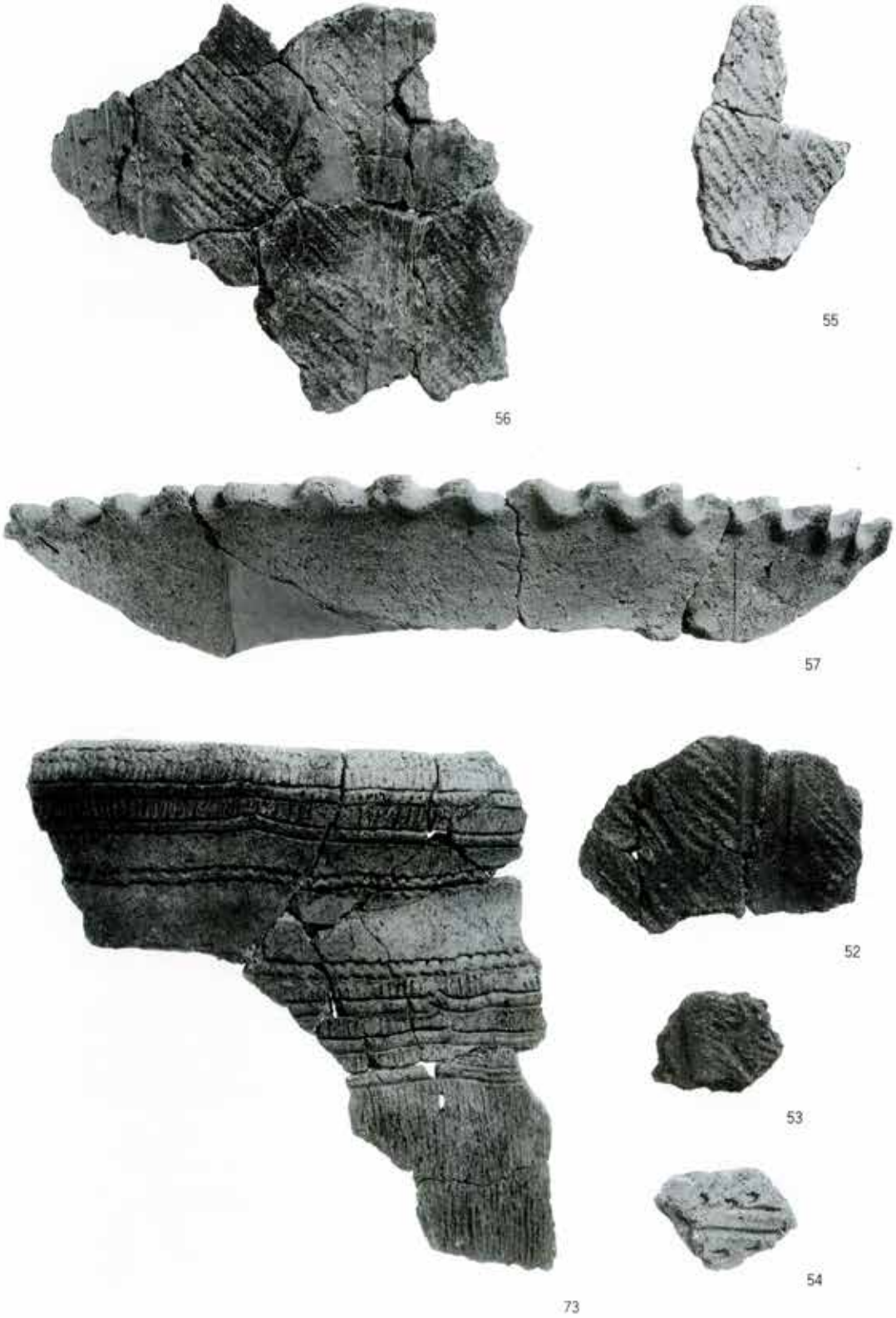
2

第2号住居跡出土土器（1）

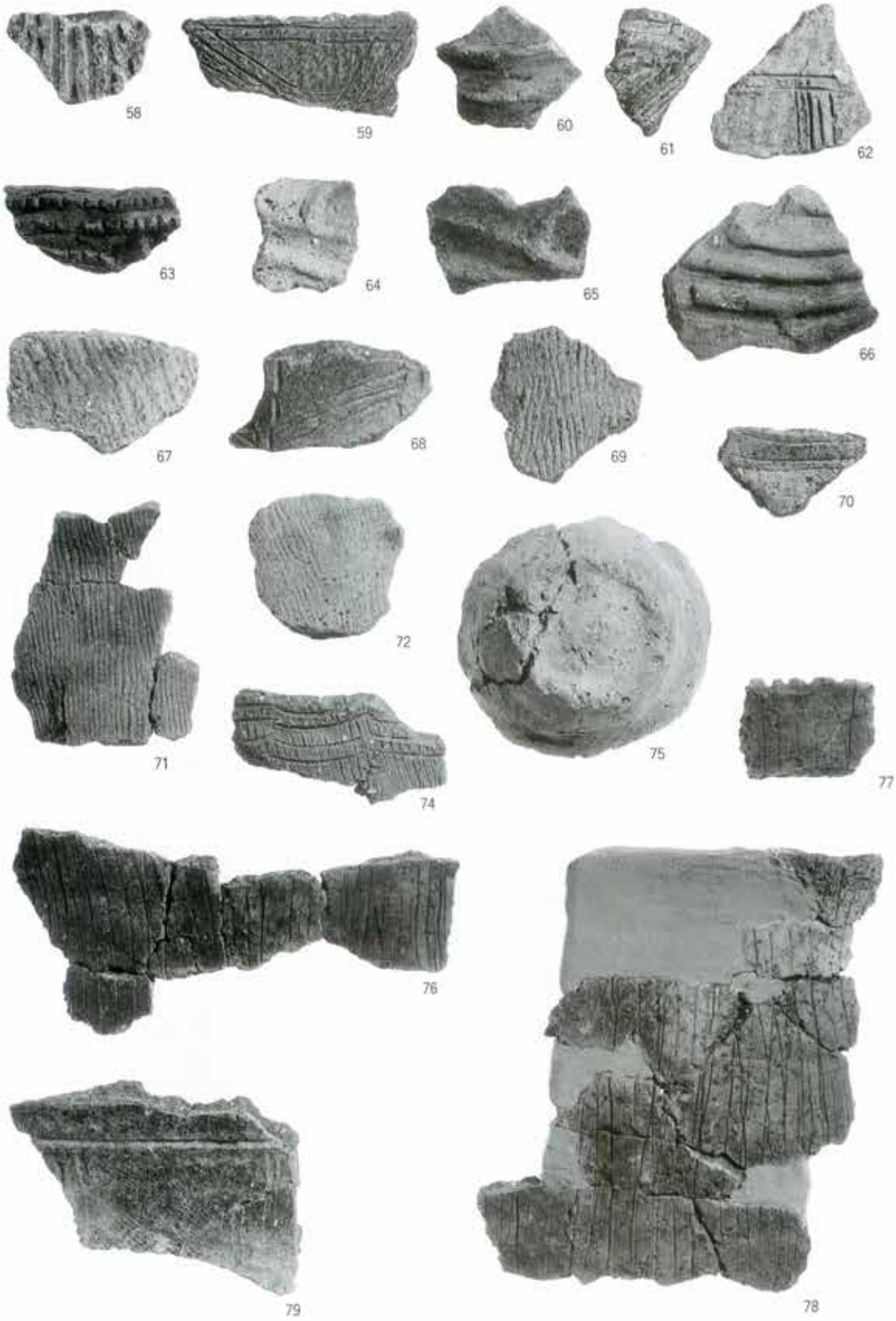
第2号住居跡出土土器（2）



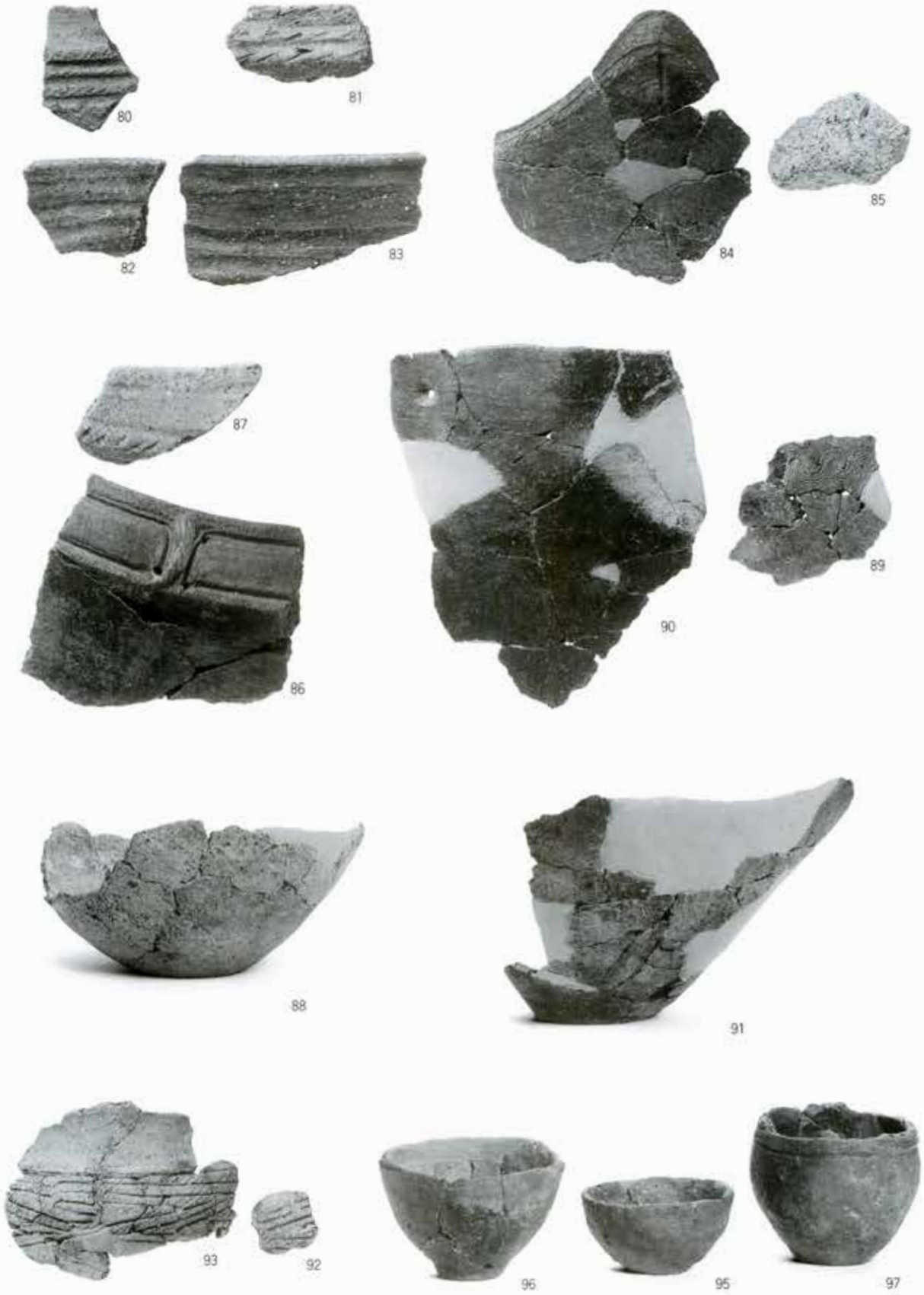
第2・3・4号住居跡出土土器



第5・6・7号住居跡出土土器



第7号住居跡出土土器



第6・11号集石遺構、第1・3土器埋設遺構、土器集中区2・3出土土器

94

98

100

103

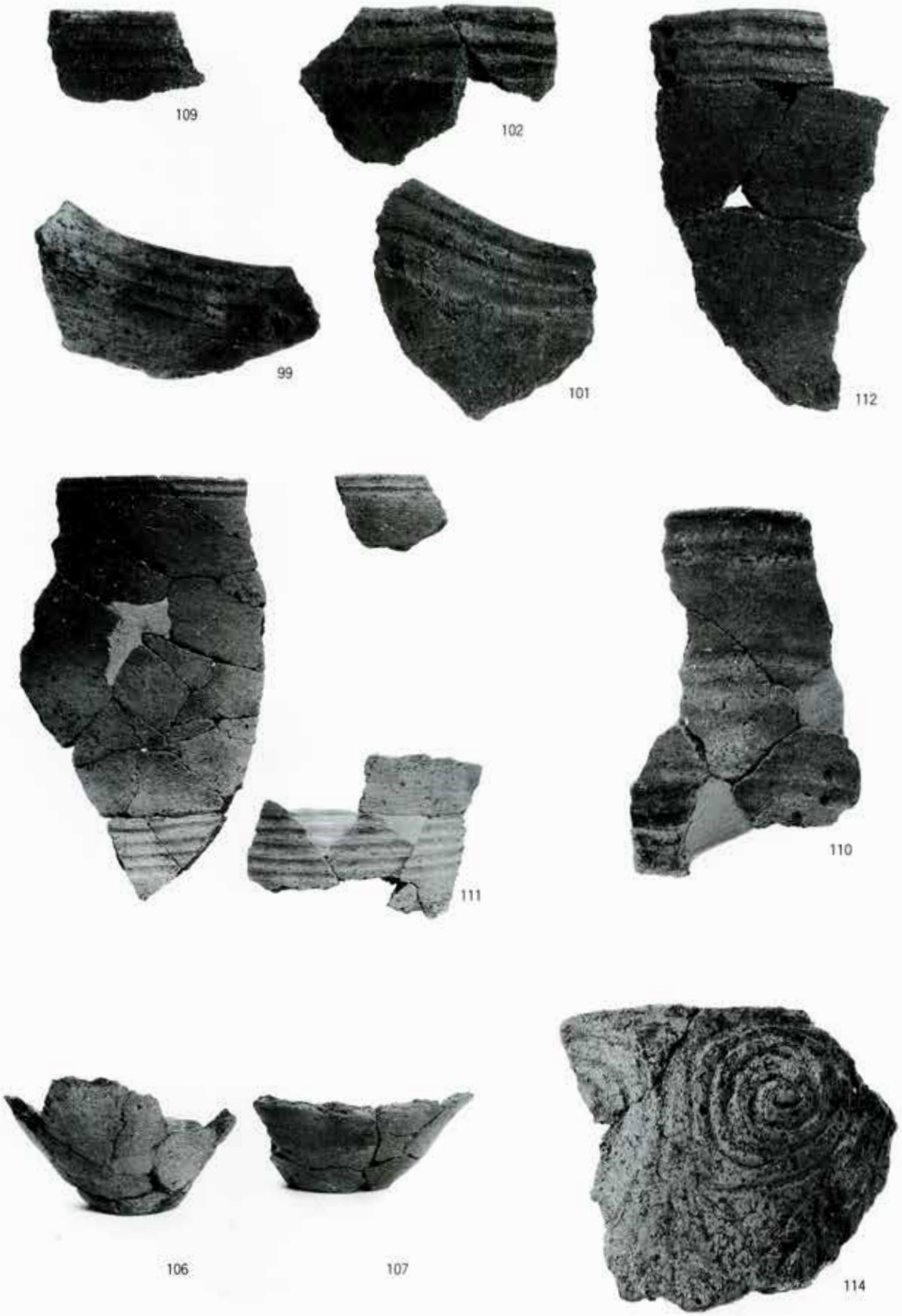
104

113

105

108

土器集中区1・4出土土器



土器集中区4・5出土土器

115

121

119

116

122

123

117

118

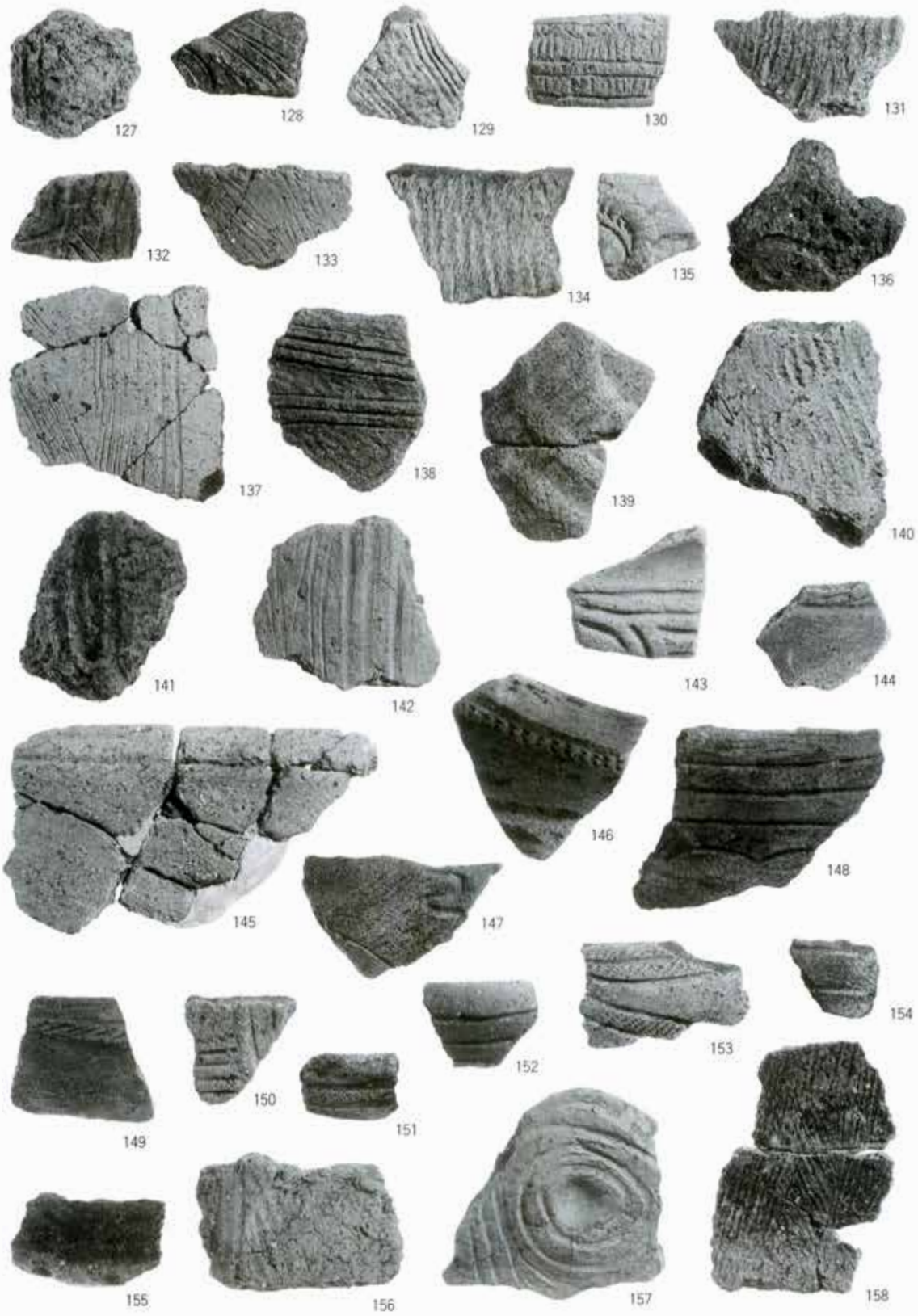
124

125

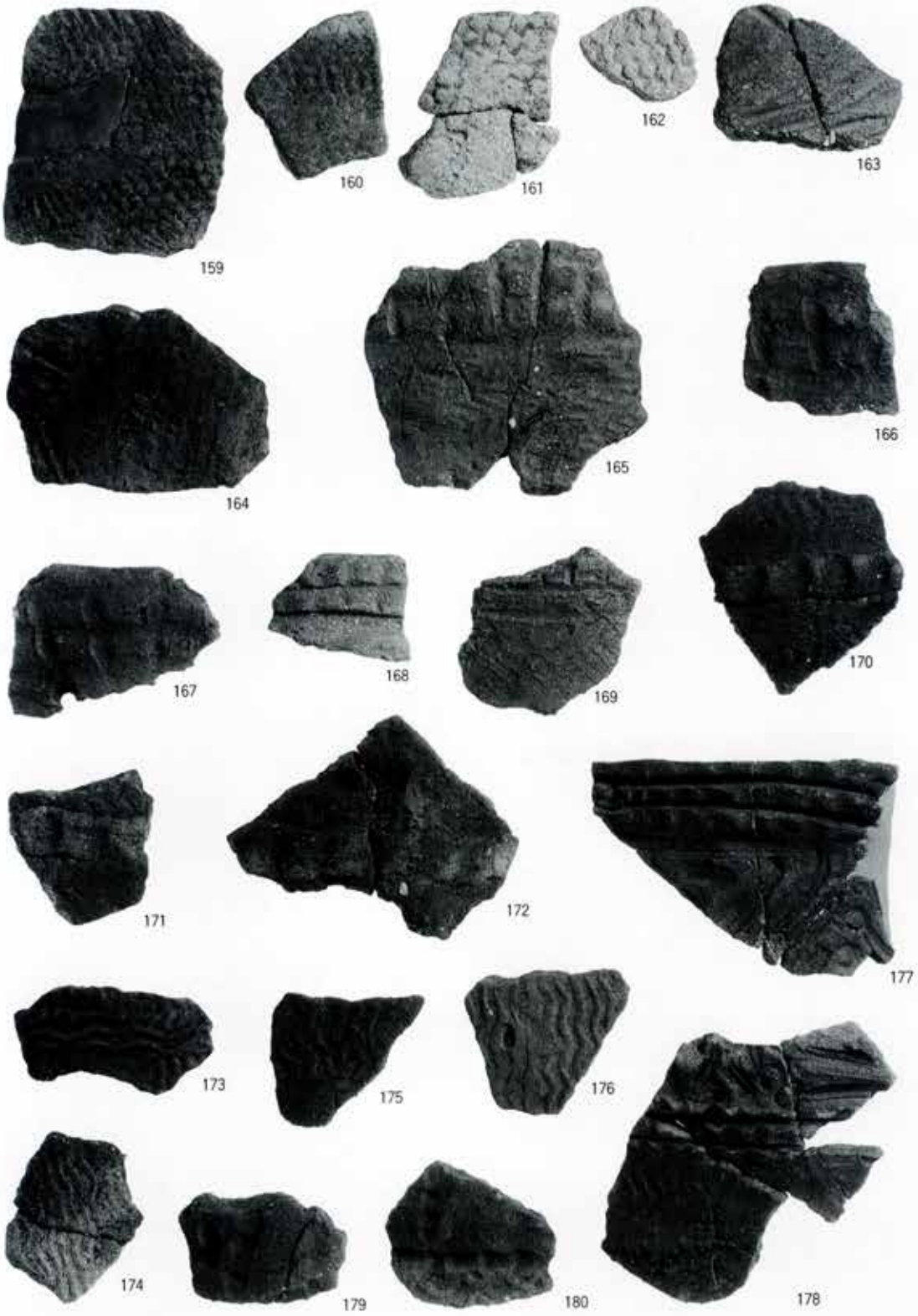
120

126

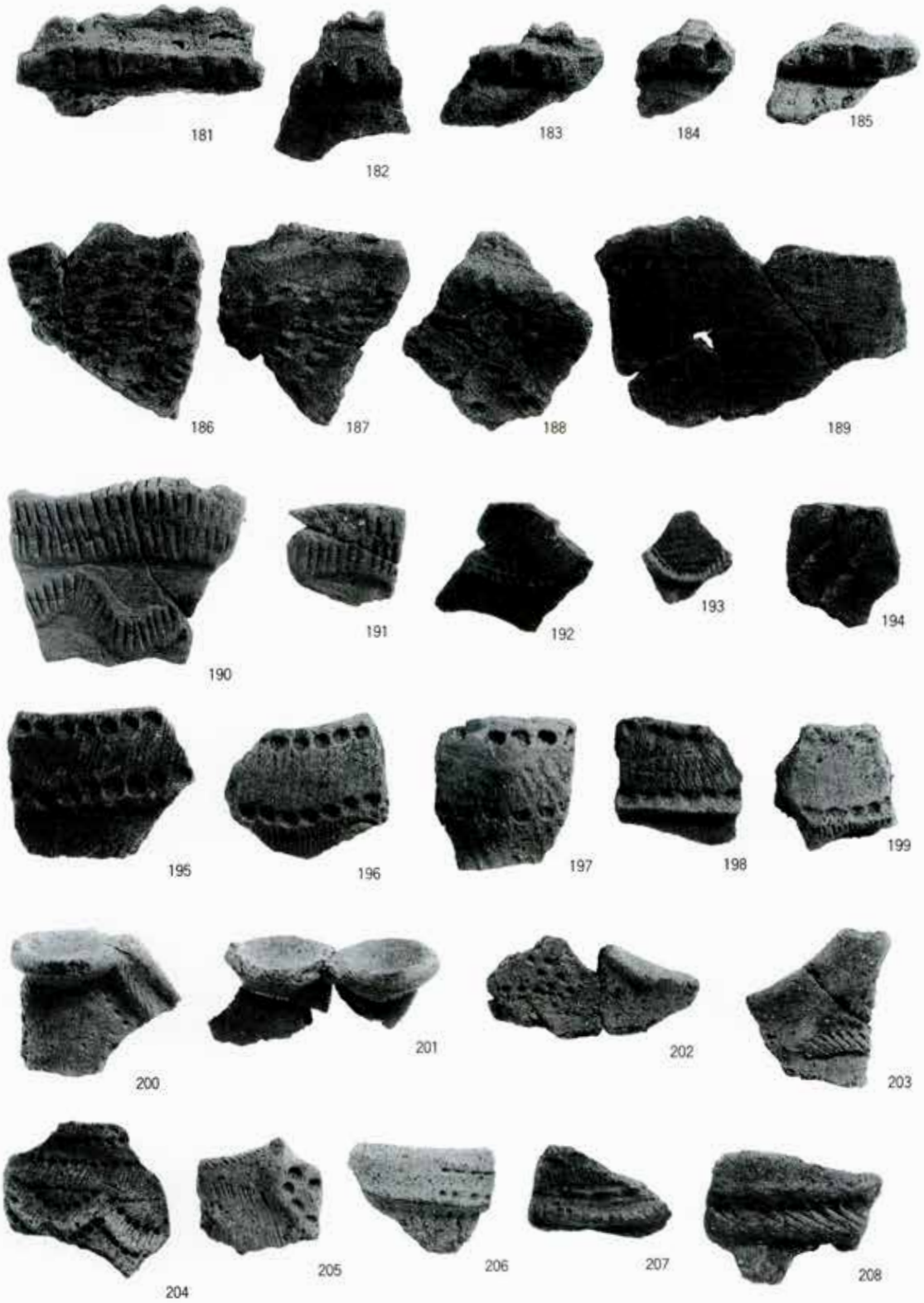
土器集中区5、第1・2号坑壙出土土器



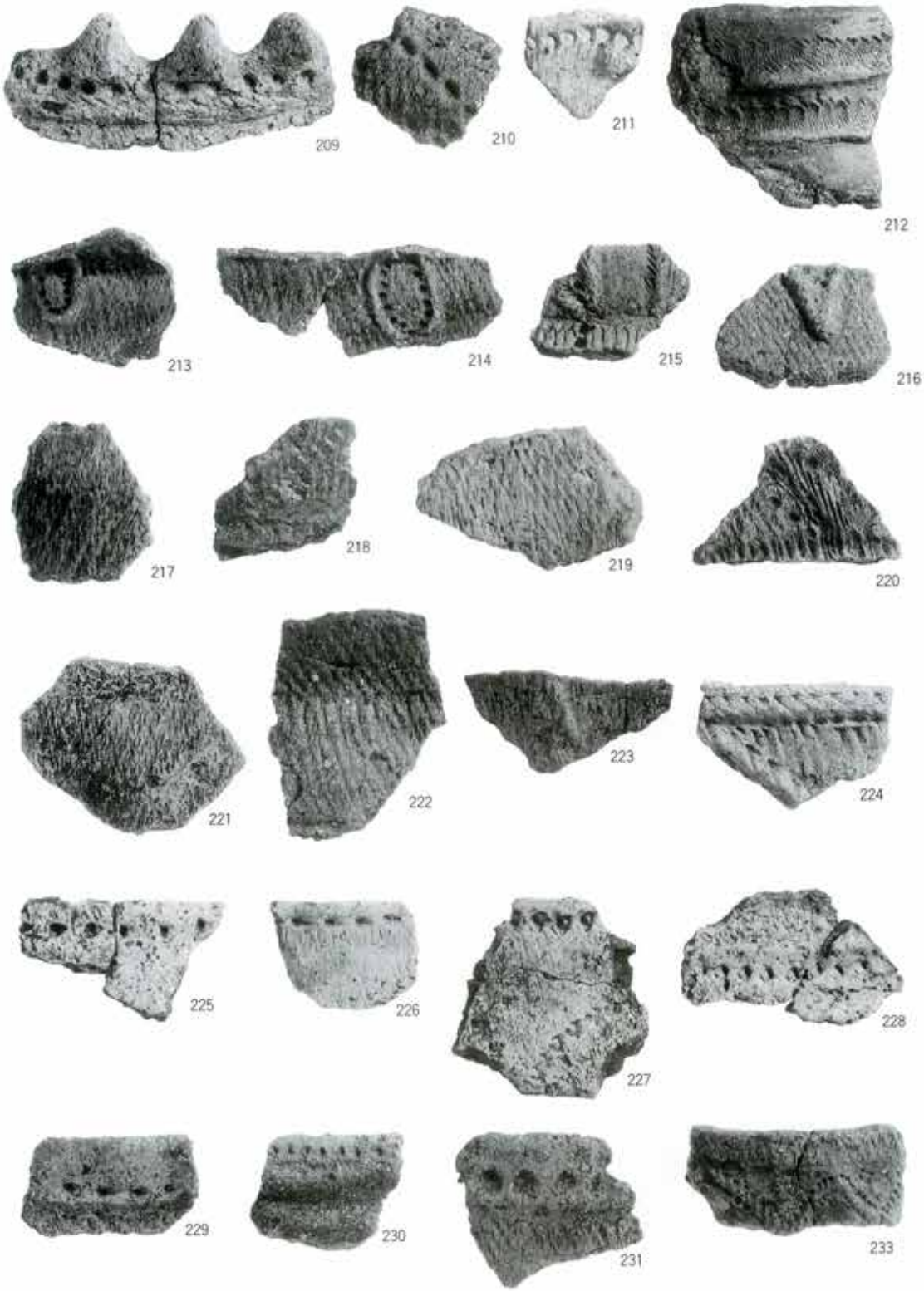
土坑・ピット状遺構出土土器


159
160
161
162
163
164
165
166
167
168
169
170
171
172
173
174
175
176
177
178
179
180

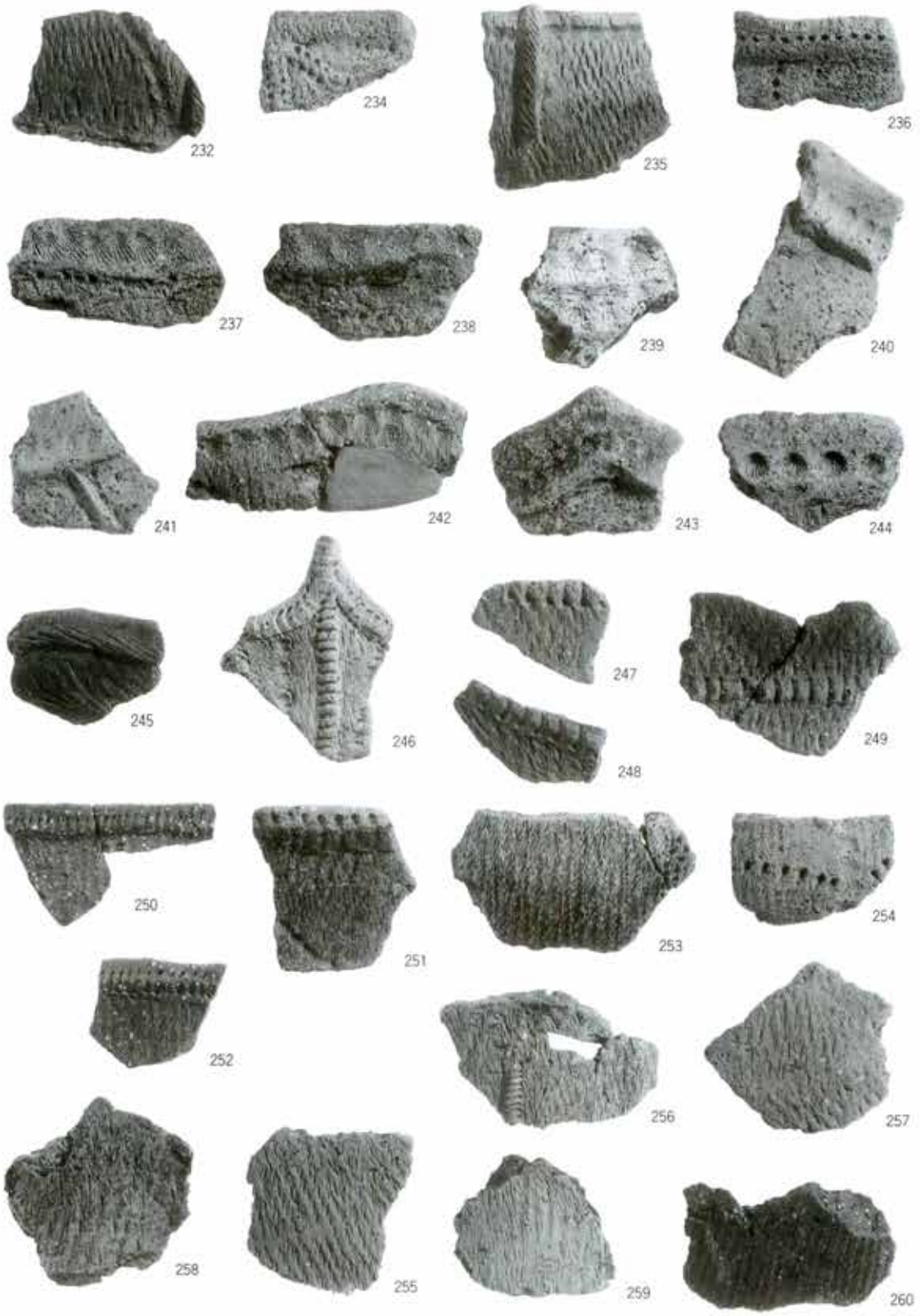
包含層出土土器　S群



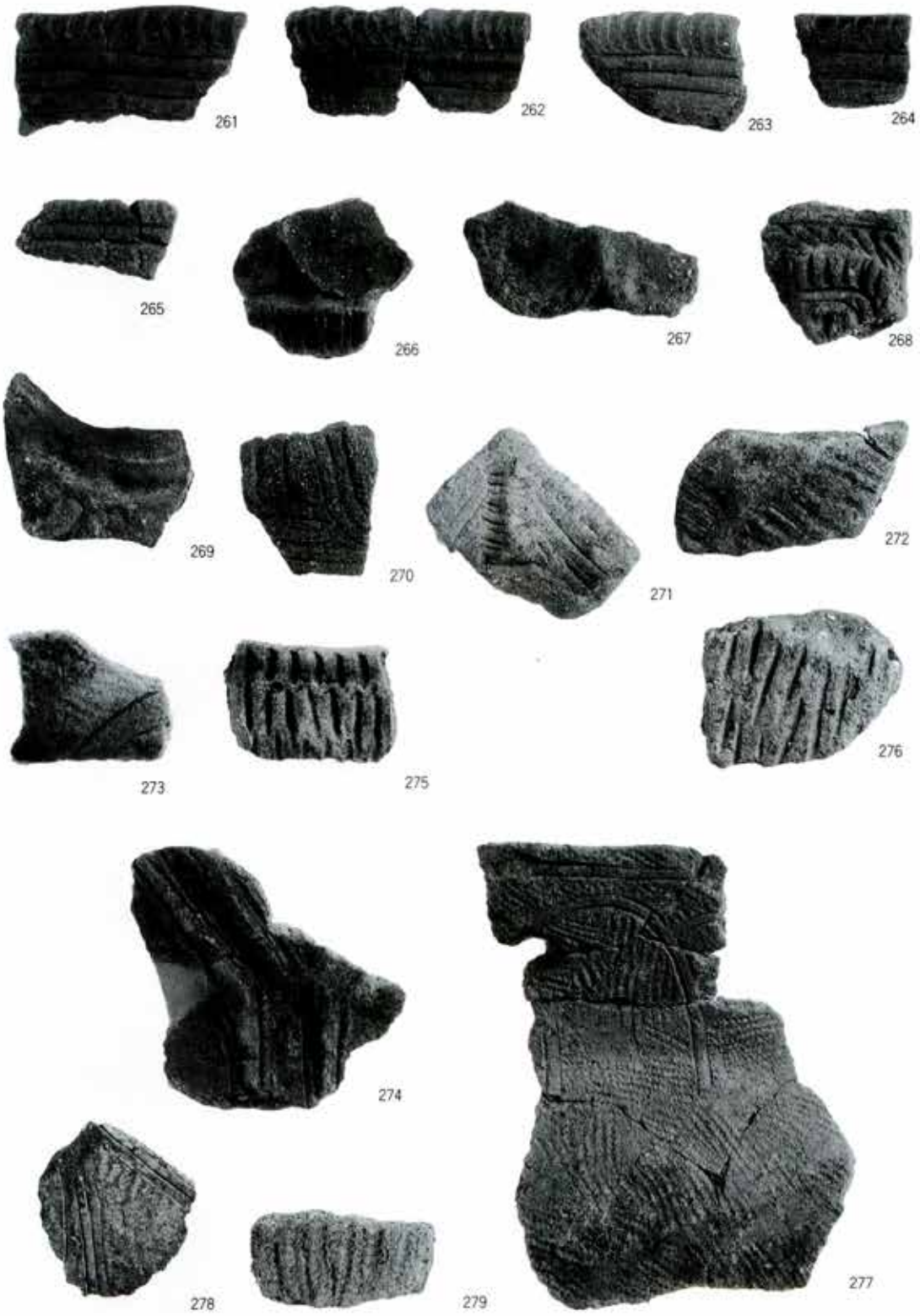
包含層出土土器　S・Z・C－1群



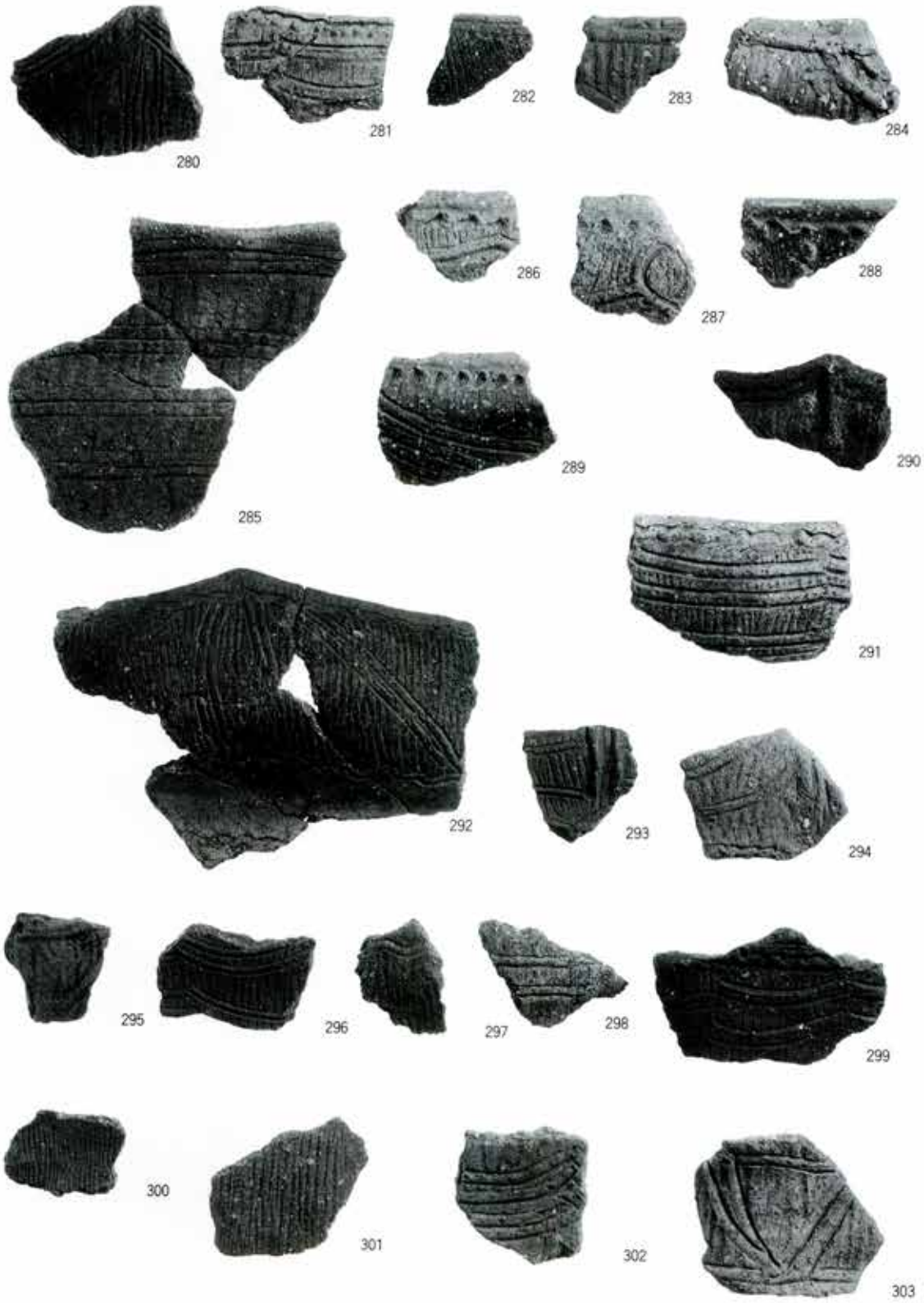
包含層出土土器　C－1・2群


232
234
235
236
237
238
239
240
241
242
243
244
245
246
247
248
249
250
251
253
254
252
256
257
258
255
259
260

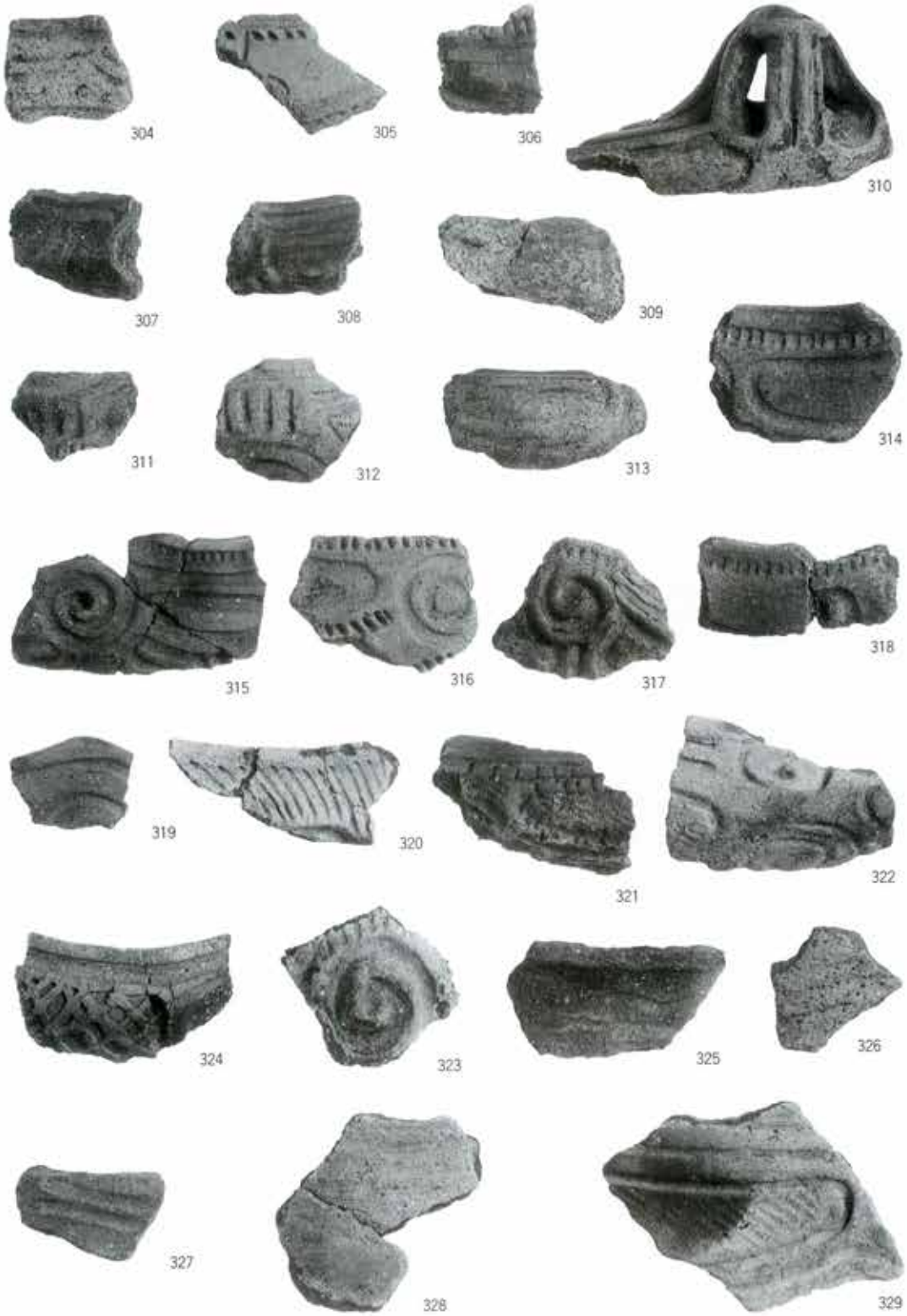
包含層出土土器　C－2群



包含層出土土器　C−3・C−4・C−5群

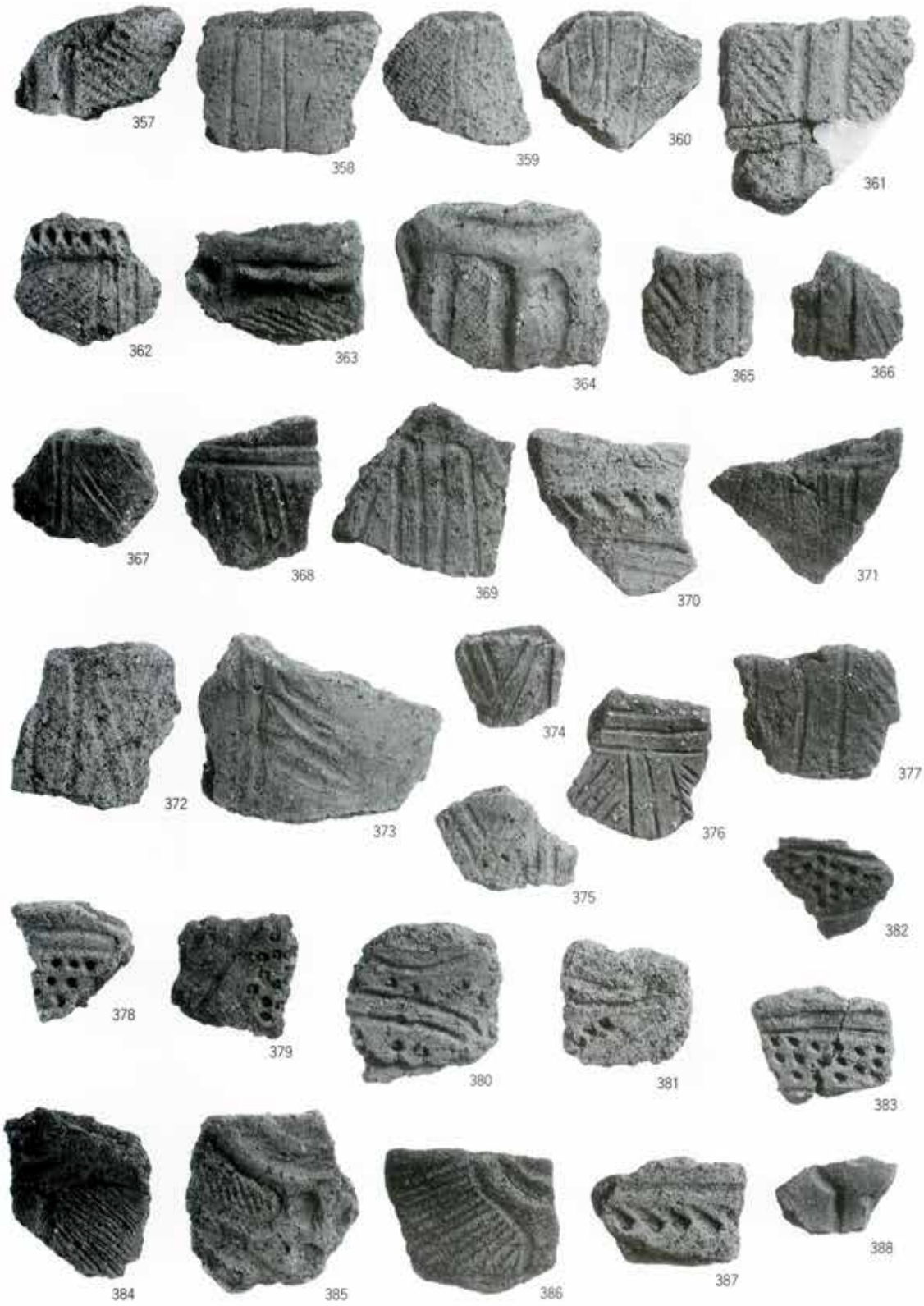

280
281
282
283
284
285
286
287
288
289
290
291
292
293
294
295
296
297
298
299
300
301
302
303

包含層出土土器　C－6群

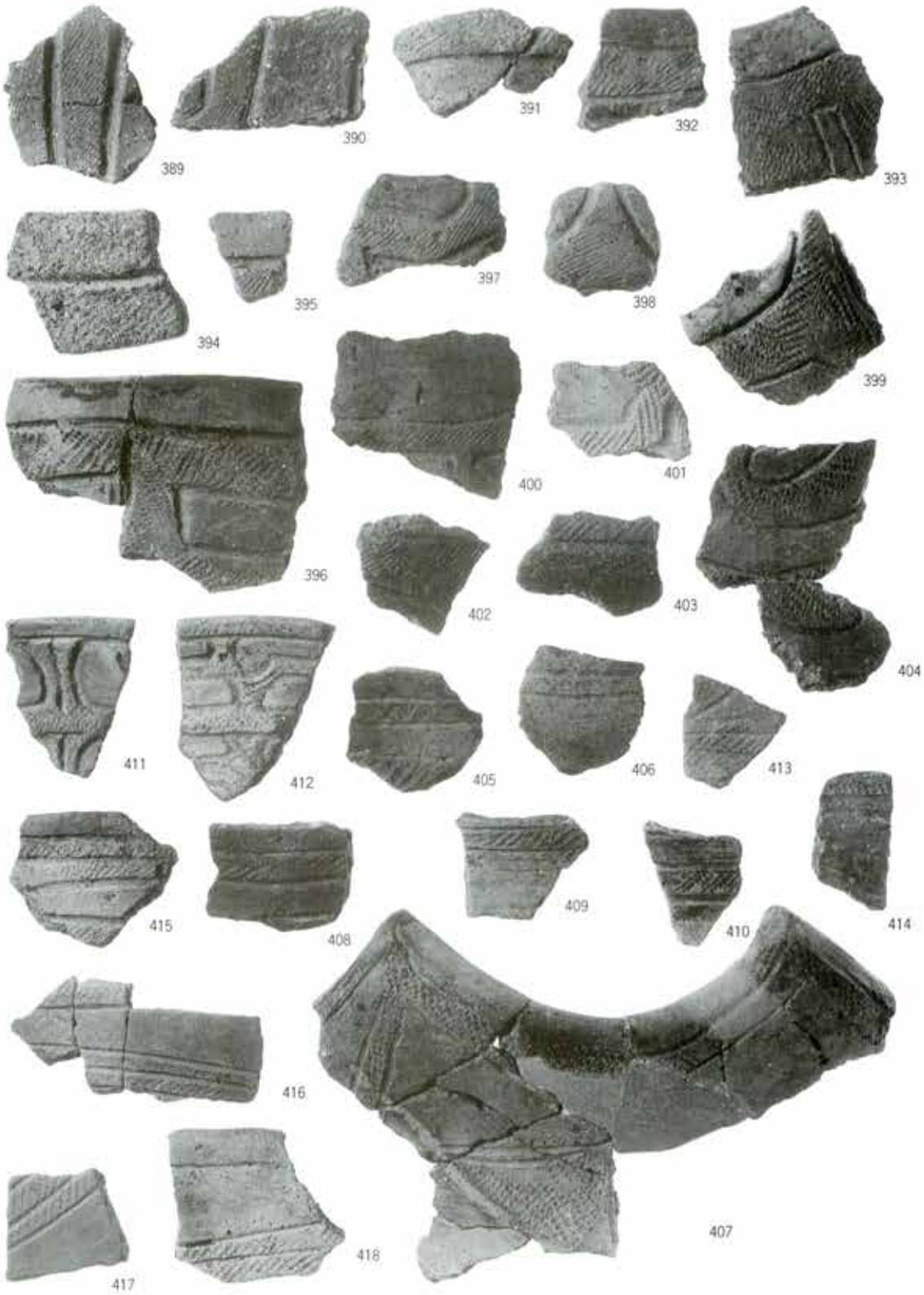

304
305
306
310
307
308
309
311
312
313
314
315
316
317
318
319
320
321
322
324
323
325
326
327
328
329

包含層出土土器　C－7群

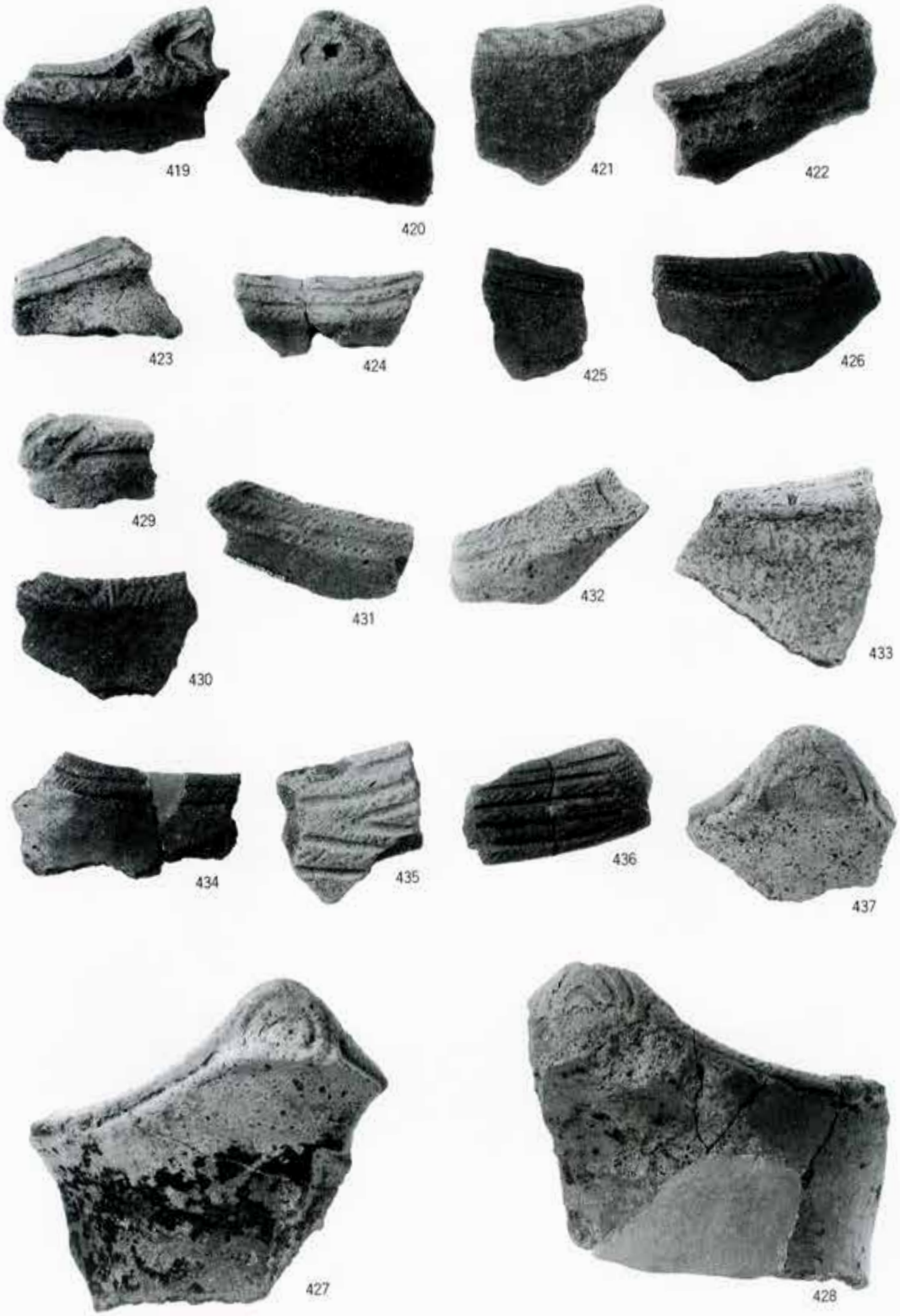
包含層出土土器　C－8群（1）



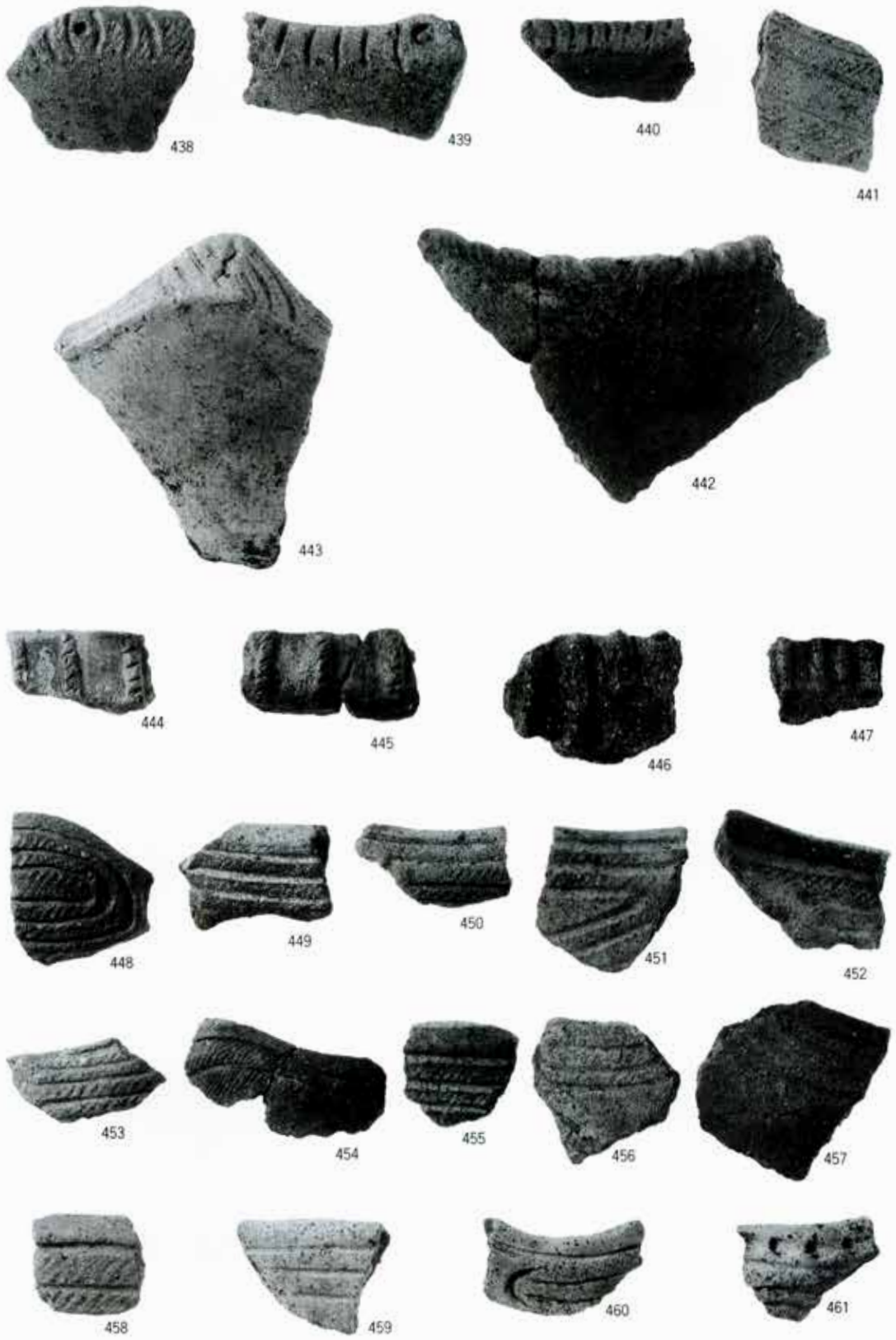
包含層出土土器　C－8群（2）



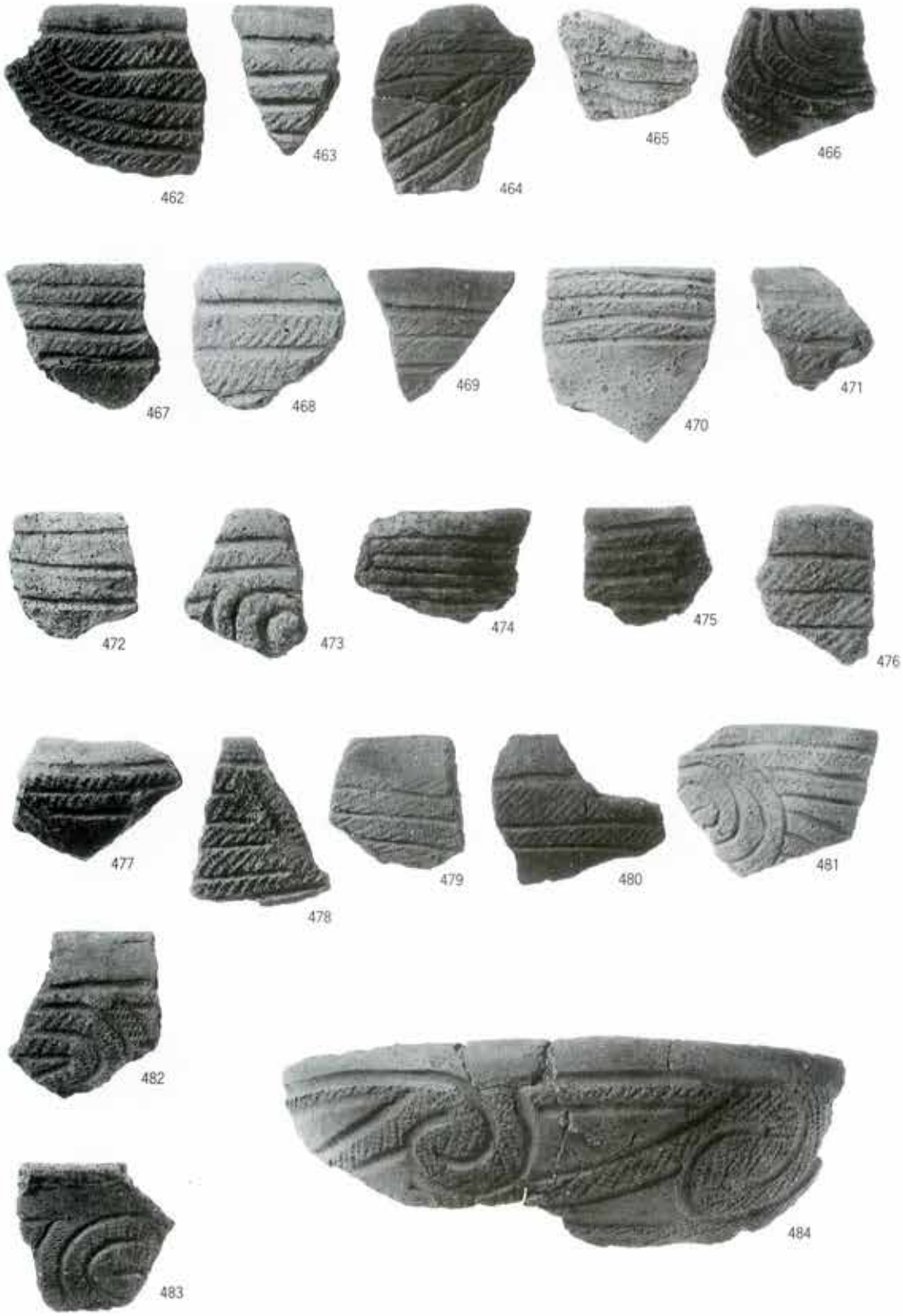
包含層出土土器　K－1・K－2群



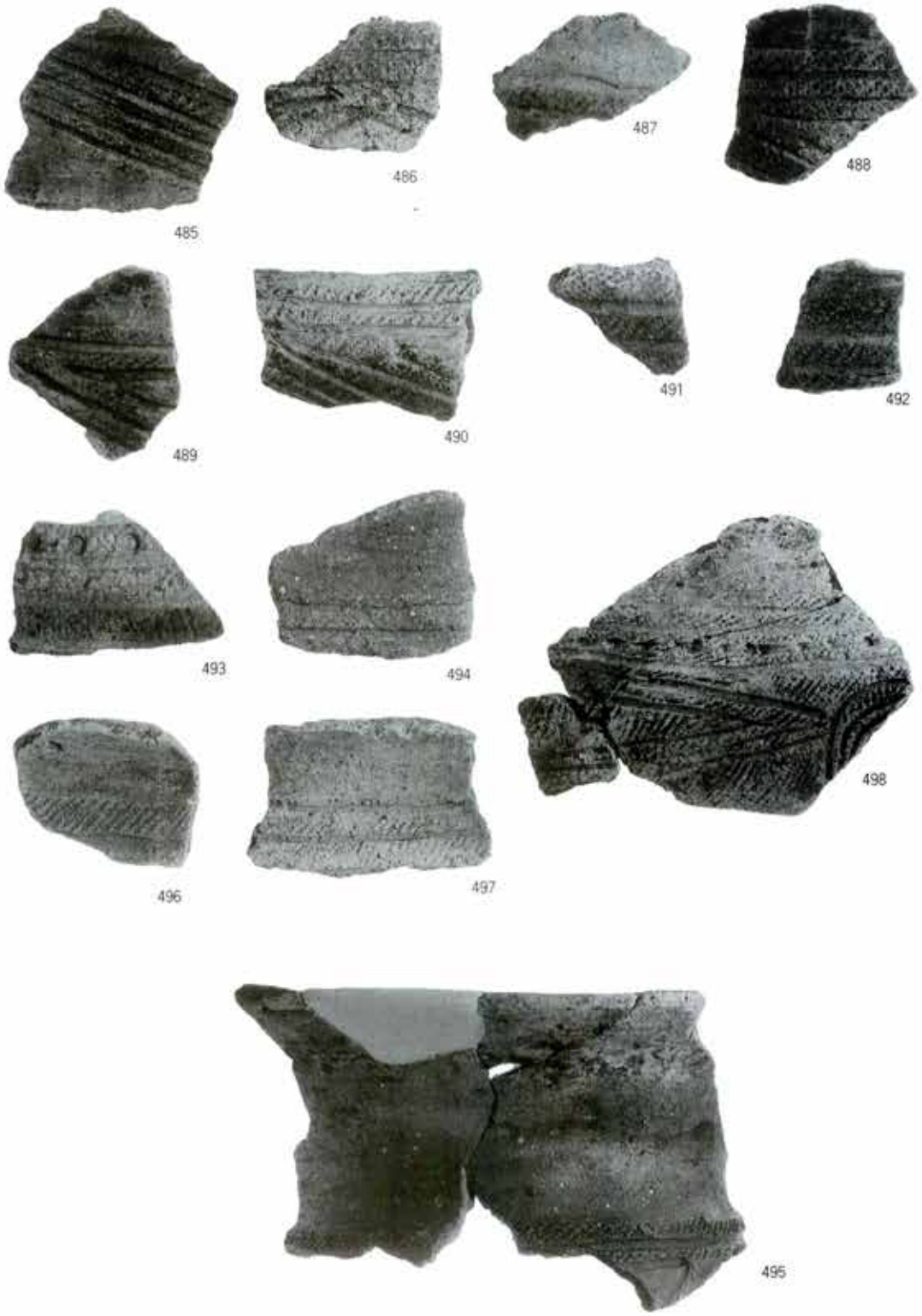
包含層出土土器　K−3・K−4群



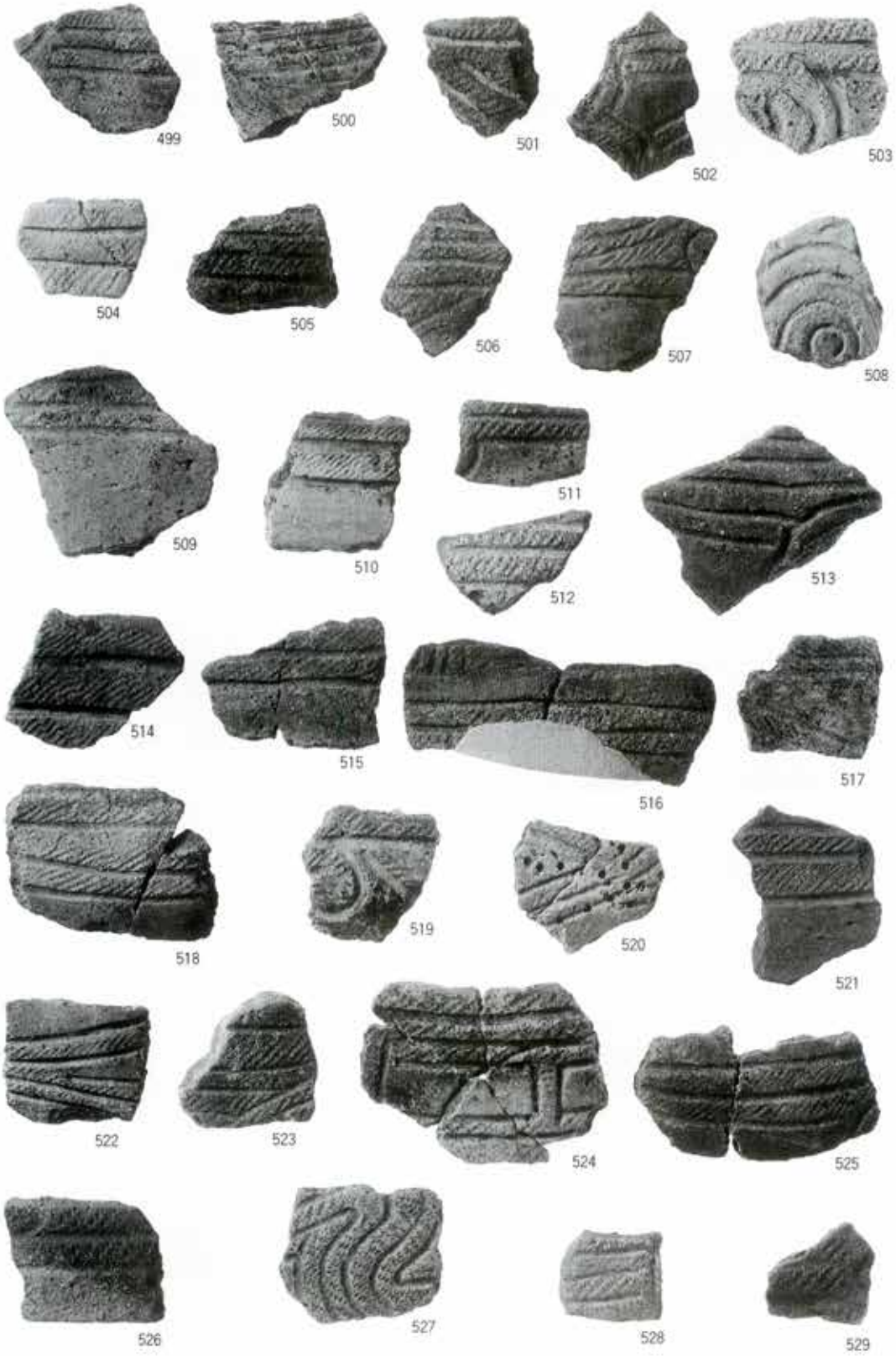
包含層出土土器　K－4群（2）



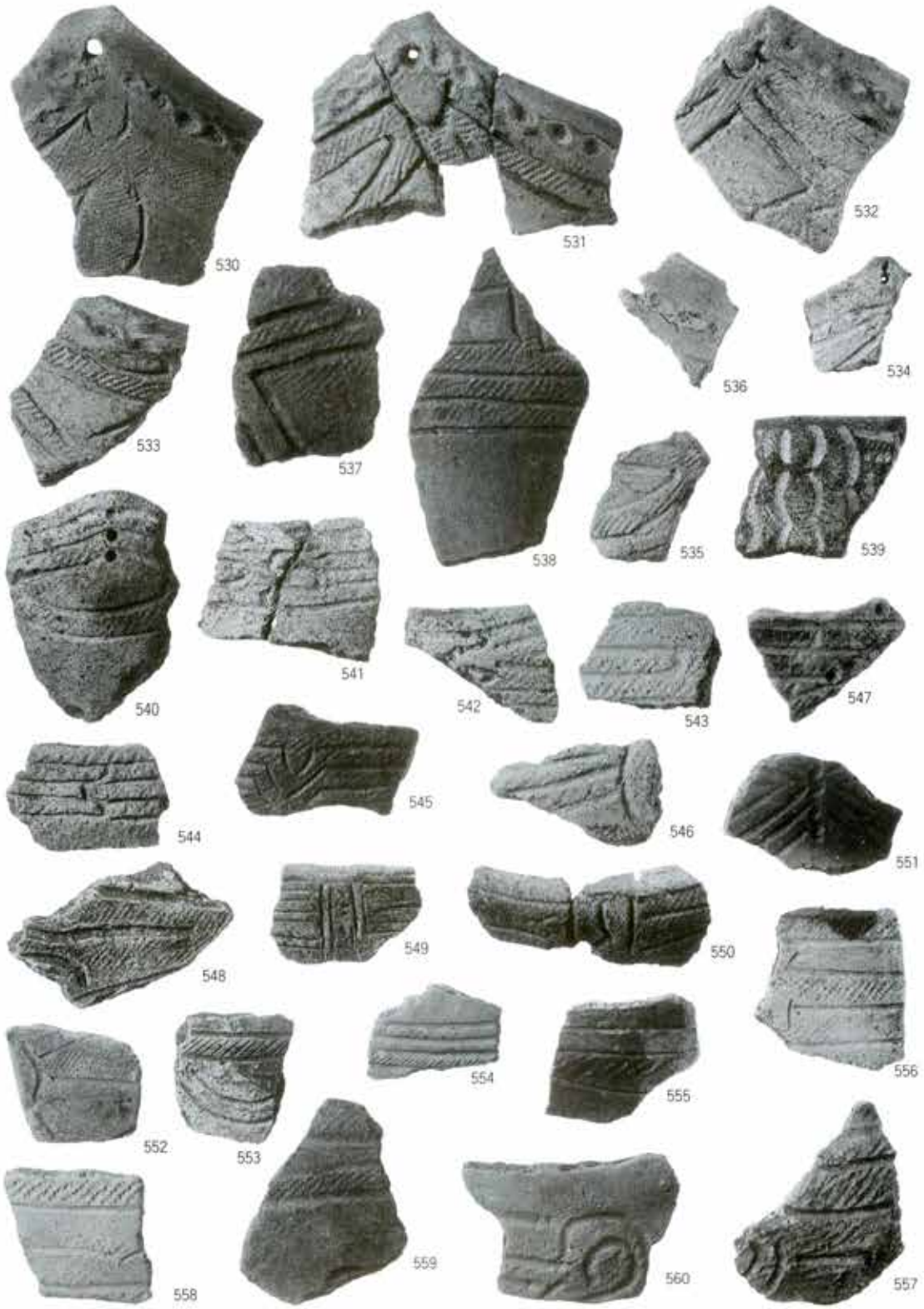
包含層出土土器　K－4群（3）



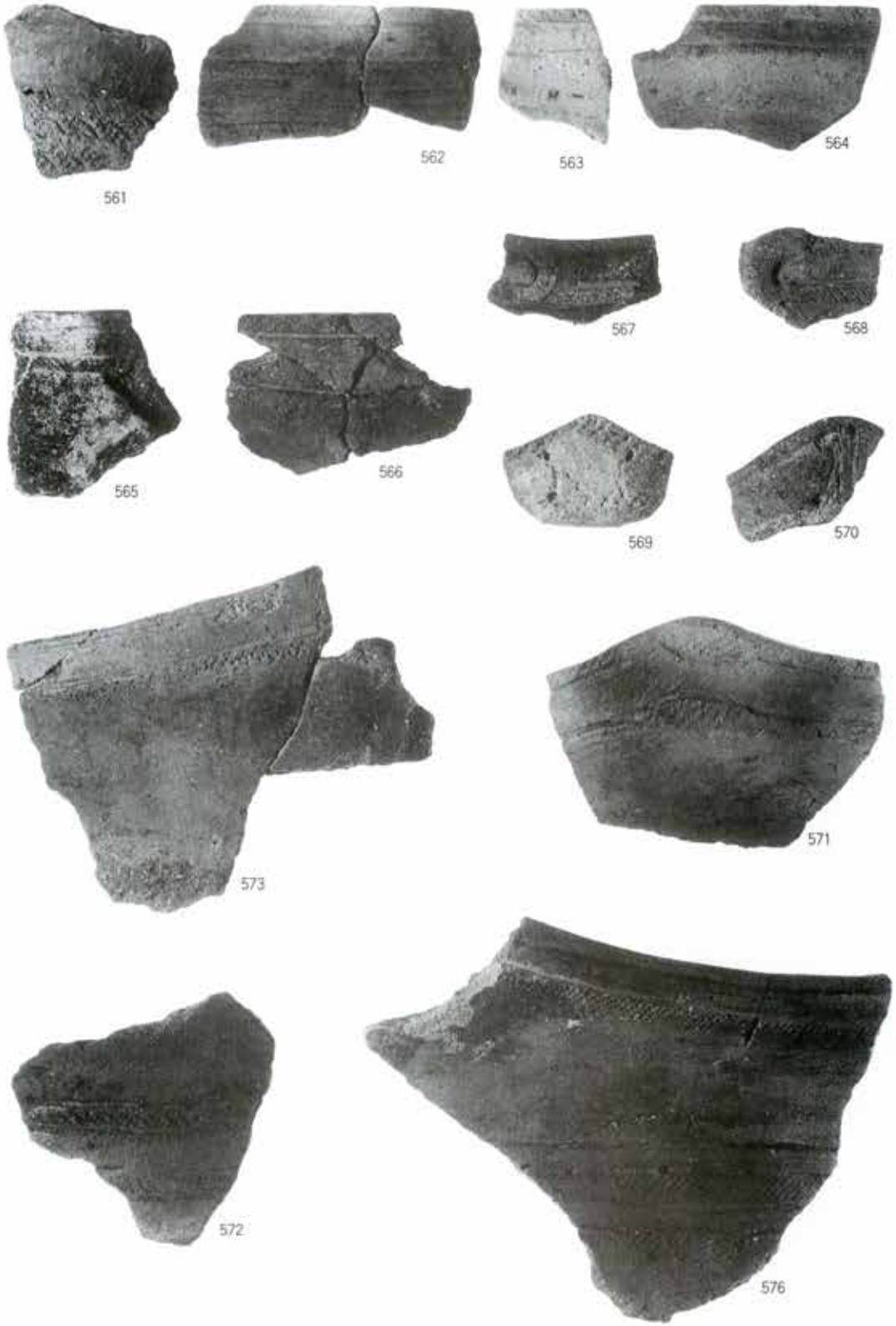
包含層出土土器　K－4群（4）



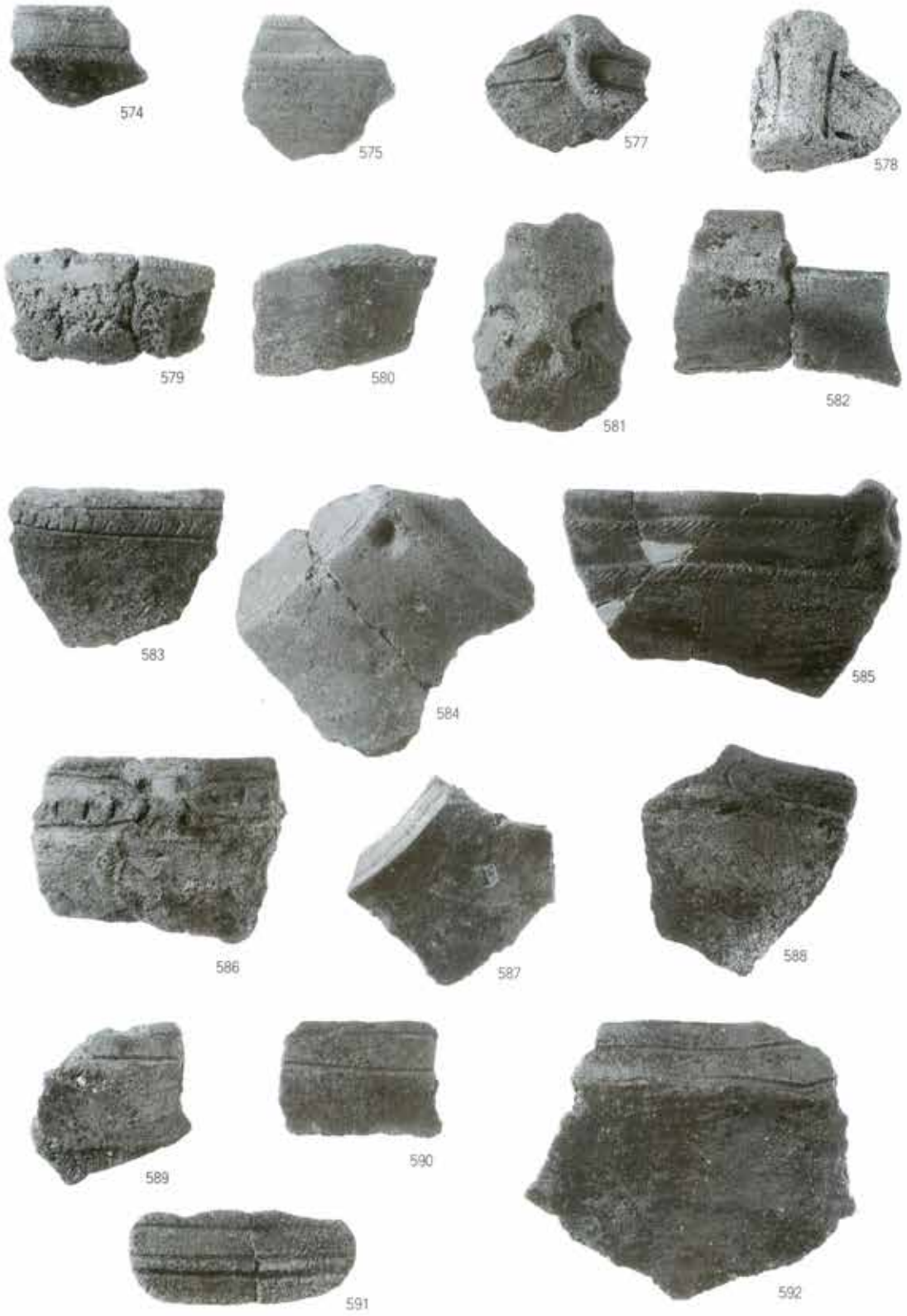
包含層出土土器　K－4群（5）



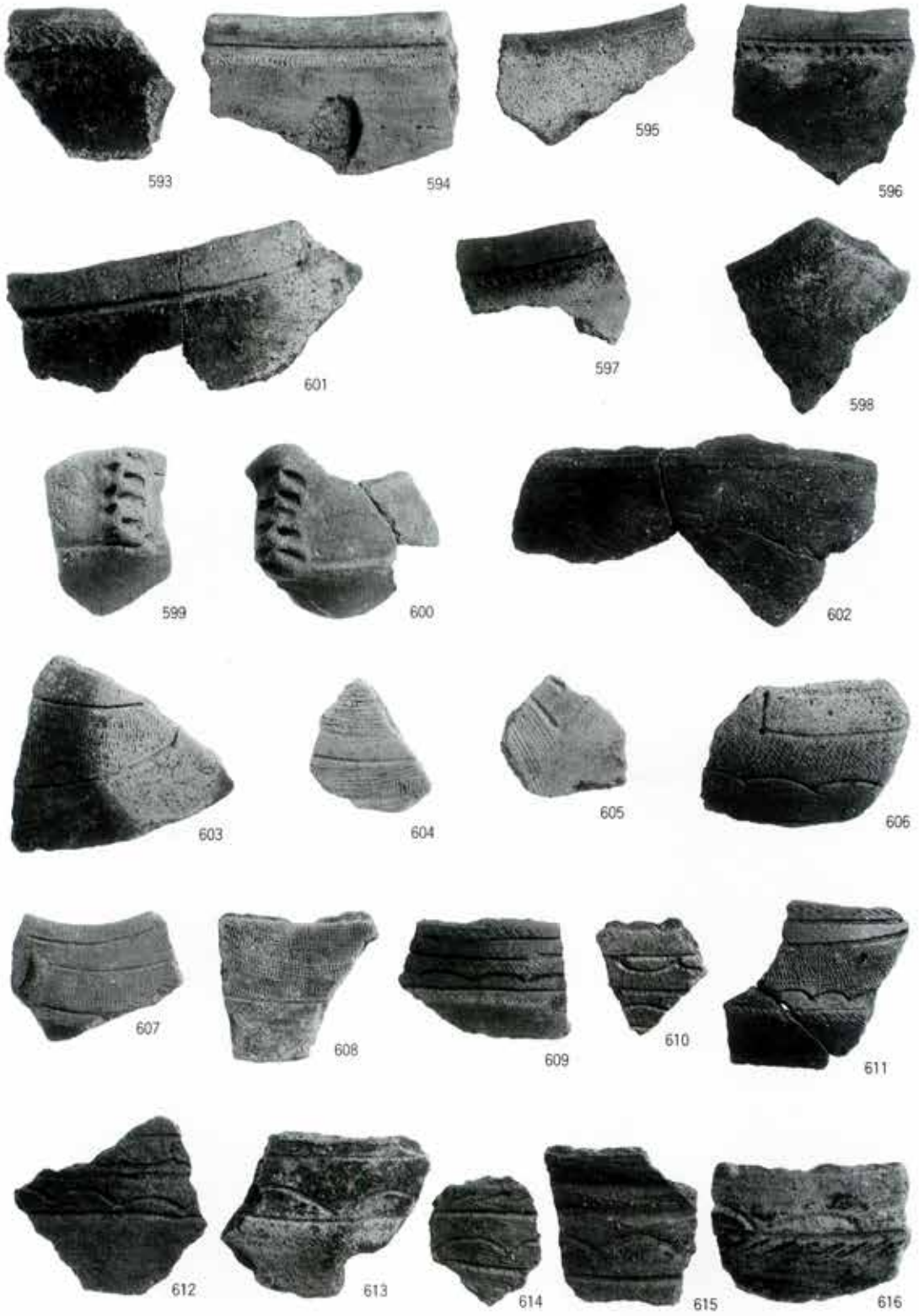
包含層出土土器　K－5・K－6群



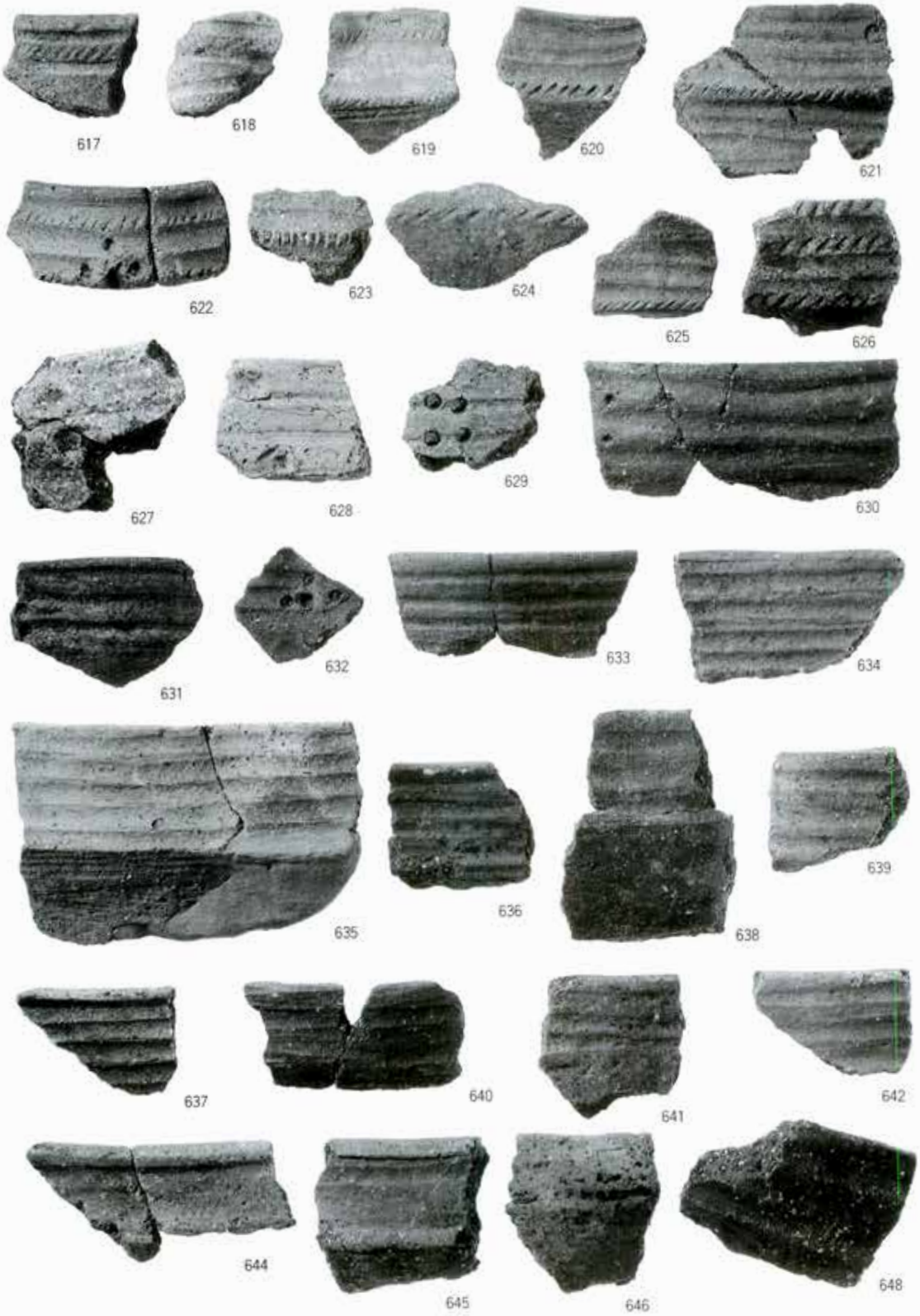
包含層出土土器　K－7群（1）



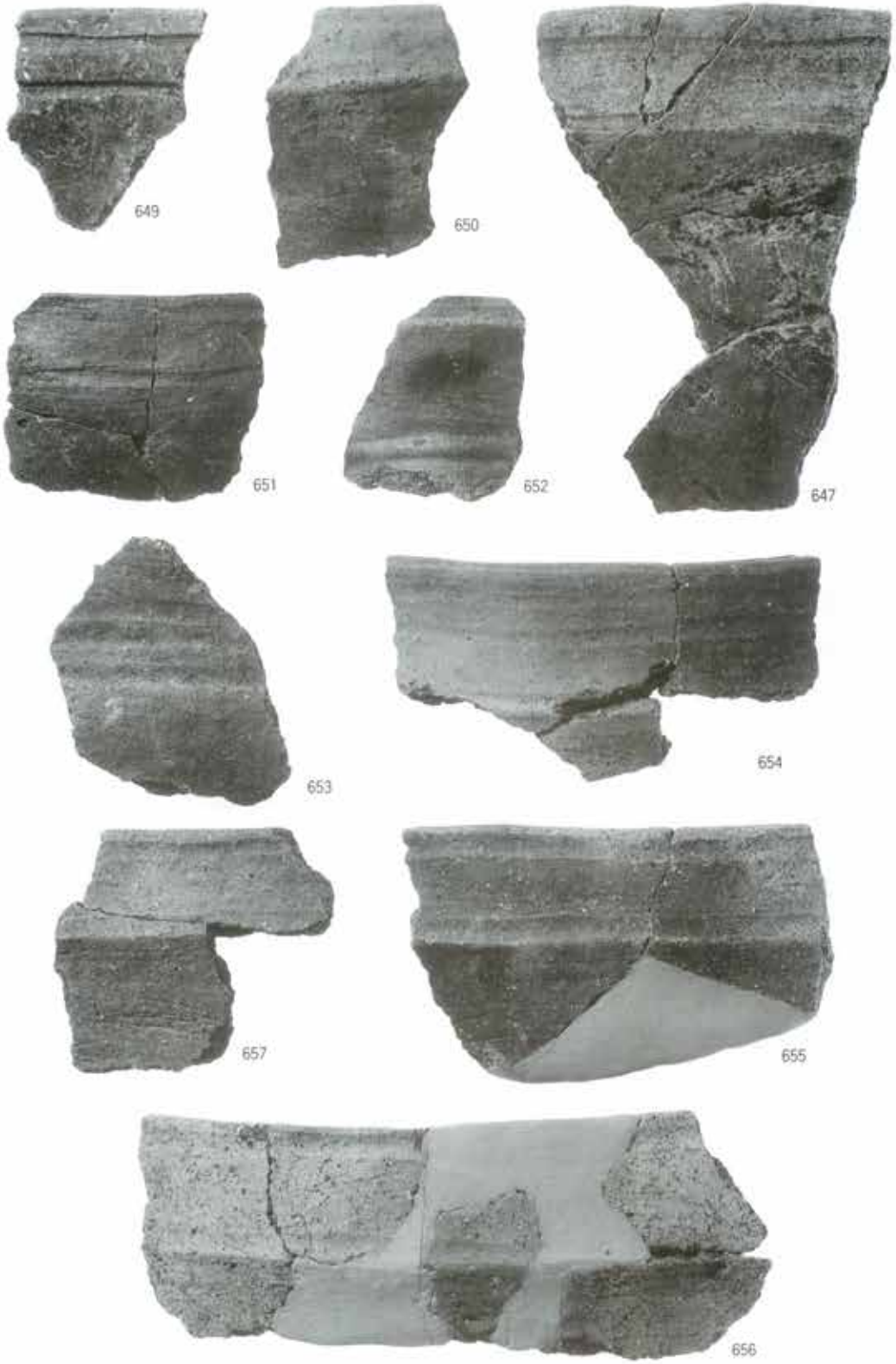
包含層出土土器　K－7群（2）



包含層出土土器　K－7群（3）



包含層出土土器　K－8群（1）



包含層出土土器　K－8群（2）

658

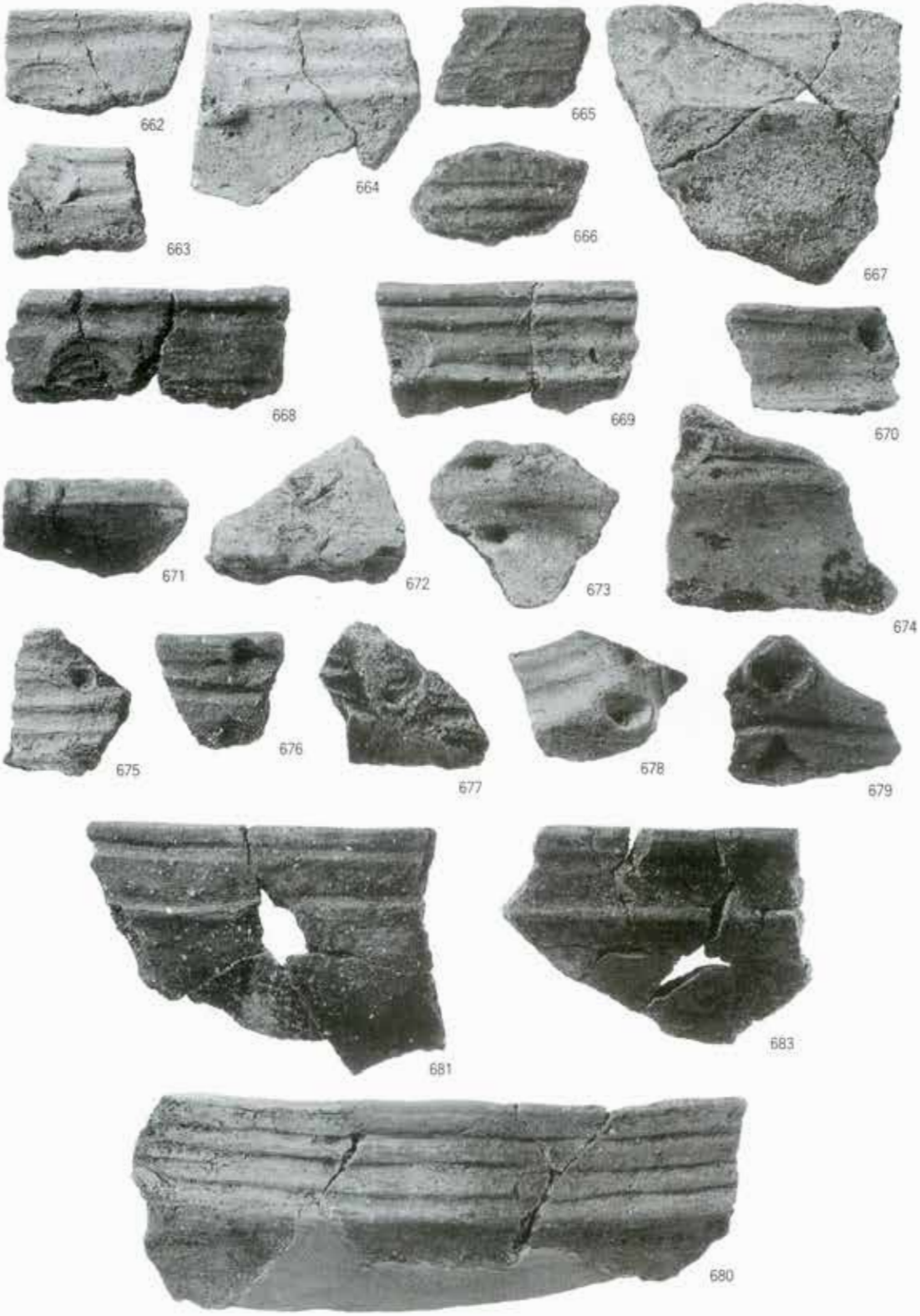
659

660

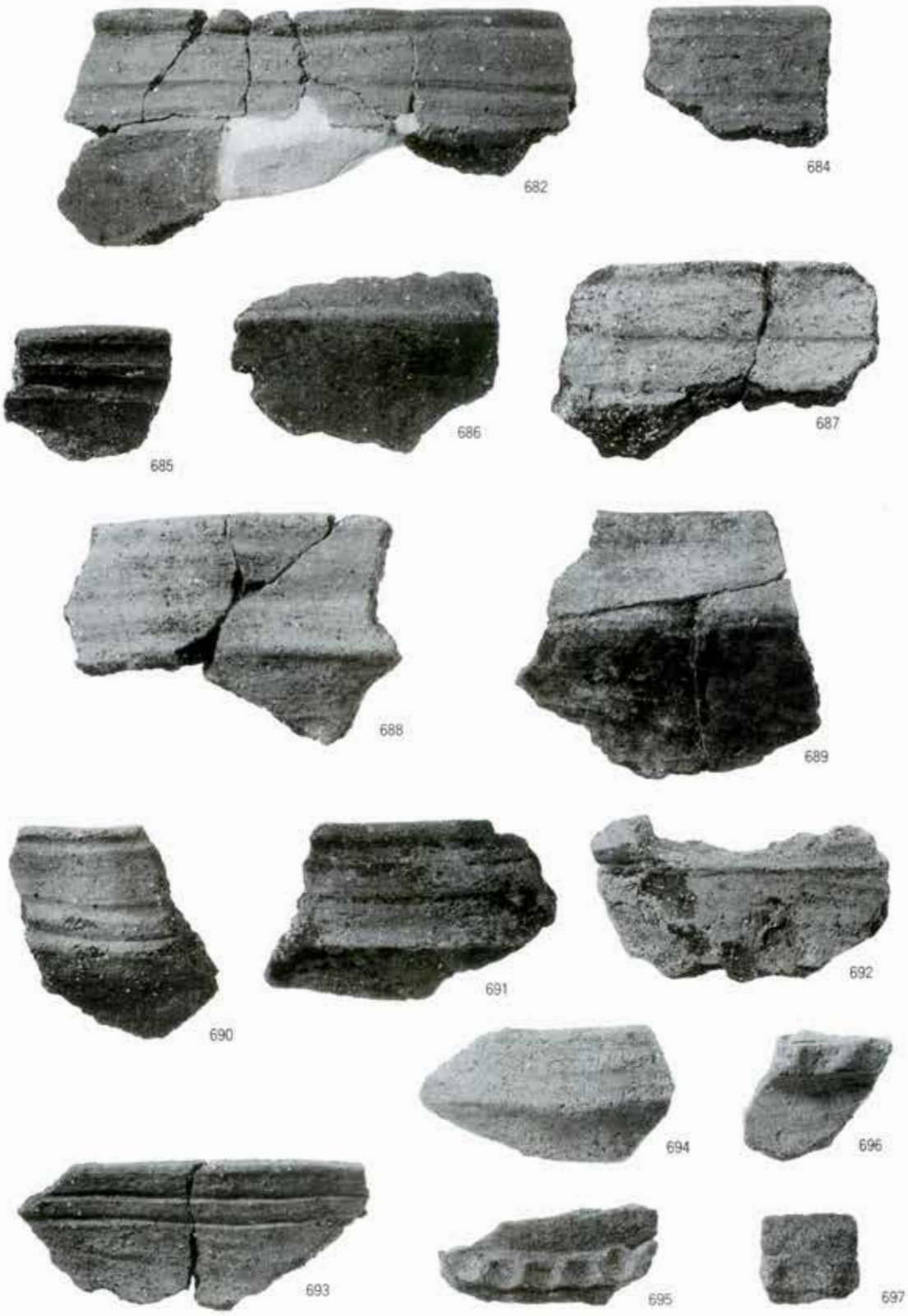
661

643

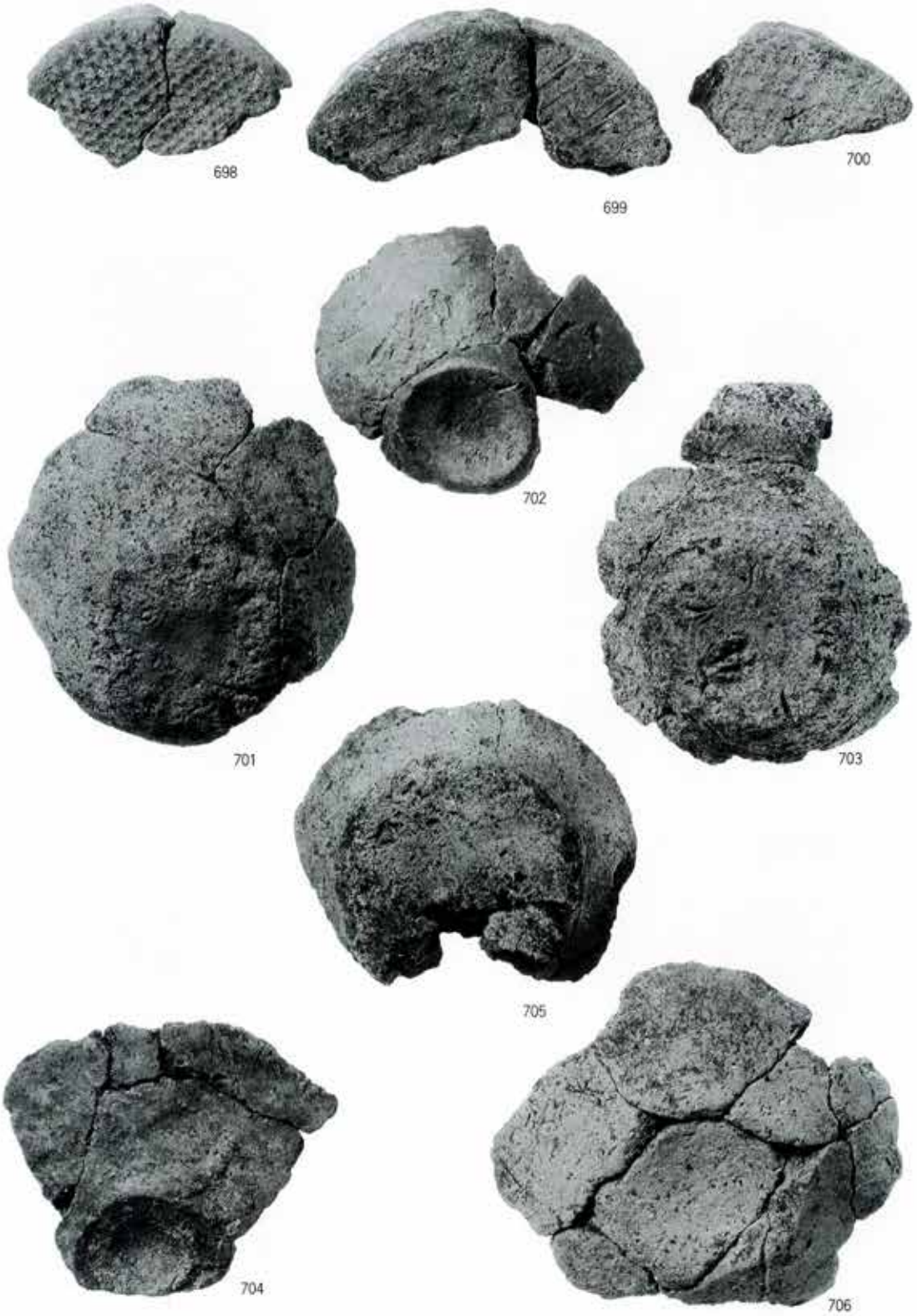
包含層出土土器　K－8群（3）



包含層出土土器　K−8群（4）



包含層出土土器　K－8群・B群



包含層出土土器　底部

707

708

709

710

711

712

713

712

713

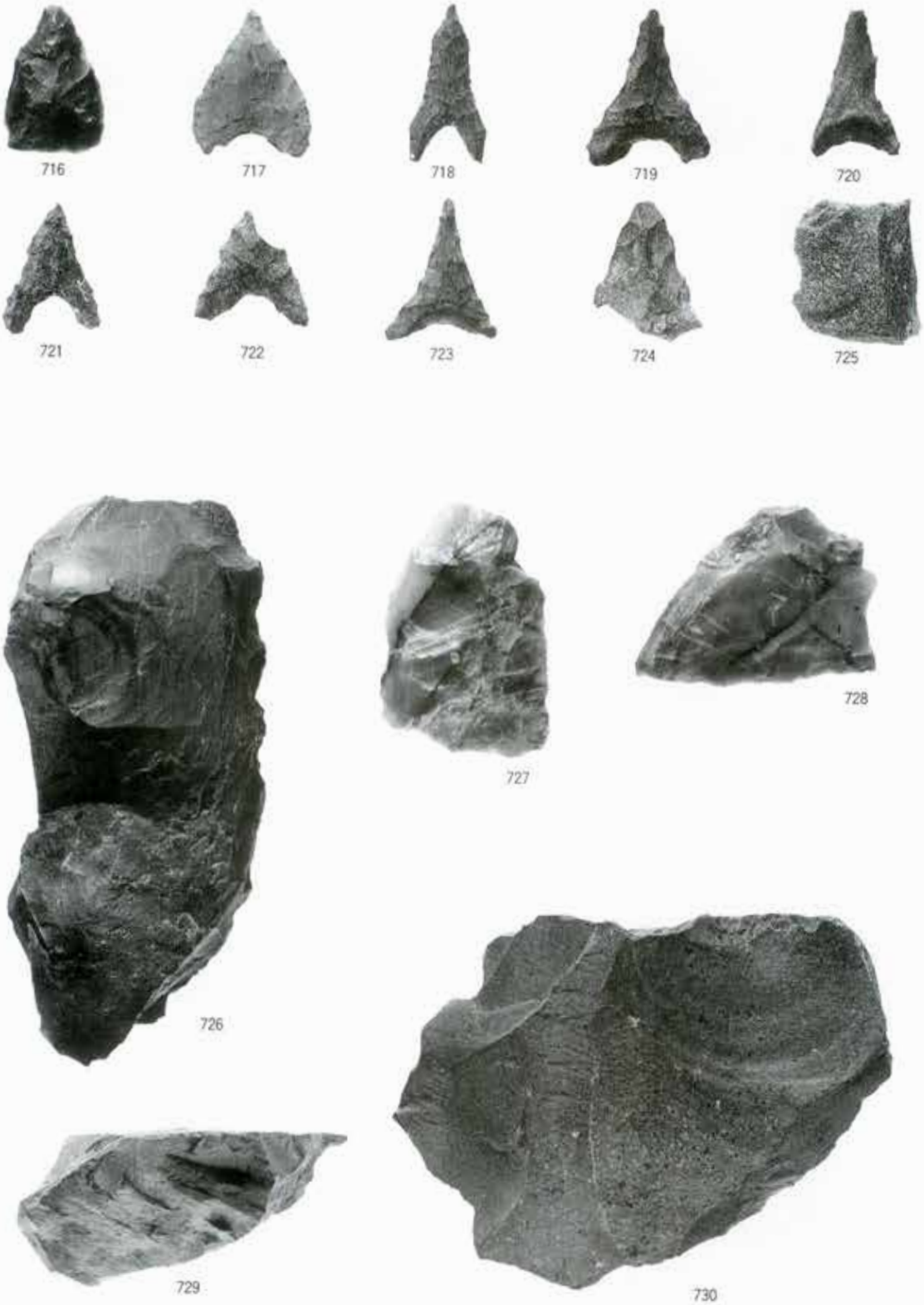
712

713

714

715

包含層出土土製品（注口部・土偶・鉢）



遺構出土石器　石鏃・ピエス・エスキーユ・掻器・削器・石核

731

732

733

734

735

736

737

738

739

740

741

742

743

遺構出土石器　打欠石錘・切目石錘

745

744

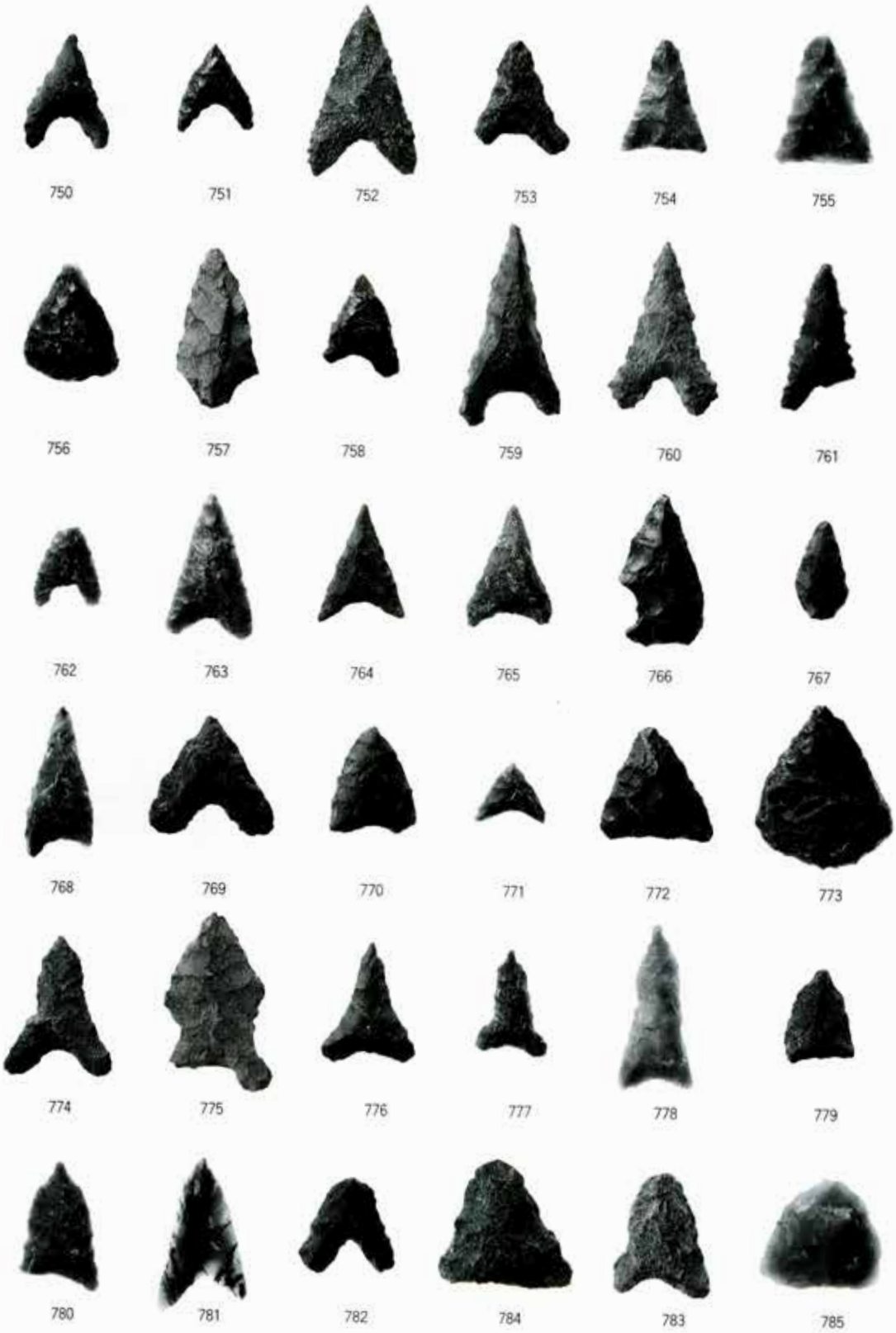
746

747

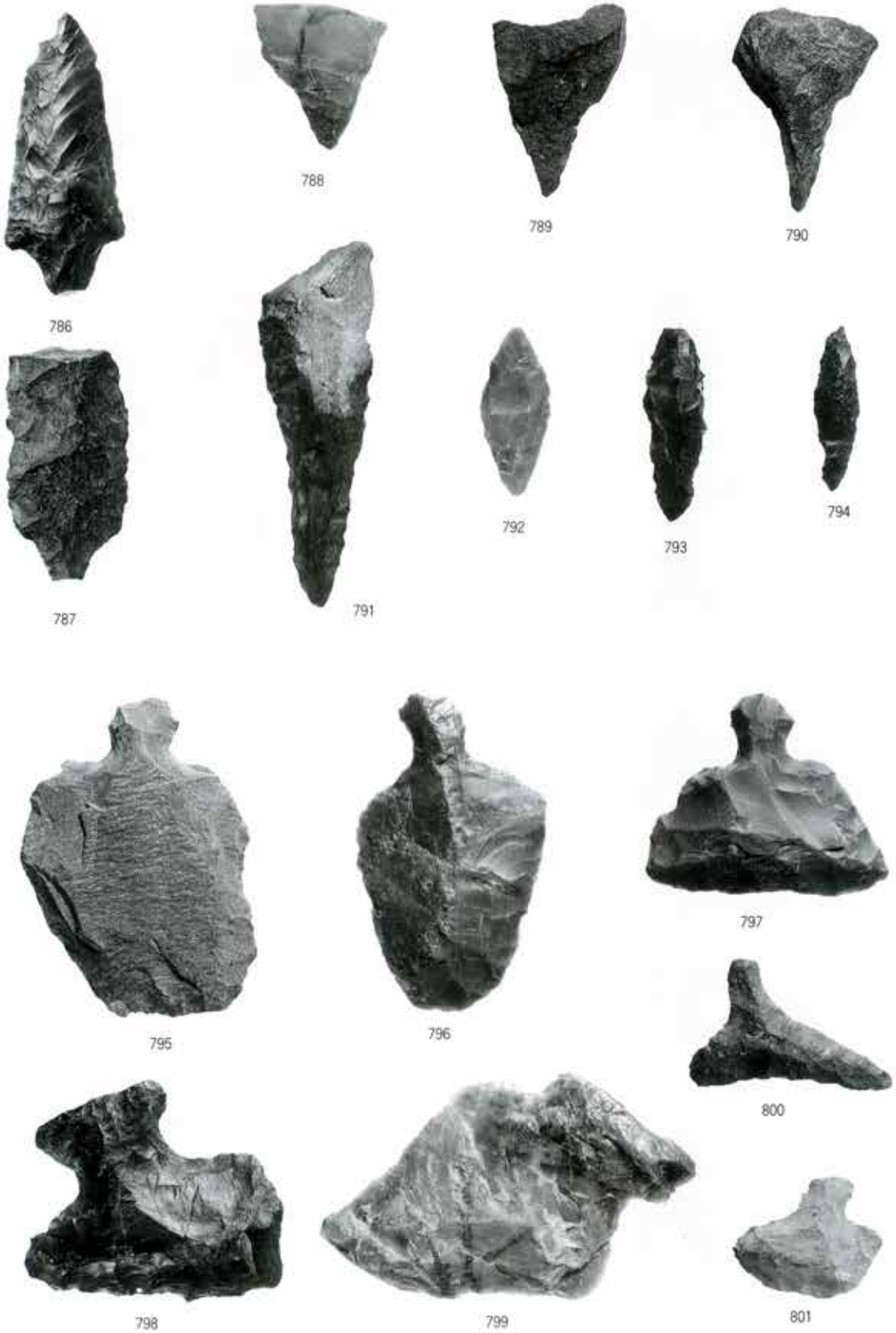
748

749

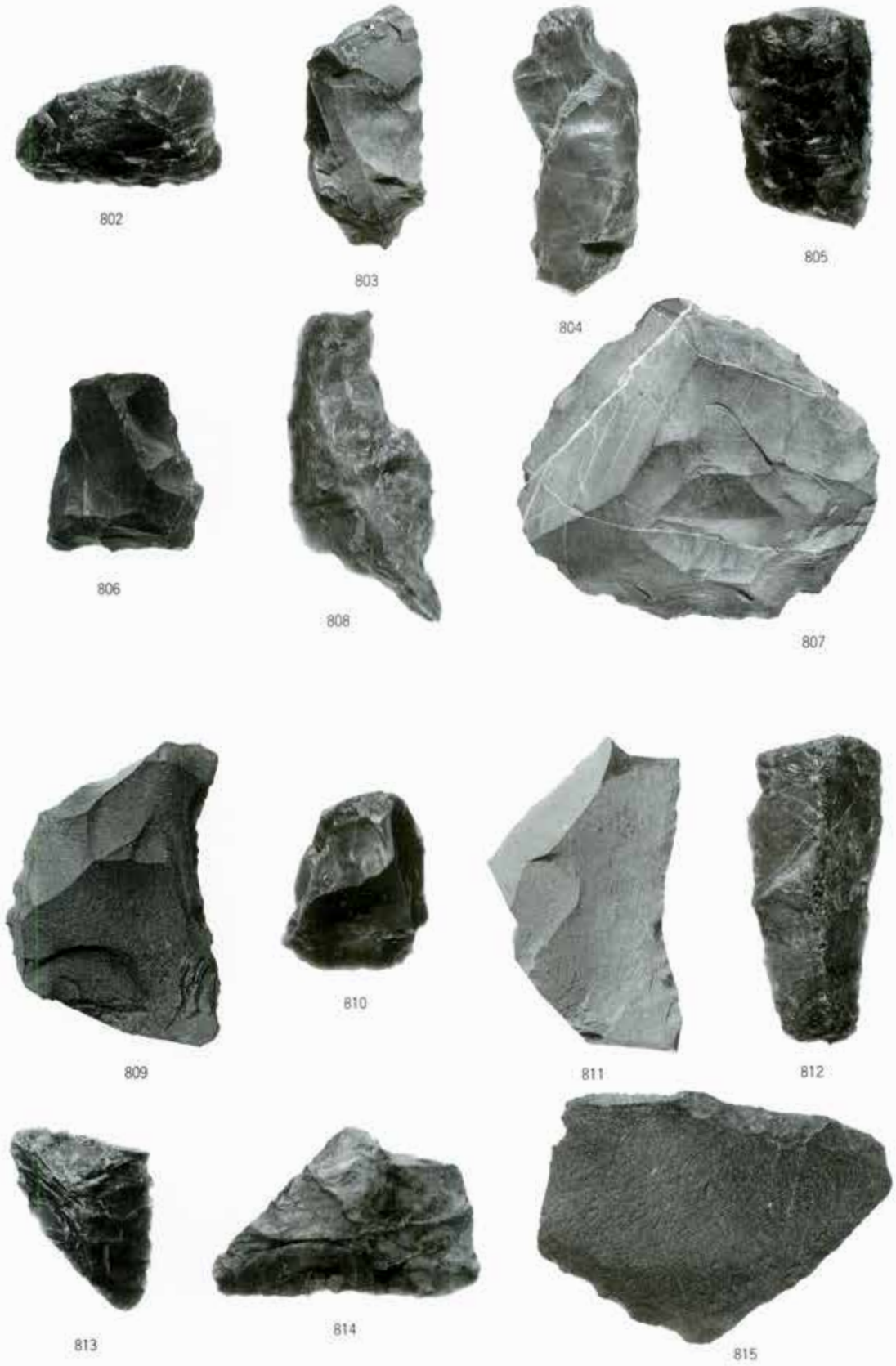
遺構出土石器　垂飾・磨製石斧・凹石類・台石・石皿


750
751
752
753
754
755
756
757
758
759
760
761
762
763
764
765
766
767
768
769
770
771
772
773
774
775
776
777
778
779
780
781
782
784
783
785

包含層出土石器　石鏃

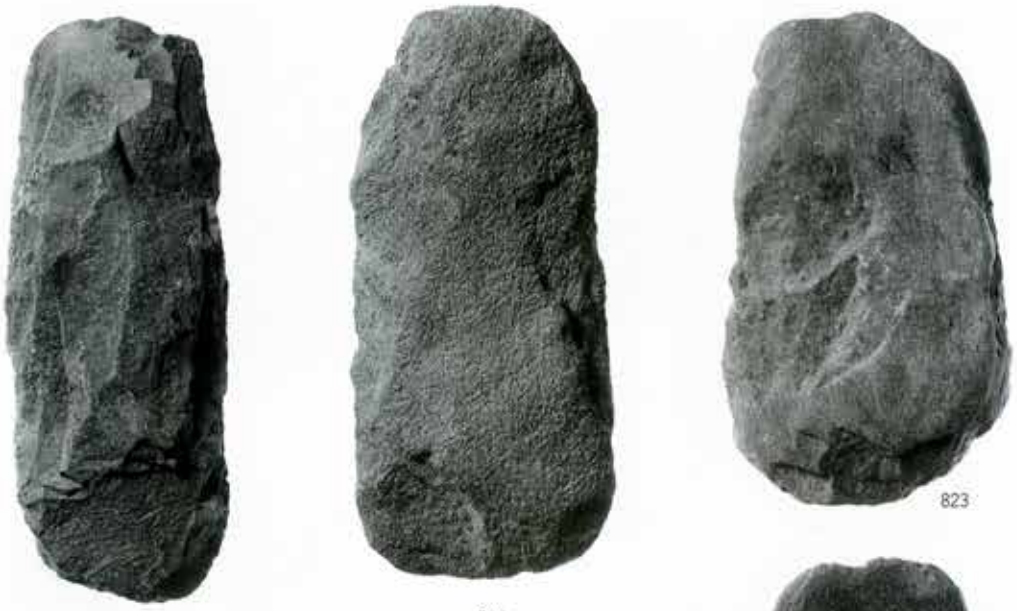


包含層出土石器　有舌尖頭器・石錐・つまみ部付きスクレイパー

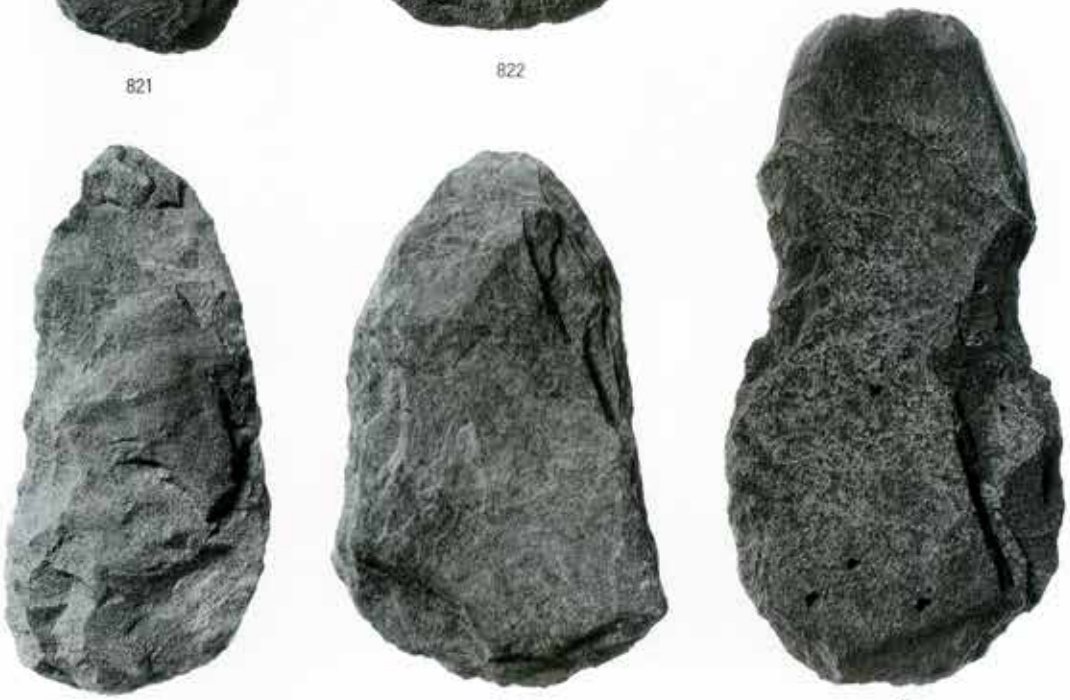


包含層出土石器　掻器Ⅰ・掻器Ⅱ・複合スクレイパー・削器

816　817　818　819　820

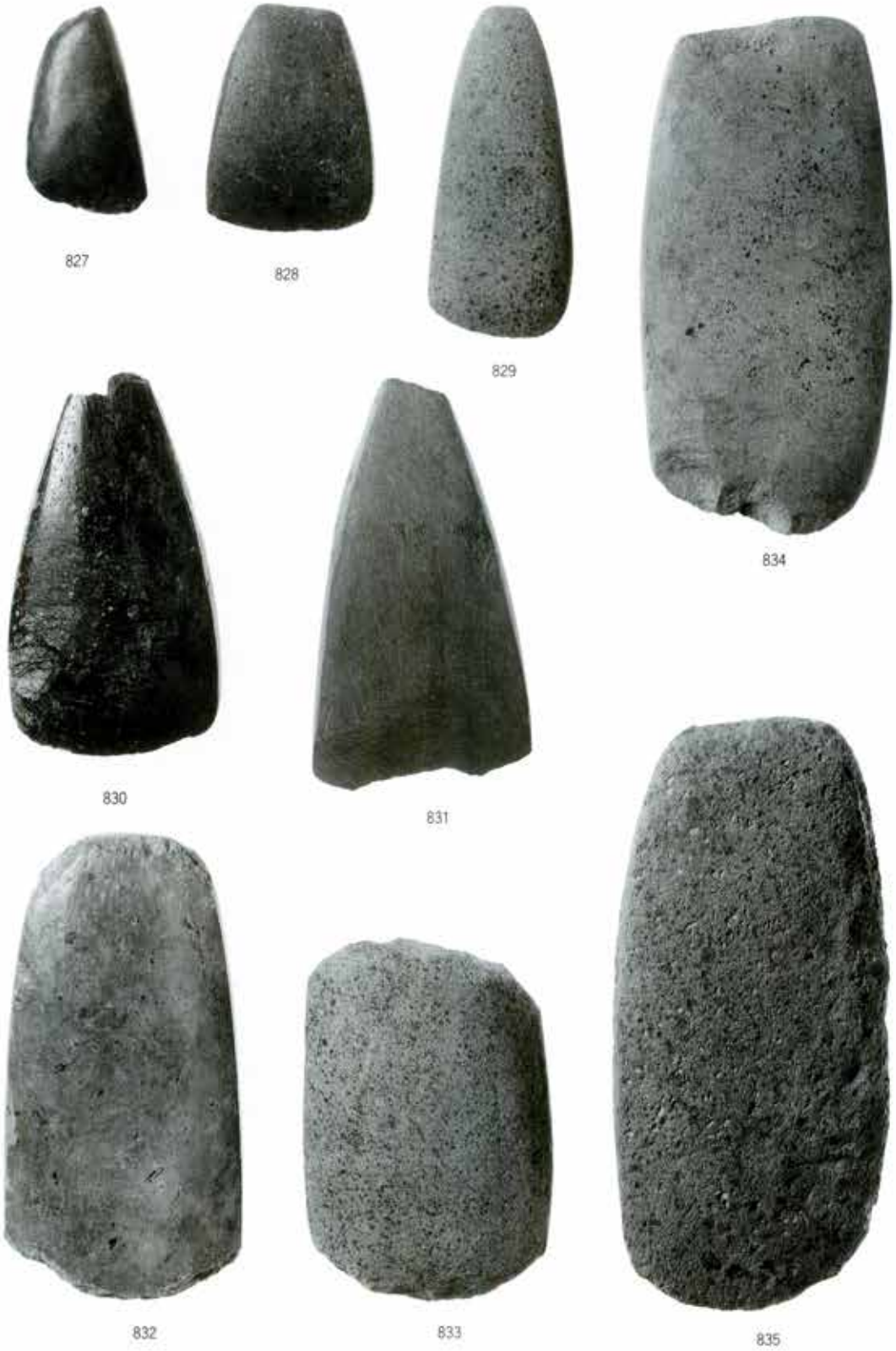


821　822　823



824　825　826

包含層出土石器　ピエス·エスキーユ・打製石斧



包含層出土石器　磨製石斧

836

837

838

839

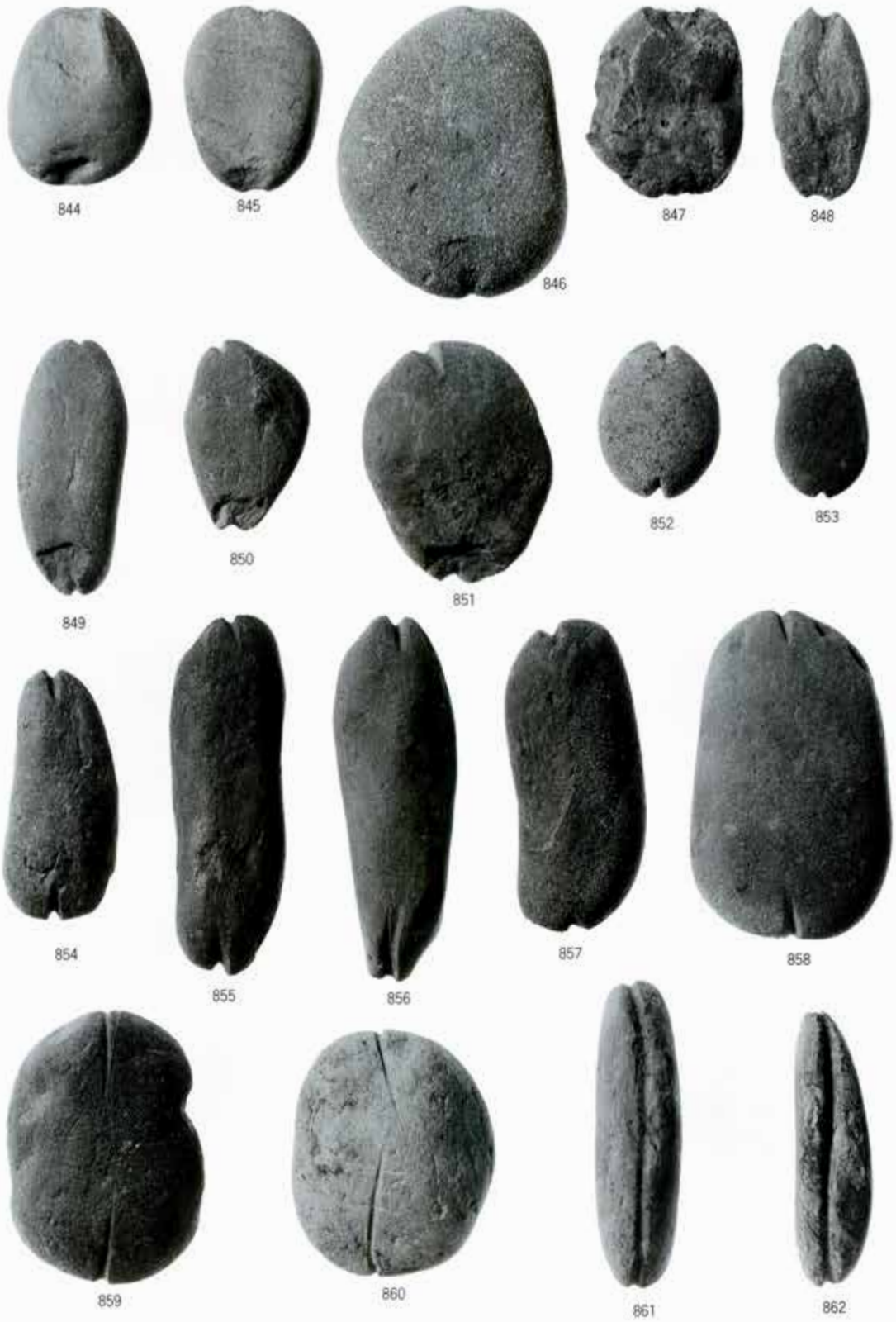
840

841

842

843

包含層出土石器　石核



包含層出土石器　打欠石錘・切目石錘・有溝石錘

863

864

865

866

867

868

869

870

871

包含層出土石器　凹石類（1）

872

873

874

875

876

877

878

879

880

包含層出土石器　凹石類（2）

883

884

885

881

882

包含層出土石器　砥石・台石・石皿

890

891

892

893

886

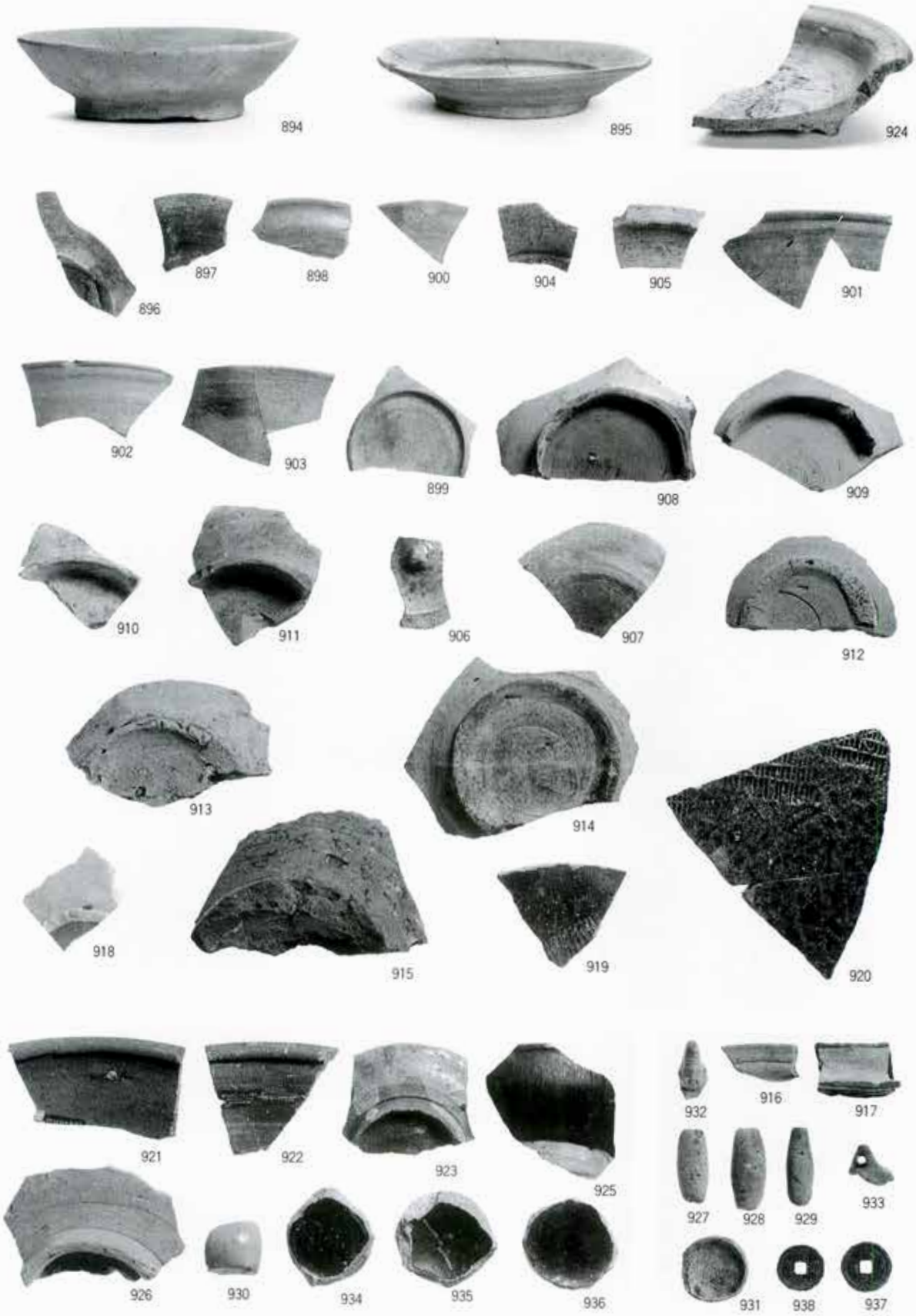
887

888

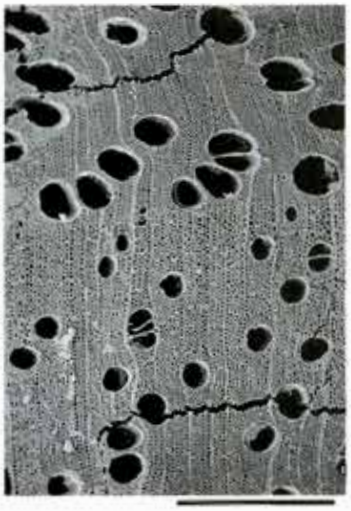
889

包含層出土石器　石刀・石棒・その他石製品

図版64



古代以降の遺物



1a.オニグルミ（横断面）
SB3　bar:0.5mm

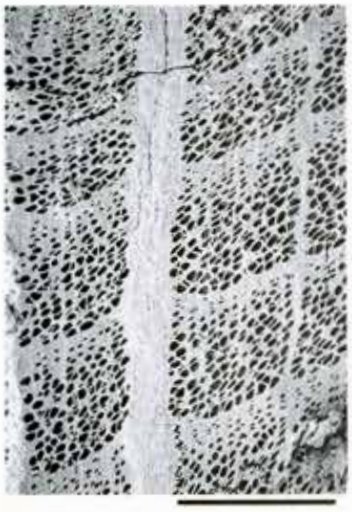
1b.同（接線断面）　bar:0.1mm

1c.同（放射断面）　bar:0.1mm

2a.イヌシデ節（横断面）
SB3　bar:0.5mm

2b.同（接線断面）　bar:0.1mm

2c.同（放射断面）　bar:0.1mm



3a.ブナ属（断面図）
41Z　bar:0.5mm

3b.同（接線断面）　bar:0.1mm

3c.同（放射断面）　bar:0.1mm

岩井谷遺跡出土炭化材樹種（1）

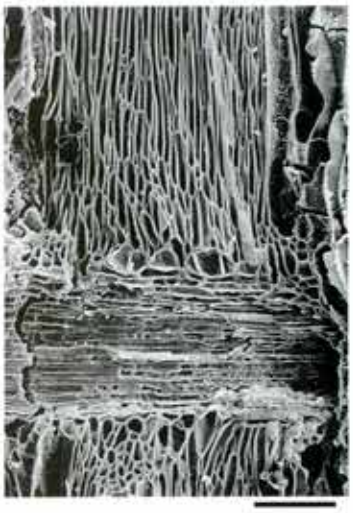
4a.クリ（横断面）
SB6　bar:0.5mm

4b.同（接線断面）　bar:0.1mm

4c.同（放射断面）　bar:0.1mm

5a.ケヤキ（横断面）
SU5　bar:0.5mm

5b.同（接線断面）　bar:0.1mm



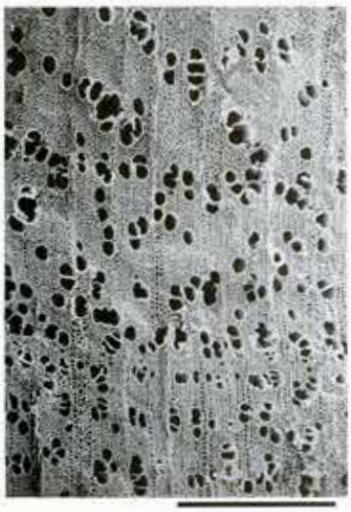
5c.同（放射断面）　bar:0.1mm

6a.クワ属（断面図）
SB3　bar:0.5mm

6b.同（接線断面）　bar:0.1mm

6c.同（放射断面）　bar:0.1mm

岩井谷遺跡出土炭化材樹種（2）



7a.サクラ属（横断面）
SU5　bar:0.5mm

7b.同（接線断面）　bar:0.1mm

7c.同（放射断面）　bar:0.1mm

8a.シラキ（横断面）
SB6　bar:0.5mm

8b.同（接線断面）　bar:0.1mm

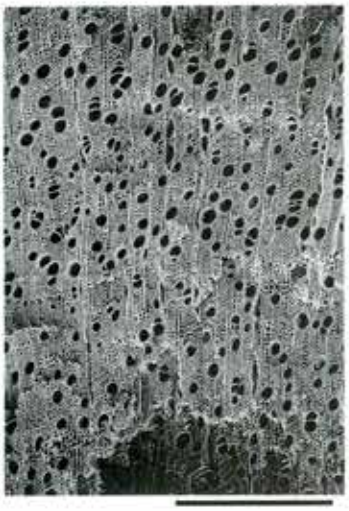
8c.同（放射断面）　bar:0.1mm

9a.ヌルデ（断面図）
SI15　bar:0.5mm

9b.同（接線断面）　bar:0.1mm

9c.同（放射断面）　bar:0.1mm

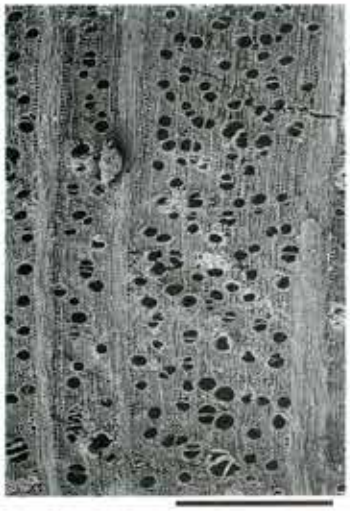
岩井谷遺跡出土炭化材樹種（3）



10a.カエデ属 a（横断面）
41Z　bar:0.5mm

10b.同（接線断面）　bar:0.1mm

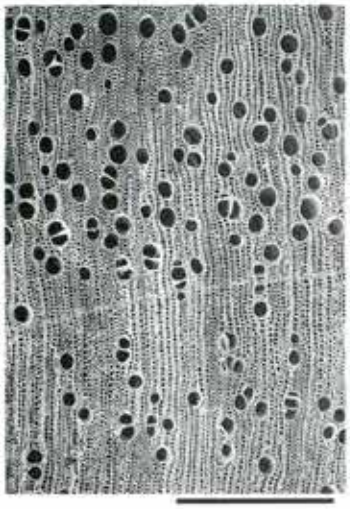
10c.同（放射断面）　bar:0.1mm



11a.カエデ属 b（横断面）
SU5　bar:0.5mm

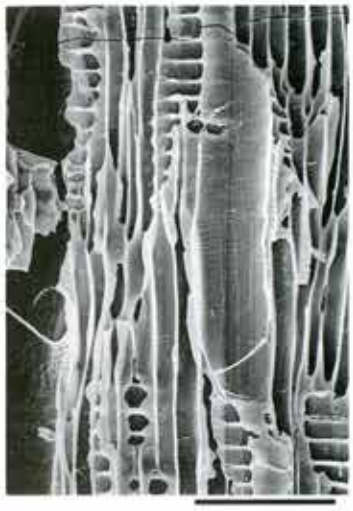
11b.同（接線断面）　bar:0.1mm

11c.同（放射断面）　bar:0.1mm



12a.トチノキ（断面図）
41Z　bar:0.5mm

12b.同（接線断面）　bar:0.1mm



12c.同（放射断面）　bar:0.1mm

岩井谷遺跡出土炭化材樹種（4）

13a.トチノキ樹皮？（横断面）
41Z　bar:0.5mm

13b.同（接線断面）　bar:0.1mm

13c.同（放射断面）　bar:0.1mm

14a.ケンポナシ属（横断面）
SB2　bar:0.5mm

14b.同（接線断面）　bar:0.1mm

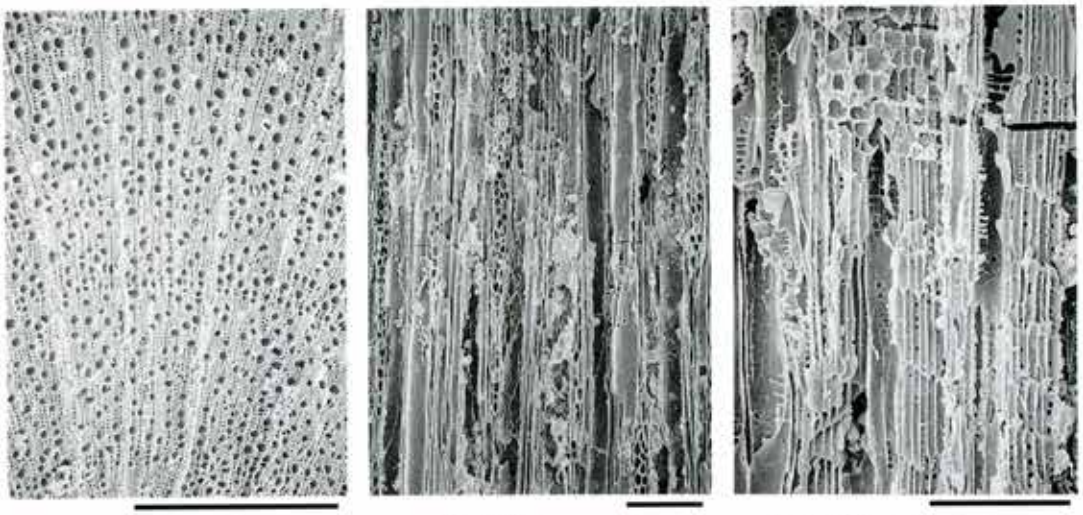
14c.同（放射断面）　bar:0.1mm

15a.トネリコ属（断面図）
SB2　bar:0.5mm

15b.同（接線断面）　bar:0.1mm

15c.同（放射断面）　bar:0.1mm

岩井谷遺跡出土炭化材樹種（5）



16a.ガマズミ属（横断面）
SU5　bar:0.5mm

16b.同（接線断面）　bar:0.1mm

16c.同（放射断面）　bar:0.1mm

岩井谷遺跡出土炭化材樹種（6）

報告書抄録

ふりがな	いわいだに　いせき
書名	岩井谷遺跡
副書名	県営中山間地域農村活性化総合整備事業に伴う発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	岐阜県文化財保護センター調査報告書
シリーズ番号	第60集
編著者名	浅野哲男　河瀬実浩　小野木学　藤岡比呂志　宮野義則　藤根久　山形秀樹　植田弥生
編集機関	財団法人岐阜県文化財保護センター
所在地	〒502-0003　岐阜市三田洞東1-26-1　TEL 058-237-8550
発行年月日	西暦2000年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在名	コード		北緯	東経	調査期間 調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号				
岩井谷遺跡（いわいだに）	岐阜県揖斐郡（ぎふけん いびぐん） 春日村大字美束（かすが むつか） 字岩井谷（いわいだに）	21405	08725	35° 28′ 42″	136° 26′ 14″	19970423 ～ 19971219 19980511 ～ 19981030 9780m²	県営中山間地域農村活性化総合整備事業に伴う

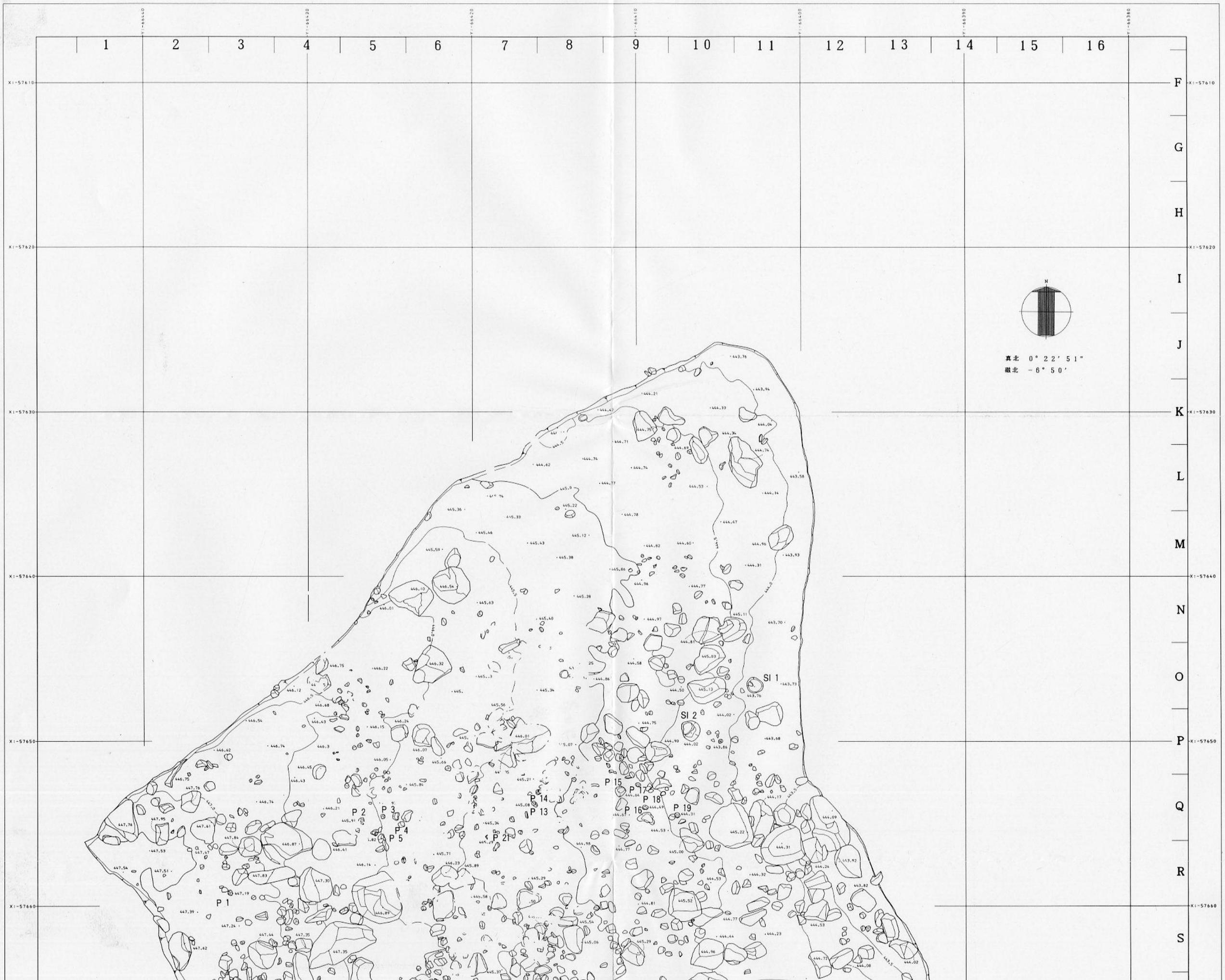
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
岩井谷遺跡	集落跡	縄文時代 （早～後期） 古代～近世	住居跡・立石遺構 土器埋設遺構 集石遺構	縄文土器・土偶 石鏃・打製石斧 磨製石斧・石錘 灰釉陶器 山茶碗 近世陶器	縄文時代中期～後期の住居跡・祭祀遺構

岐阜県文化財保護センター調査報告書　第60集

岩井谷遺跡

2000年3月31日

編集・発行　財団法人　岐阜県文化財保護センター
岐阜県岐阜市三田洞東1-26-1
印　　刷　槌谷印刷株式会社

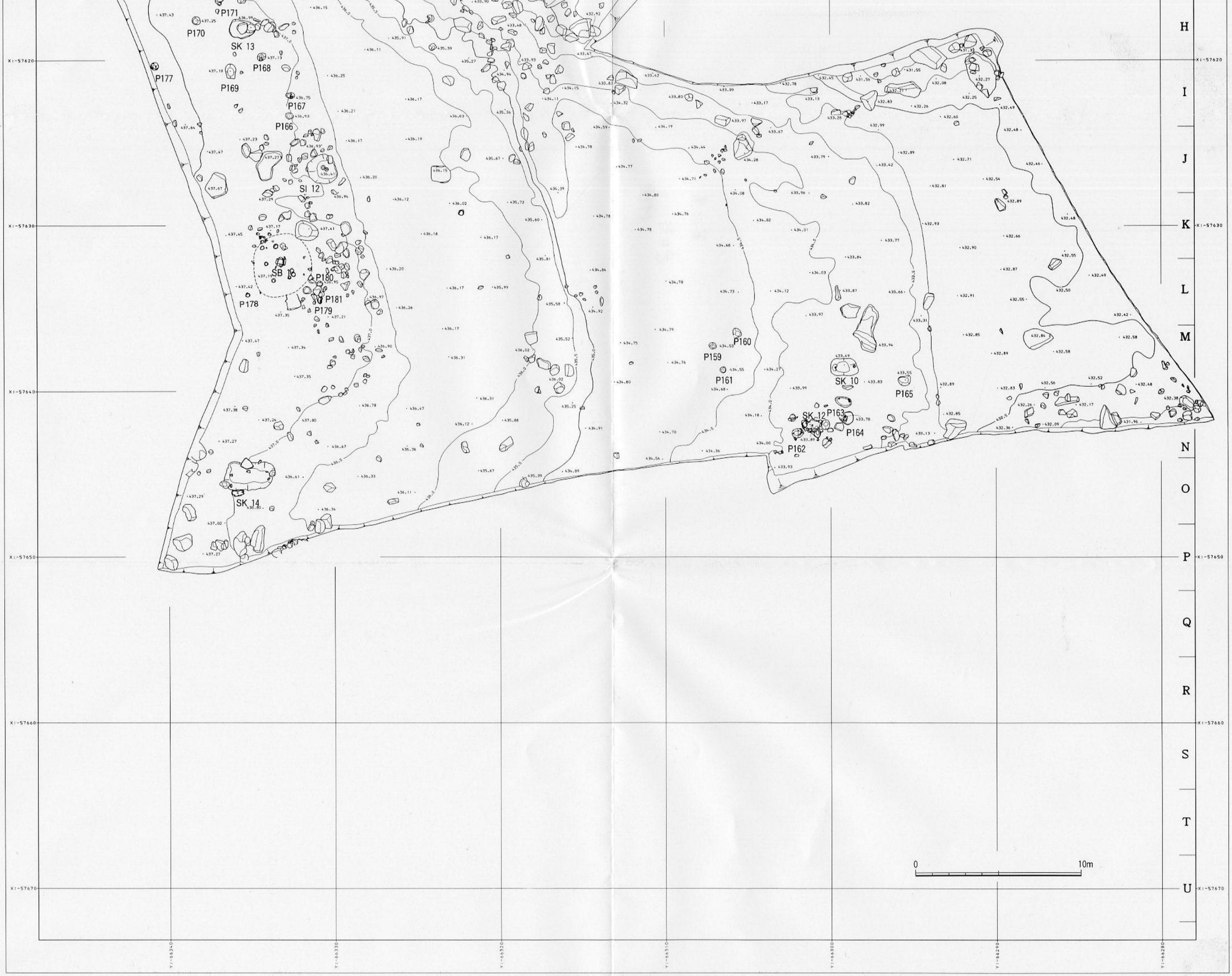

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
F
G
H
I
J
K
L
M
N
O
P
Q
R
S
X:-57610
X:-57620
X:-57630
X:-57640
X:-57650
X:-57660
Y:-66440
Y:-66430
Y:-66420
Y:-66410
Y:-66400
Y:-66390
Y:-66380
N
真北 0° 22′ 51″
磁北 −6° 50′
SI 1
SI 2
P 1
P 2
P 3
P 4
P 5
P 13
P 14
P 15
P 16
P 17
P 18
P 19
P 21

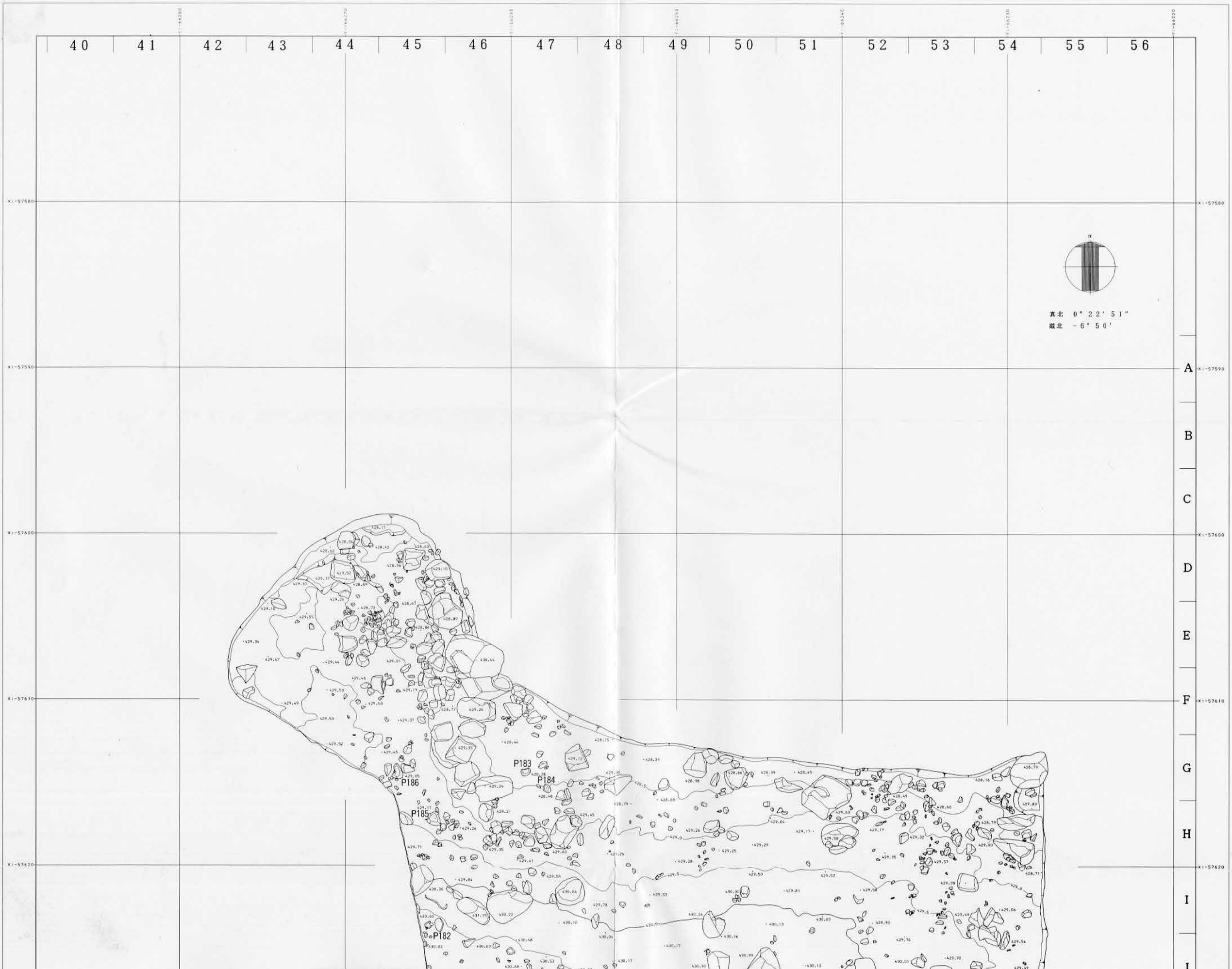
付図1　第1地区遺構配置図（S.1/200）

13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
A
B
C
D
E
F
G
H
I
J
K
L
M
X:-57590
X:-57600
X:-57610
X:-57620
X:-57630
X:-57640
Y:-66390
Y:-66380
Y:-66370
Y:-66360
Y:-66350
Y:-66340
Y:-66330
N
真北 0° 22′ 51″
磁北 −6° 50′
P 54
P108 P109
P110
P 43 P41
P 42
P 44
P 40
P 56
P 57
SU
P 59
P 55
SR1
P 58
P111
P112
P 60
SK 6
P 25
SR 3
P 24
P 26
SI 7
P 22
SI 3
P 27
P 28
P 61
P 62
P 66
P 67
P 64
P115
P113 P114
P 63
P 65
P 72
SU 3
P122
P124
P118
P123
P 70
P117
P 29
P 23
P 30
P 31
P 33
P 32
P 34
SU 2
SI 4
P 71
P 69
P119
P121
P 45
P 46
P 73
P 74
P116
P120
SI 10
P 81
P135
P 75
P 83
P 80
P136
P 76
P134
SI 8
P 82
P133
P129
P130
P131
SI 9
P 47
P 77
P 78
P 79
P126
P127
P128
P 88
P138
P125
P132
P 38
SK 8
P 48
P 90
P 87
P141
P142
SK 4
SI 11
P 91
P 89
P137
P143
P 37
P 35
SK 9
P139
P140
P 36
P 84
P 85
SK 3
P 95
P 86
SI 5
P 49
P 98
SK 5
SK 7
P 99
P 94
P147
P146
P 50
P 51
SM 2
P 97
P 93
P 39
P 96
P144
P145
P 52
P103
P150
SK 2
P101
P148
P100
P149
P 53
P102

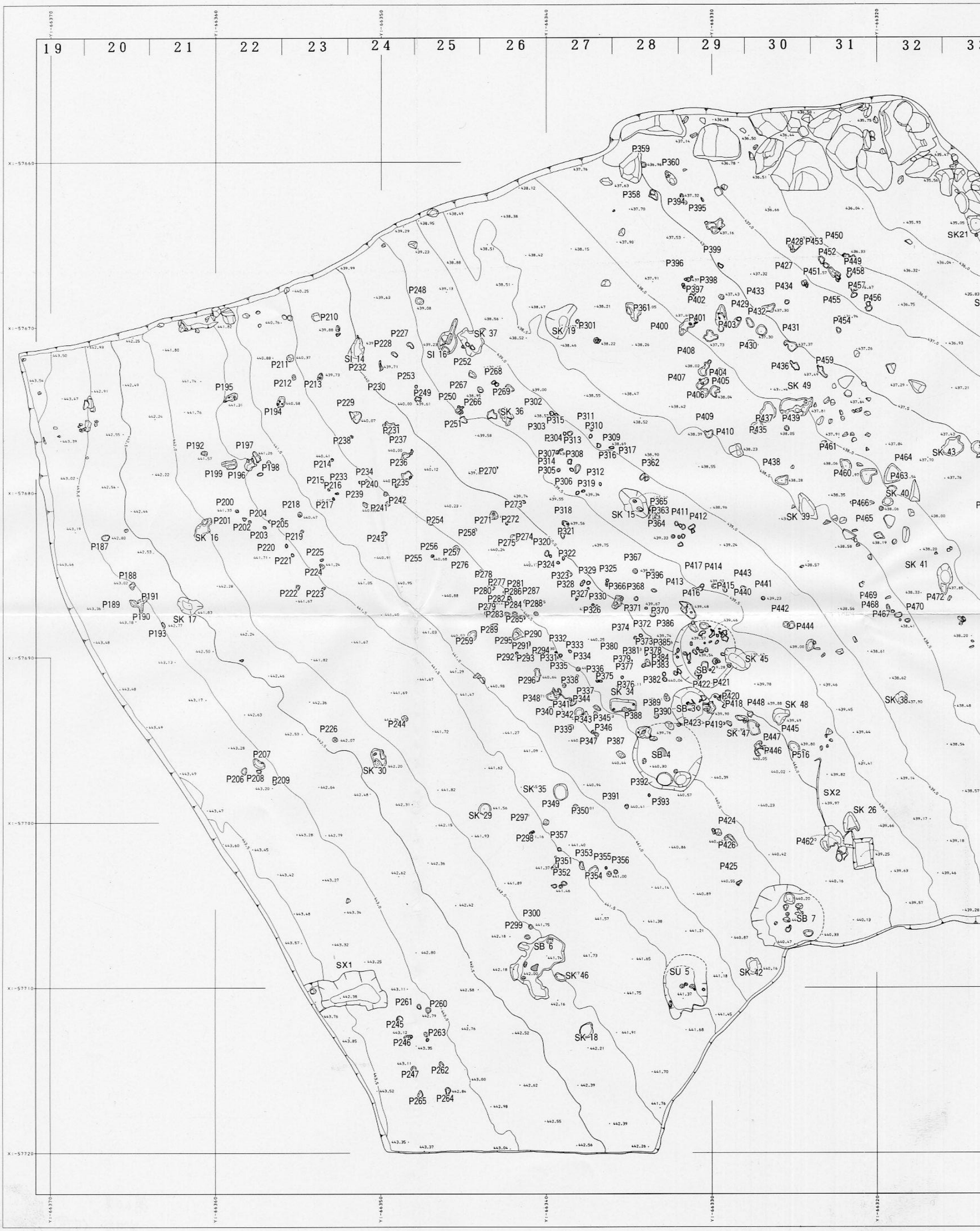
付図２　第２地区遺構配置図（S=1/200）

26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
A
B
C
D
E
F
G
H
I
J
K
N
真北 0° 22′ 51″
磁北 −6° 50′
SI 13
SK 11
SU4
P172
P174
P173
P175
P176
P171
P170
SK 13
P168
P169
P177
P167
P166
SI 12


P171
P170
SK 13
P168
P177
P169
P167
P166
SI 12
SB
P180
P181
P178
P179
P160
P159
P161
SK 10
P165
SK 12
P163
P164
P162
SK 14
H
I
J
K
L
M
N
O
P
Q
R
S
T
U
0
10m


40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
A
B
C
D
E
F
G
H
I
J
P182
P183
P184
P185
P186
真北 0° 22′ 51″
磁北 −6° 50′

付図４　第４地区遺構配置図（S=1/200）



付図５　第５地区遺構配置図（S=1/200）

付図7 第5地区遺構配置図（2/4）